

新保田中村前遺跡Ⅰ

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

〈本文編〉

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

しん ぼ た なかむらまえ
新保田中村前遺跡 I

一級河川染谷川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

溝・井戸・河川跡・水田・畠の調査

《本文編》

1990

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



2号河川跡第Ⅱ河道木器出土状況



同上出土の容器と思われる木器

序

県の中央部を流れる坂東太郎こと利根川には、県民生活には欠かせない水を、古来より与えてきたところの中小の河川が流れ込んでいます。榛名山東南麓に水源を持つ染谷川もその一つで、流域の人々に自然の恵みの水を与え続けてきました。しかし、その染谷川も長い歴史の中で、時には増水し、流域の人々に水害をもたらすことが多々ありました。そこで、昭和30年代後半より、水害を防止するための河川改修工事が随所で始まりました。高崎市新保田中町を流れる流域も、昭和59年度より工事が始まりましたが、ご承知のように新保田中の地域は、弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡として著名となった新保遺跡に隣接しており、工事着工前から埋蔵文化財発掘調査の必要性がさげばれていました。関係機関の努力により、工事と並行した形で、自然の恵みである水との戦いの中で、埋蔵文化財の調査が行われました。その結果、古墳時代前期の前方後方型の周溝墓をはじめ、多量の木製品・木田等、新保遺跡に劣らないところの貴重な遺構・遺物が調査されました。

今回、発掘調査した遺構・遺物の成果の一部がまとまり、報告書を刊行することになりましたが、酷暑・酷寒にさらされながら、5年間に亘る調査を担当した職員をはじめとする調査関係者、並びに整理業務にあたられた職員・補助員、及び本事業遂行に多大なご尽力をいただきました県土木部河川課・高崎土木事務所・高崎市教育委員会・県教育委員会文化財保護課・新保田中町区長等の関係者に深甚なる感謝の意を表すと共に、本報告書が広く県民各位・研究者・教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として役立てられることを願います。

平成2年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 清水 一郎

例 言

1. 本書は、一級河川染谷川河川改修事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第1分冊「新保田中村前遺跡I」である。第1分冊では、溝や水田・畠といった生産跡を中心として、他に河川跡・井戸を報告する。以下第2分冊では住居跡、第3分冊では墓跡を中心に報告し、最後に第3分冊では調査のまとめとして成果と今後の課題を述べる予定である。

2. 新保田中村前遺跡は、群馬県高崎市新保田中町字村東42,43番地他、村前233-1,233-2,235番地他、田中565,566,563-1番地他、稲荷265,267-1,268-1番地他、下り柳1-1,20-1番地他、村北602-1番地他に所在する。

遺跡名は、大字に相当する「新保田中」に、当初の発掘区内で最も広い小字である「村前」を付した。事業は5年間継続しており、繁雑を避けるため遺跡名は一種で通した。

3. 発掘調査は、群馬県土木部(河川課)の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 調査を実施した期間は次の通りである。

発掘調査 第1次調査 昭和59年10月1日～昭和60年12月28日

第2次調査 昭和60年9月2日～昭和61年3月31日

第3次調査 昭和61年7月1日～昭和62年3月31日

第4次調査 昭和62年5月20日～昭和63年3月26日

第5次調査 昭和63年4月7日～昭和63年12月28日

整理作業 第1年次 平成元年6月1日～平成2年3月31日

5. 調査の体制は次の通りである。

事務担当 白石保三郎、邊見長雄、井上唯雄、松本浩一、大沢秋良、田口紀雄、上原啓己、神保尙史、定方隆史、住谷進、徳江紀、中隆之、国定均、笠原秀樹、須田朋子、小林昌嗣、吉田有光、柳岡良宏

事務補助員 野島のお江、吉田恵子、並木綾子、今井もと子、松井美智子、大沢美佐保、大島敬子、小野沢春美、石田智子、龍崎めぐみ、角田みづほ

調査担当 第1次調査 石坂 茂(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究員
徳江秀夫(同 上)
大西雅広(同 上)
第2次調査 友廣哲也(同 上)
徳江秀夫(同 上)
小林裕二(同 上)
第3次調査 相京建史(同 上 主任調査研究員)
小島敦子(同 上 調査研究員)
松村和男(同 上)
第4次調査 相京建史(同 上 主任調査研究員)
麻生敏隆(同 上 調査研究員)
松村和男(同 上)

第5次調査	相京建史(同	上	主任調査研究員)
	中山茂樹(同	上)
	小島敦子(同	上)

6. 本書作成の担当は次の通りである。

編集 相京建史、小島敦子

本文執筆 神保信史、石坂茂、徳江秀夫、大西雅広、友廣哲也、小林裕二、松村和男、麻生敏隆、中山茂樹、坂口一、相京建史、小島敦子 (なお、文責は文末に記した。)

遺構写真 石坂茂、徳江秀夫、友廣哲也、小林裕二、松村和男、麻生敏隆、中山茂樹、相京建史、小島敦子

遺物写真 佐藤元彦((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)

金属器・動物遺存体保存処理 関邦一((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団技師)、小村浩一((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)

木器・植物遺存体保存処理および実測・樹種同定プレバラート作成 北爪健二((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託)、高橋真樹子、五十嵐由美子、小池緑、関口加津枝((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)

土器・石器・金属器等実測 浅井良子((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託)、山崎由紀枝、富永セン、新谷さか江、岩淵フミ子、岸トキ子、萩原光枝、伊東博子、笹尾ヨシ子、立見美代子((財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)

遺構図面整理 高橋とし子、阿部和子、田中富子、山口淳子(同上)

遺物観察 土器 大西雅広、友廣哲也、相京建史、小島敦子

石器 松村和男

板碑 新倉明彦

瓦 木津博明

木器 相京建史

金属器 相京建史

また、以下に掲げる分析・同定を各氏に依頼した。

人骨同定 佐倉嗣氏(東京国立科学博物館人類学教室)

木器・自然木材樹種同定 高橋利彦氏

動物遺存体種同定(獣骨) 宮崎重雄氏(群馬県立大間々高等学校教諭)

同 (昆虫・珪藻) 森勇一氏、伊藤隆彦氏((財)愛知県埋蔵文化財センター)

同 (貝) 小池裕子氏(埼玉大学)

植物遺存体種同定 群馬県立農業総合試験場・群馬県園芸試験場

石材同定 飯島静男氏(群馬県地質研究会)

7. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言、ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略・五十音順)

新井房夫、鈴木三男、山崎一、山田昌久、新保田中町区長、新保町農業用水水利権組合、東京電力高崎送電所

8. 出土遺物は一括して(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・群馬県埋蔵文化財センターが保管している。

9. 以下の方々には、発掘および整理作業に従事していただいた。記して感謝いたします。(敬称略、順不同)
- 白石典之、赤堀徹(筑波大学大学院生)、松内賢二郎、石鍋敏夫、山田康弘、杉山辰郎(筑波大学学生)、内木真琴(立正大学卒業生・現在群馬県埋蔵文化財調査事業団上越線調査事務所調査研究員)
- 青木幹昌、阿部イチエ、阿部キヨ、阿部充喜、阿部多加子、阿部忠治、阿部俊次、阿部裕江、阿部広子、飯田五郎、入江由美、内田サダ子、岡田有彦、岡田イツ江、岡田和支、岡田トシ子、岡田ふじ子、岡田美智子、岡田ヤスノ、萩野桂子、小野里界久、金井カネ、小柴マツ子、小林千枝子、斎藤文子、桜井裕子、猿谷林造、反町裕雄、反町ハナ、反町正子、高橋旭、高橋サダエ、高橋たか、高橋トモエ、高橋英敏、高橋マスマ、高橋由太郎、田島靖美、田島礼子、堤圭子、富沢喜久司、富沢豊、富所恵子、中村キスエ、中村銀平、中村スミエ、中村浩子、中村ふじの、中村義雄、野沢定雄、原口忠治、原沢昭子、原沢純子、原沢伝十郎、原沢正江、原沢ラク子、深沢玉、深沢ハルミ、深沢ヨシ子、松岡英子、松本玲子、矢島クエエ、矢島幸一、矢島サダ子、矢野利子、矢畑清美、湯浅京子、湯浅作次郎、湯浅千鶴子、湯浅ヤス子、湯浅義雄、横沢あさ子、横沢早苗、横沢テル子、横沢房江、横沢美枝子、吉井信夫、吉田和代(敬称略・五十音順)

凡 例

1. 本書の挿図中の北方位は壘標北を示す。
2. 本書では新保田中村前遺跡を村前地区と下り柳地区に分けて報告しているが遺構番号は地区毎に付している。したがって両地区に同じ遺構番号がある。遺構を検索する際は地区を柱等で確認のうえ行なう必要がある。
3. 本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用しているため欠番が生じている。
4. 本調査の記録に用いたグリッドは5m四方で、北東交点をその呼称としている。
5. 遺構断面図で使用したスクリーンパターンは以下のとおりである。部分的に異なる場合があるが、その際はその旨凡例を示した。



なお、テフラについては本文中でも略称を用いた。正式名称と給源および現段階での降下年代は以下の通りである。

As-B	浅間Bテフラ	浅間山	1108年
Hr-FA	榛名二ツ岳降下火山灰	榛名山	6世紀初頭
As-C	浅間C軽石	浅間山	4世紀中葉

参考文献

町田洋、新井房夫、小田静夫他「テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』1984

能登 健1983 群馬県における埋没田畠調査の現状と課題 『群馬県史研究』第17号

坂口 一1986 榛名山二ツ岳起源 F A・F P 層下の土師器と須恵器 『筑波北原遺跡』(財)群埋文

6. 本書で使用した遺物の番号は、種類毎の通し番号であり、種類の略号は以下の通りである。平面図に付し

た番号は、遺物実測図に付した番号に対応している。

石器 S 木器 W 金属器 M 骨・角 B 土器(略号無し)

7. 遺物実測図中で縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。混乱を来すと考えられるものについては、それを避けるために以下のマークをスケールと遺物に対応するように付している。なお、1:4の縮尺は最も多いため繁雑になるのをさけるために以下のマークは最小限にとどめている。

1:1 ■ 1:2 ▲ 1:3 ● 1:4 無印△ 1:6 ○ 1:8 □

8. 遺物実測図中で使用したスクリーンパターンは以下のとおりである。

土器・木器  赤色塗彩

石器  磨り面  煤附着部分

9. 木器は、整理上出土遺構に関係無く、自然木材も含めて通し番号を付している。遺物実測図中で番号の欠落しているものは、自然木材が固化のできなかったものである。

木器実測図中の断面図の表現は、形状を良好に留められた部分を測定し、年輪は木口や割れ口で観察できたものを投影した。側面図は原則として平面図の右側に展開したが、遺存状態の良い方を表現するように心がけたため、左側に表現されたものも多い。

10. 写真図版の倍率は、土器・木器は原則として1/4、大型品は1/8に近づけるようにした。石器は、原則として2/5、石鏃などの小型のものは1/1に近づけるようにした。また、部分的に特徴のある遺物については、近接写真を撮影した。

11. 本文は以下のような点に留意して記述した。

溝 位置はその遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。連続する場合は～の記号を用いた。走向は四至を用いた方向を記述し、蛇行・屈曲の有無や直線的であるかどうか留意した。規模のうね幅は最も広いところと最も狭いところを計測した。深さは確認面からの比高であり、最も深い地点を測っている。調査長は発掘区内で検出した遺構の長さを記載した。形状は特に断面形に留意した。段掘りの有無や底面形状などを中心に記述した。また両端の底面標高を傾斜をみるデータとして記載した。埋没土は特徴的な埋没土層を記述した。詳細は土層断面図に拠りたい。出土遺物は特徴的なもののみ記述した。他は遺物実測図等を参照されたい。調査所見では検出遺構の調査から考えられることがらについて記述した。掘削時期や機能などにもふれている。

井戸 位置は遺構が含まれるグリッドを記載した。形状は平面形と断面形を記載した。規模は最も長いところと最も短いところで直径を計測した。深さは遺構確認面からの比高である。出土遺物は特徴的なものに限って記述した。調査所見では掘削時期等、調査時に気付いた点を記述した。

河川跡 河川跡については吊り見出しで項目だてをせずに記述しているが内容的には上記の二遺構と変わりはない。出土遺物は多様であるのでそれぞれについて記述している。

水田・畠 遺構の検出された発掘区ごとに記述した。遺構の内容については項目をたて記述した。また水田区画の面積は、データが少ないことは否定できないが、統計処理し、そのコメントをあわせて述べた。

12. 付図5-10は、各遺構検出面ごとに作成し、溝の平面図・土層断面位置、およびその他の主な遺構の位置を示した。したがって、村前地区Ⅰ・Ⅱ面は、As-B直下の遺構を中心とし、それ以降のAs-Bを切っている遺構が、Ⅲ面は、Hr-FA直下遺構に加えてAs-B降下以前、Hr-FA降下以前の遺構が含まれる。住居、墓、土坑等については、位置を示すのみで、重複等詳細については第2・3分冊でふれる。

目 次

口絵

序

例言

凡例

第1章 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯 1
2. 発掘調査の方法と経過 3

第2章 遺跡の環境

1. 遺跡の立地と環境 11
2. 周辺の遺跡分布 14
3. 科学分析の目的 20

第3章 溝の調査

1. 概 要 21
2. 村前地区の溝 22
3. 下り柳地区の溝 130

第4章 井戸の調査

1. 概 要 146
2. 村前地区の井戸 146
3. 下り柳地区の井戸 166

第5章 河川跡の調査

1. 概 要 169
2. 1号河川跡 170
3. 2号河川跡 197

第6章 水田の調査

1. 概 要 265
2. 村前地区の水田 266
3. 下り柳地区の水田 276
4. 水田面積の統計的検討 290

第7章 畠の調査

1. 概 要 298
2. 村前地区の畠 299
3. 下り柳地区の畠 304

写真図版

- 付図 1. 77号溝木器出土状態
2. 86号溝堰木器出土状態
3. 1号河川跡木器出土状態(部分)
4. 2号河川跡木器出土状態
5. 村前地区Ⅰ・Ⅱ面全体図(1~5)
6. 村前地区Ⅲ面全体図(1・3・4・5)
7. 村前地区Ⅳ・Ⅴ面全体図(3~5)
8. 下り柳地区Ⅰ面全体図(1~4)
9. 下り柳地区Ⅱ面全体図(1~4)
10. 下り柳地区Ⅲ面全体図(1~4)

第2分冊「新保田中村前遺跡Ⅱ」目次

第8章 住居跡の調査

写真図版

付 図

第3分冊「新保田中村前遺跡Ⅲ」目次

第9章 墓の調査

第10章 その他の遺構の調査

第11章 成果と問題点

写真図版

挿 図 目 次

図 1	群馬路の地勢と道路の位置	1	図 57	49号清出土遺物	56
図 2	発掘区の位置	3	図 58	43号・49号漢土層断面	56
図 3	村前地区のグリッド	4	図 59	51号漢土層断面	57
図 4	下り脚地区のグリッド	5	図 60	51号清出土遺物	57
図 5	新保田中村前遺跡の基本土層と遺構確認面	6	図 61	52号・53号・54号漢土層断面	58
図 6	新保田中村前遺跡発掘調査の推移	10	図 62	52号清出土遺物	58
図 7	榛名山麓と前傾台地	12	図 63	52号漢土層断面	60
図 8	遺跡周辺の地形分類	13	図 64	53号清出土遺物	61
図 9	新保田中村前遺跡周辺の遺跡分布	15	図 65	54号・66号漢土層断面	62
図 10	3号清出土遺物	22	図 66	54号漢土層断面と出土遺物	62
図 11	4号清出土遺物 (1)	23	図 67	55号漢土層断面と出土遺物	63
図 12	4号清出土遺物 (2)	24	図 68	48号・56号・58号～60号漢土層断面	64
図 13	3号・4号・23号漢土層断面	25	図 69	49号・56号・58号・61号漢土層断面	65
図 14	10号漢土層断面	25	図 70	56号清出土遺物	66
図 15	10号清出土遺物	25	図 71	56号清出土遺物	67
図 16	11号漢土層断面	26	図 72	57号・58号漢土層断面	68
図 17	11号清遺物出土状態と出土土器	27	図 73	57号清出土遺物	69
図 18	11号清出土土器 (1)	28	図 74	58号清出土遺物	69
図 19	11号清出土土器 (2)	29	図 75	58号清出土遺物	70
図 20	11号清出土土器 (3)	30	図 76	59号清出土遺物	70
図 21	11号清出土土器 (4)	31	図 77	61号漢土層断面	71
図 22	11号清出土土器 (5)	32	図 78	61号漢土層断面	72
図 23	11号清出土土器 (6)	33	図 79	61号漢土層断面	73
図 24	11号清出土土器 (7)	34	図 80	61号清遺物出土状態	74
図 25	27号清出土遺物	35	図 81	61号清出土遺物	75
図 26	29号清出土遺物	35	図 82	65号漢土層断面	76
図 27	16号漢土層断面と出土遺物	36	図 83	66号清出土遺物	77
図 28	1号・7号漢土層断面	37	図 84	68号・69号漢土層断面	77
図 29	1号・2号漢土層断面	38	図 85	69号清出土遺物	78
図 30	2号清出土遺物	39	図 86	70号清出土遺物	78
図 31	5号清出土遺物	39	図 87	70号・71号漢土層断面	78
図 32	6号清出土遺物	40	図 88	70号漢土層断面	79
図 33	6号漢土層断面	40	図 89	71号清出土遺物	79
図 34	7号清出土遺物	41	図 90	72号漢土層断面	80
図 35	7号・8号漢土層断面	42	図 91	73号清出土遺物	80
図 36	9号漢土層断面	43	図 92	74号清出土遺物	81
図 37	13号～16号漢土層断面	44	図 93	78号・82号漢土層断面	81
図 38	18号漢土層断面	45	図 94	78号漢土層断面と出土遺物	82
図 39	18号清出土遺物	46	図 95	79号・80号・81号漢土層断面	82
図 40	21号漢土層断面	47	図 96	24号・44号清・1号河川跡土層断面	85
図 41	25号漢土層断面	47	図 97	24号・34号清・1号河川跡土層断面	86
図 42	30号清出土遺物	48	図 98	24号清出土遺物	87
図 43	30号漢土層断面	48	図 99	善勝寺堀出土遺物	88
図 44	33号漢土層断面	49	図 100	77号漢土層断面	89
図 45	34号・24号漢土層断面	50	図 101	77号清出土遺物 (1)	90
図 46	34号清出土遺物	50	図 102	77号清出土遺物 (2)	91
図 47	34号・35号漢土層断面	51	図 103	77号清出土土器 (1)	92
図 48	36号清出土遺物	52	図 104	77号清出土土器 (2)	93
図 49	37号清出土遺物	52	図 105	77号清出土土器 (3)	94
図 50	38号清出土遺物	52	図 106	77号清出土土器 (4)	95
図 51	38号漢土層断面	52	図 107	77号清出土土器 (5)	96
図 52	39号清出土遺物	53	図 108	77号清出土土器 (6)	97
図 53	40号清出土遺物	53	図 109	77号清出土土器 (7)	98
図 54	43号漢土層断面と出土遺物	54	図 110	77号清出土土器 (8)	99
図 55	48号清出土遺物	55	図 111	77号清出土土器 (9)	100
図 56	43号・48号漢土層断面	56	図 112	77号清出土土器 (10)	101

図113	77号溝出土木器 (11)	102	図175	11号井戸	150
図114	77号溝出土木器 (12)	103	図176	12号井戸	151
図115	77号溝出土木器 (13)	104	図177	13号井戸	151
図116	77号溝出土木器 (14)	105	図178	13号井戸出土遺物	152
図117	77号溝出土木器 (15)	106	図179	14号井戸と出土遺物	152
図118	77号溝出土木器 (16)	107	図180	14号井戸出土遺物	153
図119	85号溝出土遺物	108	図181	15号井戸	153
図120	86号溝・塚土層断面	109	図182	16号井戸	154
図121	86号溝出土遺物	110	図183	17号井戸	154
図122	86号溝出土木器 (1)	111	図184	18号井戸と出土遺物	154
図123	86号溝出土木器 (2)	112	図185	19号井戸と出土遺物	155
図124	86号溝出土木器 (3)	113	図186	20号井戸と出土遺物	155
図125	86号溝出土木器 (4)	114	図187	21号・22号井戸と出土遺物	156
図126	86号溝出土木器 (5)	115	図188	22号井戸	156
図127	86号溝出土木器 (6)	116	図189	23号井戸出土遺物	157
図128	86号溝出土木器 (7)	117	図190	24号井戸	157
図129	86号溝出土木器 (8)	118	図191	25号井戸	157
図130	86号溝出土木器 (9)	119	図192	26号井戸	158
図131	86号溝出土木器 (10)	120	図193	27号井戸と出土遺物	158
図132	86号溝出土木器 (11)	121	図194	27号井戸出土遺物	159
図133	86号溝出土木器 (12)	122	図195	28号井戸と出土遺物	160
図134	86号溝出土木器 (13)	123	図196	29号井戸と出土遺物	161
図135	86号溝出土木器 (14)	124	図197	30号井戸	162
図136	86号溝出土木器 (15)	125	図198	31号井戸	163
図137	87号溝出土遺物	126	図199	32号井戸	163
図138	87号溝土層断面	127	図200	32号井戸出土遺物	164
図139	93号溝土層断面	128	図201	33号井戸	164
図140	95号溝出土遺物	129	図202	34号井戸	165
図141	96号溝出土遺物	129	図203	35号井戸	165
図142	97号溝出土遺物	129	図204	36号井戸と出土遺物	166
図143	5号・7号溝土層断面	132	図205	1号井戸	167
図144	8号・9号溝土層断面	133	図206	2号・3号井戸	167
図145	22号溝土層断面	135	図207	1号河川跡出土石器 (1)	170
図146	23号溝土層断面	135	図208	1号河川跡出土石器 (2)	171
図147	24号溝・1号河川跡土層断面	136	図209	1号河川跡出土石器 (3)	172
図148	25号溝土層断面	136	図210	1号河川跡出土石器 (4)	173
図149	10号溝土層断面	137	図211	1号河川跡・44号溝の杭出土位置と番石製品のドリッド 別出土簡度	174
図150	11号溝土層断面	137	図212	1号河川跡出土石器 (1)	175
図151	12号溝土層断面と出土遺物	138	図213	1号河川跡出土石器 (2)	176
図152	13号溝土層断面	139	図214	1号河川跡出土石器 (3)	177
図153	14号溝土層断面	140	図215	1号河川跡出土石器 (4)	178
図154	15号溝土層断面	140	図216	1号河川跡出土石器 (5)	179
図155	16号溝土層断面	141	図217	1号河川跡出土石器 (6)	180
図156	26号溝土層断面	141	図218	1号河川跡出土石器 (7)	181
図157	27号溝土層断面	141	図219	1号河川跡出土石器 (8)	182
図158	28号溝土層断面	142	図220	1号河川跡出土石器 (9)	183
図159	29号溝土層断面	142	図221	1号河川跡出土石器 (10)	184
図160	30号溝断面	143	図222	1号河川跡出土石器 (11)	185
図161	31号~34号溝断面	143	図223	1号河川跡出土石器 (12)	186
図162	20号溝土層断面	145	図224	1号河川跡出土石器 (13)	187
図163	36号溝断面	145	図225	1号河川跡出土木器 (1)	188
図164	37号溝土層断面	145	図226	1号河川跡出土木器 (2)	189
図165	井戸出土の金属器	146	図227	1号河川跡出土木器 (3)	190
図166	1号井戸と出土木器	147	図228	1号河川跡出土木器 (4)	191
図167	2号井戸	147	図229	1号河川跡出土木器 (5)	192
図168	3号井戸	147	図230	1号河川跡出土木器 (6)	193
図169	4号井戸	148	図231	1号河川跡出土木器 (7)	194
図170	4号井戸出土遺物	148	図232	1号河川跡出土木器 (8)	195
図171	5号井戸	148	図233	1号河川跡出土木器 (9)	196
図172	6号・8号・9号井戸	149	図234	2号河川跡出土石器・石器分布図	198
図173	10号井戸	150	図235	2号河川跡様子分布図	199
図174	10号井戸出土遺物	150			

図236	2号河川跡出土獣骨の分布	200	図297	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(11)	262
図237	2号河川跡出土土器(1)	203	図298	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(12)	263
図238	2号河川跡出土土器(2)	204	図299	2号河川跡出土の加工痕のある獣骨	264
図239	2号河川跡出土土器(3)	205	図300	水田の検出範囲	265
図240	2号河川跡出土土器(4)	206	図301	村前地区Hr-FA層下水田	267
図241	2号河川跡出土土器(5)	207	図302	村前地区第1次調査Hr-FAの下水田	269
図242	2号河川跡出土土器(6)	208	図303	村前地区第3次調査A区Hr-FA下水路と水田	271
図243	2号河川跡出土土器(7)	209	図304	村前地区第3次調査B区Hr-FA下水田島状のAゼと水田の列	272
図244	2号河川跡出土土器(8)	210	図305	村前地区第3・4次調査区Hr-FA下水田の造成	274
図245	2号河川跡出土土器(9)	211	図306	下り橋地区のAs-B下水田	277
図246	2号河川跡出土土器(10)	212	図307	下り橋地区As-C層下水田	277
図247	2号河川跡出土土器(11)	213	図308	下り橋地区のHr-FA層下水田	279
図248	2号河川跡出土土器(12)	214	図309	下り橋地区第5次調査区As-B下水田長方形区画	281
図249	2号河川跡出土土器(1)	215	図310	下り橋地区第4次調査区Hr-FA下水田大アゼと小区画	283
図250	2号河川跡出土土器(2)	216	図311	下り橋地区第4次調査区Hr-FA下水田区画の西縁	284
図251	2号河川跡出土土器(3)	217	図312	下り橋地区第4次調査区Hr-FA下水田西縁の帯状区画	285
図252	2号河川跡出土土器(4)	218	図313	下り橋地区Hr-FA下水田西縁	286
図253	2号河川跡出土土器(5)	219	図314	下り橋地区As-C下水田アゼ中央の水口	288
図254	2号河川跡出土土器(6)	220	図315	下り橋地区As-C下水田アゼ端の水口	289
図255	2号河川跡出土土器(7)	221	図316	村前地区Hr-FA下水田面積ヒストグラムと正規分布	290
図256	2号河川跡出土土器(8)	222	図317	下り橋地区Hr-FA下水田面積ヒストグラムと正規分布	291
図257	2号河川跡Ⅰ河道出土土器	223	図318	新保田中村前遺跡Hr-FA下水田面積ヒストグラムと正規分布	291
図258	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(1)	223	図319	下り橋地区As-C下水田面積ヒストグラムと正規分布	292
図259	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(2)	224	図320	島の検出範囲	298
図260	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(3)	225	図321	村前地区中近世品	300
図261	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(4)	226	図322	村前地区As-C上品	301
図262	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(5)	227	図323	村前地区As-C上品出土遺物	303
図263	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(6)	228	図324	下り橋地区As-B下島(右岸)	304
図264	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(7)	229	図325	下り橋地区Hr-FA上島(左岸)	305
図265	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(8)	230	図326	下り橋地区Hr-FA下島	306
図266	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(9)	231			
図267	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(10)	232			
図268	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(11)	233			
図269	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(12)	234			
図270	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(13)	235			
図271	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(14)	236			
図272	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(15)	237			
図273	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(16)	238			
図274	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(17)	239			
図275	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(18)	240			
図276	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(19)	241			
図277	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(20)	242			
図278	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(21)	243			
図279	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(22)	244			
図280	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(23)	245			
図281	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(24)	246			
図282	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(25)	247			
図283	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(26)	248			
図284	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(27)	249			
図285	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(28)	250			
図286	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(29)	251			
図287	2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(30)	252			
	第Ⅲ河道出土土器(1)	252			
図288	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(2)	253			
図289	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(3)	254			
図290	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(4)	255			
図291	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(5)	256			
図292	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(6)	257			
図293	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(7)	258			
図294	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(8)	259			
図295	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(9)	260			
図296	2号河川跡第Ⅲ河道出土土器(10)	261			

写真図版目次

- P L 1 1. 新保田中村前遺跡遠景 (南から・昭和59年撮影)
後方は赤城山
2. 新保田中村前遺跡 村前地区 (北から)
- P L 2 1. 村前地区 37ライン地山土層断面 (南西から)
2. 村前地区 南端66ライン付近 Hr-FA より下層の土層断面 (北から)
- P L 3 1. 村前1次調査区 As-B 下 (北から・左前方は Hr-FA 下水田)
2. 村前地区 昭和59年度調査区 As-B 下全景 (南から)
- P L 4 1. 村前地区 昭和60年度調査区北半全景 (北から)
2. 村前地区 昭和60年度調査区南半全景 (北から)
- P L 5 1. 3号・4号漢土層断面 (南から)
2. 3号・4号漢遺物出土状態 (南東から)
3. 3号・4号漢土層断面 (南から)
4. 3号・4号漢全景 (西から)
5. 3号・4号漢全景 (東から)
6. 3号・4号漢屈曲部 (北西から)
7. 10号漢土層断面 (東から)
- P L 6 1. 11号漢全景 (西から)
2. 11号漢下部木器出土状態
3. 11号漢木器出土状態 (西から)
4. 11号漢納のある木器 (西から)
5. 11号漢底面 (東から)
6. 27号漢全景 (北から)
7. 29号漢全景 (西から)
- P L 7 1. 1号・2号漢全景 (北から)
2. 1号・2号漢と西方に広がる As-B 直下面 (北から)
3. 2号漢南端部 (北東から)
4. 5号・7号漢全景 (南から)
5. 5号・7号漢全景 (西から)
6. 5号漢と溜井状のおこみ (南から)
7. 7号漢底面の掘りこみ (E-5グリッド) (北から)
- P L 8 1. 9号漢土層断面 (南から)
2. 13号~16号漢土層断面 (南から)
3. 15号漢全景 (南から)
4. 16号西漢全景 (北から)
5. 16号漢土層断面 (東から)
6. 16号漢屈曲部 (北から)
- P L 9 1. 18号漢全景 (西から)
2. 18号漢底面のウォーターホール (南から)
3. 20号漢(左)・21号漢(右)全景 (西から)
4. 21号漢全景 (南から)
5. 25号漢土層断面 (西から)
6. 26号漢全景 (南から)
7. 30号漢土層断面 (南から)
8. 30号漢と先行する5号~7号住居
- P L 10 1. 31号・32号漢全景 (東から)
2. 33号漢全景 (東から)
3. 34号漢土層断面 (西から)
4. 昭和60年度調査地区 34号漢全景 (北から)
5. 35号漢全景 (東から)
- P L 11 1. 37号漢全景 (南から)
2. 38号漢土層断面 (南から)
3. 38号漢全景 (北から)
4. 39号漢全景 (南から)
5. 41号漢全景 (北から)
- P L 12 1. 43号漢土層断面 (西から)
2. 43号・49号漢土層断面 (西から)
3. 48号漢土層断面 (西から)
4. 45号~47号漢全景 (北から)
- P L 13 1. 48号・60号漢土層断面 (南から)
2. 49号漢土層断面 (南から)
3. 56号・61号漢土層断面 (南から)
4. 56号・58号漢土層断面 (北西から)
5. 56号~60号漢全景 (北西から)
- P L 14 1. 56号・59号漢土層断面 (南から)
2. 56号漢土層断面 (北から)
3. 57号・58号漢土層断面 (南から)
4. 58号漢遺物出土状態 (南から)
5. 59号漢遺物出土状態 (南西から)
6. 60号漢土層断面 (西から)
7. 昭和61年度調査区 溝群の調査 (南から)
8. 昭和61年度調査区 溝群の調査 (北から)
- P L 15 1. 51号~55号溝・63号漢全景 (北から)
2. 51号・52号漢全景 (北から)
3. 51号漢土層断面 (南西から)
4. 51号・53号漢土層断面 (南西から)
5. 52号漢土層断面 (南から)
- P L 16 1. 53号漢全景 (西から)
2. 53号漢遺物出土状態(2-63グリッド) (南から)
3. 54号・66号漢土層断面 (西から)
4. 55号漢土層断面 (西から)
5. 57号・61号漢土層断面 (西から)
6. 61号・65号住居土層断面 (南から)
7. 61号溝・30号・31号住居土層断面 (南西から)
8. 61号溝須恵器出土状態 (東から)
- P L 17 1. 孤を築く61号溝 (左下に72号溝) (北から)
2. 68号・69号漢土層断面 (南から)
3. 70号漢全景 (西から)
4. 71号漢東半全景 (西から)
5. 72号漢土層断面 (北から)
- P L 18 1. 78号漢土層断面 (西から)
2. 79・80号漢土層断面 (西から)
3. 79号・81号漢土層断面 (西から)
4. 善勝寺組 (北から)
- P L 19 5. Hr-FA 期の洪水堆積物 (西から)
1. 村前地区昭和60年度調査区南半Hr-FA下全景 (南から)
2. 24号漢土層断面 (南から)
3. 24号漢土層断面 (西から)
4. 24号溝 (K・L-34・35グリッド) (北から)
5. 24号溝 (K・L-23~28グリッド) (南から)
- P L 20 1. Hr-FA 下水田と24号溝 (北から)
2. 24号漢木器 (644)
3. 75号漢全景 (西から)
4. 1号河川跡と44号溝 (北から)
5. 1号河川跡と44号溝 (南から)
- P L 21 1. 77号漢遺物出土状態 (西から)
2. 77号漢全景 (南から)
- P L 22 1. 77号漢土層断面 (西から)
2. 77号漢北縁出土帯土器 (225) (西から)
3. 77号漢木器出土状態 (西から)
4. 77号漢木器出土状態 (北西から)
5. 77号漢木器出土状態 (西から)

	6. 77号漆木器出土状態 (南から)		3. 28号・29号漆土層断面 (南東から)
	7. 77号漆しょうたん出土状態 (西から)		4. 28号漆全景 (西から)
	8. 77号漆管玉出土状態 (西から)		5. 29号漆全景 (北西から)
P L 23	1. 86号漆罐 (南から)	P L 36	1. 30号漆全景 (南東から)
	2. 86号漆罐 (西から)		2. 34号漆全景 (南から)
P L 24	1. 86号漆罐 (北東から)		3. 31号・32号・33号漆全景 (西から)
	2. 86号漆しがらみ (北西から)		4. 右岸調査区の溝群 (北東から)
	3. 86号漆しがらみ (西から)		5. 右岸調査区の溝群 (南から)
	4. 86号漆しがらみ、カヤ (東から)	P L 37	1. 20号漆全景 (北から)
	5. 86号漆しがらみ、カヤと漆材 (東から)		2. 20号漆全景 (南から)
P L 25	1. 86号漆しがらみ、カヤと構築材 (北から)		3. 灰色粘土層上面全景 (北から)
	2. 86号漆しがらみ構築材 (北から)		4. 37号漆土層断面 (西から)
	3. 86号漆二股線出土状態 (南西から)		5. 37号漆全景 (西から)
	4. 86号漆木器出土状態 (西から)	P L 38	1. 1号井戸全景 (西から)
P L 26	1. 86号漆しがらみ構築材 (東から)		2. 2号井戸全景 (南から)
	2. 86号漆土層断面 (南から)		3. 3号井戸全景 (東から)
P L 27	1. 87号漆木器出土状態 (北から)		4. 4号井戸全景 (南から)
	2. 87号漆杖出土状態 (東から)		5. 5号井戸全景 (西から)
	3. 87号漆杖断面 (東から)		6. 6号井戸全景 (北から)
	4. 94号漆土層断面 (東から)		7. 8号井戸全景 (南から)
	5. 93号漆土層断面 (北から)		8. 9号井戸全景 (北から)
	6. 93号漆全景 (西から)	P L 39	1. 10号井戸全景 (北西から)
	7. 95号漆全景 (南西から)		2. 11号井戸全景 (西から)
P L 28	8. 95号漆高杯形土器 (237) 出土状態 (南西から)		3. 12号井戸全景 (東から)
	1. 95号一灯号漆全景 (南から)		4. 13号井戸全景 (北西から)
	2. 調査風景 (北東から)		5. 14号井戸全景 (西から)
	3. 作業風景 (北西から)		6. 15号井戸全景 (西から)
P L 29	1. 下り柳地区 As-B 下全景 (南から)		7. 16号井戸全景 (南東から)
	2. 1号・2号・5号漆全景 (南から)		8. 17号井戸全景 (北から)
	3. 1号漆全景 (西から)	P L 40	1. 18号井戸全景 (北西から)
	4. 2号漆全景 (西から)		2. 19号井戸全景 (南西から)
	5. 4号漆全景 (西から)		3. 20号井戸全景 (南東から)
	6. 5号漆全景 (北から)		4. 21号・22号井戸全景 (東から)
P L 30	1. 6号漆全景 (北から)		5. 21号井戸全景 (東から)
	2. 8号・9号漆全景 (南西から)		6. 22号井戸全景 (南から)
	3. 8号・9号漆全景 (北西から)		7. 23号井戸全景 (西から)
	4. 23号漆全景 (南東から)	P L 41	8. 24号井戸全景 (南東から)
	5. 24号漆全景 (西から)		1. 25号井戸全景 (北から)
P L 31	1. 22号漆全景 (西から)		2. 26号井戸全景 (北西から)
	2. 26号漆土層断面 (西から)		3. 27号井戸土層遺物出土状態 (北から)
	3. 26号漆全景 (西から)		4. 27号井戸全景 (北から)
	4. 下り柳地区 Hr-Fa 直下面全景 (南から)		5. 28号井戸土層遺物出土状態 (南から)
	5. Hr-Fa 下 水田を横切って掘られた溝群 (南西から)		6. 28号井戸全景 (東から)
P L 32	6. 10号漆土層断面 (南から)		7. 29号井戸土層遺物出土状態 (東から)
	1. 10号漆全景 (東から)		8. 29号井戸全景 (東から)
	2. 10号漆全景 (西から)	P L 42	1. 30号井戸土層断面 (南から)
	3. 11号漆全景 (北から)		2. 30号井戸全景 (南西から)
	4. 10号・13号漆土層断面 (南から)		3. 31号井戸全景 (南西から)
	5. 13号漆土層断面 (南から)		4. 32号井戸全景 (北から)
P L 33	6. 13号・14号漆土層断面 (南から)		5. 33号井戸土層断面 (南から)
	1. 13号漆と欄干 (北から)		6. 33号井戸全景 (西から)
	2. 14号漆土層断面 (南から)		7. 34号井戸土層断面 (南から)
	3. 14号漆全景 (南から)		8. 34号井戸全景 (西から)
	4. 12号漆土層断面 (南から)	P L 43	1. 35号井戸全景 (北西から)
	5. 16号漆土層断面 (西から)		2. 36号井戸土層断面 (南から)
P L 34	1. 12号漆全景 (北西から)		3. 36号井戸全景 (南西から)
	2. 16号漆全景 (南東から)		4. 下り柳地区 1号井戸全景 (西から)
	3. 15号漆土層断面 (西から)		5. 下り柳地区 2号井戸全景 (西から)
	4. 15号漆西端 (西から)		6. 下り柳地区 3号井戸土層断面 (西から)
P L 35	5. 15号漆全景 (東から)		7. 下り柳地区 3号井戸全景 (西から)
	1. 20号漆全景 (西から)	P L 44	1. 1号河川跡・44号漆全景 (南から)
	2. 27号漆土層断面 (西から)		2. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)

	3. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)		4. 水口検出状況 (北から)
	4. 1号河川跡遺物出土状態 (南から)		5. 水田区画と水口 (北から)
	5. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)	P L 56	1. As-B下水田全景 (北から)
P L 45	1. 44号溝全景 (南から)		2. As-B下水田 (K・M-18-24グリッド) 近景 (北西から)
	2. 44号溝の枕列	P L 57	1. Hr-FA下水田全景 (南から)
	3. 44号溝の土器出土状態		2. Hr-FA下水田全景 (北から)
	4. 1号河川跡しがらみ状施設 (西から)		3. Hr-FA下水田 (K・L-23グリッド) 以南 (北から)
	5. 1号河川跡しがらみ状施設 (南から)		4. Hr-FA下水田 (L・M-16グリッド) 以南 (北から)
	6. 1号河川跡杭 (W422) 出土状態	P L 58	1. Hr-FA下の水田区画 (北西から)
P L 46	7. 1号河川跡杭 (W424) 出土状態		2. 大アゼと小アゼによる小区画 (西から)
	1. 1号河川跡櫛 (W303) 出土状態		3. 右岸側のHr-FA下水田 (北から)
	2. 1号河川跡弓 (W414) 出土状態	P L 59	4. As-C下水田全景 (北から)
	3. 1号河川跡木器 (W405・W406) 出土状態		1. As-C下の水田区画と水口の列 (北から)
	4. 1号河川跡土器 (381) 出土状態		2. As-C下の水田区画 (北西から)
	5. 1号河川跡土器 (277扇辺) 出土状態		3. As-C下の水田区画と水口の列 (南から)
	6. 1号河川跡土器 (276) 出土状態	P L 60	4. 村前地区高 (J・K-28-30グリッド) (北から)
	7. 1号河川跡土器 (281扇辺) 出土状態		1. As-C上島嶼間杭 (T・U-53グリッド) (西から)
P L 47	8. 1号河川跡石器 (S168) 出土状態		2. 島検出区域と染谷川 (北から)
	1. 2号河川跡土層断面 (北から)		3. As-C上島嶼間杭 (12・13グループ) (北西から)
	2. 2号河川跡土層断面 (北西から)		4. As-C上島嶼間杭 (26・27・28グループ) (西から)
	3. 2号河川跡土層断面 (北東から)		5. As-C上島全景 (S-20-51-64グリッド)
	4. 2号河川跡土層断面 (北東から)	P L 61	1. As-B下島土層断面 (東から)
	5. 2号河川跡第Ⅰ河道全景 (北から)		2. As-B下島全景 (北東から)
P L 48	1. 第Ⅰ河道 (2C-64グリッド) 土器出土状態 (南から)		3. As-B下・Hr-FA上島とHr-FA下水田 (北から)
	2. 第Ⅰ河道 (2C-64グリッド) 土器 (374) 出土状態 (西から)		4. As-B下・Hr-FA上島全景 (西から)
	3. 第Ⅱ河道 (2D-64グリッド) 土器出土状態 (北から)		5. Hr-FA下島全景 (西から)
	4. 第Ⅱ河道土器 (378) 出土状態 (北から)	P L 62	1. 県立中央高校地歴部の見学 (南から)
	5. 第Ⅱ河道シカ角 (B87)・イヌ下顎骨 (B92) 出土状態 (南から)		2. 地元小学生の見学 (南から)
	6. 第Ⅱ河道シカ大顎骨 (B51) 出土状態 (北から)	P L 63・P L 64	3・4・10・11・27・29号溝の出土遺物
	7. 第Ⅱ河道イノシシ骨 (B1) 出土状態 (北から)	P L 65・P L 68	11号溝出土の木器
	8. 第Ⅱ河道 (2B・2C-64グリッド) 遺物出土状態 (西から)	P L 69・P L 75	古代の溝の出土遺物
P L 49	1. 第Ⅱ河道木器出土状態 (北から)	P L 76・P L 77	24・77号溝の出土遺物
	2. 第Ⅱ河道底面に差べられた転用木器 (東から)	P L 78・P L 87	77号溝出土の木器
P L 50	1. 第Ⅱ河道木器出土状態 (西から)	P L 88	弥生時代の溝の出土遺物
	2. 第Ⅱ河道木器出土状態 (北東から)	P L 89・P L 98	86号溝出土の木器
	3. 第Ⅱ河道転用材 (北から)	P L 99・P L 101	井戸・墓の出土遺物
	4. 第Ⅱ河道環状葦製品 (W333) 出土状態 (西から)	P L 102・P L 103	1号河川跡出土の土器
	5. 第Ⅱ河道遺物とりあげ後全景 (北から)	P L 104・P L 111	1号河川跡出土の石器
P L 51	1. 第Ⅱ河道湾曲部木器出土状態 (南西から)	P L 112・P L 116	1号河川跡出土の木器
	2. 第Ⅱ河道湾曲部木器出土状態 (南から)	P L 117・P L 121	2号河川跡出土の土器
	3. 第Ⅱ河道全景・湾曲部遺物出土状態 (南から)	P L 121・P L 127	2号河川跡出土の石器
	4. 第Ⅱ河道底面の枕列 (西から)	P L 128・P L 150	2号河川跡出土の木器
	5. 第Ⅱ河道底面枕 (南から)	P L 151・P L 153	2号河川跡出土の轆轤
P L 52	1. 第Ⅲ河道木器出土状態 (西から)	P L 154・P L 156	2号河川跡出土の植物遺存体
	2. 第Ⅲ河道木器出土状態 (北から)		
	3. 第Ⅲ河道全景 (北から)		
	4. 第Ⅲ河道と善勝寺堀取水路 (北から)		
	5. 木器のとりあげ作業		
P L 53	1. 染谷川とHr-FA下水田検出区域 (北から)		
	2. Hr-FA下水田水口 (南から)		
	3. 小アゼの帯状区画 (南から)		
	4. Hr-FA下水田 (K・L・M-35-39グリッド) (南から)		
P L 54	1. Hr-FA下水田 (L・N-42-45グリッド) (北から)		
	2. Hr-FA下水田 (R・U-53・54, T・U-52グリッド) (西から)		
P L 55	1. 43号溝壁にあらわれた大アゼ (北西から)		
	2. 大アゼ順の水口 (西から)		
	3. Hr-FA下水田 (S-20-53-56グリッド) (北から)		

第1章 発掘調査の経過

1. 発掘調査に至る経緯

一級河川染谷川は榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地に源を発する利根川の一支流である。昭和39年度以後、治水対策・農業振興の整備を兼ねた中小河川改修工事（障害工事）が随所で行われてきた。高崎市新保田中町の流域は、治水対策上早くから河川改修工事の要望があったが、昭和58年度になってそれが具体化してきた。

即ち、この年に河川改修工事を担当する県土木部河川課（以下、県河川課）は、新保田中地内を流れる染谷川の河川改修工事を昭和59年度より着工するため、同地内工事対象地域の埋蔵文化財発掘調査の必要性の有無を県教育委員会文化財保護課（以下、県文化財保護課）に照会してきた。

県文化財保護課は、県河川課の示す工事対象区域の図面をもとに現地の埋蔵文化財分布調査を実施したところ、当該地は関越自動車道新潟線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査において調査された新保遺跡の隣接地であることがわかった。

新保遺跡は、縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡であり、弥生時代の住居群・墓跡群等の遺構と共に多量の木器が出土し、全国的にも著名となった遺跡である。かかる遺跡に隣接する染谷川の河川改修工事区域は、当然ながら新保遺跡と同等の遺構の存在が十分に予想された。そこで、県文化財保護課は県河川課に対し対象区域の工事着工前の埋蔵文化財発掘調査の必要を回答し、両者で、その取り扱いについて協議を重ねた。

協議は、発掘調査の主体・期間・経費・工事工程

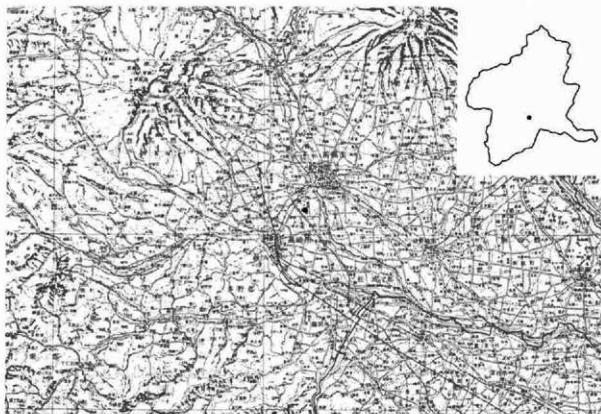


図1 群馬県の地勢と遺跡の位置

0 1:200,000 10km

第1章 発掘調査の経過

等が中心となったが、

- ① 発掘調査は、静岡県埋蔵文化財調査事業団(以下、財埋文事業団)に委託して実施する。
- ② 発掘調査に要する経費は、県土木部が負担する。
- ③ 発掘調査の期間は、各年度毎に県河川課・文化財保護課・高崎土木事務所・財埋文事業団が協議して、工事に支障のないよう設定する。
- ④ 発掘調査整理事業は、発掘調査終了時に実施する。

を確認し、昭和59年度より調査を実施することにした。

昭和59年度の調査は、当初10月から実施することで協議が整っていたが、新保田中地域住民の要望で治水対策の面から善勝寺橋上流の農業用水路取水口を、上流の下沖橋上流部に取り付け、その間の仮用水路を改修工事区域の左岸用地内に設ける問題が持ち上がった。仮用水路は幅1.5m、長さ150mに及ぶもので、当然ながら埋蔵文化財の取り扱いが問題となり、県河川課・文化財保護課・高崎土木事務所の三者で協議を行い、試掘を兼ねた発掘調査を実施することにした。調査は、財埋文事業団が10月からの調査予定ということで、他の遺跡の調査を実施して

いたため、対応不可能ということで急拠高崎市教育委員会に依頼した。試掘調査は、昭和59年6月5日より一週間の予定で実施され、浅間山B軽石堆積下の溝・土坑等を確認、調査した。

昭和59年度の財埋文事業団の調査は、当初の予定どおり10月より着手した。調査に先立って県土木部と財埋文事業団は「一級河川染谷川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査」の委託契約を昭和59年10月1日付けで締結して、着手した。以後各年度においても発掘調査の委託契約を締結し、下記表に示したとおりの期間・調査面積・調査経費で調査を実施した。各年度の調査は、河川改修ということで雨季の出水、特に台風シーズンのことを心配しての調査であった。一時的に調査箇所が冠水したこともあったが、工事対象区域の一部を残して、昭和63年度に調査は終了した。調査終了後、今年度より2年計画で、調査報告書を作成する整理業務に入ったが、第一年次分の成果をまとめることができたので、以下に報告したい。

各年度の調査にあたっては、地元新保田中区长、地権者、県河川課、高崎土木事務所等にお世話になった。ここに明記して感謝したい。(神保)

調査年度	調査期間	調査面積 (単位㎡)	調査経費 (単位千円)	調査の内容
昭和59年	昭和59年10月1日～ 昭和59年12月28日	1550	10,000	中・近世の井戸14基・F A下水田跡、(平)竪穴住居跡1、B軽石下溝溜井
昭和60年	昭和60年9月2日～ 昭和61年3月31日	3500	30,000	(弥)住居跡1、(古)住居跡4、(奈・平)住居跡15、(弥)縄文墓1 (古)溝1、(奈・平)溝1・井戸13、中世以後の島、縄文時代の土器片
昭和61年	昭和61年7月1日～ 昭和62年3月31日	3000	39,500	(弥)住居跡6、(弥)方形周溝溝7、(弥)土坑6、(弥)ピット群 (古)前方後方型周溝墓1、(古)溝状遺構、(古)島、(古)住居跡20 (古)F A下水田跡、小路、その他多量の木器出土
昭和62年	昭和62年5月20日～ 昭和63年3月26日	5900	45,950	(弥)住居跡、(弥)ピット群、(弥)土坑2、(古)溝、(古)住居跡5 (古)ピット群、(古)島状遺構、(古)F A下水田、(奈・平)住居跡50 (奈・平)土坑、(奈・平)掘立柱建物跡、
昭和63年	昭和63年4月7日～ 昭和63年12月28日	5900	35,000	(弥)住居跡、(弥)土坑群、(古)住居跡、その他多量の(弥)木器出土
平成元年	平成元年6月1日～ 平成2年3月31日		65,920	土器復元、実測、写真撮影、原稿執筆、本誌実測等

2. 発掘調査の方法と経過

発掘区的位置 前節で述べたように新保田中村前遺跡の発掘調査は、柴谷川の河川改修工事にもなっており5ヵ年間にわたって実施された。したがってその発掘区は細長く、しかも用地の買収経過に即して設定されたために各地点に散在することとなった。したがって調査報告に際して調査区の配置を説明しておきたい。発掘区は大きく村前地区と下り柳地区とに分けられる。

村前地区は、下流側左岸の調査区で延長440mに及び、昭和59年度から63年度にわたって五次の調査が実施された。各年度のそれぞれの調査区は図2のとおりである。現況は桑畑が多く、一部宅地として利用されていた。

調査区西側には柴谷川が南流している。調査における安全確保のため、現河道との間は1m以上掘り残しており、調査区外とした。また調査区内には善勝寺堀と呼ばれる用水堀が通っており、調査期間内でも使用されていた。通水が必要な期間に調査が重複した地点では、用水堀周辺が未調査となっている。また調査中、上沖橋・善勝寺橋に続く道路は切断ができず、調査区が連続していない。

調査期間と用地買収の経過によって調査区が決定されたので、発掘区は年度によって分断される場合も多かった。そのため土層の認識や遺構検出にあたって同一視点での調査ができなかったことも否めない。特に、検出遺構の確認面は大別しても、

- I面 中・近世、平安時代後期、
- II面 古墳時代後期～平安時代前期、
- III面 古墳時代中期 Hr-FA 降下面、
- IV・V面 古墳時代前期、弥生時代、縄文時代包含層と4面におよび、それぞれの確認面で遺構は数次に重複していた。したがって発掘区を越えて連続する遺構がうまく図化し得なかった部分もある。その点については逐一各遺構の記述にあたって述べている。

下り柳地区は上流側の左岸と一部右岸にかかる発

掘調査区である。延長340mにおよび、昭和61～63年度に調査を実施した。現況の地目は桑畑であった。

三ヵ年の調査において、道路等によって調査区が

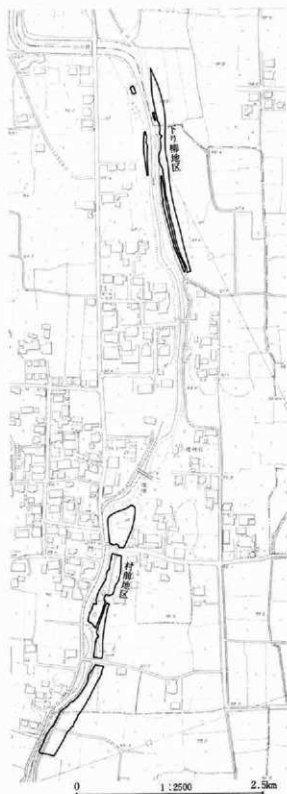


図2 発掘区的位置

第1章 発掘調査の経過

分断されることはなかったが、左岸調査区のはほぼ中央に調査直前に廃絶された現代の用水路があり、その部分の遺構の多くは破壊されていた。右岸側の調査区は幅が狭く、安全対策上の掘り残しをすると調査できる範囲は極端にせまくなっている。下り柳地区でもテフラの堆積を目安にして確認面を設定し、調査を進め、
 I面 As-B降下面、
 II面 Hr-FA降下面、
 III面 As-C降下面、
 IV面 地山の灰白色粘土面
 以上の四面の調査を行ない、テフラ堆積の直下で水田や畠を検出している。地山面では風刻木痕が多数検出された。

グリッドの設定 発掘区内には記録用に一辺5mのグリッドを設定した。東西方向を東からA・B・C・・・、南北方向を北から1・2・3・・・とし、グリッドの呼称は北東の交点杭により東西方向を先に南北方向を後に呼ぶこととした。調査区はほぼ南北方向であり、国家座標系に位置づけられるように配慮した。しかし、第一次調査区で設定した任意のグリッド基準線を村前地区では踏襲した為に、国家座標で設定した下り柳地区とは異なったグリッドとなっている。村前地区と下り柳地区のグリッド呼称は連動していないので注意が必要である。

村前地区のグリッド基準線は、昭和59年度調査区の幅杭に沿って設定した。この基準線は国家座標の座標北から $3^{\circ}06'56''$ 西へずれている。村前地区では昭和63年度調査までこの

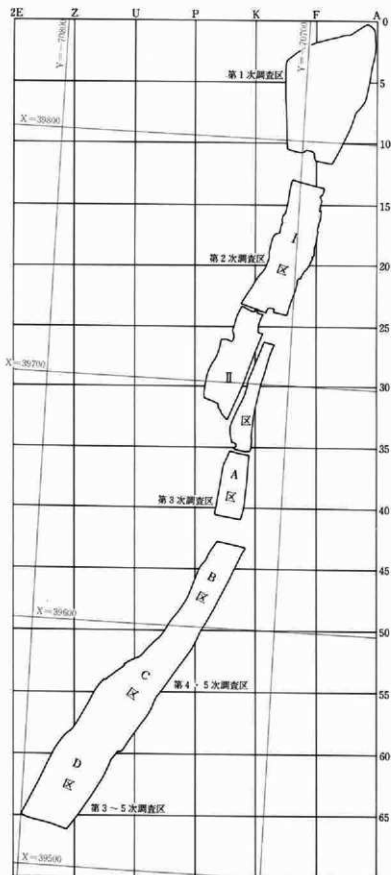


図3 村前地区のグリッド

グリッドを踏襲している。

下り柳地区は、国家座標の座標北に南北方向の基準線を合わせてグリッドを設定した。下り柳地区グリッドのEラインは、国家座標第IV系Y=-70600mにあっている。またIラインは同系X=40500mである。

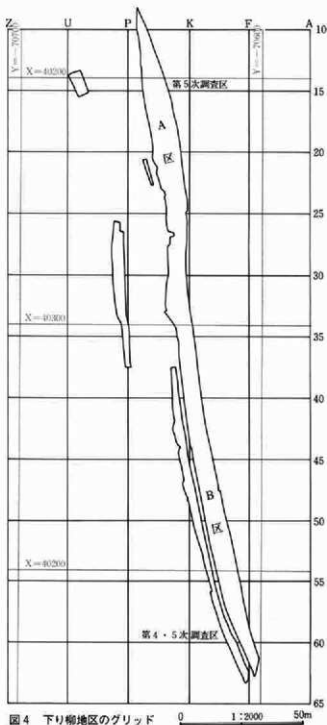


図4 下り柳地区のグリッド

基本土層と遺構確認面 後述するように村前地区と下り柳地区は、地形形成において様相が異なった地域である。しかし、調査にかかわる土層および遺構の確認面の把握については、両地区ともテフラによるところが大きい。それに加えて村前地区では河川作用による自然堤防堆積物を看過することはできない。遺構の確認もこれらの堆積物上面で确实となる場合が多い。

村前地区は図5に示したように、前橋泥流を基盤として厚さ60~80cmの砂が堆積している。この層の上部には縄文時代中期の遺物が含まれていたが、遺構を検出するまでには至らなかった。砂層上面では弥生時代中期から古墳時代前期の遺構が確認できる。この上層に堆積している風成黒色土のいずれかの面から遺構は掘り込まれていたものと考えられるが、遺構の平面形を确实に把握するためには砂層上面まで下げなければならなかった (IV面)。

黒色土の上半部にはAs-Cが多量に含まれる。降下したAs-Cが純堆積層としては残っていないが、古墳時代前期のものと考えられる畚の畝間には、純堆積に近いAs-Cが保存されており、遺構として検出することができた。後にこのAs-Cを含む黒色土は水田耕作土として利用されたが、6世紀初頭にHr-FAが降下し、それに伴う洪水堆積物に埋没するまで耕作が継続したと思われる。この黒色土の間で開田の時期をつかむことはできなかった。

村前地区に堆積していた降下Hr-FAは、第1次調査区で約5cm、第2次調査区で約3cm、第3・4次調査区で2~3cmであった。いずれも固くしまっており、第2次調査区を除く全域で水田面を覆っていた。(III面) 第2次調査区では用水路と考えられる溝を直接埋めていた。

降下Hr-FAの上層にはこの時の榛名山噴火に伴うと考えられる洪水堆積物が60cm~1mほど堆積している。この両層の間には間層がないので、時間的隔たりはほとんどないと考えられることができる。この厚い洪水堆積物の上面では古墳時代後期以降の掘り込みが検出された。(II面)一瞬の火山災害によって、

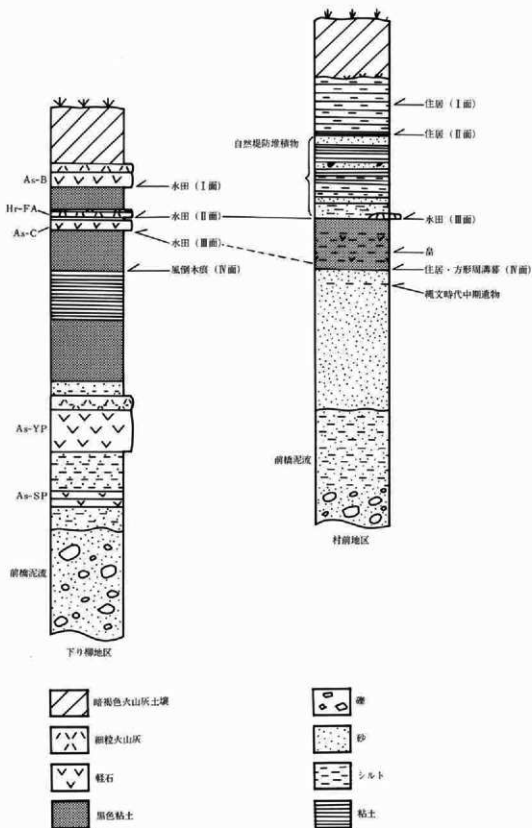


図5 新保田中村前遺跡の基本土層と遺構確認面

水田の開かれていた周辺の低地は、自然堤防と化し、集落景観は一変したことだろう。従来の水系を復元して復田できるほどの災害ではなかったであろう。以後、遺跡内は微高地上の居住域として変化するのである。

古墳時代後期より新しい遺構は、この洪水堆積物上面で確実に把握することができた。特に平安時代前期までの遺構はこの確認面を採用して調査した。しかし、第2次調査区や第3次調査区の一部でさらに上層に堆積した風成暗褐色土の中位で、平安時代後期以降の遺構を検出することができた。また、1108年に降下したAs-Bによって中世の遺構を確認した。(I面)

村前地区ではAs-Bを全面で検出することはできなかった。As-B降下下面を把握することができたのは第1次調査区と第2次調査区だけであり、その他の調査区では遺構の埋没下に挟在するAs-Bの純堆積層が確認できたにとどまった。As-B降下下面を調査した両区では方形区画を意図した溝が多数検出された。この中にはAs-Bを掘り込む遺構も多くある。また直下水田は可能性の考えられた地点もあったが、断定するにいたっていない。

下り柳地区も前橋泥流を基盤とし、その上に30～40cmの砂とシルト層が堆積している。村前地区ではこの砂層は縄文時代中期まで堆積しているが、下り柳地区ではシルト層の上位にAs-SPが確認され、15,000年前には離水していた、いわゆるローム台地であったことが判明した。このシルト質の上層には10～20cmの黒色粘土が堆積し、さらに10～20cmの黄灰白色粘土層が堆積している。これらには遺物は含まれず、遺構も検出されていない。この黄灰白色粘土層上面では30基の風倒木痕が検出された。(IV面)これらは多方向へ木が倒れた様子を示している。また、37号溝が1条検出された。

この上位には黒色粘土が15～20cm堆積し、上半にはAs-Cが含まれている。この黒色粘土層の上面ではAs-Cに直接覆われた水田跡が下り柳地区中央部で検出された。(III面)純堆積のAs-Cが確認でき

た部分が限定されるので水田跡の検出も一部にとどまっている。また、III面ではこのAs-Cの堆積を掘り込んで20号溝が検出された。

このAs-Cの上層には数cmの黒色土の間層があってHr-FAがほぼ全域に堆積している。この直下下面では小区画水田が広域に検出された。(II面)またここではHr-FAを掘り込む溝が十数条検出されている。この溝群の掘り込み面は明確でないが、上層にAs-Bがほぼ全域に確認されているので、As-B降下以前であることは明らかである。

Hr-FA降下後、さらに5cmほどの黒色粘土が堆積した後As-Bが降下している。この直下下面では北部で水田跡、南部の大部分では溝群や井戸、ピットが多数検出された。(I面)北部の一部では、As-B下水田の耕作土中位で、畝の畝間を検出した部分もある。他と同様にこの面でもAs-Bを掘り込む遺構を検出している。これらの遺構の掘り込み面は中世以降の土層の保存が悪く、把握することができなかった。中世・近世の遺構の確認はAs-B直下下面でおこなっている。

記録の方法 調査では図面・写真・調査所見等の記録をとった。

第1分冊で報告する遺構の平面図は、井戸を除いて個別に実測せず、調査区全域を14m×20mの範囲に割りつけ、1:40の縮尺で等高線とともに業者委託して測量した。土層断面はすべての遺構で記録するようにしたが土層を残すことが困難な場合は割愛した。なかでも遺構の重複や、テフラの堆積が把握できるように努めた。第2・第3分冊で報告する住居跡、墓、土坑等は個別に1:20の縮尺で測量した。遺構平面図・遺物出土状態図は業者委託による平板実測、土層断面図は作業員による手実測で対応している。

写真は個別に実測した遺構について、中形カメラによる6×9モノクロ写真、35mmモノクロ写真、35mmスライドの三種をその都度使い分け撮影した。地上撮影に加えて、高所作業車・ラジコン等からの撮影

第1章 発掘調査の経過

を併用したため、複数遺構をまとめて撮影した部分もある。

調査所見は各担当が、調査にあたって気がついた点をメモした。これらの調査所見は報告書中の本文執筆に生かされている。(小島)

調査日誌抄録

- (第1次調査・昭和59年度)
- S 59.10.29 調査開始・重機による表土掘削。
- 11.1 遺構確認作業。
As・B直下面の調査。
住居跡・溝・井戸の調査。
Hr-F A 下水道の検出・調査。
 - 11.22 全景写真撮影。
 - 11.23 測量開始。
 - 11.27 地形調査。
 - 11.28 井戸の掘り下げ業者委託。
 - 12.4 群馬大学新井房夫教授来訪。
 - 12.5 調査終了・撤収。
- (第2次調査・昭和60年度)
- S 60.10.1 調査開始。区長へ挨拶。
- 10.7 北半部、重機による表土掘削。
 - 10.11 機材搬入。
 - 10.14 遺構確認作業。溝の調査。
 - 10.22 ラジコンによる空中撮影。墓塚の調査。
 - 10.23 墓塚出土人骨とりあげ作業。
 - 10.24 溝の調査継続。11号溝木器出土。
 - 11.2 北半部Ⅱ面全景写真撮影。
 - 11.7 測量開始。
 - 11.11 Ⅱ-Ⅱ面遺構確認作業開始。
 - 11.12 18・25号溝の調査。
 - 11.16 全景写真撮影。
 - 11.17 測量開始。11号溝木器出土状態写真撮影。木器とりあげ作業。
 - 11.22 南端部に住居跡検出。調査。
 - 11.27 南半部表土掘削。
 - 12.10 I・Ⅱ面遺構確認作業。
 - 12.12 3号住居跡調査開始。住居・溝の調査継続。
- S 61.1.13 南半部Ⅰ・Ⅱ面全景写真撮影。
- 1.16 南半部Ⅰ・Ⅱ面測量開始。
 - 1.21 墓塚出土人骨取りあげ作業。
 - 1.22 南半分Ⅲ面表土掘削。
 - 2.3 南半分Ⅲ面遺構確認作業。
第三次調査D区Ⅰ面表土掘削。
 - 2.4 南半分Ⅲ面24号溝調査。
 - 2.5 南半分Ⅲ面全景写真撮影。
 - 2.6 南半分Ⅲ面測量開始。
 - 2.10 D区Ⅰ面住居調査。
 - 2.13 南半分Ⅳ面1号河川跡調査。
 - 2.25 南半分Ⅳ面住居調査。
 - 3.4 D区Ⅰ面全景写真撮影。
南半分Ⅳ面離床調査。
 - 3.5 D区Ⅰ面測量。
 - 3.11 群馬大学新井房夫教授来訪。
 - 3.27 南半分Ⅳ面1号河川跡全景写真撮影。
 - 3.28 南半分Ⅳ面測量終了。
 - 3.29 撤収。
- (第3次調査・昭和61年度)
- S 61.7.25 調査開始。
- 7.28 抜根・表土掘削開始。
 - 8.6 遺構確認作業開始。住居の重機が欲しい。
 - 8.11 住居群重機関係調査。
 - 8.26 D区溝群・井戸調査開始。
 - 9.1 D区と平行してB区の溝群調査開始。
 - 9.5 D区Ⅰ：40回りつけ測量開始。
 - 9.11 D区空中写真撮影。B区溝群調査継続。

- D区全景写真撮影。
 9.16 B区Ⅰ・Ⅱ面調査・住居跡調査継続。
 9.22 B区と並行してD区住居調査開始。
 10.14 A区表土掘削開始。この調A-D区を並行して調査。
 10.21 A区Ⅰ・Ⅱ面全景写真撮影。測量。
 10.22 A区Ⅲ面まで重機で掘削(洪水堆積物の除去)。
 B-D区の溝・住居・井戸等の調査継続。
 10.24 A区Ⅲ面 Hr-FA 下水田・溝調査。
 11.11 A区Ⅲ-Ⅳ面 As-C まじりの黒色土層遺物包含層調査。
 11.13 B区Ⅲ面まで重機で掘削。
 11.18 B区Ⅲ面 Hr-FA 下水田調査。
 11.22 B区Ⅲ面 Hr-FA 下水田調査。
 11.25 A区Ⅳ面地山砂層上面まで掘削。
 11.26 B区Ⅲ-Ⅳ面方形周溝基調査開始。
 11.29 D区Ⅰ・Ⅱ面等高線図測量補足。
 12.1 A区Ⅰの調査終了。B区方形周溝基調査継続。
 方形周溝基主体部より人骨片・歯が主体部出土。
 12.3 前掲第二高校宮崎重徳教諭来訪。人骨は焼けている可能性が判明。
 12.4 方形周溝基主体部調査継続。
 12.11 77号溝調査開始。
 12.17 77号溝水跡多量に出土。
 12.18 5号方形周溝基西 As-C を掘き込む品を出土。
 12.20 B区東平表土掘削。
 C区溝調査継続。
 12.22 B区東平遺構確認作業。
 12.23 B区東平住居・溝調査開始。
 77号溝水跡取り上げ作業。
 12.26 77号溝水跡取り上げ終了。
 S62.1.6 B区東平調査継続。
 C区溝調査継続。
 B区南部地下層で弥生時代住居確認。
 1.16 B区東平 Hr-FA 下まで掘削。水田を抽出・調査。
 1.21 B区東平 Hr-FA 下水田全景写真撮影・測量。
 1.23 B区東平水田下層の方形周溝基・溝を抽出・調査。
 86号溝で環状の遺構を抽出。水跡多量に出土。
 2.5 86号溝水跡取り上げ作業。
 B区東平全景写真撮影。
 2.10 B区東平測量。
 2.13 撤収。
 《第4次調査・昭和62年度》
 S62.9.16 調査開始。
 9.17 村前地区C区Ⅱ面住居・溝調査開始。
 9.28 村前地区D区Ⅲ面 Hr-FA 下水田調査開始。
 10.14 下り柳地区B区調査開始。Ⅱ面 As-B 面まで表土掘削。
 11.9 村前地区C区Ⅲ面 Hr-FA 下水田調査開始。
 11.10 下り柳地区B区Ⅱ面溝・As-B 下水田抽出。
 11.18 村前地区C・D区Ⅲ面 Hr-FA 下水田全景写真撮影。
 11.24 下り柳地区B区Ⅱ面 As-B 面全景写真撮影・測量。
 11.25 下り柳地区B区Ⅱ面 Hr-FA 面まで掘削作業開始。
 Ⅲ面 Hr-FA 下水田抽出・調査。
 12.10 村前地区C・D区Ⅲ面 Hr-FA 下水田・下り柳地区B区Ⅱ面 Hr-FA 下水田全景写真撮影。
 12.14 村前地区C・D区、下り柳地区B区測量。
 12.17 村前地区C・D区水田下層の遺構確認作業開始。
 下り柳地区B区Ⅲ面 As-C まで掘削開始。
 12.24 下り柳地区B区Ⅲ面 As-C 面全景写真撮影・測量。
 S63.1.6 下り柳地区山Ⅳ面遺構検出作業。
 風岡水痕多数検出。
 1.8 村前地区C・D区 As-C を掘き込む品を抽出。
 2.1 下り柳地区B区右岸Ⅰ面から調査。
 2.3 村前地区C・D区高台全景写真撮影。
 2.4 村前地区C・D区北平Ⅳ面弥生時代住居検出作業。
 2.10 下り柳地区B区右岸Ⅱ面 Hr-FA 下水田調査。
 2.17 下り柳地区B区右岸Ⅱ面 Hr-FA 下水田全景写真撮影。
 2.22 下り柳地区A区Ⅰ面 As-B 面まで表土掘削。
 2.29 下り柳地区A区Ⅰ面 As-B 面遺構確認作業。
 3.4 下り柳地区B区Ⅲ面 As-C 面調査。
 3.7 村前地区C・D区北平Ⅳ面弥生時代住居調査継続。
 下り柳地区A区Ⅱ面 Hr-FA 面まで掘削。
 3.10 下り柳地区A区Ⅱ面 Hr-FA 下水田調査。
 3.16 下り柳地区A区Ⅱ面 Hr-FA 下水田全景写真撮影。
 3.19 下り柳地区A区Ⅲ面 As-C 面掘削。
 3.24 下り柳地区A区Ⅲ面 As-C 下水田調査。
 3.25 本年度調査終了。
 《第5次調査・昭和63年度》
 S63.4.4 調査開始。下り柳地区A区Ⅲ面 As-C 下水田調査。
 4.6 村前地区C・D区南平Ⅳ面弥生時代遺構確認作業。
 4.11 村前地区C・D区北平Ⅳ面弥生時代住居全景写真撮影。
 4.12 村前地区C・D区南平Ⅳ面弥生時代住居調査開始。
 4.18 下り柳地区A区山Ⅳ面まで掘削。
 4.22 下り柳地区A区Ⅳ面風倒木撤去。
 4.26 下り柳地区A区Ⅳ面風倒木撤去。
 4.27 下り柳地区A区Ⅳ面全景写真撮影。
 5.6 下り柳地区A区調査終了。
 5.9 村前地区D区1号基壇調査。ガラス玉・人骨出土。
 5.16 村前地区D区2号河川跡調査開始。獣骨出土。
 5.31 村前地区D区2号河川跡木跡多量に出土。
 6.10 村前地区D区2号河川跡第Ⅱ河道全景写真撮影。
 6.11 村前地区D区2号河川跡木跡取り上げ作業。
 縄文時代遺物包含層調査。
 6.13 村前地区D区弥生時代住居群全景写真撮影。
 6.20 村前地区D区2号河川跡第Ⅱ河道掘り下げ。木器出土。
 6.23 飯水路開境。それにとまって流れた土砂によって第Ⅱ河道の木跡は覆乱。
 6.24 村前地区D区2号河川跡木跡出土位置でみず取り上げ。
 6.27 村前地区D区2号河川跡測量。
 出土木器・動物遺存体洗浄・整理。
 7.6 出土土器洗浄・整理。
 7.16 調査終了・撤収。
 10.25-12.27 図面整理作業。
 《整理作業・平成元年度》6月1日-3月31日
 H2.3.20 納本。

第1章 発掘調査の経過

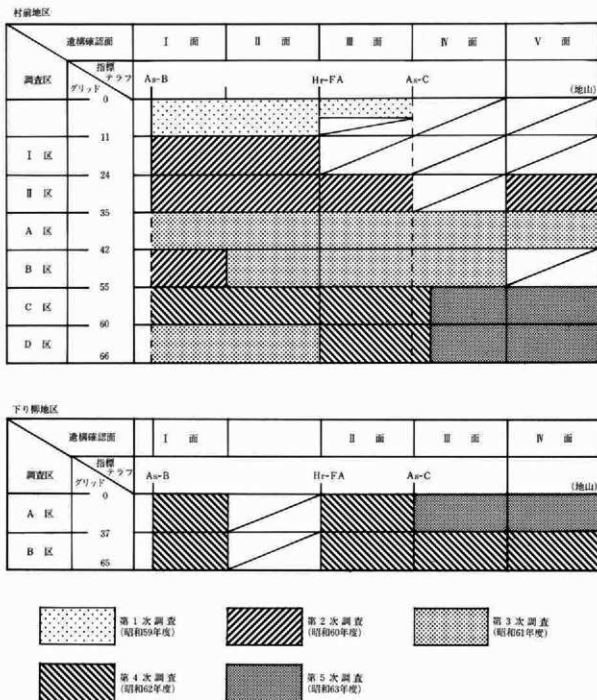


図6 新保田中村前遺跡発掘調査の推移

第2章 遺跡の環境

1. 遺跡の立地と環境

群馬県の中央部には、西に榛名山、東に赤城山という二つの成層火山がほぼ東西に並ぶ。この両火山はともに裾野が広く、その端は関東平野の西北部に連続する。赤城山は東側を除く全域に裾野を広げ、榛名山は東から東南にその発達が良い。そして両火山を分断する形で利根川が南流している。利根川は、渋川市付近を扇頂する大きな扇状地を形成し、高崎市から太平洋に向けて東流する（図7）。

この利根川による扇状地は、前橋台地と呼ばれており、現利根川によって二つに分断されている。左岸側には前橋市、右岸側には高崎市がその市街地を広げている。新保田中村前遺跡は、この扇状地上に立地する。前橋台地地下には、約2万年前の浅間火山起源の泥流堆積物が、扇状地礫層の上位に厚く堆積している。そのため地形は平坦になり、傾斜の緩い平野地形を形成する原因になった。特に利根川左岸の前橋台地に特徴的なことは、後述する榛名山の噴火とかかわり、数条の微高地が川ぞいに形成されていることである。これが、居住・生産・墓等の人間活動と結びついて、現在の土地利用につながっているのである。

新保田中村前遺跡周辺の地形は、図8のように考えられる。榛名山を源とする中小河川によって形成された帯状の微高地が、相馬ヶ原扇状地の扇端（標高110m付近）から井野川までの間に発達する。この微高地は現在集落や畑地として利用され、周辺の水田とは1mくらいの比高をもっている。そして、川ぞいに発達することや堆積物の様相から、自然堤防と考えられる。

特に染谷川・牛池川に伴う自然堤防を構成する堆積物の大部分は榛名山起源のテフラの二次堆積物で、その形成に火山活動が深く関わったことを示し

ている。調査ではこの堆積物の直下に6世紀初頭に降下したHr-FAが1cmほどの厚さで積もっていた。降下火山灰と自然堤防堆積物の間に間層がないことから、この堆積物は噴火直後の洪水によるものと考えられるのである。遺跡周辺の現在の地形はこの6世紀ごろにできあがったものと考えられる。

それ以前の地形を復元することは困難である。1m弱堆積した洪水層は、それまでの地表面を覆ってしまっている。染谷川もいくどかの河道の変遷を行なっている。調査でも弥生時代の旧河道が検出されている。また、遺跡内の土地利用も時代毎に変化している。その時々々の地形環境と人間のつくった遺構との関連を考えていく視点が必要である。

新保田中村前遺跡の調査は、現染谷川の左岸側を中心に帯状に実施した。下流側の村前地区は、前橋泥流上の関東ローム層の堆積は薄く、その上に灰色の砂が厚くのっている。この砂層は上部に縄文時代中期の土器片が含まれていることから、縄文時代中期以前の古い河床あるいはそれに近い環境の堆積物と考えられ、その後陸化し、旧染谷川沿いの微高地になったものである。この微高地には、弥生時代中期から居住や方形周溝墓がつくられ、古墳時代前期まで居住域・墓域として土地利用されている。また、調査では微高地を構成する砂層をきって染谷川の旧河道が検出されている。旧河道内の遺物出土状態や堆積物の粒度から、非常にゆったりとした流れが推定でき、小川の岸にムラをつくって人々が生活していたことが推定される。

黒色土の堆積が進み、4世紀のAs-C降下前後には畚も一部につくられ、農耕集落として継続・発展していたことが窺われる。この時期の水田は、調査では検出されていないが、古い自然堤防に付随する後背湿地が水田生産域になっていたものと考えられる。

第2章 遺跡の環境

古墳時代前期の住居が廃絶したあと、本地点は堆積した黒色粘土を利用して水田耕作が行なわれていた。開田の時期は明らかでない。やや広い範囲での地形変化あるいは用水の整備や水田の造成といった地形変化が伴っていたと考えられる。水田域には大区画の水田と小区画の水田があり、微地形を有効に利用した成果とみられよう。しかし、突然の榛名山麓の大爆発により Hr-FA の降下があり、水田面を覆ってしまう。その後ほとんど時を経ないで、何回もの泥流堆積物が染谷川によって運ばれ、洪水土砂が1m弱も堆積し、人々は水田を放棄せざるを得ないことになった。この火山災害後、遺跡内の地形は一変してしまい、用水系などは全く機能しなくなったのであろう。厚い堆積物の中には、黒色土は存在しないので、安定した植生の回復はなく、突発的な自然地形変化によって、遺跡内は新しい自然堤防に覆われることになった。

その後、自然堤防上は平安時代まで住居跡が重複してつくられ、古墳時代後期から継続した居住域と

して安定した土地利用が行なわれている。風成の堆積物はその後も堆積するが、自然堤防を原面とする周辺の地形は、中世・近世を通じて地割りの溝や井戸が検出されることから、染谷川の河道改変を除いて大きな変化はなく、現在まで続いてきたものと考えられる。

一方の上流部下り柳地区はローム台地である。深掘りのトレンチ土層断面で、As-YP の堆積が確認されている。現地表は周辺部との比高1mほどの微高地になって、染谷川沿いに村前地区へと続く。この地区はローム台地であるにもかかわらず、古墳時代前期から生産域として利用され、テフラ層下で三面の水田跡が見つかった。

当地区で確認された遺物の中で最も古いのは、縄文時代中期の土器片である。それらは、風倒木痕を検出した、灰色の砂質粘土の上面に散在していた。

この灰色の砂質粘土層の上位には、黒色の粘性土が堆積している。土層観察からは風成の堆積物と考えられ、本層の最上部は水田耕土として利用された。

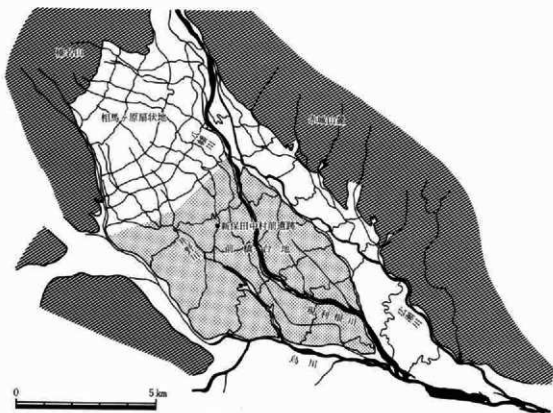


図7 榛名山麓と前橋台地

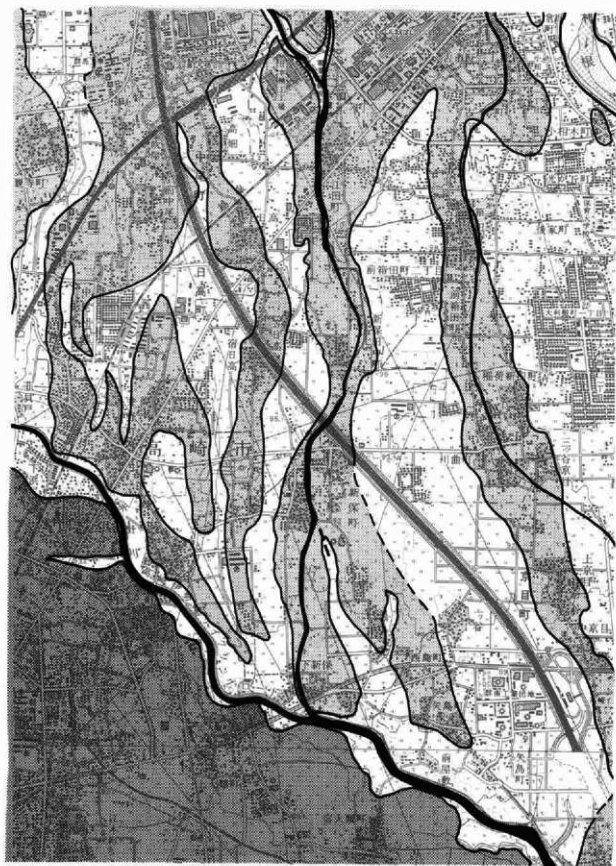


図8 遺跡周辺の地形分類

0 1:25000 1 km

水田面を覆った4世紀中頃と考えられるAs-Cをていねいに剥ぐと、畦畔がきれいに検出できた。

このAs-Cの上位にも、下位と同様な黒色の粘性土が薄く堆積し、この土層も水田耕土として利用されている。この水田は復旧されるが、6世紀初頃のHr-FAの降下によって再び埋没される。さらに上位に堆積する黒色粘性土は同じく風成堆積と考えられるもので、この粘性土は再度水田耕土として利用されるのである。この水田は12世紀初頃のAs-B降下時まで継続される。この間に、テフラ以外に黒色粘性土を分層できるような洪水堆積物、もしくは土層は認められない。すなわち、風倒木痕を検出した面からAs-B降下時までの長い間、この下り柳地区は同じような環境下におかれたと考えられる。

またHr-FAとAs-Bの間で、古墳時代末から奈良時代にかけての住居跡が2軒検出されている。やや高くなった部分での、土地利用の変化が一時あったものと考えられる。

先に述べたように、下り柳地区のローム台地上に堆積したのは風成の黒色土のみであった。また、下り柳地区の地形環境の大きな特徴は、洪水堆積物と考えられる土層の堆積が見られないことである。下流部の村前地区のような大きな地形的变化を受けずに、安定した土地であり続けた原因は、ローム台地が形成された頃から、周辺部よりやや比高の高い地区であったことや、柴谷川旧河道から150mほど東方に離れていたことに求められる。この安定した地域で水田耕作を営んだ集落はどこかといった問題は、下り柳地区周辺の詳細な地形復元が必要であり、今後の大きな課題である。(中山・小島)

2. 周辺の遺跡分布

本遺跡周辺の遺跡は、大規模開発である関越自動車道新潟線建設をはじめ、区画整備事業や圃場整備事業、河川改修工事や中小規模開発などにより、地域の様相とともに、ここ10余年のうちに大きく変貌してきている。このような状況下において、発掘調

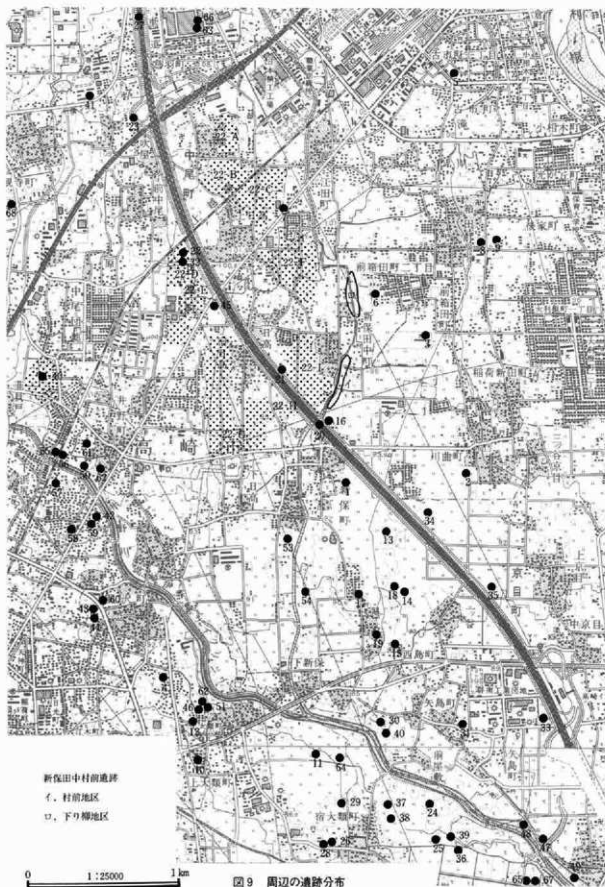
査が行われた周辺遺跡の概要と従来から知られている遺跡を時代毎にまとめることとした。

縄文時代 本遺跡においても、第5次調査区南端で縄文時代の包含層の調査を行った。従来は榛名山の扇状地形が明瞭になる北方地域の丘陵地帯に分布が多く認められていた。ここ数年、大小の工事に伴う発掘調査の整理結果が報告されるようになり、沖積地の調査における縄文時代の遺構の検出も報告されてきている。特に、柴谷川や井野川流域には、前期の集落である宿大類天神遺跡、後期では3軒の住居跡が検出された万相寺遺跡がある。その他に遺物の散布地として、上大類天田遺跡、井野町岡貝戸付近にこれを見ることができ、このように沖積地内の低台地上に位置するこれらの遺跡の立地状況からは、低地に隣接した地域利用形態を明らかにすることができ、これらの遺跡の調査は今後の研究に欠かすことのできない資料の検出となった。

弥生時代 弥生時代の集落跡が数多く検出されている高崎市において、本遺跡の周辺は調査が数多く行われており、本遺跡をはじめとして、南に隣接する新保遺跡などでは弥生時代中期後半から後期終末への集落、後期の墓地(方形周溝墓など)の他に、旧河川跡からは生活跡復原に大きな影響を与えられられる木製品の出土がある。

集落のあり方は、柴谷川や井野川流域における低台地上に分布することが多く、中には西高相ノ沢遺跡のような微高地上に溝で区画された囲柵集落の存在も明らかになり、3km北西に位置する浜尻遺跡などからの示唆も考えることができよう。他に集落遺跡は上大類北宅地・宿大類村西・矢高竹之内・万相寺・正観寺遺跡をあげることができる。生産遺跡と集落は、本遺跡から約1km北西に位置する日高遺跡を中心とする遺跡群と、西へ2km地点に位置する小八木菰貝戸遺跡がある。谷地の利水管理をしながら、弥生時代の水田を営んだ様子が明らかになってきている。

墓跡では、方形周溝墓が発見された本遺跡と新保遺跡、西高上新保遺跡、日高遺跡群は近接した位置



第2章 遺跡の環境

にある。同時期の遺物のあり方等から考え、日高遺跡群を除き、同一の周溝墓群の可能性もあることを追及する必要性が生じてきている。他に西島遺跡群などで周溝墓が検出されている。また、本遺跡や新保遺跡、日高遺跡群、宿大類村西遺跡等で土器館を埋葬施設にもつ墓がみつまっている。

古墳時代 本遺跡内には古墳を除き、数多くの遺跡が検出されている。主な遺構として畠、周溝墓(前方後方形)、水田、集落、溝などをあげることができる。古墳時代前期には畠や住居跡、水田、溝等が検出されているが、6世紀前半のHr-FA堆積後は集落跡の検出となる。古墳時代前期の遺構では方形周溝墓が検出されており、主な遺跡として貝沢柳町、上大類北宅地、宿大類村西、矢島竹之内、新保遺跡などをあげることができる。また、村前五反田、西島遺跡群Ⅱ、西島上新保、西島遺跡群、新保遺跡などからHr-FA下で小区画水田などが検出されており、6世紀前半以前に水田耕作地化が進んでいたことがわかる。

古墳は井野川流域に位置している。前方後円墳の五霊神社古墳をはじめ、いくつかの円墳が存在する。下流域には前方後方墳の將軍塚古墳が位置する。

集落は前期と後期では場所により大きく様相を変える。本遺跡でも古墳時代前期の集落の上に畠跡、水田跡がHr-FA埋没下にある。染谷川左岸の当地はHr-FA降下直後の洪水の影響を受け、水田耕作は不可能となったことが遺跡内の堆積土から判断できる。洪水の厚い(60cm前後)堆積層以降は古墳時代後期から、奈良・平安時代の集落へと変遷をたどることができる。古墳時代になると、数多くの集落が遺跡地名表のように分布(図9)するようになる。

奈良・平安時代 古墳時代に降下したHr-FAと洪水層の堆積以降の地形は、現在の地形の形状と一致するところが多くなる。発掘調査の結果から得られた多くの遺跡に、As-B下水田跡と集落跡がある。

水田は古墳時代の水田跡と同じ運地をとるところと、後背湿地を広く耕作地として使う場所が目立つ。本遺跡ではAs-B降下による水路の埋没状況を確認

できた。水路は旧染谷川の上流から平坦地を長い距離を利用してつくられたと考えられる。周辺遺跡の報告でも、溝の検出が多く、同様に考えられるものもある。

集落は自然堤防上や微高地上にあることが多い。また、本遺跡から出土した国分寺瓦や、掘立柱建物遺構・日高遺跡群で指摘のある条里遺構や北側約2.5kmに推定地をもつ国府等の関連遺跡についても、地形発達や地形利用を追求し、今後この地域の歴史的環境の復原を行うことが必要である。(相京)

周辺の遺跡地名表

No.	遺跡名・所在地	時代	遺構の種類
1	藤塚 ¹⁾ 高崎市新保町藤塚	平	水路状遺構、溝
2	地蔵前 ²⁾ 前橋市川曲町地蔵前485	平	水田畦畔、溝
3	前箱田 ³⁾ 前橋市前箱田396	平	水田跡、耕作状遺構
4	貝沢柳町 ⁴⁾ 高崎市貝沢町字柳町内1400	古 平 近	方形周溝墓、埴輪棺 集落跡 集石遺構
5	幸島 ⁵⁾ 前橋市古市町1丁目43	古	集落跡
6	箱田 ⁶⁾ 前橋市箱田町箱田地420	平	水田跡
7	藤島 ⁷⁾ 前橋市江田町279-1	平	水田跡、条里
8	村前 ⁸⁾ 前橋市箱田町字村前1471-2	古・平	水田跡
9	五反田 ⁹⁾ 前橋市箱田町1009-1	古・平	水田跡
10	上大類北宅地 ¹⁰⁾ 高崎市上大類町字北宅地	弥 古 奈・平	集落跡 集落跡、方形周溝墓 廻廊
11	天田・川神 ¹¹⁾ 高崎市上大類町天田 高崎市上大類町川神	弥 古 奈・平 中 中・近	遺物散布地、遺構 集落跡 集落跡、細砂、集落跡 水田跡 畠地群 土坑墓

2 周辺の遺跡分布

No.	遺跡名・所在地	時 代	遺構の種類
12	上大類(兼跡) ¹² 高崎市上大類町薬師	弥一平 古 奈・平	遺物散布地 住居跡 住居跡
13	西高遺跡群Ⅱ ¹³ 高崎市新保町字塚越 高崎市島野町字高尾田 高崎市新保境 高崎市行人塚 高崎市新保 高崎市島野町字花王寺 高崎市西島町字祖之沢	古 奈・平	水田跡 水跡跡
14	西島(花王寺・関ノ沢・中沖 北沖) ¹⁴ 高崎市島野町字花王寺 高崎市西島町字関ノ沢 高崎市中沖 高崎市北沖	奈・平	住居跡、象墓
15	西島(諏訪) ¹⁵ 高崎市西島町字諏訪		板碑、石臼、五輪塔
16	西島(上新保) ¹⁶ 高崎市新保町字田中前	弥古 古	周溝墓 水田跡、住居跡
17	西島(祖之沢) ¹⁷ 高崎市西島町祖之沢 高崎市新保町字山王権	弥・古 平 中	住居跡 水田跡 溝、井戸跡
18	西高遺跡群 ¹⁸ 高崎市新保町702	弥古 奈・平	周溝墓 水田跡 住居跡
19	榮崎遺跡群(Ⅱ) ¹⁹ 東原・富士塚・富士塚前B 高崎市榮崎町字東原 高崎市下大類町字富士塚 高崎市下大類町字富士塚前	奈・平	水田跡、水跡跡
20	新保 ²⁰⁻²¹⁻²² 高崎市新保町 高崎市新保田中町	弥・古 奈・平	大溝 掘立柱建物跡 集落跡、屋敷跡
21	經沢 ²¹ 高崎市日高町	古 奈・平	井戸跡、集落跡 集落跡、溝
22	日高遺跡群 ²³⁻²⁵⁻²⁶⁻²⁷⁻²⁸ 高崎市日高町小字村西 高崎市日高町小字村前 高崎市日高町中瀬浜 高崎市中尾町村東	弥	水田跡、住居跡 溝、方形周溝墓
23	中尾 ²⁸ 高崎市中尾町	奈・平	集落跡

No.	遺跡名・所在地	時 代	遺構の種類
24	宿大類山島 ²⁹ 高崎市宿大類町字山島	中	掘立柱建物跡 井戸跡
25	宿大類天神 ²⁹ 高崎市宿大類町字天神	縄 奈・平	遺構 墓跡、掘立柱建物跡 水田跡、悪香土器 銅製土器
26	宿大類村西 ³⁰ 高崎市宿大類町字村西	弥 古 奈・平 中	住居跡、倉庫 住居跡、方形周溝墓 住居跡 堀跡、井戸跡
27	島羽 ³¹⁻³² 前橋市島羽町 ↓ 群馬郡群馬町大字塚田	古代～ 中 奈・平	鍛冶跡、井戸跡 墓跡 掘立柱建物跡、墓跡 欄干遺構、井戸跡 溝
28	宿大類沼尻天田地区 ³³ 高崎市宿大類町	奈・平 中	住居跡、水田跡 館跡
29	宿大類遺跡群 ³⁴ 高崎市大類町村北	奈・平 中	象墓新水田跡 掘立柱建物跡 住居跡 館跡
30	矢島村西増殿 ³⁵ 高崎市矢島町字村西増殿	古 中	住居跡 掘立柱建物跡 欄干跡、井戸跡
31	矢島竹之内 ³⁵ 高崎市矢島町字竹之内	弥古 奈・平	住居跡 方形周溝墓 水田跡、溝、住居跡
32	日高遺跡群日高クリニック団 地内 ³⁶ 高崎市中尾町886-1	古・平	水田跡
33	京日中浜 ³⁷ 高崎市島野町字中浜1091-1	奈・平	水田跡
34	京日 ³⁸ 高崎市京日町作道1678	奈・平	象墓水田跡
35	京日作道 ³⁹ 高崎市京日町作道	奈・平	水田跡
36	万相寺 ⁴⁰ 高崎市宿大類町万相寺	縄 弥 古 奈・平	住居跡、土坑 住居跡 溝、住居跡 水田跡
37	矢島前 ³⁴	平	水田跡
38	村東 ³⁴	平	住居跡、水田跡

第2章 遺跡の環境

No.	遺跡名・所在地	時代	遺構の種類
39	天神久保 ⁴⁴ 高崎市宿大瀬町字天神久保 584他	縄 平	包蔵地 住居跡、水田跡
40	久島町村西 ⁴² 高崎市小八木町並貝戸	弥 古一平	住居跡、水田跡 住居跡
41	音谷 ⁴³ 群馬町大字音谷字石塚2428他	弥	包蔵地
42	井野天神 高崎市井野町天神227	古	祭祀跡
43	五雲神社 高崎市貝沢町井野前332	古	墳墓
44	井野前土師 高崎市貝沢町井野前330 332～334	古	包蔵地、集落跡
45	上日高町山貝戸	弥	包蔵地、集落跡 住居跡
46	唐橋稲荷坂古墳 高崎市上大瀬町北宅地1242	古	墳墓
47	元島名 ⁴⁴ 高崎市元島名町字神明1304他	縄・古 中	包蔵地、集落跡 城
48	鈴ノ宮 ⁴⁵ 高崎市矢島町鈴ノ宮186、219	弥・古 古 平	住居跡、方形埴溝墓 古墳 住居跡
49	元島名内出跡 高崎市元島名町中内出 325～353	近	城郭跡
50	井野岡貝戸 高崎市井野町岡貝戸144	古	住居跡
51	新井屋敷 高崎市上大瀬北宅地長井屋敷 1219～1229	安・桃	城郭跡
52	高崎市上大瀬町北宅地1250 1253・1256	弥	包蔵地
53	高崎市新保町伊勢北	古	水田跡
54	高崎市新保町田勢南	古 奈・平	水田跡 水田跡
55	高崎市井野町岡貝戸 高崎市井野町天神 高崎市井野町天本	古	包蔵地

No.	遺跡名・所在地	時代	遺構の種類
56	高崎市井野町吉岡1273 榎松延次郎宅	鎌	墳墓
57	高崎市井野町井野団地	弥	包蔵地
58	高崎市井野町かわらけ屋敷 岡貝戸	縄	包蔵地
59	高崎市井野町岡貝戸	縄一古	包蔵地
60	高崎市貝沢町井野前	古	墳墓
61	高崎市井野町吉岡1233	古	墳墓
62	高崎市井野町稲荷891	古	墳墓
63	前橋市烏羽町弥助山	古	包蔵地
64	高崎市上大瀬町天田151	縄	包蔵地
65	高崎市中大瀬御所の島240 241・244	弥	包蔵地
66	前橋市烏羽町弥助山	古	包蔵地
67	高崎市中大瀬御所の宮甲246 甲247	古	包蔵地
68	正観寺遺跡群 ⁴⁶ 高崎市正観寺	弥 奈・平 古	住居跡 住居跡・水田跡 掘立柱建物跡 住居跡

注

- 1 西高遺跡群(Ⅰ) 藤原遺跡 高崎市文化財調査報告書第54集 昭和59年3月31日 高崎市教育委員会
- 2 地蔵前遺跡 昭和63年11月20日 前橋市教育委員会 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 3 前箱田遺跡 昭和58年3月31日 前橋市教育委員会
- 4 貝沢町遺跡 高崎市文化財調査報告書第74集 昭和61年3月 高崎市教育委員会
- 5 赤鳥遺跡 昭和60年2月1日 前橋市教育委員会
- 6 群馬県前橋市箱田遺跡発掘調査報告書 昭和60年3月25日 前橋市教育委員会 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 7 藤呂遺跡(61A16) 昭和62年3月15日 前橋市教育委員会
- 8 昭和60年度文化財調査報告書第16集 昭和61年3月31日 前橋市教育委員会社会教育課
- 9 群馬県前橋市五反田遺跡 昭和62年8月25日 前橋市教育委員会 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 10 上大根北宅地遺跡 高崎市文化財調査報告書第37集 昭和58年3月31日 高崎市教育委員会
- 11 天田・川井遺跡 高崎市文化財調査報告書第41集 昭和58年3月31日 高崎市教育委員会
- 12 上大根遺跡群(重勝遺跡) 昭和60年12月21日 高崎市教育委員会
- 13 西高遺跡群(Ⅱ) 高崎市文化財調査報告書第59集 昭和60年3月 高崎市教育委員会
- 14 西高遺跡群(Ⅲ) 高崎市文化財調査報告書第68集 昭和61年3月19日 高崎市教育委員会
- 15 西高遺跡群(Ⅳ) 現地説明会資料 昭和61年9月6日 高崎市教育委員会
- 16 西島(高誌上新保)遺跡 第5号埋められた古代の高崎-昭和61年度埋蔵文化財発掘調査の成果 昭和62年4月 高崎市教育委員会
- 17 西高相ノ沢遺跡 第7号埋められた古代の高崎-昭和63年度埋蔵文化財発掘調査の成果 昭和64年4月 高崎市教育委員会
- 18 西高遺跡 高崎市文化財調査報告書第76集 昭和62年3月 高崎市教育委員会
- 19 柴崎遺跡群(Ⅱ)「東庫・富士塚・富士塚前B遺跡」 高崎市文化財調査報告書第82集 昭和60年3月 高崎市教育委員会
- 20 新保遺跡Ⅰ 関越自動車道(新羽線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 昭和61年3月25日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 21 新保遺跡Ⅱ 軽沢遺跡 関越自動車道(新羽線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集 昭和63年2月28日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 22 新保遺跡Ⅲ 関越自動車道(新羽線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 昭和63年3月 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 23 日高遺跡 関越自動車道(新羽線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 昭和57年3月25日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 24 日高遺跡(Ⅰ) 高崎市文化財調査報告書第10集 昭和54年3月 高崎市教育委員会
- 25 日高遺跡(Ⅱ) 高崎市文化財調査報告書第17集 昭和55年3月 高崎市教育委員会
- 26 日高遺跡発掘調査報告書(Ⅲ) 高崎市文化財調査報告書第20集 昭和56年3月28日 高崎市教育委員会
- 27 日高遺跡(Ⅳ) 高崎市文化財調査報告書第34集 昭和57年3月31日 高崎市教育委員会
- 28 中尾遺跡 関越自動車道(新幹線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第6集 昭和58年3月31日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 29 山島・天神遺跡 高崎市文化財調査報告書第56集 昭和59年3月31日 高崎市教育委員会
- 30 宿大願遺跡群Ⅲ 矢島町村西・増殿遺跡 高崎市文化財調査報告書第71集 昭和61年3月31日 高崎市教育委員会
- 31 鳥羽遺跡G・Ⅱ・I区 関越自動車道(新羽線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 昭和61年10月30日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 32 鳥羽遺跡I・J・K区 関越自動車道(新幹線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集 昭和63年3月30日 群馬県教育委員会(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 33 宿大願遺跡群Ⅱ 天田遺跡 高崎市文化財調査報告書第48集 昭和59年3月31日 高崎市教育委員会
- 34 宿大願遺跡群Ⅳ 村北・矢島前・村東遺跡 高崎市文化財調査報告書第61集 昭和60年3月31日 高崎市教育委員会
- 35 矢島竹之内遺跡 高崎市文化財調査報告書第86集 昭和63年3月20日 高崎市教育委員会
- 36 日高遺跡群日高ケリニック用地内遺跡 年報2 昭和58年9月30日(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 37 年報7 平成元年1月31日(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 38 年報5 昭和61年10月15日(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 39 京日作道遺跡 昭和61年3月31日 高崎工業団地造成組合
- 40 宿大願遺跡群Ⅰ 万相寺遺跡 高崎市文化財調査報告書第66集 昭和60年12月25日 高崎市教育委員会
- 41 宿大願遺跡群Ⅴ 天神久保遺跡 高崎市文化財調査報告書第64集 昭和60年3月30日
- 42 小八木釜貝戸 高崎市文化財調査報告書第25集 昭和56年3月 高崎市教育委員会
- 43 菅谷遺跡発掘調査報告書 群馬県埋蔵文化財調査報告書第2集 昭和55年3月31日 群馬県群馬町教育委員会
- 44 元島名遺跡 高崎市文化財調査報告書第6集 昭和54年3月31日 高崎市教育委員会
- 45 鈴ノ宮遺跡 高崎市文化財調査報告書第4集 昭和53年3月31日 高崎市教育委員会
- 46 正観寺遺跡群Ⅲ 高崎市文化財調査報告書第21集 昭和56年3月 高崎市教育委員会

参考文献

- 全国遺跡地図 群馬県 昭和52年3月25日 文化庁文化財保護部
群馬県遺跡地図 昭和48年3月31日 群馬県教育委員会

3. 科学分析の目的

本遺跡の調査では、考古遺物だけでなく、古環境を復原する上で重要な資料を得ることができた。これらの総合化を通して、地域の原始・古代が明らかになると思われる。その基礎作業として、以下の分析を行った。なお、今後の整理作業の進捗にもとまって、さらに分析の内容・種類は変化するものと考えられる。

1) 年代測定

¹⁴C年代測定 第5次調査D区で検出された2号河川跡の河道ごとの年代を求めることにした。資料点数は4点で、3点は旧河道内、1点は東に接する集落をのせる低台地を形成する砂層内の資料である。遺跡内でのサンプリングは材化石と泥炭質土塊各2点ずつを使用することとした。

2) 古環境関連

種子同定 2号河川跡調査時点で種子類の出土があった。調査区・出土層位を確認し、資料の取り上げを行った。種類等の同定を行い、環境を知る手掛かりとした。

樹種同定 1・2号河川跡・溝・住居跡等から出土した木製品、木材の取り上げ資料からプレパレート作成を行い、植物組織の分析から樹種同定を行うことにより、木製品における樹種の使用方法等を明らかにしようとした。また自然木や人的な手の加わっていないと判断された樹木からは、本遺跡周辺の植生を知ると同時に、自然環境を知る手掛かりとした。

珪藻分析 珪藻は珪酸質の被殻を有し、堆積土中によく保存され、種によって明瞭な住み分けがみられることなどから、本遺跡周辺、特に資料サンプルとした2号河川跡(旧柴谷川)の水環境を調べようとするものである。なお、資料サンプルを採集するにあたり、2号河川跡内出土の昆虫の種類同定を試みるつもりで採取した、昆虫に付着した土を資料として使用することにした。

3) 動物遺存体

昆虫 2号河川跡調査時に出土した昆虫の種類を同定するにあたり、昆虫の特色などを考慮し、生物の中で最も多い種類数であることや、多様な環境に住み分けること、死後の移動が少ないことなどを考え合わせて、狭い地域での環境を把握できる可能性があることによって試みた。

獣骨類 2号河川跡・土坑からの出土獣骨・角類は450点余りに達した。人的な影響を強く受けたと考えられる資料の出土もあったことから、種類・部位・年令・性別の同定の他に、加工痕や焼骨等の観察も併せて行うことにした。同定結果から、動物の捕獲時期や食糧化する動物の捕獲年令、骨角の利用方法などの手掛かりがつかめるか試みたい。

貝類 1号河川跡から出土した数点の貝は遺存状態が悪い。しかし、解明できると思われる種類・貝殻の残存状況の把握・貝類採取の頻度と季節性・成長速度・殻構成からみた貝類生息環境等の結果が出せれば、本遺跡における環境復原を追求できる手掛かりとなると考えて分析を依頼する。

人骨 人骨の出土状態等と関連付けて墓制を研究することにより、時間的・地域的な文化解明の大きな手掛かりを得ることができる。本遺跡では方形周溝墓等から出土した人骨及び歯の残存状況・形態特徴・年令・性別などの鑑定を試みたものである。

4) 岩石

石器及び石製品 遺跡内における住居跡や旧河川跡出土の石器や、井戸等から出土した石製品や板碑などの石材を同定することにより、石器や石製品の材質の特色から、石材の運搬経路や製品の搬入等を通し、交易圏の追求を試みたものである。

5) 成分分析

ガラス 方形周溝墓等出土のガラス製品の定性分析や分光・分析による成分調査を行うことにより、配合率の変化による産地同定や作成時期の推測を進めるための資料化とした。(相京)

第3章 溝の調査

1. 概要

本遺跡の調査では村前地区で86条、下り柳地区で37条の溝が検出された。これらの溝は、前章で述べたような遺構確認面でそれぞれ確認され、掘削時期の確定できる溝もある。規模や走向の特徴から幾つかの形態に分類でき、機能の推定できるものもある。

村前地区 第一・二次調査区ではAs-B純層が確認された。3、4、11、16号溝は同層をきって掘られており、遺物から近世の遺構と考えられる。これらの溝は幅が広く、東西・南北の直線的な走向を示し、屋敷地区画の堀である可能性が考えられる。11号溝ではK-16グリッドで木製構造物が検出されたが、機能は判然としない。また、As-B層に覆われてあるいは、埋没土中に挟んで検出された1、2、5～9、18、22、25、38号溝は、As-Bが降下した1108年以前に掘削された。これらはほとんど埋没土下層に砂の堆積があり、水路あるいは地割り溝の可能性がある。Ⅱ面（洪水堆積物の上面）で確認したその他の溝はテフラとの関係が不明で、掘削時期も中世から6世紀の榛名山噴火に伴う洪水直後と考えられるものを含んでいる。これらの溝からは遺物も少なく、掘削時期が判然としないものも多い。37号溝はⅡ面で検出したが、出土遺物から中世の溝である可能性が高い。また、34号溝は出土遺物から洪水直後に掘られたものと考えられる。

第三・四次調査区では、埋没土にAs-B純層が堆積していたのは51号溝のみである。これらに重複する52・53号溝は51号溝に後出する溝と考えられる。この他のⅡ面で検出された溝は、出土遺物から古墳時代後期～平安時代に掘削されたと考えられる。

第二次調査区の洪水層下Ⅲ面で検出された42号溝はHr-FAに直接覆われていたが出土遺物はほとんどない。24号溝は底面に砂層が堆積し、その上を

Hr-FAと洪水堆積物が覆っている。走向から第三・四次調査区で検出されたHr-FA直下の水田の水路の可能性が大きい。また、24号溝は1号河川跡から分水されたと考えられる44号溝とほぼトレスしており、継続した用水管理を窺うことができる。

44号溝は、黒色土層下のⅣ面で検出された。K・L-27・28グリッド付近で、1号河川跡からシガラム状の施設によって分水されていたものとみられるが、構造物の詳細は不明である。弥生時代後期から古墳時代中期初頭までの遺物が出土している。また、滑石製の玉類や木器が分水部周辺に集中して出土している。これらの遺物は5章で一括して報告した。

第四次調査Ⅳ面で検出した77・86号溝は弥生時代後期から古墳時代初頭の土器、木製農具や杭が多量に出土した。また、86号溝では、87号溝方向への取水のための堰と考えられる構造物が検出された。

下り柳地区 Ⅰ面（As-B直下）で検出された溝はほとんど同面で検出されたAs-B下水田を切る形で掘削され、As-B降下以降の溝である。そのなかで22～24号溝は埋没土中にAs-Bの純堆積層があり、同テフラ降下以前に掘られた溝である。特に22・24号溝の走向はAs-B下水田のアゼ方向と一致する。

Ⅱ面（Hr-FA直下）で検出された溝は同テフラ直下の水田を切って掘られているものが多く、As-B降下以前Hr-FA降下以降に掘削されたと考えられる。31～33号溝は埋没土上層にHr-FAが認められた溝で6世紀初頭にはすでに埋没しているが、走向はHr-FA下水田横アゼの方向と一致する。

Ⅲ面（As-C直下）の溝は20号溝のみである。As-C下に検出された水田区画を切るように掘られており、掘削時期はAs-C以後、Hr-FA以前である。

Ⅳ面では37号溝を検出した。遺物も少なく掘削時期は不明である。埋没土下層には砂が堆積している。

(小島)

2. 村前地区の溝

3号溝 付図5-1-2, 図10-13, PL5-1-6, PL63, 表F.3

位置 B-F-6・7、F-8-10、G-13・14グリッド

重複 4号溝に先行し、1・2・5・7号溝に後出する。

走向 直線的であるが、途中でほぼ直角に折れる。

規模 幅約4.0m 深さ約1.6m

調査長約20.0m

形状 (傾斜 東端95.17m-南端94.90m)

法面の勾配が緩く、断面形がカマボコ状を呈する。底面は幅0.3-1.0mで凹凸面が少なく、東から西へ向かって緩く傾斜する。

埋没土 中位~下位にラミナ状に堆積した砂層がみられる。

出土遺物 直角に折れ曲がるコーナー付近より、陶磁器と瓦の破片が出土した。No 3・4はほぼ底面に密着して、他は7.0-16.0cm浮いて出土した。

調査所見 南方へ直角に折れ曲がったF-b~F-10グリッドにかけた地点では、調査の工程上、溝の検出をAs-Bの下面で行わざるを得なかったために、その痕跡は消失している。埋没土には砂層が認められることから、流水の存在が想定される。3号溝の走向は、4号溝とともに調査区の東側に位置する現在の屋敷を区画する溝と重複しており、当時の邸宅を区画する溝の可能性が高い。溝の開削年代は出土した陶磁器類からみて、18世紀を下らないと思われる。(石坂)

4号溝 付図5-1-2, 図11-13, PL5-1-6, PL63-64, 表F.3-6

位置 B・C-b・7、D・E-6、F-6-10、F・G-13・14のグリッド

重複 13号井戸に先行し、3号溝に後出する。

走向 3号溝と同様F-6グリッドで直角に折れる。

規模 幅約2.0m 深さ約1.6m-0.78m

調査長42.0m

形状 (傾斜 東端94.42m-南端94.57m)

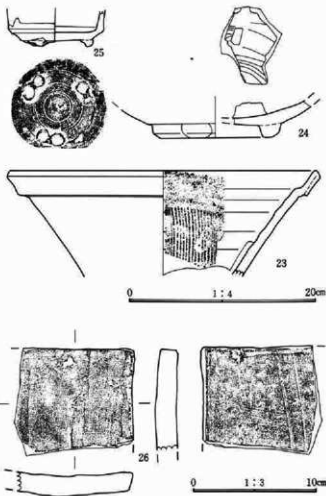


図10 3号溝出土遺物

検出状況の良い東側での断面形は、葉研状を呈する。底面は幅0.2-0.5mで、一定方向への勾配は認められない。

埋没土 大半が粘質の灰褐色土で埋没しているが、最下層にはわずかな砂の堆積が認められる。

出土遺物 埋没土中より、碗を中心とした陶磁器類の破片が出土している。

調査所見 F-6-10、F・G-13・14グリッドにかけた地点では、遺構検出面が低位となったために、底面の痕跡をわずかに確認できた。埋没土最下層のわずかな砂層の存在から、少量ながらも流水があったと判断される。埋没土中から出土している陶磁器類の年代は、18世紀から昭和初期にまでわたっている。これらの遺物から掘削時期を特定することは難

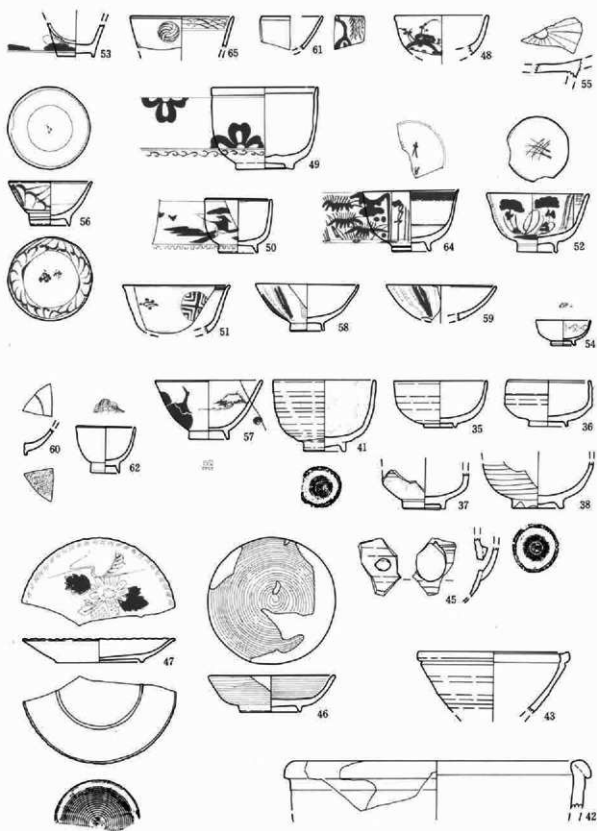


图11 4号清出土遺物(1)

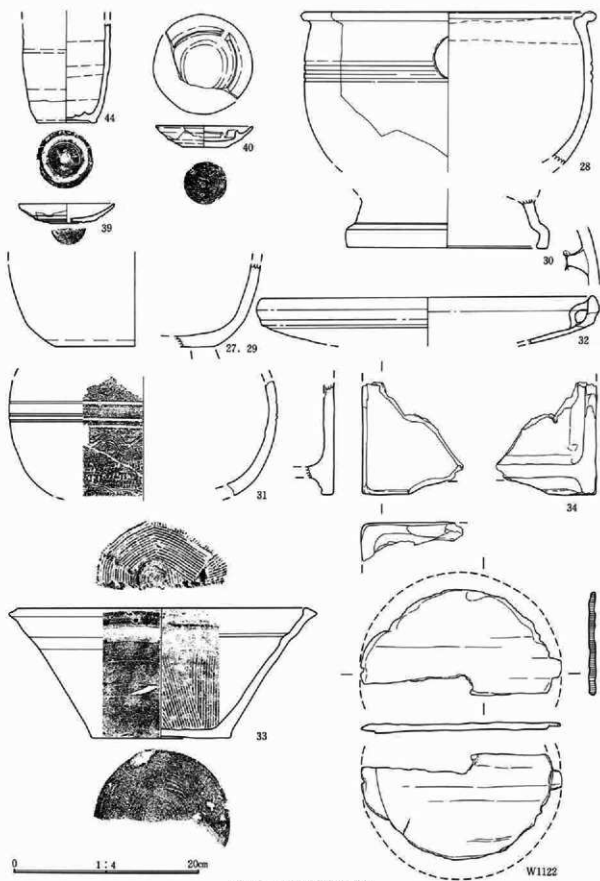
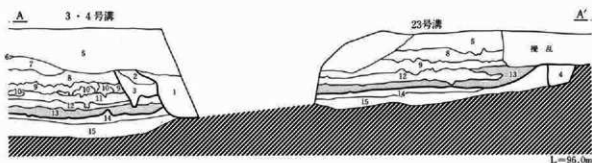


図12 4号清出土遺物(2)



4号溝	1層	灰褐色土	鉄分がところどころに集積している。底部に砂の堆積がみられる。
3号溝	2層	灰褐色土	細砂からなり、流水の影響がみられる。
	3層	灰褐色土	13層に類するが、より細砂からなる。
23号溝	4層	灰褐色土	
堆山	5層	耕作土	細砂。
	6層	暗褐色土	茶色の細砂が、ラミナ状に堆積している。水の影響を受けていると思われる。
	7層	暗褐色土	4層に類するが茶色味を帯びる。
	8層	暗褐色土	灰色土の小ブロックを多く含み、湿土状をなす。黄色の小軽石を含む。
	9層	灰茶色土	灰色土と鉄分集積粒の混土層。ブロック状に砂粒が入っている。
	10層	砂粒のブロック	砂とともにAs-Bも含まれているようである。
	11層	灰色土	細砂で、水による堆積と考えられる。
	12層	As-Bの灰層と	考えられるが、上層は黒色味を帯びている。
	13層	As-B純堆積層	
	14層	黒色土	非常に粘性が強い。
	15層	灰色土	やや青味がかっている。粘性が強い。12層の下に、黄白色の粘質土になる部分と、この土層の下の茶色の砂礫層の部分とがあるが、いずれの部分でもAs-C層は確認できなかった。

図13 3号・4号・23号溝土層断面

0 1:60 4m

しいが、重複関係にある17-18世紀代の3号溝に後出することや、出土遺物が18世紀代のものを最古とすることなどからみて、おそらく18世紀代に掘削され、昭和初期の段階にまで埋没しきらずに、溝としての形状をとどめていたものと判断される。(石坂)

11号溝よりは後出と考えられる。

走向 東西方向のものである。

規模 幅2.0m-2.2m 深さ0.23m-0.72m

調査長6.5m

10号溝 付図5-2, 図14-15, PL5-7, PL64, 表P.6

位置 E-14・15, F・G-14・15グリッド

重複 9・11・23号の各溝と重複する。埋没土で確認できなかったため判然としない点が多いが、9・

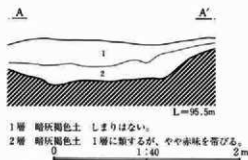


図14 10号溝

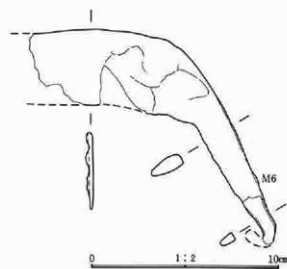


図15 10号溝出土遺物

第3章 溝の調査

形状 (傾斜 北端94.89m-西端94.80m)

東端は調査区域外に延びている。西端も近年の用水路掘削時に攪乱を受け、走向が判然としない。北に走向を変え、3号溝あるいは4号溝に継続する可能性が高い。また、11号溝の北側、G-15グリッドに浅い落ち込みがあるがこれに続くことも考えられる。残存部分での断面形状は法面の傾斜が非常に緩やかで、底面の幅も1.2mと広いものであった。

埋没土 図示したとおり、暗灰褐色土により埋没している。

出土遺物 鉄製の鎌図15(M6)が埋没土中から出土している。

調査所見 流水のあった可能性は少ない。掘削時期についても確定できない。(徳江)

11号溝 付図5-2,図16-24,PL6-1-5,PL64-68,表P.6-10

位置 E-G-15・16、H-16グリッド

重複 9号溝に後出、10・15号溝、25号井戸に先行すると考えられる。23号溝とも重複する可能性があるが判然としない。

走向 東西方向の溝である。15号溝との重複部分で北に走向を変えていると思われるが後世の攪乱を受けている。西端は調査区域外に延びている。

規模 幅1.1m-2.2m 深さ0.41m-1.14m

調査長17.0m

形状 (傾斜 北端94.92m-南端94.06m)

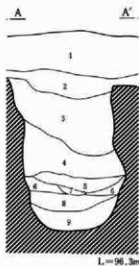
底面は9号溝の西側で比高差50cm程の段をなしている。西端部分の壁面は中位の一部分が崩壊してえぐれているが、原形はほぼ直立に掘り込まれたものと思われる。底面も平坦で、西側に向けて低くなっている。残存壁高は約1.3mである。これに対して、高位部分の断面形は、上位にやや開放する箱形を呈し、残存壁高も0.45-0.55mと低いものである。

低位部分の底面には北壁際に4箇所(ビット1-4)、南壁際に1箇所(ビット5)、小ビットが穿たれ、それぞれには杭が据えられていたと考えられるが5箇所での残存が確認できた。ビット6・7は1-5と比較して大きな掘り込みで、人頭大の礫が置か

れていた。ビット20は、その他のビットと異なり壁面の中位に掘り込まれた長円形のビットである。高位部分の底面にも5箇所、12本の浅い掘り込みの小ビットが検出された。ビット8-12とビット13-16は幅10cmの筋状の掘り込みをはさんで対置している。ビット17は底面の中央に、ビット18と19は南北それぞれの壁際にあり、底面をはさんで対応する位置関係にある。

埋没土 西端での埋没状態は図示したとおりである。概略的には、上位に暗褐色土あるいは暗灰褐色土が堆積し、それと壁面の崩落した土が混土状態をなしていた。中位から下位にも壁面が崩落した土が堆積している。

出土遺物 高位部分では、ビット14に近接した底面から灰陶器(85)の破片が、また、埋没土中から陶器(84)が出土している。その他容器としては漆塗り木製桶578が低位部分から出土している。



- 1層 耕作土。
- 2層 耕作土と3層の混土層。
- 3層 暗灰褐色土と黄白色土の混土層。壁からの崩落と考えられる。黒色の粘質土の小ブロックが入りこむ。
- 4層 暗褐色土 灰白色の軽石をまばらに含む。あまりしりはない。
- 5層 灰白色土を主体とした4層との混土層。
- 6層 灰白色土 壁が崩落したもの。褐色土も含む。
- 7層 暗褐色土 壁が崩落したもの。青味がある。
- 8層 暗灰褐色土 黄灰白色土のブロックを含む。
- 9層 黄灰白色土 壁と同様の土が入りこんでいる。しりはない。

0 1:40 2m

図16 11号溝土層断面

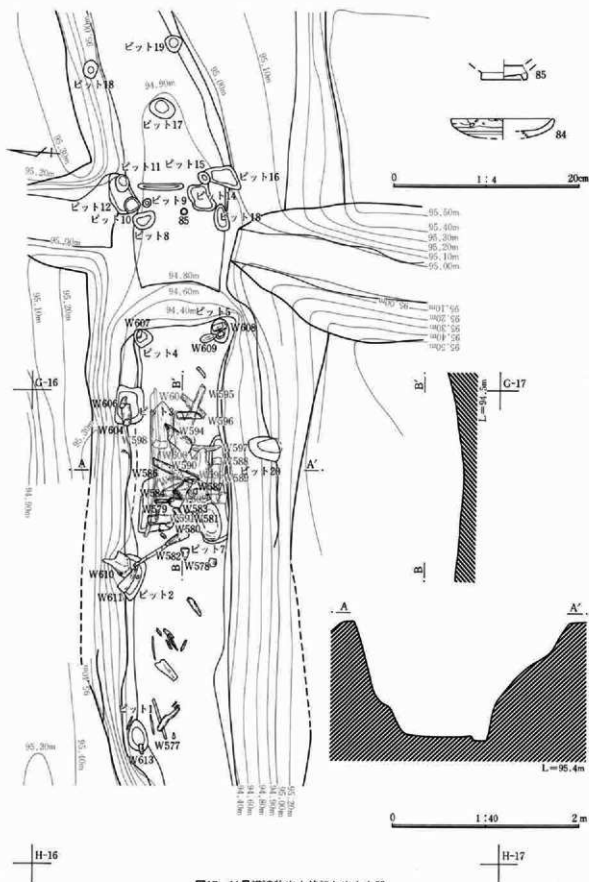


図17 11号溝遺物出土状態と出土土器

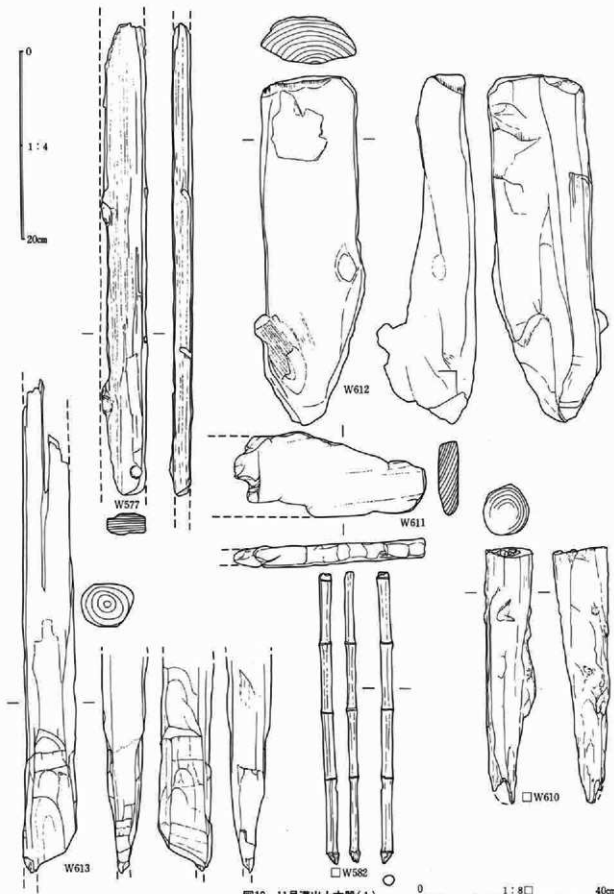


図18 11号溝出土木器(1)

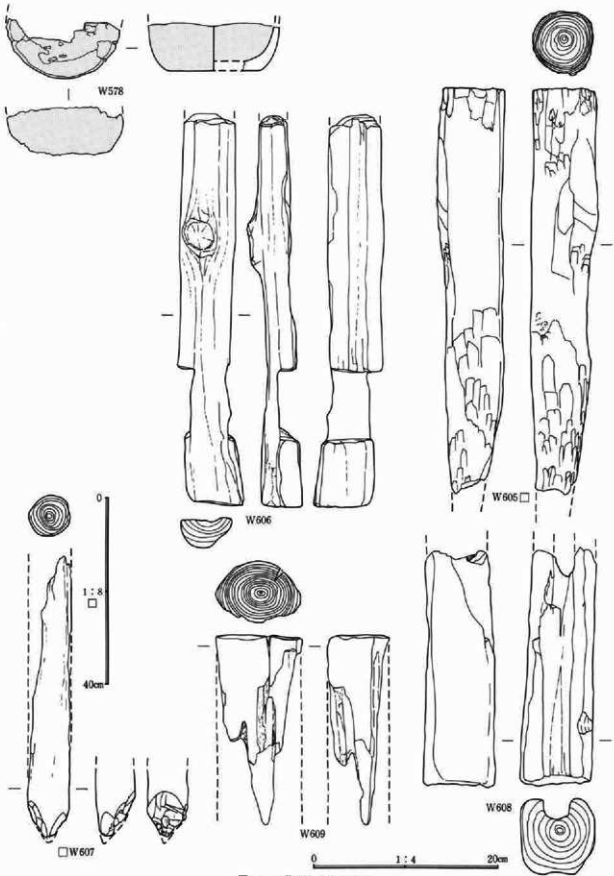


図19 11号溝出土木器(2)

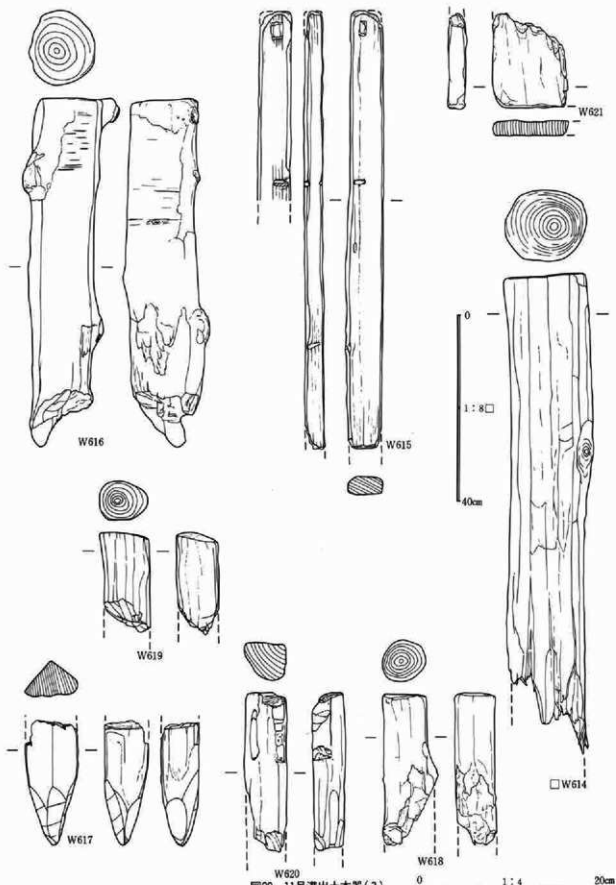


図20 11号溝出土木器(3)

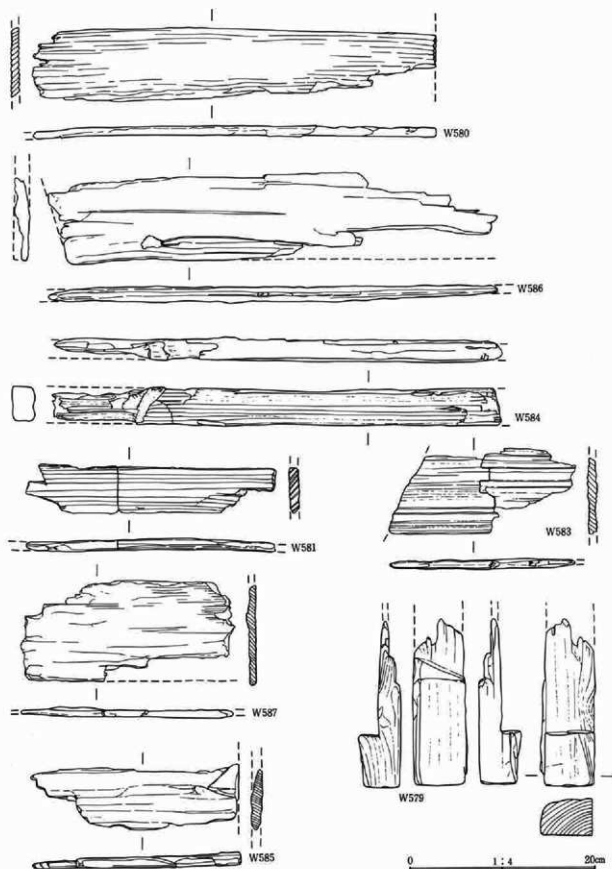


図21 11号溝出土木器(4)

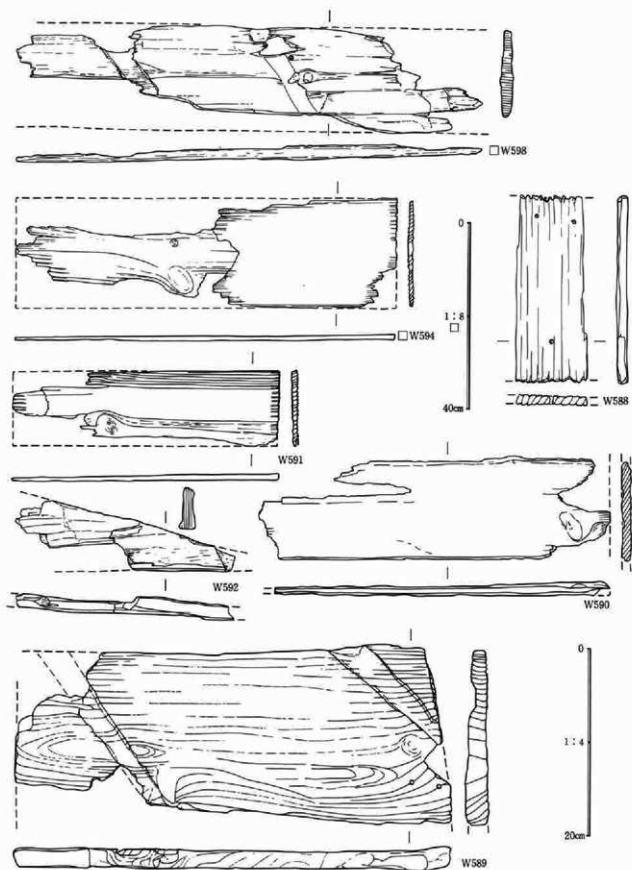


図22 11号溝出土木器(5)

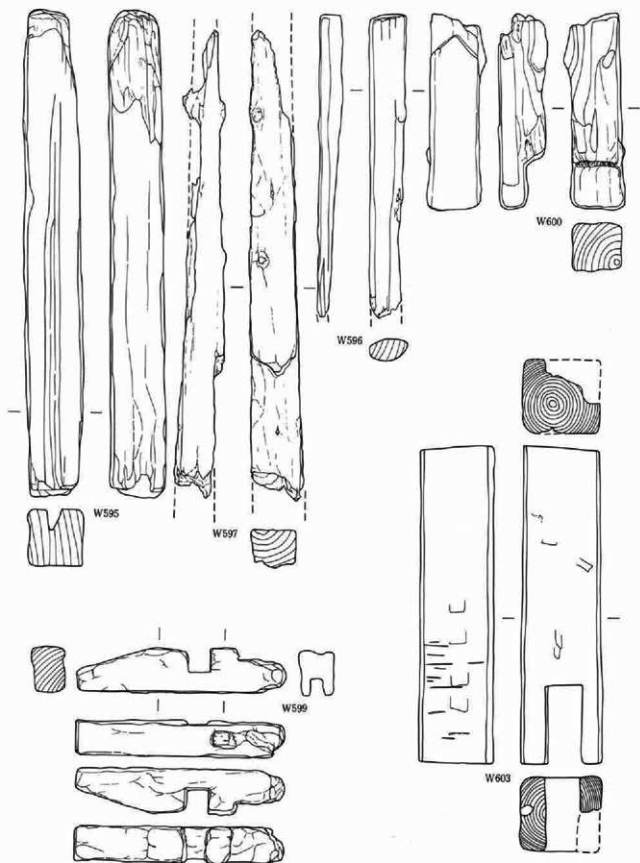


图23 11号溝出土木器(6)

0 1:4 20cm

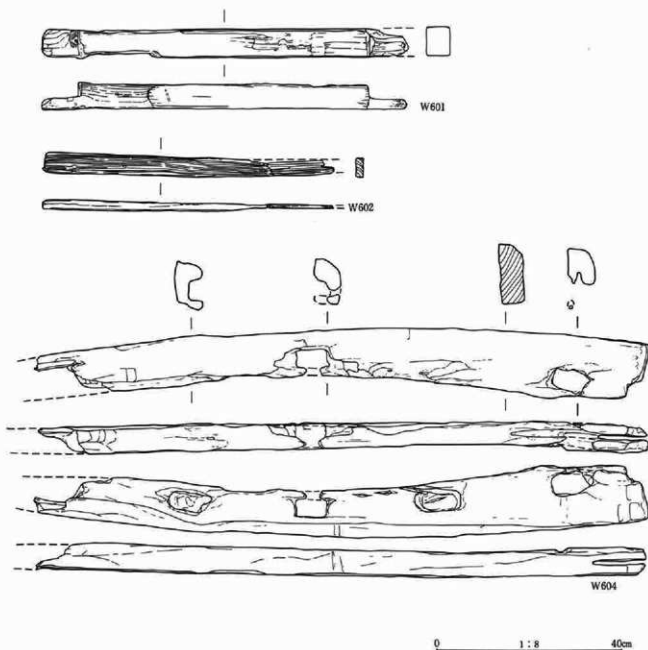


図24 11号溝出土木器(7)

低位部分からは木製品あるいは木片が大量に出土した。その多くはピット2と3の南側の底面からの出土である。板状の製品が3枚(591・594・598)、その下にこれらと同方向で納穴のある角棒状の製品(604)、それと接して、直交する棒状製品(602)をはじめ、その他繰り込みや切り込みのある製品がみられた。

調査所見 調査時の出水も影響し、埋没土の観察が

らは流水の有無は確定できなかった。ただし、木製品の残存状態からすれば、高位部分と同レベルまでは常に帯水あるいはそれに近い状態にあったと考えられる。掘削時期は、断定できかねるが、18世紀と考えられる陶器の年代観あるいは漆塗り椀に付与される年代観が参考になる。(徳江)

27号溝 付図5-2, 図25, PL6-6, PL-64, 表P.10

位置 G-14・15、H-15・16グリッド

重複 11号溝より後出である。

走向 南北方向に延びるが、H-16グリッドで西に走向を変え、やや丸みをもつ隅を形成している。

規模 幅0.6m～1.1m 深さ12.9m～36.5m

調査長14.0m

形状 (傾斜 南端95.33m-北端95.11m)

確認面での幅が著しく異なっている。H-15グリッド部分では法面が緩やかに立ち上がる断面形を呈している。

埋没土 やや茶色みのある黄灰色土が堆積していた。色調は部分的に黄色み、茶色みの強いところがあった。

調査所見 残存状況は極めて悪く、北端はさらに北方向に延びていたと思われる。流水の可能性は少ない。掘削時期は確定できない。(徳江)

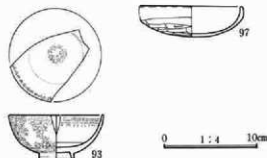


図25 27号溝出土遺物

28号溝 付図5-2

位置 G-16～19グリッド

重複 16・18号溝に後出する。

走向 南北方向に延びる。

規模 幅0.5m～1.9m 深さ0.12m～0.16m

調査長15.0m

形状 (傾斜 北端95.5m-南端95.46m)

16号溝の南北で幅が著しく異なるが同一遺構と考えた。16号溝の南で幅が広く、法面の立ち上がり緩やかで、断面形は浅いレンズ状を呈していた。

埋没土 やや茶色みを帯びる黄灰色土が堆積しており、26号・27号溝と類似している。

出土遺物 なし。

調査所見 南北の両端は判然としない。埋没土の状況から流水はなかったと思われる。掘削時期は確定できない。(徳江)

29号溝 付図5-3, 図26, PL6-7, PL64, 表P.10-11

位置 J-23・24、K・L-23～25グリッド

重複 31号・32号溝に後出する。

走向 ほほ東西方向の溝で、南側にやや膨らむ。

規模 幅5.2m～8.6m 深さ1.52m～1.61m

調査長11.0m

形状 (傾斜 東端94.05m-西端93.98m)

断面はV字形を呈する。掘り込みはしっかりしている。

埋没土 全体的に粘質な土で埋まっている。

出土遺物 焙烙の他、陶磁器が3点出土しているが、埋没土中からの検出であり、時期を示す資料とは言えない。

調査所見 溝の掘削は定形化したものであり、流水の可能性は明らかではない。周辺との関連は不明であるが、地割り、施設等の一部と考えられる。掘削時期は近世以降であると考えられる。(友廣)

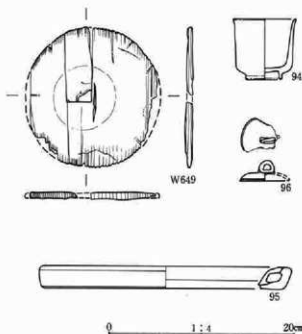


図26 29号溝出土遺物

第3章 溝の調査

16号溝 付図5-2-3、図27-37、PL8-2-4-6、PL70、表P.11

位置 F-H-17・18、I-17-20、J-20-23、K-23グリッド

重複 9号・18号溝に後出し、13-15号・17号・29号溝に先行している。21号・22号の各井戸とも重複している。

走向 F-18グリッドから15mはほぼ直線的に西進するがI-17グリッドで角と成り、南に屈曲し、走向を南北方向に変えている。

規模・形状

北溝 幅1.5m～2.6m 深さ0.41m～0.71m
調査長15.0m

(傾斜 東端94.96m-西端94.89m)

西溝 幅1.4m～2.3m 深さ0.27m～0.62m
調査長31.0m

(傾斜 北端94.96m-南端94.95m)

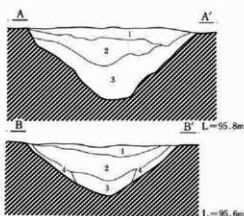
北西角は外縁が直角に近い形状である。これに対し、内縁はやや丸みを持って変換している。H-18グリッド周辺や、南端の29号溝と重複する部分の周辺の幅がやや広がるほかはほぼ一定の幅を保持している。断面形は上位に大きく開放し、法面が緩やかに立ち上がるもので、底面の幅は狭く平坦である。東西方向では法面の中位からやや下位に弱い稜がみられるがこの形状が原形に近いものと思われる。

埋没土 暗褐色土と暗茶褐色土が堆積している。

出土遺物 北西隅部分の埋没土の下位から石臼の破片(S29)が出土している。また、埋没土中から播鉢の破片(82)や瓦、土師器杯片(83)等が出土している。

調査所見 流水の可能性は少ないと考えられる。部分的な検出のため断定できないが、本遺構は、屋敷あるいはこれに類する居住域の北辺あるいは西辺を区画する空堀であったと考えられる。東端は調査区域外に及んでいるが、南端は29号溝以南では検出できず、29号溝はこの区画の南辺の溝に走向をトレースして掘削されている可能性もある。

掘削時期は断定できないが、石臼をはじめとした出土遺物の年代説が参考になる。(徳江)



- 1層 明茶褐色土 耕作土。
- 2層 茶褐色土 しまりは強い。Aa-Bは含まない。
- 3層 暗茶褐色土 Aa-Bは含まない。粘性はある。
- 4層 暗茶褐色土 3層よりも粘性がある。しまりは弱い。

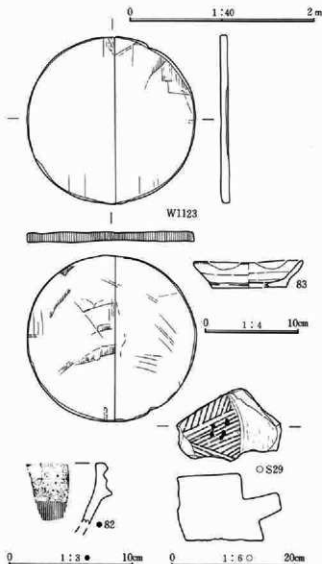


図27 16号溝上層断面と出土遺物

1号溝 付05-1,0028・29,PL7-1・2

位置 A-0、B-0-2、C-2-8グリッド

重複 4号溝、10号・12号井戸に先行する。

走向 台地の縁辺に沿って蛇行しながら南走する。

規模 幅0.55m-2.0m 深さ0.12m-0.35m

調査長44.5m

形状 (傾斜 北東端95.49m-南東端95.47m)

付図5-1(スミ線)及び写真図版7はAs-Bを除去した段階のものであり、図28のA-A'の断面図のように、部分的には底面より20cm下位に掘り方をもつ箇所もある。断面形はU字状を呈し、底面は幅0.2-0.4mである。C-6グリッド付近が95.60mで最高位となり、南北両端に向かってわずかな勾配がみられる。

埋没土 最上層にAs-Bの純層が堆積し、中位-下位には黒色の粘質土が堆積する。

出土遺物 小片が1片出土したのみである。

調査所見 調査期間の都合上、2箇所のトレンチ断

面でのみ、溝の掘り方を確認した。埋没土からは、顕著な流水の痕跡を認めることはできない。掘削時期については伴出遺物がないために確定できないが、上層に堆積したAs-Bの年代から、少なくとも1108年以前であることは明らかである。(石坂)

2号溝 付05-1,0029・30,PL7-1-3,PL69,表P.11-12

位置 C-2・3・8・9、D-2-11グリッド

重複 4号溝、13号・14号・15号井戸に先行し、1号・7号溝に後出。

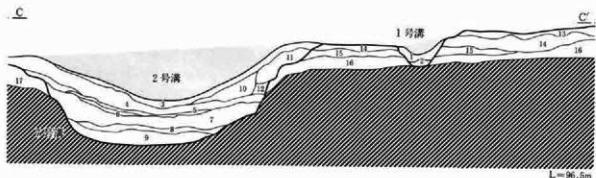
走向 1号溝とほぼ平行した走向である。

規模 幅1.5m-4.5m 深さ0.25m-0.91m

調査長44.0m

形状 (傾斜 北東端95.3m-南端95.03m)

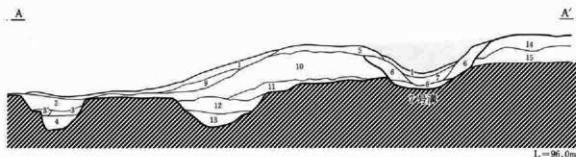
緩やかな法面をもち、断面形は北半部では弧状を、南半部では逆台形状を呈する。底面はグリッド6ライン上の位置で標高94.8mと最も低くなるが、全体的には北側から南側への緩やかな勾配がみられる。また底面及び法面には直径5cm未満の小穴が無数に



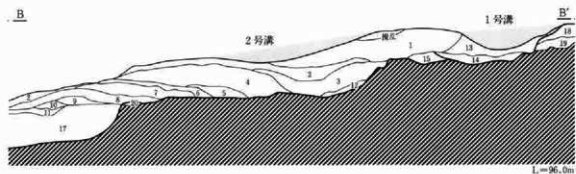
1号溝	1層	黒色土	軽石をまばらに含む。粘性がある。鉄分集積が著しい。			
	2層	黒色土	1層に類するが、軽石を多く含む黒色味も薄れる。鉄分集積が著しい。			
7号溝	3層	黒色土	軽石を含まず、粘性が強い。3層の直下には、砂粒がラミナ状に堆積している。			
	4層	暗灰褐色土	鉄分集積が著しい。3層より粘性が弱くなる。			
	5層	暗灰褐色土	灰白色土小ブロックをまばらに含む。			
	6層	暗褐色土	やや粘性がある。			
	7層	暗灰褐色土	4層に比して砂粒などの混入物が多く、細かく分層することも可能である。左隣には4層がブロック状に入りこんでいる。中央部上層には、6層と同様の土粒がラミナ状に没打って混入し、暗褐色土層と混土状を呈している。その下には、砂粒がやや含まれている。水が流れていたことを証明している。			
	8層	暗灰褐色土	7層に比して色調は黒くなる。混入物は少ない。			
	9層	暗灰褐色土	中央部を中心に、砂粒を多く含む。砂粒は鉄分を集積し、赤褐色を帯びる。			
	10層	暗灰褐色土	4層に類するが、粘性はやや弱い。			
	11層	暗灰褐色土	As-Cをまばらに含む。	地山	13層	As-C混じり黒色土
	12層	暗灰褐色土	17層の小粒をまばらに含む。		14層	黒色粘質土
					15層	13層と16層の漸移層
					16層	黒色土
					17層	黄褐色粘質土

図28 1号・7号溝土層断面

第3章 溝の調査



- | | | |
|-----|---------------------|---|
| 1層 | 黒色土 | 軽石は含まれず、粘性が強い。白色軽石をまばらに含む。 |
| 2層 | 暗灰色土 | 上層ほど粘性が強い。鉄分集積がみられる。As-Cを極少量含む。 |
| 3層 | 暗灰色土 | やや灰色味が強く、明るい。 |
| 3層 | 地山が、ブロック状に混入。 | |
| 4層 | 暗灰色土 | 細砂の層。上～下位まで同様の粒子である。 |
| 5層 | 暗灰色土 | 5層よりしまっており、やや粘性化している。軽石も5層に比して多い。 |
| 6層 | 暗灰色土 | 砂質。標名山起源の軽石・As-Cをまばらに含む。 |
| 7層 | 黒色土 | 粘性が強く、しまりがある。標名山起源の軽石・As-Cをまばらに含む。 |
| 8層 | 暗灰色土 | 砂質。 |
| 9層 | 暗灰色土 | 5層がやや粘性化したもの。黒味もやや強くなる。 |
| 10層 | 暗灰色土 | 砂質で、あまりしまりは無い。As-C・標名山起源の軽石を極少量、まばらに含む。 |
| 11層 | 暗灰色土と黄灰色土の小ブロックの混層。 | |
| 12層 | 暗灰色土 | 細砂を主体とした粘質土との混層。 |
| 13層 | 暗灰色土 | 粘質土を主体とした細砂との混層。 |
| 地山 | 14層 | 黒色粘質土 |
| | 15層 | 黒色土 |



- | | | |
|-----|------------|---|
| 1層 | 灰褐色土 | やや粘性をもつ土で、Hr-FAのブロックを多量に含む(水田造成時の盛土の可能性もある)。標名山起源の軽石を少量含む。鉄分の集積がある。 |
| 2層 | 灰褐色土 | 1層に類するが、ほとんどHr-FAを含まない。標名山起源の軽石及びAs-Cを少量含む粘性のある土。鉄分の集積があり、しまりもある。 |
| 3層 | 黒灰色粘質土 | As-Cをかなり多く含む。また直径0.5～1mmの小礫も含まれる。鉄分の集積があり、しまりのある土。 |
| 4層 | 灰色粘質土 | 20層ブロックを多量に含んだ粘質土で、As-Cも多く含む。鉄分の集積が多く認められる。しまりのある土。 |
| 5層 | 灰色粘質土 | 4層に類するが、20層ブロックを極少量含む。あまりしまりのない粘質土。 |
| 6層 | As-C層 | 純理積ではないものと思われるが、明確に断定できない。層中に粘質土のブロックを含む。 |
| 7層 | 灰色粘質土 | 4層に類する土で、多くの20層ブロックを含む。また少量のAs-Cを含む。 |
| 8層 | 灰色粘質土 | As-Cや20層ブロックをほとんど含まない。鉄分の集積が多く認められる。 |
| 9層 | 灰色粘質土 | 4層に類するが、ほとんどAs-Cを含まない。 |
| 10層 | 灰色粘質土 | As-Cを全く含まない。 |
| 11層 | 灰色粘質土 | 10層よりもやや色調の暗い層。 |
| 12層 | 灰色土 | As-Cと黒灰色土との混層で、粘性に富む。しまりの少ない土。 |
| 13層 | 灰褐色土 | 標名山起源の軽石やAs-Cを少量含むシルト質の土。しまりをもつ。 |
| 14層 | 灰褐色土 | ラミナ状層様をなすシルト質土。 |
| 15層 | 黒灰色土 | 1層と20層との混層。 |
| 16層 | 灰色土 | As-Cと黒灰色土の混層 |
| 17層 | 灰色粘質土 | |
| 18層 | As-C混じり黒色土 | |
| 19層 | 黒色粘質土 | |
| 20層 | 黄褐色粘質土 | |

0 1:60 4m

図29 1号・2号溝土層断面

認められる。

埋没土 1号溝と同様、最上層にはAs-Bの純層が堆積する。図29のA-A'土層断面では底面直上に砂層の堆積が認められるが、より北側に位置するB-B'断面では検出されていない。

出土遺物 As-Bより下位の埋没土層中から、9世紀前半の須恵器の杯(18)の破片が1点出土した。出土遺物の所属時期がAs-Bとの層位的関係とも齟齬がみられないことから、溝の使用時期と何等かの関係をもつと思われる。

調査所見 付図5-1はAs-Bの直下面において検出した規模・形状であり、最終的な掘り方は同図中青線で示した。グリッドの4～8ラインにかけては、下位の5号溝や7号溝と重複するために規模・形状とも不明であるが、他では底面0.4～0.7m、断面形は逆台形を呈する。開削時期は出土土器が9世紀前半のものであることから、少なくとも当該期にまで遡るものと思われる。B-B'の土層堆積状態からみて、流水のあったことが想定される。(石坂)

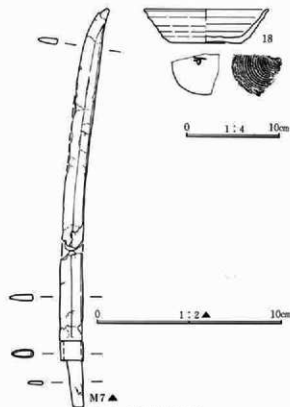


図30 2号溝出土遺物

5号溝 付図5-1,図31,PL7-4-6,PL69,表P.12

位置 B-7・8、C-6～8、D-6グリッド
重複 1号・2号溝、12号井戸に先行し、7号溝との新旧及び共時関係等は不明である。

走向 僅かに蛇行しながら北走する。

規模 幅1.5m～4.0m 深さ0.68m～1.15m

調査長12.0m

形状 (傾斜 北西端95.32m-南西端95.04m)

幅員及び断面形は一定していない。より高位置となる南端の底面には直径2.0m、底面からの深さ0.6mの掘り込みがある。他の底面には流水による陥穴状のビットが多数存在する。底面の勾配は一定していないが、全体的には南側から北側へと傾斜している。
埋没土 調査工程上、埋没土層の堆積状態を図化できなかったが、上位～中位では灰褐色粘質土が、下位には粗い砂が堆積している。

出土遺物 埋没土中より、須恵器の碗の破片が1点出土したのみである。

調査所見 底面直上の砂層の堆積や陥穴状の小ビットの存在から、かなりの流水のあったことが想定される。1号溝はD-6グリッド以南で5号溝と上下に重複する関係にあるが、これは5号溝が埋没して凹地となってゆく過程で、その痕跡の一部を1号溝として再利用した可能性が高い。掘削時期は1号溝との関係から、12世紀以前であることは確実だが、その上限については確定できない。(石坂)

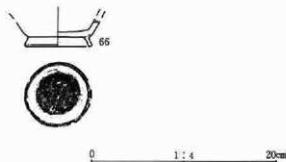


図31 5号溝出土遺物

第3章 溝の調査

6号溝 付図5-1, B032-33, PL7-4-5, PL69, 表F.12

位置 D-F-10・11グリッド

重複 2号溝に先行する。

走向 若干蛇行しながら東から西の方向へ延びているが、F-11グリッド付近で南方へ分岐する幅70cmほどの小溝がみられる。

規模 幅2.2m～3.3m 深さ1.1m～1.3m

調査長11.0m

形状 (傾斜 東端95.03m-西端94.66m)

付図5-1(スミ線)はAs-B層直下の形状であり、実際の掘り方は同図中青線である。As-Bの直下面では2号溝の南端部で接続しているが、掘り方では7号溝と接続している。断面形は法面勾配の緩いV字型を呈し、底面は凹凸が少なく、東から西へと傾斜している。

埋没土 上半はAs-Bの純堆積層で、下半はシルト的な粘質土で埋没している。

出土遺物 東端部の底面に近い埋没土中より、ほぼ完形の須恵器の椀2点と甕の破片2点が出土した。各土器ともにその時期は、9世紀末に比定される。

調査所見 7号溝との新旧関係は不明であるが、相互の位置的関係や出土遺物の時期差が少ないことから、ほぼ同一時期と思われる。掘削の時期は確定で

きないが、出土遺物の時期が9世紀に限定されていることからみて、少なくとも当該期まで遡ることは明らかである。 (石坂)

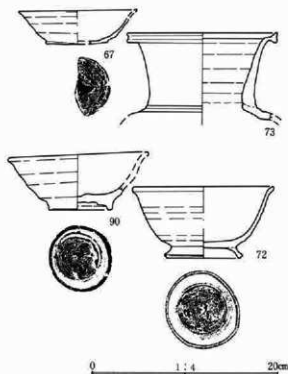


図32 6号溝出土遺物



- | | | |
|-----------|--|-----------|
| 1層 黒灰色粘質土 | かなり多くのAs-Cや、少量の榛名山起源の軽石を含む。 | 地山 6層 黒色土 |
| 2層 灰白色粘質土 | 灰色粘質土と7層との混層。 | 7層 黄褐色粘質土 |
| 3層 灰色粘質土 | ほとんどAs-Cを含まない。鉄分の集積がある。 | |
| 4層 灰褐色粘質土 | 3層に類するが、多くのAs-Cと少量の榛名山起源の軽石を含む。鉄分・マンガンの集積が多く認められる。 | |
| 5層 灰色粘質土 | あまり軽石類を含まない。 | |

0 1:40 2m

図33 6号溝土層断面

7号溝 付図5-1, 図28-34・35, PL7-4-5・7, PL69, 表P.12-14

位置 D-3-10, E-3-11グリッド

重複 2号溝に先行する。5号・8号溝との関係は不明。

走向 南から北の方向へ直線的に走向。

規模 幅2.9m~3.5m 深さ0.8m~1.15m

調査長37.0m

形状 (傾斜 南端94.35m-北端94.00m)

幅及び法面の勾配等は一定していないが、5号・8号溝と接続するE-7グリッド以北では最大幅が4m以上となる。E-5グリッド近く底面には直径2.5m、深さ0.3mの円形状の掘り込みがある。また、より高位置となる南端部には、5号溝と同様に最大径3m、溝の底面から深さ1mの井戸状の掘り

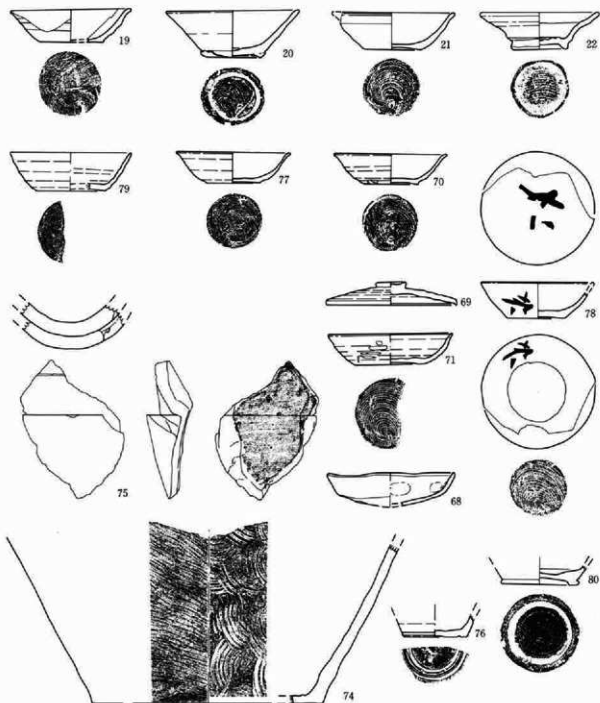


図34 7号溝出土遺物

0 1:4 20cm

第3章 溝の調査

込みが付設されており、周辺の壁面には厥穴状の小ピットが多数認められる。溝の底面は多少の凹凸があるものの、南から北へ向かって緩やかに傾斜している。

埋没土 上半部にはAs-Bが堆積するが、下部では砂層がラミナ状に堆積しており、かなり多量の流水の存在したことを窺わせる。

出土遺物 底面に近い埋没土下層より、あまり風化していない須恵器の杯8点、蓋1点、甕1点と少量の土師器の破片が出土した。これらの遺物の所属時期は9世紀である。

調査所見 ラミナ状の砂層堆積からみて、かなり多量の流水があったことは明らかである。また5号溝と同様に、高位置に掘削された井戸状の掘り込みは「溜井」の可能性もある。流水の方向は自然地形とは逆の南から北へと流下して、染谷川の旧流路と合流している。掘削時期は確定できないが出土遺物がほぼ9世紀に比定されることから、これに逆接した時期と思われる。

(石坂)

8号溝 付図5-1,図35

位置 D-6-8、C-8グリッド

重複 1・2・7号溝に先行する。

走向 L字状に曲折して、北走する。

規模 幅1.7m～2.4m 深さ0.76m～0.44m

調査長18.0m

形状 (傾斜 東端94.80m-北端94.15m)

幅の一定しない溝であるが、法面の勾配が緩いカマボコ状の断面形を呈する。底面は若干の段差がみられるが、全体的には東から北へ向かって傾斜している。また底面には5号・7号溝ほどではないが、流水に起因すると思われる厥穴状の小ピットが認められる。

埋没土 調査行程上、埋没土層の状態を図化できなかったが、上位～中位には灰褐色粘質土が、下位にはわずかではあるが、砂の堆積がみられた。

出土遺物 なし。

調査所見 埋没土下位の砂層堆積から何等かの流水のあったことが想定される。溝の形状等はやや不安定であるが、底面の勾配は5号・7号溝と同様に、自然地形とは全く逆方向についており、人為的に掘削されたものと判断される。掘削時期は確定できないが、7号溝との重複関係から9世紀以前に位置付けられよう。

(石坂)



- | | | |
|----|--------|---------------------------------------|
| 1層 | 黒灰色粘質土 | 多量の権名山起源の軽石・As-Cを含む、しまりのある土。 |
| 2層 | 灰褐色粘質土 | 多量の権名山起源の軽石・As-Cを含む、鉄分の集積がある。しまりのある土。 |
| 3層 | 灰褐色粘質土 | 2層よりやや色調の暗い土で、少量の権名山起源の軽石・As-Cを含む。 |
| 4層 | 灰褐色粘質土 | 2層に類するが、軽石類をわずかに含む。 |
| 5層 | 灰白色砂 | 上位ほど砂粒が大きく、ラミナも明瞭である。鉄分集積も上位で顕著。 |
| 6層 | 灰褐色粘質土 | 軽石は含まれない。 |
| 7層 | 灰白色砂 | 5層よりは黒味が強く、構成粒子も大粒である。 |
| 8層 | 灰褐色砂 | 砂層であるが、粘性のある上投を多く含んでいる。 |
| 9層 | 灰白色土 | やや粘性に富む。 |

0 1:40 2m

図35 7号・8号溝土層断面

9号溝 付図5-2, 図36, PL8-1

位置 E-13・14, F-14~16, F・G-17~20,
G-17~21グリッド重複 10~12・16・17・22・23号溝、20号井戸より
先行すると思われるが、18号溝との関係は不明。走向 E-13・F-15グリッドでは西にやや影ら
み、弧状をなすものの、それから南側はほぼ南北方
向に走っている。

規模 幅0.7m~1.9m 深さ0.53m~0.91m

調査長39.0m

形状 (傾斜 北東端94.92m-南西端94.82m)

断面形はほぼ一定しており、形状は台形を呈してい
る。法面の下位には部分的に弱い稜が認められる。
底面は平坦であるが中央がやや深くなっている。
埋没土 確認面の最上層に As-B の純層が堆積して
いる。最下層の灰褐色土中には細砂粒が多く含まれ
ている。

出土遺物 なし。

調査所見 埋没土の状況から流水があったことが確
認できる。全体としては整然とした形状であるが、
G-20グリッドで18号溝と重複しており、その関係
が判然としなかった。18号溝の底面は水流の影響の
によるウォーターポケットがみられるのに対し、本
遺構の底面が多少の凹凸があるが、基本的には平坦
であることと著しく異なっている。また、レベルも
本遺構の底面よりも18号溝のほうが20cmほど低く
なっており、本遺構が18号溝との重複部分を南進し
ていたと考えられる。しかし、共に埋没土の上位に
As-Bの純堆積層が認められ、同一遺構である可能
性も完全には否定できない。南流する水を西方向に分流していたことも考えられようか。掘削時期は
As-Bの降下時期をその下限とすることができる
が、上限については不明である。(徳江)

12号溝 付図5-2

位置 F・G-16グリッド

重複 9号溝よりも後出、13~15・17号溝に先行す
る。3号土坑とも重複関係にあるが前後関係は確定
できない。

走向 東西方向にはほぼ直線的に延びる。

規模 幅0.45m~0.85m 深さ0.22m~0.24m

調査長5.5m

形状 (傾斜 東端95.36m-西端95.01m)

断面の形状は浅い箱形を呈する。

埋没土 暗褐色土でありしまりはない。

出土遺物 なし。

調査所見 削削が進行しており、西端はさらに西方
向に延びていた可能性が強い。掘削時期は確定でき
ないが、比較的新しい時期に掘削されたと考えられ
る。(徳江)

13号溝 付図5-2, 図37, PL8-2

位置 F-16~18グリッド

重複 12・14~16号の各溝と重複している。16号溝
よりも後出である。その他との新旧関係は12・14・
15・13号溝の順である。

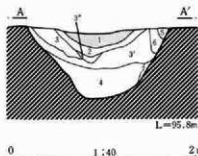
走向 ほぼ南北方向に直線的に延びる。

規模 幅0.62m 深さ0.23m~0.24m

調査長8.5m

形状 (傾斜 北端95.27m-南端95.26m)

14・15号溝とほぼ平行して掘削されており、これら



- 1層 As-Bの純堆積層。
- 2層 黒色粘質土 榛名山起源の軽石と思われる白色軽石をまばらに含む。
- 3層 黒褐色土 粘質土。榛名山起源の軽石を含む。
- 3層 黒褐色土 灰色味を帯び、砂質になる。
- 3層 黒褐色土 3層に類するが、灰色味を帯びる。
- 4層 灰褐色土 細砂粒がラミナ状に幾層もはいる。流水のあったことがわかる。
- 5層 暗褐色土 茶色味を帯びている。しまりはない。
- 6層 暗褐色土 茶色味を帯びる。
- 7層 黒褐色土 黄灰色の地山が、ブロックで入る。

図36 9号溝土層断面

第3章 溝の調査

の溝の調査との関係上、平面ではF-16グリッド部分の検出にとどまった。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 北端はさらに北方向に延びていた可能性が強い。掘削時期は確定できないが比較的新しい時期の掘削と考えられる。(徳江)

14号溝 付図5-2, 図37, PL8-2

位置 E-16、F-16-19グリッド

重複 13・15・16号溝と重複する。掘削は16・14・15・13号の順である。12号溝よりも後出である。

走向 ほは南北方向に直線的に延びる。東側に15号溝が平行して掘削されている。

規模 深さ0.53m

調査長16.0m

形状 (傾斜 南端95.24m-北端95.13m)

15号溝の掘削により東側の壁面は削平を受け、検出できなかった。土層断面での観察によると上位に開放する台形状の断面形を呈していたと思われる。

埋没土 砂質の暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 北端は北方向にさらに延びる可能性が強いが、遺構確認面が低くなり検出できなかった。掘削時期は確定できないが、新しい時期の掘削と思われる。(徳江)

15号溝 付図5-2, 図37, PL8-2-3

位置 E-15-17、F-16-18グリッド

重複 11-14・16号溝と重複している。13号溝に先行するほかはいずれの溝よりも後出である。

走向 南北方向に直線的に延びている。

規模 深さ0.4m-0.45m

調査長17.5m

形状 (傾斜 南端94.8m-北端94.68m)

東側の法面が調査区域外になり検出できなかったため、全体の形状は把握できなかった。断面形状は西側の法面の観察からは薬研堀に近いもので、底面の



図37 13-16号溝土層断面

幅が狭く、法面の中位に弱い稜を有するものである。
埋没土 上位に灰褐色土が、下位に暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 掘削時期は確定できないが、比較的新しい時期の掘削と思われる。(徳江)

17号溝 付図5-2

位置 F-16-20グリッド

重複 12・16号溝に後出する。9・18号溝との関係は判然としなかった。20号井戸、6号土坑とも重複している。

走向 南北方向にはほぼ直線的に延びるが、南側で一部、やや西側に走向を変えている。

規模 幅0.3m-1.2m 深さ0.08m-0.16m

調査長20.0m

形状 (傾斜 南端95.6m-北端95.52m)

断面形は浅い箱型を呈し、上位がやや開放する。F-20グリッドでは法面の傾斜が緩やかになる。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 南北の両端とも削平を受け判然としない。掘削時期も確定できない。(徳江)

18号溝 付図5-2, 図38-39, PL9-1-2, PL70, 表P.14-15

位置 G・I・J-19-20, H-19-21グリッド

重複 16号溝・21・22号井戸に先行している。9号溝との新旧関係は確認できなかった。

走向 東西方向に延びているが、南に弱く影らみ、弧をえがいている。

規模 幅3.7m-6.0m 深さ0.86m-2.46m

調査長15.5m

形状 (傾斜 東端94.85m-西端93.14m)

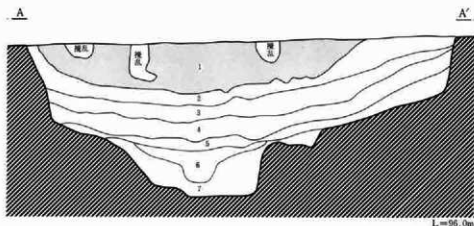
断面形状は上位にやや開放する台形を呈していたと考えられる。底面あるいは法面の中位以下には無数のピットがあり、この中には砂粒が堆積していた。これらは多量の流水があった際に形成されたウォーターホールと考えられ、規模は0.15-1m、深さは0.3mほどである。当初底面は幅の広い平坦面であったと思われるが、検出時点では、ウォーターホールが重なりあい、凹凸が著しいものであった。西端から東へ4.4mほどは、それ以东よりも底面の中央が一段低くなっている。これは、当初から段差があっ

たのか、流水により底面が削平されたためか、二つのことが考えられるが、前者の可能性が高い。

埋没土 確認面の最上層にAs-Bの純堆積層を確認した。中位には暗黒褐色土が混入物、F P.0.2-1.5cm ϕ や白色粒子を含み堆積していた。

出土遺物 埋没土中あるいはウォーターホールの堆積土中から土器・瓦の細片が出土している。

調査所見 底面あるいは下層の埋没土の状況から東から西に向けて、多量の流水があったことが窺える。また、流水のために南側の法面は削平を受け、弧状の影らみが助長されたと考えられる。9号溝の項にも記述したが、9号溝と18号溝は同一遺構である可能性があるが、9号溝により供給した用水を西に振り向けて流水させる効用については調査範囲内では確定できなかった。埋没土中にAs-Bの純堆積層が確認できることからこの降下時を下限とすることができる。また、埋没土中から出土した土器の年代観も参考にできるが、いずれも決定に足るものではなかった。(徳江)

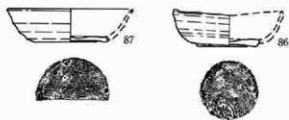


- 1層 As-B 純堆積層。
 2層 暗黒褐色土 粘性があり、しまりが強い。直径0.2-1.5cmの埴名山起源の軽石を少量含む。土器器が混入。
 3層 暗茶褐色土 粘性は2層よりあり、しまりが強い。直径0.2cmくらいの埴名山起源の軽石をわずかに含む。黒色土ブロックが混入。
 4層 暗黒褐色土 粘性は2層と同じくらいで、しまりは強い。直径0.2-1.5cmの埴名山起源の軽石を少量含む。直径1mm程度の白色土粒子を多く含む。
 5層 明茶褐色土 粘性がある。直径0.1mm程度の白色土粒子は4層よりも少ない。
 6層 明茶褐色土 砂質。直径0.5cm程度の埴名山起源の軽石を含む。
 7層 暗黒色土 炭化物をやや多く含む。直径0.1cmの白色土粒子をわずかに含む。土器器(長樂・S字葉)が混入。

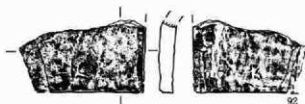
0 1:40 2m

図38 18号溝土層断面

第3章 溝の調査



0 1:4 20cm



0 1:3 10cm

図39 18号溝出土遺物

20号溝 付05-2, PL9-3

位置 H・I-23グリッド

重複 22号溝に後出する。

走向 東西方向に伸び、極わずかに南が膨らむ。

規模 幅0.45m～0.65m 深さ0.05m～0.09m

調査長5.0m

形状 (傾斜 東端95.45m-西端95.41m)

断面形状は箱型を呈し、浅い。東端は調査区域外に延びる。西端は判然としなかった。

埋没土 灰色を帯びる暗褐色土が堆積していた。上

位にはAs-Aを散見する。

出土遺物 なし。

調査所見 流水は認められない。削平が著しく、性格等も推定できない。掘削時期も確定できないが比較的新しい時期のものと思われる。(徳江)

21号溝 付05-2-3, B640, PL9-3-4

位置 H・I-23・24グリッド

重複 22号溝に後出する。

走向 東西方向に延びる。

規模 深さ0.4m～0.48m

調査長5.0m

形状 (底面 西端94.92m)

北側の法面のみの検出のため全体形状は把握できなかったが、断面形は法面の傾斜が強く、上位に大きく開放するものである。底面は幅の狭いものと思われる。

埋没土 灰色を帯びる褐色土で、上層は黄色みを帯びている。13号溝埋没土の上層に類似している。

出土遺物 なし。

調査所見 本遺構に南接し、東西方向に延びる地割りの溝が現存し、東側の水田の排水路として利用されている。形状、埋没土の状況から21号溝はこの現存する溝の旧状にあたる可能性がある。掘削時期は確定できない。(徳江)

22号溝 付05-2

位置 G-20・21, H-21-23グリッド

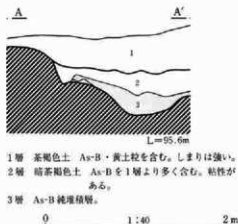
重複 20・21号溝に先行する。9・18号溝に後出と思われるが判然としない。17号溝との関係は不明である。

走向 H-22グリッド部分が攪乱のため検出できなかったが、攪乱の南北で走向が変わる。I-21グリッド部分では南西方向に延びていたものが攪乱の南でほぼ南北方向になる。

規模 幅0.45m～1.2m 深さ0.28m～0.45m

調査長17.0m

形状 (傾斜 南端95.3m-北端95.25m)



21号溝 1層 茶褐色土 As-B・黄土粒を含む。しまりは強い。
15号土坑 2層 暗茶褐色土 As-Bを1層より多く含む。粘性がある。
3層 As-B純堆積層。

図40 21号溝土層断面

断面形は上位にやや開放する台形状を呈している。
埋没土 細砂を多量に含む黄灰色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 削平が著しく、G-21グリッド部分が原形を比較的良く残しているものと思われる。北端の延長線上に17号溝があるが同一遺構との確定はできなかった。流水の可能性は少ないと思われる。掘削時期も確定できない。(徳江)

23号溝 付05-2

位置 E-13~15グリッド

重複 9・10号溝に後出すると思われる。

走向 南北方向に延びる。

規模 幅0.5m~0.6m 深さ0.17m~0.26m

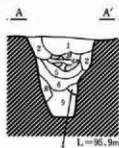
調査長8.5m

形状 (傾斜 南端95.31m-北端95.24m)

断面形は法面にほぼ垂直に近く、箱型を呈する。

埋没土 灰褐色土が堆積していた。

調査所見 南端は10号・11号溝と重複し、判然としない。(徳江)



1層 明茶褐色土 角閃石安山岩を少し、黄褐色土ブロックを多く含む。しまりは強い。
2層 暗茶褐色土 角閃石安山岩・黄褐色土粒を少し含む。ブロック状に割離しやすい。やや粘性がある。
3層 As-B純堆積層
4層 黄褐色土 As-Bと黒色土ブロックを多く含む。
5層 暗黒褐色土 黄褐色土粒を少し含む。しまりは強い。
6層 暗茶褐色土 黄褐色土粒をわずかに含む。しまりはやや弱い。
7層 暗茶褐色土 ブロック状を呈する。
8層 明茶褐色土 粒子をほとんど含まず、8層より粘性が強い。
9層 明茶褐色土 砂質で水成堆積状態を呈する。

図41 25号溝土層断面

25号溝 付05-2,041,PL9-5

位置 I-21・22、J-20・21グリッド

重複 16号溝に先行する。

走向 細かく曲折しながら、東西方向に延びるが、全体的には南に弧を描いている。

規模 幅0.7m~1.3m 深さ0.43m~0.84m

調査長10.0m

形状 (傾斜 東端94.99m-西端94.97m)

断面形は上位にやや開く台形状であるが、法面は部分的に崩落したり、えぐれ、形状を損なっている。底面あるいは法面の一部には流水のため形成されたと考えられる径0.15~0.50mのピットが無数にみられ、凹凸が著しい。

埋没土 中位のやや上層にAs-Bがブロック状に堆積していた。下半は砂質の明茶褐色土である。法面のえぐれた凹部には暗灰色の細砂が堆積していた。底面のピット中にはそれよりも粗い砂粒がみられた。

出土遺物 なし。

調査所見 底面・法面に形成されたウォーターホールの状況から多量の流水があったと考えられる。東端はH・I-22グリッドの攪乱により削平されて判然としない。攪乱の東側、I-21グリッドでは、調査範囲内に溝状の落ち込みがあり、埋没土の状況から流水のあったことが窺える。調査時点では、18号溝と重複後も南進する9号溝に接続するものと考えたが、本遺構との接続も考えられる。本遺構底面の状況は18号溝と共通する点がある。I-21グリッドの落ち込みもあわせて9・18号溝の中で考えたいが現状で結論づけることはできない。(徳江)

第3章 溝の調査

26号溝 村05-2, PL9-6

位置 H-18-20グリッド

重複 16・18号溝と重複するが新旧関係は判然としない。

走向 南北方向に延びる。

規模 幅1.6m～2.2m 深さ0.17m～0.25m

調査長10.5m

形状 (傾斜 南端95.4m-北端95.36m)

北半の検出部分では底面に低い高まりがあり、2本の溝が重複している可能性があるが判然としない。

法面の立ち上がりは極めて緩やかで、断面形は皿状を呈している。

埋没土 やや茶色みのある黄灰色土が堆積していた。

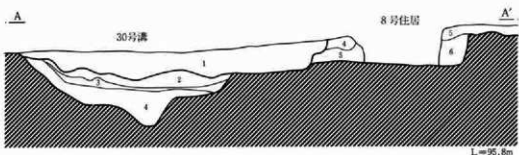
出土遺物 土器片が少量出土したがいずれも弥生土器である。

調査所見 南北両端はいずれもその先へ延びていたと思われるが16号・18号溝との重複により判然としない。埋没土の状況から流水はなかったと考えられる。掘削時期は確定できない。(徳江)

30号溝 村05-3, 0642-43, PL9-7-8, 表P.15

位置 L-26, M-26-32, N-29-31グリッド

重複 6・8・9・10号住居に後出するが、33・34号溝との新旧関係は不明である。



- 30号溝
- 1層 明茶褐色土 直径1mm程度の角閃石安山岩粒を多く含む。しまりはやや弱い。
 - 2層 暗灰褐色土 直径1mm程度の角閃石安山岩粒を、1層より少量含む。粘性がある。
 - 3層 暗灰褐色土 直径1mm程度の角閃石安山岩粒を、2層より少量含む。黄色土ブロックを多く含む。粘性がある。
 - 4層 明茶褐色土 1層より明るい。角閃石安山岩粒・黄褐色土ブロックを多く含む。炭化物も含む。しまりは強い。
- 8号住居
- 5層 明茶褐色土 4層より角閃石安山岩が少ない。砂質気味。
 - 6層 黄褐色土 角閃石安山岩をほとんど含まない。地山か？

0 1:40 2m

図43 30号溝土層断面



図42 30号溝出土遺物

走向 南東へ向かい、ゆるやかに弧状を呈する。

規模 幅1.2m～2.8m 深さ0.44m～0.83m

調査長34.5m

形状 (傾斜 北端94.86m-南端94.46m)

断面は全体的に緩いU字状を呈する。定形化した溝と言える。底面には部分的に凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。

埋没土 上半はしまりがないが、下半に至り粘性をもつ。全体的に軽石が認められる。

出土遺物 土師器の甕、円筒埴輪等の出土があるが埋没土からの出土である。

調査所見 定形化した溝であり、流水の可能性は明らかではなく、地割り等の施設が考えられる。掘削時期は出土遺物が埋没土出土であることから判然としないが、先行して重複する8号住居跡の出土遺物が9世紀頃と考えられることから、住居跡よりも新しい時期が考えられる。(友廣)

31号溝 付図5-3, PL10-1

位置 K・L-23グリッド

重複 29号溝

走向 南北直線状を呈するが、調査範囲が狭いため詳細は不明である。

規模 幅1.0m～1.2m 深さ0.14m～0.17m

調査長3.5m

形状 (傾斜 北端95.46m-南端95.43m)

不定形な形状をみせ、掘り込みも凹凸がみられる。

出土遺物 なし。

調査所見 あまり定形化した溝とはみられず、重複する29号溝との新旧は明らかではない。しかし溝の有り様は、何等かの関連性を示すと考えられる。

(友廣)

32号溝 付図5-3, PL10-1

位置 L-23グリッド

重複 29号溝に後出する。

走向 31号溝と同様である。

規模 幅1.15m～1.5m 深さ0.06m～0.2m

調査長5.5m

形状 (傾斜 北端95.54m-南端94.44m)

不定形な掘削断面を呈し、底面も深浅の幅が大きい。

出土遺物 なし。

調査所見 底面の深さも一定しない不定形な溝であり、性格は不明である。

(友廣)

33号溝 付図5-3, 図44, PL10-2

位置 K-M-32グリッド

重複 36号溝に先行し、34号溝に後出する。30号溝との新旧関係は不明である。

走向 東西方向に延びる。

規模 幅1.1m～1.5m 深さ0.12m～0.23m

調査長12.0m

形状 (傾斜 東端95.76m-西端95.43m)

掘り込みはしっかりしていない。断面は不定形を呈する。

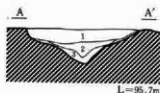
埋没土 上半には榛名山起源の軽石を含み、底面近

くには含まない。

出土遺物 なし。

調査所見 残存の状況は良好であるが出土遺物はない。本溝の北側にはAs-B下品が検出されたが、その畝の方向と、本溝の方向が一致しており、同様の土地区画にある分布と考えられる。時期は明らかではない。

(友廣)



- 1層 暗褐色土 榛名山起源の軽石の小粒を含む。
 2層 暗褐色土 榛名山起源の軽石の小粒と黄灰色土の小ブロックを含む。
 3層 黄灰色土 ブロック状に混入する。

0 1:40 2m

図44 33号溝土層断面

34号溝 付図5-3, 図45-47-97, PL10-3-4, PL70, 表P.15

位置 1985・1986年度 K-34・35、L-31-34、M-28-32グリッド

重複 9号住居、33・35・36号溝に先行する。

走向 南北方向を示す。

規模 幅1.0m～1.9m 深さ0.45m～1.0m

調査長41.0m

形状 (傾斜 北西端94.85m-南東端94.66m)

断面がU字状を呈する定形化した溝である。掘り込みはしっかりしている。底面はほぼ平坦である。

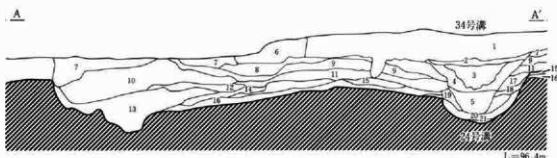
埋没土 上半には軽石がみられ、下半には砂粒層としての堆積がみられる。

出土遺物 101-104は1985年度調査区から出土した。これらは底面から30-60cm高い位置から出土した。182-184は1986年度調査区からの出土である。いずれも底面から50-60cm浮いた状態で出土した。

調査所見 定形化した溝であり、埋没土下半には砂粒が認められ、流水の可能性を示している。南北方向にはほぼ直線状に近いことなど、地割り、水路等の可能性も考えられる。掘削時期は出土遺物からみて、古墳時代後期以降と思われる。

(友廣)

第3章 溝の調査



- 34号溝
- 1層 耕作土 砂質。榛名山起源の軽石の小粒を混入する。
 - 2層 暗灰色土 茶褐色土の小ブロックを含み、茶色味を帯びる。
 - 3層 暗灰色土 灰色味が強く、しまっている。軽石粒をまばらに含む。炭化物粒も少量含む。
 - 4層 暗灰色土 3層よりもやや茶味を帯びるとともに粒子が粗く、下層では砂粒も含む。
 - 5層 暗灰色土 砂粒と暗灰色土が厚さ1-3cmの層で交互に堆積している。下層には砂粒が多い。軽石が薄い層として堆積している部分もある。
- 地山
- 6層 1層と7層の混土層
 - 7層 黄灰色土と暗灰色土の互層。軽石を多く含む。
 - 8層 暗灰色土 やや黒味を帯びる。全体にザラついている。黄灰色土粒も含む。
 - 9層 黄灰色土と暗灰色土の互層。
 - 10層 9層と12層の混土層
 - 11層 暗灰色を砂質土 榛名山起源の軽石を多量に含む。
 - 12層 暗灰色土 色調は11層に類するが、砂粒の混入は少ない。
 - 13層 暗灰色土粒・砂粒・榛名山起源の軽石（直径1-10cm）の混土層
 - 14層 暗灰色土
 - 15層 暗灰色細砂層
 - 16層 黄茶色土 灰色シルト質土を含む。榛名山起源の洪水層と考えられる。
- 24号溝
- 17層 暗灰色土 砂粒が目立ち、黄褐色土粒も多量に含む。
 - 18層 暗灰色土 シルト質の細砂からなる。軽石は少ない。
 - 19層 暗灰色土 灰色味が強い。砂粒を多く含む。漸移層。
 - 20層 暗灰色土 やや黒味が強い。細砂を含む。
 - 21層 暗灰褐色土 薄くへばりついている。
- 0 1:60 4m

図45 34号・24号溝土層断面

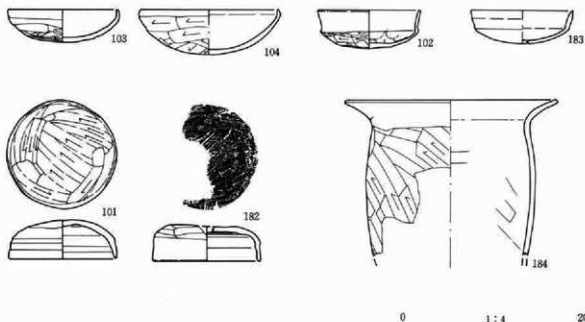


図46 34号溝出土遺物

35号溝 付図5-3, 図47, PL10-5

位置 K・L-33・34、M-33グリッド

重複 34号溝に後出する。

走向 ほぼ東西方向を示すが、東端はやや南へふれる。

規模 幅1.9m～2.1m 深さ0.40m～0.54m

調査長9.0m

形状 (傾斜 東端95.36m-西端95.33m)

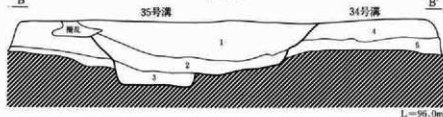
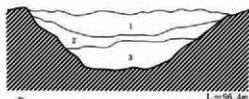
両側から傾斜し、底面に平面形をもつ断面形を呈する。ほぼ定形化した溝である。

埋没土 上半の一部には榛名山起源の軽石を含む暗褐色土が認められ、下半に近くなると鉄分を含み、底面は灰色みを帯びている。下半では粒子も細くなる。

出土遺物 なし。

調査所見 定形化した溝であり、埋没土下半から底面近くには鉄分が認められ、さらに灰色土粒が細くなることから、流水の可能性が考えられる。掘削時期は重複する34号溝を切り崩すことから、34号溝(古墳時代後期)以降の時期が充てられる。本溝の延長は30号溝の西側の延長と、発掘区外西方で直角に

A 35号溝 A'



- 35号溝
- 1層 暗褐色土 直径0.2～2cm程の榛名山起源の軽石を多く含む。全体にザラザラしている。
 - 2層 暗褐色土 やや茶味が強く、粒子も細くなる。
 - 3層 暗灰色土 30号井戸の埋没土と考えられる。As-Bと思われる砂粒を多く含む。
- 34号溝
- 4層 暗褐色土 暗褐色土に黄白色土の小粒・榛名山起源の軽石をまばらに含む。
 - 5層 暗灰色土 3層に比して黒味がより、混入物は類似する。全体に粒子が細かい。

図47 34号・35号溝土層断面

交わる位置を占めており、関連を推定させる。(友廣)

36号溝 付図5-3, 図48, 表F.16

位置 J-27～29、K-29～32グリッド

重複 畠の畝に先行し、33号溝に後出する。

走向 南北方向に近い直線状を呈する。

規模 幅0.3m～0.8m 深さ0.5m～1.1m

調査長25.0m

形状 (傾斜 北端95.87m-南端95.82m)

ほぼ定形化した溝である。

埋没土 暗灰色土が堆積している。

出土遺物 土師器の破砕片が壁傾斜面上部から出土している。流れ込みの可能性も考えられる。

調査所見 定形化した溝であり、ほぼ南北に走り、北に向かいやや西に弧状に延びる。出土遺物は流れ込みとも考えられる。交叉するように、As-B下畠と重複しているが、畠は溝埋没土の上面に認められており、本溝は畠を壊して掘られた溝である。(友廣)

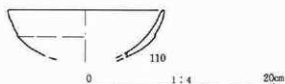


図48 36号溝出土遺物

- 1層 暗褐色土 全体に砂質。黄灰色土の小ブロックを混入。
- 2層 暗灰色土 鉄分集積がある。
- 3層 暗灰色土 土粒は細くなり、灰色味が増す。



第3章 溝の調査

37号溝 付図5-3, B049, PL11-1, PL70, 表P.16

位置 N-27~30グリッド

重複 38号溝との新旧関係は不明である。

走向 南北方向を呈し、N-30グリッドではやや東へ湾曲する。

規模 幅0.5m~0.7m 深さ0.24m~0.3m

調査長15.0m

形状 (傾斜 北端94.66m-南端94.50m)

はは定形化した溝である。

埋没土 暗灰色の細砂土が堆積していた。

出土遺物 埋没土中から土器片や石器が出土した。

内耳鍋(111)と砥石2点(S1, S2)を図示した。

調査所見 遺跡調査区西端に検出され、出土遺物等からは中世以降の掘削と考えられる。(友廣)

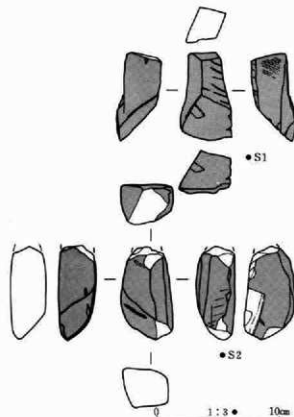
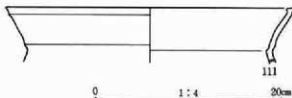


図49 37号溝出土遺物

38号溝 付図5-3, B050-51, PL11-2-3, 表P.16

位置 M・N-26・27グリッド

重複 37号溝との新旧関係は不明である。

走向 微高地の西縁を回るように湾曲している。

規模 深さ0.7m~1.0m

調査長10.0m

形状 断面西側は区域外へ延びるため明確ではないが、断面形はV字状を呈するものと思われる。掘り込みの傾斜等、定形的な溝である。

埋没土 上半は鉄分の集積が多く見られる。下半にはAs-Bの降下純堆積が認められ、底面近くにはAs-Bの灰層が確認された、直下の溝である。

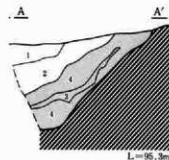
出土遺物 須恵器の柄が埋没土中から検出された。

調査所見 掘り込みもしっかりした溝で、As-Bの堆積が明確に認められ、ほぼ同時期に埋没したものと考えられることから、天仁元年(1108年)以前に掘削され、As-Bにより埋没したものと考えられる。

(友廣)



図50 38号溝出土遺物



- 1層 明茶褐色土 鉄分の集積が認められる。粘性がある。
- 2層 明茶褐色土 鉄分の集積が認められる。As-Bをブロック状に多く含む。
- 3層 As-Bの軽石純堆積層。
- 4層 As-Bの灰層。

図51 38号溝土層断面

39号溝 付図3-3, 図52, PL11-4, PL70, 表P.16-17

位置 M-26-33, N-29-32グリッド

重複 29号・30号溝に先行する。

走向 南北方向に延びる。

規模 深さ0.05m~0.41m

調査長9.2m

形状 断面形は上位にやや開放する台形を呈する。底面は平坦面をなしていたと思われる。

埋没土 暗褐色土が堆積している。

出土遺物 平安時代の高台付椀・甕、やや時期の下る瓦が出土している。

調査所見 北端は29号溝と重複し、その先は判然としない。南側もやや角度を違えて、南北方向に延びる30号溝により削平され、一部分の検出に止まった。流水のあった可能性は少ない。掘削時期は出土土器が住居からの流れ込みの可能性もあり、確定できない。

(徳江)

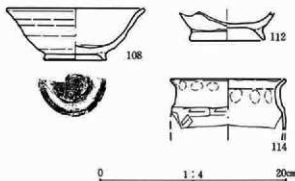


図52 39号溝出土遺物

40号溝 付図3-3, 図53, PL71, 表P.17

位置 J-28・29グリッド

重複 29号井戸、畚の畝に先行する。

走向 33号溝と走向を同じくする。

規模 幅0.3m~0.6m 深さ0.04m~0.17m

調査長6.0m

形状 (傾斜 北端95.92m-南端95.85m)

ほぼ定形的な溝である。

埋没土 暗灰色土が堆積していた。

出土遺物 埋没土中から土器片や石が出土している。土師器の甕(115)・須恵器の椀(117)・平瓦(116)を図示した。いずれも埋没土中からの出土である。

調査所見 溝は調査区東端に一部検出されたのみで、東壁の確認には至っていない。掘り込みは良好な残存状況である。33号溝と同様な形状をなし、2mほどの間隔で平行している。何等かの関係を想定できるが、同時に存在した確証はない。

(友廣)

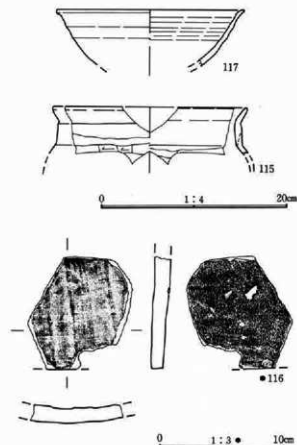


図53 40号溝出土遺物

第3章 溝の調査

41号溝 付図5-3, PL11-5

位置 I-26・27、J-27グリッド

重複 21号土坑に先行する。

走向 ほほ南北方向の直線状を呈する。

規模 深さ0.58m～0.6m

調査長8.0m

形状 (傾斜 北端95.32m-南端95.3m)

掘り込みはしっかりしている。

埋没土 やや茶色みのある暗灰色土が堆積している。下層は黒色みを増している。

出土遺物 なし。

調査所見 溝の東側は調査区域外へ延びるため、幅は確認できなかった。走向は30号溝と平行しており、35号溝とは調査区外で直交する位置関係にある。

(友廣)

43号溝 付図5-5, 図54-56-58, PL12-1-3, PL71, 表P.17

位置 R-U-54、V-53・54グリッド

重複 45・52号溝に先行し、48号・49号・56号溝に後出する。

走向 南へやや膨らむ、弧状を呈する。

規模 幅1.1m～1.6m 深さ0.33m～0.66m

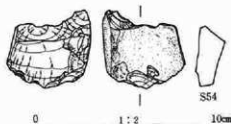
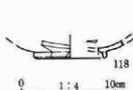
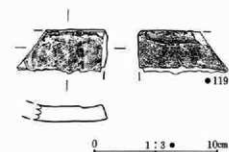
調査長21.5m

形状 (傾斜 東端95.08m-西端94.73m)

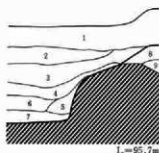
溝の幅や法面の傾斜はほほ一定している。断面形が一定した定形的な溝である。底面は幅0.4～0.5mで、凹凸がほとんどなく平らである。

埋没土 下半は粘質土、上半は砂質土で埋まっている。上半部には軽石粒が含まれている。

出土遺物 灰軸陶器・瓦・剥片石器等が出土しているが、いずれも埋没土中の出土であり、掘削時期を



A A'



- 52号溝 1層 黒色土 榛名山起源の軽石の小粒が混入。
 2層 暗褐色土 榛名山起源の軽石の小粒が多量に混入。
 3層 暗褐色土 サクサクで、側面に黄色土ブロックが混入。
 4層 暗褐色土 黄色土ブロックが多量に混入。
 5層 暗褐色土 黄色土ブロック・黒色土ブロックが多量に混入。
 6層 暗褐色土 混入物があまりなく、やや明るく粘質土。
 7層 黒色土 黒色土ブロックが多量に混入。

B B'



- 43号溝 1層 暗褐色土 As-Bと思われる灰色の軽石を霽降り状に含む。上層により多く含まれる。
 2層 暗褐色土 暗灰色土の小粒をまばらに含む。
 3層 暗褐色土 1・2層よりも灰色味が強い。暗灰色土の小ブロックをまばらに含む。
 4層 暗褐色土 2層よりも黒味が強い。灰白色土・茶色土の小ブロックを多く含む。霽降り状を呈す。

図54 43号溝土層断面と出土遺物

0 1:40 2m

示すとは言えない。

調査所見 定形化した溝であるが、流水のあった可能性は埋没土の状況から少ないと考えられる。全景写真から、東側の島の地境の延長であることが看取でき、地割りに関係する溝と考えられる。掘削時期は6世紀後半～7世紀前半と考えられる56号溝より新しく、9世紀と考えられる52号溝より古いことから、この間に掘削され、埋没したものと見えよう。

(小島)

45号溝 付図5-4-5, PL12-4

位置 U-52～54グリッド

重複 43号溝、18号住居に後出する。

走向 ほぼ南北方向を示す、直線的な溝である。

規模 幅0.55m～0.9m 深さ0.16m～0.17m
調査長7.5m

形状 (傾斜 北端95.36m～南端95.30m)

掘り込みは浅く、不定形な溝である。

出土遺物 土師器片が出土している。

調査所見 幅も狭く、浅い溝で、43号溝以南では検出できなかった。

(友廣)

46号溝 付図5-4, PL12-4

位置 R-50、S-50～54グリッド

重複 43号溝に後出する。

走向 緩やかに蛇行する、南北方向の溝である。

規模 幅0.3m～0.35m 深さ0.13m～0.21m
調査長21.5m

形状 (傾斜 南端95.59m～北端95.4m)

走向は弱く蛇行する不定形な溝である。

出土遺物 なし。

調査所見 南端で43号溝と重複するが、走向は蛇行し、用途・性格等は不明である。

(友廣)

47号溝 付図5-4, PL12-4

位置 O・P-49グリッド

重複 なし。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅0.3m～0.45m 深さ0.05m～0.1m
調査長5.0m

形状 (傾斜 東端95.71m～西端95.70m)

幅が狭く、断面形状は箱形を呈する。

埋没土 不明。

出土遺物 なし。

調査所見 東側は調査区域外になり、西側は残存状況が悪いため、その範囲は不明瞭である。時期も不明である。

(小林)

48号溝 付図5-4, 図55-56-68, PL12-3, PL13-1, 表P.18

位置 R-54・55、S-52～55グリッド

重複 43号・56号・58号溝に先行し、60号溝に後出する。

走向 ほぼ直線状を呈する。

規模 幅0.55m～0.9m 深さ0.37m～0.52m
調査長13.0m

形状 (傾斜 南端95.05m～北端95.0m)

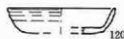
断面箱形の定形化した溝である。底面は平らで、幅も一定している。

埋没土 底面直上に層厚15～18cmのシルトを混じる砂層が堆積し、その上に20cmほどのシルトがある。これらの堆積物から、流水のあったことも考えられる。

出土遺物 埋没土中から土師器・須恵器の破片が出土している。図示した須恵器杯形土器も同様である。

調査所見 埋没土の堆積状況からは流水の可能性が示唆されるが、底面勾配が1/240であること、底面が一樣に平らであることなどから、長期間水路として使われたものではないと考えられる。

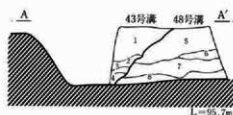
(小島)



0 1:4 20cm

図55 48号溝出土遺物

第3章 溝の調査



- 43号溝 1層 灰褐色砂質土 榛名山起源の軽石・細白色軽石を多量に含む。しまりがあり、固い。
- 2層 灰褐色砂質土 細白色軽石を少量含む。
- 3層 黒褐色粘質土
- 4層 灰褐色粘質土
- 48号溝 5層 灰褐色土 榛名山起源の軽石・細白色軽石・直径1~2cmの黒色粘土ブロック・橙色土粒を多量に含む。
- 6層 細白色軽石を含む灰褐色土と、直径5~8cmの黒色粘土ブロックの混土。
- 7層 黄灰色色シルト
- 8層 直径1~2cmの7層の小ブロックを混じる砂層。

図56 43・48号溝土層断面

49号溝 付図5-4-5、図57-58-59、PL12-2、PL13-2、PL71、表P.18

位置 S-51-56、T-56グリッド

重複 56号溝に先行する。

走向 緩やかに蛇行する。

規模 幅0.5m~0.8m 深さ0.34m~0.51m

調査長30.0m

形状 (傾斜 南端95.25m~北端94.94m)

断面台形の定形化した溝である。底面は一部に小さな凹凸があるが、ほとんど平らである。南端が北端より31cmほど高く、勾配は1/97を計る。

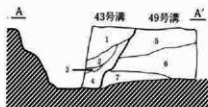
埋没土 底面に厚さ20cmほどのシルトと砂のラミナ状堆積が見られる。

出土遺物 埋没土中から土師器・須恵器の破片が出土している。図示した土師器杯形土器も同様である。

調査所見 底面の勾配と埋没土の状況から、本溝は水路と考えられる。(小高)



図57 49号溝出土遺物



- 43号溝 1層 灰褐色砂質土 榛名山起源の軽石・細白色軽石を多量に含む。しまりがあり固い。
- 2層 灰褐色砂質土 細白色軽石を少量含む。
- 3層 黒褐色粘質土
- 4層 灰褐色粘質土
- 49号溝 5層 灰褐色土 細白色軽石・黄色シルト粒を多く含む。
- 6層 黄灰色土 榛名山起源の軽石・黄色シルトブロックを含む。
- 7層 灰色シルトと砂の混れたラミナ状堆積。

図58 43・49号溝土層断面

51号溝 付図5-5、図59-60、PL15-1~4、PL71、表P.18-19

位置 W-54・55、X-54-58、Y-56-58、Z-57-60、2A-60-63、2B-61-65、2C-64・65グリッド

重複 53~55・65号溝、50号住居に後出する。

走向 ほほ直線上を呈する。

規模 幅2.1m~2.7m 深さ0.48m~0.8m

調査長64.0m

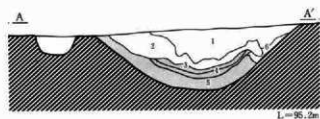
形状 (傾斜 南西端94.42m~北東端94.33m)

断面は緩やかな半円状を呈し、底面の幅は0.7mを計る。

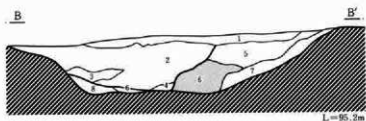
埋没土 埋没土中位にはAs-Bの純堆積が見られる。この堆積はC-C'断面で見られるように、シルトが底面に少量たまった頃になされており、テフラの降下と溝の機能していた時期は近いと考える。

出土遺物 埋没土中より土師器片が1400点余り出土しているが、小破片がほとんどであり、器形を表せるものを中心に図示した。鉄滓が一点、埋没土中から出土している。

調査所見 本溝は現善勝寺堀と平行して掘られており、地形的なことを勘案すれば、善勝寺堀と同様に染谷川の水を引く用水路と考えられる。本溝は埋没土中位までAs-Bで埋没しており、復旧のために掘り返された形態はない。この火山の災害の結果、本溝は廃絶されたものと考えられる。この遺構は本遺跡南方の高崎市教育委員会調査の西島遺跡群(P19注16)でも検出されている。(小高)



- 1層 茶褐色砂質土 As-B、灰白色粘土ブロックを含む。
- 2層 茶褐色砂質土 小ブロックと多量のAs-Bの混土。
- 3層 As-B 褐色灰層。
- 4層 As-B 直径1-2mmのやや小粒の軽石純堆積層。
- 5層 As-B 直径3-5mmのやや大粒の軽石純堆積層。
- 6層 灰褐色粘質土ブロック



- 51号溝 1層 茶褐色土 白色細軽石を多く含む。
- 53号溝 2層 黄色土小ブロック・炭化物粒・少量の焼土粒を含む、やや粘質の褐色土。
- 3層 As-Bブロック(壁崩落土砂と考えられる)。
- 4層 黄色土ブロック
- 51号溝 5層 白色軽石・As-Bを含む、砂質黒褐色土。
- 6層 As-B軽石純堆積層。
- 7層 灰白粘土粒と黒褐色土の混土。
- 8層 灰色シルト

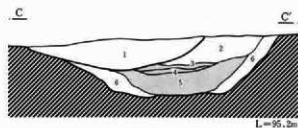


図59 51号溝土層断面

- 54号溝 1層 灰褐色土 やや砂質。
- 51号溝 2層 茶褐色土と軽石の混土。
- 3層 As-B 褐色灰純堆積層。
- 4層 As-B やや小粒の軽石純堆積層。
- 5層 As-B やや大粒の軽石純堆積層。
- 6層 灰色シルト

0 1:40 2m

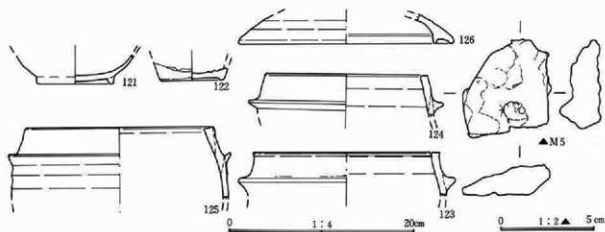


図60 51号溝出土遺物

第3章 溝の調査

52号溝 付図5-5, H661-63, PL15-1-2-5, PL71-72, 表P.19-20

位置 V-53・54, W-53-56, X-55-58, Y-57-61, Z-60-63, 2A-63-65グリッド

重複 53-55号溝、41・45・52号住居、43号溝に後出する。

走向 北北西-南南東に向かう。

規模 幅1.4m-2.0m 深さ0.62m-0.81m

調査長35.0m

形状 (傾斜 南西端94.42m-北西端94.31m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定している。断面形が一定した定形的な溝である。底面の幅は80-90cmである。流路はY-59グリッド、2A-64グリッドでわずかに蛇行傾向にあり、東へ流路変更をしている。

埋没土 4層-5層の埋没土の堆積状況である。A

断面の2層-3層にはAs-Bをわずかに含む褐色土があり、土層断面図A-Eの4層-5層では溝壁に露呈するHr-FA期の洪水堆積物など、共通堆積物を観察することができる。

出土遺物 杯・蓋・甕・羽釜・甗等の出土があるが、すべて埋没土内からの出土である。

調査所見 掘削時期はAs-Bがわずかに含まれる状況における土層堆積や、A-E断面におけるほぼ共通した土層堆積である。B断面(図61)では53号溝に上半分を切られ、C断面(図61)では54号溝に上半分を切られていることが明確となった。またD断面(図63)では40号住居跡、E断面(図63)では52号住居跡をそれぞれ切っていることにより、本溝は40号・52号住居跡よりは新しく、53号・54号住居

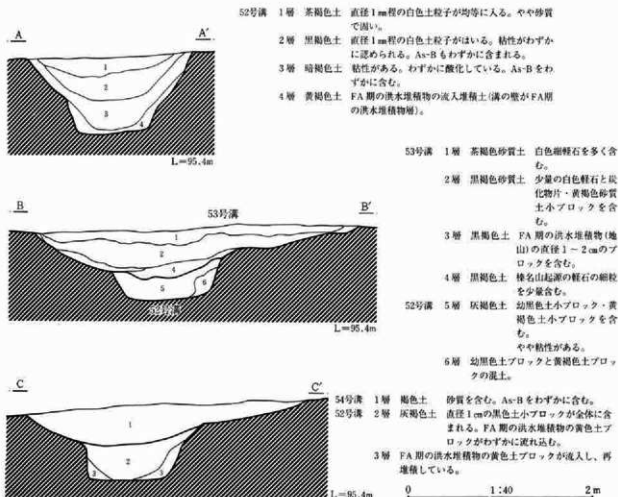


図61 52号・53号・54号溝土層断面

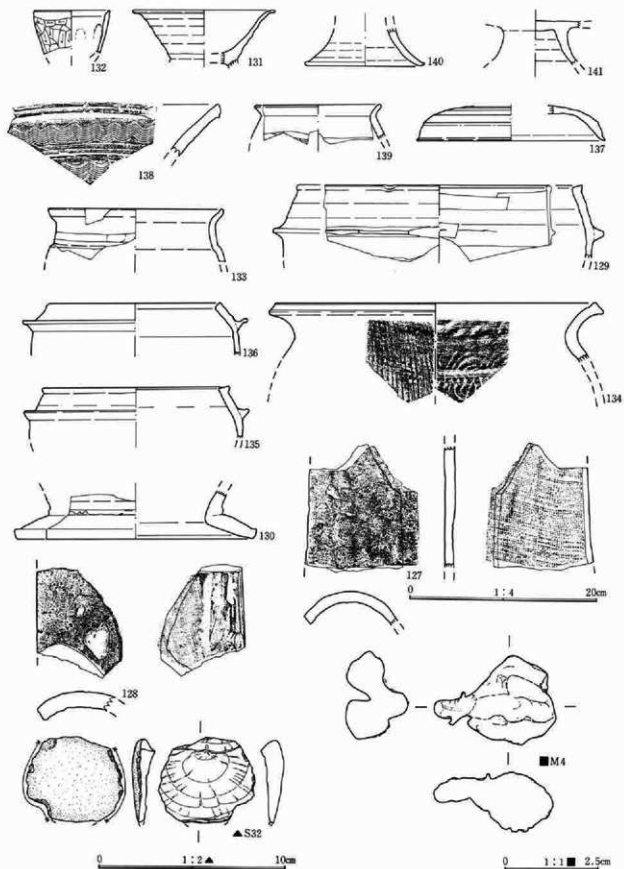


図62 52号溝出土遺物

第3章 溝の調査

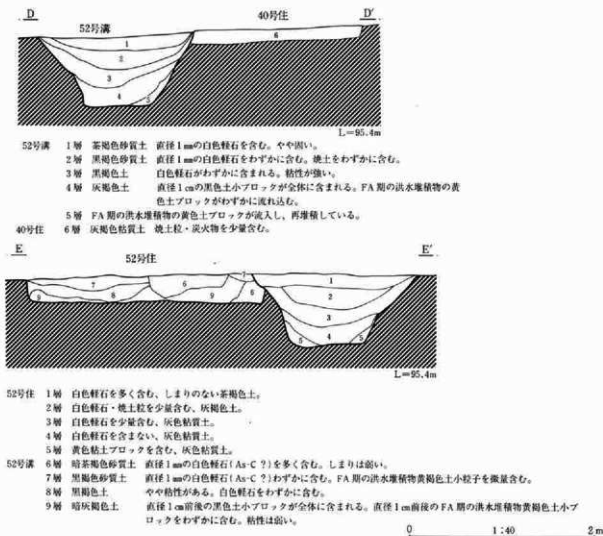


図63 52号溝土層断面

跡よりは古いことが、明らかになった。しかし、出土遺物から年代を推定するには、住居跡を切っていることなど重複が多いこと。溝の壁面に切られた遺構の遺物の露呈等が確認されたことから転落して溝内に入ったことも多分にあることが推測されたことから無理がある。したがってAs-B以降の遺構としてとらえておくことにした。(相京)

53号溝 村05-5, 0601-64, PL15-1-4, PL16-1-2, PL71-72, 表P. 20-22

位置 X-2B-63グリッド

重複 42号住居、51号・52号溝に後出する。

走向 東西方向の溝で、横く蛇行する。

規模 幅2.2m~3.4m 深さ0.3m~0.47m

調査長17.5m

形状 (傾斜 東端94.87m-西端94.53m)

比較的幅の広い溝である。北側の法面は一段であるが、南側の法面はテラス状の段をもって底面に至る。底面はほぼ平らで、やや東から西へ傾斜している。埋没土 上層には砂質土が堆積しているが、底面は住居等の埋没土と同じ黒褐色土であり、同様の埋没過程を示していると考えられる。

出土遺物 6世紀と考えられる197の土師器片や、19世紀と見られる陶器片など、時間的幅のある遺物が埋没土中から出土している。図示した遺物は、それらの中から数点選んで掲載した。底面密着で出土した遺物はない。

2 村前地区の溝

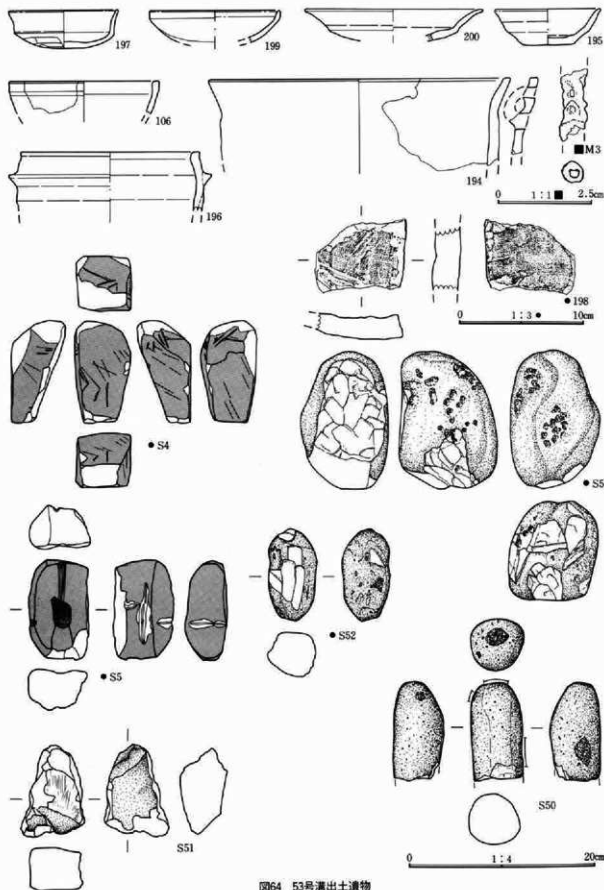


図64 53号溝出土遺物

第3章 溝の調査



- 54号溝 1層 砂質黒褐色土 白色軽石を多量に含む。
 66号溝 2層 灰褐色粘質土 白色軽石・黄色土粒を含む。
 3層 黄灰白色シルト。
 42号住居 4層 茶褐色土 多量の白色軽石を含む。
 5層 二次堆積FA期の洪水堆積物(地山)のブロックと細かい白色軽石を含む。茶褐色土・焼土粒・炭化物も含む。
 6層 灰褐色土 炭化物・焼土粒を含む。
 7層 黄灰白色粘質土ブロックを含む4層。
 53号溝 8層 茶褐色砂質土 細かい白色軽石を多量に含む。
 9層 黒褐色土 細かい白色軽石・少量の焼土粒と炭化物を含む。

図65 54号・66号溝土層断面

0 1:60 2m

出土した石器も時期は不明である。S 5、S 53は軽石製品であり、金属製の刃で削られたとみられる鋭利な削り痕がある。

調査所見 53号溝は、As-B が埋没土中に挟在する51号溝に後出し、この層序関係から、12世紀以後の開削と考えられる。したがって図示した土器のうち、195~200は混入である。194の土鍋は14世紀頃のものと考えられ、本溝は中世前半のものと考えられる。埋没土の観察から、流水の可能性は低く、地割りを示す溝と考えられよう。(小島)

石であり、そのうち1点が滑石の剥片石器である。土器には土師器の甕がある。

調査所見 51号・52号・64号溝、42号・43号住居跡と重複している。本溝はこれらの溝と住居跡をすべて切っており、後出するものである。(相京)

54号溝 付図5-5、図61-65-66、PL15-1、PL16-3、PL72、表P.22

位置 X-2B-62グリッド

重複 51号・52号・64号溝、42号・43号住居に後出する。

走向 東西方向

規模 幅1.0m~1.6m 深さ0.19m~0.4m

調査長22.0m

形状 (傾斜 東端95.21m-西端94.72m)

形状は良い所で中央がわずかに深く、やや平坦である。両端の掘り込み面付近で、緩やかに立ち上がる。埋没土 数カ所で土層観察をした結果、白色軽石を含み、砂質土であることが共通している。また土色については、観察地点により黒褐色土と茶褐色土の二つに大別できる。

出土遺物 6点の遺物が出土している。うち3点は

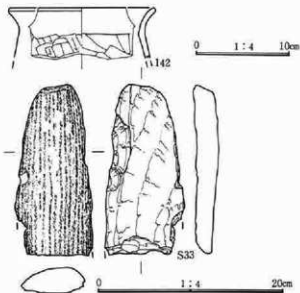


図66 54号溝土層断面と出土遺物

55号溝 付図5-5、図67、PL15-1、PL16-4、表P.22

位置 Y-Z-64・65、2A・2B-64グリッド

重複 52号溝に先行する。

走向 直線状を呈する。

規模 幅0.9m~1.4m 深さ0.19m~0.36m

調査長14.0m

形状 (傾斜 東端94.91m-西端94.90m)

ほぼ真っすぐな、断面箱形を呈する溝である。法面はほぼ垂直に近く立ち上がり、底面は平らである。51号溝に交わるあたりは浅くなり、51号溝より西では、55号溝は検出できなかった。

埋没土 地山の榛名山起源の軽石や、大形灰白色シルトのブロックを含む灰褐色土で埋没している。やや粘質の土が目立つ。人為的埋立ての可能性がある。

出土遺物 39片の土師器が出土しているが、図示が可能であったのは143のみである。

調査所見 55号溝南側には、55号溝の走向に平行する線状に柱穴群が並び、掘立柱の建物跡の存在が考えられる。これらのピット群は南へ広がる傾向をみせ、本55号溝はそれらの諸施設の北限の地割りの可能性もあろう。(小島)



- | | | |
|----|---------|---|
| 1層 | 茶褐色砂質土 | 細かい白色軽石を含む。 |
| 2層 | 茶褐色粘質土 | 直径0.5~1cmの地山の二次堆積FA期の洪水堆積物の小ブロック・直径1~2cmの黒色土ブロック・白色軽石を含む。 |
| 3層 | 灰褐色土 | 白色軽石・直径1~3cmの灰白色シルト小ブロックを含む。 |
| 4層 | 灰色粘質土 | 直径5~10cmの灰白色シルトブロック・直径0.5~1cmの黒色土小ブロックを含む。 |
| 5層 | 黒色土ブロック | |

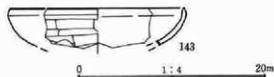


図67 55号溝土層断面と出土遺物

56号溝 付図5-4-5、図66-71、PL13-3-5、PL14-1-2、PL72-73、表P.22-25

位置 R-50・51、S-50~53、T-52~58、U-56~59グリッド

重複 43号溝に先行し、49号・58号・59号溝に後出。

走向 ほぼ南北方向であるが、緩く蛇行する。

規模 幅2.2m~3.2m 深さ0.65m~0.9m

調査長44.0m

形状 (傾斜 南端94.65m→北端94.60m)

確認面では、ほぼ上幅の一定した規格的な溝である。断面形は台形で、底面中央部には小礫のつまった小溝が検出されたが、これは59号溝の底面に連なる小溝であり、B-B'断面以南では、56号溝底面が図化されてしまっている。

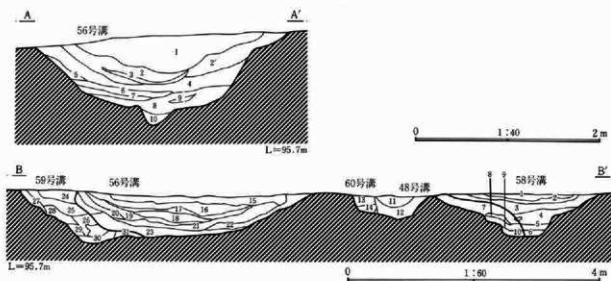
埋没土 溝埋没土のほとんどは、榛名山起源の軽石や炭化物土を含む住居跡埋没土と同様であるが、底面付近には砂や礫が堆積している。

出土遺物 埋没土中より、多量の土器片が出土している。図化したものは、底面より5~20cm前後浮いて出土したものが多く、遺物の大半は6世紀後半から7世紀の段階のものである。

調査所見 58号溝や59号溝と重なっている部分では、同時に掘り上げていることもあって、確実な形態を把握できたとは言えない。特に、56号溝B-B'断面以南の底面の小溝は59号溝のものであることから、56号溝は59号溝の掘り返しであり、B-B'断面以北の流路を、やや北へと変更したものと考えられる。(小島)

- | | | |
|-----|---------------------|--|
| 1層 | 茶褐色土 | 榛名山起源の軽石を多く含む。Hr-FA(黄褐色砂質土)ブロックを少量含む。砂質。 |
| 2層 | 暗茶褐色土 | 1層よりも暗い。炭化物粒子・榛名山起源の軽石を少量含む。砂質。 |
| 2層 | 2層には準ずるが、わずかに色調が暗い。 | |
| 3層 | 黒褐色土 | 炭化物を多量に含む。やや粘質がある。 |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 黒色土の游泥を少量含む。榛名山起源の軽石を少量、炭化物粒子をやや多めに含む。 |
| 5層 | 黄褐色土 | ほぼ地山ブロックに構成されるが、茶褐色土が混じる。やや粘質。 |
| 6層 | 暗灰褐色土 | Hr-FAのブロック(黄褐色砂質土)を多く含む。直径1cm程度の榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| 7層 | 暗褐色土 | 酸化鉄を多く含む。榛名山起源の軽石は含まれない。色調は、若干灰色がかる。 |
| 8層 | 灰白色粘質土 | 概ねわずかに榛名山起源の軽石・Hr-FAブロックが含まれる。 |
| 9層 | 暗灰褐色砂層 | 単一的。 |
| 10層 | 暗褐色砂礫層 | 粘土が底面付近に含まれる。礫、及び遺物が多く混じる。しまりは良い。 |

第3章 溝の調査



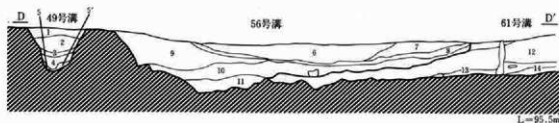
- | | | |
|------|--------------------|---|
| 58号溝 | 1層 褐色土 | 直径1-2mm程度の白色軽石を多く含む。黄褐色粗粒子を少量含む。しまりは良い。 |
| | 2層 暗青灰色土 | 粘性がある。直径1-2mm程度の白色軽石を少量含む。きめ細かい。 |
| | 3層 褐色細粒砂層 | 鉄分のため、黄褐色-高褐色を帯びる部分もある。しまりは悪い。 |
| | 4層 褐色細粒砂層 | 3層よりもやや細かい。しまりは悪い。若干、3層よりも粗い粒子が含まれる。 |
| | 5層 暗褐色砂層 | 直径1mm程度の砂を多く含む。4層よりも粒子は粗く、暗い。鉄分を含む。ガリガリする部分がある。 |
| | 6層 暗褐色砂礫層 | 直径5mm程度の小礫を多く含む。直径1-5cmの黒色土ブロックを含む。 |
| | 7層 茶褐色砂質土 | 直径1cm前後の黒色土ブロックの混入を多く含む。砂を多く含む。直径5cmの黄褐色地山ブロック含む。 |
| | 8層 褐色砂層 | 直径1cmの黒色土ブロックを極少量含む。しまりは悪い。 |
| | 9層 赤褐色砂礫層 | 直径1-2cmの黒色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。直径5mm前後の小礫も多量に含まれる。ガリガリしている。 |
| | 10層 赤褐色土 | 直径5mm前後の小礫、及び直径1cm前後の黒色土ブロックを含む。しまりは6層よりも良い。 |
| 48号溝 | 11層 黒色土 | 地山の黒色土を埋めたものが、直径1-2mmの白色軽石を少量含む。 |
| | 12層 褐色砂層 | きめ細かい粒子。直径3cm程度の黒色土と高褐色土のブロックを含む。しまりは悪い。 |
| 60号溝 | 13層 褐色砂層 | 直径3cm程度の黄褐色土ブロックを数点含む。14層よりもやや明るく、しまりは良い。 |
| | 14層 黄褐色砂層 | 直径1mm程度の砂の粒子で直径1cmの黄白色土ブロック、直径0.5-1cmの黒色土ブロックをやや多く含む。しまりは悪い。 |
| 56号溝 | 15層 褐色土 | 直径1-3mmの黄褐色土粒をやや多く、直径1-5mmの炭化物片を少量含む。黄白色土ブロックを少量直径1-3mmの白色軽石を多く含む。しまりは良い。 |
| | 16層 暗茶褐色砂質土 | 直径5mm程度の炭化物片を少量、直径0.1-1cmの白色軽石を1層よりも少なく含む。しまりは弱い。 |
| | 17層 青味を帯びる褐色シルト質礫層 | 鉄分集積のため、若干茶色味を帯びる。砂を少量含む。しまりは弱い。 |
| | 18層 暗茶褐色砂層 | 直径5mm程度の白色軽石を含む。粗い砂層だが、細かい礫を含む。しまりは弱い。 |
| | 19層 暗青灰色土 | 粘性がある。直径1-3cm程度の炭化物を多く含む。白色軽石を少量含む。粘土に近い感じ。 |
| | 20層 暗褐色土 | 直径1mm程度の白色軽石を少量、直径1-2mmの炭化物片も少量含む。若干白っぽい。 |
| | 21層 青白色を帯びる褐色土 | 粘性がある。シルトよりも粒子は細かい。礫名山起源の軽石を数点含む。鉄分が多量に集積している。 |
| | 22層 黄色味を帯びる褐色土 | 黄褐色土ブロックの混入を多く含む。少量の砂を含む。粘性がある。 |
| | 23層 暗褐色砂礫層 | 鉄分が多量に集積しており、部分的に赤褐色を呈する。やや青白っぽい。直径5mm程度の礫を、部分的に多く含む。 |
| | 23層 暗褐色砂質土 | 23層よりも粒子は細かく、礫等は含まれない。 |
| 59号溝 | 24層 赤褐色土 | 直径1-2mm程度の軽石を多量に含む。直径1-5cm程度の炭化物片を少量含む。しまりは良い。 |
| | 25層 暗褐色土 | 黒色土を少量含む。直径1-5mm程度の褐色を帯びる軽石を少量含む。しまりは24層よりも弱い。 |
| | 26層 暗褐色土 | 25層よりも若干白っぽい。黒色土を少量含む。軽石は殆ど含まれない。直径1mm-2mmの黄褐色土粒を少量含む。しまりは弱い。シルト質土層が少量含まれる。 |
| | 27層 褐色土 | 黄白色土粒を少量含む。砂が少量混じる。しまりは弱い。 |
| | 28層 暗褐色土 | 直径1-3cmの黄褐色土ブロックを少量、黒色土ブロック・粒子を多量に含む。直径5cmの砂のブロックも数点含まれる。 |
| | 29層 褐色土 | 黄褐色土ブロック・粒子を多量、黒色土ブロックを少量含む。砂を少量含む。シルト質土ブロックも混入。 |
| | 30層 青味を帯びる暗褐色砂層 | 直径1cm程度の黄褐色土ブロック・礫名山起源の軽石(円礫)を含む。砂の粒子は細かい。 |
| | 31層 黒色土と砂層の混合土 | 黒色土が極めて多く、直径1cmの黄褐色土ブロック、及び粒子を少量含む。しまりは悪い。 |

図88 56号・60号溝土層断面



- 56号溝 1層 褐色砂質土 直径1~5cmの黄褐色土ブロック及び直径1~5cmの黄白色土ブロックを多く含む。直径1~5mmの白色軽石を少量含む。砂を多く含む。直径1~5cmの黒褐色土ブロックが混じる。
- 2層 暗褐色砂層 鉄分が少量集積している。粒子は直径1~2mm程度のものを多く含む。粗い。やや白っぽい感じ。
- 3層 6層に近いが、6層よりやや明るく、粒子も若干細かい感じ。
- 4層 暗灰色土 粘性がある。直径1~3cm程の炭化物を多く含む。白色軽石を少量含む。粘土に近い感じ。
- 5層 暗褐色土 直径1mm程の白色軽石を少量。直径1~2mm炭化物片も少量含む。若干色調は暗い。
- 6層 青白色を帯びる褐色土。粘性がある。シルトよりも粒子は細かい。標名山起源の軽石を数点含む。鉄分を多量に集積している。
- 7層 茶褐色砂層 直径1mm前後の砂粒を主体とする粗い砂層。直径5mm程の小礫を含む。シルト質土を含む。
- 8層 褐色シルト質土 黄白色土ブロック溶混を含む。粘性がある。鉄分の集積が多い。5層よりもかなり暗い。砂粒を多く含む。
- 9層 褐色シルト質土 黄白色土ブロック溶混を含み、8層よりも若干暗い。粘性もやや弱い。
- 10層 褐色土 直径1mm前後の軽石を多く含む。黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは良い。
- 11層 黒色土と砂礫の混土。直径1cmの軽石・円礫も混じる。礫は直径5mm前後が多い。
- 58号溝 11層 褐色細粒砂層 やや青味を帯びる。鉄分を含む。しまりは悪い。
- 12層 褐色細粒砂層 やや青味を帯びる。11層よりも暗い。粒子も粗い。しまりは悪い。全体にやや白っぽい感じはする。
- 13層 暗褐色砂層 直径1mm前後の砂粒を多く含む。しまりは悪い。全体にやや白っぽい感じはする。
- 14層 暗褐色砂礫層 直径5mm程の小礫を多く含む。直径1~5cmの黒色土ブロックを含む。粒子は粗く、直径1~2mm程の砂と直径5mm程の小礫によって構成される。
- 14層 14層に近い小礫はあまり含まれず、砂粒の量は14層よりも多い。
- 15層 暗褐色砂質土 黒色土ブロックを少量含む。直径3cm程の標名山起源の軽石の円礫を含む。しまりは良い。

0 1:80 4m



- 49号溝 1層 黄色味を帯びる褐色土。直径0.5~1cmの黄褐色土小ブロック、及び粒子をやや多く含む。直径1~2mm程の白色軽石を多く含む。しまりは良い。
- 2層 褐色土 やや砂質。直径1mm程度の白色軽石を少量含む。しまりは、1層よりも弱い。
- 3層 褐色砂層 2層よりも、やや白っぽい。しまりは悪い。単一的。
- 4層 暗褐色砂層 不明瞭なツミナが認められ、下部はやや粒子は粗く、直径2~3mm程の砂粒が認められる。
- 5層 褐色砂層 2層に近いが、2層よりも暗い。粒子もやや細かい感じ。単一的。しまりは強い。
- 5層 褐色砂層 5層とはほぼ同じであるが、黄褐色土ブロックが少量混じる。しまりは弱い。
- 56号溝 6層 褐色砂質土 直径1~5cmの黄褐色土ブロック・黄白色土ブロックを多く含む。直径1~5mmの白色軽石を少量含む。砂を多く含む。直径1~5cmの黒褐色土ブロックが混じる。
- 7層 暗褐色土 直径0.5~1cmの標名山起源の軽石を少量含む。直径1mm程の粒子は、やや多く含む。黒色土と黄褐色土のブロックは含まれない。しまりは良い。
- 8層 暗灰色土 粘性がある。直径1~3cm程の炭を多く含む。白色軽石を少量含む。粘土に近い感じ。
- 9層 暗褐色土 直径1mm程の白色軽石を少量。直径1~2mmの炭化物片も少量含む。若干色調が暗い。
- 10層 青白色を帯びる褐色土。粘性がある。シルトよりも粒子は細かい。標名山起源の軽石を数点含む。鉄分を多量に集積している。
- 11層 茶褐色砂層 直径1mm前後の砂粒を主体とする粗い砂層。直径5mm程の小礫を含む。シルト質土を含む。
- 61号溝 12層 やや白っぽい暗褐色砂層と黒色土の混土。黄褐色土ブロックも少量混じる。しまりは非常に良い。
- 13層 暗灰色シルト質土 黒色土、及び黄褐色土の粒子はほとんど含まれない。
- 14層 暗褐色砂層 若干茶色味を帯びる。13層よりもややしまりは悪い。

0 1:40 2m

図69 49号・56号・58号・61号溝土層断面

第3章 溝の調査

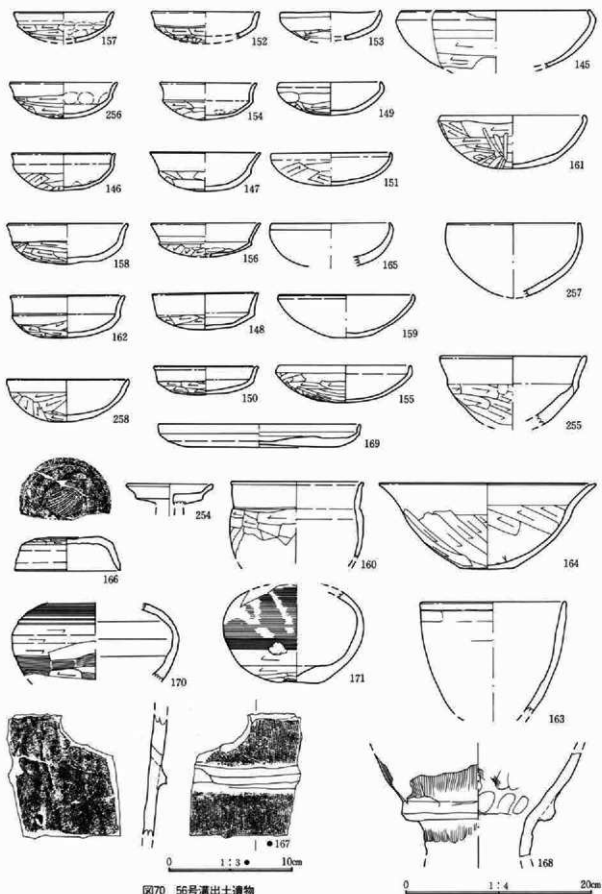


図70 56号清出土遺物

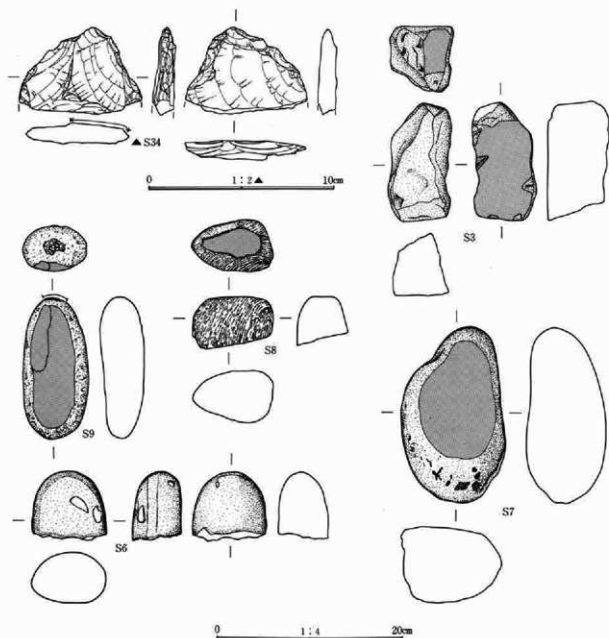


図71 56号溝出土遺物

57号溝 付録5-4、図72-73、PL13-5、PL14-3、PL16-5、PL73、表P.26

位置 Q-50~52、R-50~54グリッド

重複 61号溝、30号・34号住居に先行し、58号溝に後出する。

走向 調査区域内ではほぼ直線を呈する。

規模 幅0.6m~1.4m 深さ0.3m~0.43m

調査長19.0m

形状 (傾斜 北端95.15m-南端94.70m)

断面形は底面の丸い逆台形を呈する。34号住居に壊

され、以北の形状は定かではない。

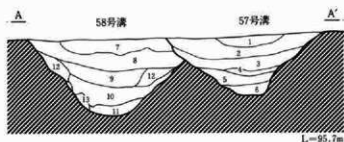
埋没土 ほとんどが、砂礫質の土砂で埋まっていることを特徴とする。

出土遺物 埋没土中から、数片の土器、石が出土しただけである。

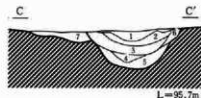
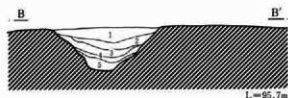
調査所見 底面の傾斜や埋没土下半の砂礫層の存在から、北から南へ南流する水路として掘られた可能性が高い。取水や受益地など、用途については不明である。

(小島)

第3章 溝の調査



- 57号溝
- 1層 暗褐色砂質土 直径1-2mmの白色軽石(樺名山起源の軽石?)をやや多く含む。しまりは良い。
 - 2層 褐色砂質土 直径1-5mmの白色軽石(樺名山起源の軽石?)をやや多く含む。1層に比べて、やや茶色味を帯びる。
 - 3層 暗褐色土 やや砂質。2層に比べて暗い。黄灰白色土ブロックを含む。白色軽石はかなり少量含まれる。
 - 4層 褐色細粒砂層 わずかに青味を帯びる。若干シルト質で、5層よりも粒子は細かい。しまりは悪い。
 - 5層 褐色細粒砂層 4層よりもわずかに暗い。4層よりも粗い粒子を含む。しまりは悪い。鉄バクテリアの影響で赤味を帯びる。
 - 6層 暗褐色砂層 5層よりも暗く、粒子も粗い。しまりは悪い。
- 58号溝
- 7層 暗褐色土 極めて多量の直径1-5cmの黄灰白色土ブロックを含む。直径1-5mmの白色軽石をやや多く含む。
 - 8層 暗褐色砂質土 白色軽石を少量含む。鉄分のため、わずかに赤味を帯びる。
 - 9層 褐色細粒砂層 やや青味を帯びる。鉄分を含む。しまりは悪い。
 - 10層 褐色細粒砂層 やや青味を帯びる。9層よりも暗い。粒子も粗い。しまりは悪い。
 - 11層 暗褐色砂層 直径1mm前後の砂粒を多く含む。しまりは悪い。
 - 12層 暗褐色砂質土 鉄分を含む。茶色味を帯びる。9-10層よりも粗い。黄褐色土ブロックを1、2点含む。
 - 13層 茶褐色砂層 鉄分を多く含み、赤味が強い。かなり構成粒子は粗い。



- 1層 暗褐色土 わずかに茶色味を帯びる。直径1mm前後の白色軽石を少量含む。直径1-2cmの樺名山起源の軽石の円礫を数点含む。
- 2層 暗褐色土 1層よりも暗い。直径1mm前後の白色軽石を、1層よりもかなり少なく含む。しまりは良い。
- 3層 暗褐色土 2層よりも明るく、1層よりも暗い。鉄分を若干含み、やや赤色味を帯びる。しまりはやや良い。
- 4層 褐色砂質土 若干白っぽい感じ。しまりは悪い。粒子は非常に細かい。
- 5層 褐色砂質土 直径1-2cmの黒色土ブロックを多く、黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは悪い。

- 1層 暗褐色土 わずかに茶色味を帯びる。直径1mm前後の白色軽石を少量含む。直径1-2cmの樺名山起源の軽石の円礫を数点含む。
- 2層 暗褐色土 1層よりも暗い。直径1mm前後の白色軽石を、1層よりもかなり少なく含む。しまりは良い。
- 3層 暗褐色土 2層よりも明るく、1層よりも暗い。鉄分が若干集積し、やや赤色味を帯びる。しまりはやや良い。
- 4層 褐色砂質土 若干白っぽい感じ。しまりは悪い。粒子は非常に細かい。
- 5層 褐色砂質土 直径1-2cmの黒色土ブロックを多く、黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは悪い。
- 6層 暗褐色土 直径1-2cmの黄褐色土粒子を少量、直径1cmの黒色土ブロック・直径5mmの同粒子を多く含む。しまりは良い。
- 7層 褐色土 直径1-2mmの黄褐色土粒子を多く含む。白色軽石粒子を少量含む。直径1-2cmの黒色土ブロックを少量含む。しまりは良い。

0 1:40 2m

図72 57号-58号溝土層断面

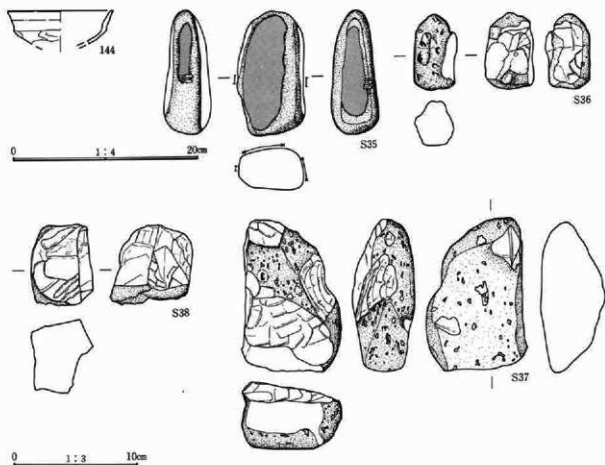


図73 57号溝出土遺物

58号溝 付図5-4, B68-69-72-74-75, PL13-4-5, PL14-3-4, PL74, 表P.26-27

位置 R・S-51~54グリッド

重複 56号溝に先行し、57号溝に後出する。

走向 ほぼ直線的である。

規模 幅1.8m~2.5m 深さ0.6m~0.84m

調査長12.0m

形状 (傾斜 北端94.8m-南端94.7m)

56号・46号溝との重複関係を示すB-B'断面以南は、幅が一定した直線状を呈するが、以北はやや北側に膨らむ。断面形は逆台形を呈し、底面はほぼ平らである。

埋没土 下半部は砂質土で、埋没している。

出土遺物 埋没土中から土師器片・須恵器片が出土している。174を図示した。また172の須恵器長頸壺

口縁部片が中位法面直上から出土している。石器の出土も多く、57号溝同様、軽石製品が2点出土した。また溝底面黒色粘土中から磨製石鏃1点が出土したが、混入と考えられる。

調査所見 埋没土から、流水の可能性があると考えられる。56号溝と同規模、同形態の溝であり、同様の用途が考えられる。(小島)

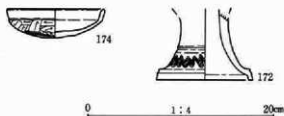


図74 58号溝出土遺物

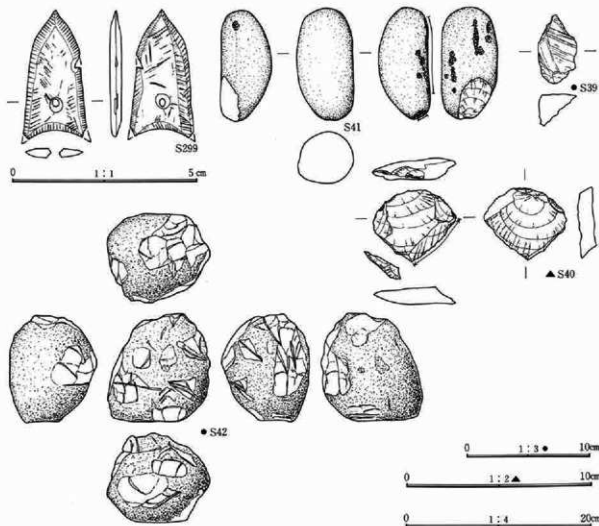


図75 56号溝出土遺物

59号溝 村05-4, 0668-76, PL13-5, PL14-1-5, PL74, 表P.27

位置 T-51-53グリッド

重複 56号溝に先行する。

走向 直線状を呈する。

規模 幅1.9m-2.4m 深さ0.7m-0.9m

調査長6.0m

形状 (傾斜 南端94.64m-北端94.60m)

底面中央に幅の狭い通水溝があり、断面形は薬研堀に近い形態を示す。56号・58号溝と同様な形態を呈している。

埋没土 底面には、厚さ10cmほどの砂がたまっており、短期的な流水を推定させる。

出土遺物 56号溝との合流左岸の法面下位に杯形土

器が出土している。

調査所見 56号・58号溝と同形態の溝であり、同様な用途に使われたものであろうと思われる。(小島)

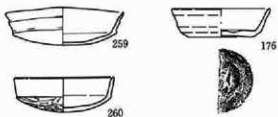


図76 59号溝出土遺物

60号溝 村前5-4, 1088, PL13-1-5, PL14-6

位置 S-52~54グリッド

重複 48号・49号溝に先行する。

走向 ほは直線状をなす。49号溝以南の走向は不明である。

規模 幅0.4m~0.6m 深さ0.2m~0.3m

調査長6.0m

形状 (傾斜 南端95.34m~北端95.14m)

断面箱形の溝である。底面はほぼ平らで、南から北へ傾斜している。周辺に群在する溝の中では細く、浅い小規模な溝である。

埋没土 48号溝との重複土層断面で観察すると、確認面から底面まで砂で埋没している。流水のあった可能性があろう。

出土遺物 土師器・須恵器片が15片出土したにとどまり、図示可能な遺物は出土しなかった。

調査所見 48号・49号溝に先行するという事実のみで、掘削時期その他を考える資料はない。平面的な位置関係から、本60号溝が洪水砂で埋まったために、49号溝が掘り直されたことも考えられる。(小島)

61号溝 村前5-4, 1099-77~81, PL13-3, PL16-5~8, PL17-1, PL74-75, 表P.27-28

位置 O-46~48, P-46~50, Q-50・51, R-51グリッド

重複 56号溝に先行し、57号・58号・68号~71号溝、31号・34号・35号・65号・67号住居に後出する。

走向 東へ膨らむ弧状を呈する。

規模 幅0.9m~1.4m 深さ0.26m~0.78m

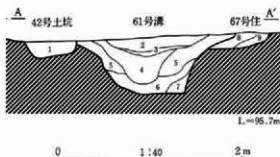


図77 61号溝土層断面

調査長36.0m

形状 (傾斜 南西端95.0m~北端94.89m)

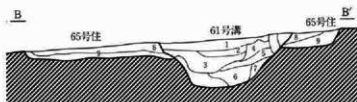
底面幅1cm前後の断面葉形を呈す溝である。重複も多く、住居群のほは中央を貫く形で掘られている。埋没土 白色軽石や焼土粒を含む黒褐色土、茶褐色土で埋まっており、住居跡の埋没過程と同様と考えられる。A-A'断面では、61号溝がほぼ埋まった段階で炭化物層が堆積しており、注目される。埋没途中で何等かの廃棄が行われたと考えられ、炭化物層の上には須恵器片が出土している。

出土遺物 埋没土中から多量の遺物が出土している。図示し得たのは一部であるが、178はQ-51グリッドで、底面から9.5cm浮いた状態で出土した。179~181の土師器杯形土器は、いずれも埋没土中の出土である。207・209の須恵器の壺は、先述したA-A'断面北側のO-46グリッドの炭化物層上に出土したもので、図80に出土状態を示した。S31は、O-47グリッドで、底面から45cm浮いた状態で出土した。角閃石安山岩を削り出して四角柱状に整形したもので、カマド構築材の可能性が高い。

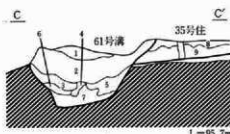
調査所見 複数の遺構を切って掘られている本溝は、古墳時代の遺物も出土しており、時期を考える上で困難を極めている。図示した土師器の杯形土器は31号住居付近で出土しており、住居を壊した際に混入したものととも考えられる。205・207の須恵器は、溝がほぼ埋まった際に溝内に投棄されたと考えられ、溝の機能した時間の下限を示すと言えるが本溝の時期を特定することは困難である。(小島)

- | | | |
|-------|----|--------------------------------------|
| 42号土坑 | 1層 | 細かい白色軽石を含む、茶褐色砂質土。 |
| 61号溝 | 2層 | 茶褐色粘質土 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む。 |
| | 3層 | 焼土粒を含む炭化物層。 |
| | 4層 | 灰褐色砂質土 少量の白色軽石・焼土粒を含む。 |
| | 5層 | 灰褐色土 細かい白色軽石・黄色土粒・炭化物粒を含む。 |
| 67号住居 | 6層 | 灰色シルト質土 直径1~2cmの黒色粘土小ブロック・黄色土粒を含む。 |
| | 7層 | 灰色土 黄色砂質土粒・直径2~3cmの黄色砂質土小ブロックを多量に含む。 |
| 67号住居 | 8層 | 白色軽石・焼土粒を含む黒褐色土。 |
| | 9層 | 炭化物粒を含む灰褐色砂質土。 |

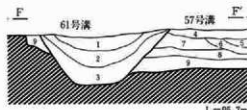
第3章 溝の調査



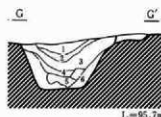
- 61号溝
- | | | |
|-------|--------|--|
| 1層 | 茶褐色土 | 細かい白色軽石・炭化物粒を含む。 |
| 2層 | 黒褐色土 | 白色軽石・炭化物粒を含む。 |
| 3層 | 灰色粘質土 | 白色軽石・少量の炭化物粒を含む。 |
| 4層 | 黒褐色粘質土 | 少量の白色軽石と焼土粒を含む。 |
| 5層 | 黒灰色粘質土 | 少量の白色軽石と焼土粒を含む。 |
| 6層 | 茶褐色土 | 直径1~2cmの黒褐色粘土小ブロック・白色軽石を含む。 |
| 7層 | 黒褐色土 | 直径3~5cmの黒褐色粘土ブロックと直径1~2cmの黄色土小ブロックが多量に混じる。 |
| 65号住居 | 8層 | 茶褐色土 |
| | 9層 | 黄色砂壤土、黒色粘土のブロックの混土。 |



- 61号溝
- | | | |
|-------|--------|---|
| 1層 | 茶褐色土 | 細かい白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む。 |
| 2層 | 黒褐色土 | 白色軽石・炭化物粒を含む。 |
| 3層 | 灰色粘質土 | 白色軽石と少量の炭化物粒を含む。 |
| 4層 | 黒褐色粘質土 | 少量の白色軽石と焼土粒を含む。 |
| 5層 | 黒灰色粘質土 | 少量の白色軽石と焼土粒を含む。 |
| 6層 | 茶褐色土 | 直径1~2cmの黒褐色粘土小ブロック・白色軽石を含む。 |
| 7層 | 黒褐色土 | 直径3~5cmの黒褐色粘土ブロックと直径1~2cmの黄色土ブロックが多量に混じる。 |
| 35号住居 | 8層 | 細かい白色軽石を含む黄灰色砂質土。 |
| | 9層 | 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む灰色粘質土。 |



- 61号溝
- | | | |
|------|---------|---|
| 1層 | 暗褐色土 | 直径3~5mm前後の炭化物顆粒子を少量含む。直径1~3mmの黄褐色土粒子をやや多く含む。直径1~5mmの白色軽石をやや多く含む。 |
| 2層 | 青灰褐色砂質土 | 粒径0.5~1cm程度の標名山起源の軽石を少量含む。鉄分のため、1層よりもやや赤味を帯びる。 |
| 3層 | 青灰褐色砂層 | 岡地はやや赤色味を帯び、黄褐色土ブロック、及び黒色土ブロックを少量含む。しまりは良い。褐色土を含む。白色軽石も少量含まれる。下部には軽石は含まれない。 |
| 57号溝 | 4層 | 暗褐色土 |
| | 5層 | 暗褐色土 |
| | 6層 | 暗褐色土 |
| | 7層 | 暗褐色土 |
| | 8層 | 褐色砂質土 |
| | 9層 | 褐色砂質土 |
- わずかに赤色味を帯びる。直径1mm前後の白色軽石を少量含む。直径1~2cmの標名山起源の軽石の円盤を数点含む。
4層よりも暗い。直径1mm前後の白色軽石を、4層よりもかなり少なく含む。しまりは良い。
5層よりも明るく、4層よりも暗い。鉄分を若干含み、やや赤味を帯びる。しまりはやや良い。
直径1~2mmの黄褐色土粒子を少量、直径1cmの黒色土ブロック・直径5mmの黒色土粒子を多く含む。若干白っぽい感じ。しまりは悪い。粒子は非常に細かい。
直径1~2cmの黒色土ブロックを多く、黄褐色土ブロックを少量含む。しまりは悪い。

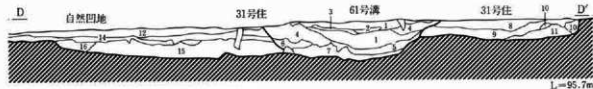


- 61号溝
- | | | |
|------|--------------|--|
| 1層 | 暗褐色土 | 直径3~5mm前後の炭化物顆粒子を少量含む。直径1~3mmの黄褐色土粒子・直径1~5mmの白色軽石をやや多く含む。 |
| 2層 | 暗褐色土 | 直径3~5mm前後の炭化物顆粒子を少量含む。直径1~3mmの黄褐色土粒子を多く含む。直径1~5mmの白色軽石を少量含む。1層よりも暗い。 |
| 3層 | 黄色味を帯びる茶褐色土。 | 青灰褐色土を少量含む。白色軽石は極少量含まれる。しまりは良い。 |
| 4層 | 黄色味を帯びる茶褐色土。 | 3層よりも、青灰褐色土を多く含む。しまりはやや良い。 |
| 57号溝 | 5層 | 青灰褐色砂質土 |
| | 6層 | 青灰褐色粘質土 |
- 直径1~2cmの黄白褐色土ブロックを少量含む。粘性がある。
黒色土ブロックを多く含む。黄白褐色土ブロックをやや多く含む。しまりは良い。

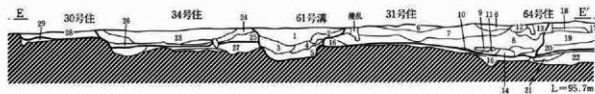
図78 61号溝土層断面

0 1:4 2m

2 村前地区の溝



- 61号溝
- 1層 灰褐色土 白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を多く含む。
 - 2層 灰褐色土 細かい白色軽石と黒色土ブロックを多量に含む。
 - 3層 灰褐色土 細かい白色軽石を含む。
 - 4層 1層に似るが、軽石・黄色土粒の量が多い。
 - 5層 茶褐色土 地山の直径1~2cmの幼黒色粘質土小ブロックと黄色土粒を含む。
 - 6層 地山の直径3~5cmの幼黒色粘質土ブロックと直径1~2cmの黄色土小ブロックと茶褐色土の混土。
 - 7層 黄褐色土 黄褐色土粒、地山の直径1~2cmの幼黒色土小ブロックを多量に含む。やや粘質。
- 31号住居
- 8層 焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土。やや砂質。
 - 9層 直径3~5cmの黄色砂礫土(地山)の小ブロック、及び粒子を含む、焼土粒・炭化物粒を混じる茶褐色土。
 - 10層 黒褐色土粒を塊状に混じる灰褐色シルト質土。
 - 11層 焼土粒・炭化物粒を含む10層。
- 自然凹地
- 12層 白色軽石を多量に含む灰褐色粘質土。鉄分集積がみられる。
 - 13層 幼黒色粘質土粒を塊状に、多量に含む灰褐色土。
 - 14層 砂と直径1~2cmの灰白色粘土小ブロックを含む灰褐色粘質土。
 - 15層 ヲミノ状の砂と小礫の互層。
 - 16層 角閃石を含む直径10~15cmの軽石と砂粒を含む灰褐色粘土。



- 61号溝
- 1層 茶褐色粘質土 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を含む。
 - 2層 焼土粒を含む炭化物粒。
 - 3層 灰褐色砂質土 少量の白色軽石・焼土粒を含む。
 - 4層 灰褐色土 細かい白色軽石・黄色土粒・炭化物粒を含む。
 - 5層 灰色シルト質土 直径1~2cmの黒色粘土小ブロック・黄色土粒を含む。
- 31号住居
- 6層 細かい白色軽石を少量と、焼土粒・黄色シルト質土を含む。やや砂質の黄褐色土。
 - 7層 焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土。やや砂質。
 - 8層 直径3~5cmの黄色砂礫土(地山)の小ブロック、及び粒子を含む、焼土粒・炭化物粒を混じる茶褐色土。
 - 9層 黄灰色砂礫土ブロック
 - 10層 黄褐色シルト
 - 11層 焼土粒・炭化物粒を含む茶褐色土。
 - 12層 白色軽石・焼土粒・炭化物粒を多く含む黄褐色土。
 - 13層 直径2~3cmの焼土の小ブロックを多量に含む茶褐色土。
 - 14層 灰白色砂礫土
 - 15層 灰白色土粒・黒色土粒を多量に含む灰褐色土。
 - 16層 灰白色シルト
- 64号住居
- 17層 黄灰色白色土 直径2cmの角閃石安山岩をわずかに含む、小粒子を全体に含む。細かい。
 - 18層 褐色土 直径0.5mm以下の角閃石安山岩を全体に含む。
 - 19層 暗褐色土 角閃石安山岩を全体に含む。直径0.5cmの小粒が、10cm当たり1個混入。
 - 20層 暗褐色土 角閃石安山岩を全体に含む。直径0.5cmの小粒が、10cm当たり1個混入。全体に砂が混入している。
 - 21層 灰白色土 Hr-Faがブロック状になり、堆積している。砂質。
 - 22層 灰白色土 砂。
- 34号住居
- 23層 白色軽石・焼土粒・直径1~2cmの幼黒色土小ブロックを含む茶褐色土。
 - 24層 炭化物を多量に含む黒褐色土。
 - 25層 白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を多く含む灰褐色粘質土。
 - 26層 灰色シルト
 - 27層 黄色砂礫土ブロック・幼黒色土ブロックを含む灰色土(掘り方)。
- 30号住居
- 28層 細かい白色軽石・焼土粒・黄色土粒・幼黒色土粒を含む茶褐色土。
 - 29層 黒褐色土粒・黄褐色土粒の混土。

図79 61号溝土層断面

0 1:60 2m

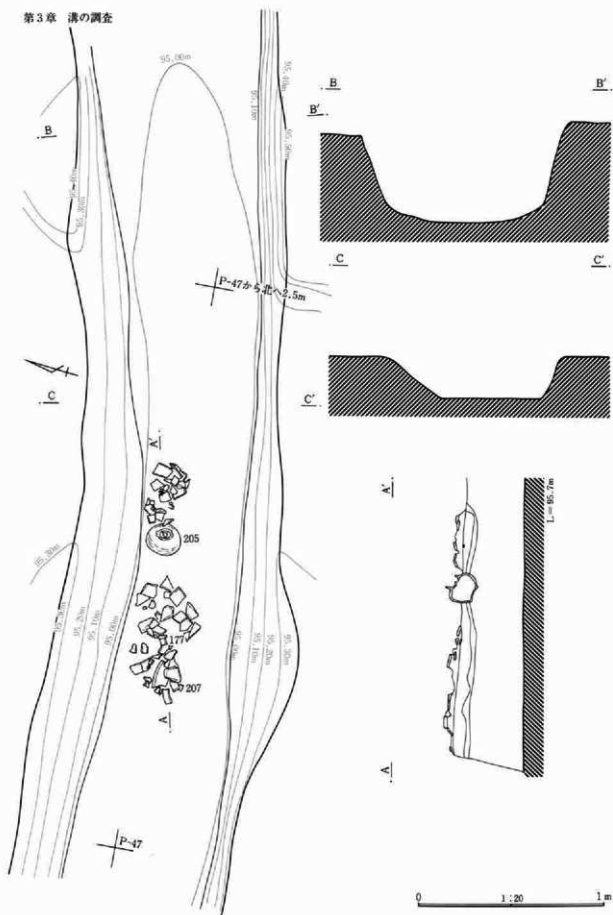


図80 61号溝遺物出土状態

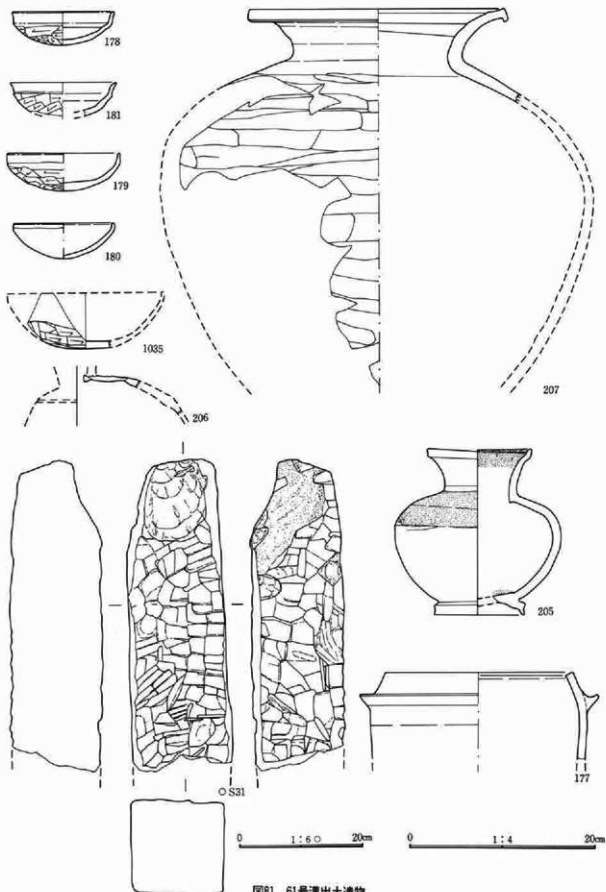


図81 61号溝出土遺物

第3章 溝の調査

63号溝 付図5-5、PL15-1

位置 W-62、X-2A-61・62グリッド

重複 51号・52号溝に先行し、40号・41号・50号住居に後出する。

走向 ほぼ東西方向を示し、直線状を呈する。

規模 幅0.6m～1.3m 深さ0.2m～0.5m

調査長18.0m

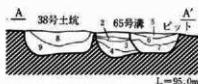
形状 (傾斜 東端95.1m-西端94.84m)

東半分は確認面が高く、50cmほどの深さで検出できたが、西半分は底面付近のみの検出にとどまっている。

埋没土 白色軽石を含む砂質黒色土で埋まっている。

出土遺物 なし。

調査所見 掘削時期は10世紀後半頃と考えられる40号住居を切っていること、As-Bの純堆積のある51号溝に先行することから、10世紀後半～11世紀の掘削と考えられる。流水を示唆する埋没状況はなく、地割りの溝と考えられる。(小島)



- | | | | |
|-------|----|------|---|
| 65号溝 | 1層 | 暗褐色土 | 直径1mm未満の軽石(Aa-B?)を少量含む。単一的。やや砂質。 |
| | 2層 | 暗褐色土 | 黒褐色土の溶混を含む。軽石はほとんど含まず、1・3層より細かい。 |
| | 3層 | 暗褐色土 | 直径1～5mmの焼土粒子を少量、灰白色地山粒子をやや多く含む。 |
| | 4層 | 暗褐色土 | 3層よりやや明るく、粘性がある。灰白色地山ブロックを少量含む。 |
| ピット | 5層 | 暗褐色土 | 直径1～5mm未満の灰白色地山粒を多量に含む。軽石を少量含む。 |
| | 6層 | 暗褐色土 | 青灰色砂質土が帯状に不規則に入る。直径1～5mmの灰白色地山粒を少量、焼土粒子を微量含む。 |
| | 7層 | 暗褐色土 | ほぼ単一的。6層より明るく、粘性がある。 |
| 38号土坑 | 8層 | 暗褐色土 | 直径1mm未満の軽石を少量含む。単一的。やや砂質。 |
| | 9層 | 暗褐色土 | 直径1～2cmの黄灰白色地山ブロック、及び粒子を多く含む。しまりは悪いが、粘性がある。 |

0 1:40 2m

図82 65号溝土層断面

65号溝 付図5-5、D82、PL16-6

位置 2A-62・63、2B-62グリッド

重複 51号溝、46号住居

走向 ほぼ東西方向の溝で、やや南に膨らむ。

規模 幅0.35m～0.6m

調査長5.0m

形状 (傾斜 西端94.6m-東端94.4m)

溝の幅や法面の傾斜は、ほぼ一定している。断面形は細いU字形を呈する。底面は幅0.18～0.28mであり、あまり凹凸はない。

埋没土 暗褐色土により埋まっていた。

出土遺物 なし。

調査所見 定形化した溝であるが、埋没土の状況から、流水のあった可能性は少ないと思われる。しかし、夏になるとこの地点では水位が上がり、本溝も湧水があることからすると、水の流れた可能性を考えても良いものと思われる。掘削の時期は、不明である。(松村)

66号溝 付図5-5、D65-83、PL74-75、表P.28

位置 X-Z-62グリッド

重複 54号溝に先行し、42号住居に後出する。

走向 直線方向に近いが、緩く湾曲する。

規模 幅0.8m～1.3m 深さ0.05m～0.39m

調査長8.0m

形状 (傾斜 不明)

42号住居床面調査時に住居内に検出した。底面には小さな凹凸が多くある。住居外へ出る東端は十分に検出していない。西端は40号住居南壁と重なり、詳細は不明である。

埋没土 白色軽石・黄色土粒を含む灰褐色粘質土で埋まり、下層には黄灰色シルトが堆積している。

出土遺物 ほとんど底面についた状態で、土師器杯形土器や甕形土器の破片が出土している。201はほぼ中央部で出土したもので、他は埋没土中の出土である。

調査所見 住居に先行する遺構でありながら、住居の掘り方と一緒に掘り下げになってしまったために、データが少なくなりました。出土遺物は、42号住居のものともあまり時間的隔たりのないものと考えられる。(小島)

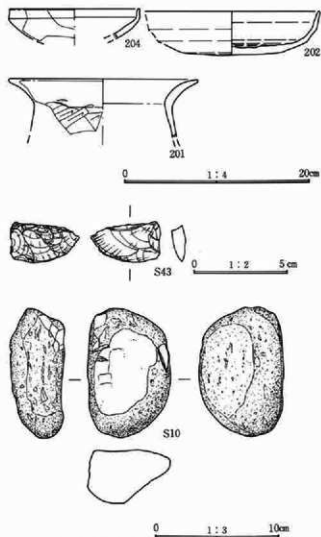


図83 66号溝出土遺物

68号溝 付図5-4, 図84, PL17-2

位置 O・P-48グリッド

重複 61号溝に先行し、65号住居・69号溝に後出。

走向 直線状を呈する。

規模 幅0.35m～0.65m 深さ0.02m～0.06m

調査長5.0m

形状 (傾斜 北東端95.65m-南西端95.31m)

断面形は丸い箱形を呈する。底面にはやや凹凸がある。

埋没土 焼土粒や白色軽石を含む黒褐色土で埋没している。

出土遺物 埋没土中から数片の土師器・須恵器破片が出土したのみである。

調査所見 北東部は68号住居によって破壊されており、61号溝より南西部では確認できなかった。(小島)

69号溝 付図5-4, 図84-85, PL17-2, 表P.29

位置 N-P-48・49グリッド

重複 61号・68号溝に先行し、69号住居に後出する。

走向 南西部は68号溝に平行するが、東へ80°ほど屈曲する。

規模 幅0.4m～1.2m 深さ0.22m～0.3m

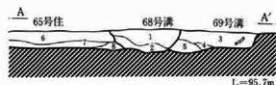
調査長6.0m

形状 (傾斜 南西端95.38m-南東端95.3m)

68号溝と平行する部分は、それと同規模の浅い溝であるが、東へ屈曲した部分は幅も広がっている。

埋没土 上半部は白色軽石・黄色土粒の混じる黄褐色土で埋まり、下半部は黒褐色土で埋まっている。

出土遺物 浅い方の部分から、須恵器・土師器の破片が出土している。図示した185には、焼成時に付着したと考えられる礫・土塊が見られる。



- | | | |
|-------|----|----------------------------------|
| 68号溝 | 1層 | 黒褐色土 白色軽石を多量に含み、少量の焼土粒・黄色土粒が混じる。 |
| | 2層 | 灰褐色土 白色軽石・黄色土粒を含む。 |
| 69号溝 | 3層 | 黄褐色土 細かい白色軽石を多量に含み、黄色土粒を多く含む。 |
| | 4層 | 3層に黒色土粒を混じる。 |
| | 5層 | 黒褐色土 白色軽石・黄色土粒が混じる。 |
| 65号住居 | 6層 | 細かい白色軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む茶褐色土。 |
| | 7層 | 炭化物を多量に含み、焼土粒を混じる黒褐色土。 |
| | 8層 | 焼土粒・炭化物粒を少量混じる灰色粘質土。 |

0 1:40 2m

図84 68号・69号溝土層断面

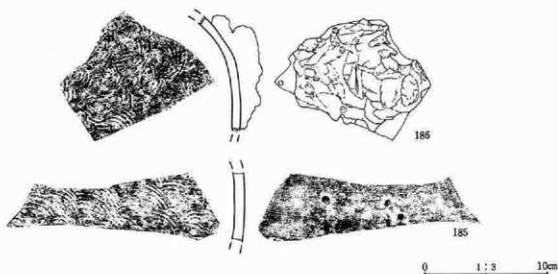


図85 69号溝出土遺物

調査所見 形態の異なる部分からなる本溝は、調査時には一遺構としているが、別の遺構の可能性もある。
(小島)

70号溝 付図5-4, B086-88, PL17-3, PL75, 表P.29

位置 M-O-46グリッド

重複 71号・79号溝、72号・89号・91号住居に後出する。

走向 はほぼ東西方向を示す。

規模 幅0.65m～1.6m 深さ0.09m～0.28m

調査長11.0m

形状 (傾斜 東端95.51m-西端95.22m)

断面箱形を呈する溝である。72号住居との重複部分

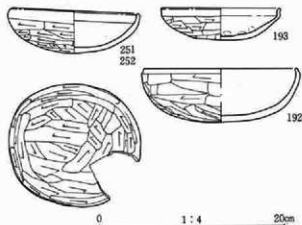
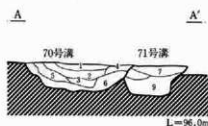


図86 70号溝出土遺物

は住居床面での検出の為、浅くなっている。72号住居西では土橋状に掘り残された部分がある。さらにその西3mほどで、溝は途切れている。

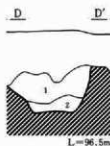
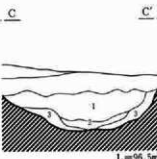
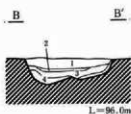
埋没土 白色軽石や黄色土を混じるやや粘質の灰褐色・茶褐色の土で埋没している。

出土遺物 O-46グリッド部分に集中して、土師器



- 70号溝**
- 1層 黒褐色粘質土 直径0.5～1cmの黄色砂礫土小ブロック・白色軽石・直径0.5～1cmの黒色粘土粒が混じる。
 - 2層 少量の黒色土粒・直径1～2cmの黄色土小ブロックと、白色軽石を含むやや粘質の茶褐色土。
 - 3層 灰色粘質土
 - 4層 粘質茶褐色土 細かい白色軽石を多量に含む。
 - 5層 灰褐色粘質土 白色軽石と黄色土粒を含む。
 - 6層 直径2～3cmの黒色粘土小ブロックを含む5層。
 - 7層 茶褐色土 白色軽石・黄色土粒・黒色土粒を含む。
- 71号溝**
- 8層 灰褐色砂礫土 白色軽石・黄色土粒を含む。
 - 9層 灰褐色砂礫土 白色軽石・直径3～4cmの黄色砂礫土ブロック・砂利・砂が混じる。

図87 70号・71号溝土層断面



- 1層 暗褐色土 若干、暗灰色を帯びる。直径1-2mmの白色軽石を多く含む。黄褐色軽石が極少量混じる。しまりは良い。72号住の1層に比べて、かなり深い。
- 2層 暗灰色土 粘性がある。ほとんど軽石を含まない。
- 3層 暗灰褐色土 直径1cmの榛名山起源の軽石の円礫を少量、直径1mm以下の白色軽石(榛名山起源の軽石?)を多く含む。
- 4層 若干、黄色味を帯びる褐色土。地山(灰白色砂質土・黄褐色砂質土)ブロックを多く含む。榛名山起源の軽石は直径1mm以下のものを、やや多く含む。
- 5層 暗灰褐色土と地山(灰白色砂質土・黄褐色砂質土)のブロックとの混合土。やや後者の方が多い。しまりは非常に強い。

- 1層 暗灰褐色土 軽石を少量に含む。やや砂質。
- 2層 灰色シルト質土
- 3層 灰褐色土 軽石・炭化物粒・黄色土粒を含む。

- 1層 暗褐色土 目層よりもわずかに深い。榛名山起源の軽石を目層よりもやや多く含む。直径5mm以下の黄白色土粒をわずかに含む。しまりは非常に良い。
- 2層 暗青灰褐色土 黄褐色土粒子を少量含む。炭化物粒子を微量含む。わずかに砂質。

0 1:40 2m

図88 70号溝土層断面

杯形土器が出土している。

調査所見 掘り残し部分があることから、用水路としての機能は考えにくい。地割りの溝と考えられる。

(小島)

71号溝 付図5-4, 図87-89, PL17-4, 表P.29

位置 N-47, O-46・47, P-46グリッド

重複 70号溝に先行し、67号・68号・70号・92号住居に後出する。

走向 直線状を呈する。

規模 幅0.55m-0.9m 深さ0.16m-0.3m

調査長12.5m

形状 (傾斜 北西端95.22m-南東端95.04m)

一部に、法斜面が緩くなる部分もあるが、箱形断面を呈する溝である。概して規模も一定している。底面は平らである。

埋没土 下層には灰褐色の砂礫土が堆積しており、砂利・砂も混じっているが、上層には軽石や黄色土

粒を混じる茶褐色土が堆積している。

出土遺物 埋没土中から土師器が46片出土している。図示したものは、その中でもやや大きいものである。

調査所見 発掘区の端から端まで検出できた溝である。多くの住居を壊していることから遺物の混入が考えられ、出土遺物からの時期決定は難しいが、70号溝よりは以前に掘られた溝ではある。溝下半には砂利・砂が堆積しているが、底面の勾配はほとんどなく、用水路の可能性は少ないと考えられる。(小島)



0 1:4 20cm

図89 71号溝出土遺物

第3章 溝の調査

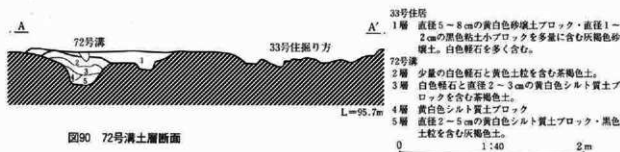


図90 72号溝土層断面

72号溝 村85-4, 890, PL17-5

位置 0-49・50グリッド

重複 32号・33号住居に先行する。

走向 東に中心のある弧状を呈する。

規模 幅0.35m～0.55m 深さ0.26m～0.4m

調査長5.5m

形状 (傾斜 北東端95.20m-南東端95.14m)

葉研状の断面形を呈する。底面は平坦である。北東端は幅が狭くなる。

埋没土 白色軽石・黄白色シルト質土のブロックを含む褐色土を主体とする。

出土遺物 土師器の破片が少量出土しているが、図示はし得なかった。

調査所見 32号・33号住居の掘り方調査時に検出した。地山である二次堆積物のブロックを多く含む土が埋没土になっており、人為的埋没の可能性もある。全掘していないので、形態や機能等について詳細は不明である。(小島)

73号溝 村85-5, 891, 表P.29

位置 2B-62・63, 2C-63-65, 2D-65グリッド

重複 74号溝に先行し、78・79号住居に後出する。

走向 北東から南西へほぼ直線状を呈する。

規模 幅0.4m～0.6m 深さ0.08m～0.63m

調査長14.0m

形状 (傾斜 南西端94.45m-北東端94.29m)

比較的定形的な溝であり、断面形は浅いU字形を呈する。非常に直線的な形状を呈する。底面は平坦であるが、53号溝との交点あたりで一段下がる。底面の幅は0.28～0.4mである。

埋没土 比較的しまりの弱い明褐色土により埋没。

出土遺物 埋没土中より須恵器の碗が出土しているが、本溝は数軒の住居跡と重複しており、明確な時期を示すものとは言えない。

調査所見 53号溝との交点以南において確認されたものであり、掘削時期は10世紀頃の79号住居を切り込んで掘削されていることから、それよりも当然新しいものと考えることができる。(松村)



図91 73号溝出土遺物

74号溝 村85-5, 892, PL75, 表P.29-30

位置 2A-59～61, 2B-60～62, 2C-62～64, 2D-64・65グリッド

重複 51号・52号溝・善勝寺堀に先行し、78号・79号住居に後出する。

走向 北東から南西へほぼ直線状を呈する。

規模 幅計測不可 深さ0.39m～0.61m

調査長31.1m

形状 (傾斜 北東端94.27m-南西端93.94m)

断面形はほぼV字形をしていたものと思われるが、西半部を善勝寺堀に切られているため、確実とは言えない。C区とD区の境の道路下で51号溝と合流しており、一時期51号溝と同時に流れていたものと思われる。54号溝北側に三角形の張り出し部をもち、この部分は底面が平坦になるように土が何度も貼り固められていた。

埋没土 暗褐色土により埋没していたが、上半部分よりも下半部分の方が水分が多く、粘性も強い。埋

没土にAs-Bの純堆積層は確認することができなかった。

出土遺物 羽釜、須恵器の蓋、陶磁器の高台付鉢などが出土しているが、本溝は住居跡と重複しており、その周辺からのものが多く、これらの遺物は明確な時期を示すものとは言えない。

調査所見 西半部を善勝寺堀に切られており、東半部の壁しか確認することができなかった。掘削時期は本溝に切られている10世紀の121号住居跡よりも新しいものと考えられる。埋没土中にAs-B層がないことからすると、その時期には既に埋まっていたものと思われる。従って10世紀以降に掘削され、As-B降下時期に埋没した非常に短期間の溝と考えられる。なお、染谷川沿いの道路と平行して南走する4本の溝は、74号溝→51号溝→52号溝→善勝寺堀という順序で、平安時代から現在に至るまで用水路として掘削され、使用されていたものと思われる。

(松村)

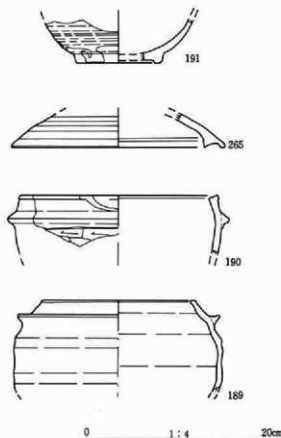


図92 74号溝出土遺物

78号溝 付図5-4、図93-94、PL18-1、PL75、表P.30

位置 L-N-44グリッド

重複 82号溝に先行し、79号溝・80号住居に後出する。

走向 ほぼ直線状を呈する。

規模 幅0.85m-1.2m 深さ0.14m-0.2m

調査長10.0m

形状 (傾斜 東端95.5m-西端95.12m)

やや不定形な浅い断面形を呈する。N-44杭より西へ3mのところまで途切れて、以西は確認できない。底面は凹凸が激しい。

埋没土 榛名山起源の軽石粒を含む暗褐色土で埋没している。下半には暗青灰色の砂質土が堆積している。

出土遺物 軽石製品が1点出土している。また埋没土中から土師器・須恵器片が出土しているが、2点を図示した。

調査所見 埋没土中には砂質土が観察できるが、底面の状況や途切れてしまうことから、流水の可能性は低いと考えられる。

(小島)

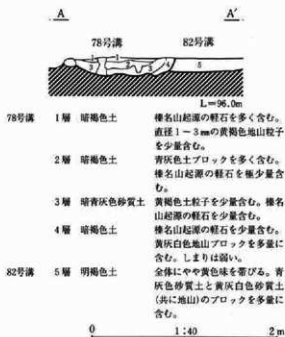
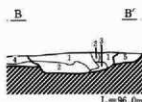


図93 78号-82号溝土層断面

第3章 溝の調査



- | | | | |
|-------|----|---------|--|
| 78号溝 | 1層 | 暗褐色土 | 直径1cm前後の榛名山起源の軽石を多く含む。直径1〜3mmの黄褐色地山粒子を少量含む。1層よりもやや細かい。 |
| | 2層 | 暗褐色土 | 青灰色土ブロックを多く含む。榛名山起源の軽石を極少量含む。1層よりもやや明るい。 |
| | 3層 | 暗青灰色砂質土 | 黄褐色土粒子を少量含む。しまりは悪い。 |
| 80号住居 | 4層 | 明黄白褐色土 | 榛名山起源の軽石をやや多く含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを多く含む。砂質。 |
| 86号住居 | 5層 | 暗褐色土 | やや黄色味を帯び、粘性がある。灰褐色土ブロック混入を多く、榛名山起源の軽石を少量含む。 |

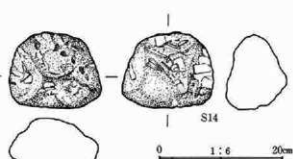
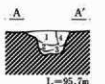
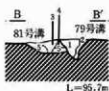


図94 78号溝土層断面と出土遺物



- | | | |
|----|-------|--|
| 1層 | 暗褐色土 | 直径1cm前後の青灰色土ブロックの混入を多く含む。榛名山起源の軽石を微量含む。バラつく。 |
| 2層 | 暗褐色土 | 直径2cmの黄灰褐色地山ブロックを少量含む。榛名山起源の軽石を少量含む。バラつく。 |
| 3層 | 暗青灰色土 | 榛名山起源の軽石を微量含む。やや粘性がある。 |
| 4層 | 暗褐色土 | しまりは悪く、バラバラする。榛名山起源の軽石を微量含む。 |



- | | | | |
|------|----|-------|---|
| 79号溝 | 1層 | 暗褐色土 | 直径1cm前後の青灰色土ブロックの混入を多く含む。直径1〜2cmの黄褐色砂質地山ブロックを多く含む。 |
| | 2層 | 暗褐色土 | 1層よりも明るく、しまりも若干悪い。青灰色土ブロック、及び黄褐色砂質地山ブロックを1層よりもやや多く含む。 |
| 81号溝 | 3層 | 暗褐色土 | ほぼ単一的。榛名山起源の軽石を極微量含む。しまりは悪い。 |
| | 4層 | 暗褐色土 | 青灰色土ブロックの混入を多く含む。しまりは弱い。 |
| | 5層 | 暗青灰色土 | 直径2cm前後の榛名山起源の軽石を少量含む。しまりは3・4層よりも良い。 |



- | | | | |
|-------|-----|---------------|--|
| 80号住居 | 1層 | 明黄白褐色土 | 砂質。榛名山起源の軽石をやや多く含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを多く含む。8層よりも色調は明るい。 |
| | 2層 | 暗褐色土 | 榛名山起源の軽石を少量含む。しまりは1層よりも良い。 |
| | 3層 | 暗褐色土 | しまりが悪く、バラバラする。榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| | 3層 | 暗褐色土 | 3層よりもやや明るい。 |
| | 4層 | 暗褐色土 | やや黄色味を帯び、榛名山起源の軽石を少量含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを少量含む。灰褐色土ブロックをやや多く含む、わずかに粘性がある。 |
| 86号住居 | 5層 | 黄褐色砂質土 | 直径1〜2mmの榛名山起源の軽石を少量含む。バラつく。 |
| | 6層 | 暗褐色土 | やや黄色味を帯び、5層よりもかなり暗く、粘性もある。灰褐色土ブロック混入を多く、榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| | 7層 | 暗褐色土と灰褐色土の混入土 | 直径5mmの地山黄褐色土小ブロック、及び榛名山起源の軽石をやや多めに含む。黒色土粒子を極少量含む。やや粘性がある。 |
| 80号溝 | 8層 | 明褐色土 | 榛名山起源の軽石を多く含む。黄灰白色砂質土(地山)ブロックを多く含む。やや砂質。バラつく。1層よりも色調は暗い。 |
| 79号溝 | 9層 | 暗黄褐色土 | 直径1〜2cmの軽石を含む。II-Fa時の泥炭堆積物・ブロックを混入。 |
| | 10層 | 暗褐色土 | 直径1〜2cmの軽石を含む。 |

図95 79号・80号・81号溝土層断面

79号溝 付図5-4, B095, PL18-2-3

位置 M-42~47、N-45グリッド

重複 80号住居・81号溝に先行し、80号溝に後出する。70号溝との関係は不明である。

走向 南北方向の溝で大きく弧状を描くが、ほぼ直線に近い。

規模 幅0.25m~0.45m 深さ0.03m~0.2m
調査長23.5m

形状 (傾斜 南端95.49m-北端95.26m)

N-46杭の北でやや形を崩すものの、ほぼ一定の帯状を呈する。深さは浅く、0.03mしか確認できなかった。また北端はM-42グリッド内で途切れて、以北は確認できなかった。

埋没土 しまりのない暗褐色土で埋没している。榛名山起源の軽石粒を少量含んでいる。

出土遺物 なし。

調査所見 45号・46号溝と同規模、同走向の溝である。掘削時期や機能等は特定できない。(小島)

80号溝 付図5-4, B095, PL18-2

位置 L-43、M-43・44、N-44グリッド

重複 79号溝に先行し、80号住居に後出する。

走向 東西方向の溝で、緩く蛇行するものと思われる。

規模 幅0.3m~0.4m 深さ0.06m~0.19m
調査長3.0m

形状 (傾斜 東端95.51m-西端95.47m)

80号住居と重複する部分は、明確に溝を確認することができなかった。住居より東の部分は連続すると考えられるが、確証はない。断面形は浅い箱状を呈する。

埋没土 榛名山起源の軽石を多量に含む砂質の明褐色土で埋没している。

出土遺物 なし。

調査所見 81号・82号溝と走向を同じくする。

(小島)

81号溝 付図5-4, B095, PL18-3

位置 L・M-43グリッド

重複 79号溝に後出する。

走向 ほぼ東西方向で、緩い曲線を描く。

規模 幅0.25m~0.4m 深さ0.03m~0.19m
調査長9.0m

形状 (傾斜 東端95.52m-西端95.35m)

幅が狭く、浅い溝である。断面は箱形を呈する。

埋没土 しまりの強い暗褐色土で埋没している。

出土遺物 M-43グリッドで、土師器の杯が底面から2cmほど浮いた状態で出土しているが、図示不可能の小破片である。

調査所見 80号溝と走向・規模・形状とも類似している。(小島)

82号溝 付図5-4, B093

位置 L・M-44グリッド

重複 78号溝、80号・86号・90号住居に先行する。

走向 ほぼ東西方向を示し、緩く曲線を描く。

規模 幅0.7m~0.9m 深さ0.06m~0.19m
調査長2.0m

形状 (傾斜 西端95.42m-東端95.28m)

やや幅広の浅い溝である。90号住居以西では確認することができなかった。

埋没土 地山である二次堆積砂質土のプロックを多量に含む明褐色土で埋没している。

出土遺物 底面近くから土師器杯形土器の破片が数点出土しているが、図示は不可能であった。

調査所見 80号・86号住居の掘り方調査時に検出された。(小島)

第3章 溝の調査

24号溝 付図6-3-4、図45-96-98、PL19-1-5、PL20-1-2、PL76
表P.30-31

位置 K・L-22-43グリッド

重複 1号河川跡、44号溝に後出し、29号・34号溝に先行する。また、本道橋の埋没土を掘削して3号～5号・12号など平安時代の各住居が構築されており、古墳時代の後期以降のHr-FA洪水堆積層上に展開する安定した居住域になっていたものと考えられることができる。

走向 K-24グリッドからK-23グリッド付近まではほぼ直線で流路を保っているが、検出部分の北端、染谷川の現河道寄り部分は調査時の安全対策上の都合で十分な調査が不可能であり、1号河川跡の流路との識別が十分に行えず1号河川跡との重複関係を明瞭に把握することができず、やや不明確な点がある。K-34グリッド付近までは西に弱く膨らんで弧状をなしている。

その後、K-34グリッド内では二つに分岐し、東側は、先行して掘削された44号溝の旧路を踏襲するように南に延びる、6mを検出することができた。西側はいったん南西に向かい、M-35グリッド付近ではほぼ90°、方向を転換することを昭和61年度の調査で確認した。本溝はさらに南東方向のL-43グリッドまで延び調査区域外におよんでいる。

規模 幅1.75m～2.5m 深さ0.43m～1.34m
調査長57.5m

形状 (傾斜 北端94.57m-南端94.66m)

溝の上端は小さく曲折して、幅や法面の傾斜は一定していない。断面形も大部分で法面が緩やかに立ち上がり、底面も平坦面が認められず、一定していない。これは本道橋が下位の1号河川跡や44号溝の埋没土を掘削して壁面としているため、流水により当初の原型が損なわれてしまったものと考えられる。底面は、全体的に北から南に向かって傾斜しているが、K-26グリッドやK-32グリッドでは前後の底面よりも低く凹部をなすところがある。

K-34グリッドで分岐する部分の北側、K-33グリッドにおいては、それまでの検出部分北端からK

-32グリッドまでが幅が3.0m前後であったものが、4.0m以上に広がっている。分岐後、南西に延びる部分は底面に20cmほどの段差をもち、ローム層と前橋泥流層を掘削しており、強く傾斜する法面と幅0.7m前後の狭い平坦な底面が認められる。この部分が掘削当初の原形を比較的良好に残しているものと思われる。

埋没土 最下層に暗灰色の細砂が堆積している。上～中位にはFAおよび同時期の洪水堆積物が認められる。特に、K-34グリッドで分岐後の埋没土上層には、直径2～20cm程の角閃石安山岩の角のとれた軽石直が多量に混入していた。

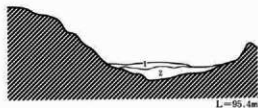
出土遺物 98号はK-26グリッドの底面からの出土である。その他に埋没土中から土師器杯・甕が出土している。また、7箇所から木器および木片が出土した。W643は径5cmの丸杭で、K-25グリッド、溝の東側法面に深さ40cmほど打ち込まれていた。W644も杭であり、K-28グリッド内の埋没土中、底面から13cm上位において横倒して検出された。

調査所見 北端は染谷川の現河道により切られている。南端も調査区域外に延びており、全体の規模は不明である。また、現用水路の掘削により、K-27・K-30、L-30・31グリッドにかけて削平を受け、形状の確認を困難にしている。

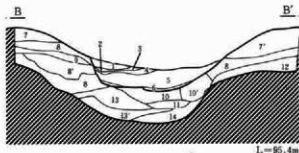
埋没土下層の暗褐色細砂の堆積状況から流水があったことが確認できる。掘削時期は、Hr-FAの降下時期を下限とし、出土土器の年代観に近い5世紀後半と考えられる。このことから、本溝の掘削は、2号河川跡の流路変更に対応し、44号溝の旧路を再整備、この溝の担っていた配水機能を持続することを目的の一つとされていたものと思われる。

昭和61年度調査地域ではHr-FA水田の東端に沿うように、この24号溝が検出された。調査区域内では明確な取水施設はとらえられなかったが、水田と同時に埋没している土層を確認したことや、水田の配水系統などを考え合わせると、本溝は水田耕作用の用水路として考えることができる。(徳江)

A A'

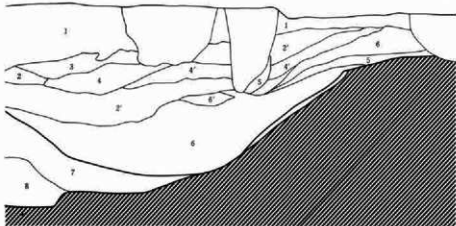


- 1層 灰白色土 やや粘性的のある細砂からなり、しまっている。
2層 暗灰色の細砂層。



- 24号溝
- 1層 暗灰色土 権名山起源の軽石を多く含み、露降り状をなす。
 - 2層 暗灰色土 黒色味が強い。権名山起源の軽石が少量混入。
 - 3層 灰白色土 やや粘性的のある細砂からなり、しまっている。
 - 4層 鉄分集積の著しい細砂層。
 - 5層 暗灰色の細砂層。
 - 6層 黄茶色土 シルト質。ややしまる。
- 44号溝
- 7層 暗灰色土
 - 7層 砂粒を多く含む。
 - 8層 暗灰白色・白色・黄茶色の砂粒の混土層。
 - 8層 黄茶色の砂粒が多くなる。
 - 8層 白色砂粒が多くなる。
 - 9層 暗灰白色の砂質土
 - 10層 暗灰色の砂層
 - 10層 暗灰色の砂層 直径1-2mmの軽石と思われる小粒を含む。
 - 11層 茶褐色の砂層 鉄分の集積がある。
 - 12層 暗灰色土と白色砂粒の混土層。5層下の地山に近い。
 - 13層 暗灰色土 As-C・砂粒を少量含む。
 - 13層 暗灰色土 3層よりも黒味がやや薄れる。白色土の小ブロックを含む。
 - 14層 暗灰色土 砂粒を多く含む。

C C'

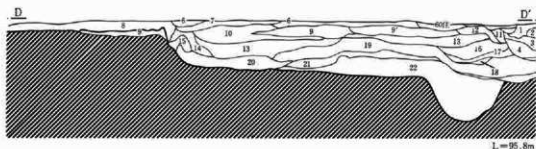


- 24号溝
- 1層 耕作土 砂質。権名山起源の軽石の小粒が混入。
 - 2層 暗灰色土 鉄分集積により、茶褐色味を帯びる部分もある。直径2-4cm程度の権名山起源の軽石が入る。
 - 2層 暗灰色土 シルト質の土粒が、薄い織状に重なって堆積。
 - 3層 暗灰色土 2層よりも茶褐色味が全体に強い。
 - 4層 権名山起源の軽石と暗灰色土の混土。4層と同様の層と思われるが、権名山起源の軽石の量・大きさとともに4層よりも断面に突出。
 - 4層 暗灰色土 権名山起源の軽石が薄い層で入っている。
 - 5層 黄色土 シルト質。
 - 6層 暗灰色土 権名山起源の軽石の小粒と黄茶色土が、薄い層で重なりあっている。
 - 6層 黄茶褐色シルトブロック。
- 1号河川溝
- 7層 黒色土と砂粒の混土層。
 - 8層 黒色土と砂粒の混土層。

0 1:40 2m

図96 24号溝・44号溝・1号河川跡土層断面

第3章 溝の調査



- | | | |
|----------|---|--|
| 34号溝 | 1層 茶褐色土 | 榛名山起源の軽石を多量に含む。茶褐色土ブロック及び黒色土ブロックを含む。 |
| | 2層 暗褐色土 | 黒色土ブロックを多く含む。榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| | 3層 茶褐色土 | やや砂質。榛名山起源の軽石を多く含む。 |
| | 4層 茶褐色土 | 榛名山起源の軽石を多めに含む。黒色土ブロックをわずかに含む。やや砂質。 |
| | 5層 茶褐色土 | 細くわずかに粘性土を含む。榛名山起源の軽石を多めに含む。しまりは弱い。 |
| 24号溝 | 6層 黄灰褐色砂質土 | 榛名山起源の軽石を少量含む。砂の粒子は非常に細かいが、粘性はほとんどない。 |
| | 7層 黄灰褐色砂質土 | 榛名山起源の軽石を含む。 |
| | 8層 灰褐色砂質土 | 直径1~3mm程度の榛名山起源の軽石を多く含む。やや粘性がある。 |
| | 9層 黄灰褐色砂層 | 粒子は細く、ザラザラする。 |
| | 9'層 黄灰褐色砂層 | 粒子は細かく、ややシルト質。 |
| | 10層 直径1cm程度の榛名山起源の軽石が多いが、直径3~5cm程度のものも多く含まれる。 | |
| | 11層 茶褐色土 | 若干、砂質。直径1mm以下の榛名山起源の軽石をわずかに含む。 |
| | 12層 褐色土 | 黄白褐色土ブロックを多く、直径1mm以下の榛名山起源の軽石をわずかに、灰色粘土ブロックを極少量含む。 |
| | 13層 暗灰褐色砂質土 | 直径1~3mm程度の榛名山起源の軽石を多く、直径1cm前後のものを数点、直径3cm程度のものを1点含む。 |
| | 14層 茶褐色土 | 粘性があり、直径1~3mm程度の榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| | 15層 灰色の砂層 | 粒子はやや粗く、直径1~3mm程度の榛名山起源の軽石を極わずかに含む。 |
| 44号溝 | 16層 灰褐色粘土 | 直径1mm程度の榛名山起源の軽石を、帯び状に3割ほど含む。全体の割合としては少量である。 |
| | 17層 灰色粘土 | 直径1mm程度の榛名山起源の軽石を少量含む。 |
| | 18層 黄茶褐色シルト質土 | 非常に細かい砂粒を含むが、榛名山起源の軽石は含まれない。 |
| 1号河川跡19層 | 灰褐色砂層 | 酸化鉄を多く含む。直径1mm以下の砂によって構成される。しまりは弱い。 |
| 20層 | 黄茶褐色シルト質土 | 直径3~5cm程度の榛名山起源の軽石を少量含む。茶褐色砂をブロック状に少量含む。 |
| 21層 | 黄茶褐色粘性土 | 灰褐色を呈する部分が、まだらに入る。砂を下底に含む。 |
| 22層 | 黒褐色粘土 | 若干色調は明るく、As-Cもほとんど含まれない。 |

0 1:60 2m

図97 24号・34号溝・1号河川跡土層断面

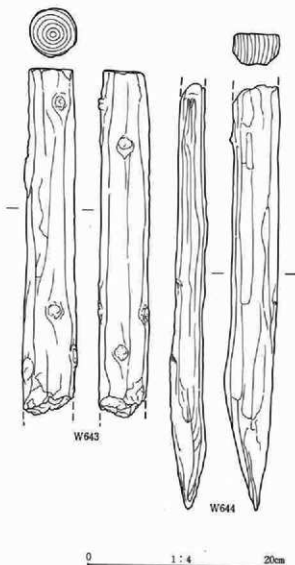
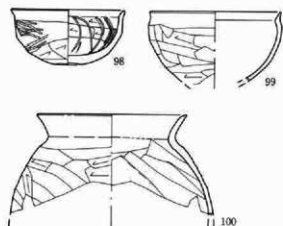


図98 24号溝出土遺物

42号溝 付066-3, PL19-1

位置 J-25-28グリッド

重複 なし。

走向 南北方向に延びる溝であるが、南半は東方向に弱く曲がり、緩やかな弧を描いている。

規模 幅0.72m-1.48m 深さ0.08m-0.2m

調査長16.2m

形状 (傾斜 北端95.5m-南端95.45m)

断面形は法面が緩やかに立ち上がるもので、底面も平坦でなく、中央が低く丸みをもっている。

埋没土 Hr-FA 及び同期の洪水堆積層に覆われていた。

出土遺物 なし。

調査所見 北端は削平されている。南端は調査区域外に延び、全体の状況は把握できなかった。流水の有無についても確定できない。本遺構の東側、Hr-FA直下の面は幅1.24-2.12mの平坦部分が広がっていた。本遺構と合わせ、土地利用上何等かの区画をなしていた可能性が考えられる。掘削時期は限定できなかった。(徳江)

44号溝 付067-3-4, K06-211, PL20-4-5

位置 K-L-28-34, K-35グリッド

重複 本遺構の埋没土を掘削して、24号・35号溝が後出する。

走向 南に直線的に延びる。

規模 幅1.45-3.8m 深さ0.27-1.06m

調査長 河川跡との区別が困難であるが、河川跡の左岸と本遺構の西壁が分離する28ラインから南へ2.5mの地点を本遺構の取水口とすれば、調査長は34.7mとなる。

形状 (傾斜 北端94.2m-南端94.26m)

取水口は幅が広く、3.80mを測る。また、K-33グリッドで溝の東壁の形状が乱れているが、その他、特に、30ラインから南部分の形状は比較的整然としている。断面形状は法面の傾斜が緩やかで、大きく開放して立ち上がっている。部分的に法面の下位に弱い稜が残っている。底面は、平坦で中央がさらに

第3章 溝の調査

浅く掘り込まれ、道具による掘削痕が部分的に認められる。

埋没土 灰褐色土と鉄分集積の著しい砂が交互に薄い層をなして堆積していた。底面中央の最下位には黒褐色土があり、良くしまっていた。

出土遺物 土器・石器・木器・木片が出土したが、河川跡の出土量と比較するといずれも非常に少量である。土器は、弥生土器片の他に274の埴、293の小広口甕が出土している。取水口近くのL-28・29グリッドからは石製模造品の製作工程を表わす遺物が119点出土している。なお、遺物実測図は1号河川跡の遺物とともに掲載した。

調査所見 規模の項でも記したとおり、本遺構は、河川跡からの取水を目的として掘削された用水路と考えられるが、南端は調査区域外に及び、配水先については確定できない。本遺構の底面の高さは多少の凹凸のみられるもの、29ライン以南は94.2m前後に一定している。これに対して、1号河川跡の底面の高さは、調査域の北端で94.2mを測り、取水口付近では94.1m前後と本遺構の底面を下回っている。この状況では、河川にほぼ豊富な水量がなければスムーズな取水は困難と思われる。河川跡の調査では、L-26～28グリッド、K-28・29グリッドの河床面に直立して打ち込まれた杭あるいはその痕跡を合計16本検出しているが、このことから、本遺構への取水を容易かつ安定的に実施するために、河川跡内の瀬分けをし、水位を高めるためのしがらみ状の施設が設置されていたことが想定できる。これとは別に31ラインから南に約1mの地点では、溝の走向に直交して、西壁に2本、東壁に2本の杭と1箇所の杭の痕跡が確認された。この杭列についての役割については推定しかねる。

掘削時期あるいは用水として機能していた時期については、遺物の出土量も少なく、その確定が困難であるが、河川跡の状況と考え合わせると古墳時代前期を上限とし、24号溝の成立を下限とすることができる。

(徳江)

77号溝 付807-4, 80100-118, PL21・22, PL76-87, 表P.31-41

位置 P・Q-47-51、R-48-51グリッド

重複 4号・5号周溝墓に後出する。

走向 直線的な走向を呈するが、R-49杭付近で直角に近い角度で曲がる。

規模 上幅4.3m-6.4m 下幅1.5m 深さ1.4m

調査長25.0m 通水溝(幅0.4m 深さ約0.1m)

形状 (傾斜 北西端93.58m-南東端93.53m)

北側は方形周溝墓と重複しており、周溝の掘り方と判別がつかないところもあって、やや不定形である。テラス状の段は右岸上半にある溝にともなうと考えられるが、用途等は不明である。南側面は下端から1mほどの所に稜のある、定形的な法面をもって掘られている。

底面は幅1.5mほどで、ほぼ中央部に小刻みに蛇行する幅0.4m、深さ10cmほどの小溝が掘られている。屈曲部付近から西側で、この小溝は左岸に接近する。その延長の詳細は明らかでない。

発掘区西縁が現道のため、調査不能であった。また図100土層断面に示すとおり、調査直前まで使用されていた「善勝寺堀」が重複して掘られており、

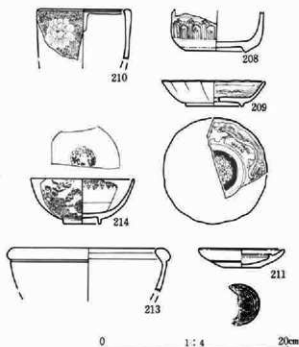
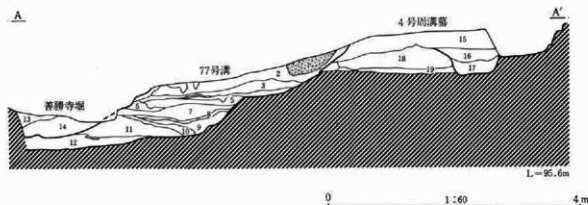
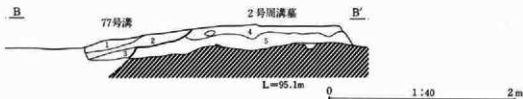


図99 善勝寺掘出土遺物



- 77号溝
- | | |
|-----|---|
| 1層 | As-Cのはは純埋積層。鉄分のため、黄褐色～茶褐色を呈する。 |
| 2層 | 黒褐色粘性土 多くのAs-C、及び砂を含む。鉄分無精を含む。 |
| 3層 | 茶褐色砂質土 極めて多量のAs-C、及び砂を含むが、西に行くに従ってその量は少なくなり、粘性をもつ。底面に炭化物の層をもつ。 |
| 4層 | 灰白褐色砂質土 極めて多量のAs-C、及び砂を含む。若干の灰褐色粘性土を含む。 |
| 5層 | 灰白色砂質土 帯び状に、数本の炭化物層が入る。若干の粘性がある。As-Cはほとんど含まれない。 |
| 6層 | 灰褐色砂質土 極めて多量のAs-C、及び砂を含む。色調は白っぽい。 |
| 7層 | 灰白褐色砂質土 極めて多量の砂と多量のAs-Cを含む。西に行くに従って、黒味があり、粘性をもつようになる。 |
| 8層 | 灰白褐色粘質土 炭化物層が帯び状に入る。細かい砂を多く含む。 |
| 9層 | 灰褐色砂質土 極めて多量の砂を含む。As-Cも多く含まれる。 |
| 10層 | 炭化物層 砂粒を多く含む。粘性がある。 |
| 11層 | 暗灰白色砂質土 極めて多量の砂を含む。炭化物粒子を帯び状に数条含む。 |
| 12層 | 灰白色砂礫層 直径1cm前後の礫を多量に、直径1～3cmの黄褐色～灰白色の地山シルト質土層のブロックを多く含む。この層より、玉類・木器類等が出土する。 |
- 善勝寺堀
- | | |
|-----|--|
| 13層 | 暗褐色粘性土 ビニール・雑・木片が混じる。しまりは悪い。 |
| 14層 | 暗褐色砂質土 底面付近には、砂が多く含まれる。細かい木片(ゴミ・葉)等が含まれる。しまりは悪い。 |
- 4号側溝
- | | |
|-----|--|
| 15層 | 暗褐色土 As-Cを含む。しまりは弱い。 |
| 16層 | 黒褐色土 直径1mm以下の白色軽石粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。 |
| 17層 | 黒褐色土 色調は16層とは同じであるが、灰白色粘性土ブロックを少量、白色軽石粒子を微量含む。粘性は16層よりも強い。 |
| 18層 | 暗褐色土 19層に近いが、19層よりもやや明るい。 |
| 19層 | 暗褐色土 灰白色を帯びる。 |



- 77号溝
- | | |
|----|---------------------------------------|
| 1層 | 暗褐色粘性土 単一的。軽石等は含まれない。 |
| 2層 | 暗褐色土 As-Cを多めに含む。やや砂質。直径2～3mmの炭片を少量含む。 |
| 3層 | 暗褐色土 As-Cを少量含む。細かい砂が混じる。 |
- 2号側溝
- | | |
|----|---|
| 4層 | 暗褐色粘性土 5層よりもかなり白っぽい感じ。粘土に近い。As-Cはほとんど含まれない。 |
| 5層 | 黒褐色土 As-Cを極めて多量に含む。やや粘性がある。 |

図100 77号溝土層断面

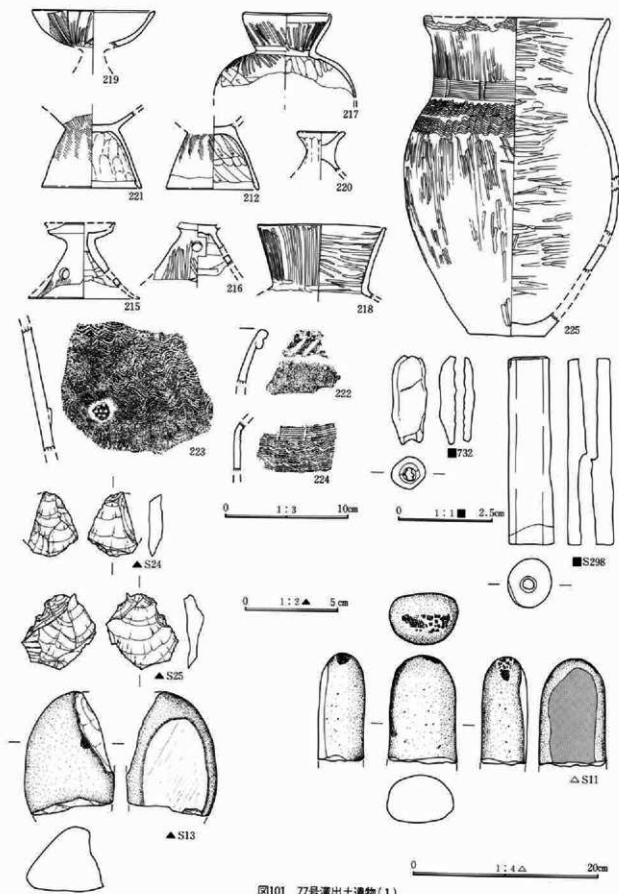


図101 77号清出土遺物(1)

左岸の延長は不明である。図100には「善勝寺堀」出土遺物を示しておいた。なお、「善勝寺堀」の掘削年代は明らかでない。

埋没土 底面近く、及び中央の小溝には砂利・砂・砂質土が確認でき、若干の流水があったことは推定される。上半部はAs-Cを多量に含む黒色土で埋没している。1層は純堆積に近いが、二次堆積と考えられる。先行する4号方形周溝墓の周溝を覆う15層にも、As-C粒は含まれる。

出土遺物 77号溝では多量の木製品と土器・石器などが出土した。土器では225の樽式甕形土器が、前述したテラス状の段から10cmほど浮いた状態で出土した。また図示した小形器台やS字状口縁台付甕形土器は溝底面直上、または底面から5～6cm浮いて出土している。木製品は底面直上、及び10～20cm浮いた形で12層中から出土している。定形の農具や板状加工されたものが含まれる。石器は敲石・磨石などが多く、1点、大型の管玉がほぼ底面直上で出土している。

調査所見 埋没土の状況から、本溝の掘削時期はAs-C降下以降の古墳時代前期と考えられる。右岸のテラス状の段は、先行する周溝墓の周溝とも考えられるが、規模から推して右岸に対応する周溝が検出できないことから、その可能性は考え難い。調査時にも遺物を取り上げる作業の際には、作業空間として重宝したことを考えれば、当時も同様に機能していた可能性もある。発掘区東端の土層断面からは、Hr-FA降下時にもほとんど埋没が完了していたとみられる。

(小島)

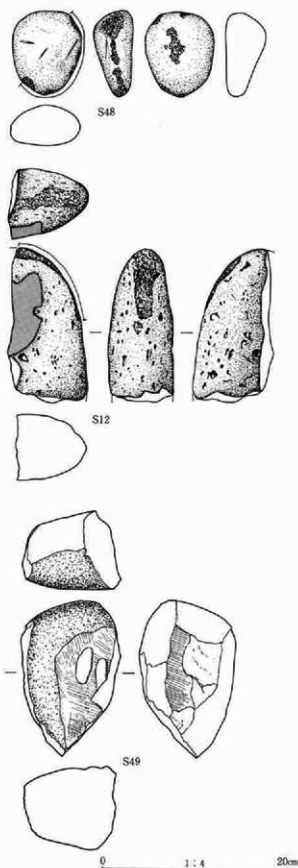


図102 77号溝出土遺物(2)

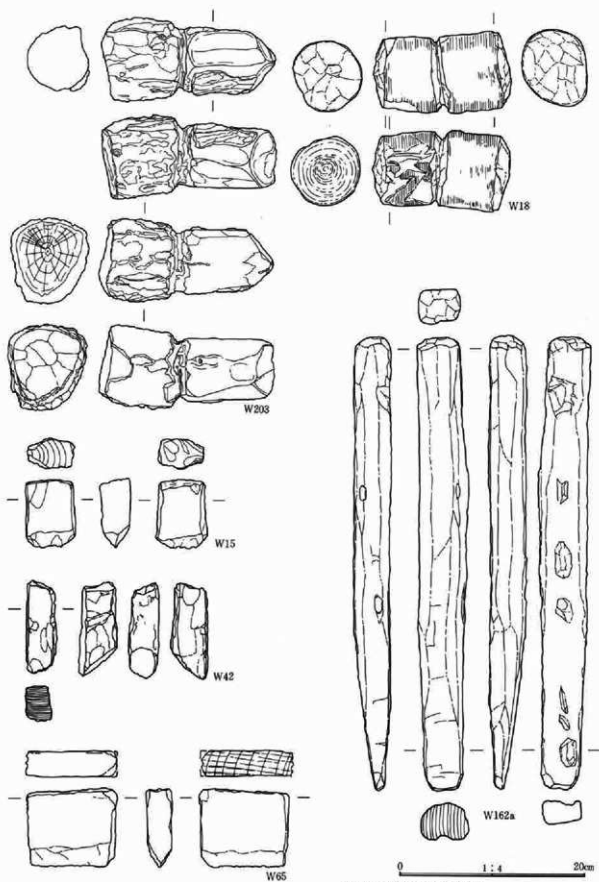


図103 77号溝出土木器(1)

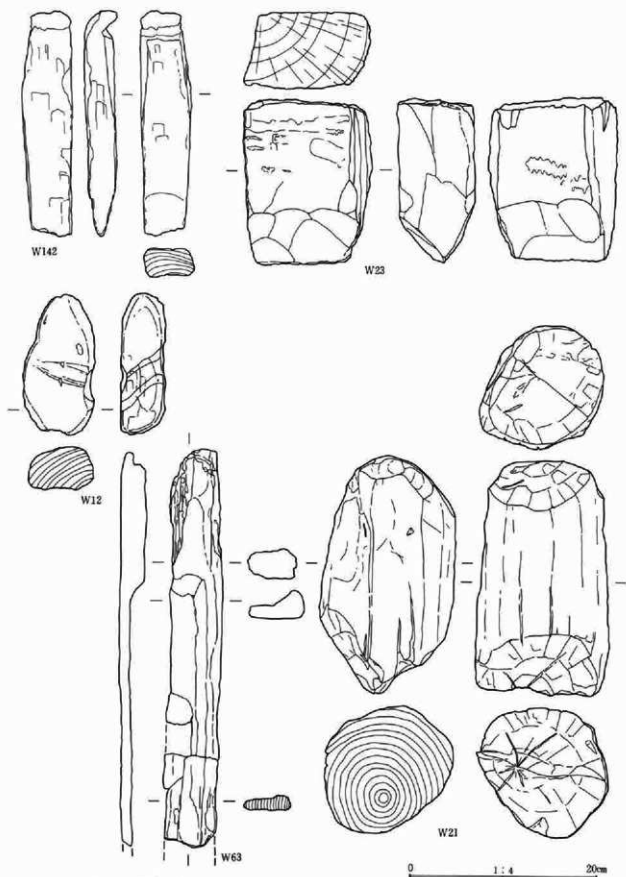


図104 77号溝出土木器(2)

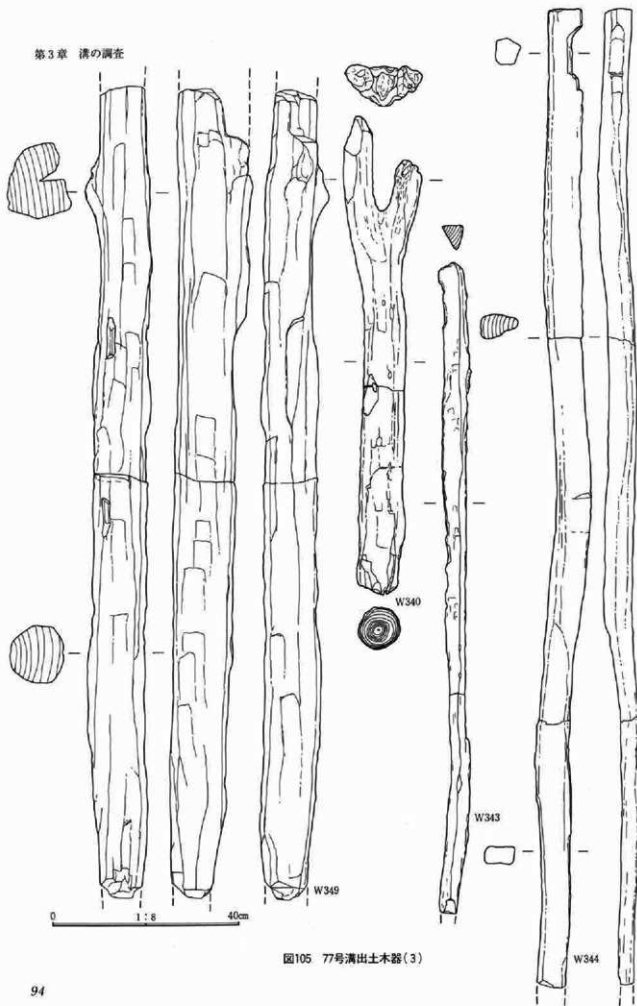


図105 77号溝出土木器(3)

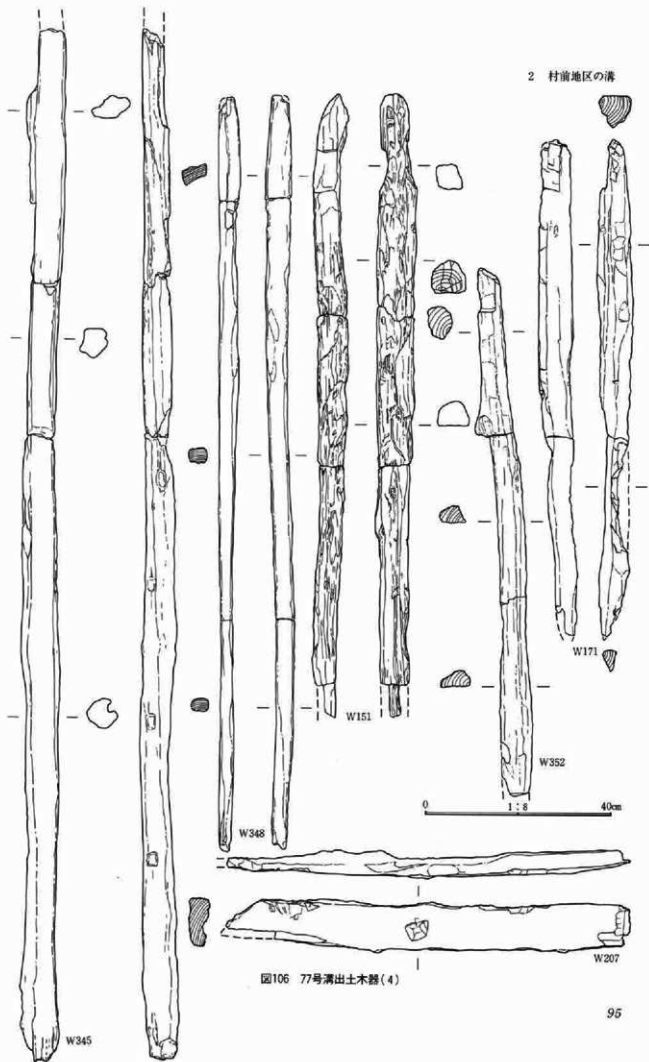


図106 77号溝出土木器(4)

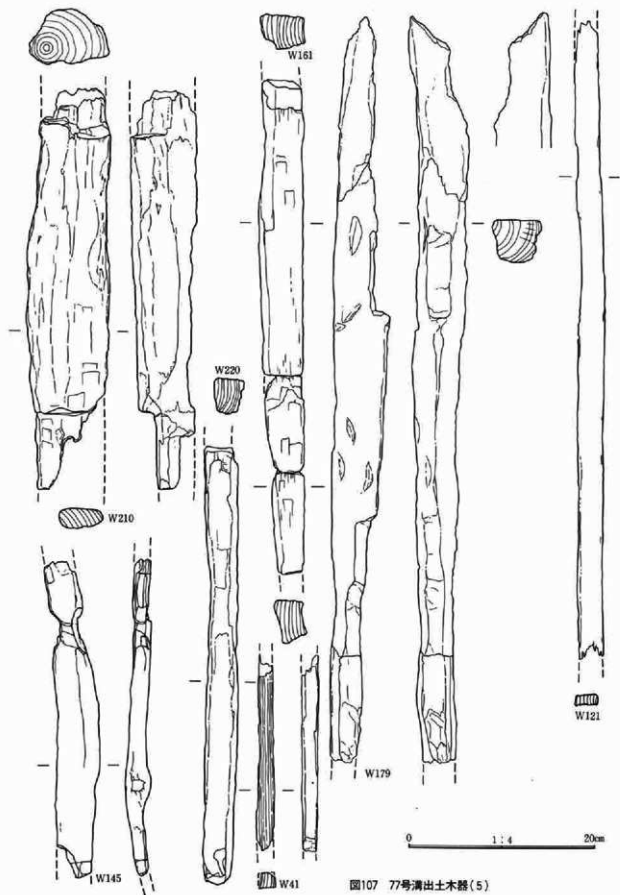


図107 77号溝出土木器(5)

2 村前地区の溝

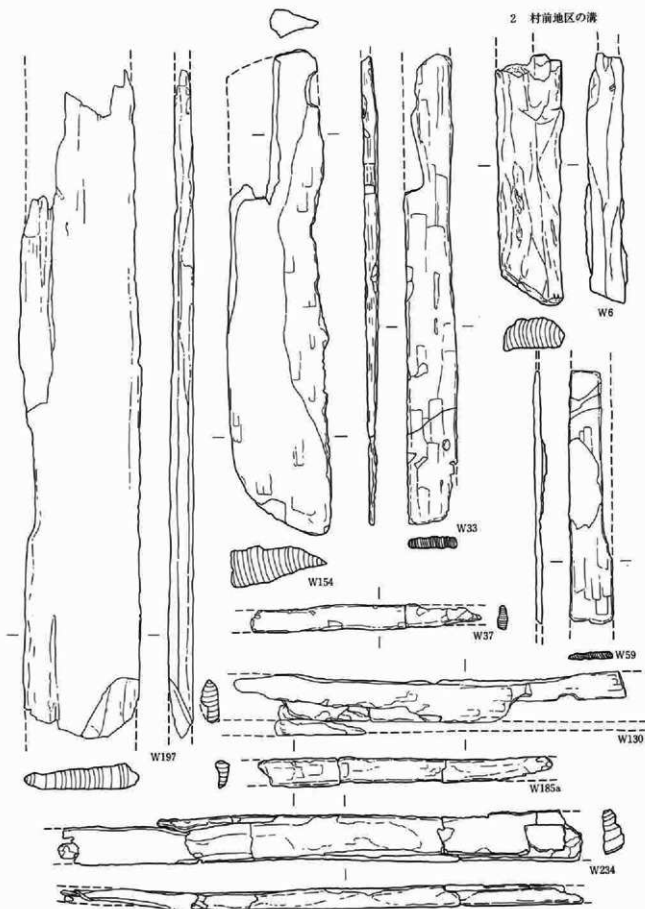


図108 77号溝出土木器(6)



図109 77号溝出土木器(7)

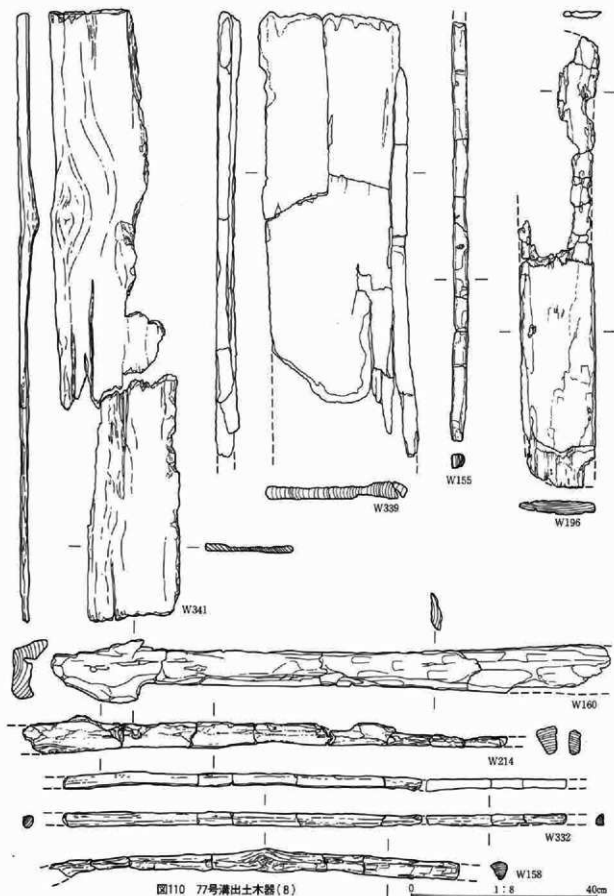


図110 77号溝出土木器(8)

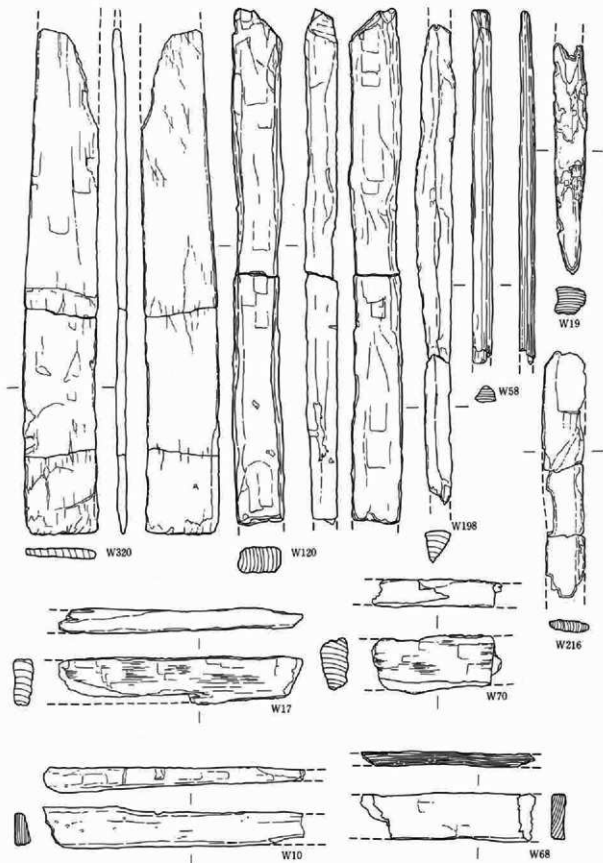


図111 77号溝出土木器(9)

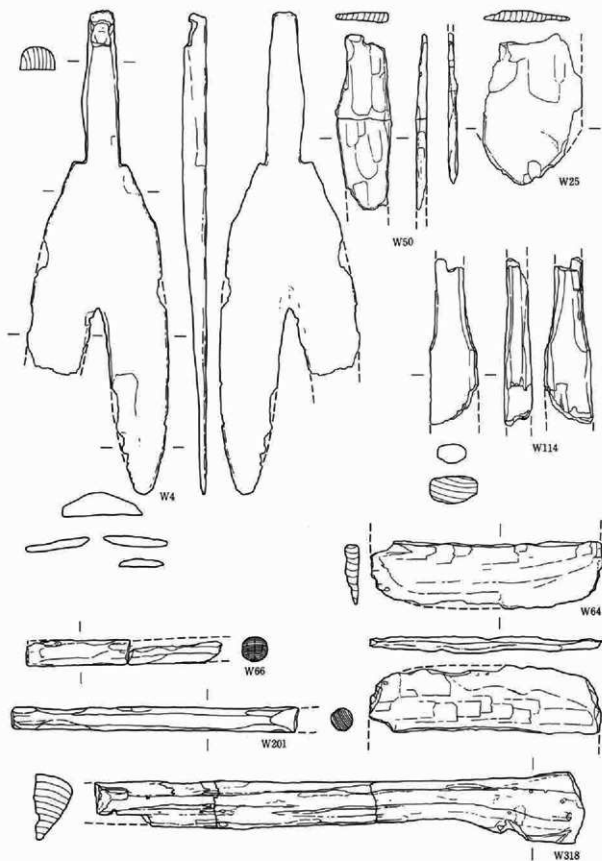
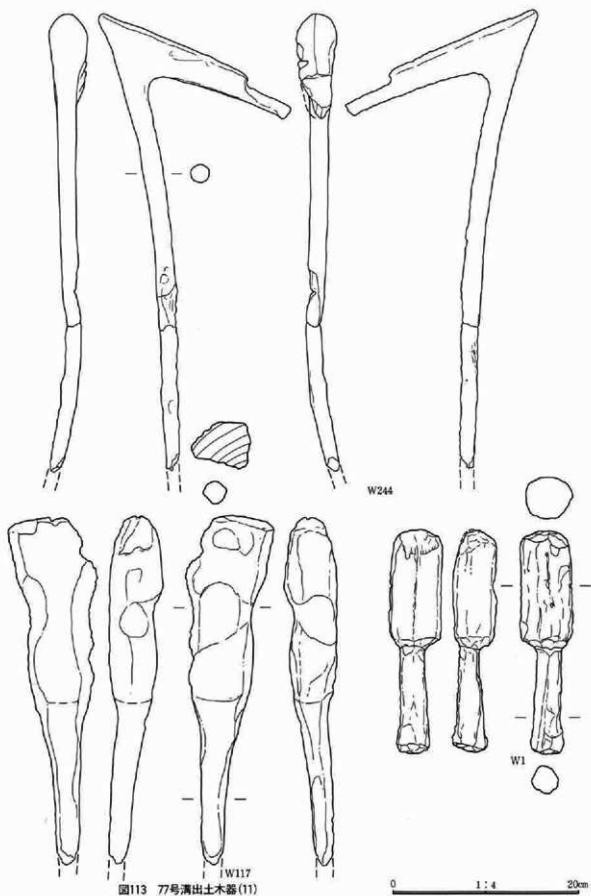


図112 77号溝出土木器(10)

0 1:4 20cm



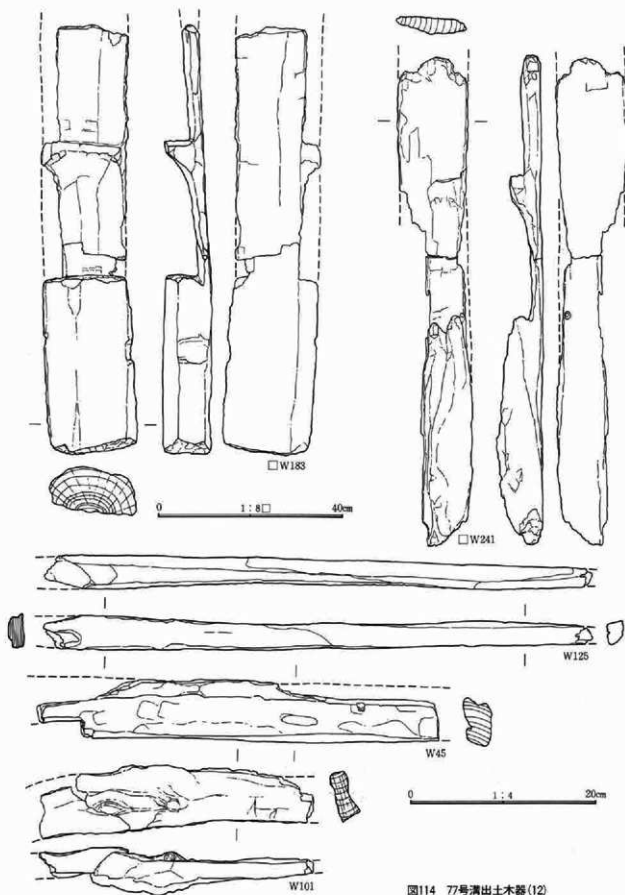


図114 77号清出土木器(12)

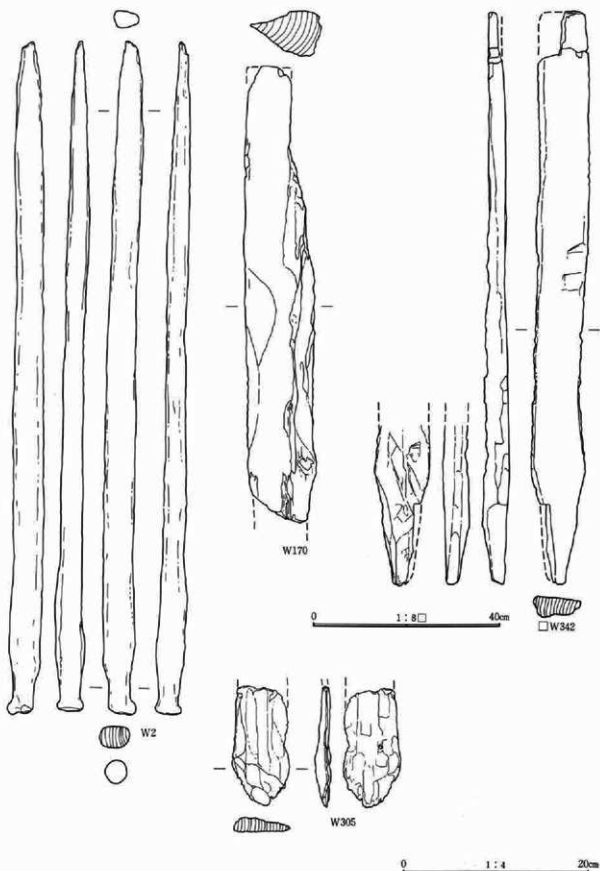


図115 77号清出土木器(13)

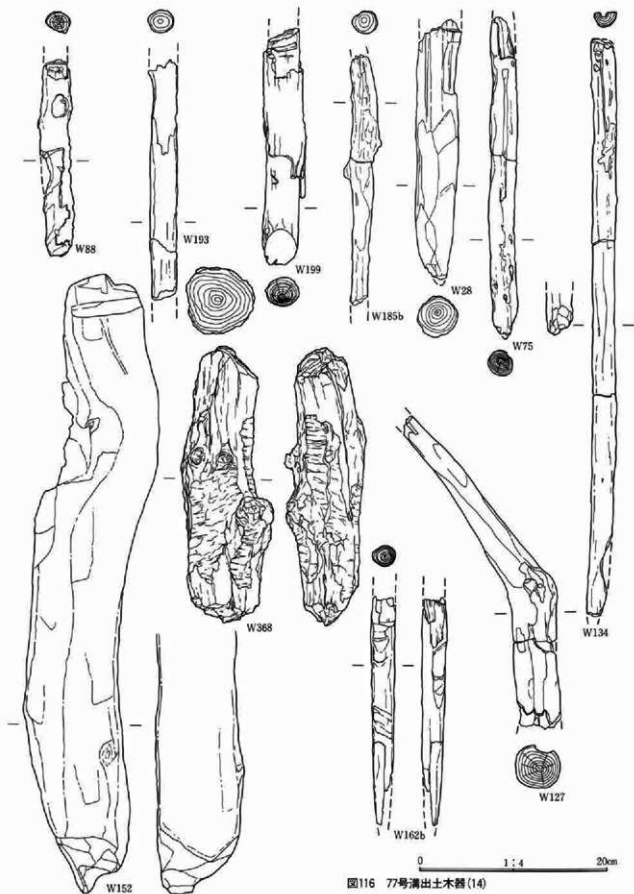


図116 77号溝出土木器(14)

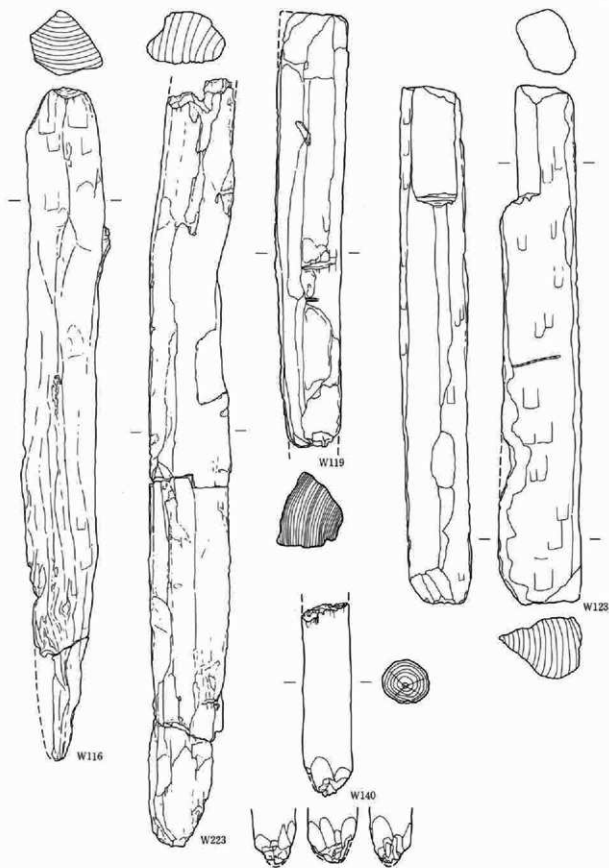


図117 77号溝出土木器(15)

0 1:4 20cm

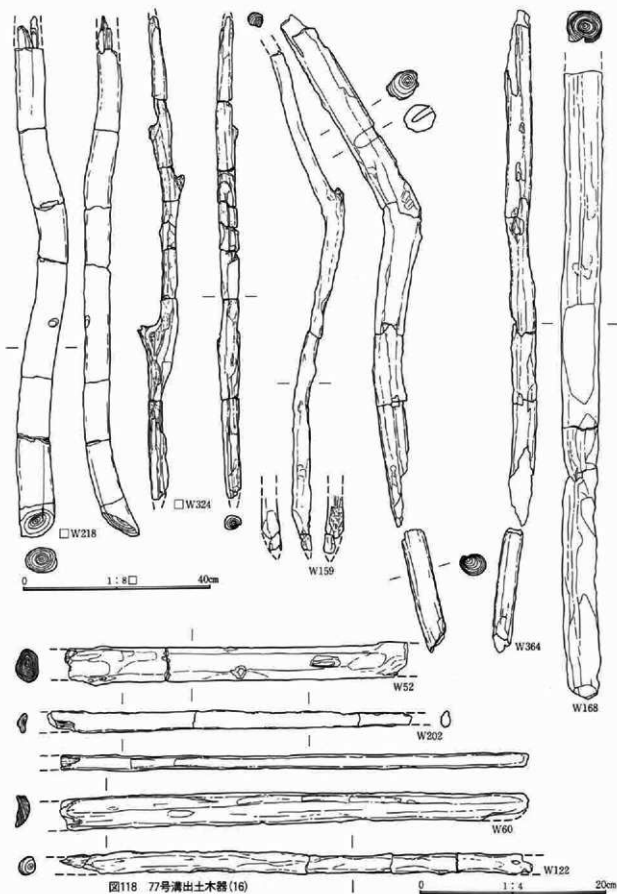


図118 77号清出土木器(16)

第3章 溝の調査

75号溝 付図5-3, PL20-3

位置 L・M-37グリッド

重複 なし。

走向 ほぼ直線状を呈する。

規模 幅0.25m～0.45m 深さ0.05m～0.06m

調査長5.5m

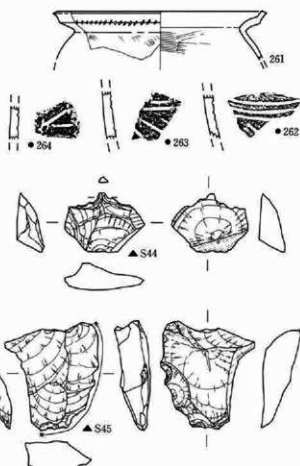
形状 (傾斜 西端95.09m-東端95.08m)

やや平面形に凹凸があり、不定形な溝状の遺構である。

埋没土 As-C を多量に含む黒色土で埋没している。

出土遺物 溝からの出土遺物はないが、上層覆土はAs-Cを含んでいる黒色土で、同層位は古墳時代前期の土器の包含層であり、土師器片が多量に出土した。

調査所見 やや規模が大きく、一条しか検出されていないが、第4次調査D区で検出された畝間の溝列の溝に類似しており、同様の機能を有するとも考えられる。(小島)



85号溝 図119-322, PL88, 表P.41-42

位置 U-54グリッド

重複 56号溝に先行する。

走向 ほぼ東西の直線方向を示す。

規模 幅0.66m～0.88m

調査長3.32m

形状 溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定している。断面形は緩いU字形を呈する。あまり定形的な、しっかりしたものとは言えない。

埋没土 As-C を多量に含む黒褐色土。

出土遺物 かなり多量の土器片及び剥片石器等が出土しているが、いずれも埋没土中の出土であり、掘削時期を示すものとは言えない。

調査所見 西端は検出されたが、東端は56号溝にほとんど壊され、東に延びるのか、南へ曲がるのか不明である。As-C 降下後、Hr-FA 降下以前に掘削され、埋没したと考えられる。埋没土からは、畝の時期に近い段階で埋まったものと思われる。(松村)



図119 85号溝出土遺物

86号溝 付図7-4, 図120-136, PL23-26, PL88-96, 表P.42-50

位置 M-42・43, N-42-44, O-43グリッド

重複 87号-88号溝と同時存在と考えられる。

走向 北東から南西

規模 幅計測不可 深さ約0.5m

調査長3.8m

形状 不明瞭

埋没土 流水による堆積層である。堰の部分から前面は植物の腐った泥土があり、堰き止められた土層には砂礫層や細砂粒の互層が見られる。これらの土層内からは木材や土器などの遺物が出土している。溝の底面は前橋泥流の上面を約20-30cm掘り下げた

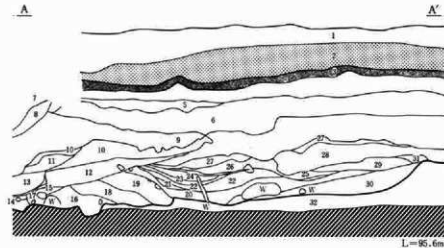
状況であり、非常に硬い。

出土遺物 木製品・自然木・葦・土器・石器などが出土している。土器は弥生時代中期後半から古墳時代前期の遺物が出土している。

調査所見 現況の道路部分のため掘削が不可能な場所であり、流路の方向性は不明瞭である。ただし調査時点での溝の方向性は溝の蛇行状況が考えられ、大きく西へ蛇行した東の角部分付近であり、この部分

に8号溝が重複する。当溝内から検出した堰はN-42グリッドポイントから西へ1m、42ラインより1m西を南北線につくられている。この位置から87号溝に取水するための施設と考えられる。

堰の状況、堰の出土状況はN-42グリッドに検出された。N-43グリッドポイント北西1m付近から北に、杭を数本確認した。横木は杭よりも前面に押し出されたかのような位置から出土している。この



- | | | | |
|-----|--|-----|----------------------------|
| 1層 | 表土 | 16層 | 細砂粒土(川床に堆積した土) |
| 2層 | FA期洪水堆積層 | 17層 | 砂質混入茶褐色土(杭の跡?) |
| 3層 | IIr-FA | 18層 | 黄灰白色砂質土 中間に、植物の腐った部分がある。 |
| 4層 | 黒色土(水田床土) 所々に軽層がみられる。酸化鉄が集積している。As-Cを含む。 | 19層 | 黄灰白色砂質土 中間に、植物の腐った部分がある。 |
| 5層 | 暗赤褐色砂質土 As-Cを含む。 | 20層 | 黒褐色土 水が敷かれた跡に、かや等で斜めに堰を造る。 |
| 6層 | 暗茶褐色土 As-Cを含む。粘性がある。 | 21層 | 黒褐色土 わずかに灰色がかる。 |
| 7層 | 灰褐色粘質土(新しい落ち込み) | 22層 | 黄白色砂質土 一部に木を含む。 |
| 8層 | 黄色土ブロック層(新しい落ち込み) | 23層 | 灰黒色土 ラミナ状に堆積する。砂粒は細かい。 |
| 9層 | 砂質土 As-Cを含む。ラミナ状に堆積。 | 24層 | 灰白色砂 砂が少量混じる。23層と類似する。 |
| 9層 | 暗黄褐色土 As-Cを含む砂質土。 | 25層 | 灰黒色土 砂が少量混じる。23層と類似する。 |
| 10層 | 赤褐色土 As-Cを含む。粘性がある。 | 26層 | 灰白色砂質土 |
| 10層 | 赤褐色土 As-Cを含む。粘性がある。下層は砂質になる。 | 27層 | 灰白色砂質土(細砂粒) |
| 11層 | 黒色粘土 植物の腐ったものが堆積。 | 28層 | 砂質土 酸化鉄分が集積する。ラミナ状に堆積する。 |
| 12層 | 暗灰色土 粘性がある。 | 29層 | 砂質土 酸化鉄分が集積する。(細かい) |
| 13層 | 砂質土 酸化鉄を多く集積する。ラミナ状に堆積している。 | 30層 | 灰色砂質土 ラミナ状に堆積する。(細かい) |
| 14層 | 12層の流れた状態である。僅かに砂質が強くなる。 | 31層 | 黒褐色粘土 木を含む。 |
| 15層 | 黒色土(植物の炭化が進んだ土層) | 32層 | 灰褐色細砂(地山) |

図120 86号溝・埋土層断面

0 1:40 2m

第3章 溝の調査

横木に数本の杭や板状の木材を斜めに当て、この上に葦の束を縦・横・斜方向に重ね、当てている。基部構築する杭や横木として使用した木材は数本確認できた他、堰に流れ着いた流木には農具や建築材と考えられる加工木の他に自然木などが重なり合うように出土した。また堰を越えた部分からも加工木は出土している。堰の高さは溝底面から約40cm、堰の水を受ける角度は約30度である。堰に水止め施設としての葦の厚さは5～6cmあり、葦一本一本は潰され、全体的な景観は板の木目がくっきりと見えるような出土状況であった。87号溝の取水口としての堰とすれば、堰の高さと87号溝の底面の比高は約5～

7cmほどあり、流水可能である。当溝は全体的な特色がはっきりしないが、河になる可能性も考えておかねばならない。また出土遺物等から使用最終期を古墳時代前期に位置づけたい。(相京)

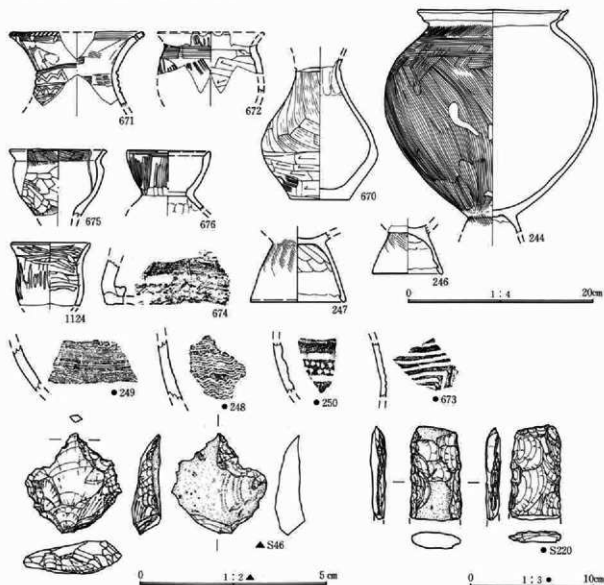


図121 86号溝出土遺物

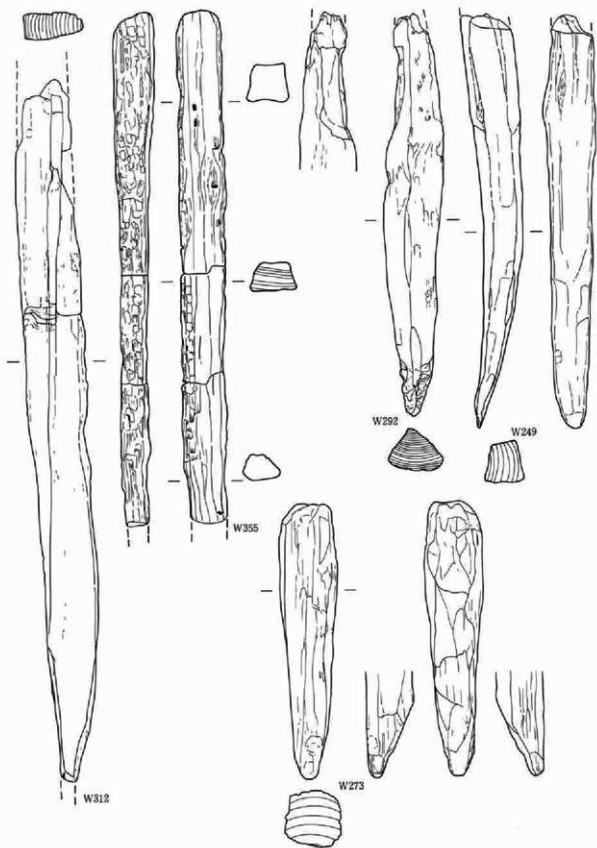
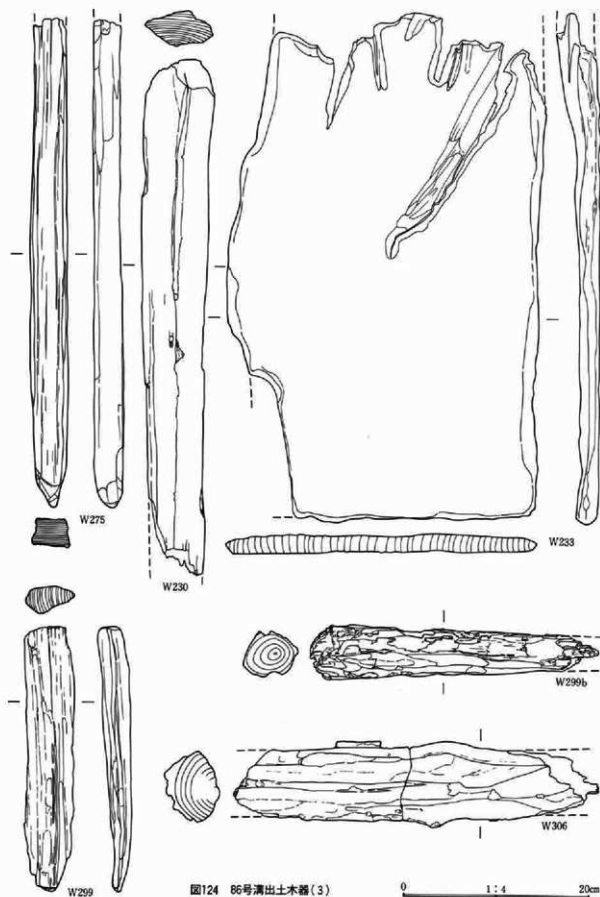


図122 86号溝出土木器(1)

0 1:4 20cm



図123 86号溝出土土器(2)



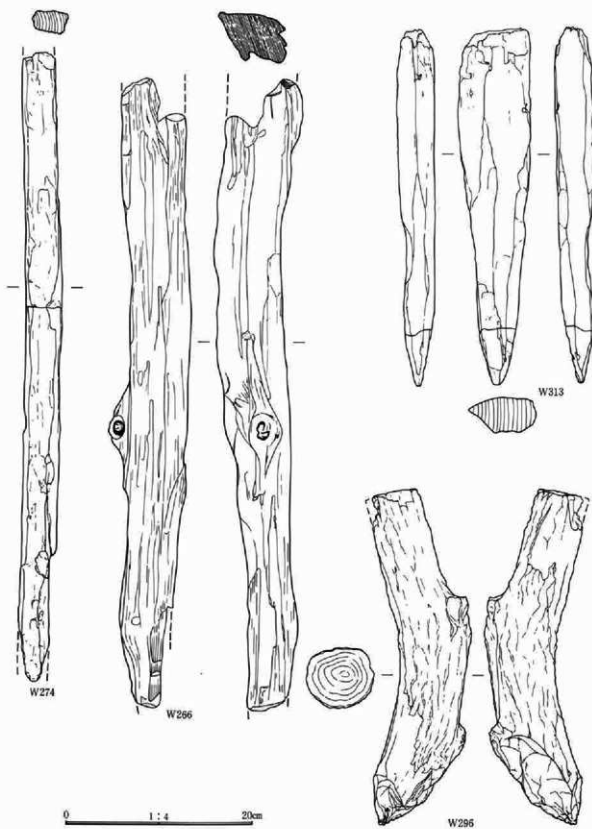


図125 86号溝出土木器(4)

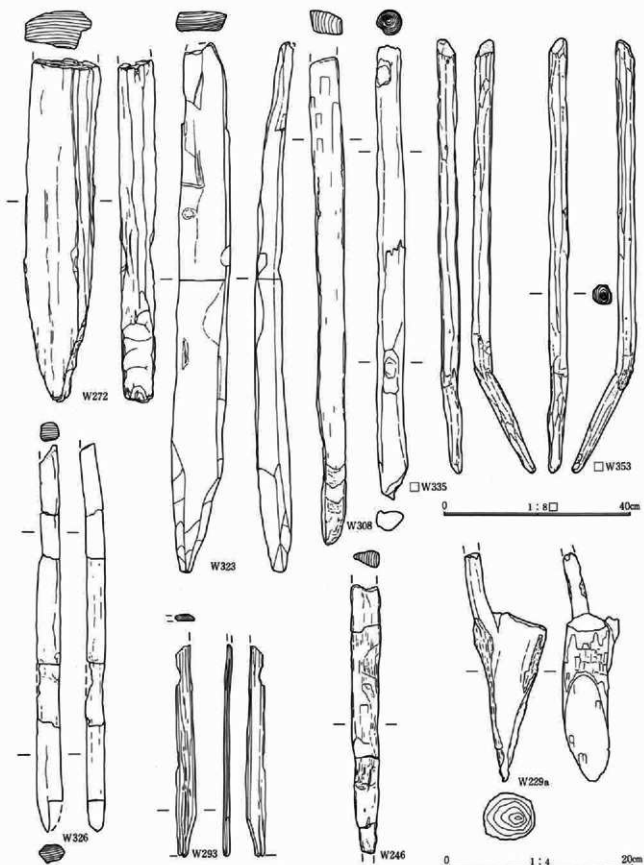


図126 86号溝出土木器(5)

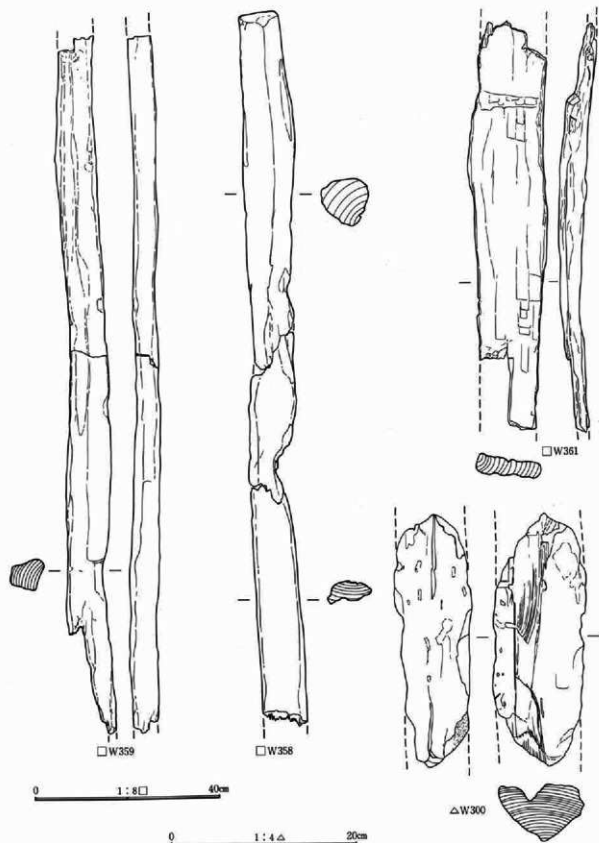


図127 86号清出土木器(6)

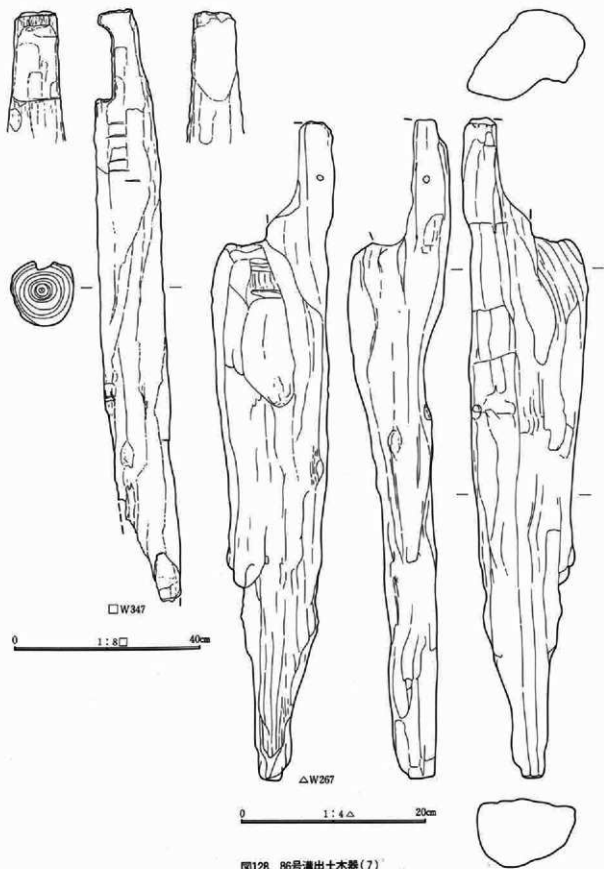


図128 86号溝出土木器(7)

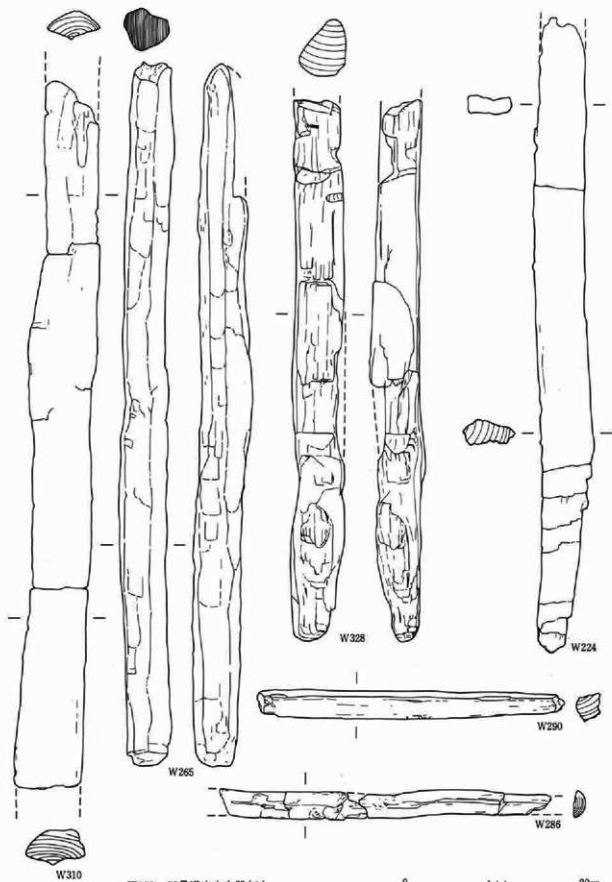


図129 86号溝出土木器(8)

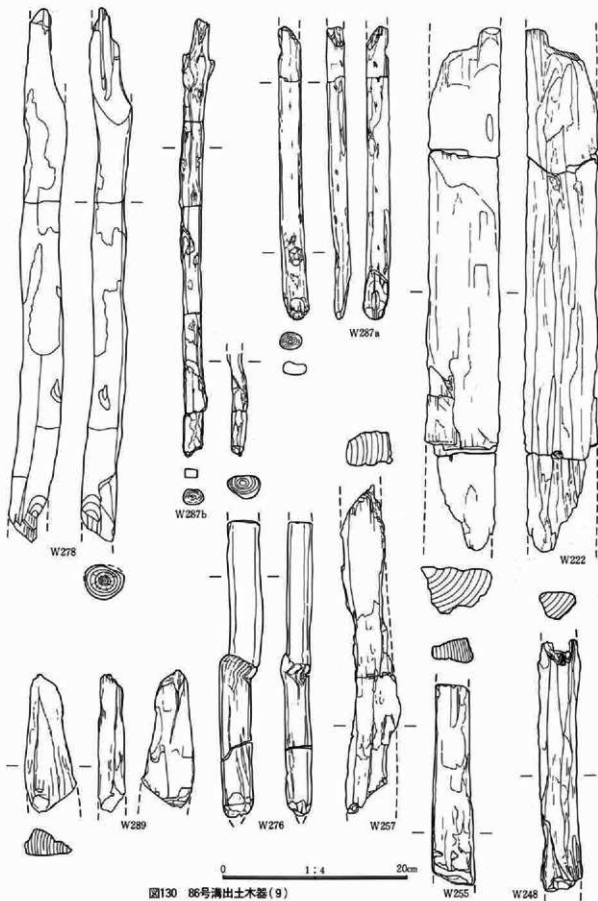


図130 86号溝出土木器(9)

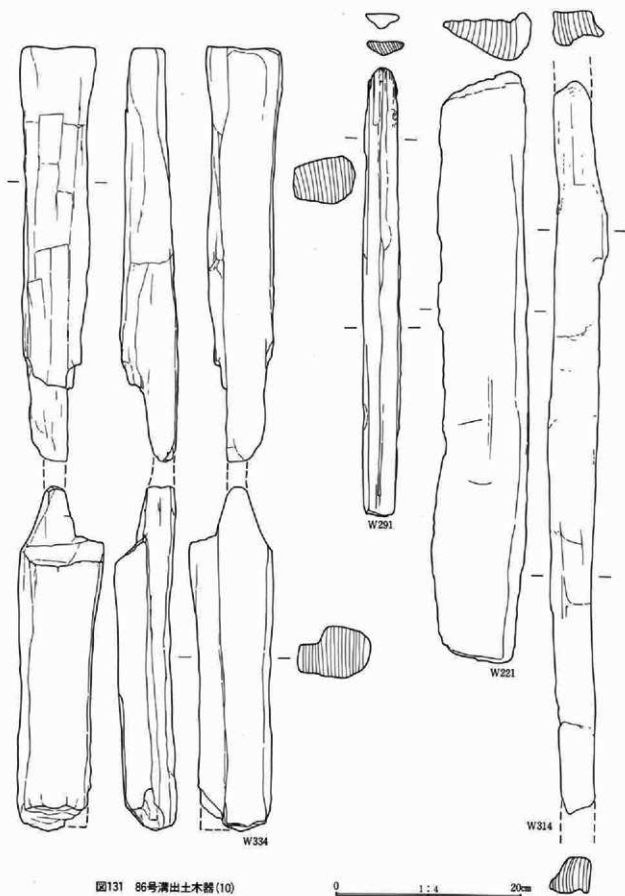


図131 86号溝出土木器(10)

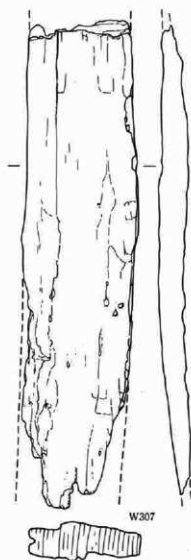


図132 86号溝出土木器(11)

0 1:4 20cm

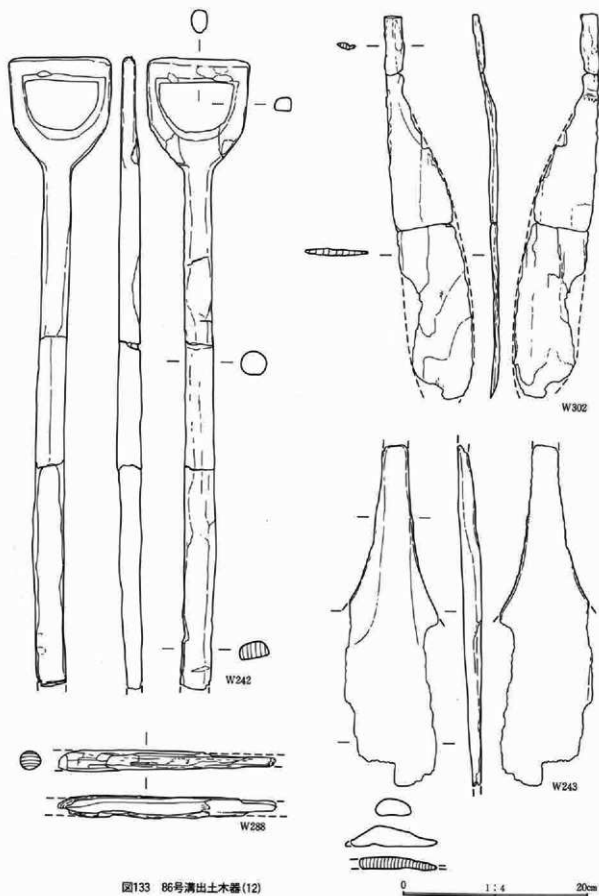


図133 86号清出土木器(12)

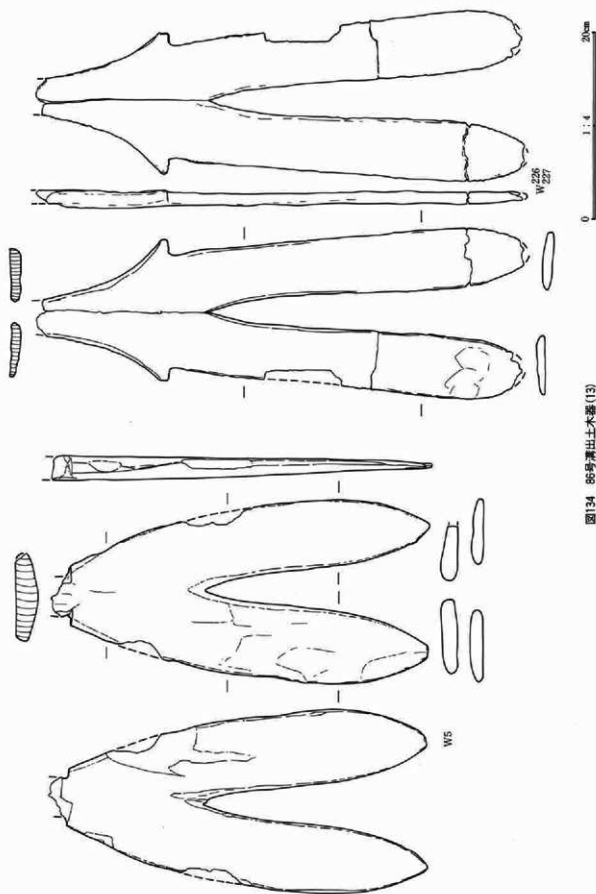


图134 86号溝出土木器(13)

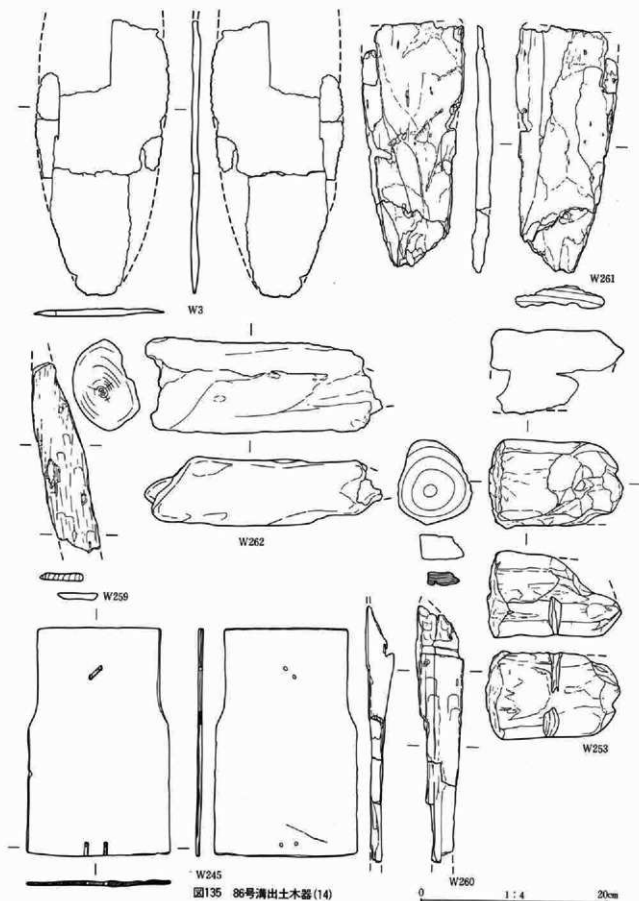


図135 86号溝出土木器(14)

0 1:4 20cm

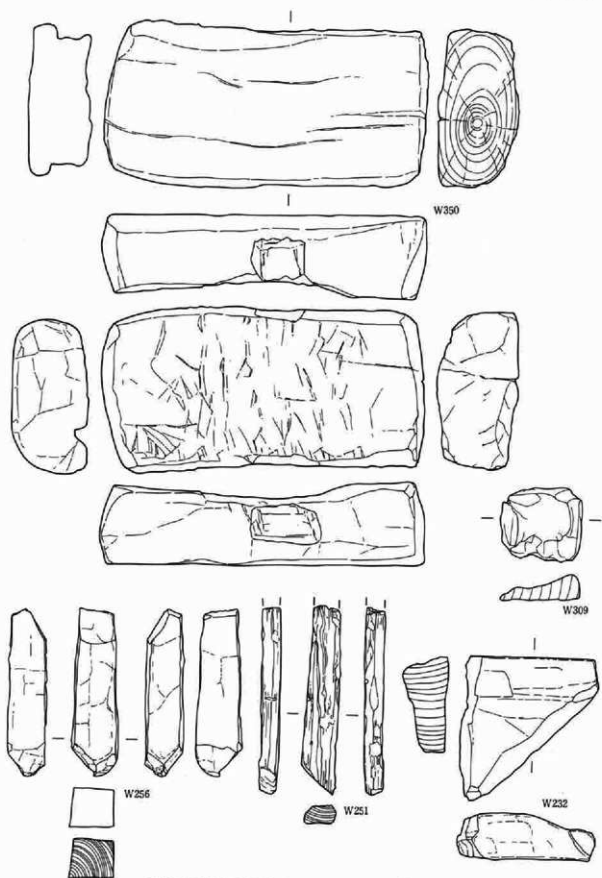


図136 86号清出土木器(15)

0 1:4 20cm

第3章 溝の調査

87号溝 付図7-4、図137-138、PL27-1-3、PL88、表P.50

位置 M-42、N・O-43-48グリッド

重複 8号前方後方形周溝墓に先行する。

走向 ほぼ南北方向

規模 幅1.9m～3.4m 深さ0.5m～1.11m

調査長27.0m

形状 (傾斜 南端94.18m-北東端94.03m)

定形化したU字形の溝である。86号溝の堰付近からO-45グリッドポイント付近まで大きく湾曲し、ほぼ南北に溝が延びている。

埋没土 2号方形周溝墓や8号前方後方形周溝墓の間に位置し、砂質混じりの土層が溝内でいくつか確

認できる。86号溝とほとんど同時期の埋没土と考えられる。

出土遺物 埋没土内より弥生土器・土師器・木製品・杭が出土している。

調査所見 86号溝と同時存在と考えられる。86号溝の堰から水を引き込む導水路の役目を果たすものと考えられる。遺物出土状況や8号前方後方形周溝墓の土層から前方後方形周溝墓に先行する溝と考えられる。1号～3号方形周溝墓の東溝と重複するかのようであり、土層堆積状況から当該期は低い地形を避地した可能性がある。(相京)

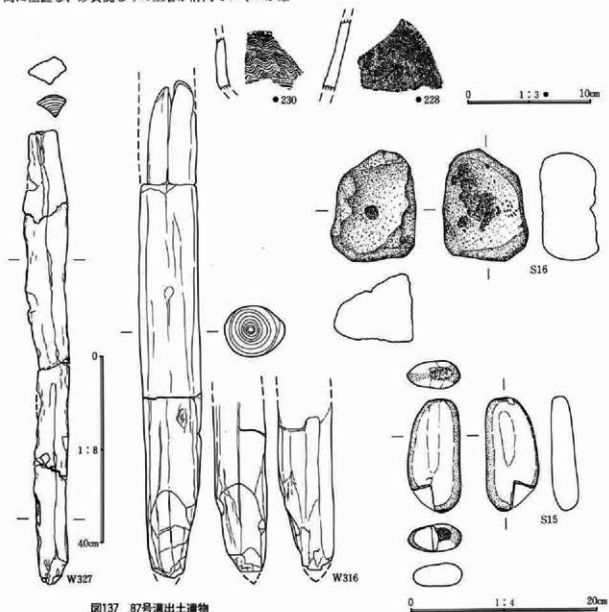
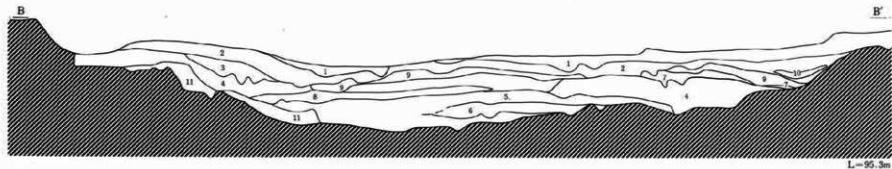


図137 87号溝出土遺物



- | | | |
|-----|------------|-------------------------------|
| 1層 | Hr-FA 下水田下 | 酸化鉄が多量に入る。 |
| 2層 | 暗茶褐色土 | 酸化鉄が多量に入る。粘性が大きい。 |
| 3層 | 暗灰褐色土 | 酸化バクテリアが斑点状に入る。炭化物を含む。粘性が大きい。 |
| 4層 | 暗灰褐色土 | 砂層。As-C を多量に含む。 |
| 5層 | 暗灰褐色土 | 砂層。細砂層。As-C を少量含む。 |
| 6層 | 暗灰褐色土 | 砂層。ラミナ状を呈す。細かい砂である。 |
| 7層 | 暗灰褐色土 | 砂層。ラミナ状を呈す。砂が粗い。 |
| 8層 | 赤褐色土 | 砂層。白色粘土ブロックを含む。 |
| 9層 | 明赤褐色土 | As-C を含む。 |
| 10層 | 川砂。細砂粒。 | |
| 11層 | 黒褐色土 | As-C を均一に含む。8号埋溝を覆う土層。 |

0 1:40 2m

図138 87号潜水層断面

第3章 溝の調査

88号溝 付図7-4

位置 L-42~44、M-42・43グリッド

重複 86号溝、8号方形周溝墓

走向 北西から南東方向を示すが、調査範囲が狭く、詳細は不明である。

規模 幅4.0m~2.7m 深さ0.7m~0.35m

調査長6.5m

形状 不明。

溝の幅は東側が狭く、西側の86号溝と合流する部分は広がっている。法面の傾斜は比較的一定している。底面は幅2.0mであり、東側が高く、西側が低くなっている。

埋没土 黒色~黒褐色のAs-Cを多く含む粘性土によって埋没していた。底面には砂利が堆積していた。
出土遺物 掘削時期を示すようなものはほとんどない。

調査所見 86号溝に連なる溝であり、埋没時期は86号溝とほぼ同時とみて良いものと思われる。88号溝として取り上げた遺物には時期を示すようなものはないが、86号溝には多量の木器や土器片等がある。

(松村)

93号溝 付図7-5、図139、PL27-5-6

位置 Z-61・62・63グリッド

重複 52号溝によって切られている。

走向 南東から北東

規模 幅0.9m~1.2m 深さ0.03m~0.11m

調査長4.0m

形状 (傾斜 南端94.42m-北端94.40m)

断面は鍋底状を呈し、長軸方向の北西端は緩やかに段状を呈しながら上端に達する。南東部分は52号溝により切られているが、継続するなら、Z-63グリッドの52号溝に切られた一部が残存すると推定し全長約8.5mの舟底形の溝になる可能性もある。

埋没土 上半は黒褐色の粘性土であり、炭化物を含んでいる。下半は地山の漸移層で、粘性が強い。

出土遺物 なし。

調査所見 掘り込み面として確認できたのはIV面で

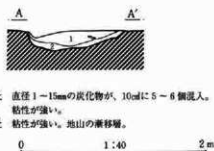


図139 93号溝土層断面

ある。流水のあった可能性は埋没土の状況から、かなり少ないと考えられる。溝の形状や方位から、1号墓坑の南西に位置する周溝墓の一辺としての推測、検討はしているが、不確定である。(相京)

95号溝 付図7-5、図140、PL27-7-8、PL28-1、PL88、表P.50-51

位置 X-54・55グリッド

重複 96号溝との新旧関係は不明である。

走向 蛇行しながら南南西へと下る。

規模 幅0.5m~0.8m 深さ0.1m~0.18m

調査長7.0m

形状 (傾斜 北端93.84m-南端93.78m)

現水路の善勝寺堀によりほとんどが破壊され、形状を十分に残していない。溝の底部は狭く、U字形を呈している。

埋没土 重複が激しいため、溝の底面部分は調査されたが土層図はない。調査時の観察では237遺物は砂利が混じる土層内からの出土であり、流路としての溝の可能性があったことが推察できる。小さな蛇行を繰り返して下流へ向かうものと考えられるが、推測の域を脱しない。

出土遺物 出土遺物は溝の底部付近にしか存在せず、底部に近接して出土した。遺構の破壊が激しく、遺構の重複からの新旧関係は不明である。出土遺物は弥生土器片を含むが、主として土師器が出土していることから古墳時代と推定される。

調査所見 現在使用されている善勝寺堀と96号溝との関係において、検出された溝は底部付近だけであった。全体の形状や流路もほとんど不明である。検出できたのは善勝寺堀の法面を精査した段階であ

る。調査区の西端であり、堀との関係から遺構の年代は不明である。(相京)

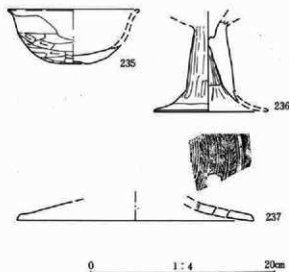


図140 95号溝出土遺物

96号溝 付図7-5、図141、PL28-1、PL88、表P.51

位置 W-54・55、X-54-56グリッド

重複 95号溝との新旧関係は不明である。

走向 わずかに蛇行しながら下る。

規模 深さ0.4m-0.5m

調査長14.0m

形状 (傾斜 北端94.2m-南端94.1m)

残存状況から推定すると、かなり定形化したU字状の溝と考えられる。Y-57グリッドにおいて西へ走向を変え、善勝寺堀に切られている。

埋没土 現水路の善勝寺堀の泥土等を取り除いた結果が、溝状遺構の法面となった。土層図はない。ただし、95号溝と重複していない部分でもわずかに砂質土層を観察しており、流路の可能性もあったことが推定される。

出土遺物 重複が激しく、現水路の影響を多く受けていることなどから、時期決定は不可能であるが、出土遺物は弥生時代-古墳時代のものである。

調査所見 現水路の善勝寺堀により、溝の長軸方向に、中央から西側部分を2/3程度破壊されている。

(相京)

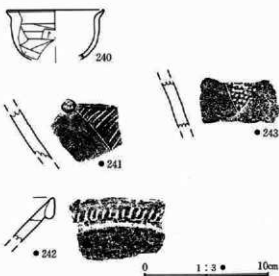


図141 96号溝出土遺物

97号溝 付図7-5、図142、PL28-1、PL88、表P.51

位置 Y-57グリッド

重複 175号住居との新旧関係は不明である。

走向 南へ向かう。

規模 幅0.4m-0.6m 深さ0.06m-0.22m

調査長4.5m

形状 (傾斜 南端94.27m-北端94.18m)

小規模な溝である。定形化した断面はU字形を呈す。

出土遺物 埋没土中より弥生土器・土師器が出土した。図示はできない破片である。石器(S47)1点を図示した。

調査所見 弥生時代-古墳時代弥生時代前期のAs-Cの下位において確認できたが、土層遺構掘削時の擾乱を受けた可能性もあり、時期は不明である。

(相京)

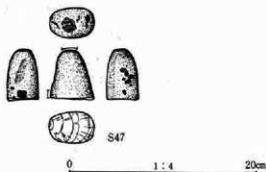


図142 97号溝出土遺物

3. 下り柳地区の溝

1号溝 付図8-4, PL29-2-3

位置 E-59、F・G-59・60グリッド

重複 1号堅穴。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅2.2m～2.8m 深さ0.08m～0.17m

調査長8.0m

形状 (傾斜 西端97.30m—東端97.29m)

定形化した浅い溝である。幅や法面もほぼ一定している。断面形は逆台形を呈している。底面の幅は約1.4cmであり、床面はほぼ平坦である。

出土遺物 土師器の底部が出土したが、時期決定はできない。

調査所見 1号堅穴と重複関係にあり、溝の一部が切られている。溝は浅く、定形化している。水路として使用された痕跡はない。掘削時期はAs-B堆積以前で、Hr-FA層堆積以後の範疇でしかとえられない。(相京)

2号溝 付図8-4, PL29-2-4

位置 F-58、G-57・58、H-56・57、I-55・56グリッド

重複 なし。

走向 北西から南東方向へ延びる。

規模 幅1.2m～2.4m 深さ0.60m～0.86m

調査長22.0m

形状 (傾斜 南東端96.76m—北西端96.62m)

検出部分中央でわずかに曲がる。断面形は逆台形を呈している。溝の上端・下端幅はほぼ一定であり、溝法面の角度もほぼ一定している。

出土遺物 土師器の甕の破片が1片出土している。

調査所見 溝の確認面がAs-B層下であり、Hr-FA層よりも上層である。溝底面の標高は北西が低く、南東が高いが、水路として使用することを考えると逆流を考えがちとなるが、取入口付近の水の削り込み部分に近いことを考慮すべきであり、底

面の高さよりも、水面で検討すべき溝を考え、南東に流れる溝と考える。(相京)

3号溝 付図8-4

位置 G・H-54、I-54・55グリッド

重複 明確な重複関係は認められないが、東側の部分で2号堅穴遺構との関係が不明瞭であり、重複関係があったのかもしれない。

走向 一部が現在の農業用水に壊されているが、ほぼ東西方向に延びる溝であり、現在の築谷川にほぼ直行する形である。ただし前述した2号堅穴との重複関係により、東側の調査区域外にも延びていない可能性が高いと言える。

規模 幅0.7m～1.4m 深さ0.08m～0.17m

調査長9.0m

形状 (傾斜 東端97.45m—西端97.40m)

不定形な形状で幅自体も一定でなく、浅く不定形な断面形態を呈する溝である。

埋没土 As-Bを含むかどうかは調査時の所見や土層の観察からも不明瞭である。

出土遺物 なし。

調査所見 残存状況は良好でなく、掘削時期も検出面がAs-Bの降下・堆積段階であることから、その上限は明らかにAs-B降下・堆積以後であることが判断できる程度である。さらに、溝としての機能を有していたかどうか不明であり、むしろ周辺に隣接して何本かの単位で存在している、東西方向に延びる畝のサク状遺構と考えられるものに類似しており、特にすぐ北側の1本、南側の2本と本溝の間隔がほぼ一定であることから、あるいは畝のサクの可能性が高いと言える。(麻生)

4号溝 付図8-4、PL29-5

位置 G・H-51グリッド

重複 26号土坑と重複する関係が認められるものの、その前後関係は不明である。

走向 調査区域の東側に位置し、現在の染谷川にはほぼ直行する形である。東西方向に延びる他の溝と同様に、東側の調査区域外にも延びていると考えられる。一方の西端は前述した26号土坑との関係から、不明瞭になっているが、すぐ西側に隣接して両端が現在の染谷川と農業用水に壊されているほぼ東西方向に延びる溝があり、本溝との間の延長部分の等高線の在り方から、やや蛇行はしているものの、つながっていた可能性がある。

規模 幅0.5m～1.2m 深さ0.15m～0.17m

調査長5.0m

形状 (傾斜 東端97.48m-西端不明)

不定形な形状で幅自体も一定でなく、浅く不定形な断面形態を呈する溝である。

埋没土 As-B を含むかどうかは調査時の所見や土層の観察からも不明瞭である。

出土遺物 なし。

調査所見 残存状況は良好でなく、掘削時期も検出面がAs-Bの降下・堆積段階であることから、その上限は明らかにAs-B降下・堆積以後であることが判断できる。さらに、水路としての機能を有していたかどうか不明である。(麻生)

5号溝 付図8-3、図143、PL29-2-6

位置 F-K-44～64グリッド

重複 2・3・7・8号溝、及び1号堅穴と重複するが、前後関係が認められるのは7号溝であり、後出する。

走向 調査区域の西側に位置し、8号溝の南壁から南側方向に現在の染谷川にはほぼ平行する形で走行する。I-H-51～58グリッド間が現在の農業用水路により壊されているが、2号溝の南壁付近から再び南に走行し、南西側の調査区域外に延びている。

規模 幅0.8m～1.6m 深さ0.24m～0.47m

調査長36.0m

形状 (傾斜 東端97.50m-西端97.26m)

K-44グリッドでは断面においてU字形を呈していることがわかる。新しい水路によりほとんどの部分(J-46～48グリッド)を欠いてしまうが、残る溝の壁の等高線からK-44グリッドで確認できた形状で定形化している。

埋没土 図143の5・7号溝埋没土では、7号溝の埋没土を切って5号溝が作られている。埋没土の様相から水が流れたかは不明である。

出土遺物 なし。

調査所見 7号溝の埋没土を切ってつくってある。両溝とも複雑な埋没土の堆積状態と、5号溝の主軸方向に現水路が重なり、重複関係を見極めることはかなり困難であったが、5号溝東側の立ち上がり状況はU字形の一端をのぞかせている。西側の立ち上がりは現水路の壁において5号溝の形状を斜めに切っているため、土層からは不明瞭な状態となっている。また7号溝の埋没土が5号溝の壁になり、5号溝に流れ込み、再堆積層を形成している。周辺の土層堆積にHr-FA層がある。このことより本溝はHr-FA層や7号溝より新しく、As-B層よりも古い。(麻生)

7号溝 付図8-3、図143

位置 I-K-46～49グリッド

重複 5号溝・6号溝と重複しており、5号溝に先行している。

走向 東西方向の主軸であるが、東側には延びない。

規模 幅8.0m～11.2m

調査長11.2m

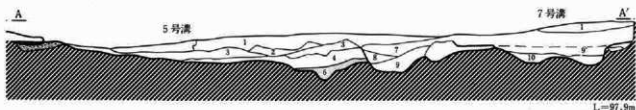
形状 落ち込みの角度が緩いU字形の形状を呈し、本遺跡で検出された溝の中では比較的深い遺構である。ただ緑辺部の落ち込みの様子や現在の染谷川に接して西側に広がる落ち込み部分などから、決して定形的な溝と呼べる状況でない。

埋没土 As-Bを含む。

調査所見 形態的には北側に位置する8号溝に類似

第3章 溝の調査

しているが、東側に延びて行かないことから、同様の機能を有した溝とは考えられない。(麻生)



- 1層 水田耕作土。As-B直下層(水田耕作土)。細かい砂質土であり、鉄分が集積する。
- 2層 As-B混入層。鉄分の集積の為にやや黄色がかっている。
- 3層 As-B灰層(わずかに褐色)。
- 4層 暗褐色土 As-Bに、部分的に灰を含む。
- 5層 暗褐色土 直径1cmのAs-Bの軽石と、灰を一部に混じる。
- 6層 As-B純埋積層。
- 7層 暗黄褐色土 9層と同じだが、わずかに黒い。
- 8層 暗褐色土 As-B砂質土の中に、灰のブロックがある。
- 9層 暗黄褐色土 やや黄色がかっている。
- 9層 暗褐色砂質土 8層に近いが、As-Bの純埋積層の可能性が高い。
- 10層 暗褐色土 As-Cの流入土がある。5号溝として生きていたときに、まわりから流れ込んだものと考えられる(白色鉱物粒が入る)。

図143 5号・7号溝土層断面

0 1:60 2m

6号溝 付008-3, PL30-1

位置 H-47・48、I-46・47、J-44~47グリッド

重複 7号溝・8号溝と重複しているが、その前後関係は不明である。

走向 調査区域の東側に位置し、現在の染谷川には平行する。東西方向に延びる他の溝と同様に、東側の調査区域外にも延びている。途中で向きと主軸方向をわずかに変更させており、特に7号溝の縁辺では大きく東に向きを変えている。また、現在の農業用水に一部が壊されている。

規模 幅0.2m~0.6m 深さ0.04m~0.07m

調査長 28.0m

形状 (傾斜 北端97.71m~南端97.61m)

浅いU字状を呈する定形的な溝である。

埋没土 As-Bを含む。

調査所見 土層の観察からは流水の証拠が得られず、その機能を推定する根拠はほとんど分らない。

(麻生)

8号溝 付008-3, 図144, PL30-2-3

位置 I-43・44、J・K-42~44、L-41~43グリッド

重複 5号溝・6号溝との関係は、接点部分周辺が調査開始時まで使用されていた農業用水のために壊されていた。検出時の確認でほぼ同様の埋没土のために不明確であったことから、その前後関係を把握することができなかった。9号溝との関係は、調査区域東側での土層の観察から、後出であることが確認されている。

走向 東西方向に延びる溝であり、現在の染谷川にはほぼ直交する形である。川に隣接する部分は、やや扇状に広がるとともに、川側に傾斜している。

規模 幅3.0m~8.6m 深さ0.30m~0.53m

調査長 15.0m

形状 (傾斜 西端96.49m~東端97.40m)

落ち込みの角度が緩いU字の形状を呈し、本遺跡で検出された溝の中では比較的深い遺構である。定形的な溝であり、現在の染谷川に接する西側に広がる

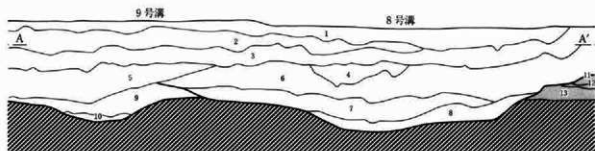
落ち込み部分以外はその幅もほぼ一定で、そのまま調査区域外の東側に延びるものと考えられる。

埋没土 溝の落ち込みが確認されるのは南側部分がAs-Bの堆積層面(ないしはそれよりもやや上位の地層面)からであり、北側部分は明らかに9号溝の埋没後に掘削されていることを示している。後出の8号溝の埋没土にもAs-Bが含まれていることから、両者が溝として機能していた上限と下限との時間差もあまりなかったと考えられる。また、走向の主軸方向もほぼ同じであることから、あるいは作り替えの可能性も指摘できる。その想定をさらに補強するような理由として、まず本溝の埋没以後、ほぼ本溝の位置に3層下面から6層を掘り込む形で、さらさらの砂が主体の4層を埋没土とする溝状の遺構の存在が認められる点や、さらに、北側に隣接する9号溝とほぼ同じ位置に浅いながらも、土層の観察から溝状と考えられる遺構の存在が認められることなどがあげられる。つまり、四度もの溝の作り替えがなされていたと考えられるのである。だが、理由の中で後述した溝の掘り込みが本溝埋没土の白色軽石をわずかに含むだけの6層面からであり、その下

位にはAs-Bを少量だけ含む7層が存在することからみて、後出するこの遺構の埋没土にAs-Bが多量に含まれる点がやや疑問視され、あるいは、土層堆積の順序の確認を誤ったのかもしれない可能性がある。そうであるならば、9号溝そのものが本溝とほぼ同様の規模を呈していたとも考えられるが、作り替え自体はほぼ間違いないものと言える。

出土遺物 なし。

調査所見 現在の用水の一部を壊されているものの、比較的残存状況は良好である。また、その掘削時期についても、下限はAs-Bの堆積以後であり、上限は3層が堆積するまでの間と考えられるが、3層の堆積開始時期が明確にならない限りは、その廃絶時期は不明である。水が流れていたかどうかは、残念ながら調査時の観察では不明確であったが、本溝最下部の層が砂質であることがAs-Bの影響でないとするならば、その可能性は高いと言える。さらに、9号溝に水が流れていたと考えられたうえで、本溝がその機能をそのまま引き継いでいたとするならば、ほぼ東西方向に延びる溝として染谷川に注ぎ込んでいたのか、あるいは逆に、この部分が取水口



- | | | |
|-----|---------|--|
| 1層 | 黒色土(表土) | ボンボンしている。 |
| 2層 | 褐色土 | 白色鉱物を少量含む。 |
| 3層 | 褐色土 | 2層に類似するが、白色鉱物をほとんど含まず、やや砂質を帯びる。 |
| 4層 | 明褐色砂層 | 極めて、さらさらの砂がまじりつとつまっている。 |
| 5層 | 茶褐色砂質土 | As-Bを多量に含む(9層よりは少なめ)。 |
| 6層 | 茶褐色土 | やや粘性をもち、白色軽石はわずかに含むだけである。やや全体にボンボンとしている。 |
| 7層 | 暗褐色土 | As-Bを少量含む。暗茶褐色土ブロックを少量含む(8層より多め)。 |
| 8層 | 暗褐色砂質土 | As-Bを多量に含む。暗茶褐色土ブロックを少量含む。 |
| 9層 | 暗褐色砂質土 | As-Bを8層に比べて多量に含む。8層に比べて全体に砂質である。 |
| 10層 | 暗褐色砂質土 | As-Bを少量含む。やや粘性をもち。 |
| 11層 | As-B | 軽石純堆積層。 |
| 12層 | As-B | 灰層。 |
| 13層 | As-B | 軽石純堆積層。 |

図144 8号・9号溝土層断面

0 1:40 2m

第3章 溝の調査

に相当することにより、自然堤防を横切るような形で東側の低地、あるいは溝の主軸方向を途中で斜めに湾曲させることにより下流域周辺に取水する役割を果たしていたものとも考えられる。特に後者の場合には、この広がり部分の存在と溝そのものの傾斜を利用することにより、取り入れる水の量そのものを制限する役目をもたせていた可能性もある。

(麻生)

9号溝 付図8-3, 図144, PL30-2-3

位置 I-43, J-42・43, K-42, L-41・42グリッド

重複 調査区域東側の土層の観察から、明らかに8号溝に先行する。だが、5号・6号溝との関係は、後出の8号溝が南側に存在していることから不明である。

走向 8号溝よりやや北側に位置し、西側の川寄りでは方向をやや北西寄りに湾曲しているものの、それ以外の部分では8号溝にほぼ平行である。

規模 幅1.2m～1.9m 深さ0.12m～0.2m
調査長16.0m

形状 (傾斜 北西端97.50m～東端97.50m)

現状では8号溝よりも浅いものの、その形はほぼ同様に、幅が一定な落ち込みの角度が緩いU字の形状を呈する定形的な溝である。

埋没土 As-Bを少量含む10層を最下層としており、やや粘性をもつことから流水の可能性も考えられるが、溝の底部はAs-Cを含む黒色粘質土まで達していることから、10層の影響も想定され、明確な結論は出せない。9層はAs-Bを8号溝の埋没土も多量に含むことから、後世の攪拌作用があまり働いていない。言い換えれば、As-B降下・堆積の時期からあまり時間の間隔が開いていない時期に掘削されたと考えられる。さらに、本溝の埋没後、すぐ南側に近接して8号溝が掘削される。8号溝埋没後に本溝とほぼ同じ位置に溝と考えられる遺構の存在が土層の観察から認められる。だがこの点は8号溝の説明でも記述したように、本溝の掘り込みが8号溝

埋没土の白色軽石をわずかに含むだけの6層面からであり、下位にAs-Bを少量だけ含む7層の堆積状況であることから、後出するこの遺構の埋没土にAs-Bが多量に含まれる点が、土層堆積の順序の確認を誤った可能性がある。

出土遺物 なし。

調査所見 8号溝と同様に残存状態は比較的良好である。埋没土の観察からは8号溝に先行することは明らかであり、上述した点からAs-Bの堆積後、間もない時間が経過しない時期に掘削されたと考えられる。上限は8号溝の掘削時にはすでに埋没していることから、8号溝の埋没土中にはAs-Bがあることから、本溝はその少し前の時期というおおよその判定は可能である。さらに少なくとも、3層が堆積を開始する時期が、この溝としての役目を必要としない段階になっているということが言える。(麻生)

21号溝 付図8-2

位置 K-26・27, I-25・26グリッド

N-8～L-13グリッドに検出された細い溝に連続する可能性もある。

重複 22号溝との新旧関係は不明である。

走向 北西から南東方向へ延びる。

規模 幅0.2m～0.4m 深さ0.01m～0.03m
調査長10.0m

形状 (傾斜 北西端98.08m～南東端98.08m)

断面は逆台形状の、ほぼ定形化した形状を呈している。

埋没土 As-Bを掘り下げた段階において確認できた。

出土遺物 なし。

調査所見 22号溝の中央付近を斜めに走る状況を呈しているが、切り合い部分は21号溝が浅くなり、不明な点が多い。As-Bが含まれている。(調査区の北から南北方向に延びる溝と同一である)。現在の柴谷川にほぼ平行の走向である。南に位置する23号溝とも平行しており、何等かの関係が想定される。

(相京)

22号溝 村08-2, 図145, PL31-1

位置 J-L-26・27グリッド

重複 21号溝との新旧関係は不明である。

走向 東西方向

規模 幅0.7m~1.0m 深さ0.11m~0.24m

調査長5.0m

形状 (傾斜 西端97.90m-東端97.85m)

法面は緩やかな斜面をもつ台形を呈し、全体的にはほぼ定形化した幅、形状をもつ。ただし底面は溝の走向に沿って平行な段をわずかにもつ。

埋設土 埋設土は多少の変化をするものの、全体にAs-B軽石を含む。特に下層部分に多い。

出土遺物 なし。

調査所見 比較的残存状況は良好である。As-B軽石の堆積状況は底面に近いところで純層に近似する。南に位置する24号溝に平行している。(相京)

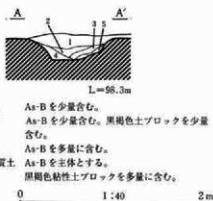


図145 22号溝土層断面

- 1層 暗褐色土 As-Bを少量含む。
 2層 暗褐色土 As-Bを少量含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
 3層 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
 4層 黒褐色砂質土 As-Bを主体とする。
 5層 黒褐色土 黒褐色粘性土ブロックを多量に含む。

23号溝 村08-2, 図146, PL30-4

位置 K-32・33, L-32グリッド

重複 なし。

走向 北西-南東の方向を主軸に、北側に位置する21号溝とはほぼ平行する形で、現在の染谷川に沿って斜め方向である。西側は現在の農業用水に壊されており、東側は調査区域内で無くなっているが、その推定延長線上に微地形ではあるが、As-Bの堆積段階直前の地形での等高線がやや長方形に窪む部分があることから、さらに東に延びていたと考えられる。

規模 幅0.3m~0.6m 深さ0.01m~0.15m

調査長 10.0m

形状 (傾斜 北西端97.88m-南東端97.97m)

幅が一定で、U字状の断面形態を呈する定形的な溝である。

埋設土 As-Bを多量に含む。

出土遺物 なし。

調査所見 残存状態は西端を用水に壊されており、遺構そのものも浅いためか、東側部分が調査における確認作業段階でその形状をほぼ失うという、残念な結果となってしまっている。掘り込み面はAs-B上面であり、その降下・堆積からほとんど時間の間隔を開けない段階に掘削されたと考えられる。本溝とは同一主軸の溝が何本も検出されており、その規模が類似するとともに、東西方向を主軸とする溝と比較して、規模が小さい点も同様であることから、その機能についても何等かの共通性があったものと想定される。ただし、その掘削、及び機能していた時期が同じであったかは不明確であるが、少なくともある一定の時間幅の中で、一部は併存する形で存在していたとも考えられる。(麻生)

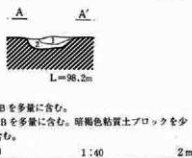


図146 23号溝土層断面

- 1層 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
 2層 暗褐色土 As-Bを多量に含む。暗褐色粘質土ブロックを少量含む。

24号溝 村08-2, 図147, PL30-5

位置 J・K-35グリッド

重複 なし。

走向 西側は現在の農業用水に壊されているが、ほぼ東西方向に延びる溝であり、現在の染谷川にはほぼ直行する。東側は調査区外に延びていると思われる。

規模 幅0.3m~0.5m 深さ0.09m~0.13m

調査長7.0m

第3章 溝の調査

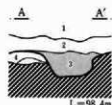
形状 (傾斜 東端97.79m-西端97.79m)

幅が一定で、U字状の断面形態を呈する定形的な溝である。

埋没土 As-Bを多量に含む。

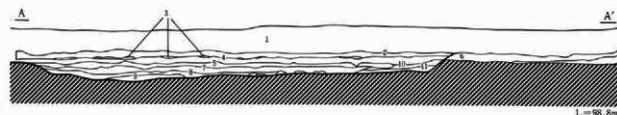
出土遺物 なし。

調査所見 掘削時期は、埋没土にはAs-Bを含んでおり、掘削時期の上限は明らかにAs-B降下・堆積以後である。機能は、本溝の最下面に水が流れていた痕跡が認められず、流水の可能性は少ない。また、すぐ北側に隣接して同一主軸である東西方向に長く浅い土坑が検出された。その東辺は調査区域外であることから、詳細については不明な点が多い。(麻生)



- 1層 表土。
- 2層 褐色土 As-Bを混じる。
- 3層 As-B-Free
- 4層 暗褐色粘質土 As-Bをわずかに含む。

図147 24号溝土層断面



- 1層 黒褐色土 現代の耕作土。
- 2層 暗黄褐色土 シルト質で、鉄分の集積がある(田の床土?)。水の影響を受けている。
- 3層 明黄白色砂 水の影響を受けている。
- 4層 暗茶褐色土 下面に白色軽石が部分的に並ぶように含まれる。やや砂質を帯びる。水の影響を受けている。
- 5層 暗茶褐色土
- 6層 褐色土
- 7層 暗黄褐色土
- 8層 黄褐色土
- 9層 黒褐色土 黄色土粒子を少量含む(As-Cを含む黒色土)。下位土層をブロック状に含む。
- 10層 明褐色土
- 11層 黒色土

図148 25号溝土層断面

25号溝 付088-2,00148

位置 J-L-23・24グリッド

重複 27号土坑

走向 東西方向

規模 幅6.3m-6.8m 深さ0.09m-0.30m

調査長8.0m

形状 (傾斜 東端97.95m-西端97.90m)

浅く、幅の広い定形化した溝であるが、溝の中央に浅いU字状の小溝が確認された。

埋没土 表土層を取り除いた段階で確認できた溝であり、新しい様相である。埋没土中の最上層は水の影響を受けたかのような様相を呈す、シルト質で鉄分が混じる。この土層は、水田の床土の可能性もある。その他、中位の土層にも水の影響を受けた土層の確認ができる。

出土遺物 なし。

調査所見 表土層を約40cm掘削後、平面形が見れる。表土面には現在の地割りがあり、ほぼこの下位にあたる。この溝の周辺のJ-23・24グリッド付近では下層のHr-FA層下水田もなく、本溝により破壊されたものと考えられる。本溝の南に接してわずかに高まりがある。また北側には表土層からの掘り込み状況の確認できる溝(地割り)がある。(相京)

10号溝 付図9-3-4, 図149, PL31-6, PL32-1-2-4

位置 G-51~53, H-48~51, I-46~49, J-44~46, K-41~42, L-40~41グリッド

重複 13号・15号溝、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 北北西から南南東へ、やや蛇行している。

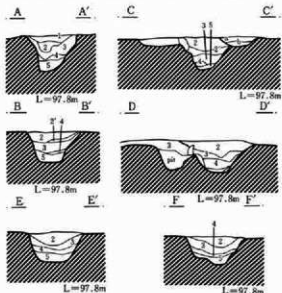
規模 幅0.5m~0.7m 深さ0.21m~0.44m

調査長69.0m

形状 (傾斜 北西端97.23m-南東端97.16m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定している。断面は段を有し、緩いU字を呈す定形的な溝である。底面は幅0.12~0.32m、凹凸が少なく、比較的平坦である。

埋没土 上半は灰褐色~黄灰褐色土、下半は灰白色土で埋まっていた。上半には白色小軽石が含まれる。下半の方が粘性がある。底面に茶褐色の砂がわずか



- 1層 灰褐色土 白色小軽石を少量含む。
2層 灰褐色土 白色小軽石(権名山起源の軽石?)、及び炭化物粒子を少量含む。1層よりやや暗い。
- 3層 2層よりやや粒子が細かく、明るい。やや砂質。
4層 黄灰褐色砂質土 しまりは弱く、柔らかい。白色小軽石を少量、茶褐色砂を含む。
- 5層 灰白色土 やや粘性がある。粒子は細かい。
6層 灰白色土 灰白色土ブロックを少量、やや粗い砂を含む。底面に、茶褐色の砂が貼り付く。
7層 灰褐色土 白色軽石を微量、鉄分集積の入り。Hr-FA 粒子・ブロックを極わずかに含む。
- 8層 灰褐色土 黒色土ブロックをやや多く含む。
9層 暗灰褐色土 黒色土ブロックを多く含む。権名山起源の軽石を少量含む。しまりは良い。

図149 10号溝土層断面

に認められた。

出土遺物 ほとんどない。

調査所見 定形化した溝であり、埋没土の状況から流水のあった可能性が高いと考えられる。全体としての走向は、ほぼ一定しているが、緩く蛇行している部分もある。掘削時期は Hr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)

11号溝 付図9-2-3, 図150, PL32-3

位置 I-43, J-38~43, K-34~38グリッド

重複 9号溝に先行し、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 ほぼ南北方向を示すが、北端・南端が東へ屈曲する。

規模 幅0.5m~0.7m 深さ0.22m~0.34m

調査長47.0m

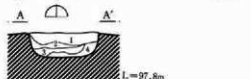
形状 (傾斜 北東端97.48m-南東端97.34m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定している。断面形は幅広のU字形を呈する。底面は幅0.24~0.56mで、凹凸がほとんどなく、平らである。

埋没土 上半は Hr-FA ブロックを多く含む灰褐色土、下半は茶褐色砂を多く含む黒色~茶褐色土である。

出土遺物 なし。

調査所見 定形化した溝であり、埋没土の状況から流水のあった可能性が高いと考えられる。東側から西へ延びて北へ曲がり込み、北側先端部は途中で止まっている。掘削時期は Hr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)



- 1層 灰褐色土 Hr-FA ブロックをやや多く含む。
2層 灰褐色土 Hr-FA ブロックを多く含む。黒色土ブロックを少量含む。
3層 黒色土 粘性がある。茶褐色砂を含む。
4層 茶褐色土 Hr-FA ブロックを少量、茶褐色砂を3層より多く含む。

図150 11号溝土層断面

第3章 溝の調査

12号溝 村99-4, 図151, PL33-4, PL34-1, 表P.52

位置 H-55-59, I-51-56, J-50-52グリッド

重複 畝間J-50付近の畝に後出する。

走向 北北西から南南東へ、緩く蛇行する。

規模 幅0.8m~1.3m 深さ0.14m~0.42m

調査長49.0m

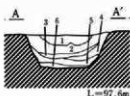
形状 (傾斜 北西端97.10m-南端97.06m)

溝の幅や法面の傾斜は一定しているが、北側の方がやや底面の幅が広く、平坦である。南側の方が底面は若干丸みをもつ。底面の幅は0.28~0.6mである。
埋没土 上半は黄褐色~灰褐色土、下半は灰褐色~黒褐色土により埋まっていた。底面付近には茶褐色

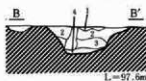
砂が堆積していた。

出土遺物 須恵器の杯、弥生土器片が出土しているが、いずれも埋没土中の出土であり、明確な掘削時期を示すものではない。しかし、730の須恵器杯形土器は回転産削り、無調整であり8世紀後半頃のものと思われる。

調査所見 ほぼは定形化した溝であり、埋没土の状況から流水のあった可能性は高いと考えられる。南側は北側に比べて若干乱れるが、比較的残りは良い。掘削時期は須恵器の杯からすると8世紀後半と考えられ、埋没土からすると Hr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)



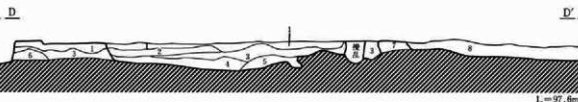
- | | | |
|----|--------|--------------------------|
| 1層 | 黄褐色砂質土 | 粒子は細かい。 |
| 2層 | 灰褐色土 | 粘性がある。 |
| 3層 | 黄褐色土 | やや砂質。灰褐色土を含む。 |
| 4層 | 灰褐色土 | 黄褐色砂質土ブロックを少量含む。 |
| 5層 | 灰褐色土 | 粘性がある。2層よりも白っぽい。 |
| 6層 | 黒褐色土 | 茶褐色砂が底面付近に多く含まれる。しまりは良い。 |



- | | | |
|----|--------|------------------------------|
| 1層 | 灰褐色土 | 黄褐色砂質土を少量含む。 |
| 2層 | 黄灰白褐色土 | 標名山起源の軽石を少量含む。黄褐色砂を多く含む。 |
| 3層 | 灰褐色土 | 黄褐色砂を少量含む。2層よりも粘性がある。 |
| 4層 | 暗灰褐色土 | しまりは良い。黒褐色土を少量含む。底面に茶褐色砂がある。 |



- | | | |
|----|--------|--------------------------|
| 1層 | 黄褐色砂質土 | 粒子は細かい。 |
| 2層 | 黄褐色土 | やや砂質。灰褐色土を含む。 |
| 3層 | 黒褐色土 | 茶褐色砂が底面付近に多く含まれる。しまりは良い。 |



- | | | |
|----|------------|--|
| 1層 | 黄褐色砂質土 | 粒子は細かい。 |
| 1層 | 1層よりもやや暗い。 | |
| 2層 | 灰褐色土 | 粘性がある。 |
| 3層 | 黄褐色土 | やや砂質。灰褐色土を含む。 |
| 4層 | 灰褐色土 | 黄褐色砂質土ブロックを少量含む。 |
| 5層 | 灰褐色土 | 粘性がある。2層よりも白っぽい。 |
| 6層 | 黒褐色土 | 茶褐色砂が底面付近に多く含まれる。しまりは良い。 |
| 7層 | 暗灰褐色土 | 粘性が強い。灰土ブロックを少量含む。黒褐色粘性土の風化したもの。 |
| 8層 | 灰白褐色土 | しまりは弱い。やや砂質。白色軽石(標名山起源の軽石又は Hr-FA)を少量含む。 |



図151 12号溝土層断面と出土遺物

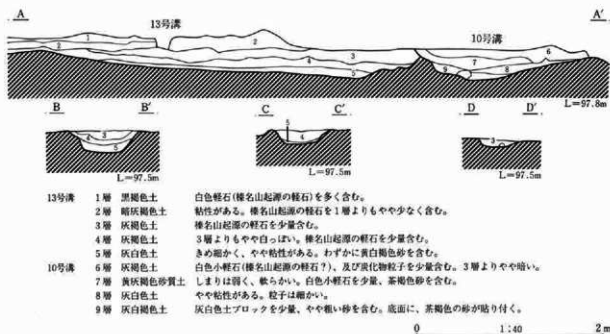


図152 13号溝土層断面

13号溝 付図9-4、図152、PL32-4-6、PL33-1

位置 G-52-61グリッド

重複 10号溝に先行し、14号溝・Hr-FA 下水田に後出する。

走向 ほは南北方向の直線を呈する。

規模 幅0.9m～1.1m 深さ0.10m～0.29m

調査長42.0m

形状 (傾斜 北端97.18m-南端97.16m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定していたものと思われるが、染谷川寄りにはくわがたがって、幅が狭くなり、深さも浅くなっている。底面は幅0.14～0.44mであり、凹凸がほとんどなく、平坦である。

埋没土 上半は黒褐色～灰褐色土、下半は灰褐色～灰白色土である。下半の方が色調が明るい。最下層にわずかに砂が含まれる。

出土遺物 なし。

調査所見 比較的定形化した溝であり、埋没土の状況から流水のあった可能性が推定できる。かなり直線的に走るものであり、染谷川寄りには使用している段階で、何等かの影響により上部が削られた可能性もある。溝に平行して、東側に浅いピット列が認められたが、埋没土などからしても、同溝に関連する

ものと考えて良いと思われる。掘削時期は Hr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)

14号溝 付図9-4、図153、PL32-6、PL33-2-3

位置 F-60-63、G-59・60、H-59グリッド

重複 13号溝に先行し、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 61ライン以南は南北方向を呈するが、G-61 杭のところで北半分は西へ折曲する。

規模 幅0.3m～0.5m 深さ0.04m～0.20m

調査長21.0m

形状 (傾斜 南端97.18m-北西端97.09m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定しているが、若干折曲部分の幅は広い。断面形も比較的一定している。底面は幅0.1～0.2mで、あまり凹凸はない。

埋没土 FA の小ブロックをわずかに含む灰褐色土により、埋没していた。

出土遺物 なし。

調査所見 比較的定形化した溝であるが、埋没土の状況から流水のあった可能性は少ないと思われる。掘削時期は Hr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)

第3章 溝の調査

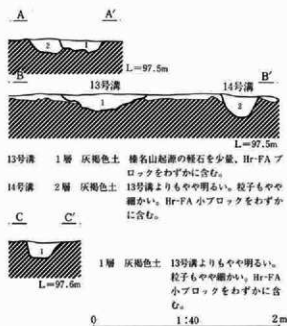


図153 14号溝土層断面

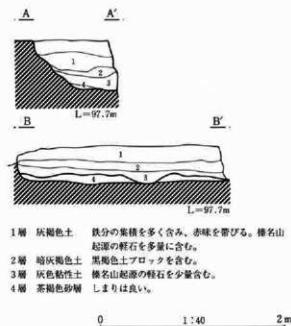


図154 15号溝土層断面

15号溝 付図9-3、図154、PL34-3-5

位置 H・I-47、J・K-46~48グリッド

重複 10号溝に先行し、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 ほぼ東西方向を呈する。

規模 幅0.6m~1.2m 深さ0.07m~0.34m

調査長14.0m

形状 (傾斜 東端97.26m-西端97.23m)

東端から中央の水路部分までは徐々に幅が狭くなり、深さも浅くなるが、それより西側は幅が広く、深さもかなり深くなる。中央の水路付近は削平されているものと思われるが、断面形は比較的安定した形を呈する。底面は幅0.36~0.72mで、西側を除いて凹凸はほとんどない。

埋没土 上半はF Pや黒褐色土ブロックを含む灰褐色~暗灰褐色土、下半はF Pを少量含む灰色粘性土によって埋没していた。西端の幅広の部分では、下半に砂を多く含んでいた。

出土遺物 須恵器(碗の高台片)が埋没土中より出土している。

調査所見 かなり定形化した溝である。西端の幅広で、深い部分を除き、砂は確認されなかったが、浅い部分でも粘性土は認められたので、流水の可能性

があったと考えて良いものと思われる。掘削時期はHr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)

16号溝 付図9-4、図155、PL33-5、PL34-2

位置 E-60・61、F-60グリッド

重複 Hr-FA 下水田に先行する。

走向 北西から南東へ、やや蛇行する。

規模 幅0.4m~0.5m 深さ0.13m~0.16m

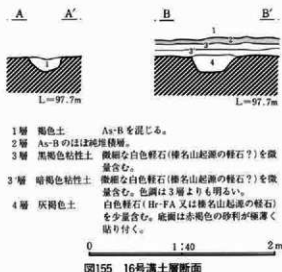
調査長7.0m

形状 (傾斜 北西端97.18m-南東端97.15m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定している。断面形も比較的一定した溝である。底面は幅0.16~0.26mであり、東側の方が西側に比べてやや平坦である。埋没土 白色軽石を少量含む灰褐色土で埋まっていた。底面には赤褐色の砂利が薄く認められた。

出土遺物 なし。

調査所見 定形化した溝であり、埋没土の状況から流水のあった可能性は高いと考えられる。真つぐ延びると13号溝に斜交するはずであるが、中央の水路部分より先は検出できなかった。掘削時期はHr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)



26号溝 付図9-2, 図156, PL31-2-3, PL35-1

位置 K・L-27グリッド

重複 なし。

走向 東西方向。

規模 幅0.5m~0.7m 深さ0.06m~0.52m

調査長6.5m

形状 (傾斜 西端97.94m-東端97.60m)

幅や法面の傾斜はほぼ一定しており、断面形はV字形を呈する定形的な溝である。底面は幅0.12~0.18mである。

埋没土 上半は黒褐色粘性土、下半は暗褐色砂質土によって埋まっていた。下半部の方がしまりは弱い。

出土遺物 土師器の甕形土器の破片が数片出土しているが、いずれも埋没土中の出土であり、掘削時期を示すものとは言えない。

調査所見 定形化した溝であり、底面に砂利層は確認できなかったが、流水のあった可能性はあると考えても良いものと思われる。残存状況は良好である。

掘削時期はHr-FA降下後、As-B降下以前と考えられる。(松村)

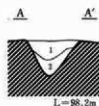


図156 26号溝土層断面

27号溝 付図9-2, 図157, PL35-2

位置 K・L-28・29グリッド

重複 29号溝、1号住居

走向 南西から北東へ、グリッドに斜行する。

規模 幅0.4m~0.8m 深さ0.47m~0.54m

調査長5.5m

形状 (傾斜 北西端97.49m-南端97.46m)

溝の幅や法面の傾斜はほぼ一定しているが、西側の柴谷川寄りでは、かなり幅が広がる。断面形は幅の狭いU字形であり、定形的な溝である。底面は幅0.12~0.28mである。

埋没土 上半が暗褐色土、下半が暗灰褐色土で埋まっていた。上半は黒色土ブロックを少量含む、下半よりもしまりが良い。

出土遺物 埋没土中より、土師器の杯形土器の破片が1片出土しているが、掘削時期を示すものとは言えない。

調査所見 定形化した溝であるが、埋没土の状況からは、流水のあった可能性は確認することはできなかった。1号住居跡の下で、それより東側が不明確となる。掘削時期はHr-FA降下後、8世紀前後と考えられる1号住居跡以前と思われるが、この間に掘削、使用、埋没したものと見えよう。(松村)

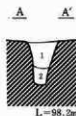


図157 27号溝土層断面

0 1:40 2m

第3章 溝の調査

28号溝 付図9-2, 図158, PL35-3-4

位置 K・L-29グリッド

重複 29号溝、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 ほは東西方向を示す。

規模 幅0.3m-0.5m 深さ0.04m-0.27m

調査長5.0m

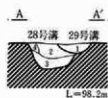
形状 (傾斜 東端97.88m-西端97.75m)

溝の幅は西側が広く、東側は狭い。東側に行くにしたがって深さも浅くなり、調査区東壁まで行かないうちに消えてしまう。西側の方が断面形もしっかりしており、底面も比較的平坦である。底面は幅0.1-0.22mであり、若干凹凸を有する。

埋没土 暗褐色土により埋まっていたが、下半の方が黒味が強く、粘性が強い。

出土遺物 ほとんどない。

調査所見 東側を除き、比較的定形化した溝であるが、埋没土の状況からは、流水のあった可能性は少ないと思われる。掘削時期はHr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)



- 29号溝 1層 暗褐色土 2層に比べて、ややしまりが弱い。鉄分を多く含む。白色岩片粒子・As-Cを含む。Hr-FAブロックを微量含む。
- 28号溝 2層 暗褐色土 鉄分を多く含む。白色岩片粒子・As-Cを含む。1層よりもやしまりは良い。Hr-FAブロックを微量含む。
- 3層 暗褐色土 鉄分を多く含む。白色岩片粒子・As-Cを含む。2層よりも黒味があり、粘性が強い。Hr-FAブロックを微量含む。
- 4層 黒褐色土 As-Cが主体。

0 1:40 2m

図158 28号溝土層断面

29号溝 付図9-2, 図159, PL35-3-5

位置 J-31、K-29-31、L-29グリッド

重複 27号・28号溝、Hr-FA 下水田

走向 北西から南東へグリッドに斜行し、やや緩やかに蛇行する。

規模 幅0.3m-0.4m 深さ0.05m-0.12m

調査長15.0m

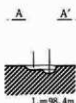
形状 (傾斜 北西端97.89m-南東端97.82m)

幅は西端付近がやや広く、それ以外はほぼ一定している。法面の傾斜も比較的一定しており、断面形は浅い皿状を呈する。底面は幅0.16-0.36mで、凹凸がほとんどなく比較的平坦である。

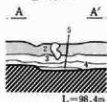
埋没土 As-CやFAブロックを微量含む暗褐色土により埋まっていた。

出土遺物 なし。

調査所見 定形化した溝であるが、埋没土の状況からは、流水のあった可能性は少ないと思われる。掘削時期はHr-FA 降下後、As-B 降下以前と考えられる。(松村)



- 1層 暗褐色土 Hr-FAを主体とする。
- 2層 暗褐色土 やや粘をもつ。



- 1層 表土(耕作土) As-Aを含む。
- 2層 As-Bテフラ
- 3層 黒色粘性土

- 4層 暗褐色粘性土 Hr-FA 上位
- 5層 暗褐色粘性土 Hr-FAブロックをわずかに含む。覆土。

0 1:40 2m

図159 29号溝土層断面

30号溝 村09-1-2, 図160, PL36-1

位置 L・M-21~23グリッド

重複 25号溝に先行し、Hr-FA 下水田に後出する。

走向 北北西~南南東

規模 幅0.5m~0.6m 深さ0.11m~0.12m

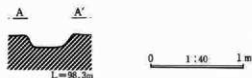


図160 30号溝横断面

調査長15.0m

形状 (傾斜 北北西端98.01m-南南東端98.01m)

断面形は底面が平らで、法面に緩やかに移行する。

全体形状はほぼ同一形態となる。

出土遺物 なし。

調査所見 北北西部分は現代につくられた養魚場、南南東部分は25号溝によって切られている。本溝はHr-FA 下水田を切っており、Hr-FA 降下以降、25号溝構築以前の遺構である。(相京)

31号溝 村09-2, 図161, PL36-3

位置 J~L-25グリッド

重複 Hr-FA 下水田に先行する。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅0.3m~0.6m 深さ0.11m~0.19m

調査長8.0m

形状 (傾斜 西端97.86m-東端97.83m)

断面はU字状を呈す。わずかに曲がるがほぼ定形化

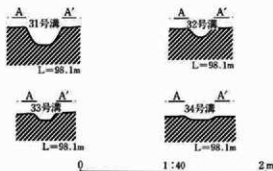


図161 31~34号溝横断面

している。

埋没土 3層確認ができた。最上層はHr-FA層をわずかにのせる。最下層は黒色土に粘性がある。中間には茶褐色土が入る。

出土遺物 なし。

調査所見 L・M-25グリッドにおいて、北側の掘り込み部分が上部からの掘り込みにより一部破壊されているが、底部は元の形状をとどめている。埋没土の最上層にHr-FA層が確認できることにより、古墳時代の溝の可能性が有る。(相京)

32号溝 村09-2, 図161, PL36-3

位置 J~L-25グリッド

重複 なし。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅0.2m~0.3m 深さ0.04m~0.18m

調査長6.5m

形状 (傾斜 東端97.94m-西端97.86m)

U字形の断面であり、ほぼ全体に同一形状をとるが、西端付近においてわずかに深くなる。

埋没土 最上層にHr-FA層があり、下層に黒褐色土がある。

出土遺物 なし。

調査所見 本溝は古墳時代のHr-FA降下時には埋没されていたと考えられる浅い溝である。水の流れた痕跡は不明である。平行して存在する31号溝が北、33号溝が南に位置している。(相京)

33号溝 村09-2, 図161, PL36-3

位置 J・K-25グリッド

重複 なし。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅0.2m~0.3m 深さ0.04m~0.06m

調査長3.5m

形状 (傾斜 東端97.94m-西端97.93m)

浅いU字状を呈している。ほぼ形状は細く、定形化している。

埋没土 2層の埋没土があり、上層はHr-FA。

第3章 溝の調査

出土遺物 なし。

調査所見 32号溝が平行関係で北側に位置している。ほぼ同様の堆積状況の埋没土から、Hr-FA 層下6世紀前半以前の可能性がある。西端はK-25グリッドで終結している。(相京)

34号溝 付図9-2, 図161, PL36-2

位置 K-26・27グリッド

重複 35号溝

走向 東に中央が張り出すように南北に長い。

規模 幅0.25m~0.3m 深さ0.02m~0.05m

調査長6.0m

形状 (傾斜 北端97.91m-南端97.89m)

深さは浅く、底面は凹凸がある。法面は底面から丸みをわずかにもち、立ち上がる。幅は同様にしてつづいている。

出土遺物 なし。

調査所見 35号溝によって切られている。全体形状を延長すると、1号住居跡を越えたL-29グリッドに同一方向性をもつ27号溝が位置している。同一の溝の可能性があるが、深さの違いが大きいことから、他の溝として呼号することとした。(相京)

35号溝 付図9-2

位置 J・K・L-26グリッド

重複 34号溝に後出する。

走向 東西方向の溝である。

規模 幅0.5m~0.9m

調査長4.5m

形状 U字状を呈す。

埋没土 表土層下から掘り込んでいる。

出土遺物 なし。

調査所見 表土層掘削後、平面形確認で検出した。

土はしまりがなく極めて新しい溝と考えられる。

(相京)

20号溝 付図10-2-4, 図162, PL37-1-2

位置 F-62, G-54~62, H-50~55, I-48~50グリッド

重複 As-C下水田に後出する。

走向 北北西から南南東へ延びる。

規模 幅0.5m~1.5m 深さ0.05m~0.2m

調査長150m

形状 (傾斜 北西端97.77m-南端97.08m)

全体形状は、1条から6条の浅い不定形な溝が数を増減しながら同一方向へ走向をもつ。1本の溝にも凹凸があり、途中で途切れたり、また浅い溝となるといった状況である。走向も全体を通してみると、現象谷川にはほぼ平行している。

埋没土 As-Cをすべての土層が含む。

調査所見 L-30グリッドに始まり蛇行を続け、F・G-62グリッドにて調査範囲外に延びる。全体的な状況は幅20cmほどで1条から、多いところで6条(J-38~42グリッド)の併行した小溝は、基本的にはAs-Cを含んだ土層が中心であり、所々で断続的な状況を繰り返しながら、不安定な中において150mを超える長さをもつことなどから、水路の底面の様相を窺うことができそうである。

またL-30~32グリッド、M-32・33グリッドにおいて、As-C下水田の畦畔を切っていることから、時期は古墳時代前期の水田址よりも新しく、埋没土中のAs-Cの混入の度合いから、4世紀前後の水路状の遺構で底面だけが残在したと考えられる。

(相京)

36号溝 図163

位置 J-27~29, K-29~32グリッド

重複 なし。

走向 東西

規模 幅0.3m~0.9m 深さ0.01m~0.08m

調査長5.0m

形状 (傾斜 東端97.18m-西端97.12m)

断面は鍋底状を呈し、浅く狭いが、全体形状にはばらつきがみられ不定形である。

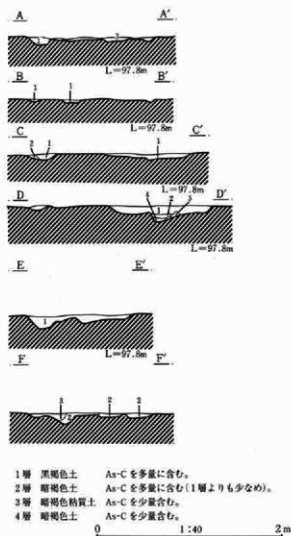


図162 20号溝土層断面

埋没土 白色粘土ブロックを少量含む土層である。
 出土遺物 弥生時代の土器片が1点出土している。
 調査所見 As-C層下から検出された水田床土下で確認された溝である。埋没土中から土器片が一片出土したが、土層との関係から弥生時代と考えられる。(相京)

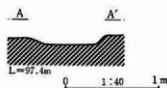


図163 36号溝横断面

37号溝 図164, PL37-4-5

位置 K-17・18、L-N-17グリッド

重複 なし。

走向 ほぼ東西方向

規模 幅1.0m~1.3m 深さ0.42m~0.64m

調査長16m

形状 (傾斜 東端97.33m-西端97.27m)

断面はロート状を呈す。ほぼ東西方向に走向をもつ。全体的な形状はロート状であるが、底部付近で一部わずかに広がるところがある。

埋没土 As-C層下の水田床土下において平面形を確認した土層は褐色土であり、酸化している。その下層がこの溝内の主な埋没土であり、灰白色土がわずかな違いで堆積する。最下層は砂質土が混じる流水堆積層として理解できる。

出土遺物 なし。

調査所見 As-C下水田床土を剥いだ時点で上端幅を確認した。底の幅は狭く、約10cmである。時期を示すものはないが、As-C層下の水田床土下から平面形を確認したことから、古墳時代前期よりは古いものと推定する。(相京)

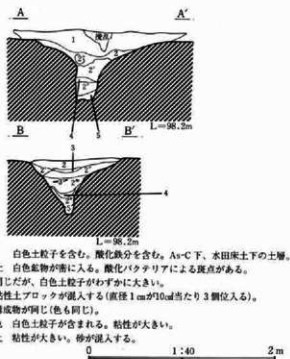


図164 37号溝土層断面

第4章 井戸の調査

1. 概 要

本調査では村前地区で36基、下り柳地区で3基の井戸が調査された。これらはいずれも素掘りの井戸で石組みや木枠を施設していない。平面形態は円形から楕円形で、断面形は円筒状を呈するものがほとんどである。埋没土は自然埋没の状況を示すものがほとんどであるが、人為的な埋没を示唆するような土層断面を呈するものもある。

第一次調査区(村前地区)では、16基の井戸が検出されたが、すべてAs-B下層(I面)で検出されており、As-Bとの関連が具体的に把握できなかった2号、3号、9号井戸などの他はAs-Bを掘り込んで井戸がつくられており、1108年以降の鑿井であることが判明した。出土遺物も数は少ないが陶磁器類の出土があり、近世の井戸である可能性が高い。

第二次調査区(村前地区)では8基の井戸が検出された。掘削時期を特定できた井戸はほとんどないが、19号井戸、27号井戸から板碑が出土しており、これらが15世紀頃のものと思われるので、井戸の年代は中世までさかのぼる可能性もある。

第三～五次調査区(村前地区)では、7基の井戸が調査された。いずれも標名山の爆発にともなうと考えられる洪水堆積物層上面(II面)で検出されている。出土遺物はほとんどなく、時期を限定できないが、埋没土中にAs-B純層を挟まないことか

ら、As-B降下以後の鑿井と考えられる。33号井戸は平面形が隅九長方形を呈し、湧水部の輪に幅20cmほどのテラスをもっている。埋没断面も特徴的であり、特定の構造をもっていたと考えられる。

下り柳地区では3基の井戸が調査されている。これらもAs-B面で検出したもので、出土遺物がほとんどないことから鑿井の時期を限定することは困難であった。(小島)

2. 村前地区の井戸

1号井戸 付図5-1, 図165, PL38-1, 表P.53

位置 B・C-1グリッド

重複 なし。

規模 直径1.52m 深さ0.64m

形状 平面形 正円に近い円形を呈する。

断面形 ほゞ垂直に掘り込まれ、直線的な壁面をもつ。円筒形状を呈する。

埋没土 少量の礫を含んだ砂を主体として、有機質分を多く含んだ灰色粘質土が堆積する。

出土遺物 埋没土下層より、端部に組み合わせ用の切り込みの入った細い板材(W1127)が出土している。

調査所見 本井戸も含め、1号～16号井戸の検出はAs-B層直下面で行っているために、その深度については鑿井当時よりも1～2m浅くなっている。1号～6号・8号井戸は染谷川の旧流路上に、9号～16号井戸は微高地上に立地している。1号～16号の各井戸ともに、石組みを持たない素掘りの井戸であり、上屋等の施設の有無については不明である。1号井戸の底面は湧水層の砂層をわずかに掘り込んでいる。石組み等の施設の有無については不明。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り込んでいることから、すくなくとも12世紀以降であることは明らかである。(石坂)

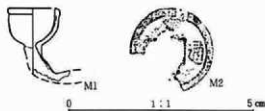


図165 井戸出土の金属器 PL39, 表P.53

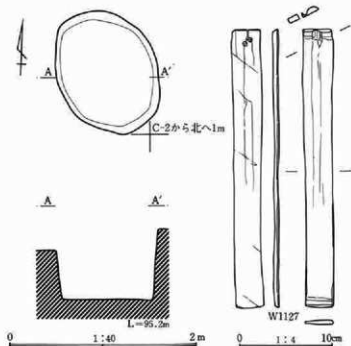


図166 1号井戸と出土木器

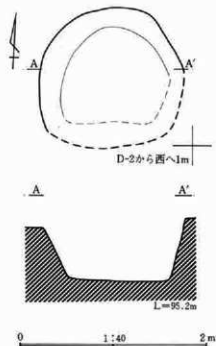


図167 2号井戸

2号井戸 付図5-1, 図167, PL38-2

位置 D-1グリッド

重複 なし。

規模 直径1.10m 深さ0.74m

形状 平面形 調査途上で南半部が崩落したために不明瞭な形状となっているが、円形を呈すると思われる。

断面形 壁面は垂直に近いが、やや傾きもち、逆台形状を呈する。

埋没土 木葉や樹枝を含んだ砂が中位～下位に、上位には暗灰色粘質土が堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 底面は1号井戸と同様、砂層中にとどまっている。石組み等の施設を持たない素掘りの井戸と思われる。鯿井時期については確定できない。

(石坂)

3号井戸 付図5-1, 図168, PL38-3

位置 E-2グリッド

重複 なし。

規模 直径1.46m 深さ1.00m

形状 平面形 楕円形状を呈する。

断面形 ほは垂直に掘り込まれ、直線的な壁面をもつ。壁面の一部に湧水によるあぐりが見られる。円筒形状を呈する。

埋没土 砂と有機質土とが互層堆積している。

出土遺物 埋没土中より細い竹材が出土しているが、加工の痕跡はない。

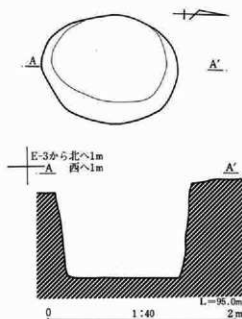


図168 3号井戸

第4章 井戸の調査

調査所見 底面は染谷川旧流路の礫層を若干掘り込んでいる。鑿井の時期は確定できないが、As-Bとの関係から少なくとも12世紀以降である。(石坂)

4号井戸 付図5-1, 図169-170, PL38-4, 表F.53

位置 E・F-2グリッド

重複 なし。

規模 直径1.16m 深さ2.08m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 底面から開口部にかけて徐々に幅広くなるV字形状を呈する。

埋没土 上位に暗灰色粘質土が、下位に砂礫層がそれぞれ堆積する。

出土遺物 埋没土下層より、19世紀代の鋳鉢(678)の破片1点が出土している。

調査所見 確認面上端から約1m下位に、小さなあぐりが認められる。調査時点での湛水深は、開口部上端より0.7m下位にある。底面は砂層を掘り抜いて、粘質土を0.7mほど掘り下げている。(石坂)

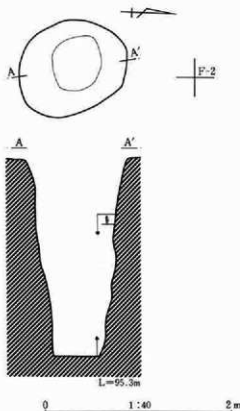


図169 4号井戸

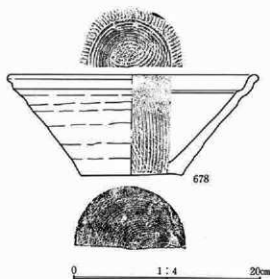


図170 4号井戸出土遺物

5号井戸 付図5-1, 図171, PL38-5

位置 G-3グリッド

重複 なし。

規模 直径0.78m 深さ0.24m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 逆台形状を呈する。

埋没土 有機物を含んだ砂が堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 底面近くの一部分を調査し得たのみであるが、底面は砂層をわずかに掘り込んでいる。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り込んでいることから、少なくとも12世紀以降の所産である。(石坂)

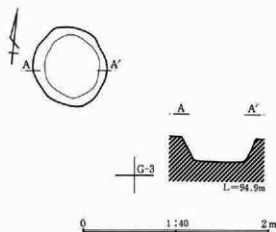


図171 5号井戸

6号井戸 付図5-1, 図172, PL38-6

位置 G-3グリッド

重複 なし。

規模 直径0.82m 深さ0.18m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 逆台形状を呈する。

埋没土 有機物を含んだ砂が堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 底面は粘質土を掘り込んでいる。染谷川旧流路上に立地する井戸の中では、5号井戸とともに深度の浅い井戸である。(石坂)

8号井戸 付図5-1, 図172, PL38-7

位置 G・H-5グリッド

重複 なし。

規模 直径0.88m 深さ1.54m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 円筒形状であるが、開口部上端より約0.7m下位の壁面に、あぐりが認められる。

埋没土 上位に暗灰色土、中位に青灰色粘質土、下位に有機物を含む砂が各々堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 底面は湧水層から約0.8m下位の不透水層まで掘り下げられている。あぐりの位置は、調査時点での湛水面とはほぼ同一の位置に存在する。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り抜いていることから、少なくとも12世紀以降の所産である。

(石坂)

9号井戸 付図6-1, 図172, PL38-8

位置 A-4グリッド

重複 なし。

規模 直径0.90m 深さ1.38m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 円筒形状を呈するが、底面近くでわずかにオーバーハンクしている。

埋没土 上半部に暗灰色土、下半部に灰色粘質土が堆積する。上半部は人為的に埋めもどした可能性もある。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 目立った湧水層は認められないが、調査時点での湛水面は底面より10cm上位にある。鑿井の時期は確定できないが、Hr-FAを掘り抜いていることから、少なくとも6世紀以降であることは確実である。(石坂)

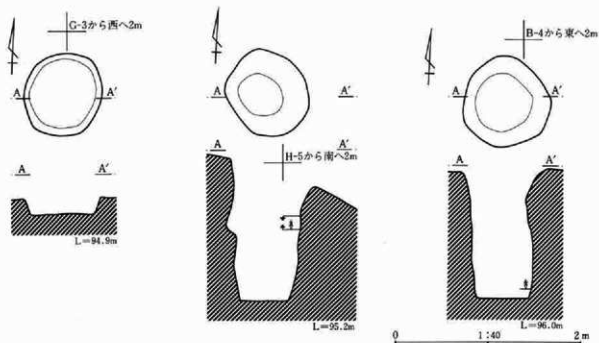


図172 6号・8号・9号井戸

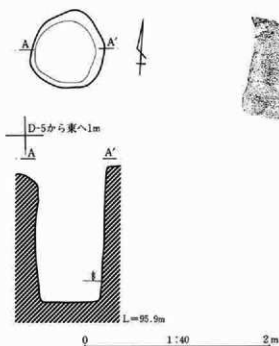


図173 10号井戸

10号井戸 付図5-1、図173-174、PL39-1、表P.53

位置 C-4グリッド

重複 1号溝に後出する。

規模 直径0.78m 深さ1.30m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 円筒形状を呈し、直線的な壁面をもつ。

埋没土 上半部は暗灰色土が、下半部に灰色粘質土が堆積する。9号井戸と同様、上半部は埋めもどされている可能性がある。

出土遺物 埋没土の下半部より、14世紀代に比定される常滑の甕 (679) の破片1点が出土したのみである。

調査所見 目立った湧水層は存在せず、調査時点での湛水面は、底面から約20cm上位にある。底面は不透水層まで掘り下げられている。鑿井の時期は、埋没土中からの出土ではあるが常滑産の甕を重視するならば14世紀代と考えられる。(石坂)

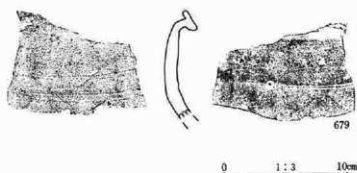


図174 10号井戸出土遺物

11号井戸 付図5-1、図175、PL39-2

位置 C・D-5グリッド

重複 なし。

規模 直径0.88m 深さ0.78m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 壁面が垂直に近い円筒形状を呈する。

埋没土 暗灰色土と灰色粘質土とが互層堆積している。底面付近にわずかな砂の堆積が認められる。人為的に埋めもどされた可能性がある。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 15基の井戸の中で、深度の最も浅い井戸であり、調査時点での湧水や湛水は確認されなかった。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り抜いていることから、12世紀以降であることは明らかである。(石坂)

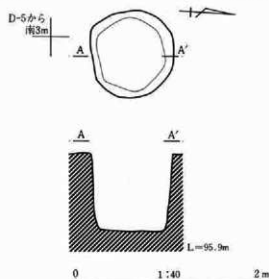


図175 11号井戸

12号井戸 付図5-1, 図176, PL39-3

位置 C-6グリッド

重複 1号溝に後出する。

規模 直径1.22m 深さ1.82m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 底面から開口部へ向かって徐々に幅広となるV字形状を呈する。

埋没土 上位に暗灰色土、中位に灰色粘質土、下位に砂及び青灰色粘質土が堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 湧水層は開口部上端より1.1~1.3m下位にあり、調査時点での湧水面は底面より約45cm上位にある。底面は砂層を掘り抜いて、不透水層上から約40cm下位にある。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り抜いていることから、少なくとも12世紀以降であることは確実である。 (石坂)

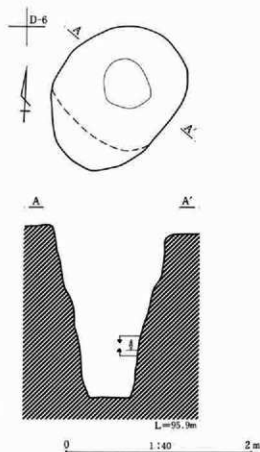


図176 12号井戸

13号井戸 付図5-1, 図177-178, PL39-4, PL59, 表P.53

位置 C・D-6グリッド

重複 2号・4号溝に後出する。

規模 直径2.16m 深さ1.54m

形状 平面形 不整形円形状を呈する。

断面形 開口部上端が極度に開くロート状の断面形をもつ。中位以下の壁面はほぼ垂直に掘り込まれている。

埋没土 上半部に暗灰色土、下半部に砂と灰色粘質土が堆積している。

出土遺物 埋没土中より、棒状の加工木 (W1116) が1点出土している。

調査所見 湧水層は開口部上端より0.7~0.9m下位にあり、調査時点での湧水面は、底面より1m上位

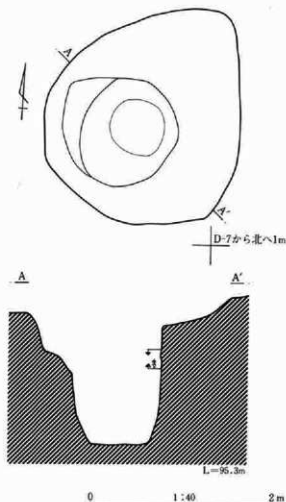


図177 13号井戸

第4章 井戸の調査

にある。底面は湧水層を掘り抜いて、不透水層に達している。鑿井の時期は確定できないが、18世紀代の4号溝を掘り抜いていることから、少なくとも当該期以降の所産と判断される。(石坂)



図178 13号井戸出土遺物

調査所見 湧水層は開口部より約1~1.2m下位に存在し、湛水面はこの湧水層より若干上位に存在する。15基の井戸の中で最も深度の深い井戸である。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り抜いていることから、少なくとも12世紀以降の所産であることは確実である。(石坂)

14号井戸 付図5-1, 図179-180, PL39-5, PL59, 表P.53-54

位置 D-7グリッド

重複 2号溝に後出する。

規模 直径1.84m 深さ4.26m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 開口部付近が大きく外反し、以下がほぼ直線的に掘り込まれたロート状を呈する。

埋没土 上位から中位にかけて、暗灰色土と灰色粘質土とが互層をなして堆積し、下位に青灰色粘質土や有機物を含んだ砂が堆積する。上半部は人為的に埋めもどされた可能性がある。

出土遺物 埋没土の下位より、布目瓦(680)の破片が1点と砥沢石の砥石(S221)1点が出土した。また、円形に加工された板材(W1118・W1119)が2枚、埋没土中から出土している。

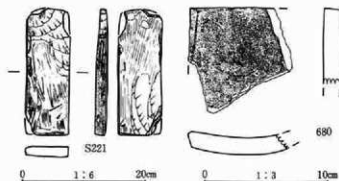
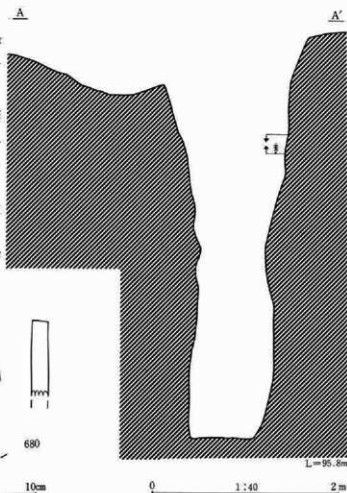
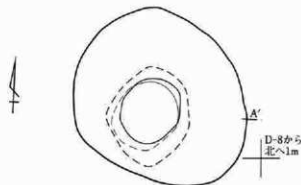


図179 14号井戸と出土遺物



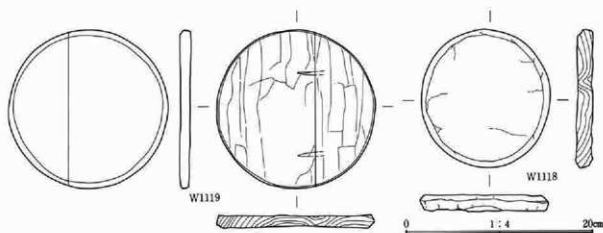


図160 14号井戸出土遺物

15号井戸 付図5-1, 図181, PL39-6

位置 D-8グリッド

重複 2号溝に後出する。

規模 直径1.08m 深さ1.40m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 円筒形状を呈し、壁面は直線的である。

埋没土 上半部に灰色粘質土が、下半部に青灰色土と砂との互層堆積が認められる。

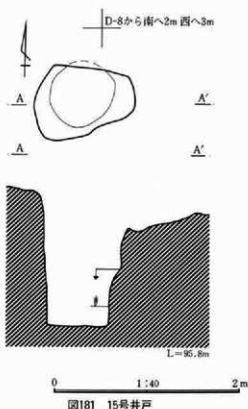


図181 15号井戸

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 湧水層は開口部より0.8m以下に存在するが、調査時点での湛水面は、底面より0.2mの地点にとどまっている。鑿井の時期は確定できないが、As-Bを掘り抜いていることから、少なくとも12世紀以降の所産である。(石坂)

16号井戸 付図5-1, 図182, PL39-7

位置 D-9・10グリッド

重複 なし。

規模 直径1.02m 深さ1.60m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 底面から開口部にかけて徐々に幅広くなるが、中位より上部の開き方が大きいV字形を呈する。

埋没土 上半部に暗灰色土が、下半部に灰色土と砂が堆積する。

出土遺物 全く検出されなかった。

調査所見 湧水層は開口部より約0.3~0.6m下位に存在する。湛水面は底面より約1m上位の地点にある。鑿井の時期は不明であるが、埋没土の状態が13号井戸に近似していることから、同様に18世紀代の所産の可能性が高い。(石坂)

17号井戸 付図5-2, 図183, PL39-8

位置 G-14グリッド

重複 なし。

第4章 井戸の調査

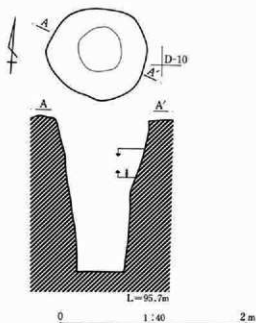


図182 16号井戸

規模 直径0.72m 深さ0.96m

形状 平面形 南北の直径がやや長い楕円形を呈する。

断面形 中位が外側に弱く影らむ。

埋没土 上層の50cmほどには、あまりしまりのない茶褐色土が、下層には青灰色土があり、ヘドロ状を呈していた。

出土遺物 なし。

調査所見 掘り方はかなりしっかりしている。時期は不明である。

(小林)

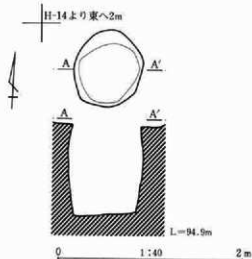


図183 17号井戸

18号井戸 付図5-2, 図184, PL40-1, 表P.54

位置 H・I-18・19グリッド

重複 なし。

規模 直径1.70m 深さ1.32m

形状 平面形 東西方向に長い卵形を呈する。東壁にはテラスがある。

断面形 下半は円筒状を呈する。底面は平坦を成す。

埋没土 確認面から1mほどは、砂粒を多量に含む暗褐色土が堆積している。

出土遺物 埴輪片(681)が出土した。

調査所見 掘削平面形はやや楕円形を呈するが、崩れによるものと考えられる。下半の掘削状況の残存は良好である。

(友廣)

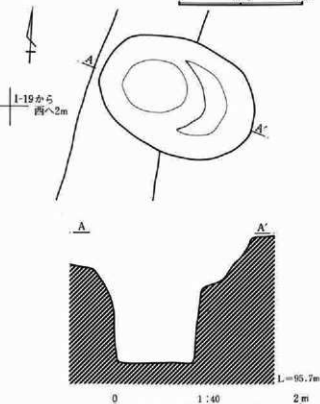
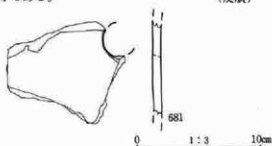


図184 18号井戸と出土遺物

19号井戸 付図5-2, 図185, PL40-2, PL99, 表P.54

位置 I-19グリッド

重複 なし。

規模 直径1.36m 深さ0.98m

形状 平面形 円形を呈する。

断面形 上方に開くU字形を呈する。

埋没土 直径30cmの礫が混入する暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 確認面から50cmほど下位から板碑(S222)が検出されている。

調査所見 平面形は円形を呈し、確認深さは浅い。

出土した板碑から、15世紀末頃の埋没と考えられる。

(左廣)

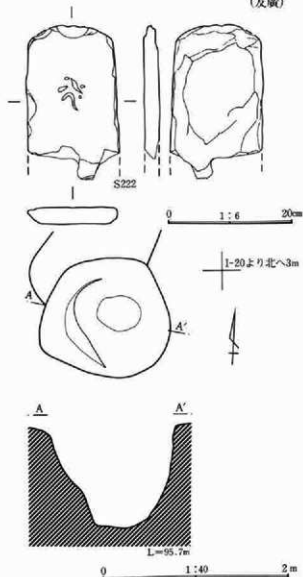


図185 19号井戸と出土遺物

20号井戸 付図5-2, 図186, PL40-3, PL100, 表P.54

位置 F-19グリッド

重複 9号溝に後出する。

規模 直径0.84m 深さ0.98m

形状 平面形 円形状を呈する。

断面形 円筒状を呈する。底面はほぼ平坦を成す。

埋没土 茶褐色土粒を多量に含み、しまりのある暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 数片の土器が出土した。16世紀と考えられる土師質土器皿(682)と石鉢(S223)を図示した。

調査所見 残存状況は比較的良好で、掘り込みは円筒状がやや崩れたものと考えられる。

(左廣)

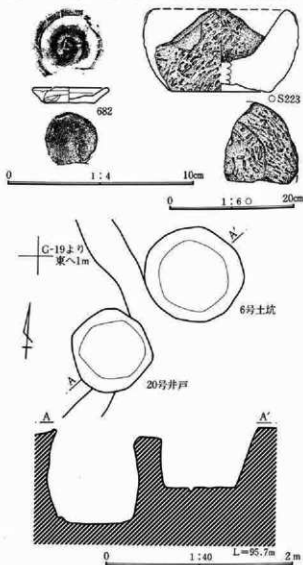


図186 20号井戸と出土遺物

第4章 井戸の調査

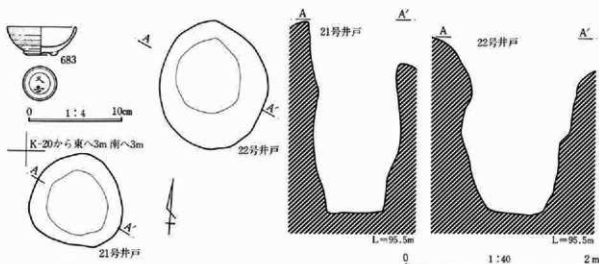


図187 21号・22号井戸と出土遺物

21号井戸 付図5-2, 図187, PL40-4-5, 表P. 55

位置 J-20グリッド

重複 16号溝(西溝)に後出する。

規模 直径1.00m 深さ2.00m

形状 平面形 円形を呈する。

断面形 定形的な円筒状を呈する。中位の壁がやや凹んでいる。

埋没土 下位には青灰色土が堆積していた。

出土遺物 小形の碗(683)が出土している。

調査所見 残存は一部中位で崩れが考えられる。掘削の時期は覆土出土ではあるが、遺物からみて近世以降と思われる。(友廣)

22号井戸 付図5-2, 図187, PL40-4-6

位置 I・J-20グリッド

重複 16号溝(西溝)に後出する。

規模 直径1.16m 深さ1.44m

形状 平面形 やや南に長い楕円形を呈する。

断面形 湧水による凹みが壁に見られ、不定形である。

埋没土 上半は砂質の暗褐色土が、下位には青灰色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

調査所見 断面はやや崩れが確認された。掘削の時期は不明である。(友廣)

23号井戸 付図5-2, 図188-189, PL40-7, PL100, 表P. 55

位置 H-19グリッド

重複 なし。

規模 直径0.72m 深さ2.08m

形状 平面形 円筒形を呈する。

断面形 円筒形を呈する。

埋没土 暗褐色土が堆積していた。

出土遺物 埋没土中より瓦片(693)が出土している。

調査所見 掘り込み面とともに、断面の残存も良好である。掘削時期は不明である。(友廣)

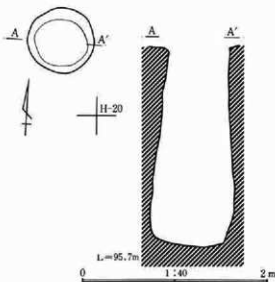


図188 23号井戸

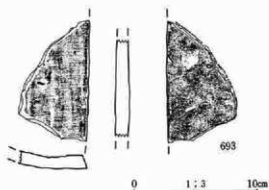


図189 23号井戸出土遺物

24号井戸 村前5-2, 図190, PL40-8

位置 H・I-17グリッド

重複 南に16号溝が掘削され、実質的には重複関係にあるが新旧関係は不明である。

規模 直径1.02m 深さ1.60m

形状 平面形 確認面では、南東部分がやや突出する鶏卵形を呈する。底面はほぼ正円に近い形状である。

断面形 上位にやや開く筒状を呈する。底面から上位0.6mほどに傾斜変換点をもち、それより下位の傾斜は強くなる。

出土遺物 なし。

調査所見 石組などの施設は確認できなかった。掘削時期も確定できない。(徳江)

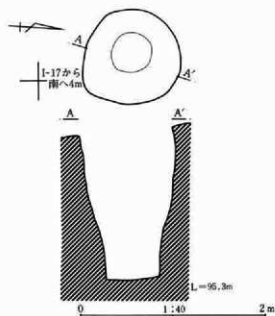


図190 24号井戸

25号井戸 村前5-2, 図191, PL41-1

位置 H・I-16グリッド

重複 11号溝と重複するが新旧関係は確認できなかった。

規模 直径0.74m 深さ1.98m

形状 平面形 多少の歪みはあるが、確認面、底面ともに東西にやや長い円形を呈していた。

断面形 北半は11号溝との重複により残存状態が悪い。筒状を呈し、直径は底面に向かって徐々に細くなる。底面は中央、西寄り一段深くなっていた。

埋没土 下位は青灰色のヘドロ状を呈していた。

出土遺物 なし。

調査所見 掘削時期は確定できなかった。(徳江)

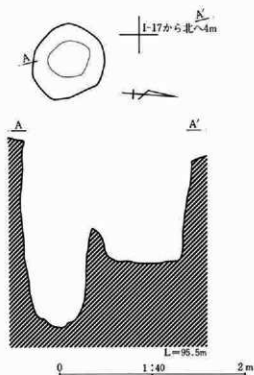


図191 25号井戸

26号井戸 村前5-3, 図192, PL41-2

位置 J-23グリッド

重複 16号溝と重複するが新旧関係は確認できなかった。

規模 直径0.68m 深さ0.70m

形状 平面形 確認面、底面ともに正円に近い形状である。

第4章 井戸の調査

断面形 16号溝の調査中に検出したため、壁面の大半は欠失している。残存部分の直径に大きな変化はなく、垂直に近い形状である。

出土遺物 なし。

調査所見 掘削時期は確定できない。(徳江)

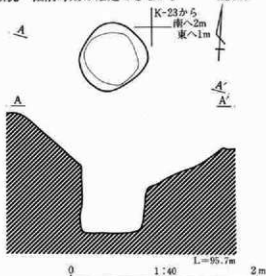


図192 26号井戸

27号井戸 付図5-3, 図193-194, PL41-3-4, PL99-100, 表P.55

位置 J・K-25グリッド

規模 1.60m 深さ1.32m

形状 平面形 南側の一部は小さく片口状に突出しており、直径44cm×深さ60cmほどのビットが穿ってある。底面は東西に長軸をもつ長円形を呈する。

断面形 確認面からの深さと比較して直径の大型のものである。中位に弱い稜をなし、上位に向かって大きく開く。

出土遺物 埋没土の下層から内耳の網(684)、石臼の破片(S224)、ほぼ完形に近い板碑(S226)、上半分の板碑(S225)が検出された。そのほかに、瓦(685)・須恵器の高台部分(686)などが出土している。

調査所見 掘削時期は板碑や出土土器の年代観からすれば15世紀代の可能性が高い。(徳江)

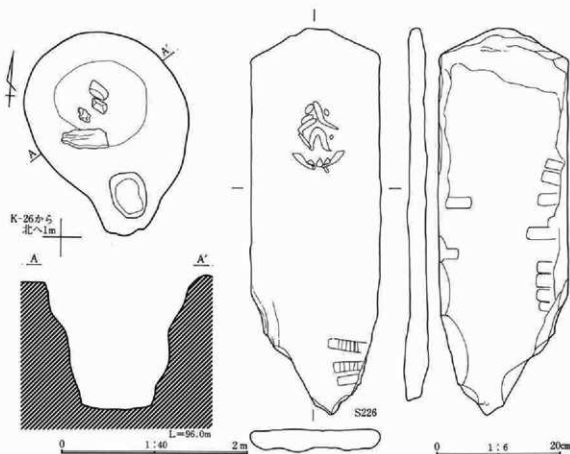


図193 27号井戸と出土遺物

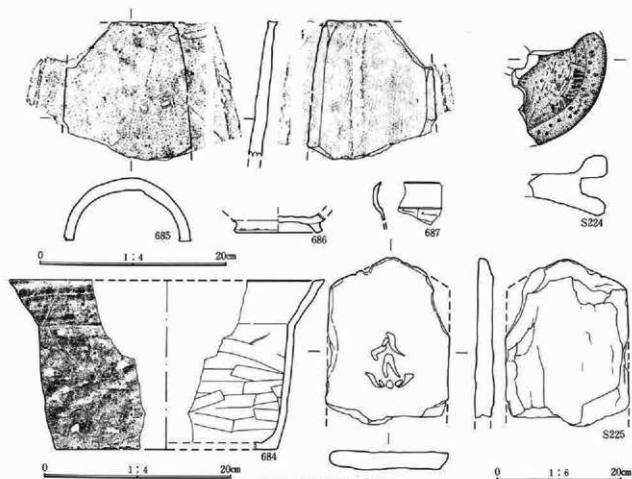


図194 27号井戸出土遺物

28号井戸 付図5-3, 図195, PL41-5-6, PL101, 表F.56

位置 J-27グリッド

重複 13号住居より後出と考えられる。

規模 直径1.20m 深さ1.98m

形状 平面形 確認面では不整形であるが、原型は矩形であった可能性もある。西側にはステップ状の張り出し部分がある。底面も不整形である。

断面形 確認面に向けてわずかに開放している。西側中位の二箇所に弱い稜が認められる。

埋没土 中位から下位の層中からは小礫が多く出土した。下層はヘド口状を呈していた。

出土遺物 埋没土中から布目瓦(691・692・728)や土器(688・689・694)が出土した。

調査所見 掘削時期は確定できないが出土遺物は平安時代である。(徳江)

29号井戸 付図5-3, 図196, PL41-7-8, PL101, 表F.56

位置 J-28グリッド

重複 40号溝と重複しているが新旧関係は確認できなかった。

規模 直径1.40m 深さ2.46m

形状 平面形 南西・北東方向に長軸をもつ長円形を呈していた。

断面形 筒状を呈し、径は底面に向かって徐々に細くなる。

埋没土 上位から直径10-20cmの礫が多量に出土した。この中には角閃石安山岩の切石も含まれており、これには火熱を受けた痕跡があった。

出土遺物 礫と同じ層から播鉢(698)や布目瓦(697)、土師器杯(696)などの破片が出土している。

調査所見 掘削時期は確定できないが播鉢の年代は14-15世紀と考えられる。(徳江)

第4章 井戸の調査

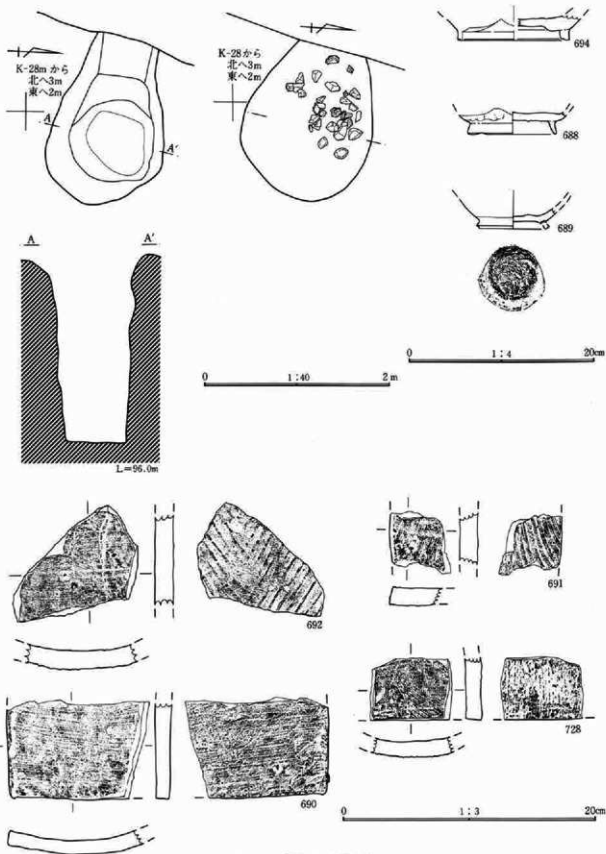


図195 28号井戸と出土遺物

2 村前地区の井戸

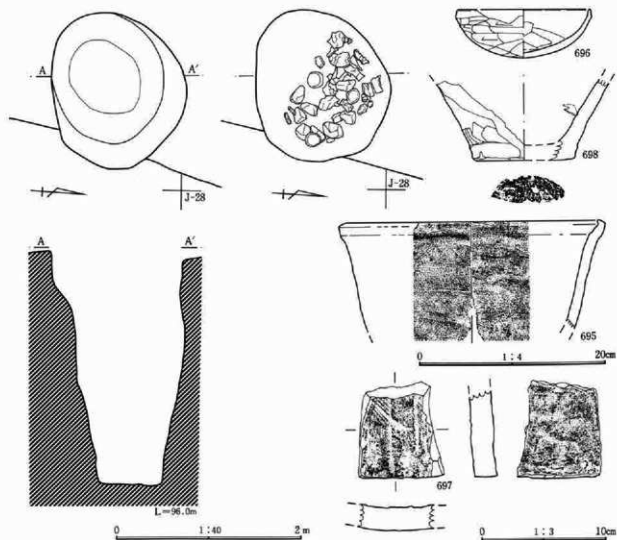


図196 29号井戸と出土遺物

30号井戸 付図5-S, 図197, PL42-1-2, PL100

位置 2B-65グリッド

重複 51号溝に後出する。

規模 直径1.42m 深さ1.84m

形状 平面形 重んだ円形(楕円形に近似)。

断面形 掘り込み面から僅かに内側に傾斜するが、底面付近で円柱状になる。

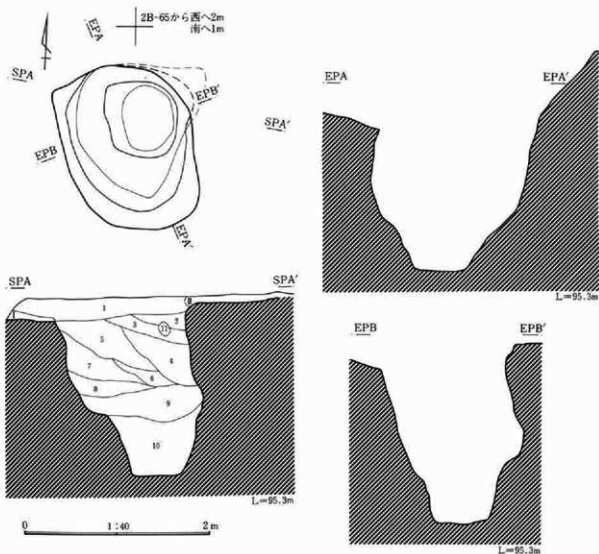
埋没土 埋没最上層はAs-Bを多量に含む土層であり、As-Bは4層まで混入している。また10層にもAs-Bが混入している。2層～8層までは一方からの埋土であり、6層～10層まではブロック土やしまりの悪い土で埋もれていることから、埋められた

可能性がある。

出土遺物 10数片の須恵器・土師器片が出土したが、図示できるものはない。

調査所見 底面付近は形状を現在に残す。現在の湧水層付近は壁面が崩れている。全体形状から受ける状況から、井戸使用中に崩れた可能性が強いと思われる。掘削時期は、Hr-FAや、それに伴う洪水堆積物を井戸が掘り込んでいること、最上層から10層までAs-Bを多量に含むことから、12世紀以降の井戸跡と考えられる。湧水は標高94m付近の灰褐色土層と黒色粘質土の中間標高94.3m付近の2ヶ所である。自然水面は94.45mである。(相京)

第4章 井戸の調査



- | | |
|-----------|--|
| 1層 暗褐色土 | As-Bを多量に含む。しまりは良い。炭化物片を少量含む。 |
| 2層 褐色土 | 黄色味を帯びる灰白色土ブロックを少量含む。黒色土ブロックを1点含む。若干As-Bを含む。 |
| 3層 褐色土 | 2層よりも多くの黄灰白色土ブロックを含む。若干As-Bが混じる。 |
| 4層 暗褐色土 | 極わずかに茶色味を帯びる。やや砂質であり、やや多くのAs-Bを含む。黄灰白色土ブロックを若干含む。1層よりも明るい。粘性は弱い。 |
| 5層 暗褐色土 | 4層に近いが、わずかに色調は暗い。ブロックは含まれない。粘性は弱い。 |
| 6層 黄灰白色土 | ブロックと暗褐色土の混合土。後者の方が量的にはやや多い。やや粘性がある。 |
| 7層 黄灰白色土 | ブロックと褐色土の混合土。6層よりも色調は明るい。やや後者の方が多い。粘性がある。 |
| 8層 黄灰白色土 | ブロックと褐色土の混合土。やや前者の方が多い。粘性が強い。 |
| 9層 黄灰白色土 | ブロックに若干の黒色土ブロックが混じる。褐色土も極少量含まれる。水が滲いているため、しまりは非常に悪い。 |
| 10層 黒褐色土 | As-Bを含み、やや砂質。しかし粘性は強い。若干の木質繊維破片を含む。淡水のため、しまりは非常に悪い。 |
| 11層 黄灰白色土 | 大形地山ブロック。 |
| 1層 暗褐色土 | 極少量の黄灰白色土ブロックが混じる。As-Bを多く含む。1層よりもやや明るい。 |
| 2層 褐色土 | 1層よりも明るく、灰白色土ブロック、及び粒子がやや多く混じる。しまりは良い(良い黄褐色土)。 |

図197 30号井戸

31号井戸 付図5-5, 図198, PL42-3

位置 X-63グリッド

重複 53号溝に後出する。

規模 直径1.44m 深さ1.92m

形状 平面形 円形

断面形 井筒朝顔型

埋没土 湧水等により、ほとんど土層の観察ができないが、標高95m付近までのブロック土が混じるし、まりの悪い土砂の混入からすると、人為的な埋没土と考えられる。

出土遺物 19片の土器が出土。細片である。

調査所見 53号溝により一部が切られている。標高94.1m付近の暗灰褐色砂質土中より湧水がある。井戸の確認面は Hr-FA 期の洪水堆積物上面であるが、整井期は不明である。(相京)

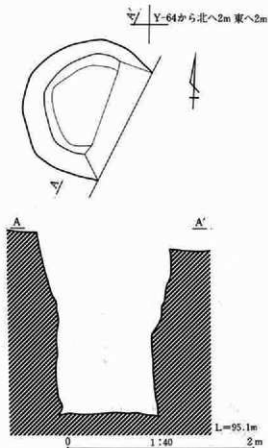


図198 31号井戸

32号井戸 付図5-5, 図199-200, PL42-4, 表P.57

位置 2A-63グリッド

重複 53号溝に後出する。

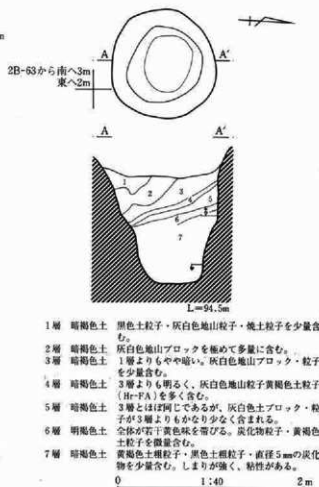
規模 直径1.60m 深さ1.40m

形状 平面形 円形

断面形 井筒朝顔型

埋没土 観察できた埋没土から、暗褐色土層を中心とした土層図が作成できたが、同一方向の堆積状況であることから、人為的な埋没土と考えられる。埋没土の下半部分の土層は水面下である為、土層の把握はできなかった。94.1-93.5mの間は黒褐色砂質土を含む褐灰色砂質土、93.5-93.4mまでは黒灰色砂質土層であり、自然堆積土として観察できた。

出土遺物 93.9m付近では土器破片が1点、93.7-93.9m付近では5-15cm大の自然石8点の出土が



- 1層 暗褐色土 黒色土粒子・灰白色地山粒子・焼土粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色土 灰白色地山ブロックを極めて多量に含む。
- 3層 暗褐色土 1層よりもやや暗い。灰白色地山ブロック・粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色土 3層よりも明るく、灰白色地山粒子・黄褐色土粒子(Hr-FA)を多く含む。
- 5層 暗褐色土 3層とはほぼ同じであるが、灰白色土ブロック・粒子が3層よりもかなり少なく含まれる。
- 6層 明褐色土 全体が若干黄色味を帯びる。炭化物粒子・黄褐色土粒子を微量含む。
- 7層 暗褐色土 黄褐色土粗粒子・黒色土粗粒子・直径5mmの炭化物を少量含む。しまりが強く、粘性がある。

図199 32号井戸

第4章 井戸の調査

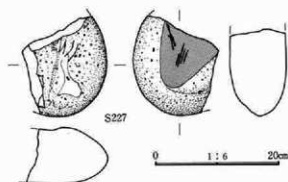


図200 32号井戸出土遺物

あった。実測したS 227には擦痕がある。
 調査所見 53号溝を切っている。確認面は定かではない。古墳時代のHr-FA層水田面よりも上位で確認した。自然水面は94.2m、湧水層は93.65mである。井戸壁が赤褐色に変色している。(相京)

33号井戸 付図5-3, B201, PL42-5-6

位置 L-36・37グリッド

重複 なし。

規模 直径1.70m 深さ2.00m

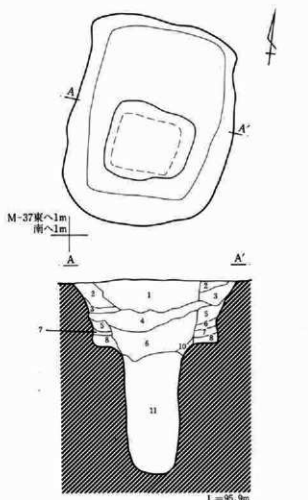
形状 平面形 隅丸方形

断面形 有段型

埋没土 土層説明と断面から判断すれば、1・2・5・7・8・9層と1・4・6層の間に何等かの区切りがある。4層が流入土的な入り方をしてているが、全体的な様相から、中段で井戸枠的な施設があった可能性も考えられる。1・4・6層にはHr-FAが混じる。

出土遺物 なし。

調査所見 隅丸長方形の掘り方から約80cm下がって中段があり、中段では北に80cm、東・西・南に各々20cmのテラス面をもつ。中段からの掘り込みは東西90cm、南北80cmの隅丸方形の掘り方を持ち、深さは中段から約1.3mである。(相京)



- 1層 黒色土ブロック・Hr-FAブロックを少量含む褐色土。
- 2層 直径5cmの黒色土ブロックが主で、Hr-FAブロックが少量混入する。
- 3層 暗灰白色土(砂質)
- 4層 直径5cmの黒色土・Hr-FAブロックが主で、暗灰白色土が混じる。
- 5層 暗灰白色土 Hr-FAブロックがわずかに混入する。
- 6層 4層とはほぼ同じ構成層だが、暗灰白色土との比が5:5である。
- 7層 黄白色土 砂質。
- 8層 白色土 粘性がある。
- 9層 よく見ると6・7・8層と同様に分かれる。
- 10層 4層がブロック状に入る。
- 11層 黄白灰色土 粘性がある。酸化バクテリア層がある。

0 1:40 2m

図201 33号井戸

34号井戸 付図5-3, B202, PL42-7-8

位置 L・M-36グリッド

重複 現代の小溝に先行する。

規模 直径1.3m 深さ1.20m

然な入り方をしている。本来、本井戸の埋没土は6層～11層と考えられる。ブロック土塊等の入り具合により、人為的な埋没土と考えられる。(相家)

35号井戸 付805-3, 80203, PL43-1

位置 L-39グリッド

重複 なし。

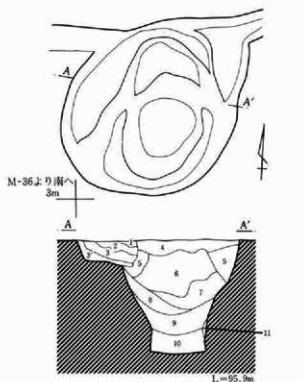
規模 直径1.52m 深さ1.20m

形状 平面形 楕円形

断面形 円筒形

埋没土 1層～3層まではあまりしまりのない土層である。2層はブロックが混じり、1・2層は人為的に埋められた可能性もある。

出土遺物 なし。



- 1層 黄色土・黒色土ブロックの混入土層。比率は半々である。
- 2層 暗褐色土 黄色土ブロックが混入する。
- 3層 黒色土を主とした混入土。黄色土ブロックをわずかに含む。
- 4層 暗褐色土中に黒色土ブロックをわずかに含む。
- 5層 暗褐色土 白色土粒子を均一に含む。
- 6層 暗褐色土 白色土粒子を均一に含む。Hr-FAブロックをわずかに含む。
- 7層 暗褐色土 白色土粒子を均一に含む。酸化バクテリアによる灰色の混入が多い。
- 8層 暗褐色土 直径5cmの黒色土ブロックが所々に混入する。
- 9層 暗褐色土 黒色土ブロックと直径2cmの黄白色土ブロックが混入する。
- 10層 暗褐色土 直径2～10cmの黄色土ブロックが面積で1/3ほど占める。
- 11層 暗灰白色土 酸化バクテリアによる水平な酸化層が、所々にある。
- 11層 黒色土ブロックの落ち込み。

0 1:40 2m

図202 34号井戸

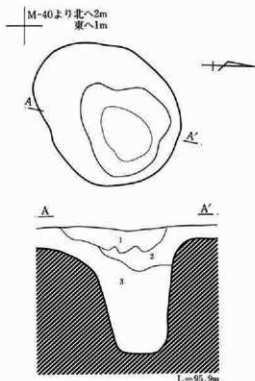
形状 平面形 楕円形

断面形 ロート状を呈する。

埋没土 4層から6層までは人為的な井戸の埋没土と考えられる。平面形が不自然であり、5層は井戸の埋没土6層を切っている。1層～3層は本遺構の北西部分を切っている小さな溝状遺構の埋没土と考えられる。

出土遺物 なし。

調査所見 楕円形であり、ロート状の断面を呈す。北西側を溝状遺構により切られている。5層は不自然



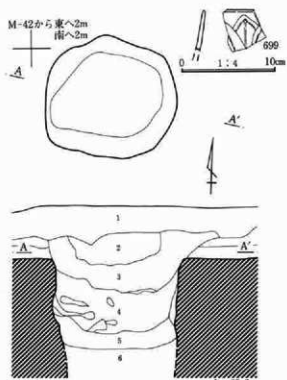
- 1層 灰褐色土(しまりのないフカフカの土)粒を含み、少量の焼土粒を混じる黒青色土。灰のようであるが、明確でない。
- 2層 1層の直径3～5cmのブロック、黄色土粒を混じる灰褐色土。フカフカしてしまりのない土。白色軽石を少量含む。
- 3層 黄色土粒・炭化物粒を含む灰褐色土。やや粘質。

0 1:40 2m

図203 35号井戸

第4章 井戸の調査

調査所見 1層は井戸の南西側で、壁を大きく広げられるように掘られている。全体に埋没土はしまりがなく、焼土や炭化物を含んでいる。時期に関しては不明である。(相京)



- 1層 暗褐色土 耕作土(畑土)。しまりが悪く、ボロボロする。直径1cmの榛名山起源の軽石を少量含む。
- 2層 暗褐色土 1層よりもかなり黒味が強い。砂質。榛名山起源の軽石、及びAs-Bを含む。焼土粒子を少量含む。
- 3層 暗褐色土と茶褐色土ブロックの混合土。若干の白色シルト質土ブロックを含む。直径1cm前後の榛名山起源の軽石を2層よりも多く含む。
- 4層 暗褐色土 2層よりもやや黒い。黄褐色土・白色シルト質土・黒褐色土のブロックの混土が部分的に混じる。黄褐色で白色シルトを含むブロック土を混入する。
- 5層 暗褐色土 単一的。黄褐色土・白色シルト質土・黒褐色土のブロックの混土は含まれない。やや粘性があり、4層よりもやや細かい。
- 6層 暗褐色土 5層よりも粘性は強い。白色シルト質土粒子を少量含む。

図204 36号井戸と出土遺物

36号井戸 付図5-4-5、図204、PLA3-2-3、表P.57

位置 L-42グリッド

重複 なし。

規模 直径1.40m 深さ2.1m

形状 平面形 楕円形

断面形 円筒形

埋没土 1層～6層までは観察可能であったが、それ以下は不可能であった。1・2層はAs-Bと榛名山起源の軽石を含む。3層は榛名山起源の軽石を含む。4層はブロックを含むことから埋没土の可能性がある。5・6層はしまりがあり、一定化した土の状態であるため、自然堆積土層の可能性が高い。

出土遺物 土師器が数片と、図示した699の陶器片が埋没土中から出土した。

調査所見 ほほ円形に近い楕円形であり、確認できたのはHr-FA期の洪水堆積物上面であった。埋没土から、下層5・6層以下では自然堆積層での可能性がある。実質確認面より約1.2mで湧水量が多く、以下はボーリングによって90cm下で底面を確認した。上層1層は耕作土であり、2・3層ではAs-B、榛名山起源の軽石を含むことを考慮しなければならないが、時期は限定できない。(相京)

3. 下り柳地区の井戸

1号井戸 付図8-4、図205、PLA3-4

位置 1-56グリッド

重複 2号溝に先行する。

規模 直径0.96m 深さ1.30m

形状 平面形 円形

断面形 井筒朝顔型

埋没土 2号溝底面から95.9m付近までは黒褐色粘性土の自然埋没土である。95.9～95.7mでは暗灰色砂質泥土で、白色軽石粒を多量に含んだ土層が確認できたが、自然埋没土か流入土か不明である。以下、底面の95.4mまでは暗褐色砂質泥土の自然堆積層である。

出土遺物 黒褐色粘性土中より10～15cmφの自然石が2個、出土した。

調査所見 2号溝掘削前後、底面にて確認された。湧水層は95.5m付近の褐灰色砂礫層である。湧水量は0.5ℓ/minで、自然水位は96.0m付近である。(相京)

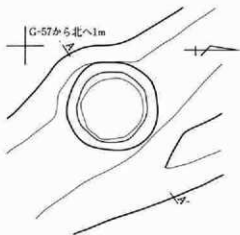


図205 1号井戸

3 下り柳地区の井戸

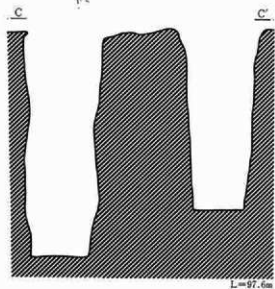
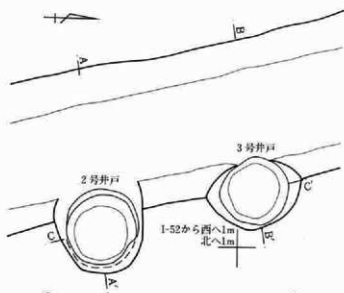
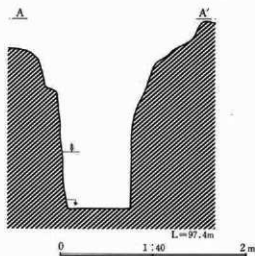
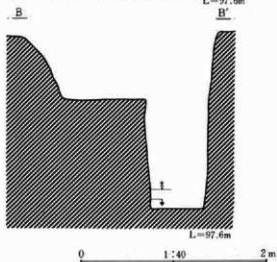
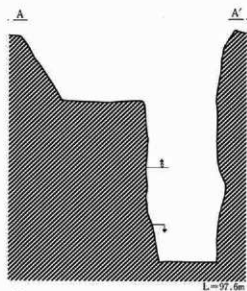


図206 2号・3号井戸



第4章 井戸の調査

2号井戸 付図9-4,図206,PL43-5

位置 I-52グリッド

重複 なし。

規模 直径0.90m 深さ1.70m

形状 平面形 上端部分は用水堀により上端西側が切られており、円形と推測できる。下端部分は円形を呈す。

断面形 井筒円筒型。

埋没土 用水堀底面から96.1mまでは自然埋土の黒褐色粘性土である。96.1-95.4mまでは自然埋土の黒褐色砂質土、95.4m以下は自然堆積の灰色泥土である。土層図の作成は困難であった。

出土遺物 なし。

調査所見 遺構を確認したのは用水堀底面である。上端の半分を溝によって切られており、残存する状況と近接する現象谷川の水位・自然排水との関係から、自然水位が高いものと考えられる。(相京)

3号井戸 付図9-4,図206,PL43-6-7

位置 I-51グリッド

重複 なし。

規模 直径0.74m 深さ1.14m

形状 平面形 上端部分は用水堀により上端西側が切られており、ほぼ円形を呈す。下端部分は円形を呈す。

断面形 井筒円筒型を呈す。

埋没土 土層は水位が高く作図することが困難であったが、掘削時の所見では、用水堀底面-96.1mまでは黒褐色砂質土であり、人為的な埋没土であると考えられる。この土層の中には10-15cmφの自然石約10個と、96.3m付近で礫石1個を出土した。96.1-95.7m付近までは黒灰色砂質土であり自然埋没土と考えられる。

出土遺物 礫石が出土した。

調査所見 確認層は黒褐色土層である。用水堀により切られているため、上位から70cmほど西側が欠損している。下端より1.15mがしっかりと残存している。(相京)

第5章 河川跡の調査

1. 概 要

本遺跡周辺の地形は、第2章で述べたように、榛名山山麓に流下する小河川によって形成された自然堤防堆積物が帯状に並んでいるのが特徴である。しかし現在わたしたちが目にする自然堤防は、古墳時代中期6世紀初頭におきた榛名山の噴火に伴う洪水によるものが原型となっており、本遺跡でも多数の住居や墓を検出した弥生時代や古墳時代前期の景観を復元するにはこれらの堆積物を捨象して見なければならぬ。また、稲作農耕集落の復元には、小河川の把握が不可欠であるから、本地域の調査では特に下層での河道の検出が重要である。

新保田中村前遺跡に近接する新保遺跡（P.19注20）では旧流路（大溝）が調査され、多数の木器が出土している。また、日高遺跡の報告では遺跡周辺の沖積地に埋没した旧流路の存在をボーリング調査（P.19注23）によって追証し、稲作生産域を推定している。

今回の調査では村前地区で2条の小河川跡を検出することができた。これらの河川跡は、前橋泥流の固い岩盤の上に堆積した黄褐色砂質土の地山を侵食した流路である。この黄褐色砂は、榛名山南西山麓に発達した火山性扇状地の末端に、山麓から流下する小河川的作用によって堆積した自然堤防堆積物と考えられる。この砂層の最下層XII層中の泥炭質土壌の14C年代測定ではB. P. 4120±110（Gak-13893）の値を得ている。この堆積は包含層出土遺物から縄文時代後期までつづいていたとみられ、これを侵食する河川跡はそれ以降の流路である。周辺に埋没している小河川は、それぞれの河川作用によって、流路を様々に変化させていたと思われる。新保田中村前遺跡の調査ではそれらの一部と考えられる河川の旧河道を検出したものと考えられる。具体的には旧

築谷川の河道ということも可能であろう。

村前第2次調査地区で検出された1号河川跡は、50m余りにわたって調査を実施した。やや蛇行する河道の底面は流水の激しさを物語るように凹凸が著しく刻まれていた。調査範囲のほぼ中央部には、詳細はつかめなかったが、分水施設がつくられていたとみられ、ほぼ南方向へ44号溝が直線的に掘られている。時期は弥生土器片も含むが、出土遺物は4～5世紀のものが多く、そのころの河川跡と考えられる。また、滑石質蛇紋岩の管玉、勾玉やその未製品が多量に出土しており、周辺に工房の存在が想定される。

村前第5次調査区で検出された2号河川跡は、発掘区内では左岸のみが調査できた。右岸は現河道に侵食されてしまったと考えられる。狭い範囲の調査であったので、河道の詳細は不明であるが、埋没土断面から少なくとも3回の流路変遷をとらえることができた。また、弥生時代中期から後期にかけての土器片が多量に出土し、農具を含む木器や、獣骨、種子等も保存状態が良好に出土した。2号河川跡の左岸側には弥生時代中期から古墳時代前期の住居が30棟ほど検出されており、人々の生活と密着した集落内を流れる小河川と考えられよう。（小島）

2. 1号河川跡 付図7-3, 図207-233, PL20-4-5,
PL44-46, PL102-116, 表P.58-80

K-22およびL-23グリッド部分でHr-FA期と同時期の洪水層下の遺構確認を実施したところ24号溝の存在を確認した。それと同時に24号溝の埋没土層下に黒色土と砂粒の混土層の堆積があり、さらに下位に遺構が存在することが想定された。その後、

24号溝の本格的な調査がなされ、同溝の掘込み面を観察すると28ライン付近まで上記と同様の土層の堆積が確認できた。以後、北側から順次調査を行ったところ、この遺構が北から南に向かって流下する旧河道と判明し、L-28グリッド部分には取水口が設けられ、44号溝に用水の供給がはかられていることも合わせて確認された。

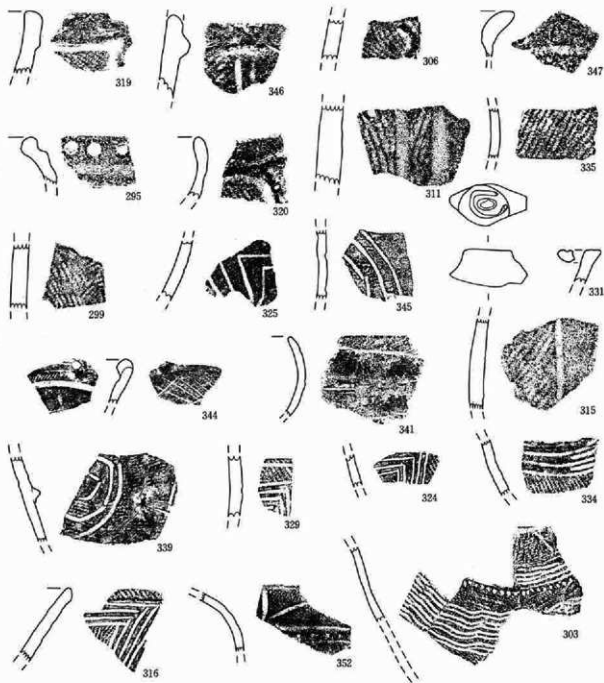


図207 1号河川跡出土土器(1)

0 1:3 20cm

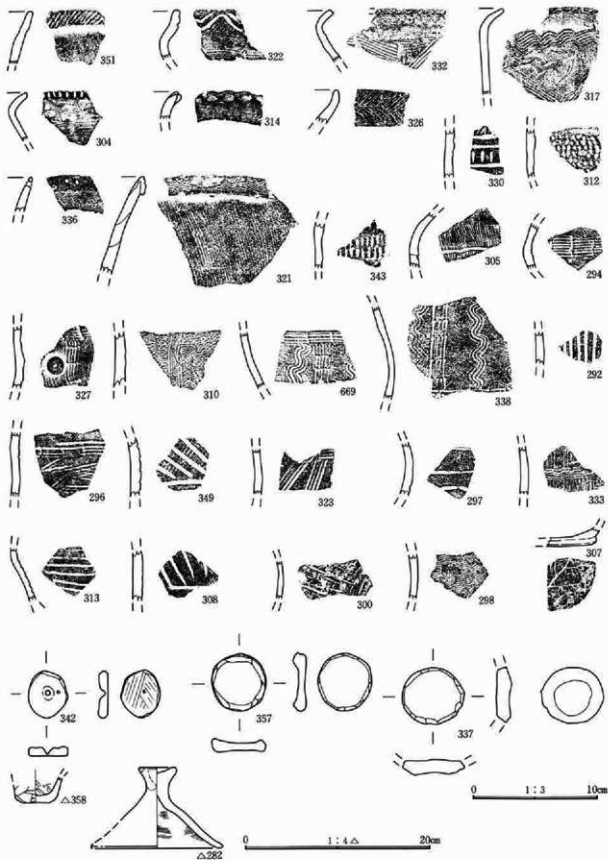


图208 1号河川跡出土土器(2)

第5章 河川跡の調査

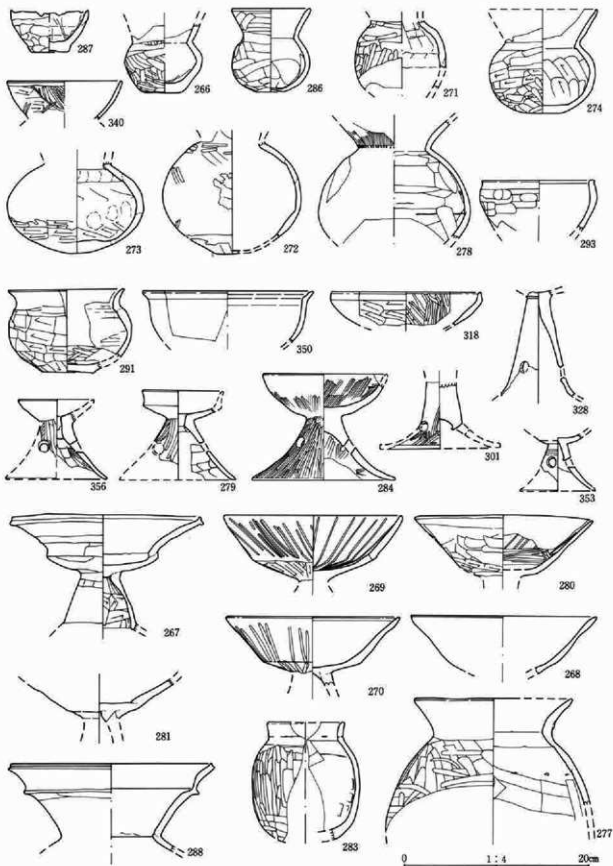


図209 1号河川跡出土土器(3)

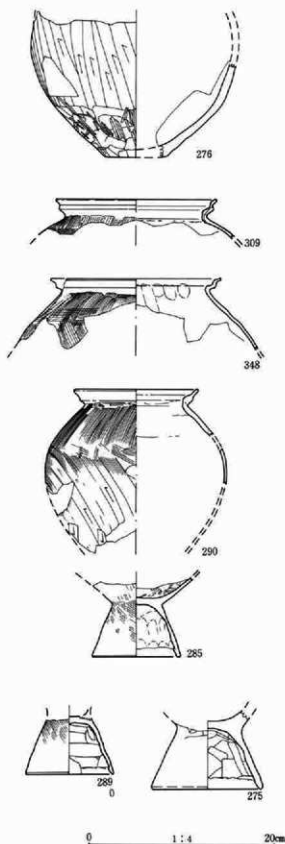


図210 1号河川跡出土土器(4)

位置は、K-N-22-32グリッドにあたり、北から南に向け、北半はやや東に膨らみ、南半は西に膨らみ、緩やかに蛇行している。北端は、染谷川の現河道に、南端は現在の用水路である善勝寺堀の取水施設および水路により攪乱を受けている。

調査長は54.3m、幅は蛇行の影響もあり一定していないが、44号溝の取水部分から北は比較的広く、それ以南は狭いものとなっている。最大幅は28ラインから2m北側で12.35m、29ライン以南の幅は4.4~5.15mであった。深さは0.92~1.53mである。

河床面は前橋泥流層であるが、大小無数のウォーターホールが形成され、凹凸の激しい状況を示している。埋没土は全体的に砂粒の混入が認められたが、粒子の大小、混入の度合などは小範囲ごとにその様相に著しい変化がみられた。概括的には、下層には礫・粗い砂粒が多く、中層には灰褐色のシルト質の土層が堆積していた。また、下層にはAs-Cと思われる軽石の混入が一部で確認された。

遺物は土器・石器・木器・種子・貝などが出土した。層位的には下層に集中していた。土器は図207~210に図示したものが代表的なものであるが、その他の大多数が破片となって検出されており、その量は遺物収納箱9箱におよんだ。縄文土器、弥生土器片も多いが、形状の把握できるものは古墳時代前期から一部中期のものに集中している。

石器は縄文時代の石鏃、打製石斧、剥片石器が出土したが、その他に多量の蛇紋岩製の石製模造品、その未製品、原石、剥片、あるいはその作成にかかわったと思われる砥石などの工具が検出された。模造品は、未製品も含めて管玉73点、勾玉13点、白玉1点である。出土地点の概略は図211のとおりである。

木器および木片も多量に出土した。(付図3) その出土は河道のほぼ全域におよび、粗密の差なく認められた。159点を取り上げ、うち57点を図示した。その多くは河床面に打ち込まれていた杭の残存部分である。その他の製品としては、鏃・道具の柄・弓・糸巻き、部材としての板材・角材などがあげられる。

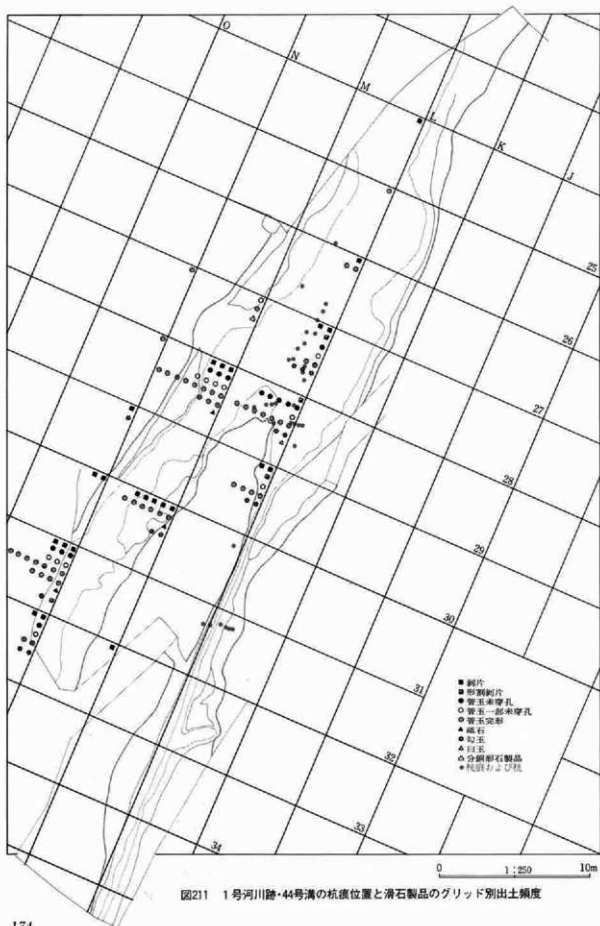


図211 1号河川跡・44号溝の杭柱位置と滑石製品のグリッド別出土頻度

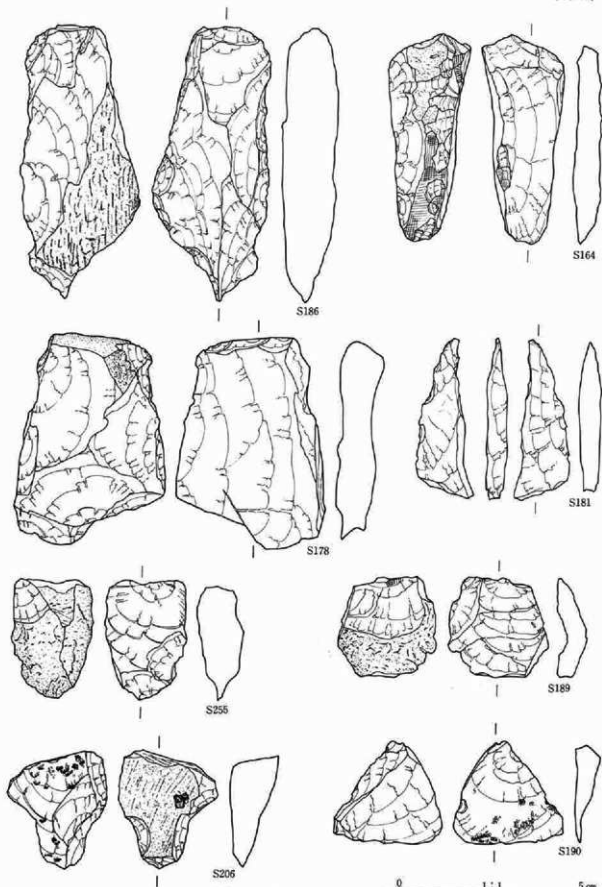


图212 1号河川跡出土石器(1)

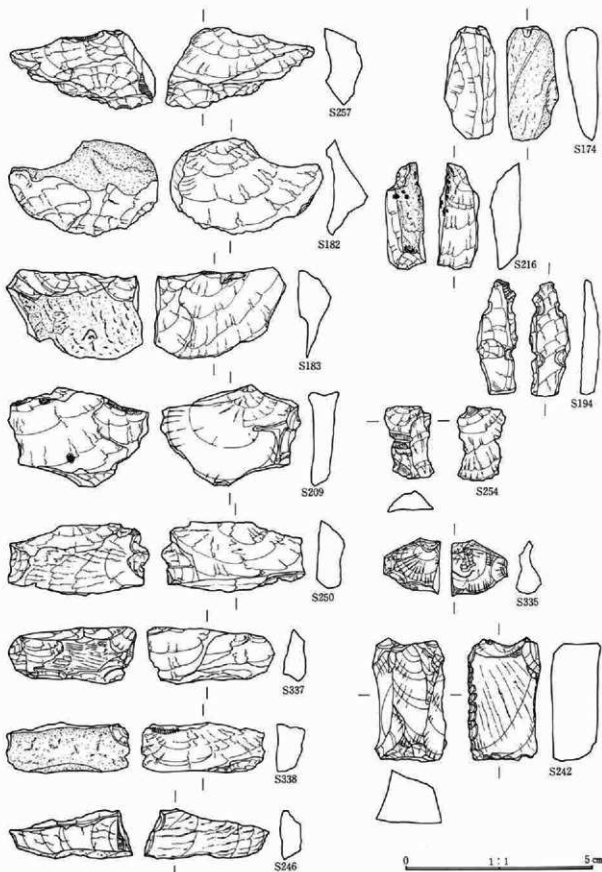


図213 1号河川跡出土石器(2)

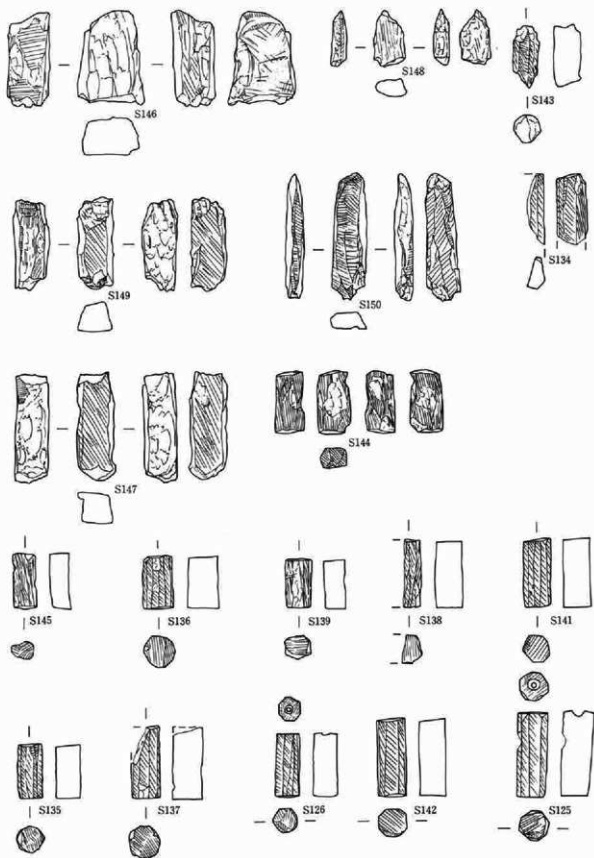


図214 1号河川跡出土石器(3)

0 1:1 5cm

第5章 河川跡の調査

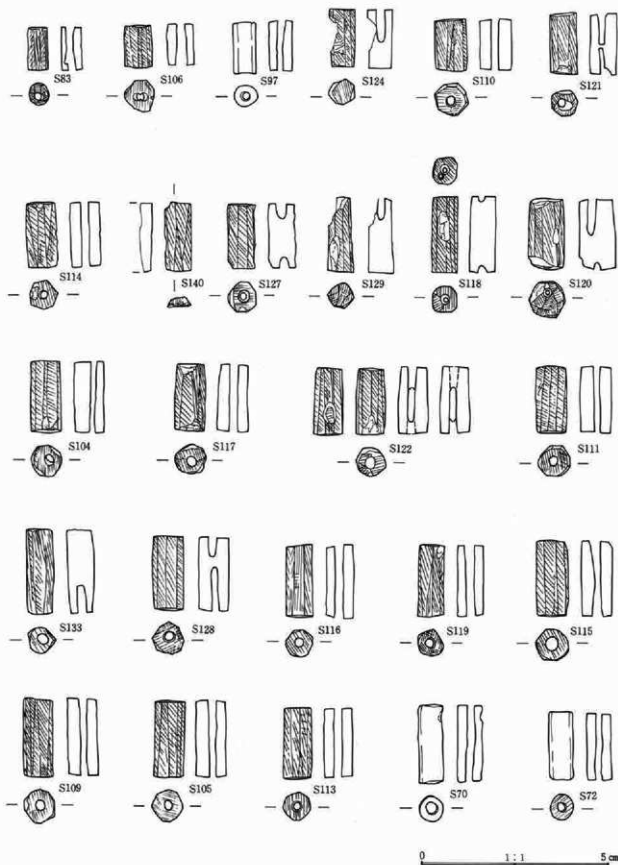


図215 1号河川跡出土石器(4)

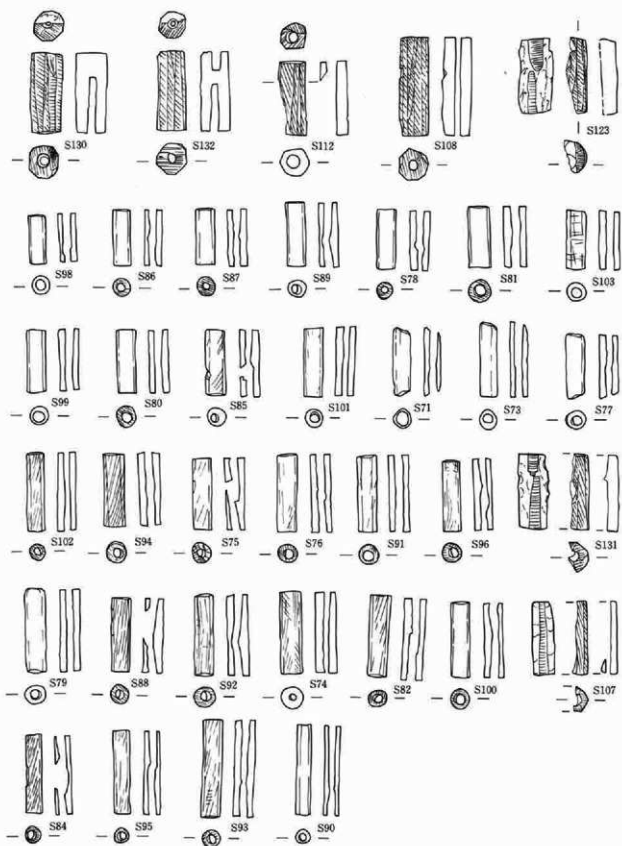


图216 1号河川跡出土石器(5)

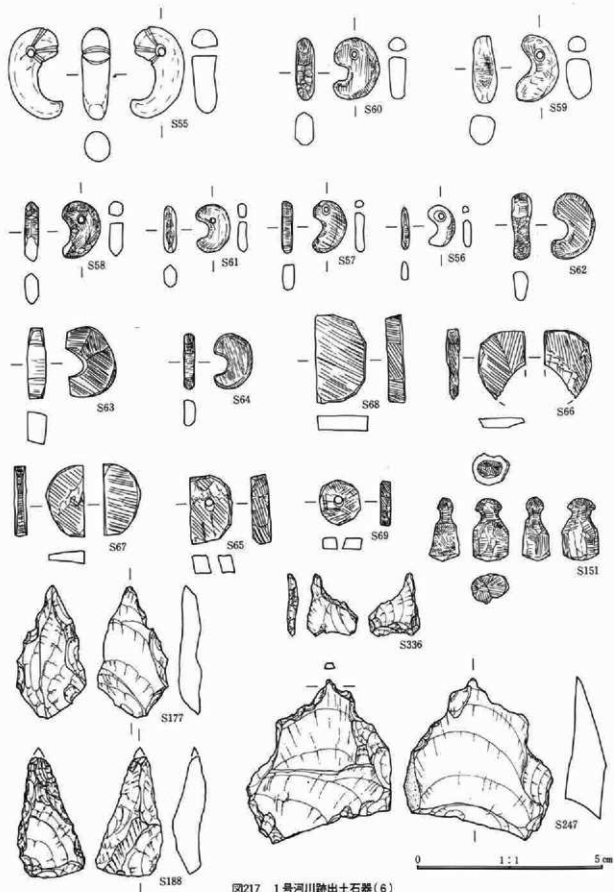


図217 1号河川跡出土石器(6)

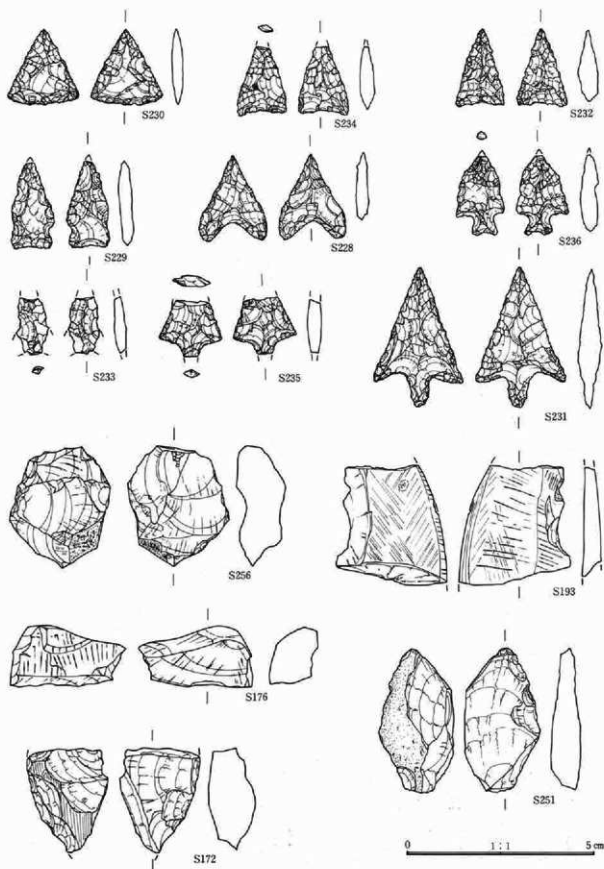


图216 1号河川跡出土石器(7)

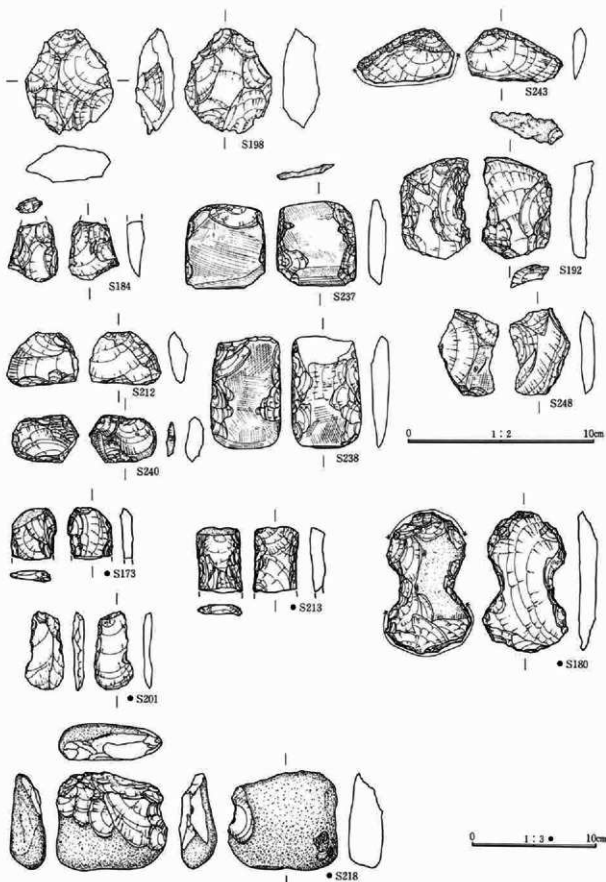


图219 1号河川跡出土石器(8)

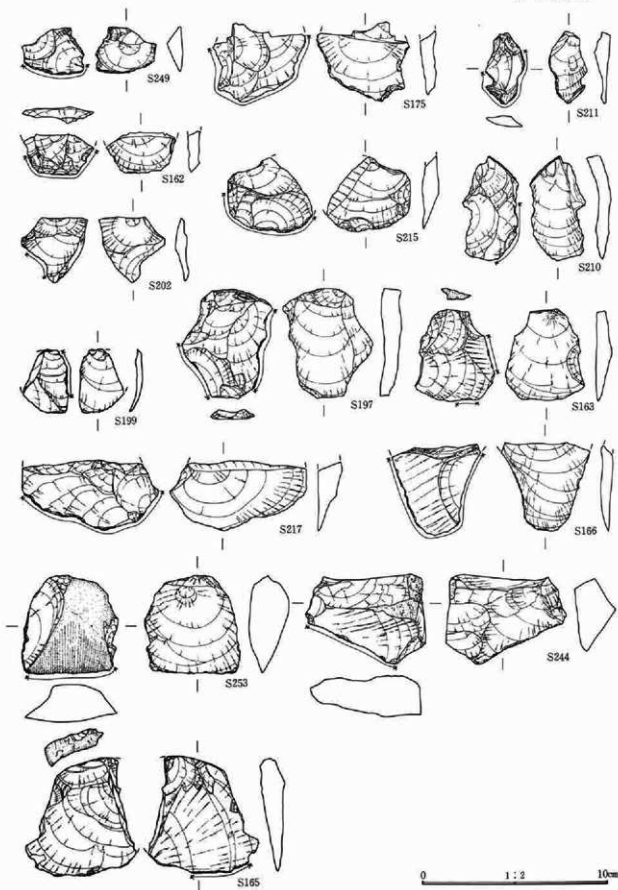


图220 1号河川跡出土石器(9)

種子は桃とくろみが出土している。

L-26-28グリッド、K-28・29グリッドでは河床面に打ち込まれた状態で16本の杭が残存していた。また、杭の痕跡が少なくとも5箇所確認できた。このうち、杭424から427にかけての7本の杭は5.2mにわたり列状をなしている。この杭列に西接して、W119・123などの杭が基部を上流に向けて横倒した状態で検出されている。その北では長さ167cmの丸杭を横軸に、長さ100cm前後の棒状木器、数本を縦

軸にし、それらを包み込むように集積しているヨシあるいはアシが検出された。また、44号溝の取水口の東側と、西側の河道左岸に沿っても杭列が認められる。

44号溝の項でも記したが、河床面に打ち込まれていた杭の多くは、本河道の水位を上昇させ、44号溝に用水補給を行うために設置されたしがらみ状の灌溉用施設の基礎の木組をなしていたと考えられる。

また、L-27グリッドに残存していたヨシあるい

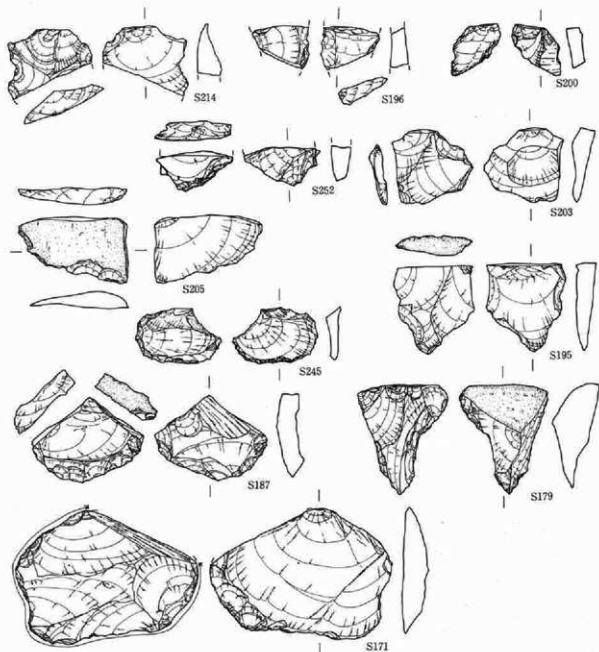


図221 1号河川跡出土石器(10)

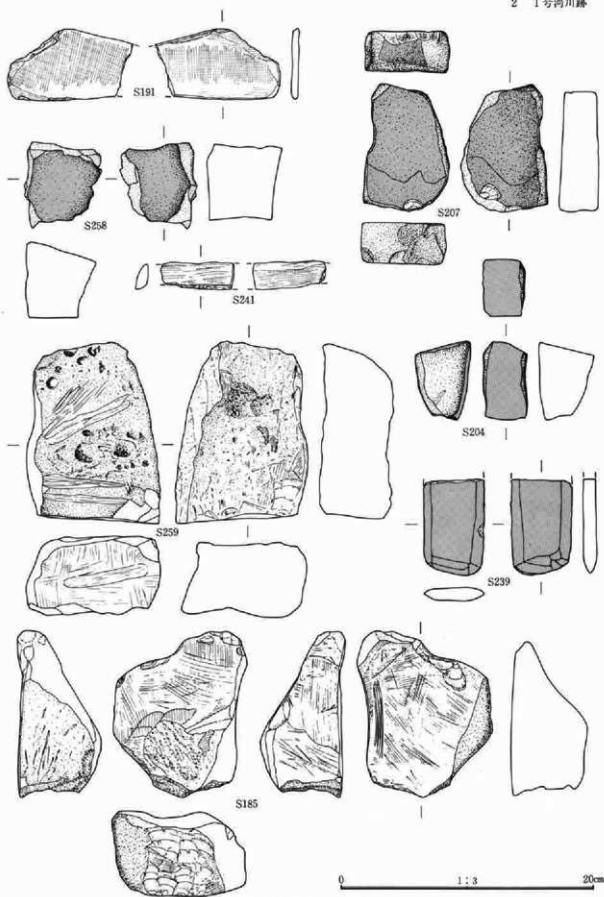


図222 1号河川跡出土石器(11)

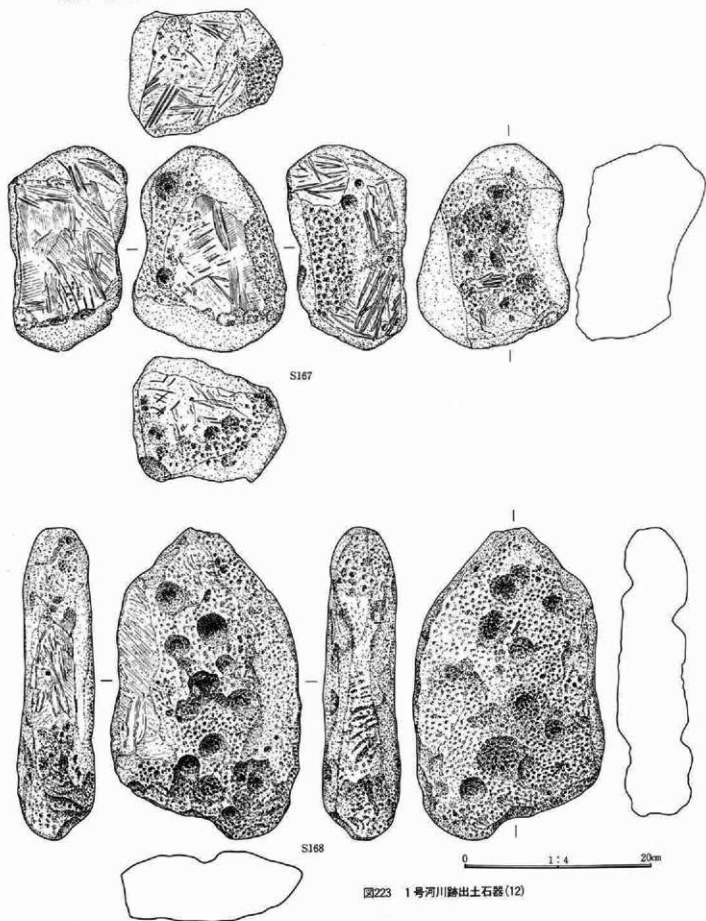


図223 1号河川跡出土石器(12)

はアシは、木組に沿って置かれ、水流に対しての遮蔽物の役割をしていたものと思われる。また、44号溝の取水口周辺に位置する枕列は河道の護岸あるいは44号溝の壁面を保護する役割が想定できようか。

本河道の変遷については、不明確な部分が多いが、出土土物の検討からは、古墳時代前期には河川として流水があったと思われる。埋没土の中層には古墳時代中期の土器が混入しており、河道内に土砂の堆積が進行していたことがうかがえる。以後、5世紀

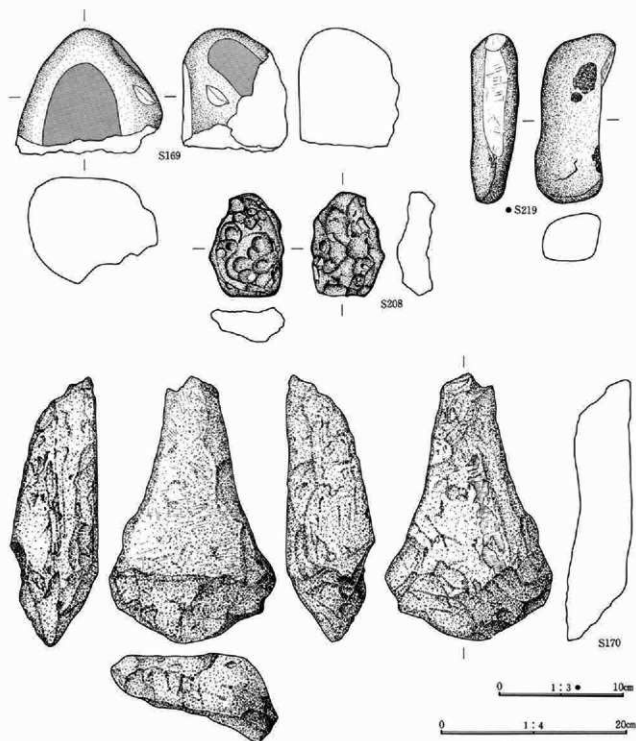


図224 1号河川跡出土土器(13)

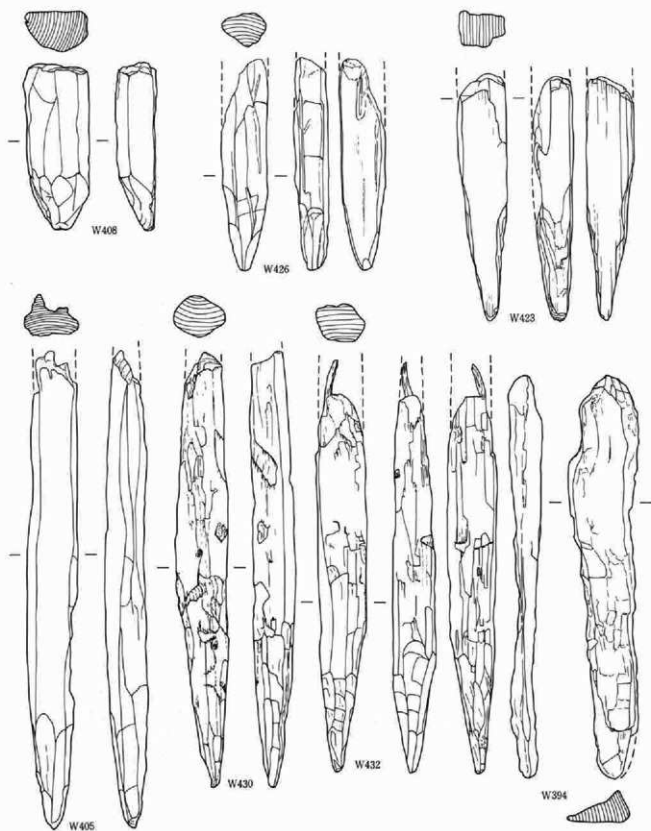


図225 1号河川跡出土木器(1)

0 1:4 20cm

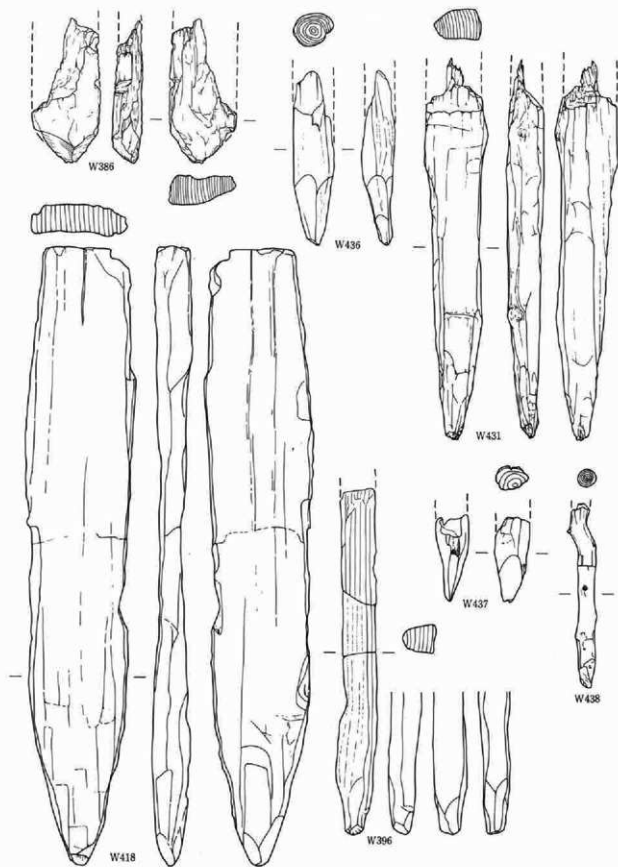


図226 1号河川跡出土木器(2)

0 1:4 20cm

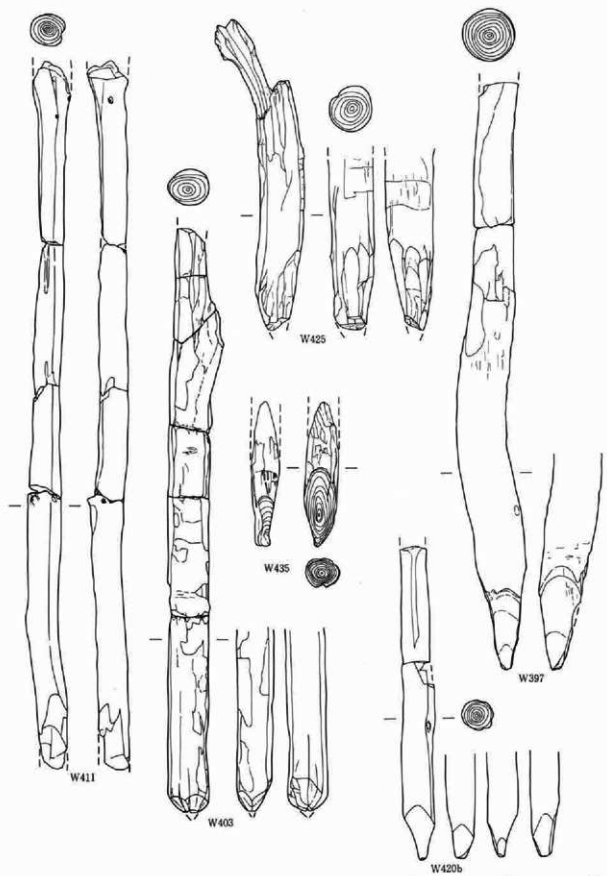


図227 1号河川跡出土木器(3)

0 1:4 20cm

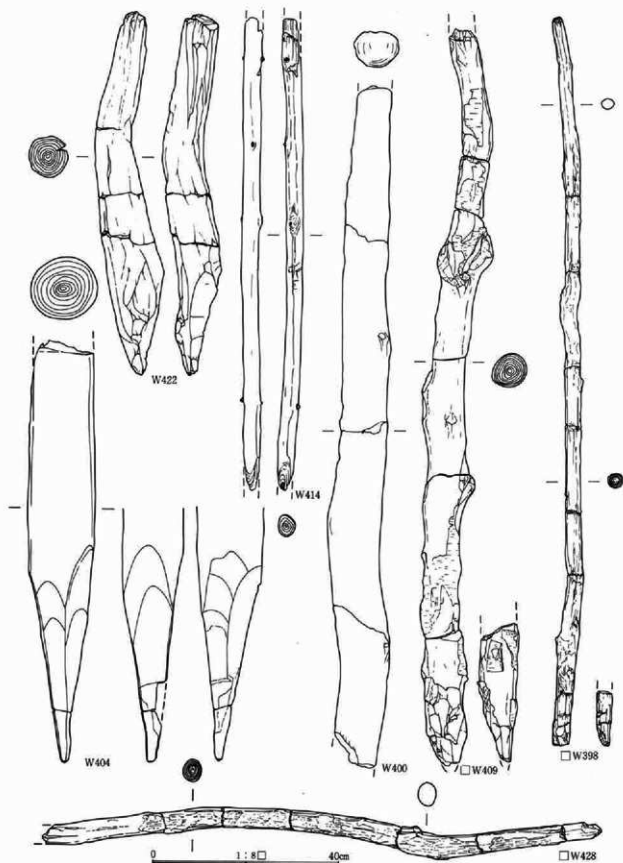


図228 1号河川跡出土木器(4)

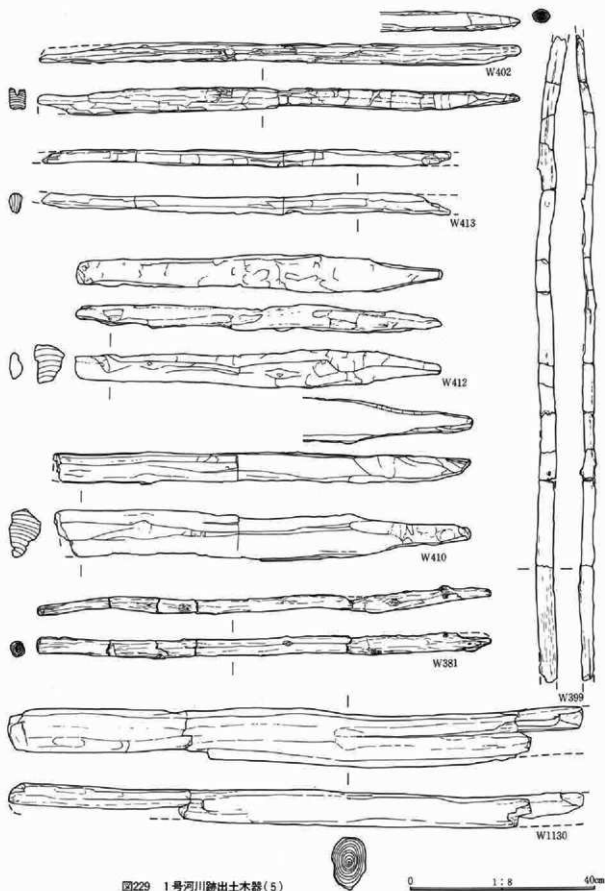


図229 1号河川跡出土木器(5)

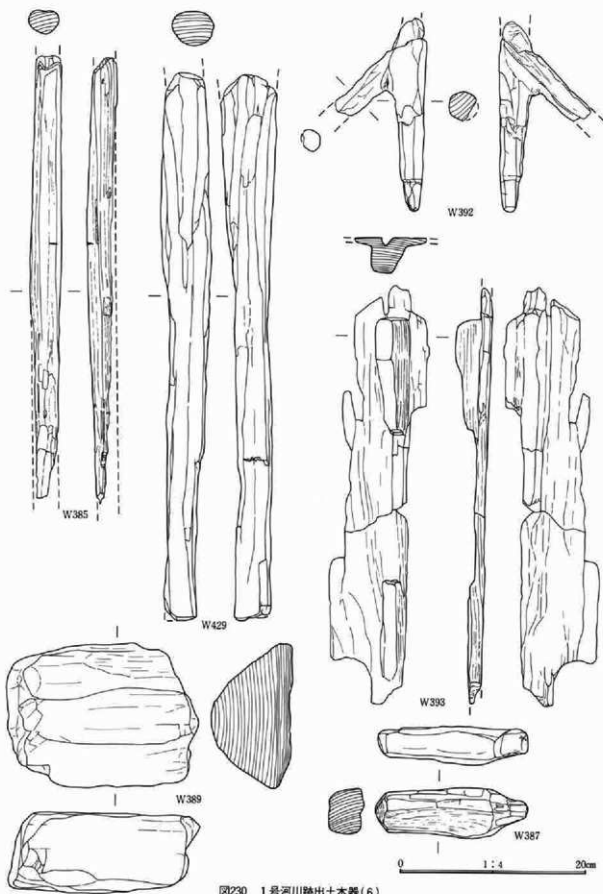


図230 1号河川跡出土木器(6)

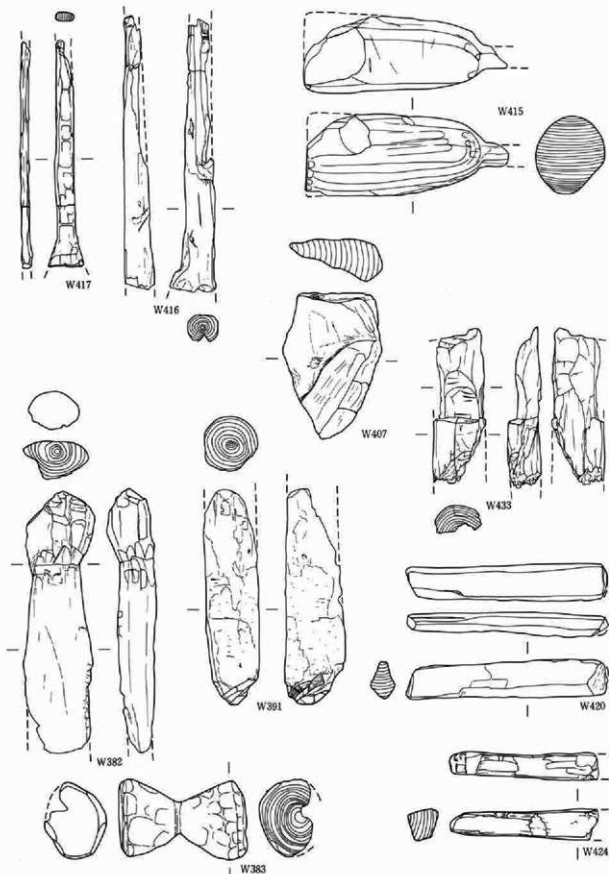


図231 1号河川跡出土木器(7)

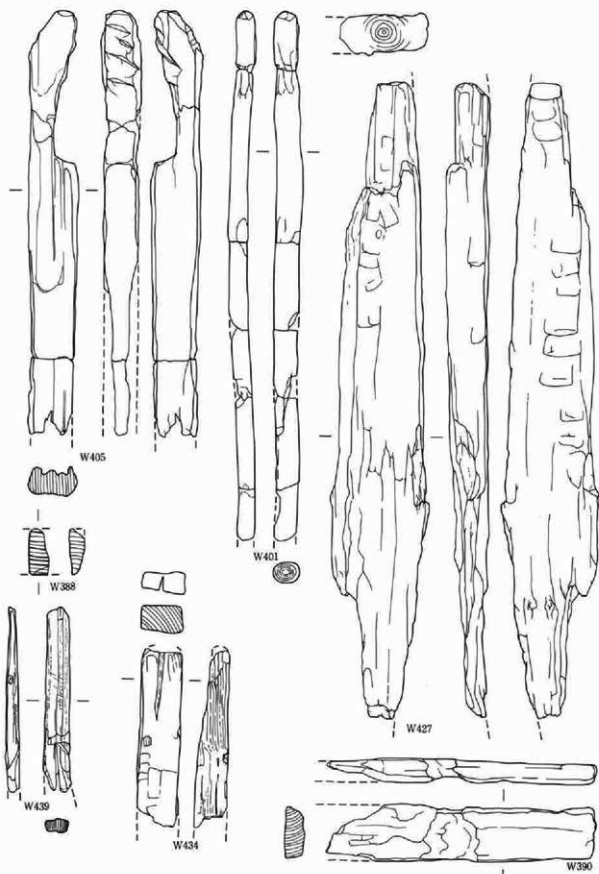


图232 1号河川跡出土木器(8)

0 1:4 20cm

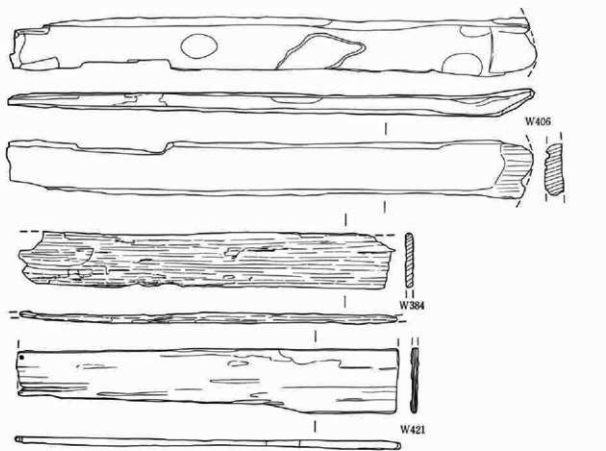


図233 1号河川跡出土木器(9)

の後半には24号溝が掘削されているが、この溝の走向は、本河道および44号溝を意識しているようにみえ、旧遺構の痕跡が残存していた可能性もある。

(徳江)

3. 2号河川跡

付図7-5, D0234-299, PL47-52,
PL117-155, 表P. 80-136

第Ⅷ層砂質土の上面で弥生時代の遺構検出を行なったところ、2C-63グリッド付近に帯状の黒色帯が認められたため、発掘区南壁に沿ってトレンチ調査を行なった。染谷川現河床まで達する土層断面の観察を行なった結果、これらの土層はほとんどが河床堆積物である砂・礫・シルト等であり、現染谷川に向けて、数度の河床移動を行なったことが判明した。したがって、本遺構は自然河川の流路跡であり、染谷川の旧河道である可能性が高いと考えられた。

2号河川跡として確認した範囲は、2B-62-65、2C-63-65グリッドである。河道の左岸は2C-63以北は北東から南西方向に、2C-63以南は2Cラインにそって南向きに流路をとっている。今回の調査範囲の中では現染谷川左岸の最南端部分に位置し、現河道と接しているため、安全性の保てる場所までを調査範囲とした。

旧河道は、断面観察から4つの大きな部分に分けられることがわかり、それぞれ新しい方から第Ⅰ河道・第Ⅱ河道・第Ⅱ'河道・第Ⅲ河道と呼称することにした。第Ⅱ河道と第Ⅱ'河道は当初別の河道堆積物と考えていたが、調査が進むにつれ同一の時期の河道堆積物ということが判明した。そのため、以後は第Ⅱ'河道も第Ⅱ河道に含めて記述することにする。

断面観察からわかったことをもとに調査にはいったわけであるが、河床堆積物は層相の変化が激しいため、粒子の大きさ、色、遺物の出土状態等に注意しながら作業を進めた。調査にあたってはそれぞれの旧河道の平面形態を極力検出するように努めたが、付図4に示したように第Ⅰ河道と第Ⅱ河道は部分的な確認に止どまった。また、それぞれの河道堆積物の基底はN値50以上の固結度の高い前橋泥流層であるため、河道の変遷による河床の低下は全く認められなかった。

第Ⅰ河道 三つの河道の中では最も新しく、一番染

谷川寄りの堆積物である。右岸は現河道によって切られているので、正確な規模は不明である。左岸の上端・下端は部分的ではあるが確認することができた。確認面からの深さは1.2m程である。

河道を埋めているのは粗粒の堆積物であり、中礫と粗砂が下層にいくにしたがって多くなっている。第Ⅱ河道はより細粒の堆積物が堆積しており、第Ⅱ河道より第Ⅰ河道は流れが強かったことが堆積物の粒子の大きさから想像される。現河床内にある巨礫は、旧河道基底面近くには認められなかった。直径10cm程度のものが最大で、そのほとんどは前述した中礫からなる。

掘り込み面上位にはHr-FAやそれに伴う洪水堆積物の層がなく、6世紀以降の河道改変の可能性が高い。出土遺物は破損面が磨滅しているものが多く、水流によって運ばれたものと考えられた。出土点数は多くなく、土師器・須恵器の破片のほか、図示した木製の櫛がある。遺物から時期を確定するのは困難である。

第Ⅱ河道 三つの河道のうち真ん中のものである。右岸は第Ⅰ河道によって切られているので規模は不明である。確認面からの深さは1m足らずである。左岸は第Ⅲ河道堆積物によって境する。現在の用水路である善勝寺堀によって一部が壊されていた。62ラインより3mほど上流で第Ⅰ河道によって切られている。それより上流は、現道下のため未調査となり、詳細は不明である。

第Ⅱ河道は蛇行が激しく、平面形は付図4に示したように突出部が三つ確認された。当初観察した土層断面ではこのうち南側の突出部と真ん中の突出部の二つの河道の切り合いを第Ⅱ河道・第Ⅱ'河道としたものと思われる。この両者とも平面的な発掘調査の際には土層堆積や遺物出土状態など似たところが多く、分層発掘することができなかった。

河道の最上位には8層黒褐色砂質土層が堆積している。堆積物は中砂・細砂を中心とし、黒褐色のシルト質細砂を数枚挟む。基底は第Ⅰ河道と同様前橋泥流層である。

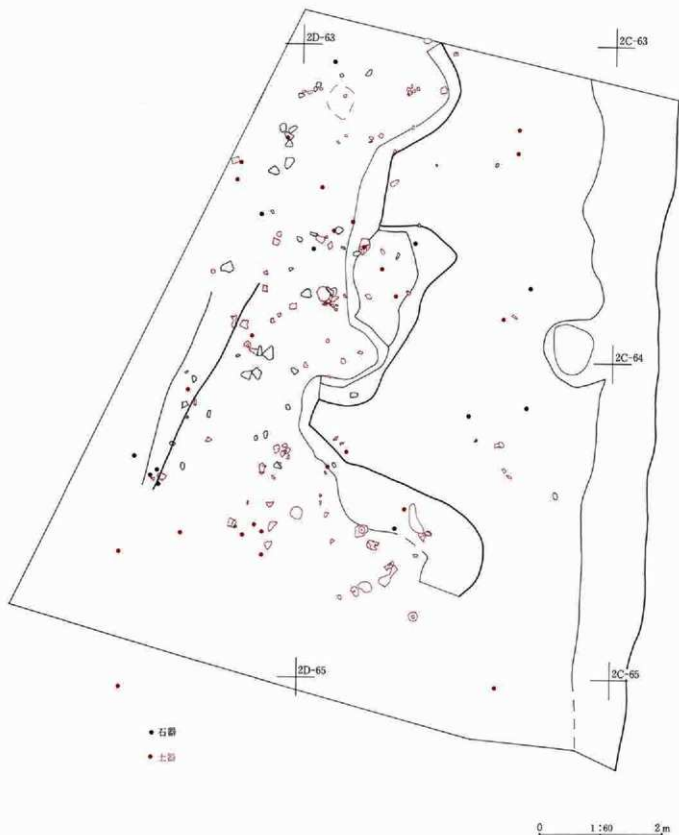


図234 2号河川跡出土土器・石器分布図

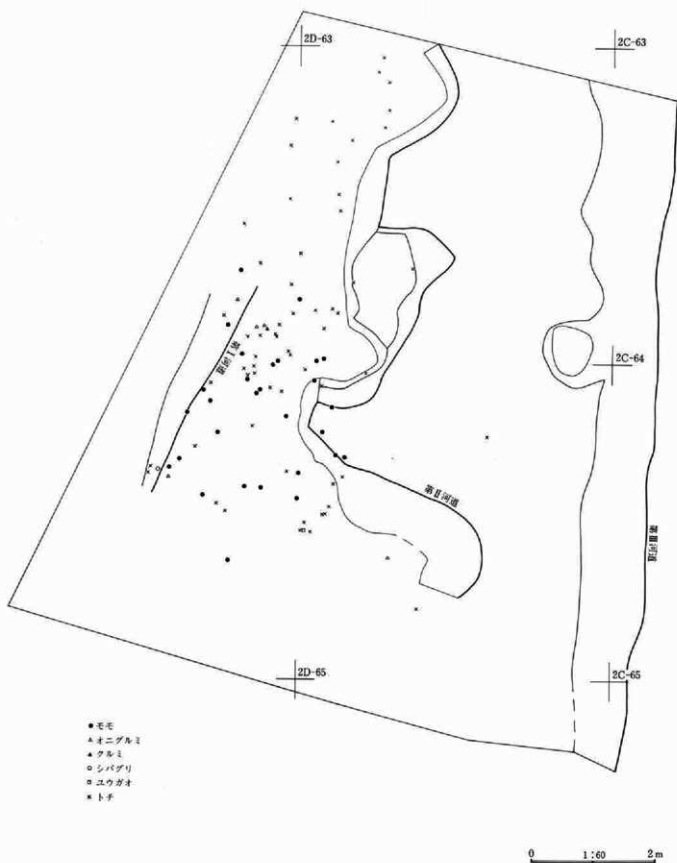


図235 2号河川跡種子分布図

本河道堆積物は、第Ⅱ河道堆積物と粒子・色等で類似していたので河道の範囲を限定することが困難であったが、遺物の出土状況や、黄褐色粗砂が第Ⅱ河道左岸で立ち上がるように検出されたことから、付図4のように第Ⅱ河道の左岸を確定した。

遺物は、土器・石器・木器・種子・獣骨・昆虫等多種に及び、特に土器は13800点に達している。土器は弥生時代後期の樽式土器がほとんどで、一部縄文土器や南東北地方系と見られる弥生土器片も含まれている。土器片の出土は7層からおびただしくなった。

獣骨も1層から出土し始める。また骨とともに灰が一面に広がって見られたり、焼土の固まりがあるところもあり、このことから2層堆積時にはすでに離水しており、岸辺の川原という状況であったのではないかと推定された。板材やクルミ等の種子も本層から出土している。

3層より下位はすべて河道堆積物と考えられるもので、砂質・シルト質堆積物である。ここからも土器・石器・獣骨・種子・昆虫等が出土し、特に木器が多量に出土したことが特筆される。

土器は以下のどの層からも平均して出土し、大量の破片が取り上げられた。土器の破損面の磨耗がほとんど見られないことや、一個体分の土器がまともに出土する場合も多くあることから、第Ⅱ河道の上層部は水深のごく浅いところで、そこに土器が投げこまれたり、落ち込んだりしたものと考えられる。

木器は、第Ⅱ河道からとりあげられた木器は346点あり、このうち214点を図示した。他の自然木や人的な力は加わっているものの不明瞭な状態であるものは参考資料とし、樹種の同定のみをおこなった。詳細については第3分冊で述べる。図示した木器の中には鍬や鋤などの農具や、斧の柄などの工具、破片ではあるが内面は鍋底状を呈する器や、未製品ではあるが鉢形となると推定される容器等が含まれており、弥生時代の豊かな木文化を垣間みせてくれる。また、多量の杭や桁穴のあいた部材なども出土

している。木器に利用された樹種は26科37分類群に同定された。なかでもコナラ属コナラ亜属のコナラ節やクスギ節などが多い。また出土した材の中には未製品も多く含まれており、これらのデータは、木器製作工程解明のための好資料となると思われる。

木器の出土は、先述した第Ⅱ河道の突出部内に密集する傾向があった。また、2D-63グリッドポイントの南には基底面に杭を打ち、その杭に転用板材を止めた木道状の施設が検出された地点がある。

ここでは杭が前橋泥流である基底面に打ち込まれており、杭の上端は欠損している。木道と考えられる木材の長さは約40cm前後であり、出土位置は河床面に接して出土している。この使用木材は木製の鍬や、杭、割材などを転用しているものもある。杭の残存状態は悪く、とりあげ時にくずれてしまったが、少なくとも4地点は確認できた。このような木材の出土状態から、これらは木道ないし栈橋状のもので、規模は小さく、河床に近い部分に設置されたことが推測される。対岸まで渡れたものか、川に突きでた栈橋状のものかは明確ではないが小川の流れる集落内の施設として興味深い。

獣骨は、283点を同定した結果、イノシシやニホンシカが多く、イヌも1点含まれていた。焼けているものも26点あり、動物食の存在を想定させる。また、種子類はクルミ、トチノ実、ヒョウタン、カヤノ実、モモ、シバグリ、ツバキ、ウリ、ジュズダマ、アンズなどが多数出土している。なかでもモモ、シバグリ、クルミなどの出土が多い。

第Ⅲ河道 調査された最も古い河道である。63ライン付近で第Ⅱ河道によって切られ、それより下流で展開する。確認面からの深さは60cmである。左岸はⅨ層からⅪ層までの地山砂層を削りこんで直角に近い断面形状を呈する。右岸側は第Ⅱ河道により切られている。

河道を埋める堆積物は中砂～細砂で、間に黒褐色砂質シルト層を2～3枚挟んでいる。基底部近くには河床礫とともに粗砂が認められ、第Ⅱ河道との境を明確に把握することができた。また基底面にはボツ

第5章 河川跡の調査

トホールがあることから、本堆積物の堆積以前に水流の強い時期があったことを窺わせる。

土器・石器・木器・種子等が出土した。第Ⅱ河道堆積物中のものと比較すると少ない。堆積物の粒度、完形土器の出土、破損部の磨耗の少なさから見て、第Ⅱ河道堆積物と同じような河床状況を考えることができる。さらに、堆積物中に植物遺存体が密集する層が帯状に検出された。この堆積物のサンプリングを行ない、水選したところ、種子が多量に検出された。なかには炭化米が多数あり、河道堆積物に伴出する土器が弥生時代後期を中心に、中期末のものを若干含んでいることとともに、本河道が弥生時代後期のものであることを示している。

第Ⅲ河道からとりあげた木材は102点である。あらかじめ手の加わったものと判断できたものは94点あるが、図示したものは77点である。これらの木材は、田植え用の水を満たすと溢れた仮用水路が破損し流れ込んだ濁流によって調査中に土砂とともに埋まってしまった。木材は動いてしまって出土位置を保っていないことや、調査期限も迫っていたため、出土地点の記録をとらないまま第Ⅲ河道出土木器としてとりあげた。したがって付図4で第Ⅲ河道に出土木器がなく、第Ⅱ河道に集中するかのような印象を与えるが、前述のような状況であったことをこわっておきたい。獣骨・種子の分布についても同様である。

木器の種類は第Ⅱ河道とほぼ同様で農具の柄、広楯、狭楯、又楯、横楯、着柄鋤、くさび状木製品、糸巻き具、横楯、梯子、建築材、柱、加工木のほかに、未製品が多く含まれている。

調査所見 調査結果から、本河川跡の第Ⅱ・第Ⅲ河道は時間差はあるが、様相としてはほぼ同じ状況であることが判明した。また、東側左岸に展開する弥生時代後期の集落との間には直接の関係があるように思われる。河道内の埋没土に出土した土器や動植物遺存体などにこれを見ることが出来る。左岸の集落の方からの遺物の流れ込みは生活活動を想定させるし、焼けた獣骨は動物食を裏づけている。また、

河道内に検出された木道ないしは棧橋状の遺構は河川を何等かに利用した生活があったことを示している。

本河川跡の河道は第5次調査区より上流では確認できなかった。染谷川が現流路に変遷するまでの過程で包括されてしまったか、あるいは右岸側へ大きく蛇行している可能性も残されている。第2次調査区で検出された1号河川跡もまた、染谷川の旧流路と考えられるが、本2号河川跡とは時期が異なり、やや新しい時期の流路である。この時期の河道は2号河川跡では検出されていない。下流に向かっては、調査区内でもやや東側に広がっていることから、南側の未調査部分では河川跡の状況を十分に把握することも可能性がある。

一方、村前遺跡から約100m下流に近接する新保遺跡には、ほぼ同時期と考えられる「大溝」が存在する。形状を良好に残し、本河川跡と類似する木器等を出土している。同一の河道になるか否か不明であるが、遺跡全体の様相からすれば、ほぼ同一の性格をもった遺跡であることを調査結果から読みとることができる。

本河川跡の調査から、第Ⅱ・第Ⅲ河道は旧染谷川の変遷過程における弥生時代後期の様相を多く残した遺構としてとらえることができた。今後は遺跡内で検出された同時期の人工の溝や、周辺の遺跡で調査された旧河道や溝との関連を検証していくことが課題と考えられる。

(中山・相京)

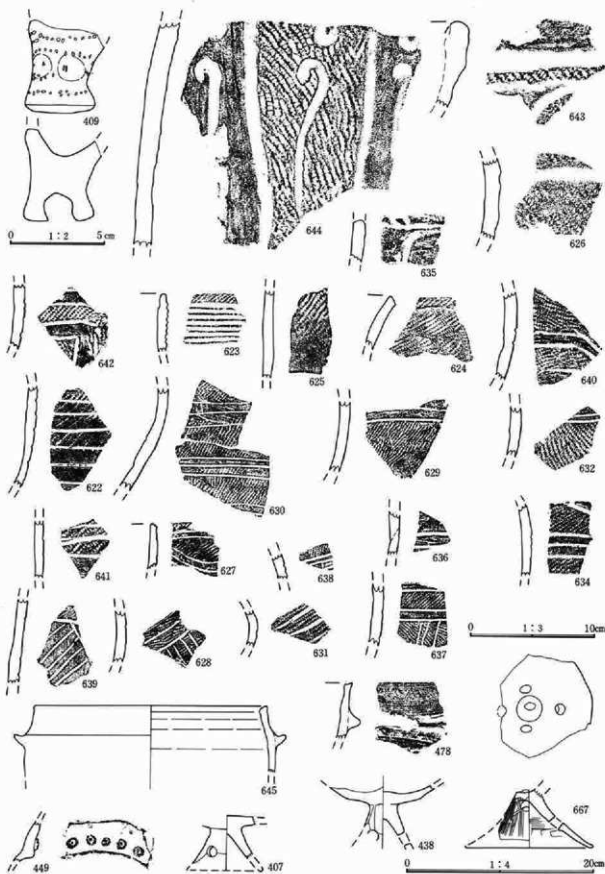


图237 2号河川跡出土土器(1)

第5章 河川跡の調査

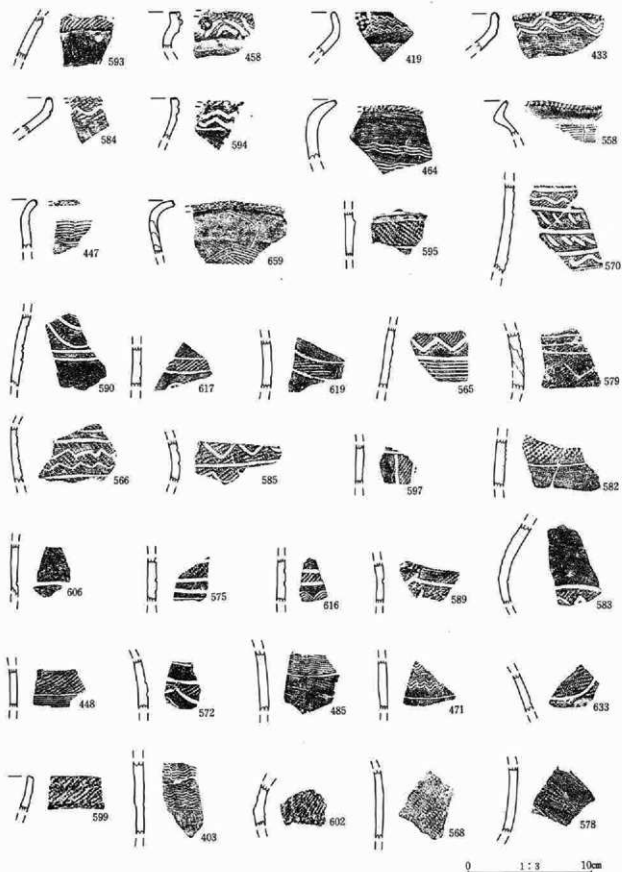


図238 2号河川跡出土土器(2)

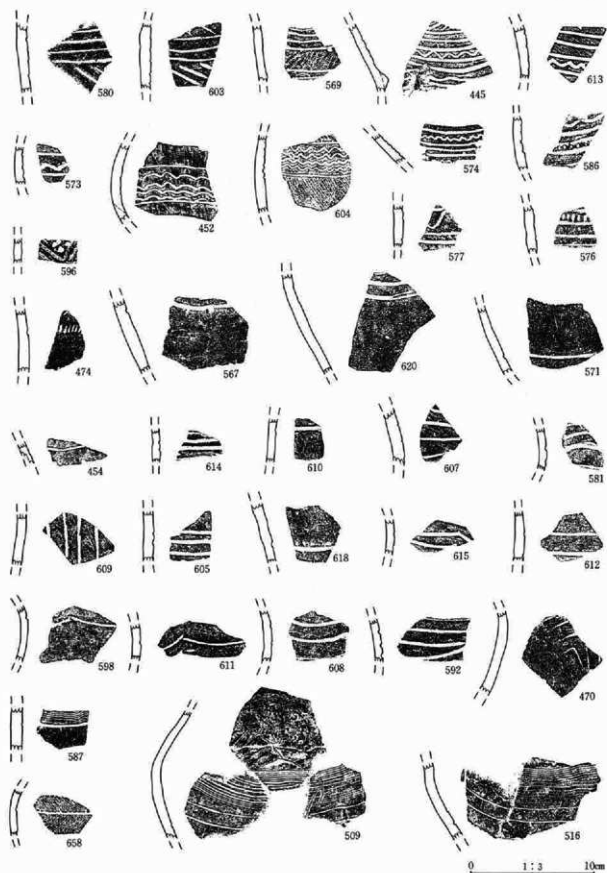


图239 2号河川跡出土土器(3)

第5章 河川跡の調査

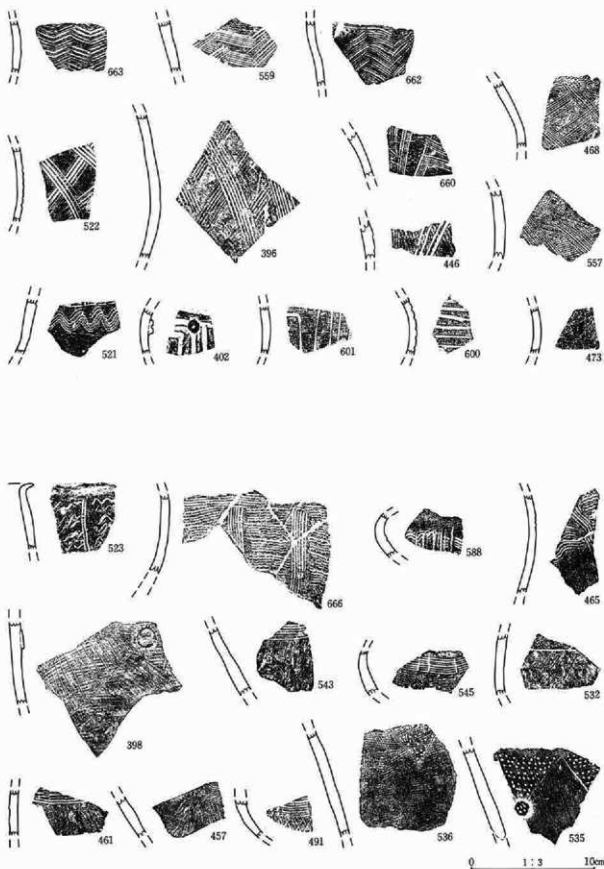


図240 2号河川跡出土土器(4)

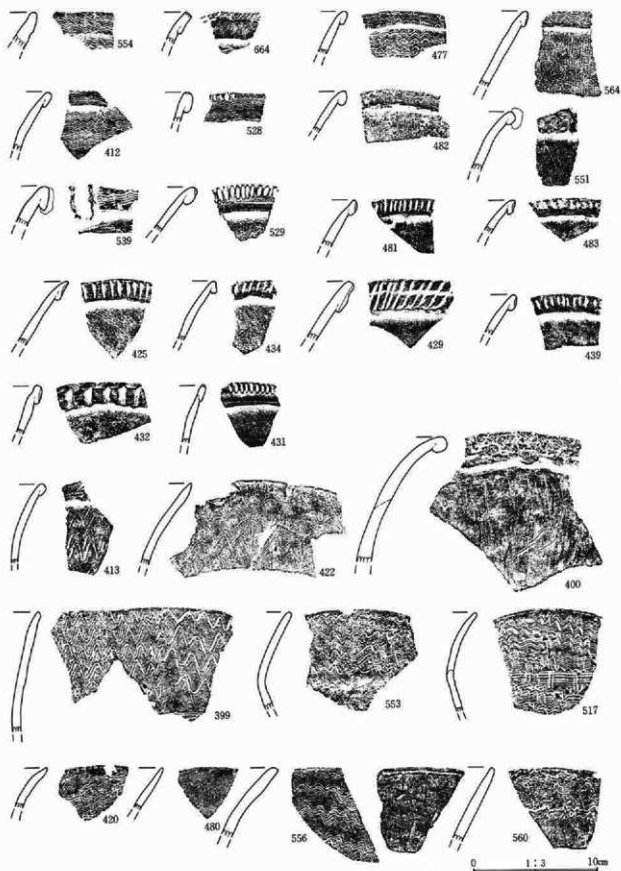


图241 2号河川跡出土土器(5)

第5章 河川跡の調査

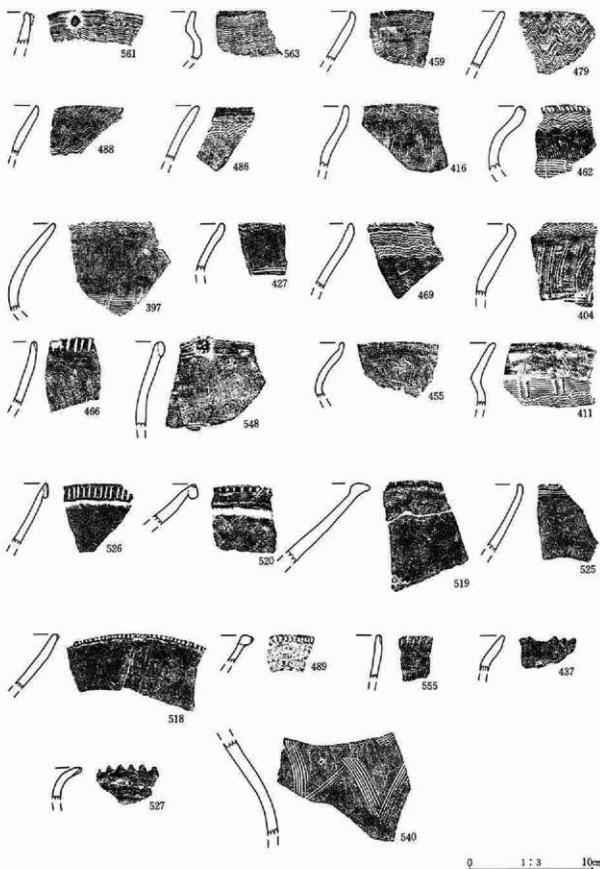


图242 2号河川跡出土土器(6)

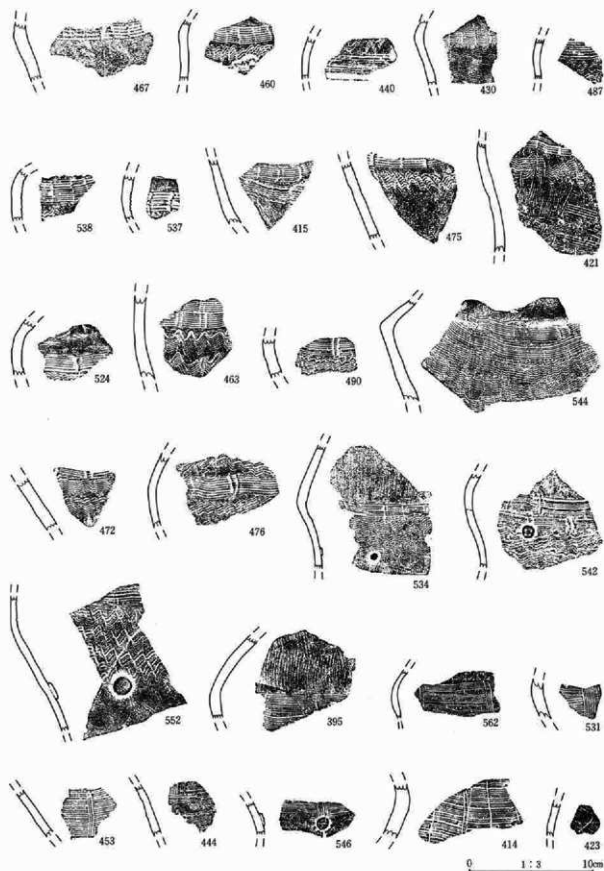


图243 2号河川跡出土土器(7)

第5章 河川跡の調査

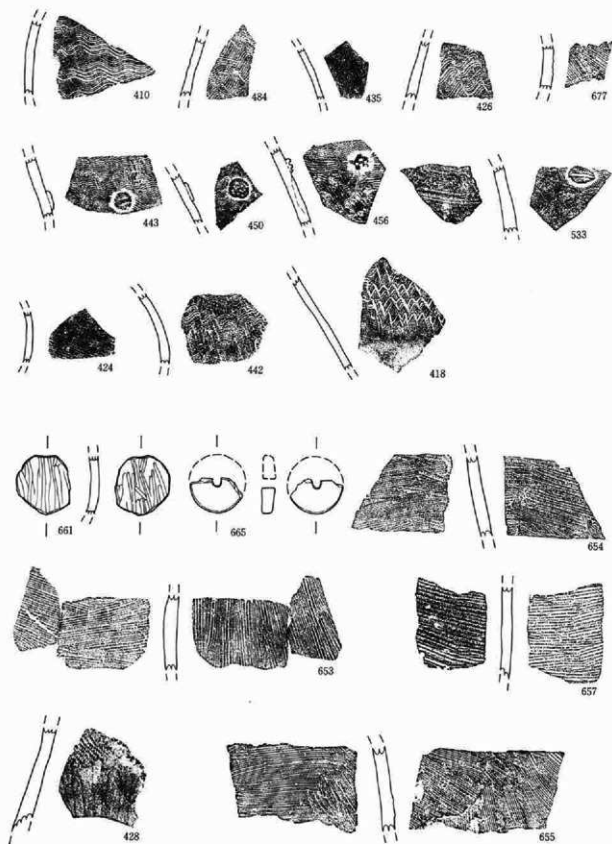


図244 2号河川跡出土土器(8)

0 1:3 10cm

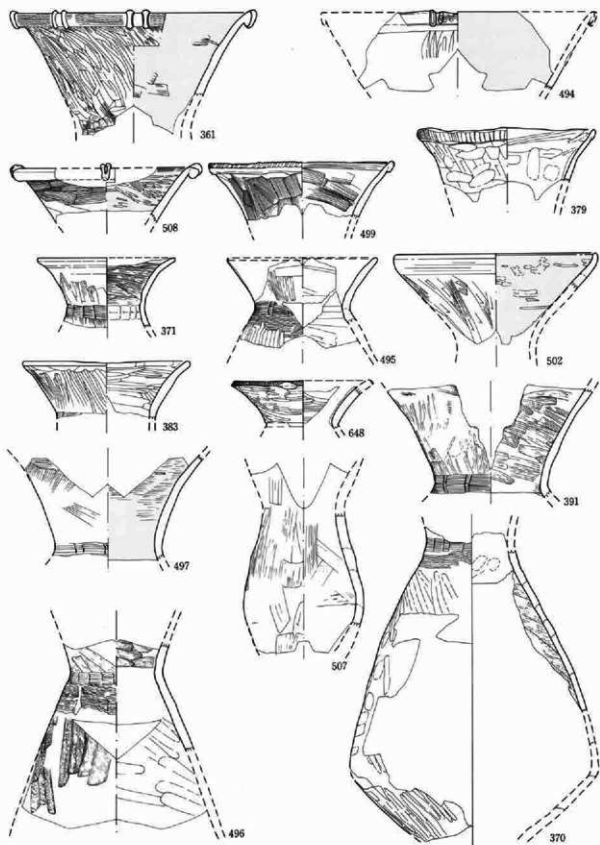


図245 2号河川跡出土土器(9)

0 1:4 20cm

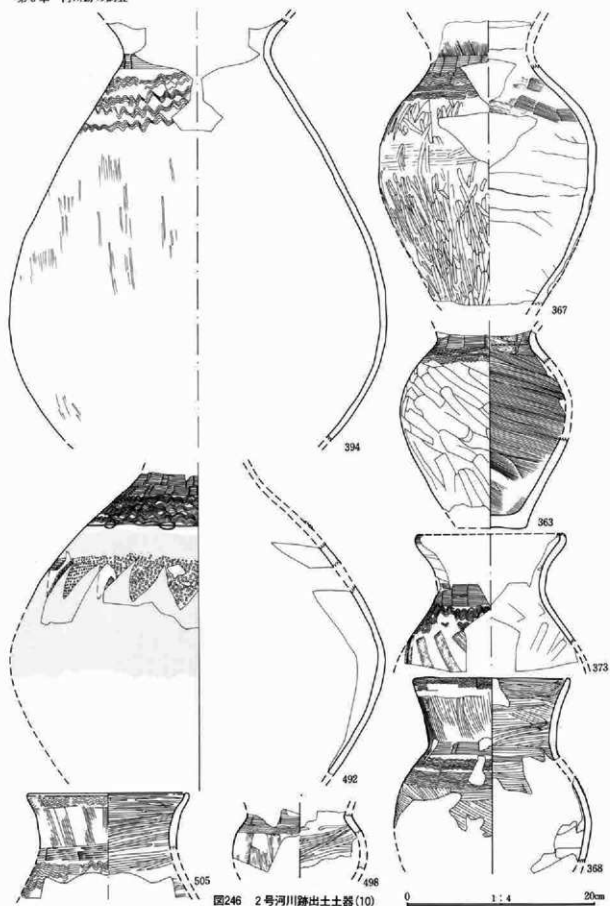


图246 2号河川跡出土土器(10)

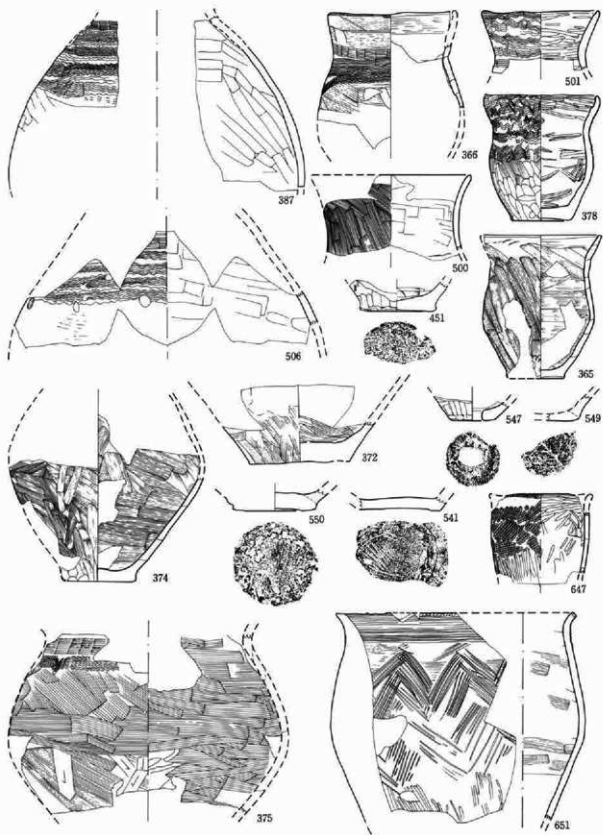


图247 2号河川跡出土土器(11)

0 1:4 20cm

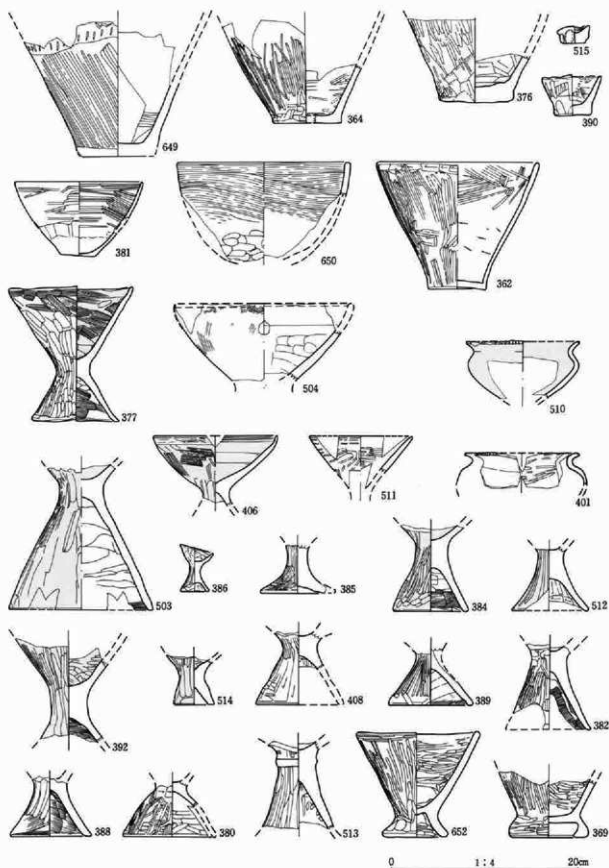


図248 2号河川跡出土土器(12)

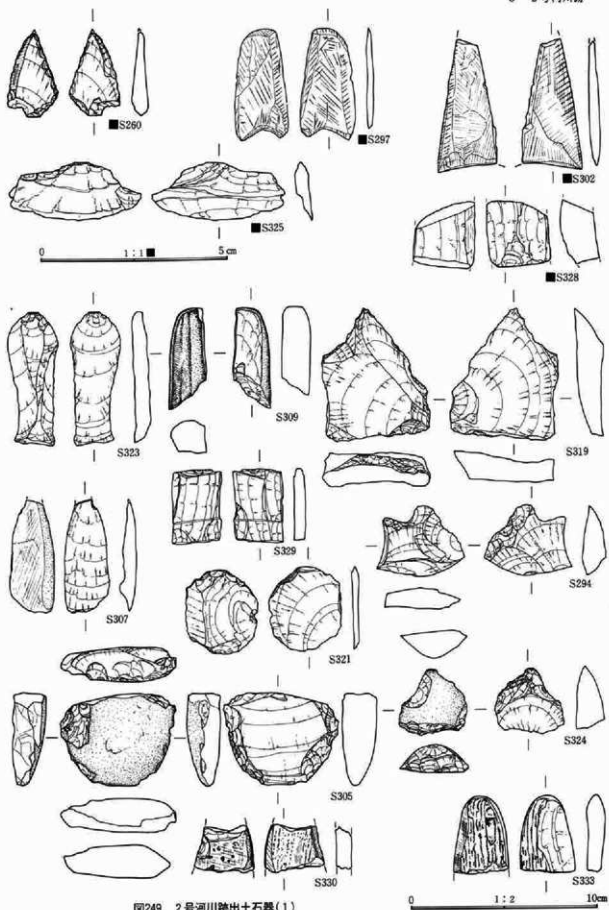


图249 2号河川跡出土石器(1)

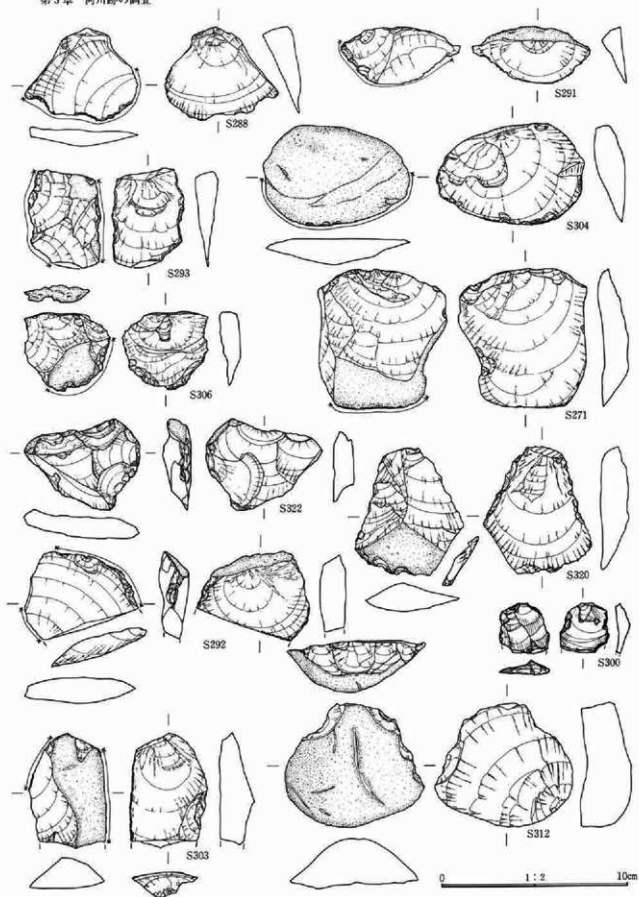


図250 2号河川跡出土石器(2)

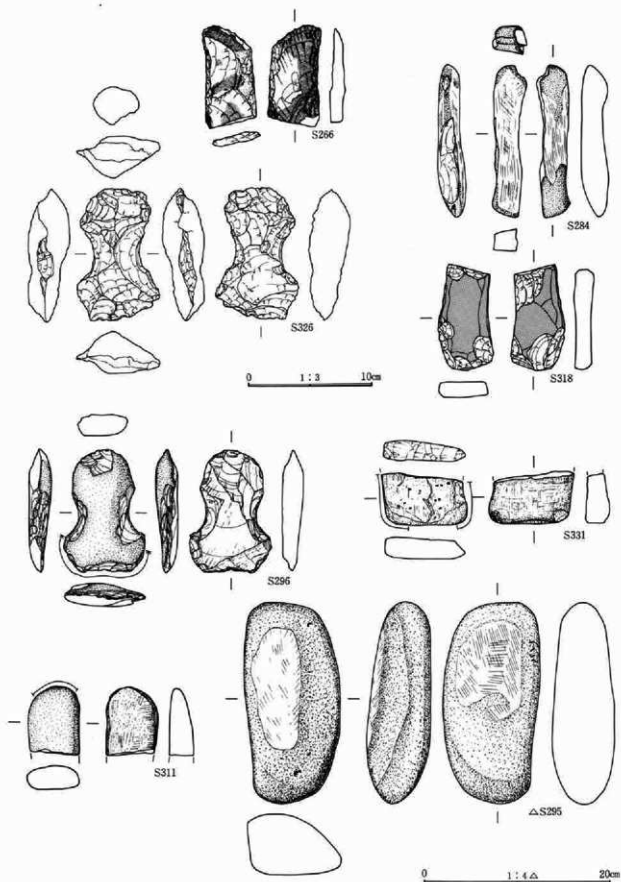


図251 2号河川跡出土石器(3)

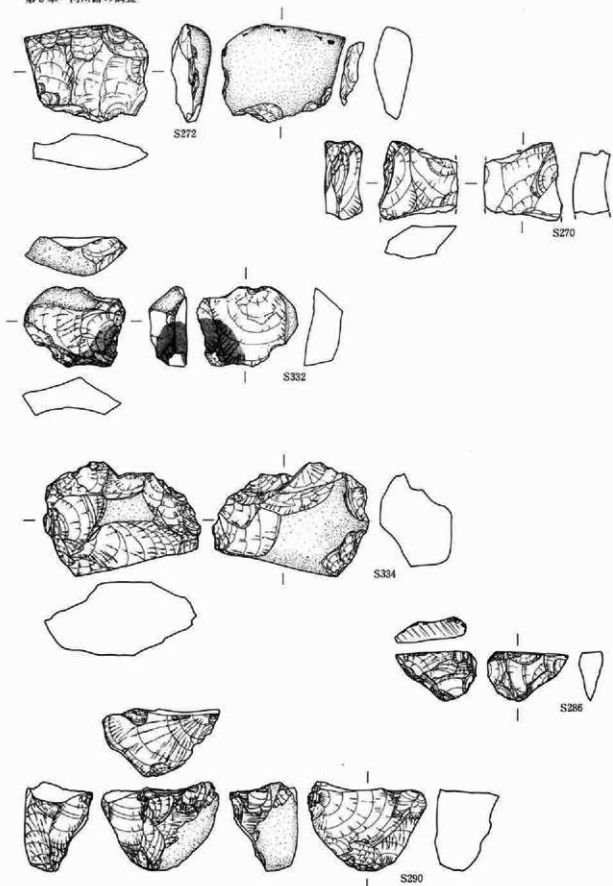


図252 2号河川跡出土石器(4)

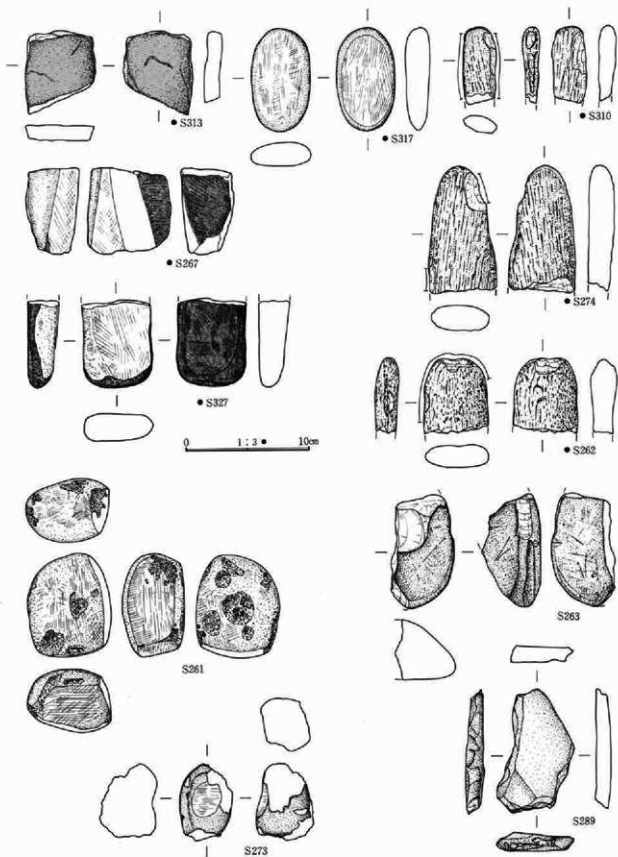


图253 2号河川跡出土石器(5)

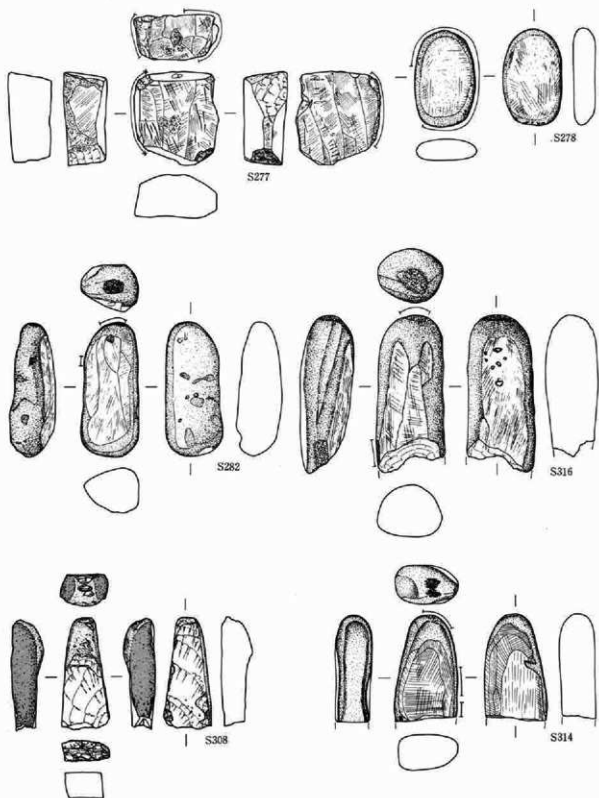


図254 2号河川跡出土石器(6)

0 1:3 10cm

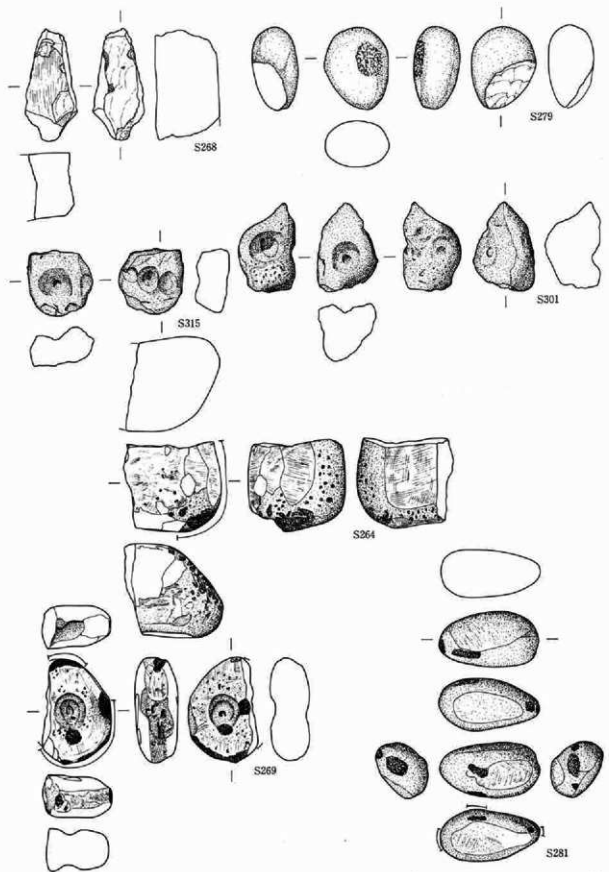


図255 2号河川跡出土石器(7)

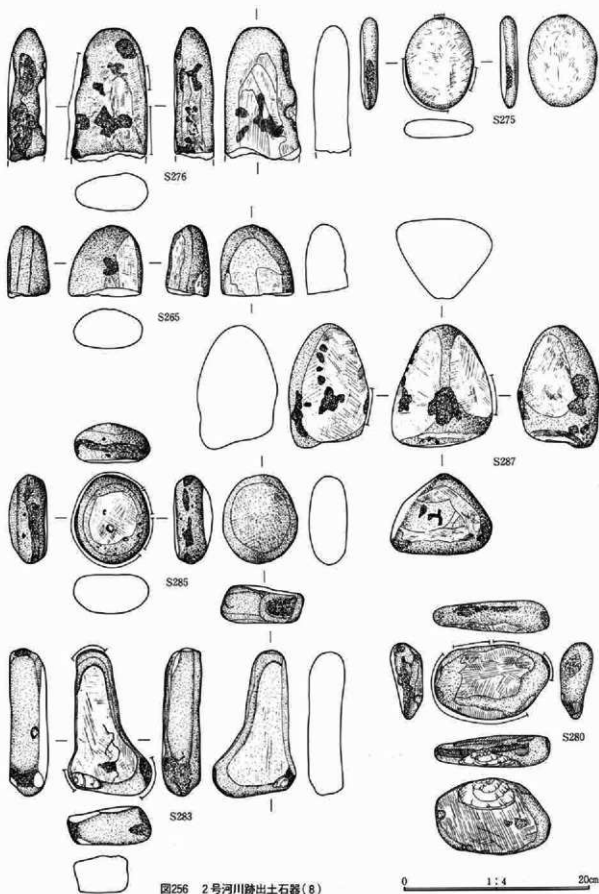


図256 2号河川跡出土石器(8)

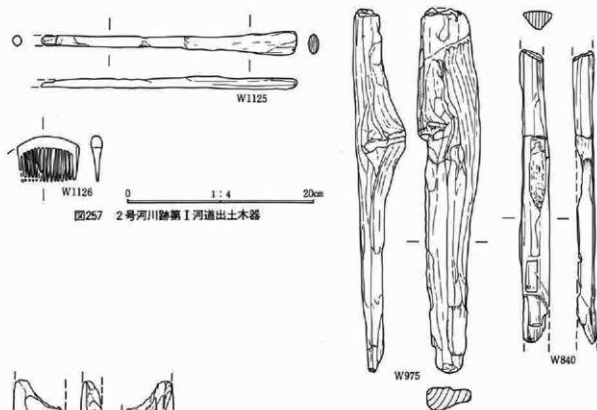


図257 2号河川跡第I河道出土木器

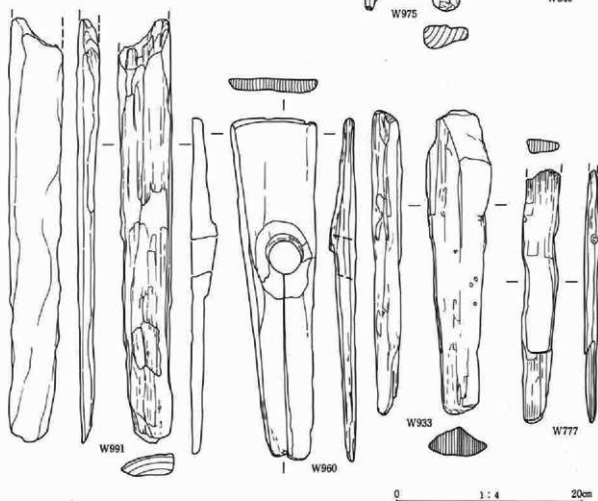


図258 2号河川跡第II河道出土木器(1)

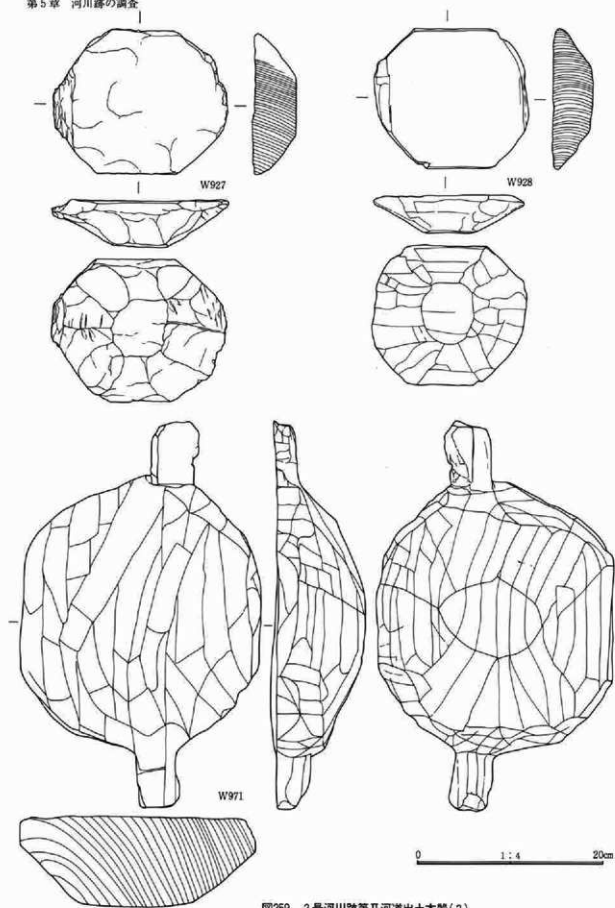


図259 2号河川跡第Ⅱ河道出土土器(2)

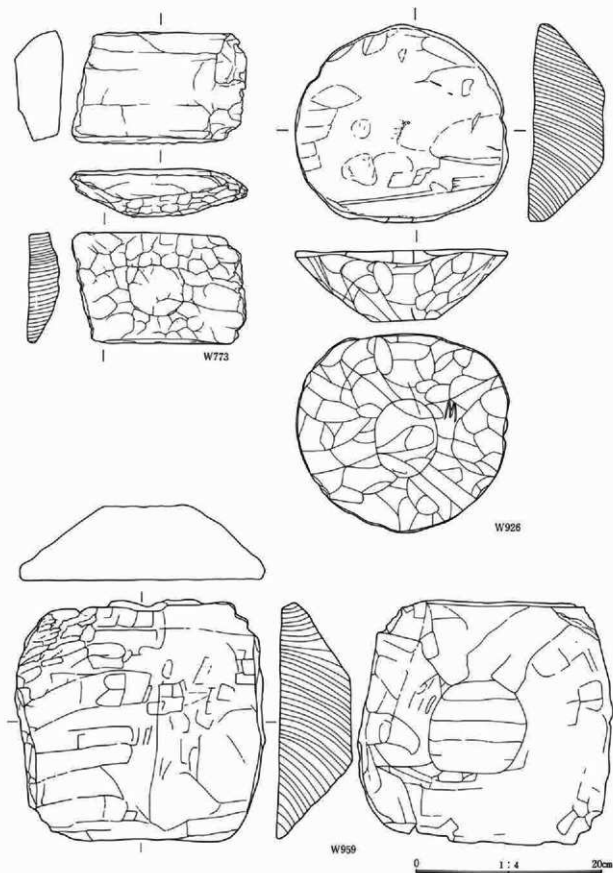


图260 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(3)

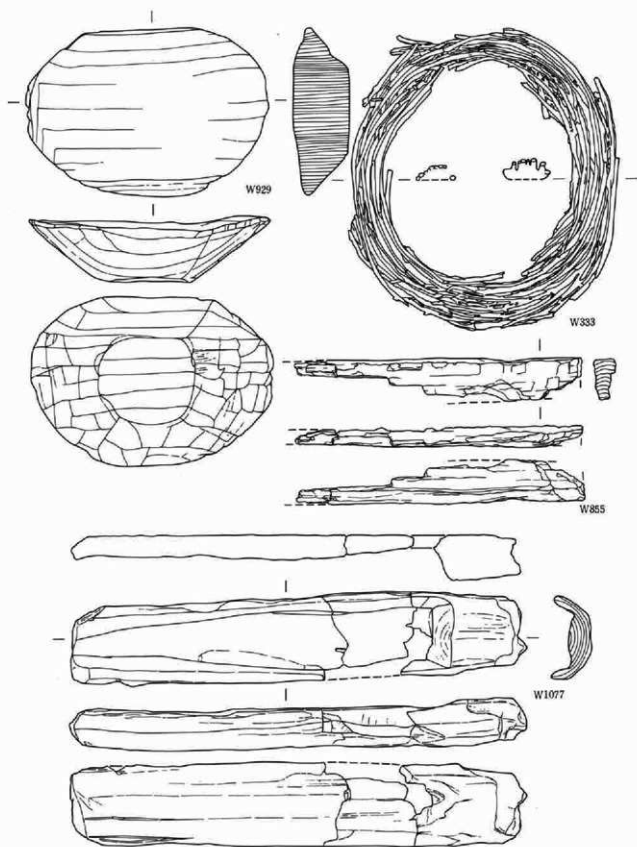


図261 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(4)

0 1:4 20cm

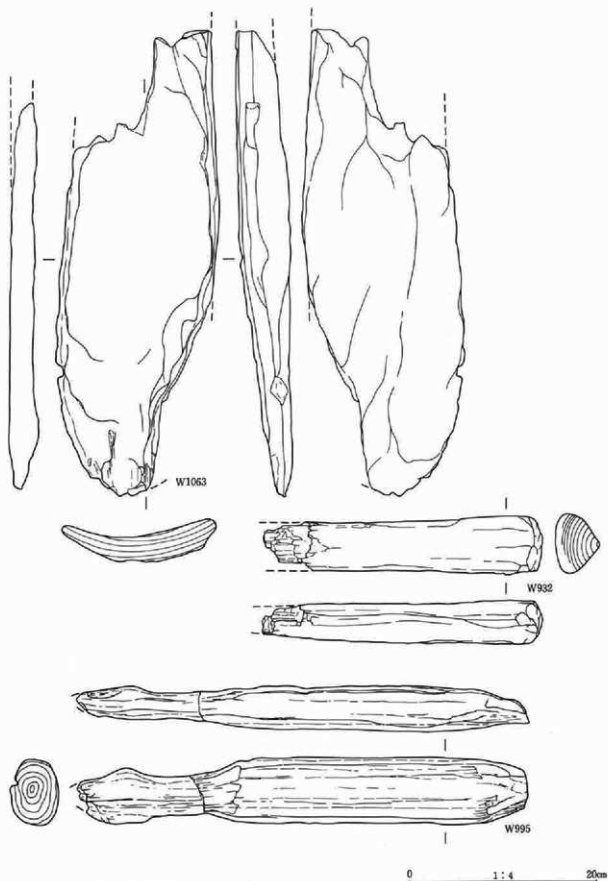


図262 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(5)

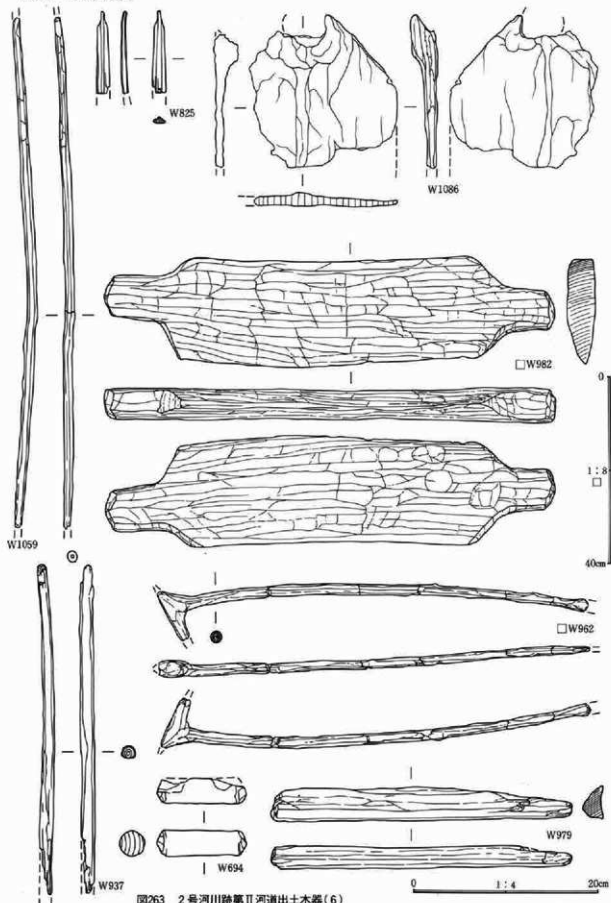


図263 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(6)

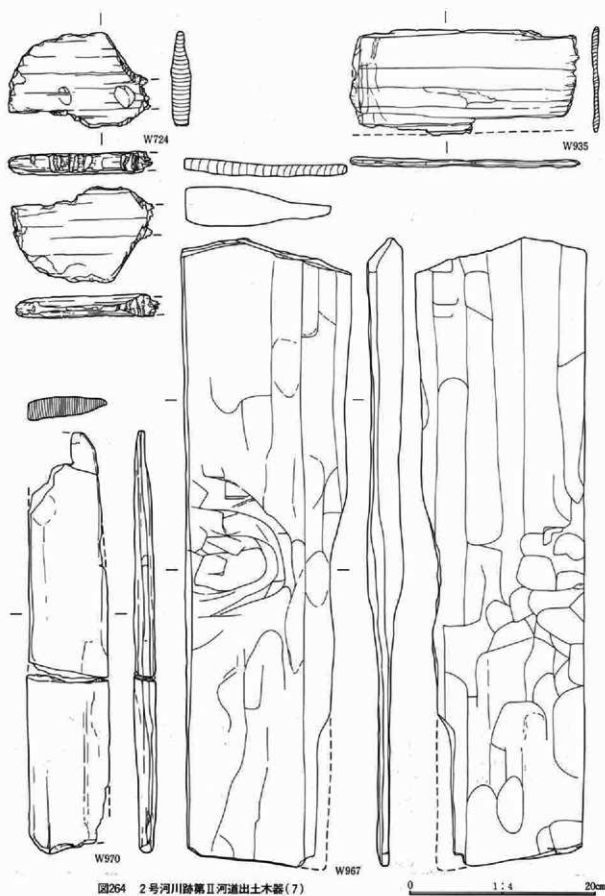


图264 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(7)

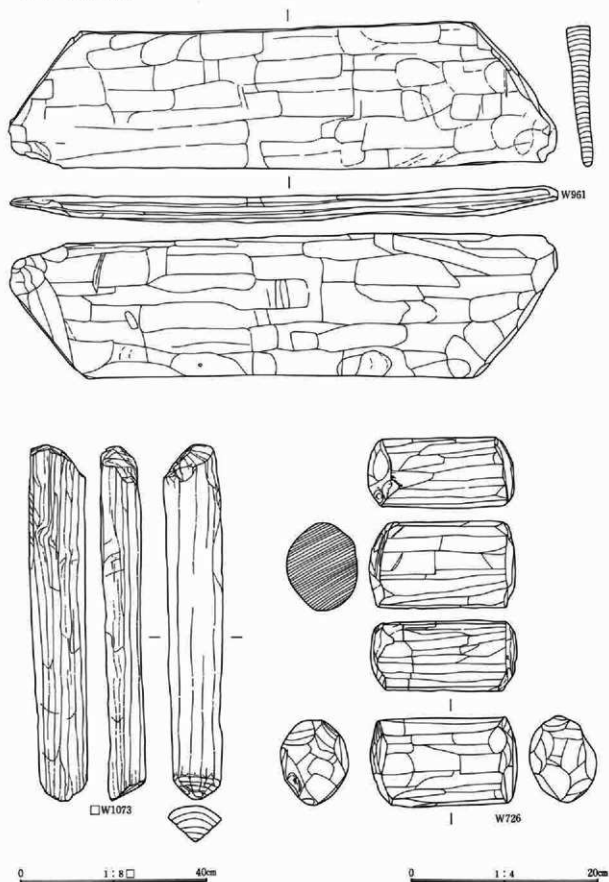


図265 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(8)

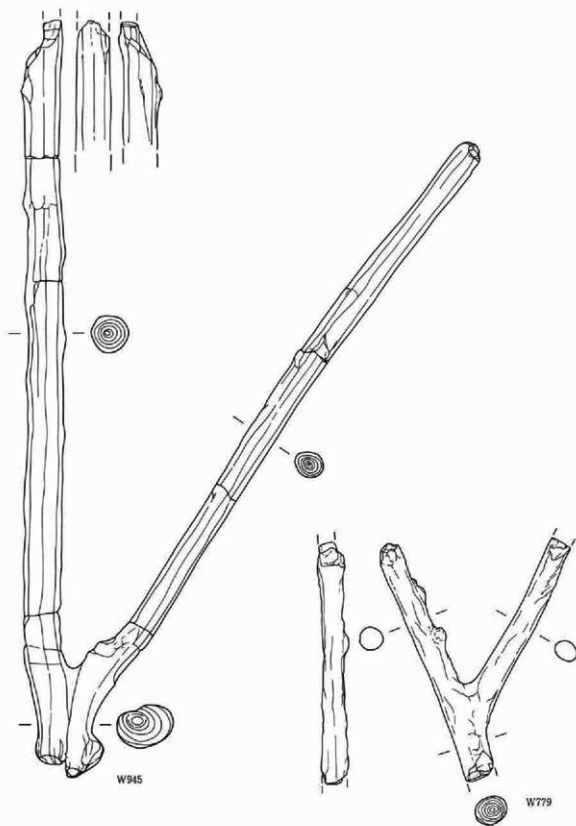


图266 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(9)

0 1:4 20cm

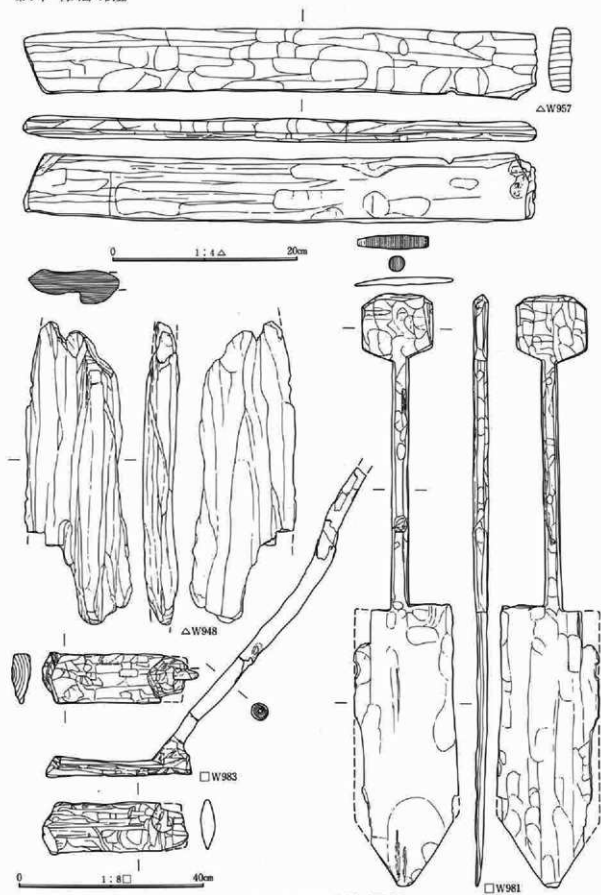


図267 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(10)

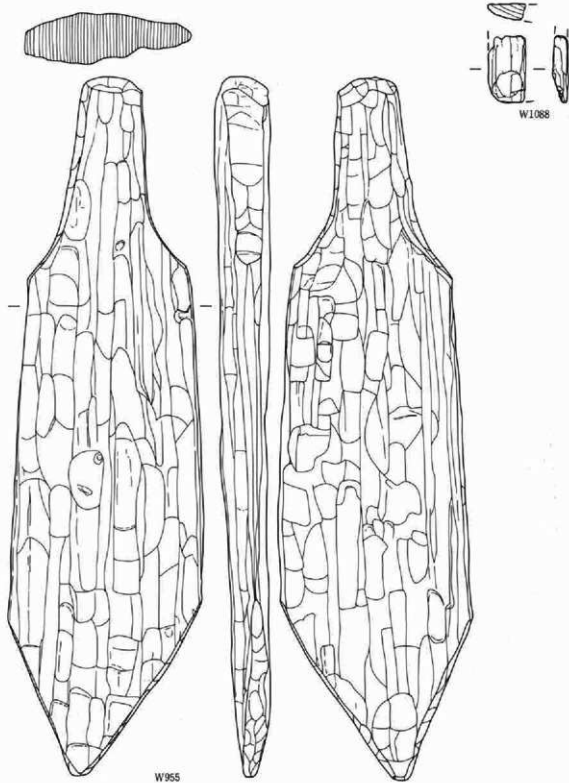


図268 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(11)



図269 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(12)

0 1:4 20cm

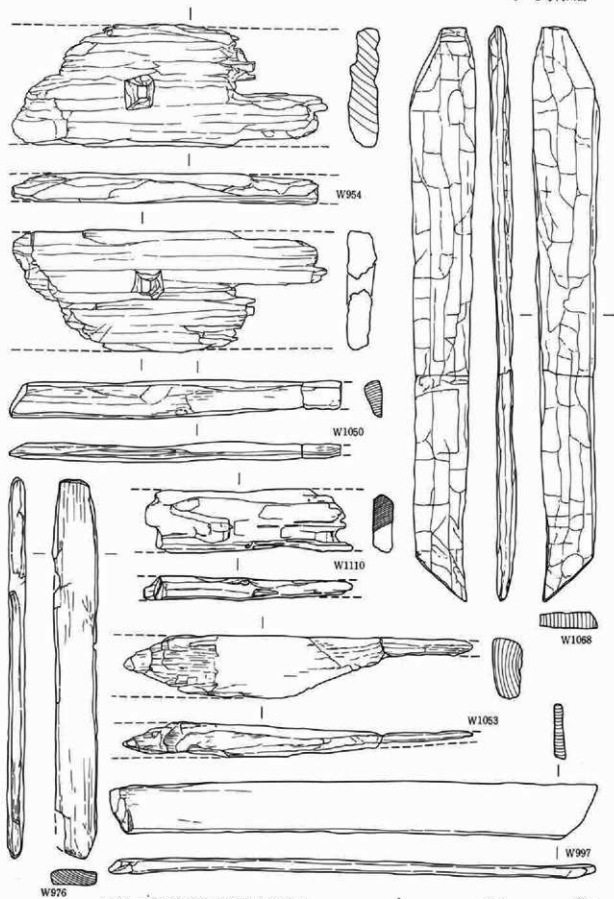


図270 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(13)

0 1:4 20cm

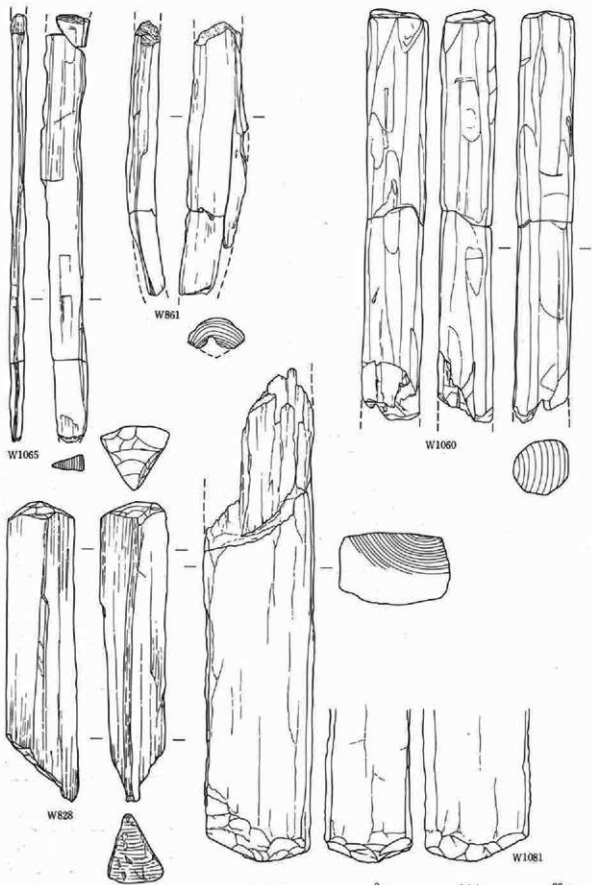


図271 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(14)

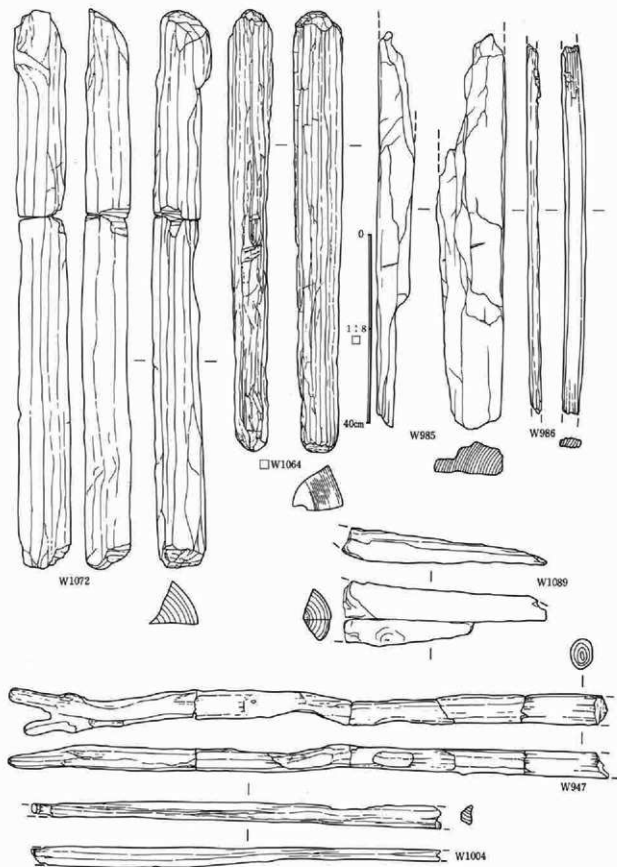


图272 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(15)

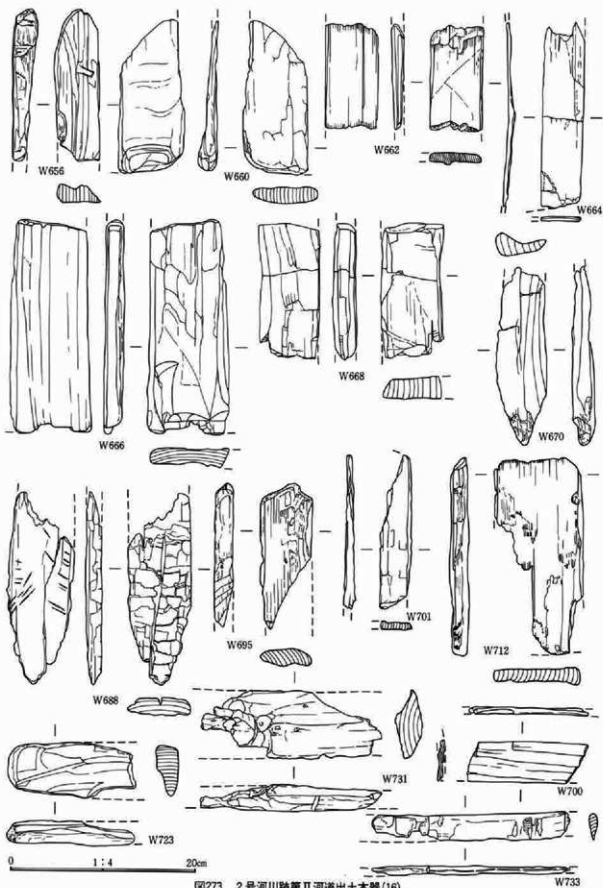


図273 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(16)

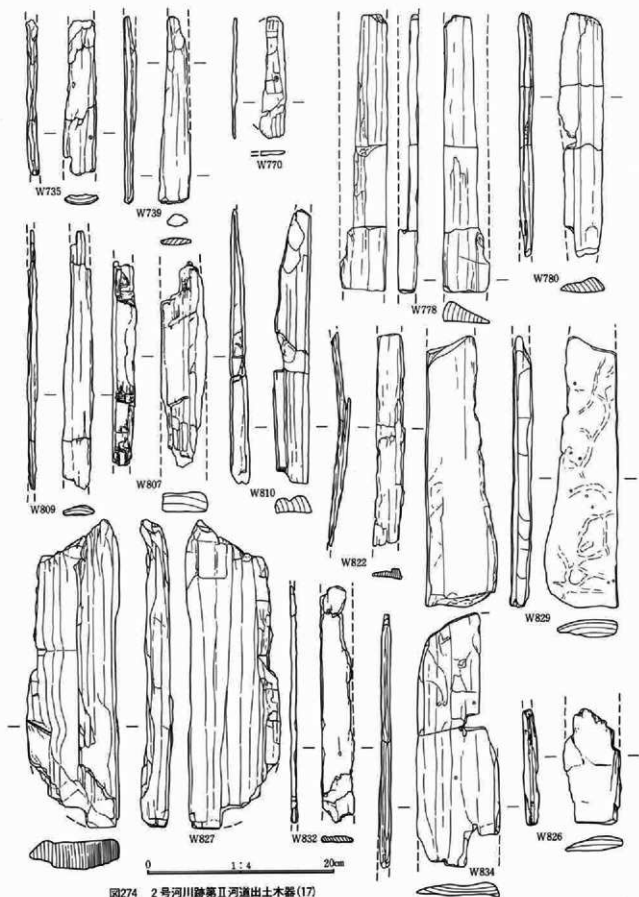


图274 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(17)

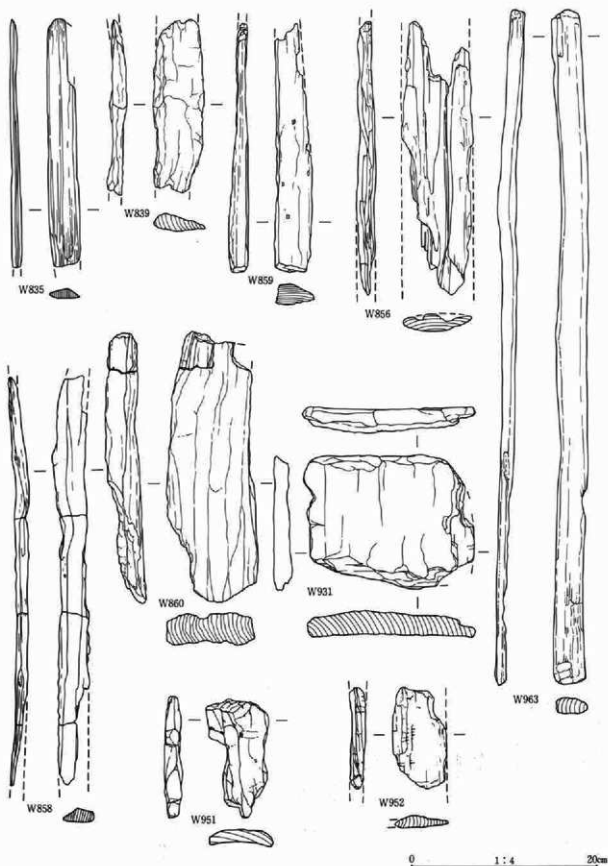


図275 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(18)

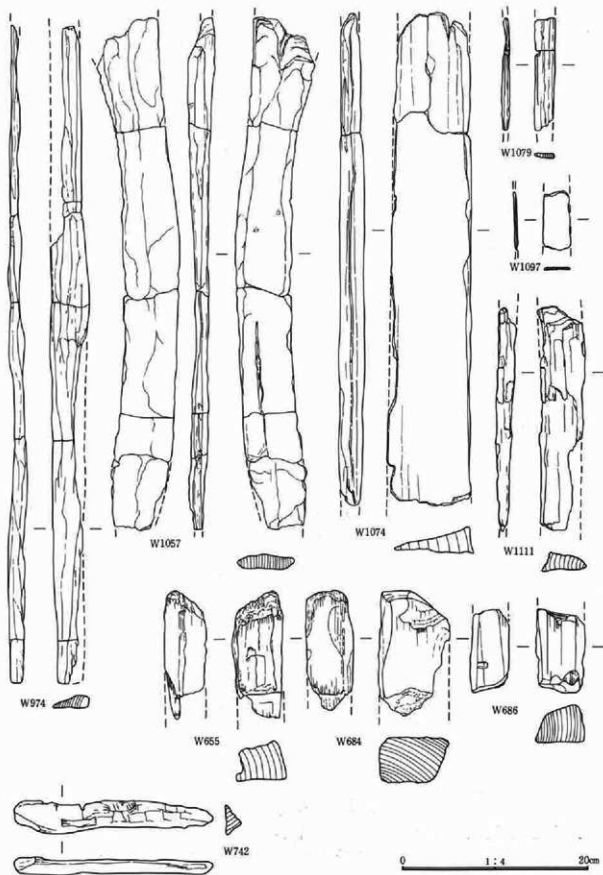


图276 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(19)

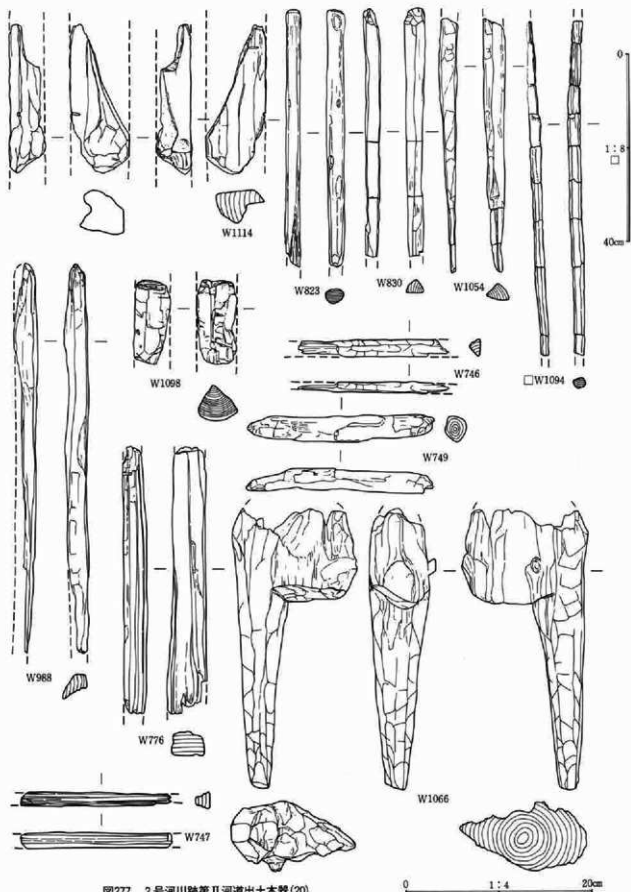


図277 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(20)

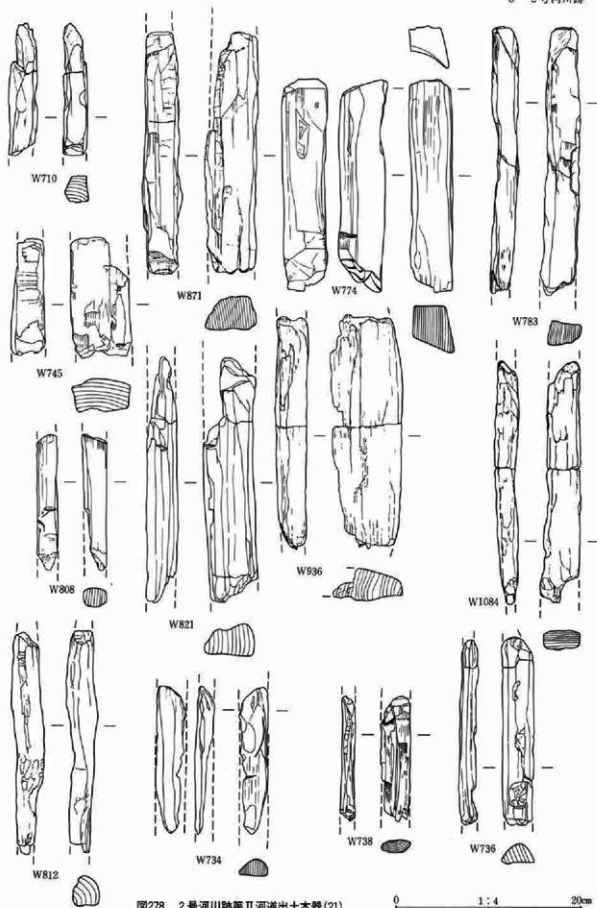


图278 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(21)

0 1:4 20cm

第5章 河川跡の調査

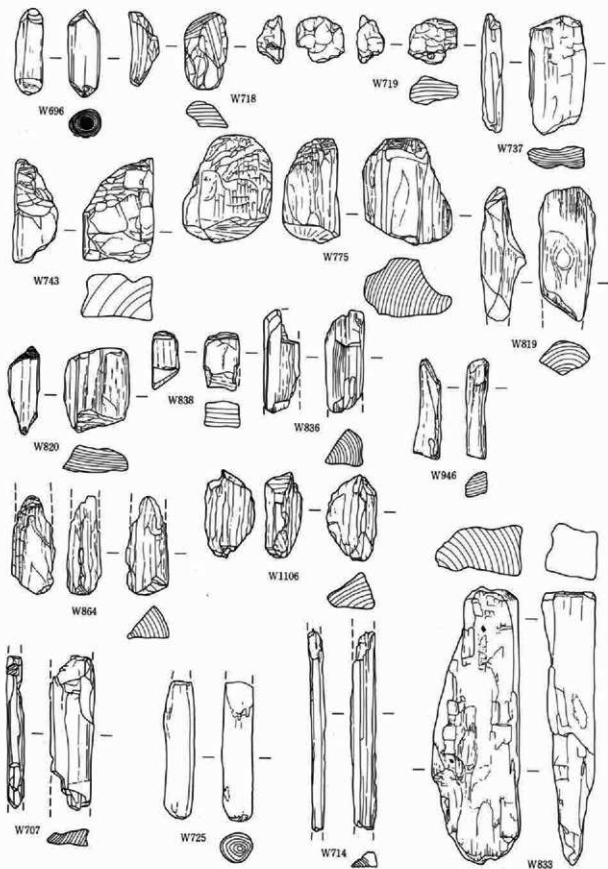


図279 2号河川跡第Ⅱ河道出土石器(22)

0 1:4 20cm

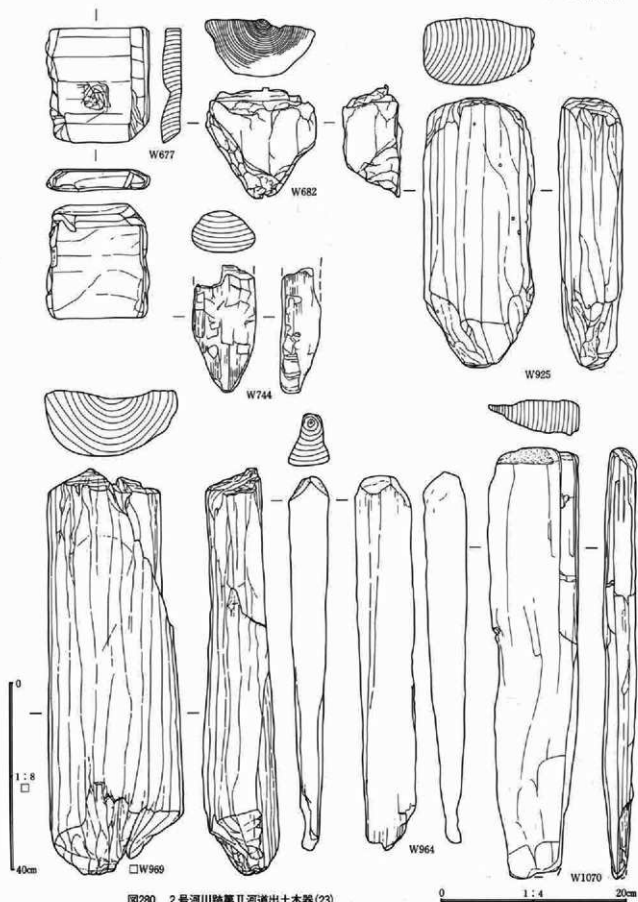


图280 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(23)

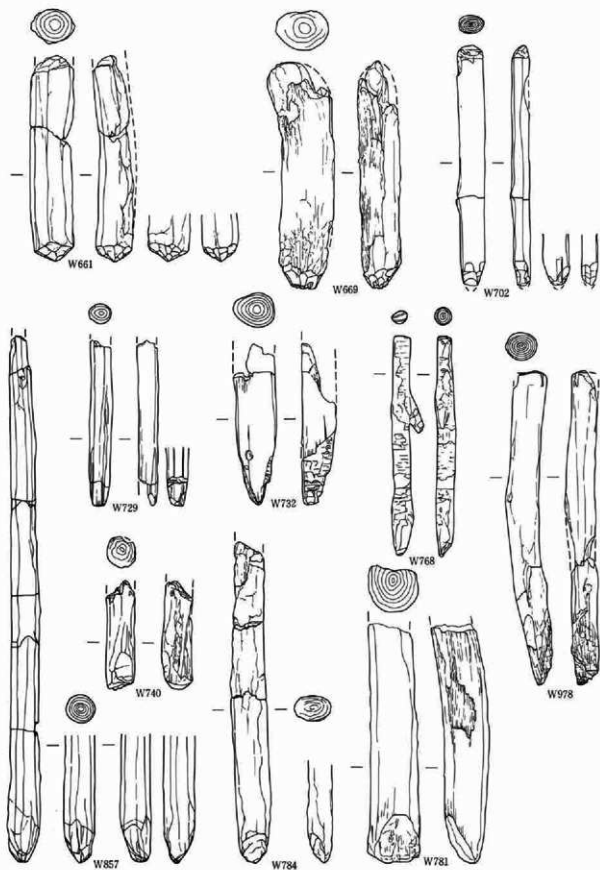


図281 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(24)

0 1:4 20cm

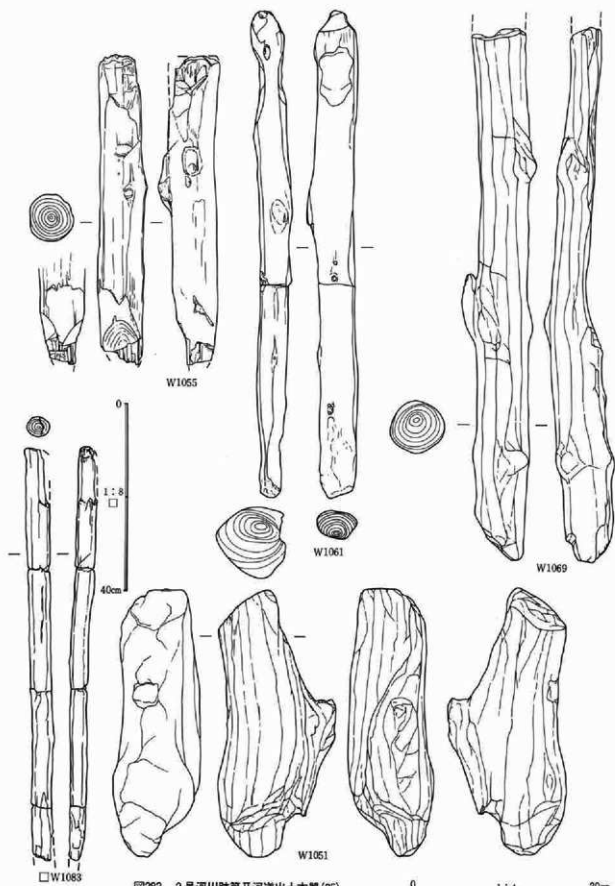


图282 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(25)

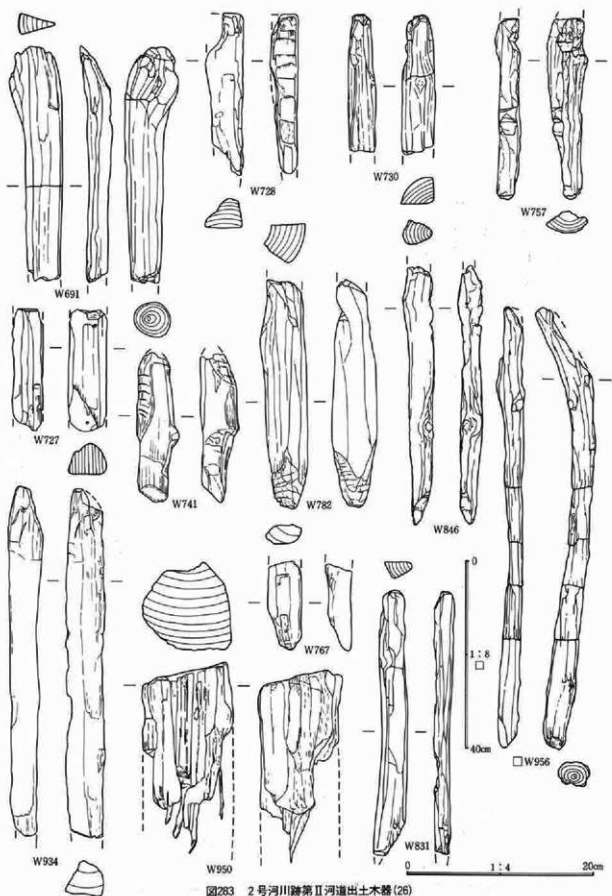


図283 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(26)

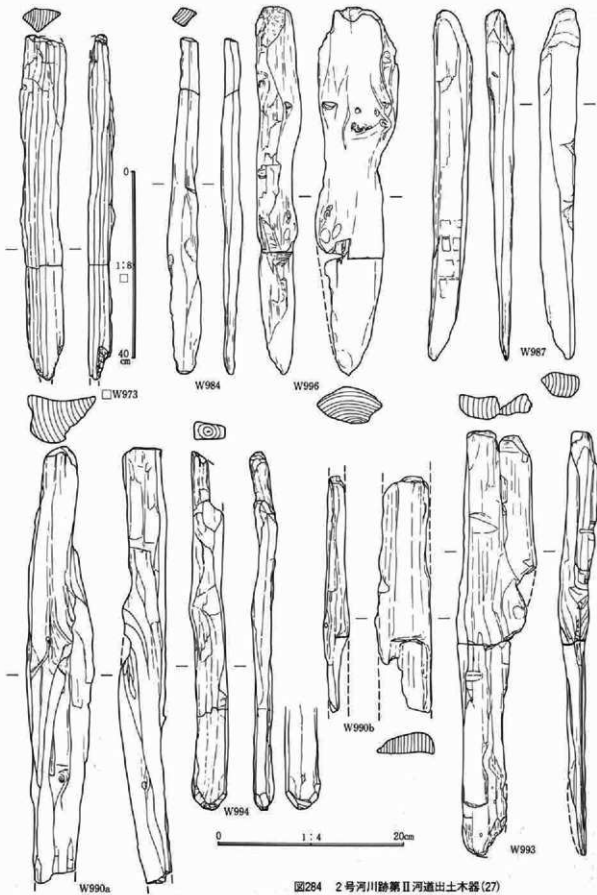


図284 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(27)

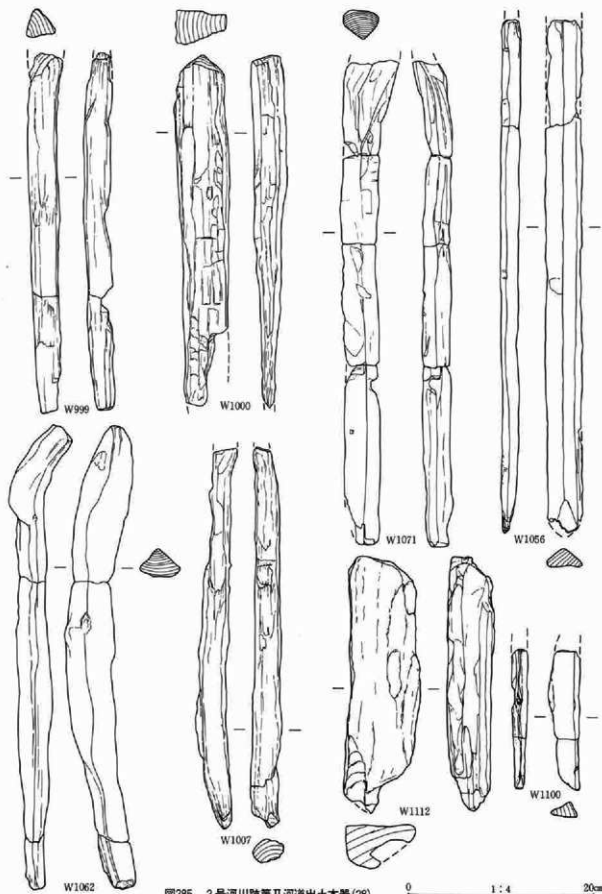


図285 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(28)

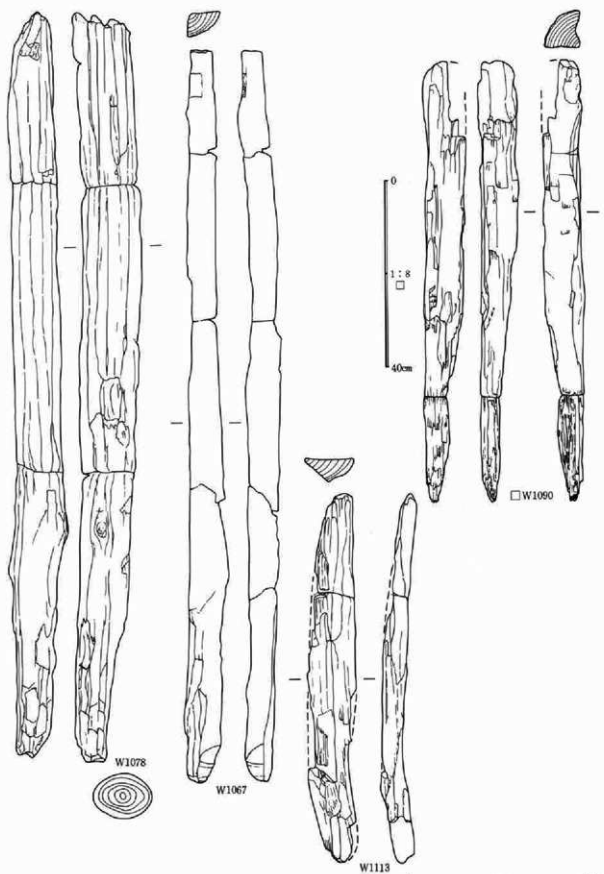


図286 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(29)

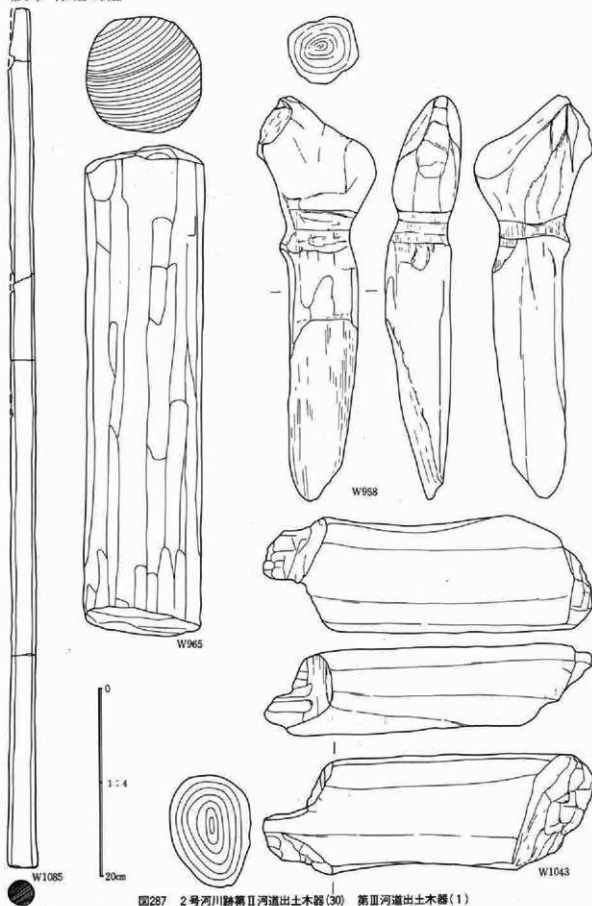


図287 2号河川跡第Ⅱ河道出土木器(30) 第Ⅲ河道出土木器(1)

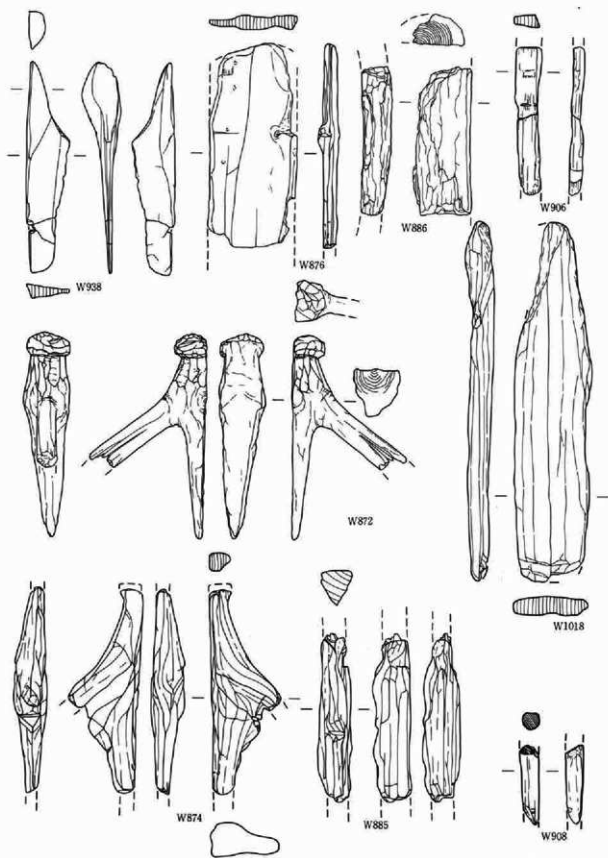


図288 2号河川跡第三河道出土木器(2)

0 1:4 20cm

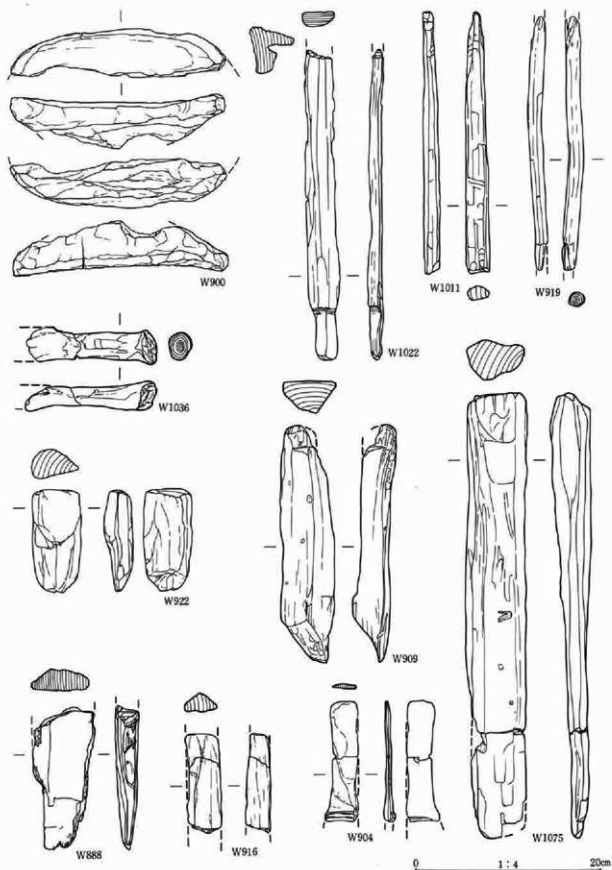


図289 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(3)

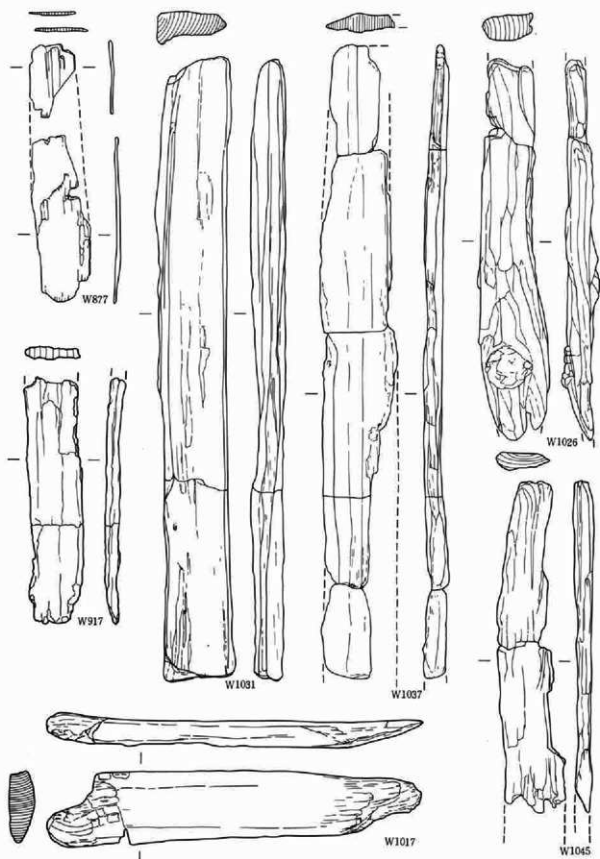


図290 2号河川跡第三河道出土木器(4)

0 1:4 20cm

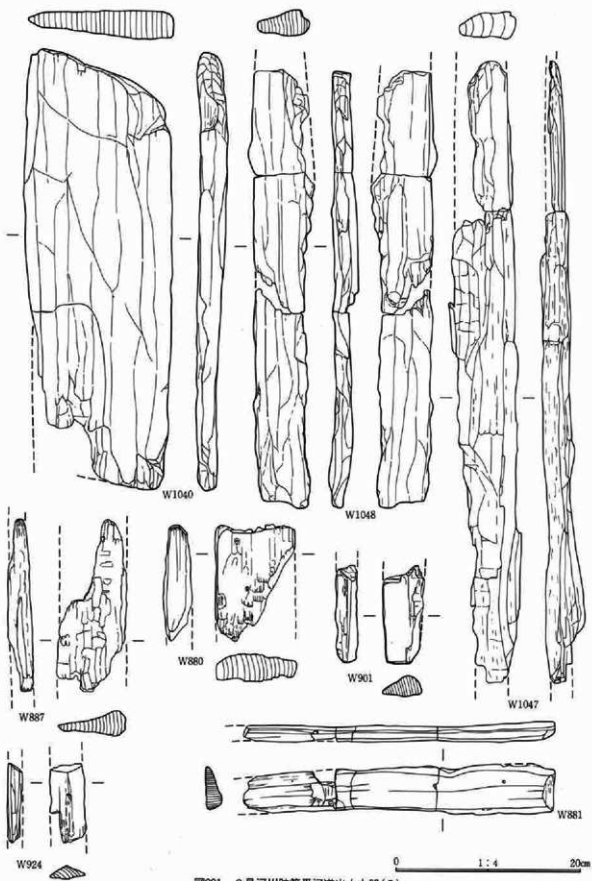


図291 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(5)

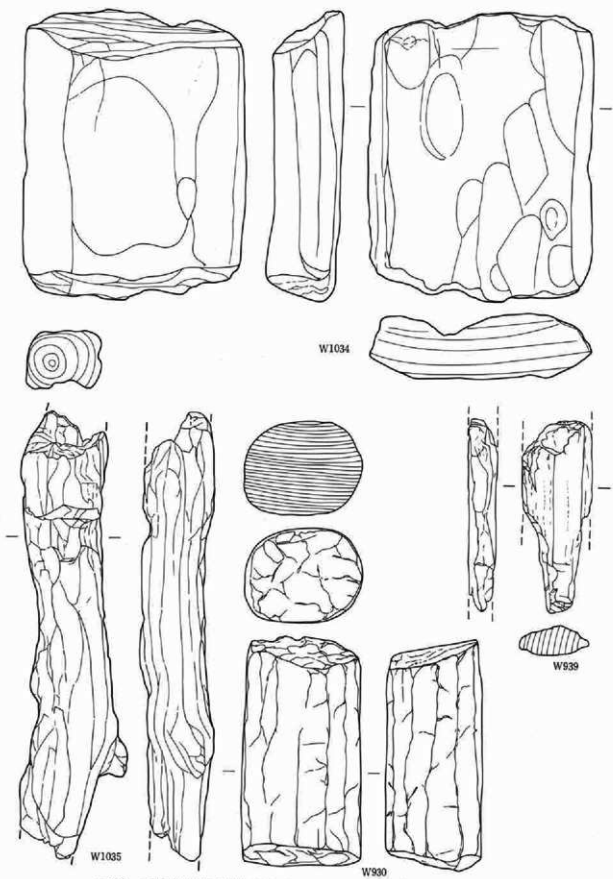


图292 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(6)

0 1:4 20cm

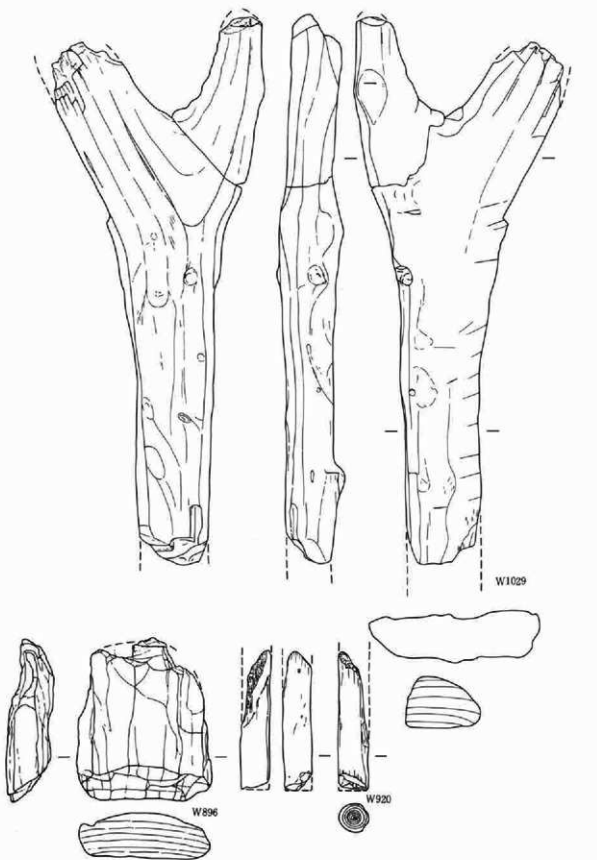


図293 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(7)

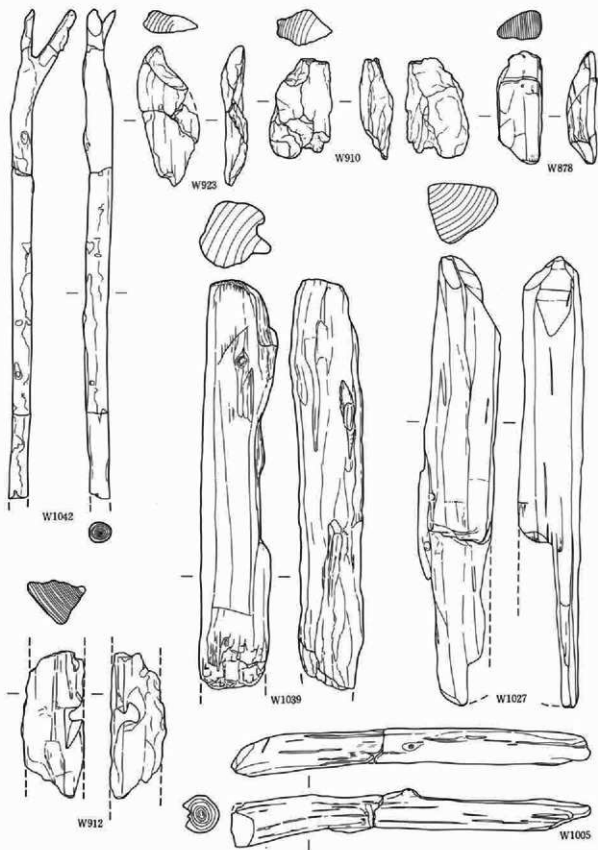


図294 2号河川跡第三河道出土木器(8)

0 1:4 20cm

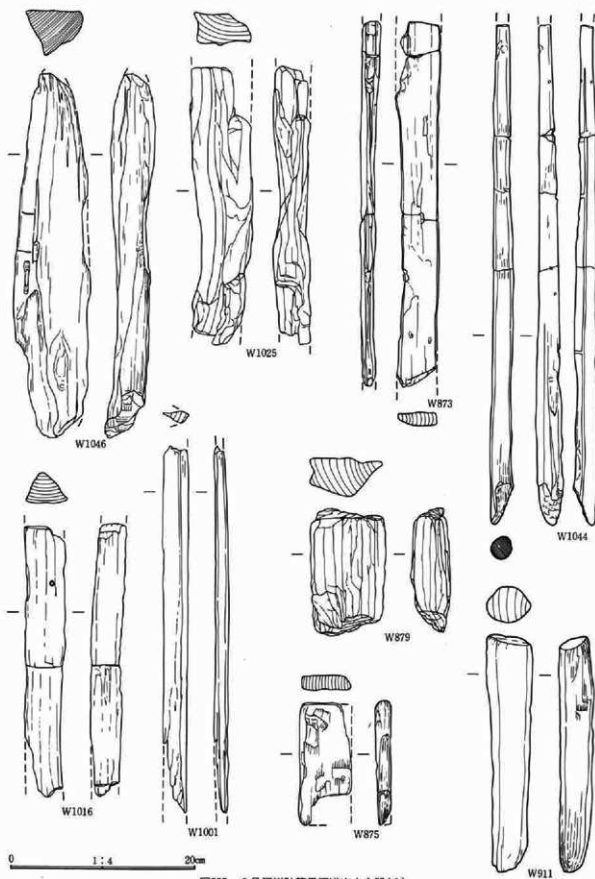


図295 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(9)

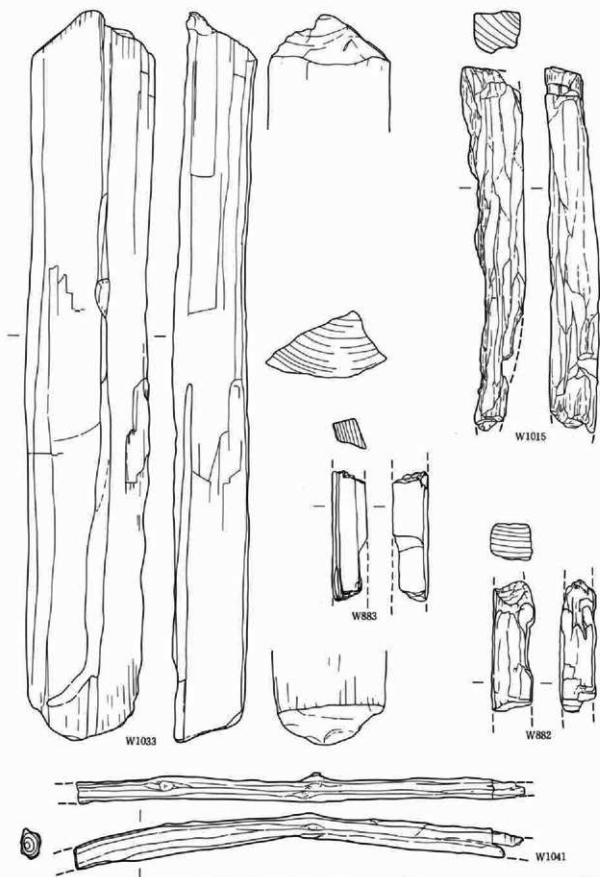


図296 2号河川跡第三河道出土木器(10)

0 1:4 20cm

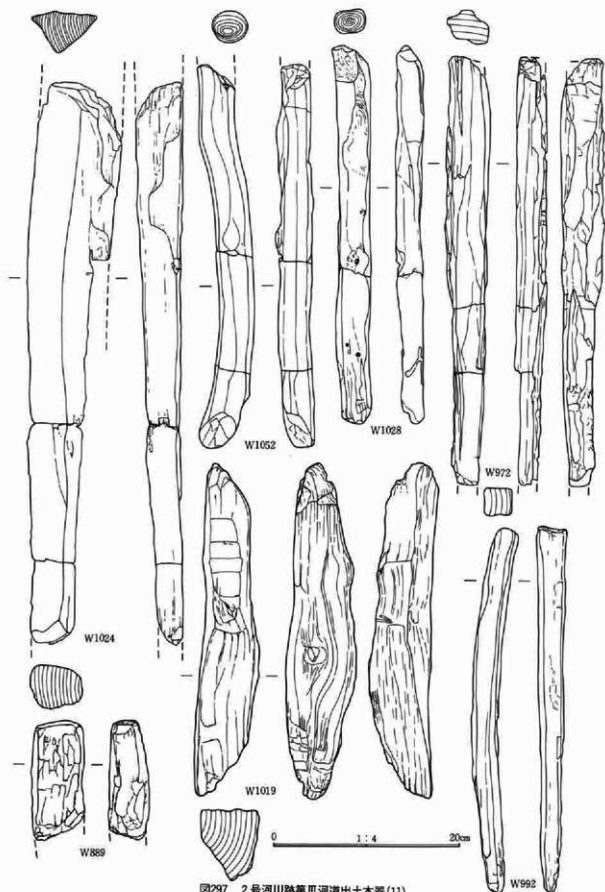


図297 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(11)

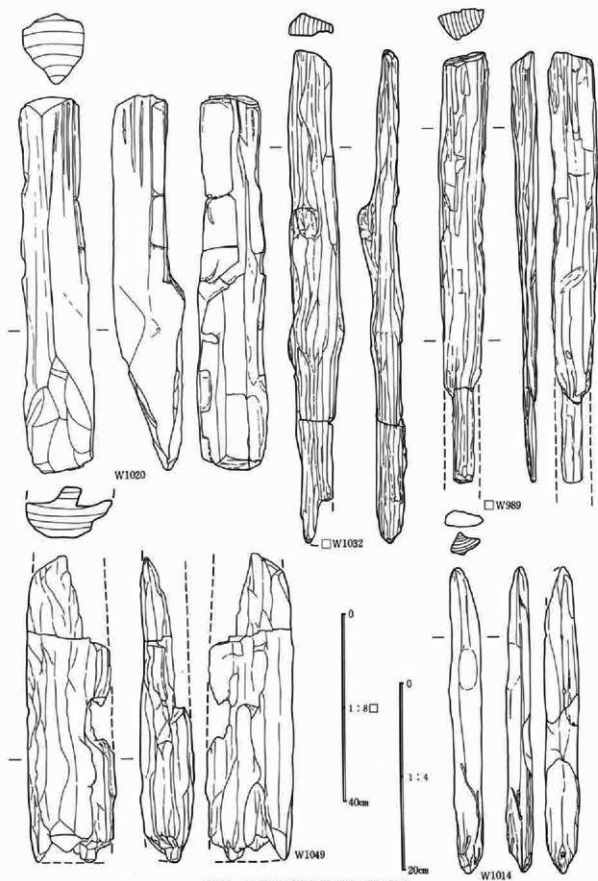


図298 2号河川跡第Ⅲ河道出土木器(12)

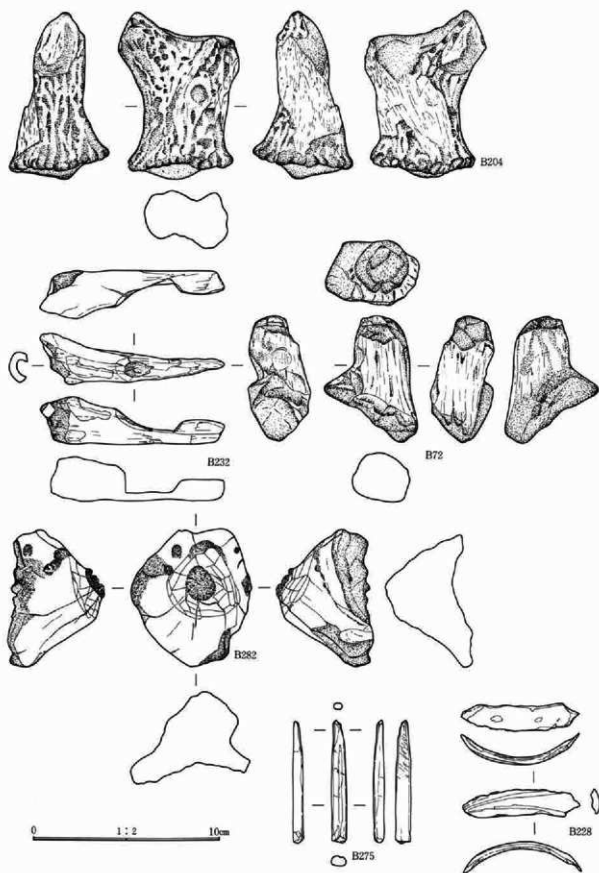


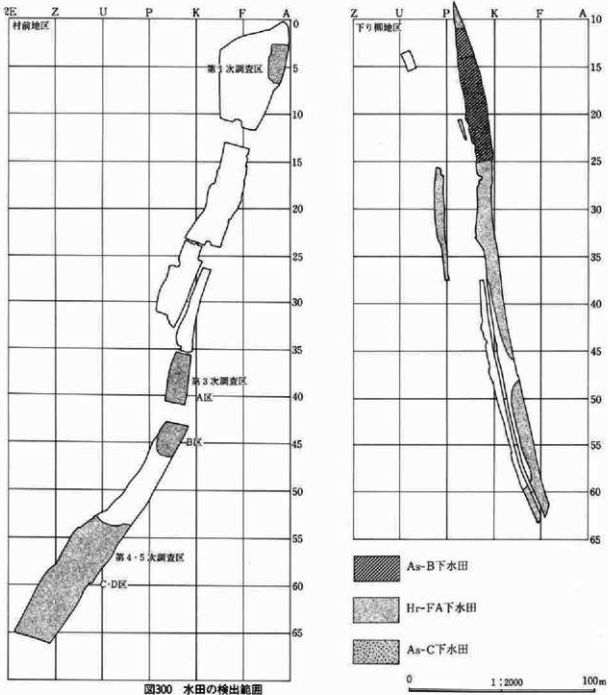
図299 2号河川跡出土の加工痕のある獣骨

第6章 水田の調査

1. 概 要

本道跡は各地点でテフラの堆積がみられ、テフラ

層下で水田遺構を検出することができた。高崎市周辺は榛名山や浅間山起源のテフラがよく保存されており、群馬県の埋没田畠調査の出発点となった地域



である。新保田中遺跡周辺でも日高遺跡や新保遺跡で水田跡が調査されている。

村前地区では3地点で、Hr-FA 層下の水田が検出された。これらの水田は降下 Hr-FA に直接覆われており、同時に存在したものと考えることができる。また、この Hr-FA に覆われた水田は約100mほど下流の地点にある新保遺跡でも検出されており、当時の稲作耕作地がかなり広範囲に広がっていたことを示している。

発掘区内の各地点の水田区画はそれぞれの地形によって異なっている。第1次・第3次調査区では、Hr-FA 下で2～4㎡ほどの小区画の水田が検出された。一方、第4・5次調査区では、2～4㎡ほどの小区画と、20㎡前後、40㎡前後のやや大きな区画の水田の三種の水田区画が併存していた。

これらの分布は下層の遺構の違いに可能性も考えられる。小区画の分布は下層の方形周溝墓群に一致しており、墳丘による傾斜地を開田するための工夫と考えられる。一方、大きな区画は島の広がっていた比較的平坦な地点を開田できたためといえるだろう。また、方形周溝墓群の南側には段があり、水田域造成の際の造作と考えられる。本地区においては開田や水田の区画が水田域の地形と大きく関係していることを理解することができる。

発掘区内では取水施設を確認することはできなかったが、第2次調査区で検出した24号溝は水田域の東側の高標高のところに位置しており、水田を埋めていたのと同じ Hr-FA で直接埋まっていたことから、水田用水の可能性は大きいと考えられる。溝の底面標高から C・D区に配水するものと考えられ、A・B区はより上流からの配水が必要となろう。

下り柳地区では As-B、Hr-FA、As-C の三枚のテフラが検出され、それぞれの直下から水田が検出された。As-B 下水田は発掘区の最北端で長方形区画の水田で10㎡前後が検出できた。面積が測定できたのは2面であり、詳細は不明であるが30～40㎡の区画をつくっているものと考えられる。水口は検出できなかった。

Hr-FA 下水田は発掘区のほぼ全域で水田区画が検出された。検出された水田面積は341面におよぶ。区画の面積は2～4㎡の小区画で等高線に直行する方向の帯状区画を小さく区切っていく方法でつくられた水田である。部分的に大きな区画と考えられる小区画水田群の縁を検出することができた。村前地区や新保遺跡の同時期の水田と総合的に分析していくことが今後可能である。

As-C 下水田は発掘区の北半を中心に検出された。残存状況はあまり良好でないが、29面の水田が調査された。11面の水田の面積が測り得たが、8～20㎡の区画である。

下り柳地区で調査された各水田とも、配水施設は検出できなかった。
(小島)

2. 村前地区の水田

Hr-FA 下水田 (第1次調査区)

付図6-1、図301・302、PL3-1

被覆層と水田の残存状況 Hr-FA によって埋没した水田址は、小区画の水田であり、1号溝と4号溝によって仕切られた調査区北東の約140㎡の範囲に、残存不良ものを含めて合計40面が検出された。水田の検出範囲は Hr-FA の分布範囲に限定されており、この地点での Hr-FA の層厚は3～5cmと薄いものの全水田面を覆っていた。地形的にみて、水田址は西側の低地には存在せず東および南側へ展開していると推定されるが、後世の遺構によって水田面が攪乱されていることや調査区域外であることなどによって確認できなかった。

水田域の地形 水田址は調査区の中で最も標高が高い地点に立地しているが、この地点は基盤層に更新世の前橋泥流や As-YP の堆積が認められる微高地状の台地である。その全体的な地形は、北側の96.15mを最高点として南側の96.00m地点へ向かって0.6%の極めて緩やかな勾配で傾斜している。

アゼの走向と区画 水田を区画するアゼには、作業道を兼ねるような大アゼはなく、すべてクロ的な小アゼのみである。各アゼの規模は下幅20～40cm、高

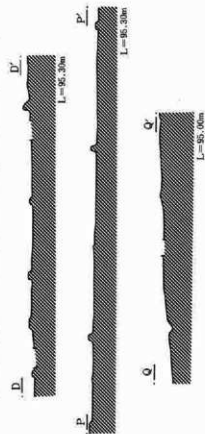
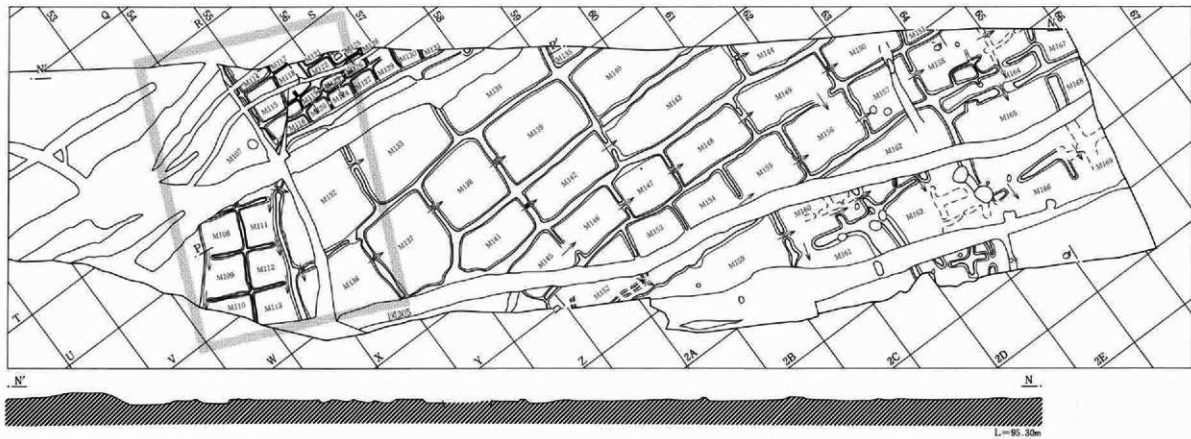
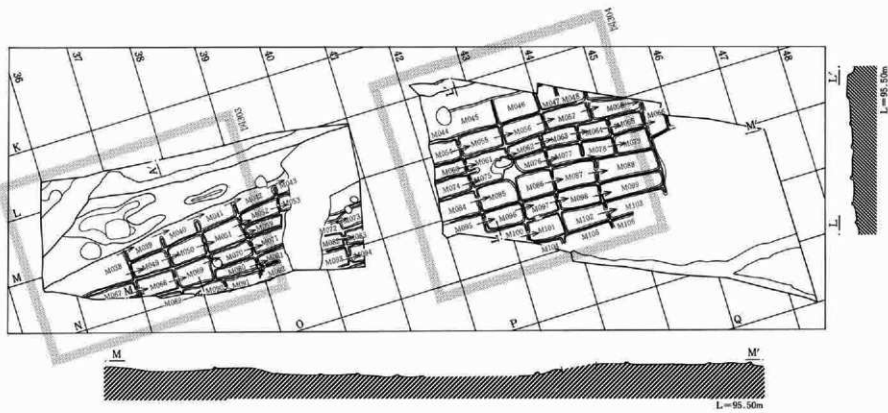
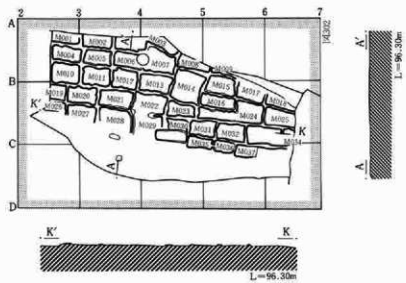


图301 村前地区 Hr-FA下水田

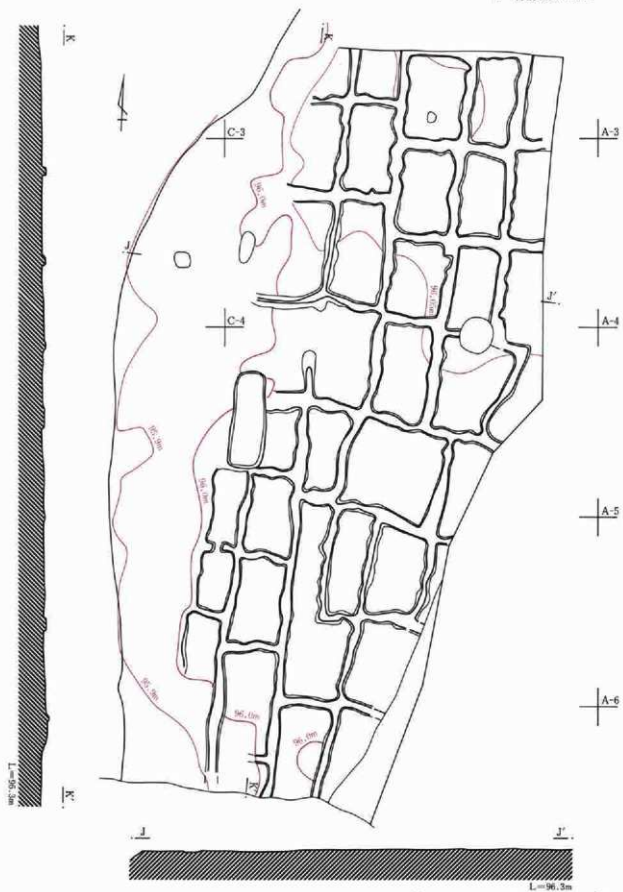


図302 村前第1次調査区 Hr-FA下水田

0 1:100 5m

さ2~4cmであり、土圧によると思われるアゼの偏平化が認められる。アゼの走向は、若干蛇行するものもあるが、東西および南北方向にほぼ直線的に走ることによって、長方形の小区画を形成している。両方向のアゼとも一区画内に止どまることなく、相互に連結して幾つかの区画にまたがって直線的に延びているものが多い。その中でもM019~025水田の西側の南北アゼは、各区画を貫いて直線的に走向しており、その走向方位はN-4°-Eである。各アゼの走向間隔は一定していないが、南北アゼは2~2.5m、東西アゼは1~1.5mの間隔で配されるものが多い。M003・006・012・021・028水田以北の区画は、甚整目状の整然とした区画となっているが、それ以南では区画がやや乱れている。

各小区画内には若干の凹凸がみられるが、その一区画内における高低差は1~2cmと小さく、ほとんど水平に近い平坦面である。また、隣接する小区画相互では、南北列の場合1~3cmの高低差が認められ、北から南方へと徐々に低くなるが、東西列ではほとんどその差が認められない。

水田面の面積 各小区画水田の面積は水田面積一覧表に示した通りであるが、アゼの残存状況が悪いために面積の判明するものは全体の約半数の22面である。M036水田の1.67㎡を最小としてM014水田の5.2㎡の最大のものまで様々な大きさが認められるが、全体的には2~3㎡のものが多数を占めている。M003~028水田列以北の各区画の面積は、前述した区画の状態を反映して相互に類似した規模である。

取配水の方法 小区画の各水田を灌溉するための用水路は、調査区内からは検出されていないため、具体的な取水方法については不明である。また、土圧によってアゼが偏平化しているために、各小区画には明瞭な水口をもつものがほとんど見当たらないが、M036水田の北側の東西アゼ中央部は20cmの幅で開放されており、これが水口と判断される。県内の同道遺跡や芦田貝戸遺跡などから検出されているHr-FA下の小区画水田では、いずれも各小区画の短辺にM036水田と同様の水口が設置されており、

各列単位に上方からかけ流して配水している。この配水のあり方を参考にすれば、当遺跡でも同様に各区画の短辺の東西アゼを一部切って水口を設け、各南北列単位に北方から水をかけ流したと考えられる。

耕作土 水田の耕作土は黒色土であるが、下層に堆積したAs-Cの軽石を総て働き込んでいるために、極めて透水性の良い砂質土となっている。耕作土の下位にはマンガンや鉄分などの沈着が認められる。
その他の特殊遺構 水田には人の足跡と思われる多くの凹凸が認められるが、残存状況が悪いためにその形質的な特徴や歩行状態などは不明である。
出土遺物 種子や木製品をはじめ土器等の遺物は、何等検出されなかった。(石坂)

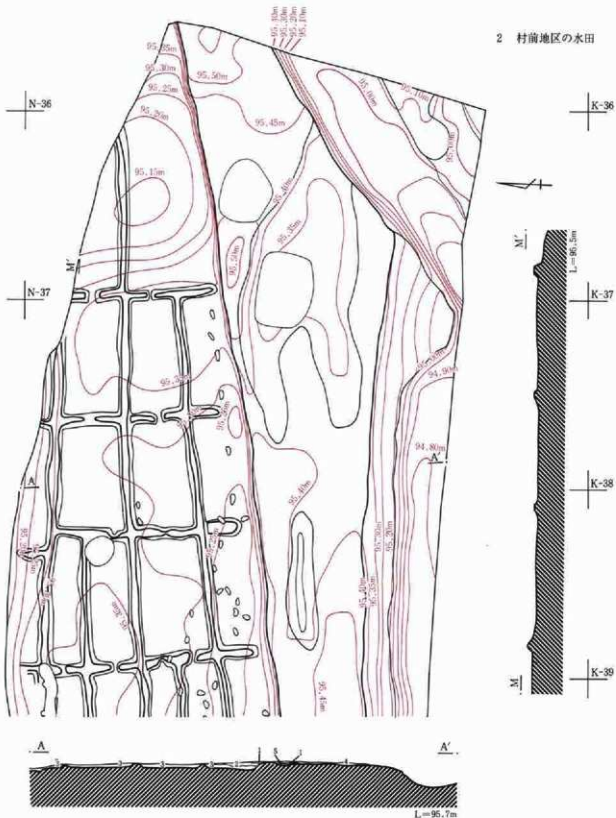
Hr-FA下水田 (第3次調査A・B区)

付図6-3-4、図301・303・304、PL53-1~4、PL54-1

被覆層と水田の残存状況 水田はL~N-36~46グリッドで検出された。39ラインから42ラインの間は、攪乱や道路により破壊されており、検出できていない。水田は、厚さ1~2cmの降下Hr-FAに直接覆われており、Hr-FAの上層には噴火にともなう洪水によるとみられる火砕流二次堆積物が1mほど積もっている。

水田面の残存状況は比較的良好で、アゼも5~10cmの高さで確認することができた。46ライン以南にはHr-FAの堆積は残っていたが、アゼ等の確認はできなかった。また、44~46ライン間のOラインを境に調査年度が異なってしまったために、アゼの検出が途切れる結果となった。Oライン以西でもHr-FAは堆積していたが、アゼを示すような高まりは検出できなかった。

水田域の地形 水田が確認できた地点は、現染谷川左岸で、東が高く、西に低くなっている。その比高は平均5~10cm前後であるが、N-40杭付近では35cmにも及ぶ。この水田域の凹凸は、本地点では下位遺構が大きく影響していると考えられる。下位には前方後方形周溝墓を含む方形周溝墓群があり、その低墳丘を如実に示す等高線が水田面に良く表れて



- 1層 灰褐色土 直径1mm未満の白色軽石を少量含む。粘性がある。しまりは良い。
- 2層 青灰色砂層 標名山起源の軽石が集中する部分認められる。基本的に、非常に細かい砂で構成されるが、さらに細かい砂も含まれる。標名山起源の軽石は直径1-2mm程度のものが多いが、直径3cm程の大きなものも認められる。しまりは良い。
- 3層 若干黄色味を帯びる青灰色砂層(Hr-FA)と思われるが、たかし小礫のため、全体が茶褐色を呈する。しまりは良い。何層かのラミナが認められる。茶褐色を呈する砂の層が薄薄く(厚さ2-3cm)、3-4層入る所もある。
- 4層 灰褐色砂質層(Hr-FA)やや粘性のある黄褐色土ブロックを含む。
- 5層 黄白色シルト質層(Hr-FA) 単一的。

図303 村前第3次調査A区 Hr-FA下水路と水田

0 1:100 5m

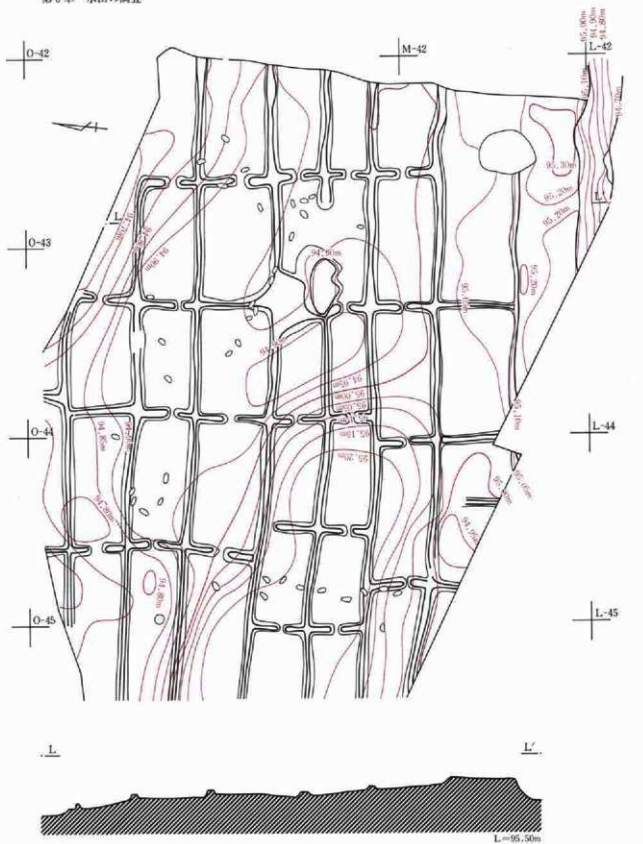


図304 村前第3次調査B区 Hr-FA下水田 畠状のアゼと水口の列

いる。46ライン以南には特にその凹凸が激しく、木製品が多量に出土した77号溝の帯状の凹地もある。調査でも明確にアゼを確認できなかったこの地点は開田されていなかった可能性が高いと考えられる。46ライン以北についてはアゼが確認でき、水田化されていたことは確実であるが、土圧による圧縮が当時よりは進行していると考えられるので、当時は現況より平坦であったと推定される。

アゼの走向と区画 本地点では大アゼは検出されていない。24号溝に沿った幅1.5mほどの帯状の部分がアゼとも考えられるが、後述するように水田一区画の東縁に施設された水路にともなう道と考えたい。小アゼはほぼ南北方向に直線的に縦アゼがつくられ、それを長方形に区切るように東西方向に横アゼがつくられている。傾斜に沿った帯状区画を小さく区切っていくいわゆる「開田型小区画」である。

調査区北端では縦アゼに区切られた4列の帯状区画が検出されたが、39ラインで東から二つ目の帯状区画が2列になり区画が増やされている。この増やされた2列の区画は、44ライン以南では、両側の帯状区画が3-4mで区切られているのに対して、より小さく2.5m前後で区切られている。8号前方後方形周溝墓が下位にある地点であり、その墳丘によって生じた傾斜地を開田するために周辺よりさらに小区画にされたものと考えられる。

水田面の面積 水田面の面積は全形がわかるものが少ないので計測データは多くない。データにもややばらつきがある。最も小さいのはM059水田で1,888㎡、最も大きいのはM088水田で7,552㎡である。いずれも先述した区画の変化が大きくなる地点のデータである。最も多いのは3-6㎡前後のもので開田型小区画のなかでは平均的な大きさである。

取配水の方法 調査では水田への取水の施設は検出されていない。第2次調査区の水田直下面と連続させてみると、本水田面の北方で24号溝が大きく西に蛇行している。(付図5-1・2)この位置関係からして本地点の水田には24号溝から取水していた可能性が高い。24号溝は古墳時代前期から継続し

ている溝でHr-FA直下も深さ0.5mほどの溝として機能していた。本地点の水田の区画とも走向は一致しており、水田と同時にあった遺構と考えられる。

水田区画の小アゼのうち、帯状区画を区切る横アゼにはほぼ中央に途切れた部分があり、水口と考えられる。水田面の標高は前述したように北が高く、取水された水は帯状区画ごとに水口を通過して懸け流され、南へと配水されたのであろう。

耕作土 水田の耕作土はAs-C粒を多く含む黒色粘質土である。As-Cは土壌のなかに混在する状態で、村前地区のいずれの地点でも純堆積層は検出されていない。

その他の特殊遺構 水田域の東側には24号溝があり、水路と考えられることは前述したが、この水路沿いに道と考えられる部分が検出された。幅1.5-3.5mで、やや蒲鉾状に高まっている。大アゼといわれているものよりはやや規模が大きい。中央部は帯状に凹んでいる部分があり、上面は比較的固くしまっている。時期は下るが、天明3年のAs-Aに埋まった渋川市中村遺跡で検出された田畠の間の水路沿いの道に似た景観を思わせる。

M-43グリッドに鳥状のアゼが検出されている。**出土遺物** 水田に伴うと考えられる遺物は出土していない。(小島)

Hr-FA 下水田

(第3次調査C・D区、第4次調査区)

付図6-4-5, B0301-305, PL54-2, PL55

被覆層と水田の残存状況 R-2C-53-65グリッドで検出された。水田は厚さ1-2cmの降下Hr-FAに直接覆われており、Hr-FAの上層には、噴火にともなう洪水によるとみられる火砕流二次堆積物が60cmほど積もっていた。

水田面の残存状況は比較的良好で、アゼも鮮明に確認することができた。アゼの高さは54ライン以南、Tライン以西の大区画では15-20cm、54ラインにかかる大アゼ以北の小区画では3-5cm、Tライン以东の小区画では5-10cmである。R-54グリッドと

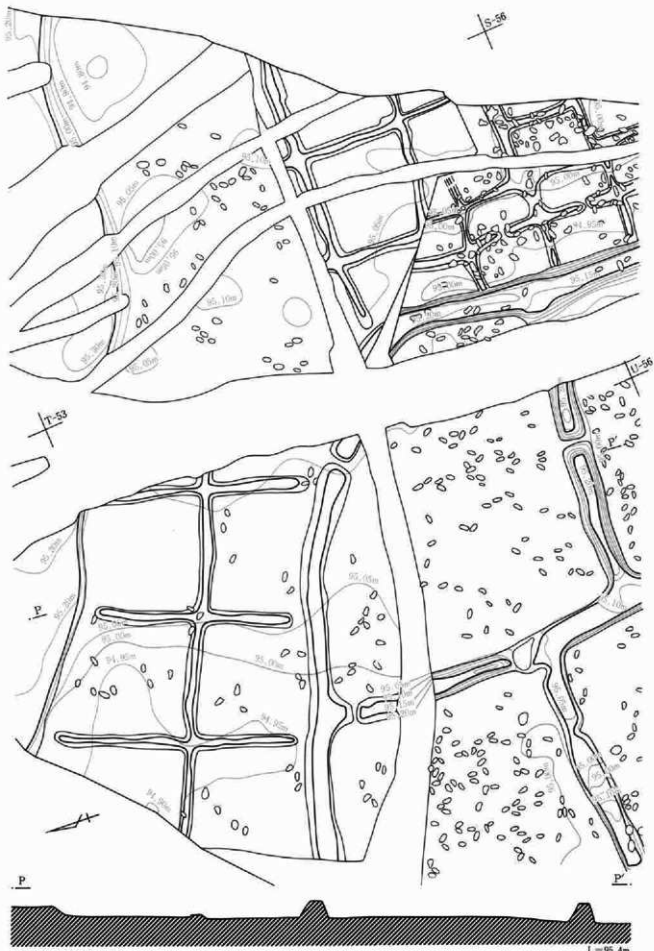


図305 村前第3・4次調査区 Hr-FA下水田の造成

0 1:100 5m

U-53グリッドを結ぶライン以北でもHr-FAは堆積していたが、アゼを示すような高まりは検出できなかった。そのラインを境に北側が一段高くなっており、南側は一段低い水田域となっている。この段は高さが20~30cm、勾配が40°であるが、水田域がそれ以北には続かないことから、段の南側では人為的に水田域の造成を行った可能性が高いものである。

水田域の地形 水田が確認できた地点は現象谷川左岸で、東が高く、西に低くなっている。南に行くに従ってその傾向が強くなる。比高差は最も大きいところで1.25mにも及ぶ。Zライン以西ではアゼの区画が明瞭ではなく、地形も不規則な凹凸が多くなる。これは土圧による変形が当時よりかなり進行した結果と思われる。当時は現況より、アゼもすっかりし、地形も平坦であったと推定される。またR・S-54グリッドでは下位にある6号方形周溝墓西・南周溝が大きく影響して、水田面の凹凸が激しくなっている。この部分に関してはアゼが検出できず、開田されていなかった可能性もある。

アゼの走向と区画 本地点では水田の地割りと考えられる大アゼが検出された。さらに、その両側の区画では小アゼによる水田区画の様相が異なっていた。

大アゼは上幅40~60cm、下幅70~80cm、高さは25cmで残存していた。この大アゼはTラインよりやや西に南北方向につくられ、T-55杭周辺で西へ湾曲し、それより南西の部分と北東の部分に地割りにしているものと考えられる。54ラインにかかる大アゼ以北では東西方向に直線的に縦アゼが造られ、それを南北方向に、ほぼ正方形に区切るように横アゼが造られている。しかし56号溝以東では1.5~2.0mの小区画水田になっている。東に高い傾斜地を、効率的に開田するための小区画と考えられる。あるいは6号方形周溝墓の南東に連続して、方形周溝墓の存在も考えられ、これによる微高地を開田するための小区画の可能性もあろう。

なお、R-T-54・55グリッドの三角形の発掘区

は、河川改修工事の進捗状況にともなって先行調査を実施した部分であり、次年度調査した水田面の様相と異なる結果となっている。ここでも東西方向に直線的に縦アゼが造られ、それを長方形に区切るように南北方向に横アゼが造られている。

前述した大アゼの南西側には20~40mの大きい区画の水田が認められた。これは水田域の地形が、開田以前は平坦な緩い傾斜の高地として利用されていたため小区画にするほどの傾斜地でなかったことが原因と考えられる。水田区画の形態差が、地形に即した開田技術を反映していることがわかる。区画内の小アゼが直線的・方形区画を基本としていることは小区画と同様である。アゼはほぼ南北方向に直線的に縦アゼが造られ、それを長方形に区切るように東西方向に横アゼが造られている。一部南北方向に切れる部分もあるが、土圧による変形と思われる。大区画の中の水田は、より大きなものは細長い長方形を呈し、小さなものは正方形に近い形となっている。これは縦アゼで区切られた帯状区画内、湛水可能な範囲で小アゼを設けた結果であろう。

水田面の面積 水田面の面積は、54ラインにかかる大アゼ以北、56号溝以西の区画では6.5~9.3m²である。大アゼ以東の小区画では1.1~2.5m²と小さくなっている。大アゼ南西の大区画では15~40m²であり、ばらつきがある。

取配水の方法 調査では、水田への取水の施設は検出されていない。しかし、北方で検出された24号溝が真すぐに調査区の東側を延びるものとするれば、水田の区画ともほぼ一致し、北側の水田同様、24号溝から取水していた可能性があることが推定できる。

大アゼ北の小区画では、帯状区画を区切る横アゼの端に途切れた部分があり、水口と考えられる。水田面の標高は東が高く、取水された水は帯状区画ごとに水口を通過して懸け流され、東から西へと配水されていると考えられる。M107水田ではアゼは検出できなかったが、下位のM108~113水田が見つかられていることから、開田されていなかったとは考え

く。小アゼがつくられる以前で火山災害を受けたとも考えられる。この用水系の水は、M111水田の南東にある大アゼの水口から南へ配水されたものと思われる。大アゼ以東の小区画では、東西方向のアゼの中央に途切れた部分があり、水口と考えられる。

水口はすべての水田区画で検出されていないが、長辺のほぼ中央に付設されており、西から東へ等高線に沿った方向に配水されている。大アゼにつきあつた水は、M116→M120→M124→M127→M129→M130の順に、南へ排配水されるものと考えられる。

大アゼ以南の大区画ではM132水田の北側のアゼの途中に途切れた部分があり、水口と考えられる。

帯状区画内には、区画を区切る東西方向の小アゼの中央に途切れた部分があり、水口となっている。またM132水田に取水された水はM136水田へ入れられる。北側の小区画との境の大アゼ沿いに水口が設置され、帯状区画の最も高位にある水田の東側から西側へと懸け流し、さらに帯状区画ごとに北側から南側へと配水されているものと思われる。M159～M167水田はそれ以東の水系とやや異なり、南北方向の小アゼにも水口があり、南から北へ、東から西へという2系統の配水系統が共存している。

耕作土 水田の耕作土はAs-Cを含む黒色～黒褐色の粘性土である。As-Cは土壌の中に混在する状態で検出されたものであり、純堆積層は認められなかった。下位にはAs-Cを大量に含む畝間遺構が検出されている。

その他の特殊遺構 M107水田の区画は他の部分とのつながりを考えると、小アゼの小区画となっている部分であるが、明瞭な形のアゼは検出されなかった。この区画の北西隅には、南と西の水田への水口が設置されており、この区画の東側に水路からの取水施設があることが推定できる。

大区画水田の大アゼの上は、かなり押し潰されたような状態で検出された。特に西側の部分ではそれが顕著であった。それは土圧で押し潰されているのと同時に、その上をかなり人間が歩いたことを想像

させる潰れ方であり、アゼの中央が浅い皿状に凹んでいた。

染谷川沿いの南西部では、アゼの区画のラインにうまのらない部分にも細長い畝状の高まりが検出されているが、土圧により変形されたアゼの名残りか、全く別の施設なのかは今後の検討を要する。

出土遺物 水田に伴うと考えられる遺物は出土していない。(松村)

3. 下り柳地区の水田

As-B 下水田 (第5次調査区)

付図8-1・2, 図306-309, PL56

被覆層と水田の残存状況 J-22・23グリッド、K-16～23グリッド、L-13～23グリッド、M-10～23グリッド、N-8～16グリッドにおいて検出された。現染谷川の左岸に当たり、河川に接して数年前まで養魚施設があり、大きく削平されているため、河川寄りには破壊されている。As-Bは水田面を直接覆っている。

水田面の残存状況は北側では比較的良好であり、アゼの高さは約5cmである。南側は土壌の色合いから、アゼの跡を推定できる。23ライン付近から南側では、アゼや水田跡の検出はできなかった。

水田域の地形 水田の確認ができた地点は現染谷川左岸で、北から南に低くなっている。図309において、等高線から読み取れる水田地形は、約10m間隔で南北間が5cmの比高差がある。現地形と同様、当時の水田面も平坦であったことが窺える。

アゼの走向と区画 本地点では、アゼの方向はほぼ東西と南北に走向をもつ。水田面はS001～013水田までの13枚が検出されているが、S001水田については上面で確認された畝との関係から、水田面がS003水田とは多少異なった感じを受けた。S001～004水田までは南北方向のアゼが確認できないため、区画が不明である。全体の形状が残る水田はS008～010水田の3枚である。区画形状は南北に長い長方形である。区画はS001～004水田までは南北アゼ

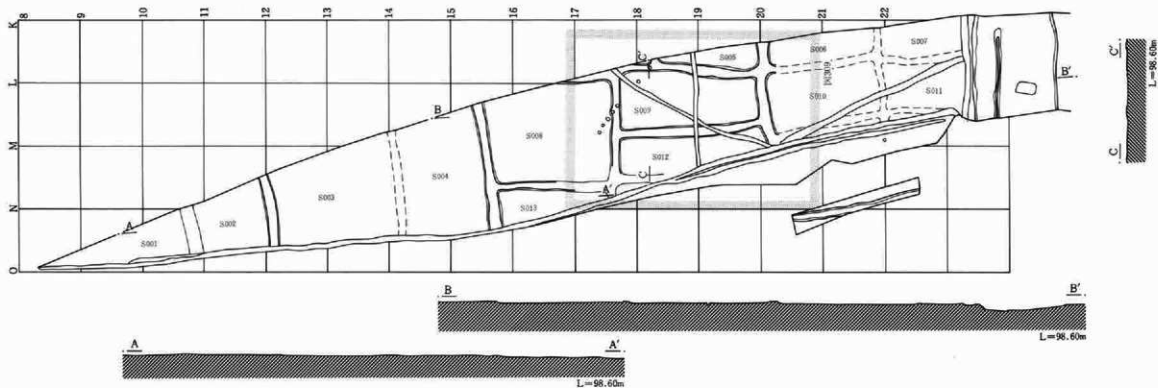


図306 下り瀬地区のAs-B下水田

0 1:300 10m

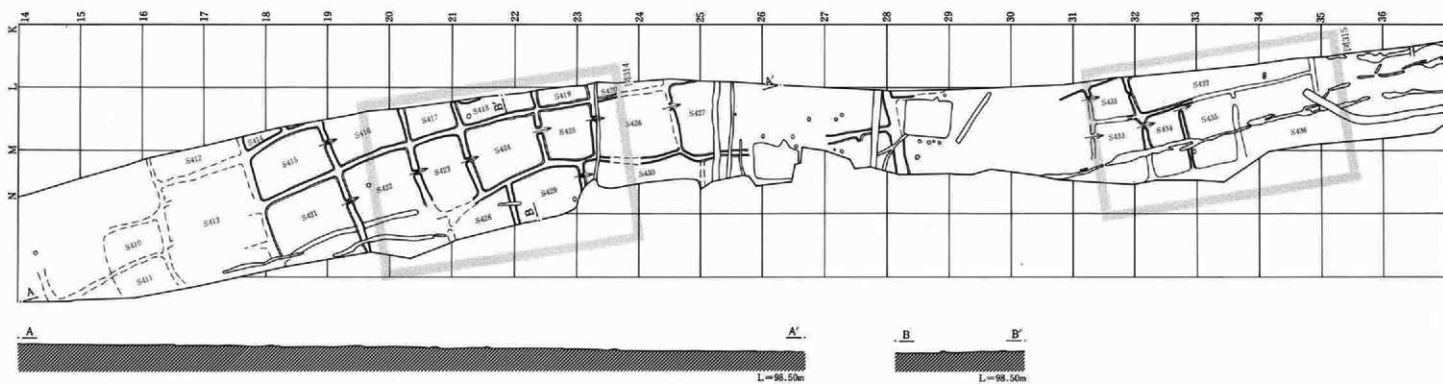
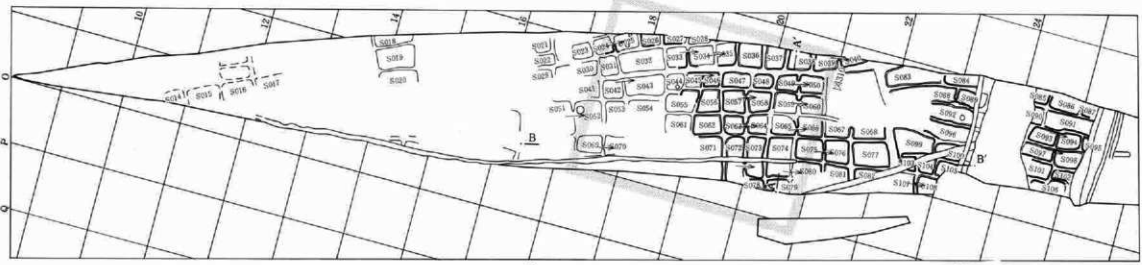


図307 下り瀬地区As-CF下水田

0 1:300 10m

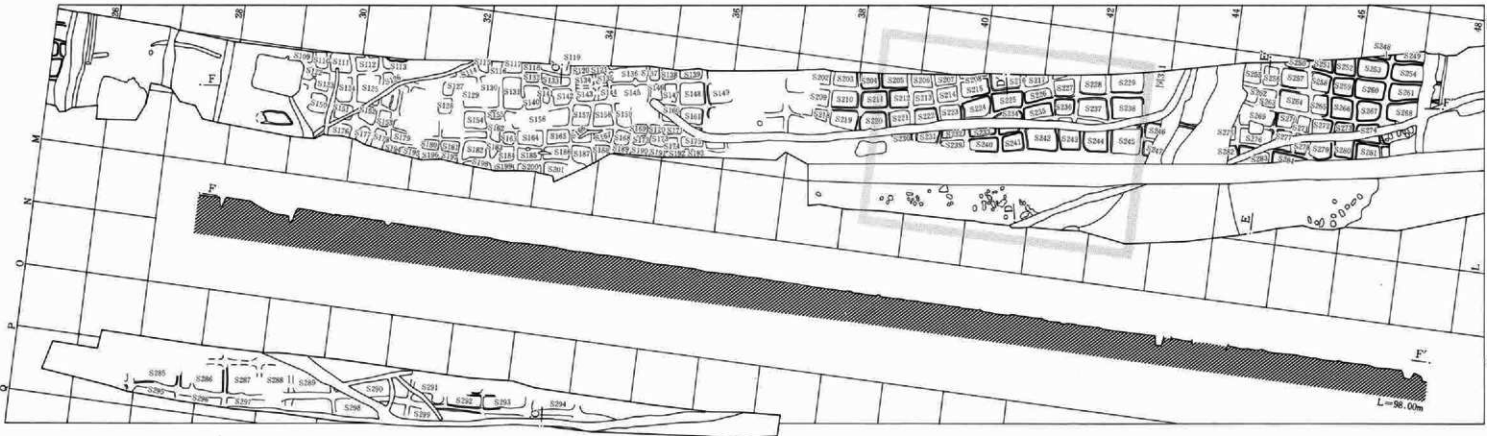


B B'

L=98.50m

A A'

L=98.50m



C C'

D D'

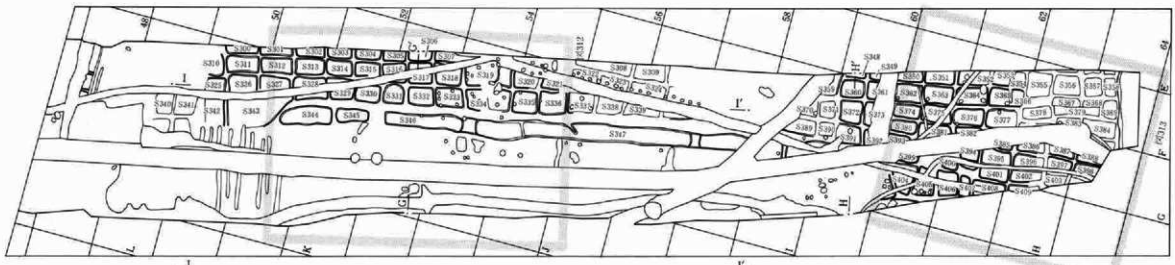
L=98.00m

C C'

L=98.00m

D D'

L=98.00m



G G'

H H'

L=98.00m

G G'

L=98.00m

H H'

L=98.00m

図306 下り柳地区のHr-FA層下水田

0 1:300 10m

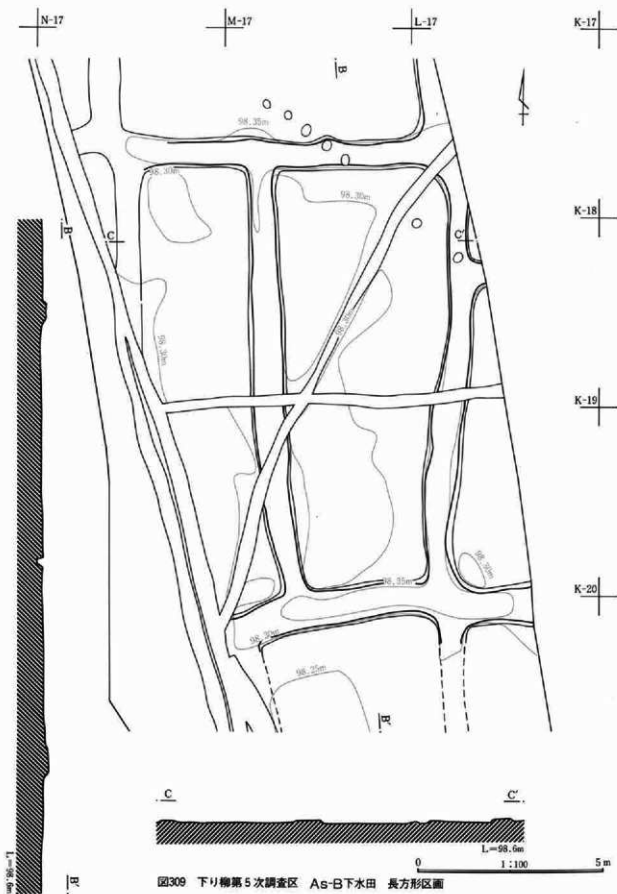


図309 下り柳第5次調査区 As-B下水田 長方形区画

の関係が不明であり、S008水田とS013水田の南北区画と、S009-012水田の北側東アゼから南側の水田区画は徐々に統一のとれたアゼ構成がとられるようになるが、部分的にわずかに南北アゼがずれる部分があり、地形の制約を受けている可能性がある。

水田面の面積 水田面の面積は全形のわかるものが限られており、計測できる水田は3枚である。測定できる範囲で、S008水田は75.038㎡と大きいのが、S010水田は37.152㎡で小さい。当地区の水田の平均的な面積を算出すべきであろうが、平均化された水田検出でない状況から、取って避けておき、別表の測定値までにとどめておく。

取配水の方法 水口検出には時間と注意を払ったが検出できず、具体的な取配水の位置の確認が不可能であった。図309によると、等高線の在り方から、北から南に向けて低くなる。東西方向は、取配水の流れをデータからとらえることはできなかった。

耕作土 水田の耕作土はAs-Cをわずかに含む黒色粘性土であった。As-Cはまばらな入り方をしており、周辺からも純層は未検出であった。

出土遺物 なし。(相京)

Hr-FA 下水田(第4次調査区)

付図9-1-4, 図306-313, PL57-1-4, PL58-1-3

被覆層と水田の残存状況 K・L-25-29グリッドの間だけが微高地のためか確認されなかったが、それ以外のほぼ下り柳地区の調査範囲の大部分で検出された。水田は、現在の染谷川の左岸を主体に、右岸北側のP・Q-26-34グリッドと、南側のK-53・57・63グリッド付近でも検出されている。水田面は厚さ約10cmの降下Hr-FAに直接覆われている。水田の残存状況は比較的良好で、アゼも約5cm前後の高さで確認された。だが、調査区域の北部分のL-O-11-17グリッドやK・L-36-38グリッド、さらにF・G-56-59グリッドのそれぞれの周辺でのアゼの検出状態は良好でない。さらにJ-50グリッド付近で検出されたHr-FA下畠とその南側部分には水田区画は認められなかった。

水田城の地形 本水田城北から南に向けて、緩やか

に傾斜している微地形を利用して開田している。残存状況でも述べたように、水田区画が認められなかった微高地の部分がある。

アゼの走向と区画 本水田は前述したように、ほぼ調査区全域から水田区域が検出されているが、アゼ等の諸施設は一律ではないので、K-25・26グリッドの32号溝より北を北区、20mほどのアゼ未検出地区において、29ラインから47ラインまでを中央区、48ライン以南を南区として後述したい。

北区では、2本の大アゼが東西方向と南北方向が調査区域の東端で直交する形で検出されている。大アゼで区切られたそれぞれの区画の中は、それぞれに帯状の区画がつくれ、配水を効率的に行う為の小アゼがつくられている。小アゼはほぼ南北方向に直線的に縦アゼが、それを長方形に区切るように東西方向に横アゼがつくれ、小区画水田となっている。北区南縁の31-33号溝は、埋没土最上層にHr-FA層が確認されており、水田と共に機能した溝ではない。しかし、これより20mほど南の区域は、若干の微高地となっており、水田が検出されなかった。したがって、これらの溝は微地形を区切っており、水田城を区画する意味で掘られていたものとも考えられる。

中央区では、36ラインの北と南でやや様相を異にする。36ライン以北では発掘区西端までアゼが確認され、現染谷川右岸にも、やや区画が左岸より大きくなっている水田区画が検出された。これに対して36ライン以南では、発掘区西半にHr-FAが確認されたにもかかわらず、水田区画を検出することができなかった。この西半の区画はやや東側より高くなっており、いくつかのビットが検出されている。したがって36ライン以南は、大きな水田区画の西縁が検出されたものと考えられる。この縁辺では特別の施設はなく、一般に小区画の帯状区画が途切れている。境界の36ライン付近はアゼの残存状態が良好でないが、36ラインの以北と以南では、小アゼによる帯状区画の方向が異なっており、大アゼの存在も考えられる。中央区の南端は、47ラインから南へ2m



図310 下り柳第4次調査区 Hr-FA下水田 大アゼと小区画



図311 下り柳第4次調査区 Hr-FA下水田 水田区画の西縁

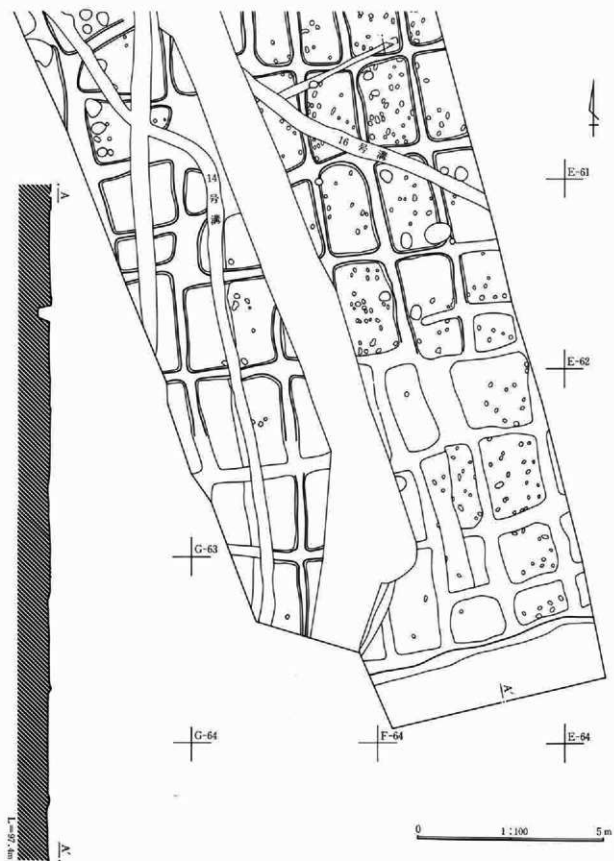


図313 下り柳地区 Hr-FAT水田 南端

の地点で、小横アゼによって小区画が途切れており、一水田区画の南端と考えられる。

南区は、中央区の西縁が延長する形で、東半部分に小区画水田が検出された。その西縁には幅0.8～1mほどの大アゼがつくられ、明確に区画を把握することができる。大アゼの東側の水田区画内は、北区・中央区と同様に南北方向の小アゼによって帯状区画がつくられ、その中は東西方向の小アゼで長方形に区画されている。大アゼの西側は、帯状区画が1本だけつくられている(S344～S347水田)。さらに新しい西側区画内の小区画を開始した段階とも考えられるが、Hr-FA直下の南区西半は、やや微高地状になっており、これから水田小区画をつくるには、凹凸が著しい。また、I・J-50・51グリッドでは、Hr-FA直下で畝の畝間が検出されており、シロカキヤクロつくりの段階の水田面とは考えにくい。南区南端では、水田小区画の横アゼに沿って、高さ15cmほどの段ができており、水田城南端と考えられる。

水田面の面積 水田面の面積は全形がわかるものが少ないために、面積一覧表に示されているように計測データは少なく、データにもばらつきがある。計測不可能な水田面を除いて、最小面積はS141水田の0.544㎡、最大面積はS032水田の5.6㎡である。

取配水方法 帯状区画を横に区切る東西小アゼのほぼ中央部分にアゼの切れる部分が検出されており、水口と考えられる。これは北から南に向けて傾斜する微地形を利用する形で、取配水をおこなっている。これらの水田に水を送る用水路は検出されていない。発掘区東方に用水路の存在が想定される。

耕作土 As-Cを含む黒色土である。

その他の特殊遺構 人間の足跡と考えられる小さな窪みが、Hr-FAが埋没する形で多数が水田面から検出された。

出土遺物 なし。(麻生)

As-C下水田(第4次調査区)

付図10-1・2、図307・314・315、PL58-4、PL59-1-3

被覆層と水田の残存状況 J-30～34グリッド、K・L-16～25・31～34グリッド、M-15～22グリッド、N-15～17グリッドにおいて検出された。As-Cは水田面を直接覆っている。水田の検出地点は、このAs-C層が確認できる調査区域の北側に偏っている。また水田の検出地点は、現染谷川の左岸に当たり、河川に接して数年前まで養魚施設があり、大きく削平されているため、河川寄りには破壊されている。水田面の残存状況はあまり良好ではない。区画の範囲、水口等については確認できるが、アゼの高まりは低い。K・L-28・30グリッドについては上層からの遺構の掘り込み等により、水田面の確認は困難であった。また35ラインより南についても同様であった。

水田城の地形 水田の確認できた地点は現染谷川左岸で、北から南にわずかに低くなっている。図314において等高線から読み取れる水田城の地形は、約15cm間隔で5cmの割合で南に低くなる。また現染谷川の流路の方向と同様、南南東に南北アゼの軸がある。

アゼの走向と区画 本地点でのアゼの方向は、南北方向のアゼはN-25°-Wの軸をもち、北北西から南南東にやや東に張り出すように一線状を呈している。これに直交するアゼは、西側の列に位置するS434～S436水田が他の一直線上に乗るアゼをはずれて区画されている。また25ライン以北の水田と31ライン以南の水田区画は、わずかに形状が異なっている。25ライン以北は比較的南北に長い、部分的に東西に長い水田がある。31ライン以南は東西に長軸をもつ。

水田面の面積 検出できた水田面は27区画と少なく、全形の判明したものも少ないので、面積のデータは不十分であるが、水田面の面積は約20㎡前後である。地形の変換点や水利方法から、S425、S431水田付近では面積を小さくしている。S431水田の面積は8.736㎡である。

取配水の方法 水路等から水田への取配水口は未確認である。各水田には、東西方向の小アゼにわずか

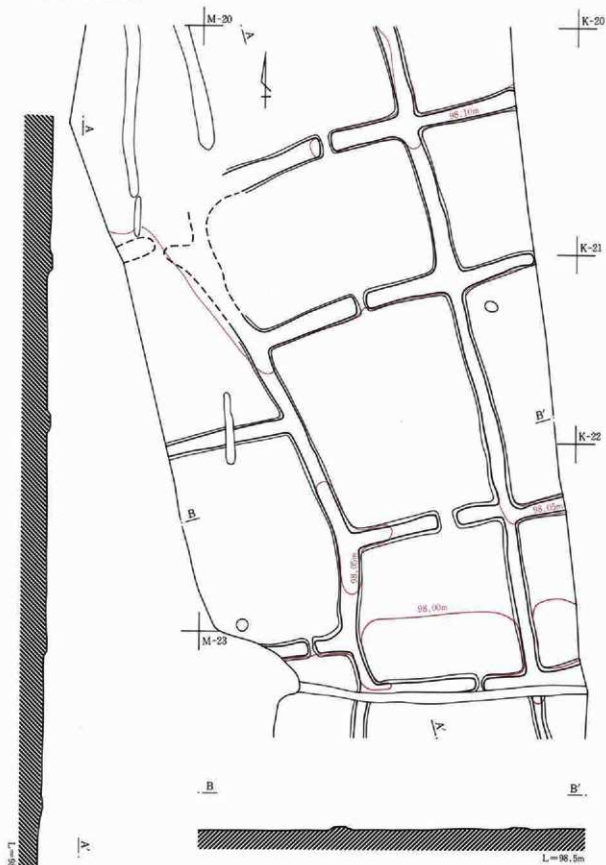


図314 下り柳地区 As-CT水田 アゼ中央の水口

0 1:100 5m

な水口があり、東西小アゼの中央ないし東寄りに位置している。取配水口の広さは約10～30cmである。アゼの低い部分では取配水口は不明のところもある。北から南へ傾斜する微地形を利用した配水と考えられる。

耕作土 水田の耕作土は黒色粘性土である。

出土遺物 なし。(相京)

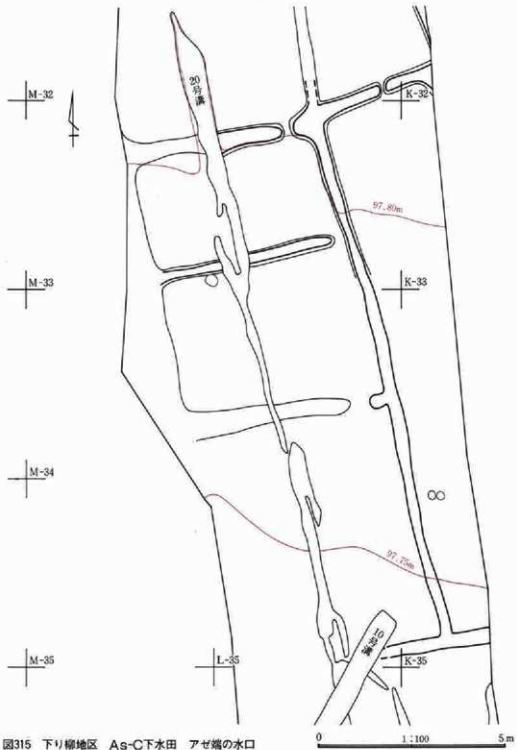


図315 下り柳地区 As-C下水田 アゼ端の水口

4. 水田面積の統計的検討

ここでは、水田の面積を統計処理して得た結果を以下に示す。実施した統計処理は、面積を機械的に区切り、各面積別の頻度を示したヒストグラムと、これらのバラツキを確認するために、面積の平均値と標準偏差を正規分布関数に代入して描いた正規分布曲線、および正規分布曲線を積分して得られる累積正規分布である。

(1) 村前地区 Hr-FA 下水田

この地区のヒストグラムをみると(図316)、10^m

新保田中村前遺跡村前地区Hr-FA下水田 面積ヒストグラム
最小値=1 最大値=49 レコード総数=67 度数幅=2

度数幅範囲	度数幅頻度 (*=1)
0.00<=>2.00	7
2.00<=>4.00	28
4.00<=>6.00	15
6.00<=>8.00	4
8.00<=>10.00	1
10.00<=>12.00	0
12.00<=>14.00	0
14.00<=>16.00	2
16.00<=>18.00	0
18.00<=>20.00	2
20.00<=>22.00	1
22.00<=>24.00	3
24.00<=>26.00	0
26.00<=>28.00	0
28.00<=>30.00	1
30.00<=>32.00	0
32.00<=>34.00	0
34.00<=>36.00	0
36.00<=>38.00	1
38.00<=>40.00	0
40.00<=>42.00	1
42.00<=>44.00	0
44.00<=>46.00	0
46.00<=>48.00	0
48.00<=>50.00	1



図316 村前地区 Hr-FA下水田
ヒストグラムと正規分布

を境にして大きく2つのブロックに分かれる。10^m以下のブロックが2~4^mの間に最も多い頻度を示すのに対して、10^m以上のブロックは特定の面積に集中することなく、10~50^mの間に点在する分布を示す。この正規分布曲線(図316-曲線a)は、裾が広く頂部の低い曲線となり、標準偏差も高くバラツキの多い区画であることを示している。

一方これらのうち、ヒストグラムでひとつのブロックを形成する10^m未満の区画に限定した正規分布曲線(図316-曲線b)は、バラツキの少ない高い山型の曲線を示し、10^m以上をも含めた全体の区画に対して、はるかに規格性の高い区画である。

(2) 下り柳地区 Hr-FA 下水田

この地区は大半が4^m以下の小区画水田で(図317)村前地区のような10^m以上に点在する区画が存在しない。正規分布曲線でも裾が狭く、頂部の高い山型の曲線を描く。これはヒストグラムで最も多い頻度を示す面積と、全体の平均値とが一致するため、バラツキが少なく、村前地区と比較して規格性の高い区画であることを示している。

さて、村前地区と下り柳地区のバラツキの差を、累積正規分布を例にしてみてみよう。正規分布曲線はその曲線の全体を積分すると1(100%)になるので、ある一定の面積幅を積分した累積正規分布は、バラツキが小さく、高い山型を示す曲線ほど1に近い大きな値を示すことになる。これによると、村前地区の全体は平均値から±20%の面積の範囲に入る区画の率が12.7%であるのに対して、下り柳地区では33.3%で約3倍になる。同様に村前地区の10^m未満の区画では31.8%であり、これらの資料からも村前地区と下り柳地区のバラツキの差が明瞭に読み取ることができる。

(3) まとめ

この遺跡におけるHr-FA下水田は、全体としては標準偏差の大きな、広いバラツキをもつ区画と認定され(図318-曲線a)、例えば群馬町・阿道遺跡のⅡ期水田のような、規格性の高い区画とは言い難い。しかしこれを地区別にみると、バラツキの多い

村前地区と、バラツキが少なく、規格性の高い下り柳地区の2つの形態が存在する。さらに、村前地区はヒストグラム上で10㎡を境とした著しい頻度の差が認められ、この10㎡以下の区画に限定した正規分布曲線は、下り柳地区に極めて近似した傾向を示しているのである。

すなわち、この遺跡における全体のHr-FA下水田がバラツキを示すのは、村前地区に10~50㎡の区画が存在することに起因し、全区画の95%を占める

10㎡未満の区画は、同道遺跡Ⅱ期水田と同様に、特定の面積を指向したと考え得る高い規格性をもつものと認めることができる(曲線b)。しかしその一方で、これらの区画よりも面積が極端に大きく、なおかつ特定の面積に集中することのない区画が、同時

新保田中村前遺跡下り柳地区Hr-FA下水田 面積ヒストグラム

最小値=1 最大値=6 レコード総数=150 度数幅=1

度数幅範囲 度数幅頻度 (*=1)

0.00<=> 2.00	70
2.00<=> 4.00	72
4.00<=> 6.00	8

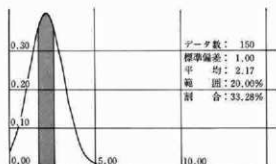


図317 下り柳地区 Hr-FA下水田面積ヒストグラムと正規分布

新保田中村前遺跡Hr-FA下水田 面積ヒストグラム

最小値=1 最大値=49 レコード総数=217 度数幅=2

度数幅範囲 度数幅頻度 (*=1)

0.00<=> 2.00	77
2.00<=> 4.00	100
4.00<=> 6.00	23
6.00<=> 8.00	4
8.00<=>10.00	1	*
10.00<=>12.00	0	
12.00<=>14.00	0	
14.00<=>16.00	2	**
16.00<=>18.00	0	
18.00<=>20.00	2	**
20.00<=>22.00	1	*
22.00<=>24.00	3	***
24.00<=>26.00	0	
26.00<=>28.00	0	
28.00<=>30.00	1	*
30.00<=>32.00	0	
32.00<=>34.00	0	
34.00<=>36.00	0	
36.00<=>38.00	1	*
38.00<=>40.00	0	
40.00<=>42.00	1	*
42.00<=>44.00	0	
44.00<=>46.00	0	
46.00<=>48.00	0	
48.00<=>50.00	1	*



図318 新保田中村前遺跡 Hr-FA下水田 面積ヒストグラムと正規分布

第6章 水田の調査

新保田中村前遺跡下り柳地区As-C下水田 面積ヒストグラム
 最小値=9 最大値=29 レコード総数=8 度数幅=2

度数幅範囲 度数幅程度 (* = 1)

0.00<=～> 2.00	0
2.00<=～> 4.00	0
4.00<=～> 6.00	0
6.00<=～> 8.00	0
8.00<=～> 10.00	1 *
10.00<=～> 12.00	0
12.00<=～> 14.00	1 *
14.00<=～> 16.00	1 *
16.00<=～> 18.00	0
18.00<=～> 20.00	1 *
20.00<=～> 22.00	1 *
22.00<=～> 24.00	1 *
24.00<=～> 26.00	1 *
26.00<=～> 28.00	0
28.00<=～> 30.00	1 *

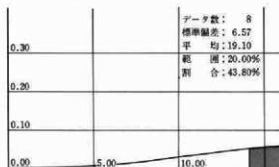


図319 下り柳地区As-C下水田
面積ヒストグラムと正規分布

に存在することも事実である。したがって Hr-FA
 下においてこうした大区画の水田が普遍的に存在す
 るか否かの確認と、区画の差が生じる要因の分析が
 今後の課題となろう。(坂口)

なお、ここで用いた正規分布関数は星野伸一氏(群馬県企業局)が、
 またヒストグラムは赤山谷途氏(同)が作成したプログラムによる、コ
 ンピューターによって計算した。

正規分布関数

$$f_{(x)} = \frac{1}{\sqrt{2\pi} \cdot \sigma} \cdot e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}$$

$$\sigma : \text{標準偏差} = \sqrt{\frac{1}{n-1} \left(\sum x_i^2 - \frac{(\sum x_i)^2}{n} \right)}$$

$$\mu : \text{平均値} = \frac{\sum x_i}{n}$$

累積正規分布

$$\Phi(x) = \int_a^x \frac{1}{\sigma \sqrt{2\pi}} \cdot e^{-\frac{(t-\mu)^2}{2\sigma^2}} \cdot dt$$

新保田中村前遺跡水田一覧表

村前地区

番号	被覆層	規模 長辺 短辺	平面形	面積 ㎡	水 口
M001	Hr-FA	-	-	-	-
002	-	2.36	-	-	-
003	-	-	-	-	-
004	-	2.20	1.08	2.288	-
005	-	1.96	1.12	2.224	-
006	-	2.16	1.04	2.274	-
007	-	2.44	1.72	3.68	-
008	-	2.52	-	-	-
009	-	-	-	-	-
010	-	2.16	1.44	3.072	-
011	-	2.16	1.20	2.752	-
012	-	1.92	1.36	2.544	-
013	-	2.36	1.20	2.992	-
014	-	2.48	2.04	5.2	-
015	-	2.12	1.28	2.672	-
016	-	2.64	0.88	2.356	-
017	-	2.04	-	-	-
018	-	-	-	-	-
019	-	-	-	-	-
020	-	2.36	1.08	2.576	-
021	-	2.52	1.24	3.072	-
022	-	2.40	1.44	-	-
023	-	2.04	0.76	1.856	-
024	-	5.00	1.60	5.184	-
025	-	-	1.12	-	-
026	-	-	-	-	-
027	-	2.20	-	-	-
028	-	2.64	-	-	-
029	-	2.16	-	-	-
030	-	1.44	-	-	-
031	-	1.88	1.08	2.224	-
032	-	2.20	1.12	2.624	-
033	-	-	1.20	-	-
034	-	-	-	-	-
035	-	1.92	0.60	1.44	-
036	-	1.52	0.80	1.168	-
037	-	-	0.84	-	-
038	-	-	2.40	-	南西・南東
039	-	2.84	1.04	-	北東・南東
040	-	2.68	1.20	-	北東・南東
041	-	2.84	1.20	-	北東・南東
042	-	3.08	1.08	-	北東・南東
043	-	-	1.08	-	北東
044	-	-	1.84	-	-
045	-	-	1.76	-	-
046	-	3.28	1.80	-	-
047	-	-	1.88	-	-
048	-	-	-	-	-
049	-	2.96	1.24	3.648	北・南
050	-	2.80	1.52	4.064	北・南
051	-	3.00	1.64	4.976	北・南東・南西
052	-	3.00	0.92	2.88	北西・南西
053	-	-	1.04	-	-
054	-	-	1.40	-	-
055	-	3.28	1.48	4.8	-
056	-	3.32	1.44	4.816	-
057	-	-	1.36	4.784	-
058	-	3.80	1.08	-	北・南
059	-	3.00	0.68	1.888	北

4 水田面積の統計的検討

新保田中村前遺跡水田一覽表

村前地区

番号	被覆層	規模 m		平面形	面積 ㎡	水 口
		長辺	短辺			
M060	Hr-FA	—	0.88	—	—	南
061	—	3.24	0.84	不定形	—	北・南
062	—	2.60	0.88	長方形	2.4	北・南
063	—	2.72	1.12	長方形	2.976	北・南
064	—	2.32	1.20	長方形	2.896	北・南
065	—	2.44	1.12	長方形	2.864	北・南西
066	—	—	1.44	不定形	—	北西・北東
067	—	—	—	長方形	—	南
068	—	2.72	1.60	長方形	—	北・南
069	—	2.64	1.60	長方形	4.32	北
070	—	3.20	1.04	長方形	3.312	南
071	—	—	1.12	長方形	—	北
072	—	—	0.92	—	—	南
073	—	—	1.12	長方形	—	北
074	—	—	1.20	—	—	南
075	—	2.40	0.96	不定形	—	東・北
076	—	2.40	1.04	不定形	—	南
077	—	2.64	1.20	長方形	3.168	南西
078	—	2.40	1.24	長方形	3.216	北西・南
079	—	2.52	1.48	台形	3.744	北
080	—	2.60	1.48	長方形	2.336	南
081	—	—	0.84	長方形	—	南西
082	—	—	1.00	長方形	—	南
083	—	—	0.92	—	—	北
084	—	—	1.56	—	—	南
085	—	3.00	1.80	長方形	5.152	北
086	—	2.76	1.76	長方形	4.96	南
087	—	3.44	1.20	台形	5.52	北・南
088	—	4.64	1.60	階段長方形	7.552	北
089	—	—	—	—	—	—
090	—	3.24	—	長方形	—	南
091	—	2.72	—	長方形	—	北
092	—	—	—	長方形	—	北・東
093	—	1.24	—	長方形	—	南
094	—	1.20	—	長方形	—	北
095	—	—	—	長方形	—	南
096	—	2.96	1.32	長方形	3.92	北・南東
097	—	2.56	1.24	長方形	3.28	北東・南
098	—	3.16	1.40	長方形	4.32	北・南西
099	—	4.92	1.20	長方形	5.744	北
100	—	—	—	長方形	—	南
101	—	2.64	1.56	長方形	4.224	南
102	—	3.36	1.28	長方形	4.528	南
103	—	4.76	1.20	長方形	—	北
104	—	—	—	長方形	—	南
105	—	3.84	—	長方形	—	—
106	—	—	—	長方形	—	—
107	—	—	—	不定形	—	—
108	—	3.08	2.80	正方形	7.813	北西
109	—	3.76	2.84	台形	9.264	北西・南東
110	—	3.96	—	—	—	南東
111	—	3.04	2.76	長方形	6.563	南東・西
112	—	2.96	2.80	正方形	7.509	南東・西
113	—	3.24	—	台形	—	南東
114	—	2.64	—	—	—	—
115	—	2.60	2.44	台形	—	—
116	—	—	0.80	不定形	—	—
117	—	—	—	—	—	—
118	—	—	—	—	—	—

新保田中村前遺跡水田一覽表

村前地区

番号	被覆層	規模 m		平面形	面積 ㎡	水 口
		長辺	短辺			
M119	Hr-FA	1.68	0.76	台形	1.152	西
120	—	1.80	1.20	長方形	—	東
121	—	—	—	—	—	—
122	—	1.80	—	長方形	1.5	—
123	—	1.88	0.88	階段長方形	1.408	西
124	—	1.92	1.16	長方形	—	東
125	—	2.04	—	—	—	—
126	—	1.84	1.08	長方形	2.016	—
127	—	1.84	1.16	長方形	—	—
128	—	—	—	長方形	—	南・西
129	—	1.92	1.36	長方形	—	南東・南西
130	—	—	—	—	—	—
131	—	—	—	—	—	—
132	—	—	—	不定形	—	南東
133	—	7.48	—	正方形	—	北
134	—	—	9.16	長方形	—	—
135	—	—	—	—	—	—
136	—	—	—	不定形	—	南東
137	—	6.72	5.68	不定形	—	北・南
138	—	5.24	5.60	正方形	28.256	北・南
139	—	4.88	7.80	長方形	36.48	北
140	—	—	4.16	長方形	—	—
141	—	6.80	3.00	不定形	18.464	南
142	—	7.44	2.88	長方形	22.08	北・南
143	—	11.48	3.76	長方形	40.064	北・南
144	—	—	—	長方形	—	北
145	—	4.68	3.68	正方形	—	南
146	—	5.20	3.00	長方形	15.696	北・南
147	—	4.32	3.60	正方形	14.928	北・南
148	—	6.52	3.16	長方形	20.736	北・南
149	—	7.12	3.24	長方形	22.736	北・南・西
150	—	—	3.20	長方形	—	北
151	—	—	—	—	—	—
152	—	—	—	長方形	—	—
153	—	3.92	2.64	正方形	—	—
154	—	4.40	—	正方形	—	南
155	—	4.92	—	正方形	—	北・南
156	—	5.32	4.16	正方形	22.56	北・南・南東
157	—	4.80	3.80	正方形	18.56	北・東
158	—	9.04	4.32	長方形	—	北・西・南西
159	—	—	—	長方形	—	南
160	—	—	—	台形	—	北・南・北西
161	—	5.88	—	—	—	北東
162	—	8.28	3.92	長方形	—	北・西
163	—	6.52	—	不定形	—	東
164	—	—	—	長方形	—	東・西
165	—	8.88	5.80	不定形	49.136	東・北西
166	—	5.44	—	—	—	東・北東
167	—	—	—	—	—	北東
168	—	—	—	—	—	北東
169	—	—	—	—	—	—

第6章 水田の調査

新保田中村前遺跡水田一覧表

下り柳地区

番号	敷設層	規模 m		平面形	面積 m ²	水	口
		長さ	短辺				
S.001	As-B	—	—	—	—	—	—
002	—	5.90	—	—	—	—	—
003	—	9.72	—	—	—	—	—
004	—	6.64	—	—	—	—	—
005	—	7.92	—	—	—	—	—
006	—	8.52	—	長方形	—	—	—
007	—	—	—	長方形	—	—	—
008	—	9.72	7.72	隅丸台形	—	—	—
009	—	10.88	5.95	隅丸長方形	43.792	—	—
010	—	8.88	3.68	隅丸長方形	37.152	—	—
011	—	—	3.52	長方形	—	—	—
012	—	11.80	—	長方形	—	—	—
013	—	8.72	—	長方形	—	—	—
014	Hr-FA	—	—	—	—	—	—
015	—	—	—	長方形	—	—	—
016	—	—	—	長方形	—	—	—
017	—	—	—	—	—	—	—
018	—	3.12	—	長方形	—	—	—
019	—	3.00	1.68	隅丸長方形	5.088	—	—
020	—	3.00	—	長方形	—	—	—
021	—	1.20	—	—	—	—	—
022	—	—	0.76	長方形	—	—	—
023	—	1.44	1.16	台形	1.648	—	—
024	—	1.40	1.16	隅丸方形	1.696	南東	—
025	—	1.84	1.32	隅丸長方形	—	北西	—
026	—	1.52	—	—	—	—	—
027	—	1.80	—	—	—	—	—
028	—	1.80	—	—	—	—	—
029	—	—	—	—	—	—	—
030	—	—	1.12	—	—	—	—
031	—	1.48	1.36	隅丸方形	2.048	—	—
032	—	3.56	1.56	隅丸長方形	5.6	—	—
033	—	1.52	1.52	隅丸方形	2.56	南東	—
034	—	1.92	1.52	隅丸長方形	2.912	北西・南東	—
035	—	1.72	1.52	隅丸方形	2.416	北西	—
036	—	1.84	—	—	—	—	—
037	—	1.40	—	—	—	—	—
038	—	1.68	—	—	—	—	—
039	—	1.80	—	—	—	南東	—
040	—	—	—	—	—	北西	—
041	—	—	—	—	—	南東	—
042	—	1.56	1.48	隅丸方形	2.208	北東	—
043	—	3.16	1.48	長方形	4.736	北東	—
044	—	1.36	1.28	隅丸台形	1.568	—	—
045	—	1.28	1.12	隅丸台形	1.312	北西・南東	—
046	—	1.04	1.04	隅丸台形	1.184	北西	—
047	—	2.16	1.08	隅丸長方形	2.224	—	—
048	—	1.40	0.96	不定形	1.312	—	—
049	—	1.60	1.60	隅丸台形	1.712	南東	—
050	—	1.96	1.28	隅丸長方形	2.272	北西	—
051	—	—	—	長方形	—	南東	—
052	—	2.20	—	長方形	—	北西	—
053	—	1.52	—	長方形	—	—	—
054	—	—	—	—	—	—	—
055	—	2.44	1.60	し字型	3.696	—	—
056	—	1.68	1.52	台形	2.496	—	—
057	—	1.60	1.60	隅丸方形	2.56	南東	—
058	—	1.68	1.44	台形	1.984	北東	—
059	—	1.60	1.56	隅丸方形	2.544	南東	—

新保田中村前遺跡水田一覧表

下り柳地区

番号	敷設層	規模 m		平面形	面積 m ²	水	口
		長さ	短辺				
S.060	Hr-FA	1.88	1.36	隅丸長方形	2.224	北東	—
061	—	2.12	—	長方形	—	—	—
062	—	2.08	1.36	台形	—	—	2.832
063	—	1.44	1.32	隅丸方形	—	—	1.936
064	—	1.52	1.36	台形	—	—	2.16
065	—	1.84	1.44	不定形	—	—	2.544
066	—	1.88	1.48	隅丸長方形	—	—	2.768
067	—	1.92	—	不定形	—	—	—
068	—	2.44	—	長方形	—	—	—
069	—	1.96	1.32	隅丸長方形	—	—	2.64
070	—	—	1.44	長方形	—	—	—
071	—	—	—	長方形	—	—	—
072	—	3.08	1.08	隅丸長方形	4.192	南西	—
073	—	2.92	1.80	隅丸長方形	3.552	北西	—
074	—	2.96	1.88	長方形	—	—	5.464
075	—	2.08	1.52	隅丸長方形	—	—	3.024
076	—	1.80	1.68	台形	—	—	3.088
077	—	2.72	1.80	台形	—	—	4.912
078	—	—	—	—	—	—	—
079	—	1.68	—	—	—	—	—
080	—	—	—	長方形	—	—	—
081	—	1.84	—	不定形	—	—	—
082	—	—	—	不定形	—	—	—
083	—	4.36	1.48	不定形	—	—	—
084	—	2.64	—	不定形	—	—	—
085	—	—	—	長方形	—	—	—
086	—	2.32	—	長方形	—	—	—
087	—	—	—	—	—	—	—
088	—	5.16	0.96	不定形	—	—	—
089	—	2.28	1.00	長方形	—	—	2.4
090	—	—	1.28	長方形	—	—	—
091	—	—	1.04	長方形	—	—	—
092	—	—	1.12	長方形	—	—	—
093	—	2.04	1.08	隅丸長方形	—	—	2.064
094	—	1.68	1.20	不定形	—	—	1.872
095	—	—	0.92	—	—	—	—
096	—	—	1.24	不定形	—	—	—
097	—	2.40	0.84	隅丸長方形	—	—	2.032
098	—	2.08	1.20	台形	—	—	2.464
099	—	3.08	2.00	台形	—	—	4.752
100	—	—	1.16	長方形	—	—	—
101	—	—	1.20	長方形	—	—	—
102	—	—	0.56	—	—	—	—
103	—	1.20	0.96	台形	—	—	—
104	—	1.16	1.20	台形	—	—	—
105	—	—	1.16	長方形	—	—	—
106	—	2.76	—	し字型	—	—	—
107	—	—	—	長方形	—	—	—
108	—	—	—	—	—	—	—
109	—	—	—	—	—	—	—
110	—	—	0.92	長方形	—	—	—
111	—	—	1.60	台形	—	—	—
112	—	1.80	1.12	長方形	—	—	1.952
113	—	—	—	長方形	—	—	—
114	—	1.08	—	長方形	—	—	—
115	—	—	0.80	長方形	—	—	—
116	—	—	0.80	長方形	—	—	—
117	—	1.28	—	長方形	—	—	—
118	—	—	—	—	—	—	—

4 水田面積の統計的検討

新保田中村前遺跡水田一覽表

下り柳地区

番号	被覆樹	規模 m		平面形	面積 ㎡	水	口
		長辺	短辺				
S 119	Ir-FA	2.40	—	長方形	—	—	—
120	—	0.80	—	—	—	—	—
121	—	1.32	—	—	—	—	—
122	—	1.04	—	—	—	南	—
123	1.44	1.08	—	台形	1.584	北	—
124	1.92	—	—	長方形	—	—	—
125	2.24	1.80	—	台形	—	—	—
126	—	1.32	—	長方形	—	—	—
127	—	0.84	—	長方形	—	—	—
128	1.20	1.08	—	正方形	—	—	—
129	2.40	—	—	長方形	—	—	—
130	2.56	—	—	長方形	—	—	—
131	2.48	1.44	—	隅丸長方形	3.664	南西	—
132	1.04	0.76	—	長方形	0.72	—	—
133	2.24	0.80	—	不定形	1.696	—	—
134	1.40	0.80	—	台形	1.024	—	—
135	0.84	0.80	—	正方形	0.672	—	—
136	3.00	—	—	長方形	—	—	—
137	—	0.72	—	長方形	—	—	—
138	1.08	—	—	長方形	—	—	—
139	1.80	0.84	—	長方形	—	—	—
140	1.88	1.24	—	隅丸長方形	2.268	北西	—
141	1.24	0.40	—	隅丸長方形	0.544	—	—
142	1.48	1.28	—	不定形	1.808	—	—
143	1.52	1.00	—	長方形	1.552	—	—
144	0.84	0.72	—	台形	0.768	—	—
145	3.08	—	—	長方形	—	—	—
146	1.20	0.84	—	台形	0.96	—	—
147	1.36	0.88	—	不定形	1.136	—	—
148	1.96	1.76	—	正方形	3.44	—	—
149	1.88	1.64	—	台形	—	—	—
150	1.52	1.24	—	正方形	1.952	—	—
151	1.36	1.12	—	台形	1.488	—	—
152	1.36	1.24	—	台形	1.632	—	—
153	1.20	0.96	—	不定形	1.088	—	—
154	1.68	1.40	—	台形	2.256	—	—
155	0.88	0.68	—	台形	0.592	—	—
156	5.12	1.20	—	長方形	—	—	—
157	1.64	1.44	—	隅丸長方形	2.228	—	—
158	1.72	1.48	—	台形	2.624	西	—
159	1.80	1.20	—	長方形	—	南東	—
160	1.20	1.36	—	正方形	—	—	—
161	1.76	1.24	—	長方形	—	—	—
162	1.28	0.72	—	台形	0.912	—	—
163	1.00	1.00	—	正方形	0.896	—	—
164	2.00	1.16	—	台形	2.208	東	—
165	1.80	1.04	—	台形	1.936	—	—
166	1.60	1.00	—	隅丸長方形	1.52	—	—
167	1.56	0.92	—	不定形	1.184	東	—
168	1.20	1.04	—	台形	1.232	—	—
169	1.08	0.68	—	長方形	0.72	—	—
170	0.88	0.64	—	長方形	0.564	—	—
171	1.44	0.68	—	長方形	—	—	—
172	1.08	0.72	—	長方形	0.704	—	—
173	1.08	0.76	—	長方形	0.768	—	—
174	0.92	0.84	—	台形	0.736	—	—
175	1.80	0.72	—	長方形	—	—	—
176	—	—	—	長方形	—	—	—
177	—	0.88	—	長方形	—	—	—

新保田中村前遺跡水田一覽表

下り柳地区

番号	被覆樹	規模 m		平面形	面積 ㎡	水	口
		長辺	短辺				
S 178	Ir-FA	—	0.92	長方形	—	—	—
179	—	0.84	—	長方形	—	—	—
180	—	1.28	0.76	長方形	0.976	北西	—
181	1.48	0.84	—	長方形	1.248	—	—
182	1.76	1.28	—	不定形	2.33	—	—
183	1.16	0.64	—	不定形	0.64	—	—
184	1.16	1.12	—	正方形	1.232	—	—
185	1.92	0.92	—	長方形	1.776	—	—
186	2.00	1.00	—	台形	2.064	—	—
187	1.64	1.36	—	不定形	—	—	—
188	—	1.08	—	不定形	—	—	—
189	—	1.08	—	—	—	—	—
190	—	1.32	—	台形	—	—	—
191	—	1.12	—	—	—	—	—
192	—	1.00	—	長方形	—	—	—
193	—	1.56	—	—	—	—	—
194	—	0.68	—	—	—	—	—
195	—	1.56	—	—	—	—	—
196	—	1.32	—	—	—	—	—
197	—	1.28	—	—	—	—	—
198	2.28	—	—	—	—	—	—
199	1.52	—	—	—	—	—	—
200	1.80	—	—	長方形	—	—	—
201	—	—	—	長方形	—	—	—
202	—	—	—	長方形	—	—	—
203	1.36	—	—	長方形	—	—	—
204	2.04	—	—	—	—	—	—
205	1.60	—	—	長方形	—	—	—
206	1.52	—	—	長方形	—	—	—
207	1.68	—	—	長方形	—	—	—
208	2.20	—	—	長方形	—	—	—
209	—	—	—	長方形	—	—	—
210	—	1.24	—	長方形	—	—	—
211	2.00	1.12	—	隅丸長方形	2.32	—	—
212	1.44	1.28	—	隅丸長方形	1.856	—	—
213	1.60	1.04	—	隅丸長方形	1.682	—	—
214	1.60	0.88	—	隅丸長方形	1.728	—	—
215	2.20	1.16	—	隅丸長方形	2.64	—	—
216	2.44	—	—	長方形	—	—	—
217	1.84	—	—	長方形	—	—	—
218	0.92	0.80	—	台形	—	—	—
219	2.08	1.40	—	台形	—	—	—
220	2.00	—	—	長方形	—	—	—
221	1.60	—	—	長方形	—	—	—
222	1.80	—	—	長方形	—	—	—
223	1.64	—	—	長方形	—	—	—
224	2.00	1.28	—	長方形	2.624	—	—
225	2.36	1.12	—	台形	2.816	—	—
226	2.12	0.80	—	長方形	1.696	—	—
227	1.60	1.24	—	台形	2.016	—	—
228	2.00	—	—	正方形	—	—	—
229	2.64	—	—	長方形	—	—	—
230	1.52	—	—	台形	—	—	—
231	1.76	—	—	台形	—	—	—
232	1.80	—	—	長方形	—	—	—
233	2.04	—	—	長方形	—	—	—
234	2.12	—	—	台形	—	—	—
235	2.20	0.96	—	隅丸長方形	2.128	—	—
236	1.36	1.24	—	隅丸長方形	1.552	—	—

第6章 水田の調査

新保田中村前遺跡水田一覧表 下り柳地区

番号	被覆層	規模 m		平面形	面積 ㎡	水	口
		長辺	短辺				
S 237	Hr-FA	2.24	1.44	台形	3.218	-	-
238		2.40	1.60	長方形	-	-	-
239		1.92	0.48	長方形	0.88	-	-
240		2.20	0.96	台形	2.08	-	-
241		1.56	1.16	台形	1.808	-	-
242		2.36	-	台形	-	-	-
243		1.60	-	台形	-	-	-
244		1.80	-	台形	-	-	-
245		2.32	2.00	正方形	4.464	-	-
246		-	1.16	長方形	-	-	-
247		-	1.12	長方形	-	-	-
248		-	-	長方形	-	-	-
249		-	-	長方形	-	-	-
250		1.92	-	長方形	-	-	-
251		1.48	-	台形	-	-	-
252		1.52	-	正方形	-	-	-
253		2.36	1.32	楕圓長方形	3.316	-	-
254		-	1.28	長方形	-	-	-
255		-	-	長方形	-	-	-
256		1.52	1.12	長方形	1.68	-	-
257		2.12	1.36	台形	2.8	-	-
258		1.40	1.40	台形	1.936	-	-
259		1.56	1.32	台形	2.48	-	-
260		2.32	1.40	楕圓長方形	2.624	-	-
261		-	1.16	長方形	-	-	-
262		-	1.16	長方形	-	-	-
263		1.36	0.92	正方形	1.488	-	-
264		2.32	1.40	長方形	3.184	-	-
265		1.56	1.24	正方形	1.936	-	-
266		1.60	1.48	正方形	2.4	-	-
267		1.80	1.40	台形	2.432	-	-
268		-	1.24	長方形	-	-	-
269		2.80	1.20	長方形	3.84	-	-
270		1.28	1.08	台形	1.362	-	-
271		1.12	1.00	正方形	1.136	-	-
272		1.52	-	台形	-	-	-
273		1.48	-	正方形	-	-	-
274		1.64	-	台形	-	-	-
275		-	1.08	-	-	-	-
276		2.52	1.12	長方形	-	-	-
277		-	1.20	長方形	-	-	-
278		-	0.80	台形	-	-	-
279		-	1.60	不定形	-	-	-
280		-	1.16	正方形	-	-	-
281		1.92	-	台形	-	-	-
282		-	-	不定形	-	-	-
283		2.36	-	長方形	-	-	-
284		-	-	長方形	-	-	-
285		3.40	-	長方形	-	-	-
286		3.32	-	長方形	-	-	-
287		2.36	-	正方形	-	-	-
288		-	-	正方形	-	-	-
289		-	-	長方形	-	-	-
290		-	-	長方形	-	-	-
291		2.60	-	長方形	-	-	-
292		2.72	0.92	長方形	-	-	-
293		3.36	0.92	長方形	-	-	-
294		3.40	-	長方形	-	-	-
295		3.40	-	長方形	-	-	-

新保田中村前遺跡水田一覧表 下り柳地区

番号	被覆層	規模 m		平面形	面積 ㎡	水	口
		長辺	短辺				
S 296	Hr-FA	-	-	長方形	-	-	-
297		-	-	長方形	-	-	-
298		-	-	長方形	-	-	-
299		-	-	長方形	-	-	-
300		2.60	-	長方形	-	-	-
301		2.48	-	長方形	-	-	-
302		2.28	-	長方形	-	-	-
303		1.84	-	長方形	-	-	-
304		1.96	-	長方形	-	-	-
305		1.76	-	長方形	-	-	-
306		1.80	-	長方形	-	-	-
307		-	-	長方形	-	-	-
308		4.56	-	長方形	-	-	-
309		2.28	-	長方形	-	-	-
310		-	-	-	-	-	-
311		2.40	1.12	楕圓長方形	2.784	-	-
312		2.40	1.12	楕圓長方形	2.592	-	-
313		2.16	1.20	楕圓長方形	2.56	-	-
314		2.00	1.08	楕圓長方形	2.048	-	-
315		1.88	0.96	楕圓長方形	-	南西	-
316		1.60	1.40	楕圓台形	-	-	-
317		1.76	1.52	楕圓長方形	2.768	-	-
318		2.00	1.52	台形	2.768	-	-
319		3.60	-	長方形	-	西	-
320		1.92	-	台形	-	-	-
321		-	-	長方形	-	-	-
322		2.00	-	台形	-	-	-
323		2.20	-	長方形	-	-	-
324		2.72	-	長方形	-	-	-
325		1.52	-	台形	-	-	-
326		2.16	-	長方形	-	-	-
327		2.36	-	長方形	-	-	-
328		2.44	-	長方形	-	-	-
329		2.72	-	台形	-	-	-
330		1.88	1.20	長方形	-	-	-
331		1.56	1.52	不定形	1.968	-	-
332		1.96	1.36	長方形	2.544	-	-
333		2.08	1.32	台形	2.816	-	-
334		3.32	1.60	楕圓長方形	-	西	-
335		1.80	1.64	台形	2.976	-	-
336		2.08	1.48	楕圓長方形	3.376	南東	-
337		2.00	1.48	楕圓長方形	2.992	-	-
338		1.96	-	長方形	-	-	-
339		2.76	-	長方形	-	-	-
340		1.32	-	不定形	-	-	-
341		-	1.64	台形	-	-	-
342		-	1.48	長方形	-	-	-
343		4.48	-	不定形	-	北西	-
344		4.04	1.44	不定形	-	-	-
345		1.68	0.84	楕圓長方形	-	-	-
346		6.20	0.88	楕圓長方形	-	-	-
347		-	1.08	楕圓長方形	-	-	-
348		1.56	-	長方形	-	-	-
349		-	-	-	-	-	-
350		-	-	長方形	-	-	-
351		2.32	-	長方形	-	-	-
352		-	-	長方形	-	-	-
353		1.40	-	正方形	-	-	-
354		1.04	0.92	台形	0.976	-	-

4 水田面積の統計的検討

新保田中村前遺跡水田一覧表

下り柳地区

番号	被覆層	縦横 長辺 短辺	m 平面形	面積 ㎡	水	口
S355	Hr-F/A	1.92 1.76	台形	3.504	-	-
356		2.08 1.48	台形	3.056	-	-
357		1.40 1.28	正方形	1.808	-	-
358		1.40 0.84	長方形	1.136	-	-
359		-	-	-	-	-
360		1.72 1.24	正方形	2.096	-	-
361		- 1.28	-	-	-	-
362		2.04 1.32	隅丸長方形	2.736	-	-
363		2.20 1.24	台形	2.752	-	-
364		2.48 1.32	隅丸長方形	3.184	-	-
365		1.60 1.28	台形	2.0	南西	-
366		1.20 0.92	正方形	1.072	北西	-
367		2.24 0.68	長方形	-	-	-
368		1.32 0.44	長方形	-	-	-
369		1.44 1.16	台形	1.52	-	-
370		-	-	-	-	-
371		1.24 1.24	台形	1.552	-	-
372		1.48 1.24	正方形	2.512	-	-
373		- 1.76	-	-	-	-
374		2.04 0.92	隅丸長方形	1.92	-	-
375		- 1.28	台形	-	-	-
376		2.40 1.20	不定形	2.72	-	-
377		2.48 -	隅丸長方形	-	-	-
378		2.32 1.00	隅丸長方形	2.064	-	-
379		3.60 0.52	不定形	-	-	-
380		2.00 0.80	隅丸長方形	1.648	-	-
381		-	長方形	-	-	-
382		2.00 -	長方形	-	-	-
383		1.92 -	長方形	-	-	-
384		2.68 1.24	長方形	-	-	-
385		-	-	-	-	-
386		2.04 -	長方形	-	-	-
387		2.04 -	長方形	-	-	-
388		-	長方形	-	-	-
389		- 1.12	長方形	-	-	-
390		1.12 1.04	正方形	1.12	-	-
391		1.92 1.36	台形	2.48	-	-
392		-	-	-	-	-
393		-	長方形	-	-	-
394		1.36 -	長方形	-	-	-
395		2.24 1.04	長方形	-	-	-
396		2.32 0.80	長方形	1.904	-	-
397		1.92 0.76	長方形	1.424	-	-
398		- 0.68	長方形	-	-	-
399		-	-	-	-	-
400		1.08 0.20	-	-	-	-
401		2.16 0.84	長方形	-	-	-
402		2.40 0.80	長方形	1.824	-	-
403		1.64 0.92	長方形	-	-	-
404		1.56 -	-	-	-	-
405		1.56 -	-	-	-	-
406		1.76 1.56	台形	2.64	-	-
407		1.44 0.68	長方形	1.072	-	-
408		2.56 -	長方形	-	-	-
409		2.40 -	長方形	-	-	-
410	As-C	-	長方形	-	-	-
411		-	長方形	-	-	-
412		-	長方形	-	-	-
413		-	-	-	-	-

新保田中村前遺跡水田一覧表

下り柳地区

番号	被覆層	縦横 長辺 短辺	m 平面形	面積 ㎡	水	口
S414	As-C	3.12 -	-	-	-	-
415		6.08 3.84	台形	22.896	南東	-
416		5.80 -	長方形	-	北西	-
417		3.80 -	-	-	-	-
418		5.88 -	長方形	-	-	-
419		3.92 -	-	-	-	-
420		-	長方形	-	-	-
421		- 6.32	長方形	-	南東	-
422		5.48 -	長方形	-	北西・南東	-
423		5.72 3.64	台形	20.128	北西・南東	-
424		5.40 4.40	台形	24.176	北西・南東	-
425		4.00 3.80	台形	14.656	北・東	-
426		5.84 5.00	台形	29.232	北・南東	-
427		5.76 -	長方形	-	-	-
428		-	台形	-	北	-
429		5.32 -	-	-	南東	-
430		-	長方形	-	北西	-
431		3.00 2.84	台形	8.736	北・南	-
432		13.88 2.92	長方形	-	北	-
433		- 3.88	隅丸長方形	-	北・南	-
434		4.92 2.68	隅丸長方形	13.536	北東・南東	-
435		5.28 3.68	隅丸長方形	19.424	北東・南東	-
436		-	-	-	北東	-

第7章 畠の調査

1. 概要

本遺跡で検出された畠は、畝間である平行する溝群として把握し、調査した。被覆層が薄くサク溝内

のみに堆積したことや、後世の耕作によってサク切りによってたてられた畝の部分は削りとられたためと考えられる。また、厚く堆積していた Hr-FA 直下はほとんど水田として土地利用されていたことも

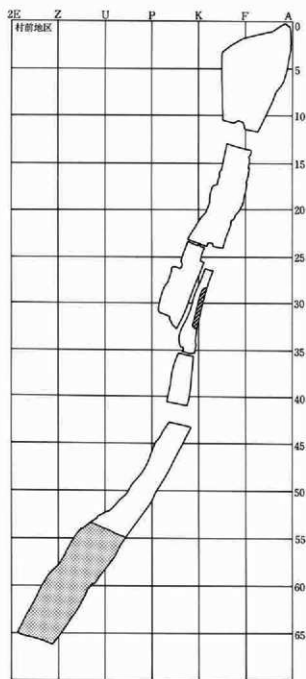
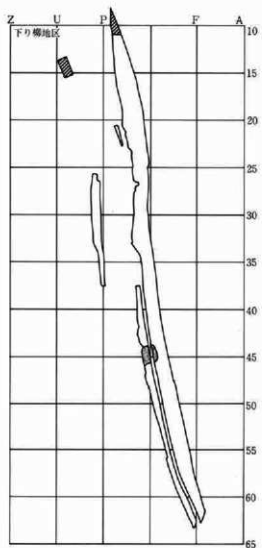





図320 畠の検出範囲



-  As-B前後の畠
-  Hr-FA下畠
-  As-C上畠

0 1:2000 100m

あって、かまほこ状の畝をたてた明確な畝は検出できなかった。

村前地区では第2次調査区でAs-B降下後の畝間列が検出されている。出土遺物もなく、明確な時期は不明である。水田同様、明確に伴う遺物の検出が困難である生産跡の時期の決定はテフラとの直接的関係がない場合は土層観察のみに限られ、遺構の時期は不明確であるのが実態である。

第4次調査で検出された畝間列群も純堆積層のないAs-Cとの直接的関係は不明であり、上層のHr-FAに直接覆われていたのではない。畝間を覆う黒色土中からは弥生時代後期から古墳時代前期が出土している。畝のつくられた地点は、すぐ北側に方形周溝墓群が展開する広い平坦地である。下層には弥生時代中期後半から古墳時代前期の住居群が検出されており、この居住域が畝へ変換されたことがわかる。さらにこの地点はHr-FA降下までには水田へと土地利用が変化しているのである。住居や周溝墓の時期など今後の分析を通して集落内の土地利用の変遷を明らかにすることが可能となろう。

下り柳地区では水田と同様にテフラ層直下で畝が検出され、水田とともに畝が営まれていたことがわかる。発掘区北端では水田域に接して畝間列が検出された。20mほど離れた現象谷川の右岸でも同様にAs-B下で畝が検出された。ここではAs-Bが比較的厚く堆積していたため、畝の部分も検出された。

下り柳第4次調査区ではHr-FA直下の水田の西に隣接して同じテフラ直下で畝間の溝がわずかに検出された。畝が検出された地点はやや微高地になっており、地形に即した土地利用が看取できる。

畝の作物については、いずれの遺構の調査でも推定できる調査所見を得ていない。耕作土のプラントオパールや花粉の分析は実施していない。形態的には、畝間の間隔等は各地点ではほぼ同じである。深さの比較は旧地表面が不明であるので危険であろう。直線的な溝が多いなかで、村前地区第4次調査で検出された畝間列は曲線的なものも多く特徴的である。

(小島)

2. 村前地区の畝

中近世畝 (第2次調査区)

村前05-3, K0320-321, PL59-4

被覆層と畝の残存状況 J・K-28-32グリッドで検出された。現在の耕作土下、暗茶褐色土に覆われている。畝の削平は著しく、畝間の幅は12-24cm、残存深度は2-11cmを測った。Hr-FA期の洪水層の最上層を踏み込んでいた。

畝地の地形 畝の検出された地点は南に緩やかに下がる平坦面である。

畝の走向と区画 確認できた畝の本数は33本である。J・K-30グリッドでは重複が認められ、少なくとも2時期にわたり耕作があったことがわかる。走向は個々に影らみをもったり、蛇行するものもあり整然としてはいないが、3方向に大別できそうである。北側、28-30ラインまでの走向はN-89°-Wである。J・K-30グリッドで上記の畝と重複するものは、N-72°-Eである。J・K-31-32グリッドでは、N-85°-Wである。この部分は北側と比較して、畝の間隔が狭くなっている。

検出したものの多くは、東側の調査区域外に延びており、端部が収束したかのように図示されているものも、削平を受けた結果のみかけ上の形態であり、実際はこれらも東西の両端が延長しあったものと思われる。このことから、特に区画を想起させる状況は認められなかった。

耕作土 北側では黄灰色のシルト質土がみられた。

南半では茶褐色土が堆積していた。

出土遺物 なし。

時期 確定できない。

(徳江)

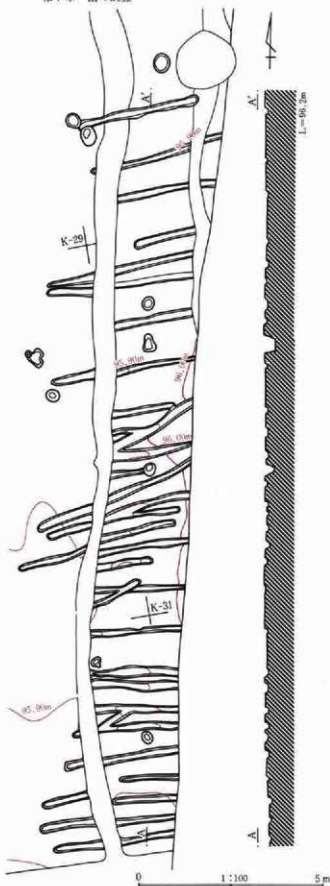


図321 村前地区 中近世畝

As-C上畝（第4次調査区）

図320・322・323, PL60-1-5, 表P.137・138

被覆層と畝の残存状況 As-Cを大量に含む黒色土を被覆層とし、調査区のはほぼ全域から検出されている。残存状況はHr-FA下畝と同様に、畝間のみを検出で、畝そのものは検出されていない。畝を検出する時点で下層に位置する古墳時代前期の住居跡の焼土（炉）を確認した地点があることから、耕作が住居の床面まで達したことを知ることができる。

畝域の地形 調査区域の東側がやや微高地であり、西に向かうかなり緩い傾斜面に形成されている。

北方は、方形周溝墓群がつくられた凹凸のある地区であり、畝地は広がっていない。

畝の走向と区画 調査区域内に無数の状態で畝間が検出されているが、詳細な観察から南北方向、あるいは東西方向、さらには北西（あるいは北東）から南東（南西）方向というようにほぼ同一方向の主軸をもつグループに分けることができる。さらに、畝間が隣接していくつも検出されており、複数の単位を形成しているとも考えられる。調査中の所見では、29グループに分けられた。

分類基準は次の通りとした。

- ①同一方向をもち隣接して畝間が確認できるもの
- ②畝間の間隔は0.2～1.5mで、長さが同じもの
- ③畝間の深さは多少の差があるが、確認できるもの（平均4～10cmのもの）が多い。ただし畝間の間隔の広いものは上半部が削平された可能性が高い。

しかし、複雑に入り組んでおり、同時につくられた畝が確定できないこともあって、区画自体の大きさがつかめるものではない。畝は直上遺構であるHr-FA下水田によって破壊されたと考えられる。また図322にもあるようにいくつかのグループを切る溝状の畝間遺構や、短い溝状の畝間などは、ある時間幅の中で耕作された畝の重複を表わすものと解釈したい。

耕作土 As-Cを含む黒色土である。

出土遺物 図323にみられるように、主に古墳時代前期の土器が埋没土から出土している。これらは、

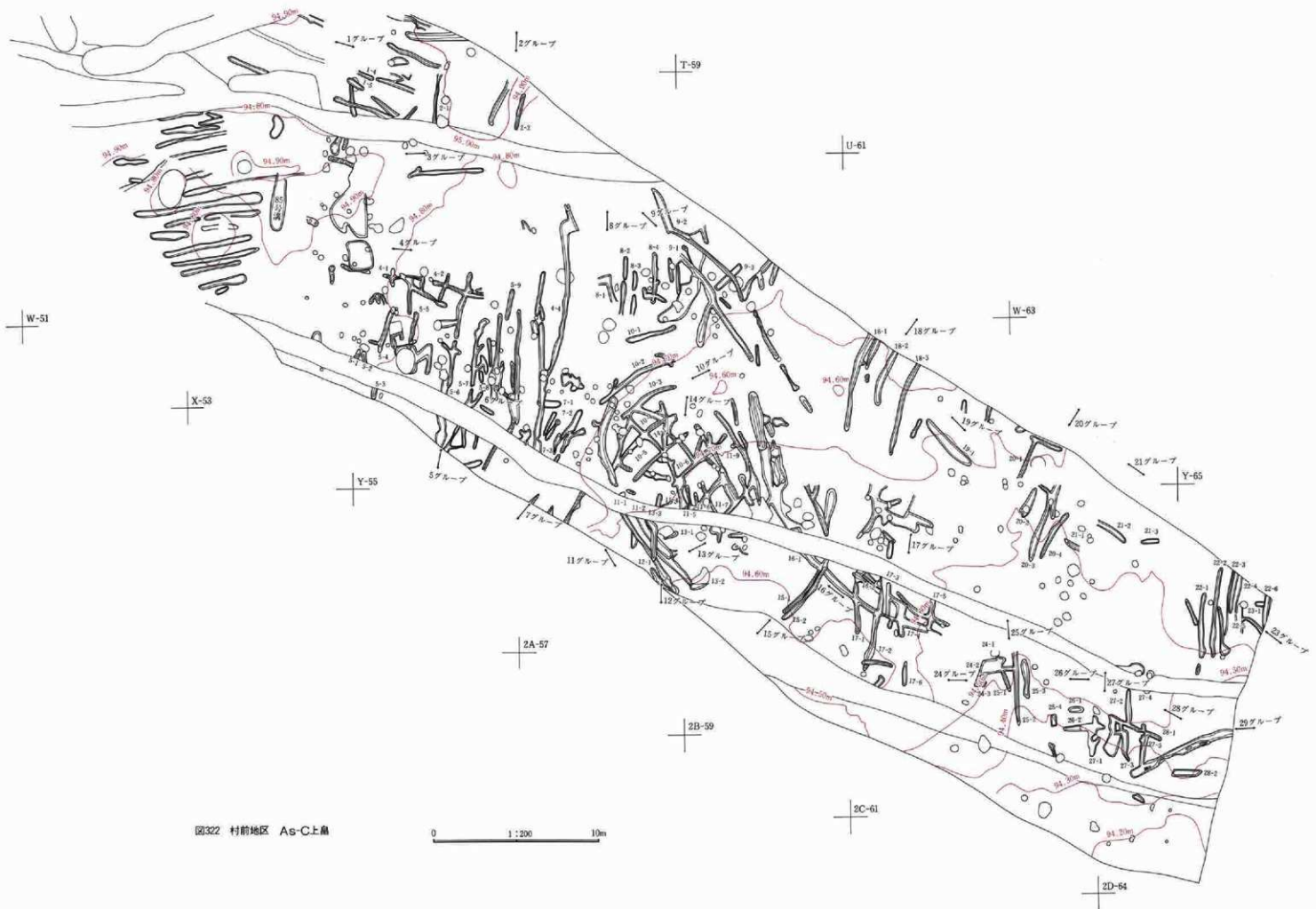


図322 村前地区 As-C上層

0 1:200 10m

本品の下層にある住居跡が畝たてをする際に破壊され、住居内に残されていた土器が踏みこまれて、耕

作土に露出したものと思われる。(相京・麻生)

第4次調査区As-C上畝の畝間群の位置と規模 (単位:長さ=m、面積 m^2)

グループ名	畝間の数	グリッド	畝間の最長距離	畝間の距離	畝間の方向	面積	備考
1	5	S-T-55	4.0	0.7-1.4	北北東-南南西	24.5	
2	2	S-T-56-57	4.0	5.0	東西	22.0	
3	1	U-55-56	4.5		南北		
4	2	V-55-56	9.0	0.8	南北	15.0	
5	11	W-55, W-X-56-57	8.0	1.0	東西	150.0	
6	1	X-56	0.7		南北		
7	3	Y-57	2.0	0.9	西北西-東南東	45.0	
8	4	V-58	3.0	0.5	東西	14.0	
9	2	U-58-59, W-59-60	13.0	1.0	北東-南西	28.0	
10	6	V-X, Y-59, W-X-58	5.0	1.5	北北西-南南東	72.0	
11	10	W-59, X-58-59-60	7.0	0.4-1.5	東北東-西南西	54.0	
12	2	Y-Z-58	4.5	0.8	東西	4.0	
13	4	X-Y-58-59	2.5	3.0	北北西-南南東	24.0	
14	2	X-58	2.5	0.7	東西	3.0	
15	2	Y-Z-60	4.5	0.2	北西-南東	9.0	
16	2	Y-Z-60, Z-61	9.5	1.0	北北東-南南西	18.0	
17	7	Y-Z-2A-61	4.0	0.3-1.0	東西	60.0	
18	5	W-X-61	4.0	0.3-1.0	西北西-東南東	18.0	
19	1	X-62	3.5		北東-南西		
20	4	X-Y-63	3.5	0.5-0.9	西北西-東南東	26.0	
21	3	Y-63-64	2.5	1.5	北北東-南南西	24.0	
22	6	Z-2A-65	5.5	0.2-1.2	東西	30.0	
23	1	Z-65-66	1.5		北東-南西		
24	3	2A-62	2.0	0.3-0.4	東西	6.0	
25	4	2A-62-63	2.7	0.3-0.7	南北	16.0	
26	2	2A-63-64	3.0	0.4	東西	2.5	
27	5	2A-2B-64	4.5	0.2-0.8	東西	20.0	
28	2	2A-64, 2B-64-65	2.0	2.3	南北	18.0	
29	1	2B-64, 2A-2B-65	6.0		北北西-南南東		

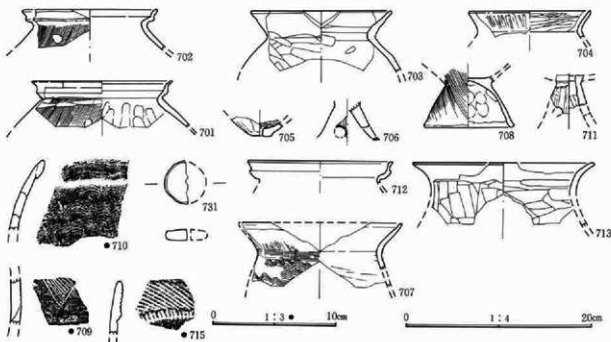


図323 村前地区As-C土畝出土遺物

3. 下り柳地区の畠

As-B下畠 (第4次調査地区右岸)

付108-1, 108320-324, PL61-1-2

被覆層と畠の残存状況 S-13-15グリッド、T-13・14グリッドで検出された。周辺は送電線用の鉄塔、現染谷川護岸工事、道路建設等で攪乱が激しく、本遺構を確認できる状態ではなかった。畠は地表下約50cmで検出され、その上層は約10cmのAs-Bに直接覆われている。

畠面の残存状況は火山灰の純層で覆われていたため、比較的良好である。当時、畠はあまり高くなかった様子であり、畠間の深さは3〜4cmと確認できた。

畠地の地形 畠の確認できた地点は下り柳地区最上流部分である。現地形ではほぼ南流してきた染谷川が、この付近で大きく東に蛇行し、そしてまた南流している。この再び南流する右岸にあたり、畠の確認できるS-15グリッド以南では同時期の畠や水田

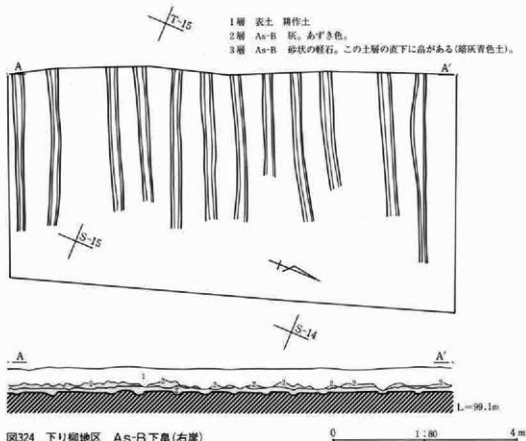
跡が検出されなかった。詳細は不明である。

畠の走向と区画 畠の走向はN-59°-E方向であり、東北東-西南西方向に平行な12条の畠間が確認できた。畠間の底幅は約10-20cmである。1単位の畠と畠間を合わせた幅は約60cmであるが、調査区内の北2条と南2条分間の8単位の間が約1mの間隔であいており、1単位分の畠間が確認できなかった。この部分に畠の区画があるのかは判然としない。区画施設はその他にはない。

耕作土 黒色化した土壌である。わずかにAs-Cを含む。

出土遺物 なし。

(相京)



Hr-FA 上畝 (第4次調査地区左岸)

付図9-1, DR320-325, PL61-3-4

被覆層と畝の残存状況 N-8~10グリッドで検出された。同地区には以前養魚場があり、当時、この周辺の削平されている部分が南西側にある。畝はAs-B層下、砂状の軽石を含む土層内で検出された。

畝の残存状況は比較的良好である。畝と畝間との深さの関係は確認した中では約3~9cmである。畝と考えられる部分の盛土としてのとらえ方はできない。

畝地の地形 畝の確認できた部分は下り柳地区左岸最上流部分であり、現染谷川が南流するが、この付近は大きく西から東へ流れを変え、再び南流する地点である。N-8~10グリッドではAs-B層下砂状の軽石を含む土層内で畝の畝間が検出されたが、N-11グリッド以南では同じAs-B層下で水田が検出された。土地利用の変遷点と考えられるが、畝跡と水田跡の境には遺構としてとらえられるような施設は未検出であった。

畝の走向と区画 畝の走向はN-66°-Eであり、東北東-西南西方向に平行な21条の畝間が確認・検出できた。1単位の畝と畝間を合わせた幅は約50~60cmであり、ほとんど当間隔に並んでいる。調査区内では南側にAs-B水田が近接しているが、これを意識して区画した施設は見当たらなかった。他3方向は調査区外へ遺構が延びるため、範囲の確定は不可能であった。

耕作土 As-Cの混入する黒色土である。

出土遺物 なし。

(相京)

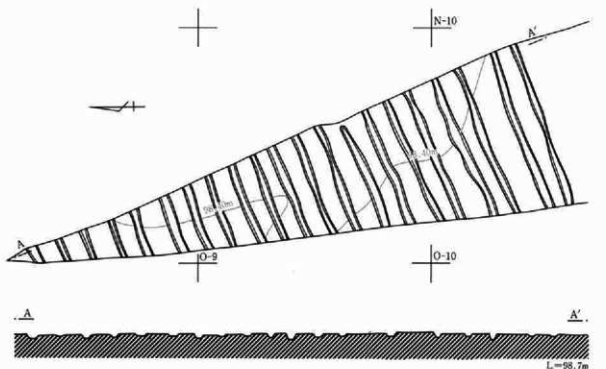


図325 下り柳地区 Hr-FA上畝(左岸)

0 1:80 4m

Hr-FA 下畝 (第4次調査地区)

付図9-1, 図320-326, PL61-5

被覆層と畝の残存状況 Hr-FA によって埋没した水田址とはほぼ接する形で、その西側に位置する。この畝址は、畝間がはっきりと検出されているのに対して、畝そのものは大部分が削平されてしまっている。また現在の農業用水路によって一部を壊されており、そのために西側の端がはっきりしないものも何本か存在する。さらに、西端を考えるうえで12号溝、あるいは染谷川への傾斜による消滅も考えられる。一方、東側ではほぼ一線上に近い形で畝が消滅していることから、その部分が東端だと考えられる。

畝地の地形 現在の染谷川に向かって東側から西側に緩い傾斜を呈しているが、それに直交するような形で検出されている。また、この畝の東端際にまで水田址が広がっており、畝の東端ラインの南で水田区画の形が変化している。これは東側のやや低い部

分を水田としたのに対して、西側の部分的な高まりを畝とした結果であり、微地形を利用した生産址と考えられる。

畝の走向と区画 残存が確認されている畝間の本数は9本であり、おそらくは畝も9本と考えられる。走向は東北東から西南西の方向を主軸とする。確認できる畝間の幅は20~40cmの範囲に集中しており、畝間の中心部分からの幅もそれぞれが約60~90cmの範囲である。また、区画そのものははっきりとしていないが、現存する範囲は東西幅が6m、南北幅は少なくとも7mである。

耕作土 As-Cを含む黒色土である。

出土遺物 なし。

(麻生)

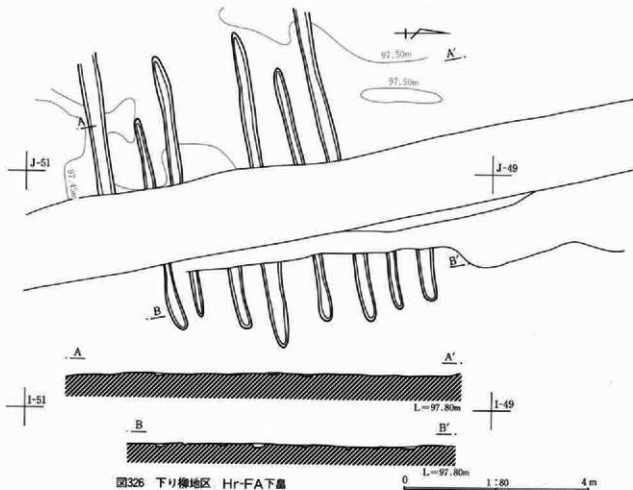


図326 下り柳地区 Hr-FA下畝

写 真 图 版



1. 新保田中村前遺跡遺景(南から昭和59年撮影) 後方は赤城山



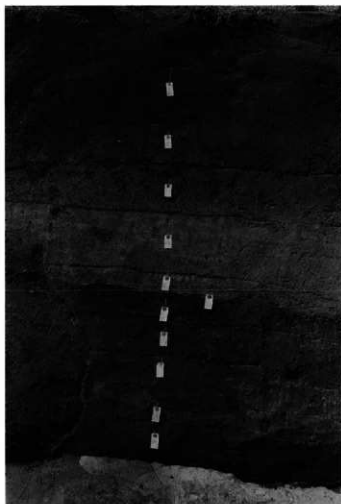
2. 新保田中村前遺跡 村前地区(北から)



1. 村前地区 37ライン地山土層断面(南西から)



2. 村前地区 南端66ライン付近He-FAより下層の土層断面(北から)





1. 村前地区 1次調査区As-B下(北から)・左前方はHr-FA下水田



2. 村前地区 昭和59年度調査区 As-B下全景(南から)



1. 村前地区 昭和60年度調査区 北平全景(北から)



2. 村前地区 昭和60年度調査区 南平全景(北から)



1. 3号・4号溝土層断面(南から)



2. 3号・4号溝遺物出土状態(南東から)



3. 3号・4号溝土層断面(南から)



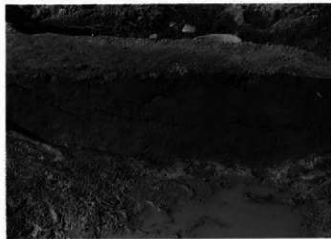
4. 3号・4号溝全景(西から)



5. 3号・4号溝全景(東から)



6. 3号・4号溝屈曲部(北西から)



7. 10号溝土層断面(東から)



1.11号溝全景(西から)



2.11号溝下部木器出土状態(西から)



3.11号溝木器出土状態(西から)



4.11号溝納のある木器(西から)



5.11号溝底面(東から)



6.27号溝全景(北から)



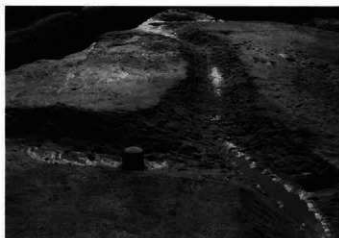
7.29号溝全景(西から)



1. 1号・2号溝全景(北から)



2. 1号・2号溝と西方に広がるAs-B直下面(北から)



3. 2号溝南端部(北東から)



4. 4号～7号溝全景(南から)



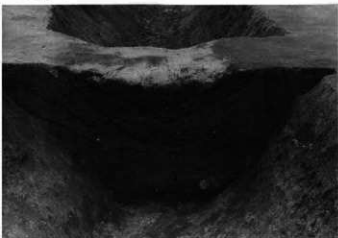
5. 5号～7号溝全景(西から)



6. 5号溝と灌井状のおちこみ(南から)



7. 7号溝底面の掘りこみ(E-5グリッド)(北から)



1.9号溝土層断面(南から)



2.13号～16号溝土層断面(南から)



3.15号溝全景(南から)



4.16号西溝全景(北から)



5.16号溝土層断面(東から)



6.16号溝屈曲部(北から)



1.18号溝全景(西から)



2.18号溝底面のウォーターホール(南から)



3.20号溝(左)・21号溝(右)全景(西から)



4.21号溝全景(南から)



5.25号溝土層断面(西から)



6.26号溝全景(南から)



7.30号溝土層断面(南から)



8.30号溝と先行する5号～7号住居



1. 31号 - 32号溝全景(東から)



3. 34号溝土層断面(西から)



2. 33号溝全景(東から)



4. 昭和60年度調査区 34号溝全景(北から)



5. 35号溝全景(東から)



1.37号溝全景(南から)



2.38号溝土層断面(南から)



3.38号溝全景(北から)



4.39号溝全景(南から)



5.41号溝全景(北から)



1.43号溝土層断面(西から)



2.43号・49号溝土層断面(西から)



3.43号・48号溝土層断面(西から)



4.45号～47号溝全景(北から)



1.48号・60号溝土層断面(南から)



2.49号溝土層断面(南から)



3.56号・61号溝土層断面(南から)



4.56号・58号溝土層断面(北西から)



5.56号～60号溝全景(北西から)



1.56号・59号溝土層断面(南から)



2.56号溝土層断面(北から)



3.57号・58号溝土層断面(南から)



4.58号溝遺物出土状態(南から)



5.59号溝遺物出土状態(南西から)



6.60号溝土層断面(西から)



7.昭和61年度調査区 溝群の調査(南から)



8.昭和61年度調査区 溝群の調査(北から)



1.51号～55号溝・63号溝全景(北から)



2.51号・52号溝全景(北から)



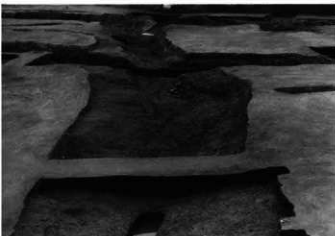
3.51号溝土層断面(南西から)



4.51号・53号溝土層断面(南西から)



5.52号溝土層断面(南から)



1.53号溝全景(西から)



2.53号溝遺物出土状態(Z-63グリッド)(南から)



3.54号・64号溝土層断面(西から)



4.55号溝土層断面(西から)



5.57号・61号溝土層断面(西から)



6.61号溝・65号住居土層断面(南から)



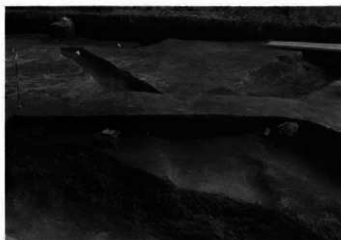
7.61号溝・30号・31号住居土層断面(南西から)



8.61号溝須恵器出土状態(東から)



1. 狐を描く61号溝(左下に72号溝)(北から)



2. 68号・69号溝土層断面(南から)



3. 70号溝全景(西から)



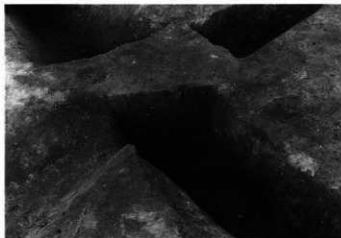
4. 71号溝東半全景(西から)



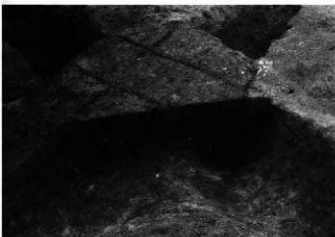
5. 72号溝土層断面(北から)



1. 78号溝土層断面(西から)



2. 79号・80号溝土層断面(西から)



3. 79号・81号溝土層断面(西から)



4. 善勝寺堰(北から)



5. Hr-FA期の洪水堆積物(西から)



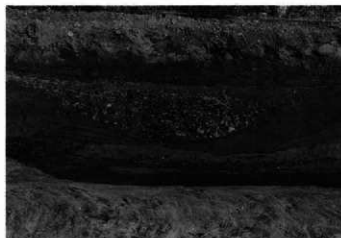
1. 村前地区 昭和60年度調査区 南半全景(南から)Hr-FA下



2. 24号溝土層断面(南から)



4. 24号溝(K・L-34・35グリッド)(北から)



3. 24号溝土層断面(西から)



5. 24号溝(K・L-23~28グリッド)(南から)



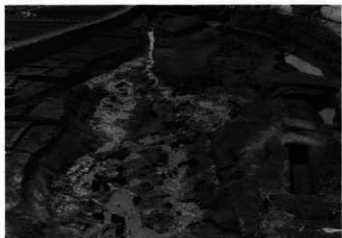
1. Hr-FA下水田と24号溝(北から)



2. 24号溝木器(644)



3. 75号溝全景(西から)



4. 1号河川跡と44号溝(北から)



5. 1号河川跡と44号溝(南から)



1.77号溝遺物出土状態(西から)



2.77号溝全景(南から)



1. 77号溝土層断面(西から)



2. 77号溝北縁出土弥生土器(225)(西から)



3. 77号溝木器出土状態(西から)



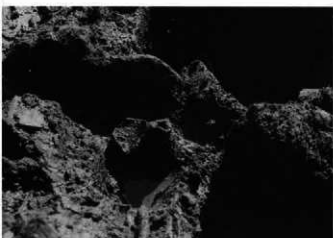
4. 77号溝木器出土状態(北西から)



5. 77号溝木器出土状態(西から)



6. 77号溝木器出土状態(南から)



7. 77号溝ひょうたん出土状態(西から)



8. 77号溝管玉出土状態(西から)



1.86号溝塚(南から)



2.86号溝塚(西から)



1.86号溝壁(北東から)



2.86号溝しがらみ(北西から)



3.86号溝しがらみ(西から)



4.86号溝しがらみ、カヤ(東から)



5.86号溝しがらみ、カヤ近推(東から)



1.86号溝しがらみ、カヤと構築材(北から)



2.86号溝しがらみ構築材(北から)



3.86号溝二股継出土状態(南西から)



4.86号溝木器出土状態(西から)



1.86号溝しがらみ構築材(東から)



2.86号溝土層断面(南から)



1.87号溝木器出土状態(北から)



2.87号溝杭出土状態(東から)



3.87号溝杭断面(東から)



4.94号溝土層断面(東から)



5.93号溝土層断面(北から)



6.93号溝全景(西から)



7.95号溝全景(南西から)



8.95号溝高杯形土器(237)出土状態(南西から)



1. 95号～97号溝全景(南から)



2. 調査状況風景(北東から)



3. 作業風景(北西から)



1. 下り柳地区 As-B下全景(南から)



2. 1号・2号・5号溝全景(南から)



3. 1号溝全景(西から)



4. 2号溝全景(西から)



5. 4号溝全景(西から)



6. 5号溝全景(北から)



1. 6号溝全景(北から)



2. 8号・9号溝全景(南西から)



3. 8号・9号溝全景(北西から)



4. 23号溝全景(南東から)



5. 24号溝全景(西から)



1.22号溝全景(西から)



2.26号溝土層断面(西から)



3.26号溝全景(西から)



4.下り柳地区 Hr-FA底下面全景(南から)



5.Hr-FA下水田を横切って廻られた溝群(南西から)



6.10号溝土層断面(南から)



1.10号溝全景(東から)



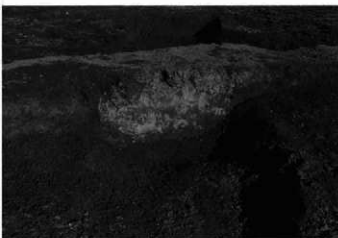
2.10号溝全景(西から)



3.11号溝全景(北から)



4.10号・13号溝土層断面(南から)



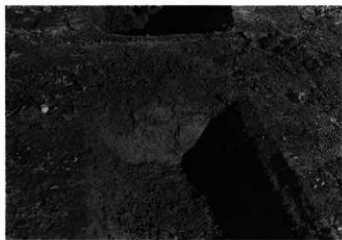
5.13号溝土層断面(南から)



6.13号・14号溝土層断面(南から)



1.13号溝と覆列(北から)



2.14号溝土層断面(南から)



3.14号溝全景(南から)



4.12号溝土層断面(南から)



5.16号溝土層断面(西から)



1.12号溝全景(北西から)



2.16号溝全景(南東から)



3.15号溝土層断面(西から)



4.15号溝西端(西から)



5.15号溝全景(東から)



1.26号溝全景(西から)



2.27号溝土層断面(西から)



3.28号・29号溝土層断面(南東から)



4.28号溝全景(西から)



5.29号溝全景(北西から)



1.30号溝全景(南東から)



2.34号溝全景(南から)



3.31号・32号・33号溝全景(西から)



4.右岸調査区の溝群(北東から)



5.右岸調査区の溝群(南から)



1.20号溝全景(北から)



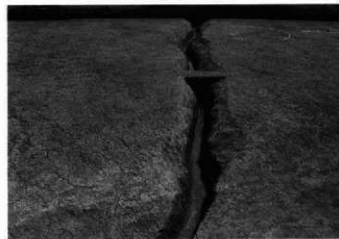
2.20号溝全景(南から)



3.灰色粘土層上面全景(北から)



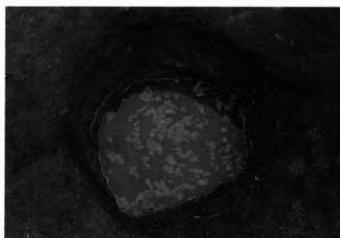
4.37号溝土層断面(西から)



5.37号溝全景(西から)



1. 1号井戸全景(西から)



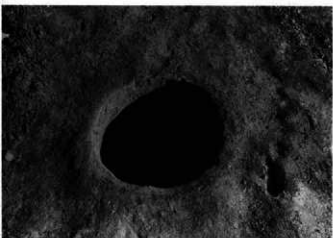
2. 2号井戸全景(南から)



3. 3号井戸全景(東から)



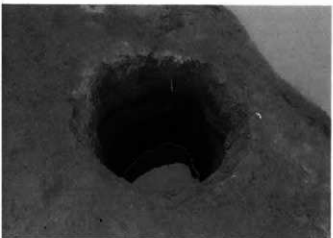
4. 4号井戸全景(南から)



5. 5号井戸全景(西から)



6. 6号井戸全景(北から)



7. 8号井戸全景(南から)



8. 9号井戸全景(北から)



1.10号井戸全景(北西から)



2.11号井戸全景(西から)



3.12号井戸全景(東から)



4.13号井戸全景(北西から)



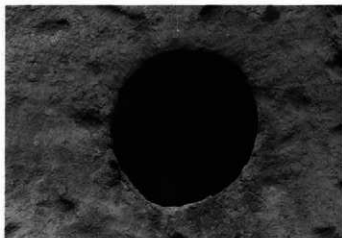
5.14号井戸全景(西から)



6.15号井戸全景(西から)



7.16号井戸全景(南東から)



8.17号井戸全景(北から)



1.18号井戸全景(北西から)



2.19号井戸全景(南西から)



3.20号井戸全景(南東から)



4.21号・22号井戸全景(東から)



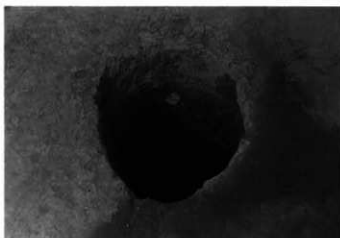
5.21号井戸全景(東から)



6.22号井戸全景(南から)



7.23号井戸全景(西から)



8.24号井戸全景(南東から)



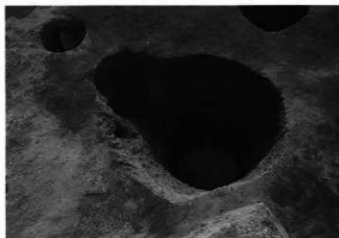
1. 25号井戸全景(北から)



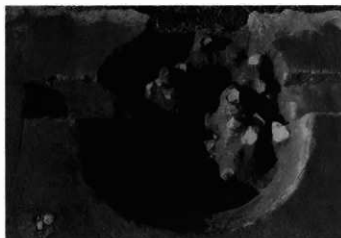
2. 26号井戸全景(北西から)



3. 27号井戸上層遺物出土状態(北から)



4. 27号井戸全景(北から)



5. 28号井戸上層遺物出土状態(南から)



6. 28号井戸全景(東から)



7. 29号井戸上層遺物出土状態(東から)



8. 29号井戸全景(東から)



1.30号井戸土層断面(南から)



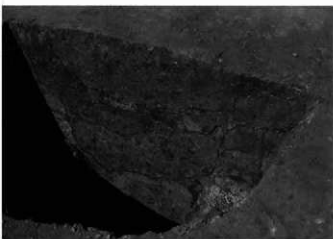
2.30号井戸全景(南西から)



3.31号井戸全景(南西から)



4.32号井戸全景(北から)



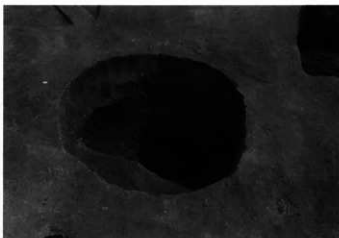
5.33号井戸土層断面(南から)



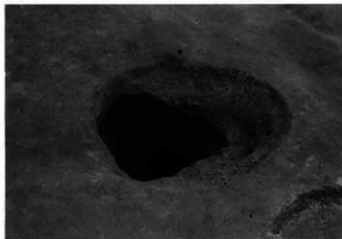
6.33号井戸全景(西から)



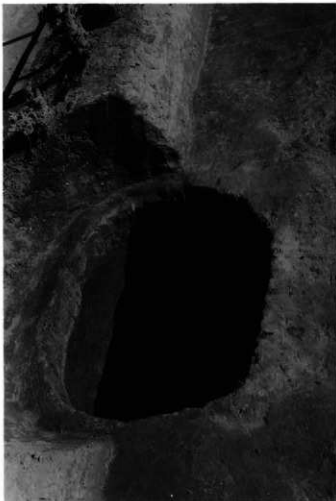
7.34号井戸土層断面(南から)



8.34号井戸全景(西から)



1. 35号井戸全景(北西から)



3. 36号井戸全景(南西から)



2. 36号井戸土層断面(南から)



4. 下り柳地区 1号井戸全景(西から)



5. 下り柳地区 2号井戸全景(西から)



6. 下り柳地区 3号井戸土層断面(西から)



7. 下り柳地区 3号井戸全景(西から)



1. 1号河川跡 - 44号溝全景 (南から)



2. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)



3. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)



4. 1号河川跡遺物出土状態 (南から)



5. 1号河川跡遺物出土状態 (北から)



1. 44号溝全景(南から)



2. 44号溝の杭列



3. 44号溝土器出土状態



4. 1号河川跡しがらみ状施設(西から)



6. 1号河川跡杭(W422)出土状態



5. 1号河川跡しがらみ状施設(南から)



7. 1号河川跡杭(W424)出土状態



1. 1号河川跡竈(W393)出土状態



2. 1号河川跡弓(W414)出土状態



3. 1号河川跡木器(W405・W406)出土状態



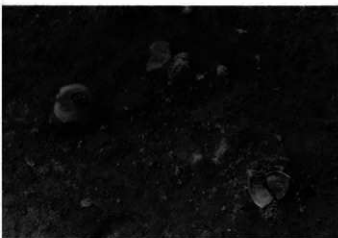
4. 1号河川跡土器(S381)出土状態



5. 1号河川跡土器(S277周辺)出土状態



6. 1号河川跡土器(S276)出土状態



7. 1号河川跡土器(S281周辺)出土状態



8. 1号河川跡石器(S168)出土状態



1. 2号河川跡土層断面(北から)



2. 2号河川跡土層断面(北西から)



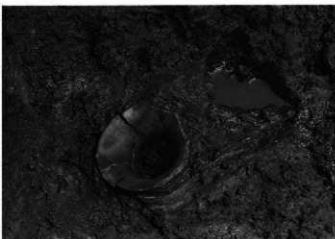
3. 2号河川跡土層断面(北東から)



4. 2号河川跡土層断面(北東から)



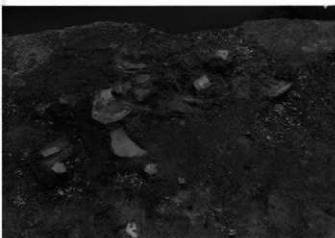
5. 2号河川跡第Ⅰ河道全景(北から)



1. 第Ⅱ河道(2C-64グリッド)土器出土状態(南から)



2. 第Ⅱ河道(2C-64グリッド)土器(374)出土状態(西から)



3. 第Ⅱ河道(2D-64グリッド)土器出土状態(北から)



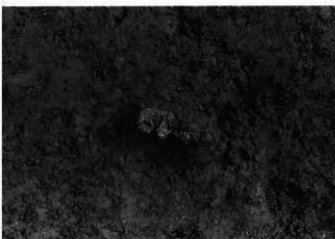
4. 第Ⅱ河道土器(378)出土状態(北から)



5. 第Ⅱ河道シカ角(B87)・イヌ下顎骨(B92)出土状態(南から)



6. 第Ⅱ河道シカ大腿骨(B51)出土状態(北から)



7. 第Ⅱ河道イノシシ骨(B1)出土状態(北から)



8. 第Ⅱ河道(2B-2C-64グリッド)遺物出土状態(西から)



1. 第Ⅱ河道木器出土状態(北から)



2. 第Ⅱ河道底面に並べられた転用木器(東から)



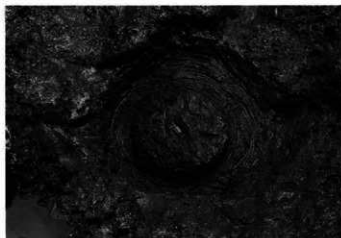
1. 第Ⅱ河道木器出土状態(西から)



2. 第Ⅱ河道木器出土状態(北東から)



3. 第Ⅱ河道転用材(北から)



4. 第Ⅱ河道環状葦製品(W333)出土状態(西から)



5. 第Ⅱ河道遺物とりあげ後全景(北から)



1. 第Ⅱ河道湾曲部木器出土状態(南西から)



2. 第Ⅱ河道湾曲部木器出土状態(南から)



3. 第Ⅱ河道全景・湾曲部遺物出土状態(南から)



4. 第Ⅱ河道底面の枕列(西から)



5. 第Ⅱ河道底面枕



1.第Ⅲ河道本器出土伏跡(西から)



2.第Ⅲ河道本器出土伏跡(北から)



3.第Ⅲ河道全景(北から)



4.第Ⅲ河道と善勝寺堰取水路(北から)



5.水器のとりあげ作業



1. 染谷川とHr-FA下水田検出区域(北から)



2. Hr-FA下水田水口(南から)



3. 小アゼの畚状区画(南から)



4. Hr-FA下水田(K-L-M-35~39グリッド)(南から)



1. Hr-FA下水田(L-N-42~45グリッド)(北から)



2. Hr-FA下水田(R-U-53-54、T-U-52グリッド)(西から)



1. 43号溝壁にあらわれた大アゼ(北西から)



2. 大アゼ横の水口(西から)



3. Hr-FA下水田(S-2 D-53-66グリッド)(北から)



4. 水口検出状況(北から)



5. 水田区画と水口(北から)



1. As-B下水水田全景(北から)



2. As-B下水水田(K-M-18~24グリッド)近景(北西から)



1.Hr-FA下水田全景(南から)



2.Hr-FA下水田全景(北から)



3.Hr-FA下水田(K-L-23グリッド)以南(北から)



4.Hr-FA下水田(L-M-16グリッド)以南(北から)



1. Hr-FA 下の水田区画(北西から)



2. 大アゼと小アゼによる小区画(西から)



3. 右岸側のHr-FA下水田(北から)



4. As-C下水田全景(北から)



1. As-C下の水田区画と水口の列(北から)



2. As-C下の水田区画(北西から)



3. As-C下の水田区画と水口の列(南から)



4. 村前地区畠(J-K-28~30グリッド)(北から)



1. As-C上畠開痕 (T・U-53グリッド) (西から)



2. 畠検出区域と染谷川 (北から)



3. As-C上畠開痕 (12・13グループ) (北西から)



4. As-C上畠開痕 (26・27・28グループ) (西から)



5. As-C上畠全景 (S-2 D-51-64グリッド) (北から)



1. As-B下畠土層断面(東から)



2. As-B下畠全景(北東から)



3. As-B下・Hr-FA上畠とHr-FA下水田(北から)



4. As-B下・Hr-FA上畠全景(西から)



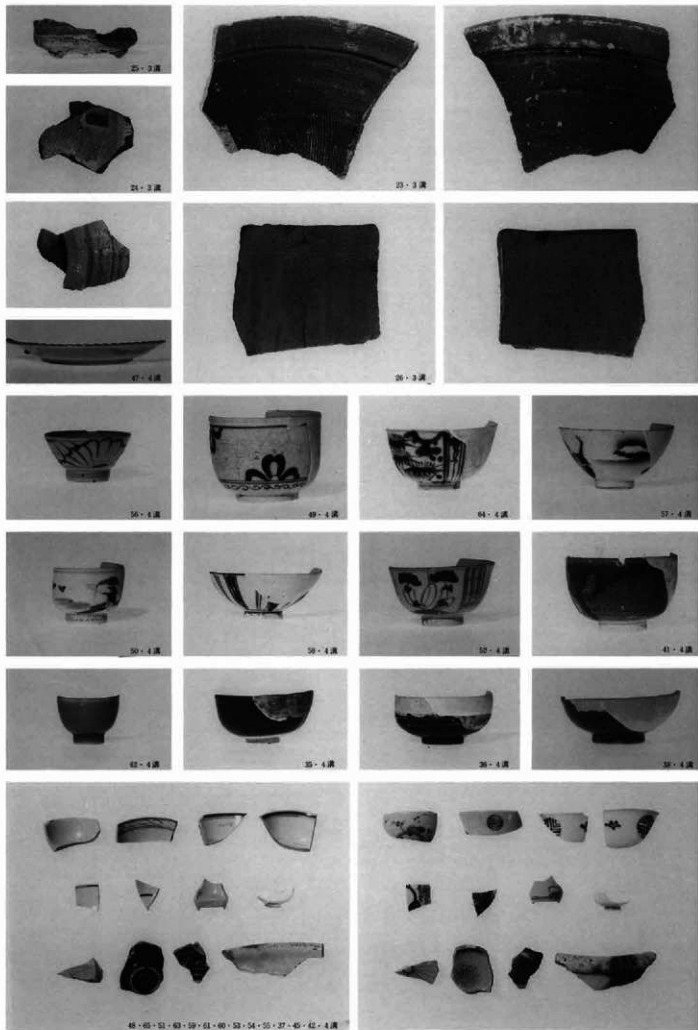
5. Hr-FA下畠全景(西から)

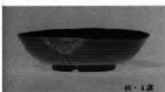


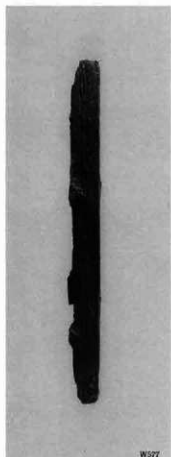
1.県立中央高校地震部の見学(南から)



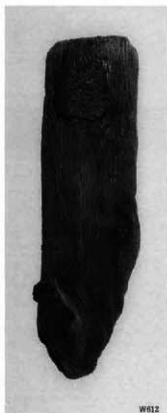
2.地元小学生の見学(南から)







W577



W612



W613



W582



W610



W611



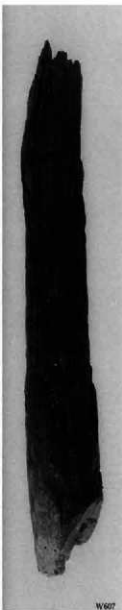
W578



W606



W605



W607



W608



W615



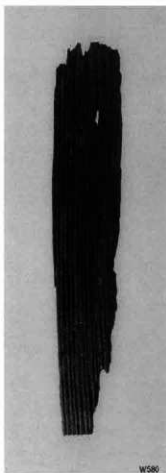
W616



W618



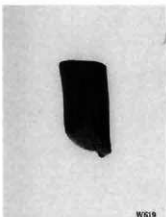
W621



W580



W609



W619



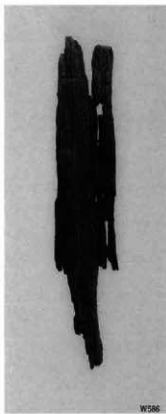
W617



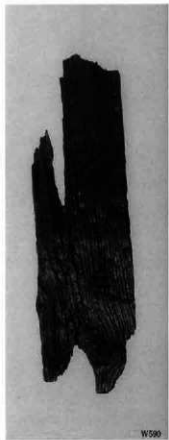
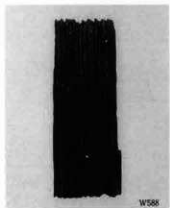
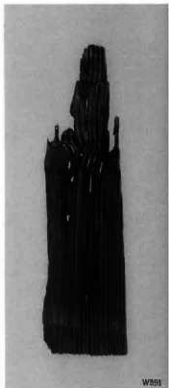
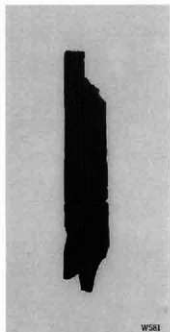
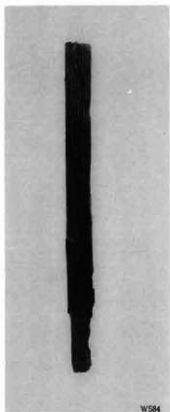
W620

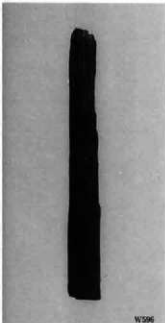
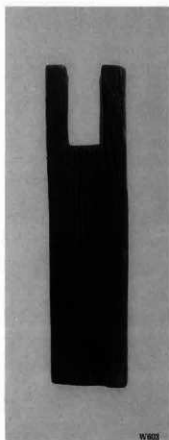


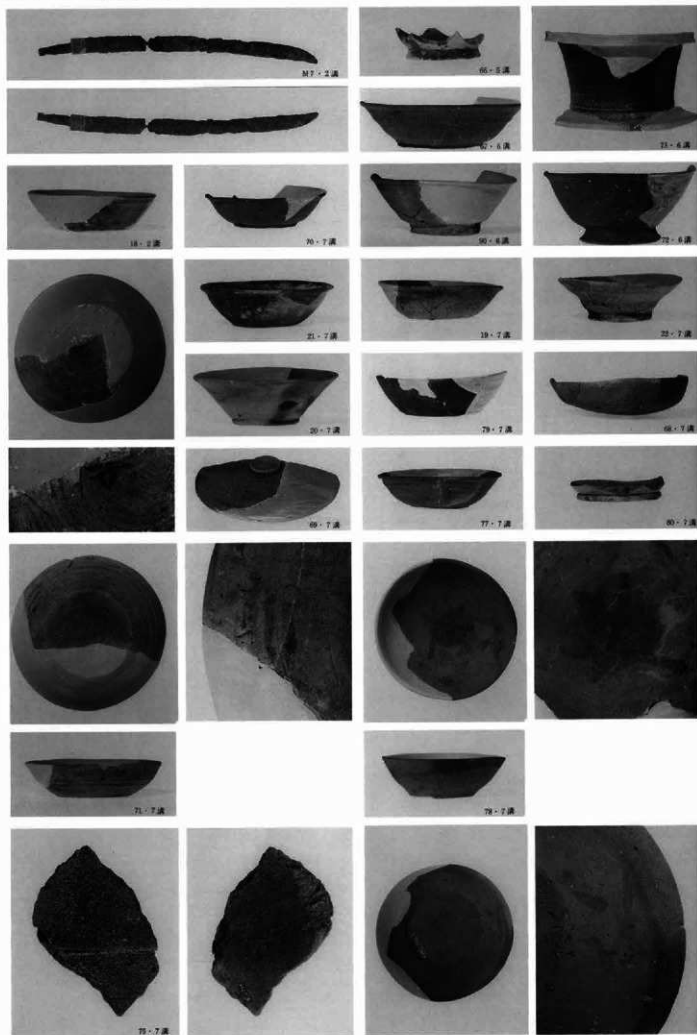
W614

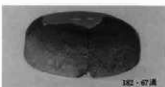
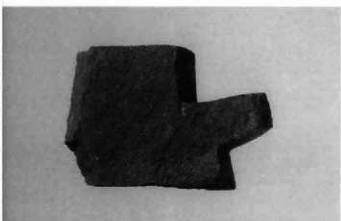


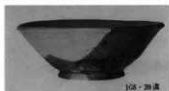
W586

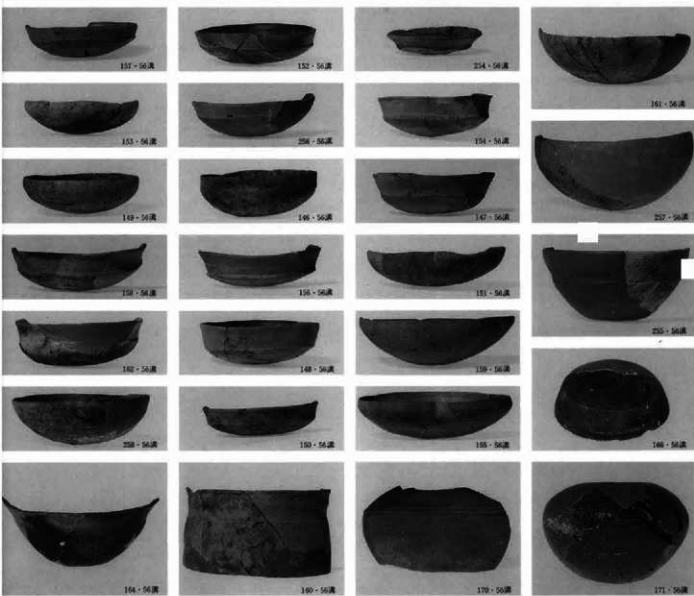
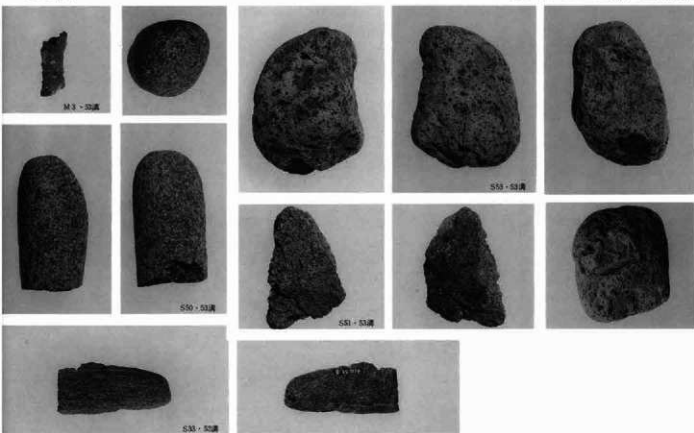


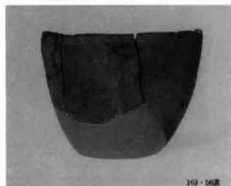












148・56歳



S 9・56歳



148・56歳



S 8・56歳



S 3・56歳



S 7・56歳



S 6・56歳



S 4・56歳



S 20・57歳



S 31・56歳

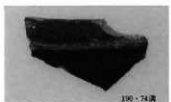
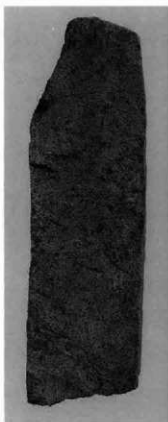
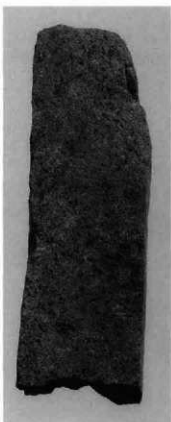
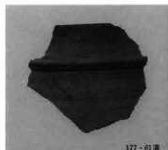


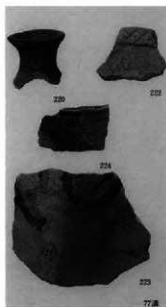
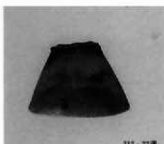
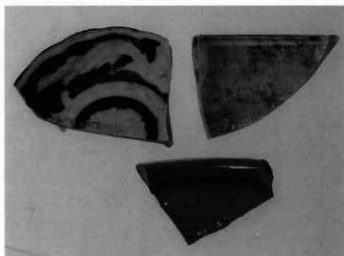
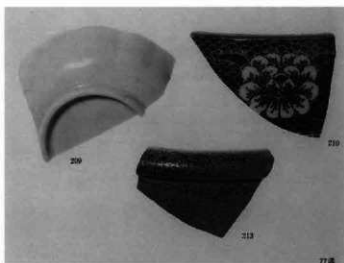
S 25・56歳

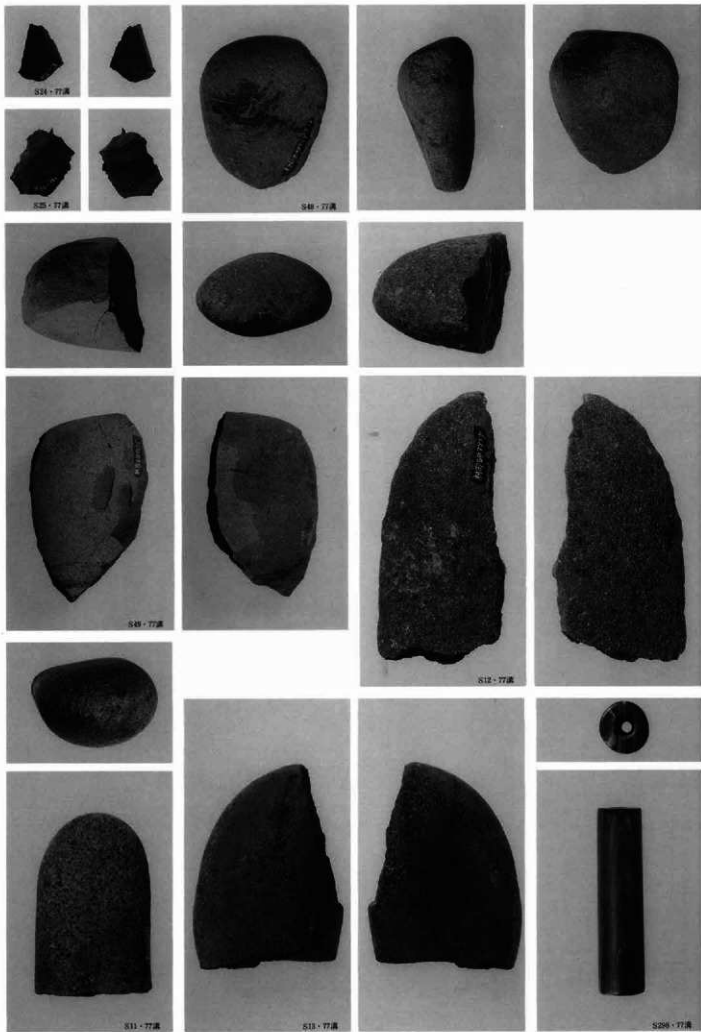


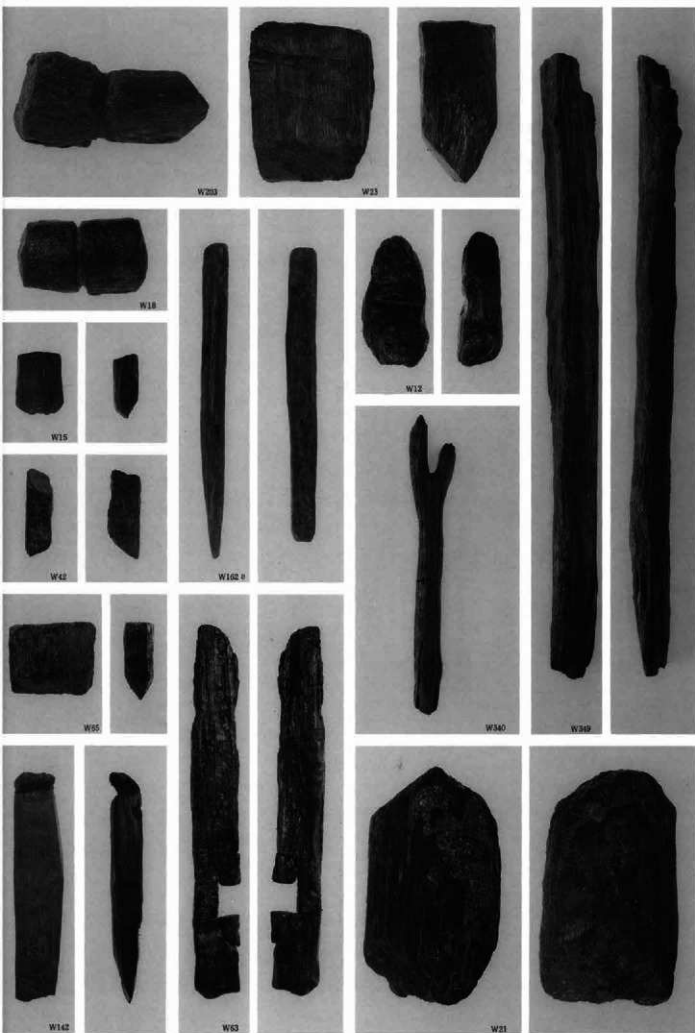
S 37・56歳

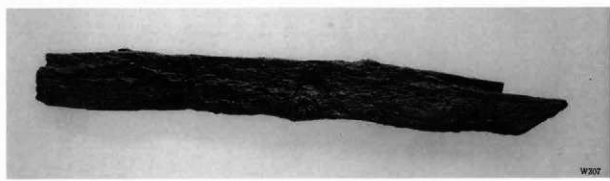
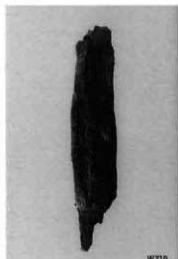
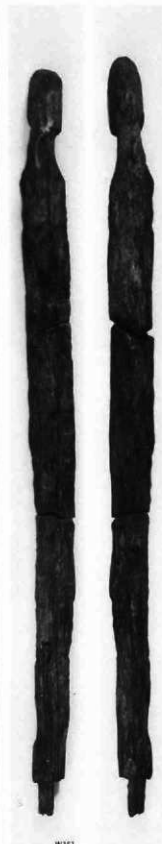














W271



W261



W179



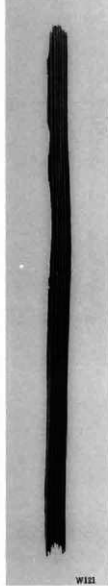
W220



W154



W345



W181



W41



W33



W197



W6



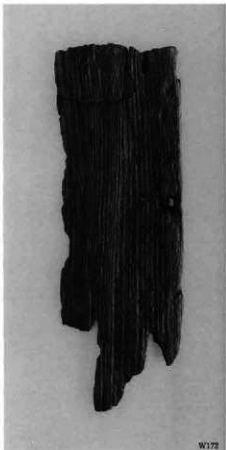
W58



W156



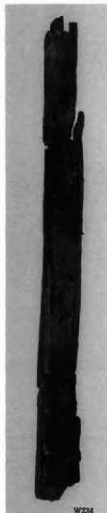
W172



W185



W37



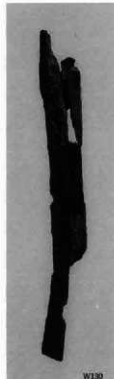
W224



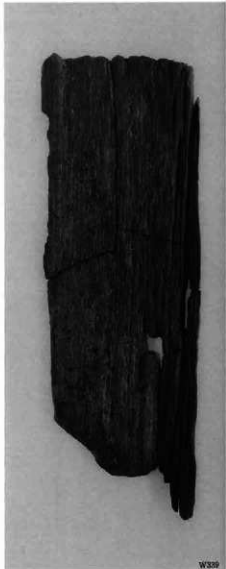
W124



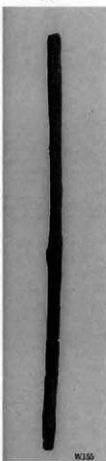
W341



W130



W339



W155



W196



W322



W200



W198



W18



W160



W214



W158



W210



W19



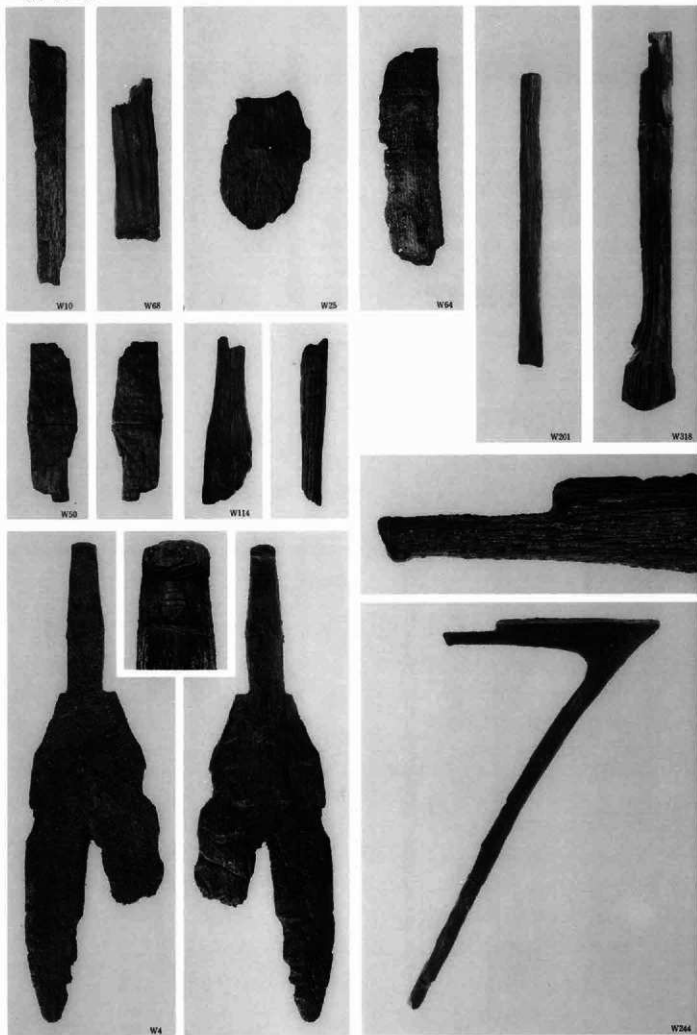
W17



W216



W70





W117



W1



W125



W45



W101



W183



W2



W261





W170



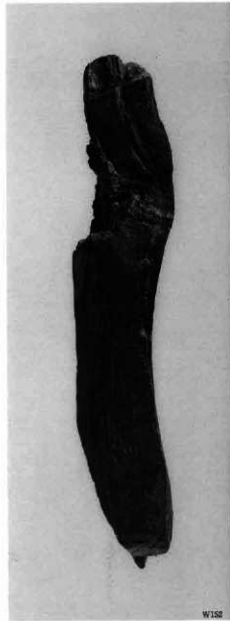
W305



W88



W166



W152



W342



W193



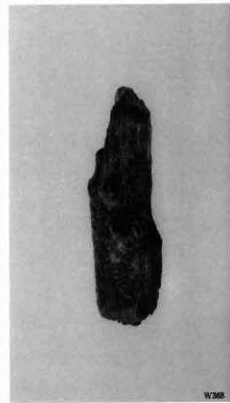
W28



W199



W75



W368



W125



W127



W134



W116



W223



W140



W123



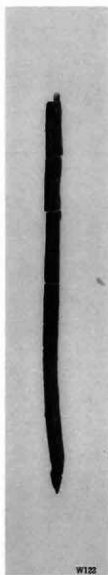
W119

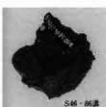
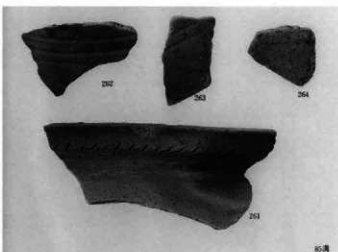


W218



W224







W312



W292



W305



W311



W273



W249



W238



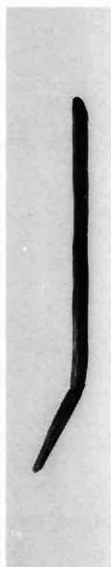
W329

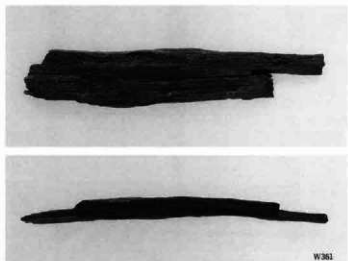
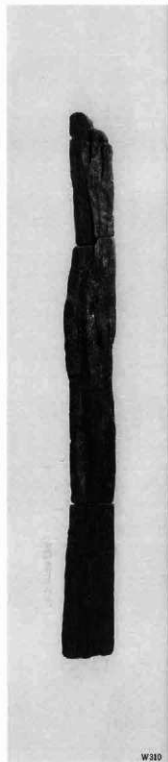


W311











W278



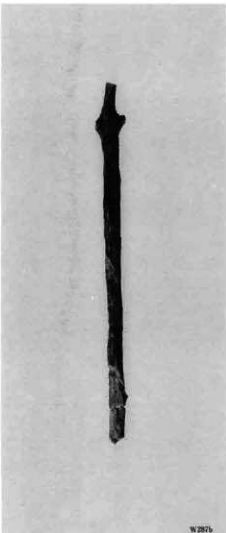
W308



W285



W224



W257



W286



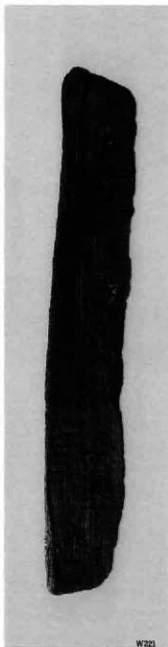
W290

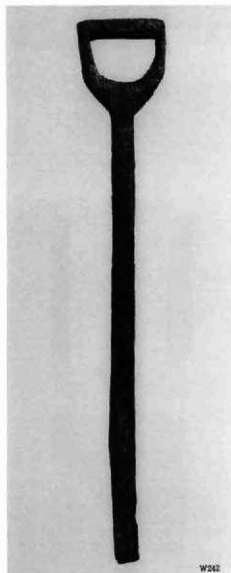
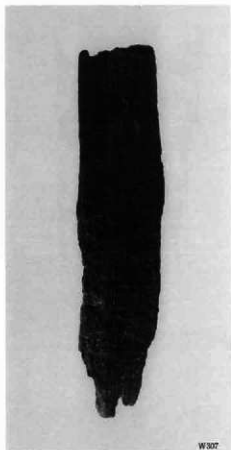


W287a



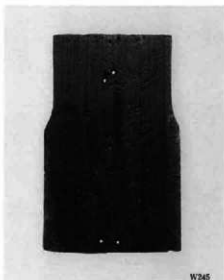








W3



W245



W290



W229



W350



W202



W256



W251



W253



W308



W232



M.1 - 井戸



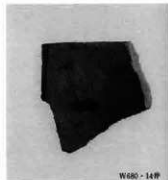
S221 - 14P



W1118 - 15P



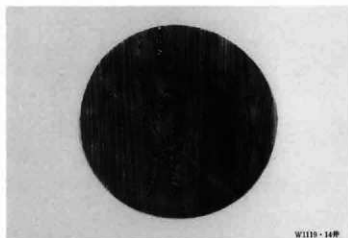
W1122



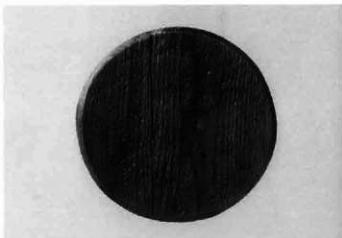
W680 - 14P



W1118 - 14P



W1119 - 14P

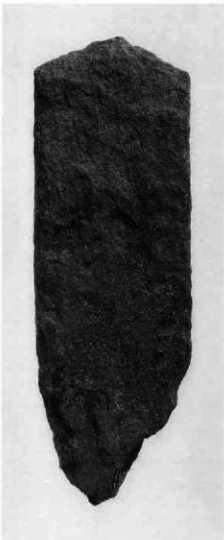
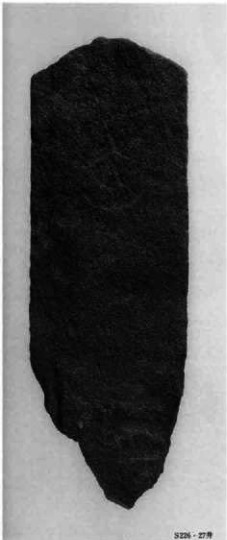


S222 - 19P

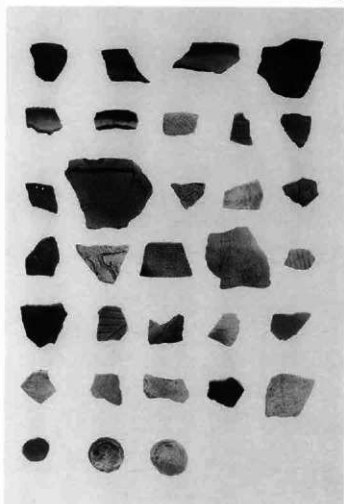
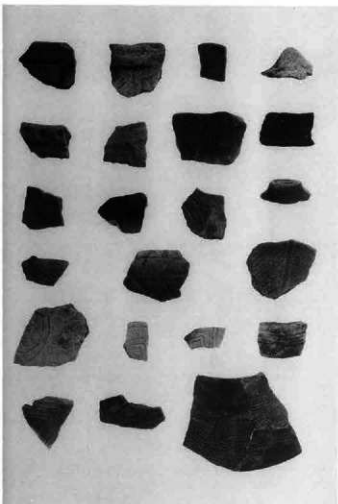


685 - 27P









265



266



269



268



270



268

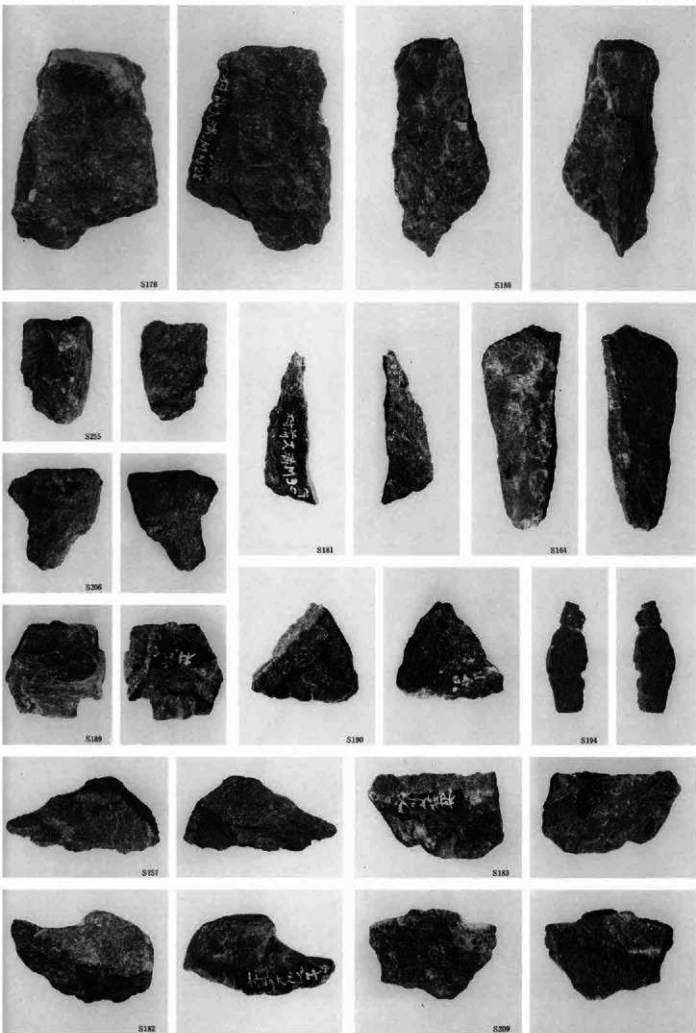


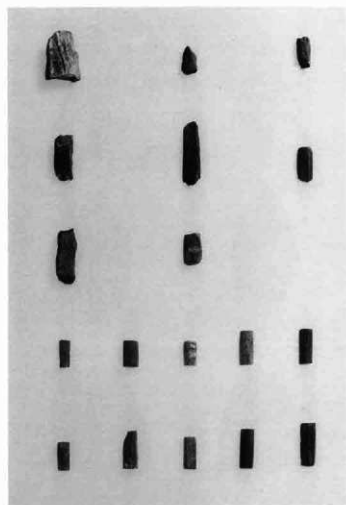
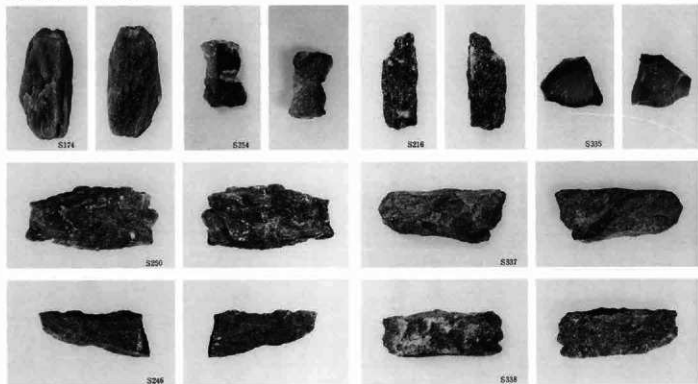
261



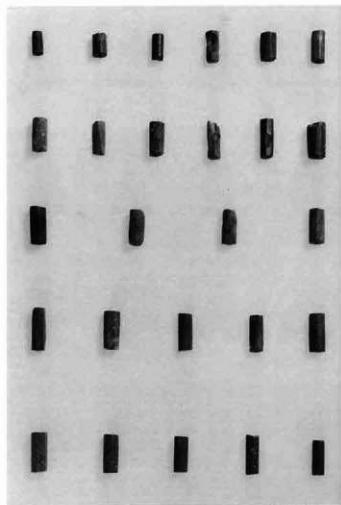
267



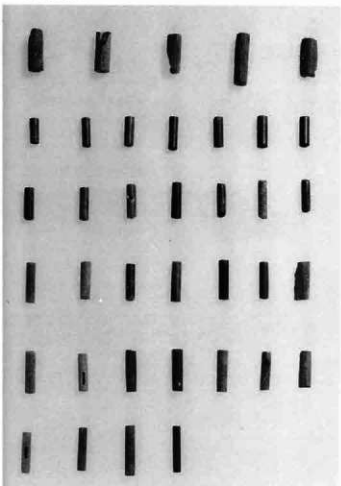




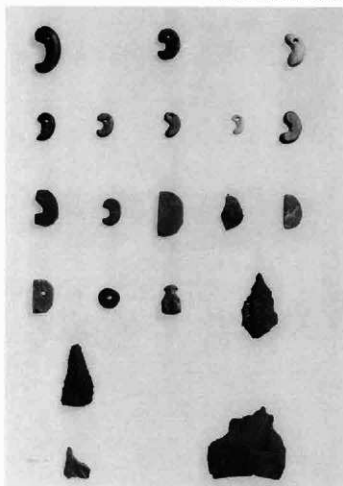
滑石製品 (1)



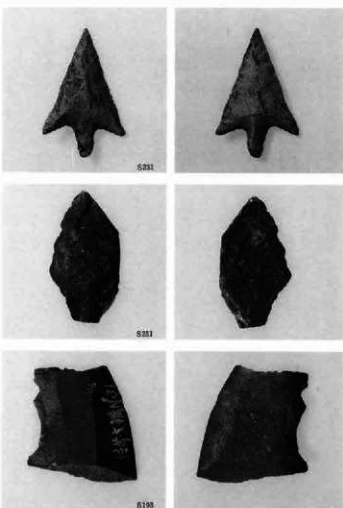
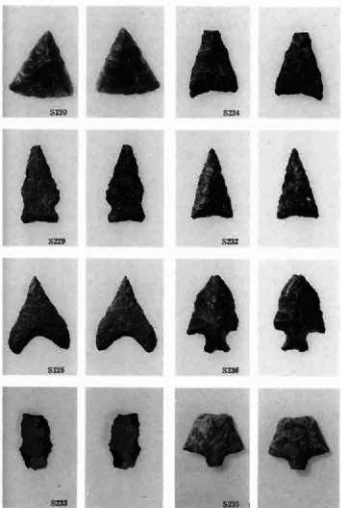
滑石製品 (2)

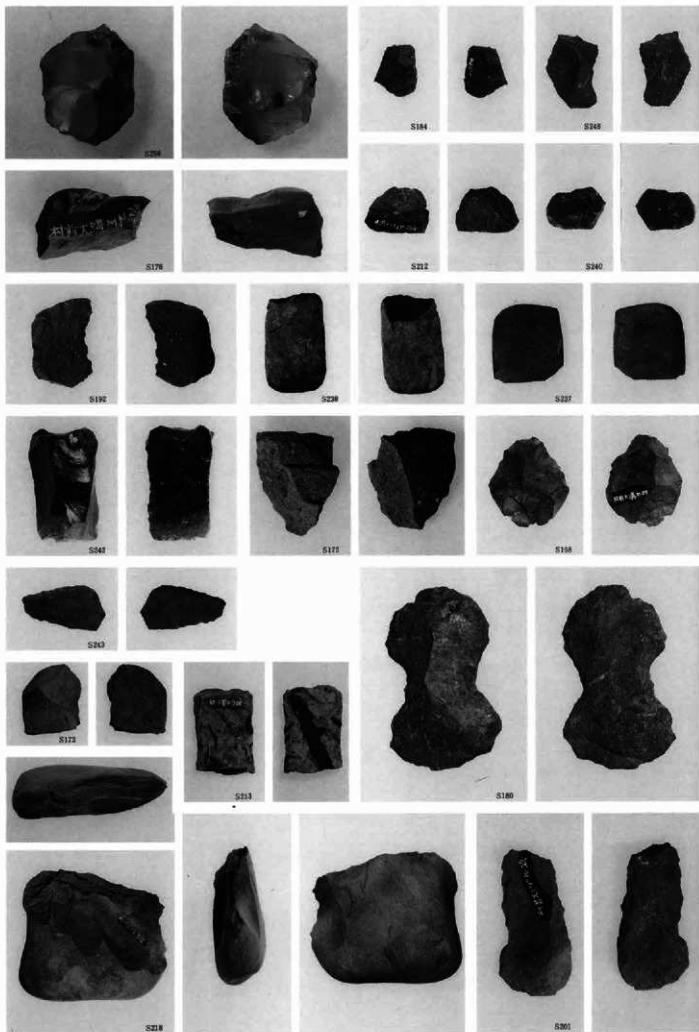


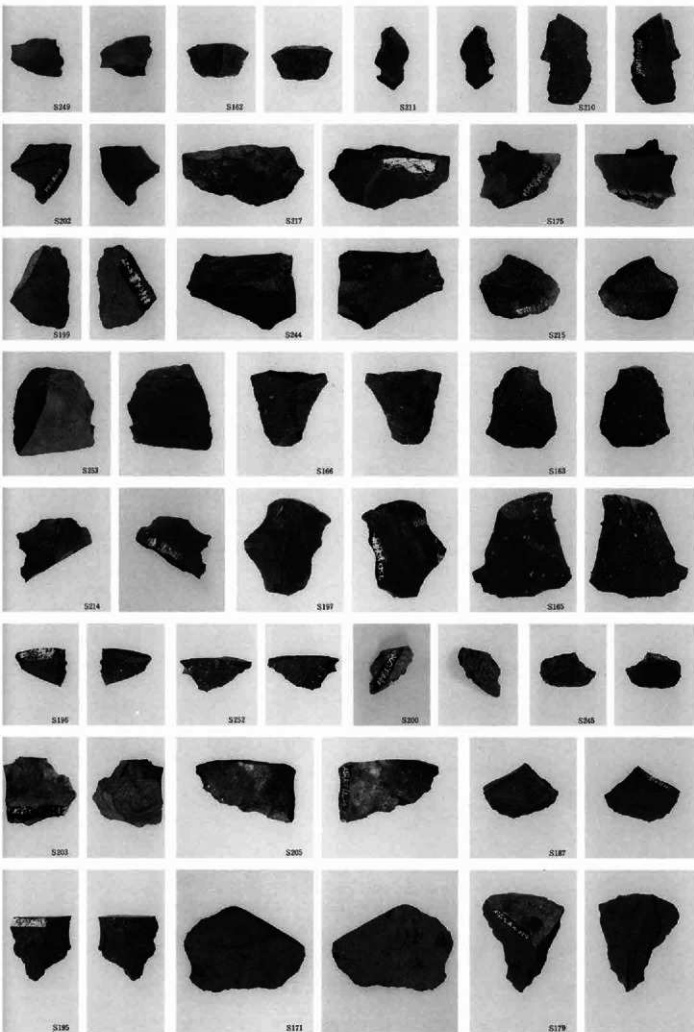
滑石製品 (3)



滑石製品 (4)











S208



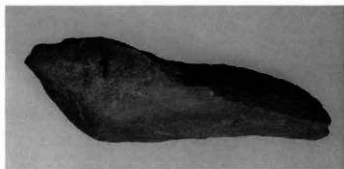
S167

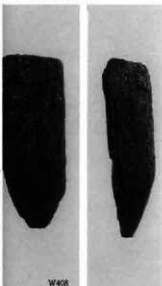


S169

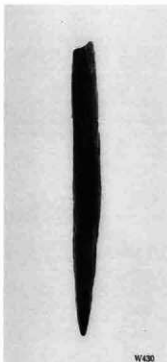


S166





W408



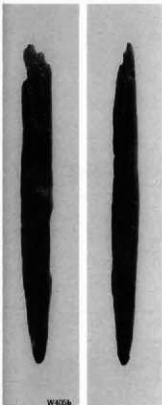
W430



W394



W431



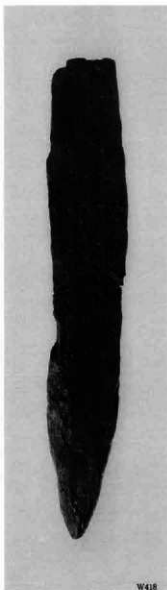
W425a



W432



W385



W416



W426



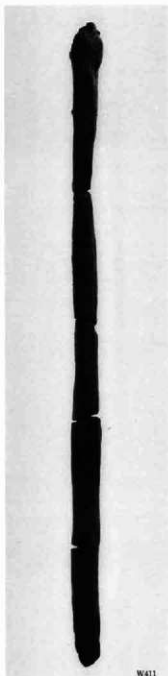
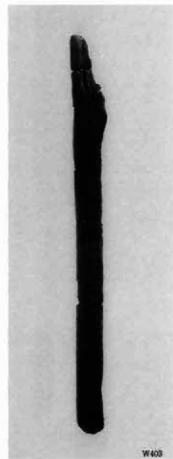
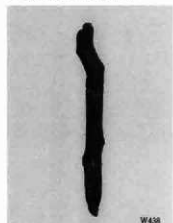
W423

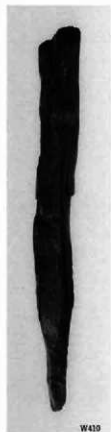
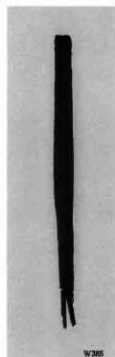


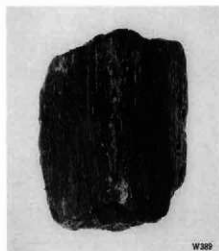
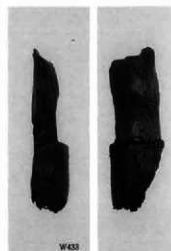
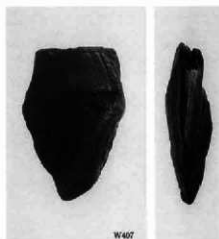
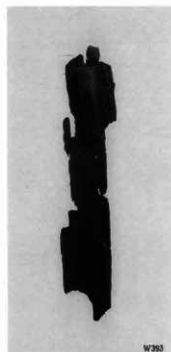
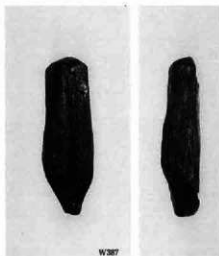
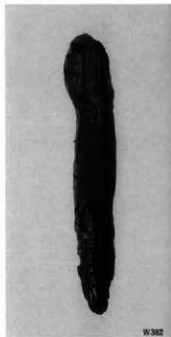
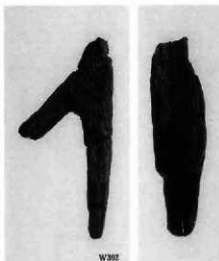
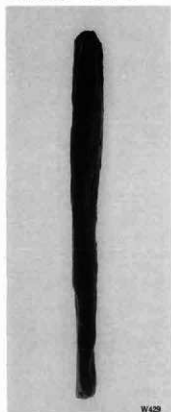
W436



W437





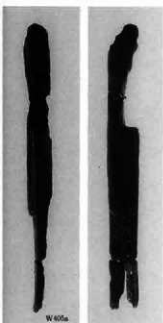




W420a



W424



W420a



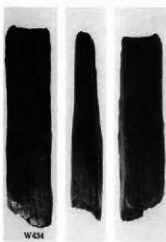
W439



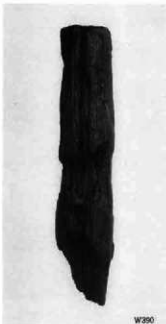
W388



W401



W434



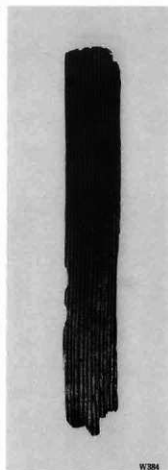
W390



W427



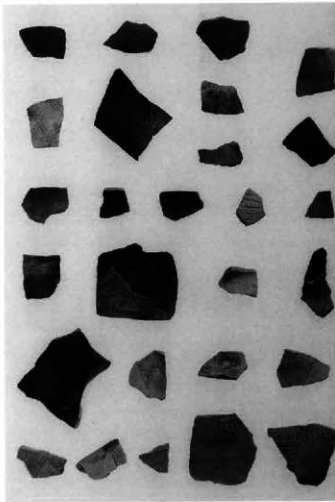
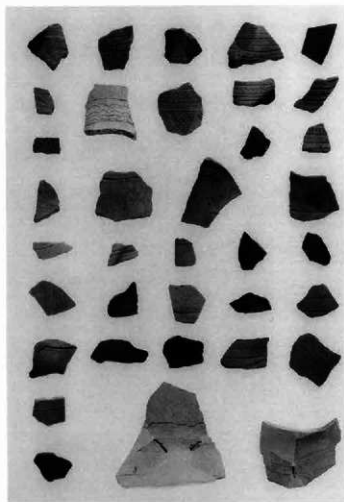
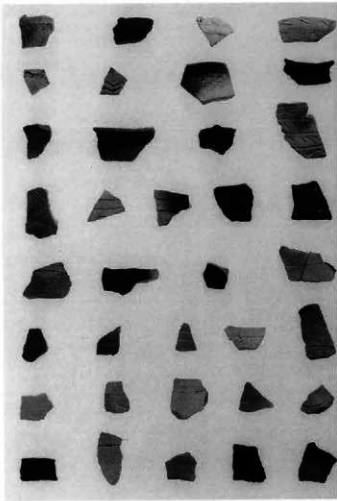
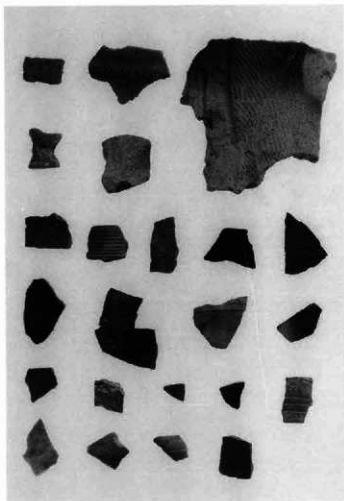
W406

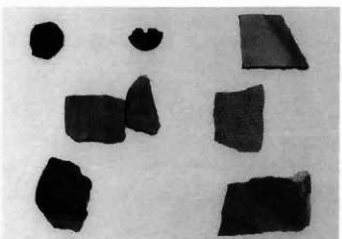
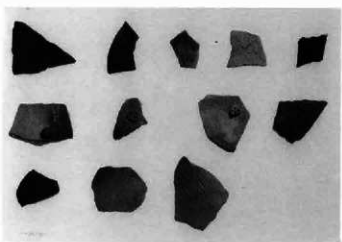
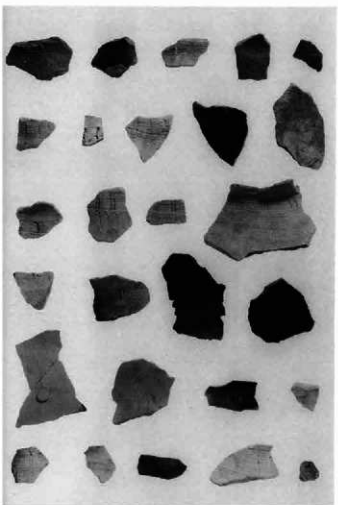
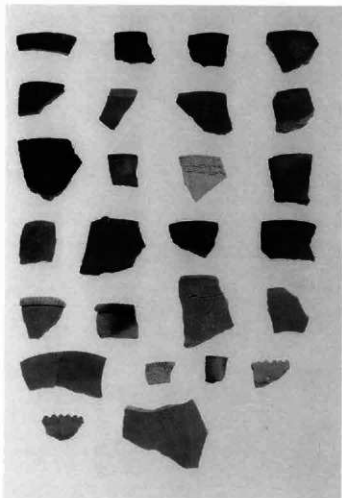
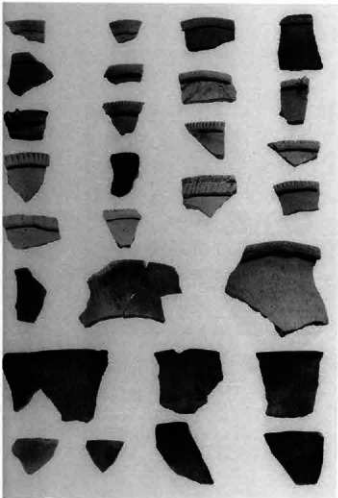


W384



W421







361



502



495



379



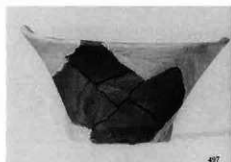
506



371



495



497



648



370



383



507



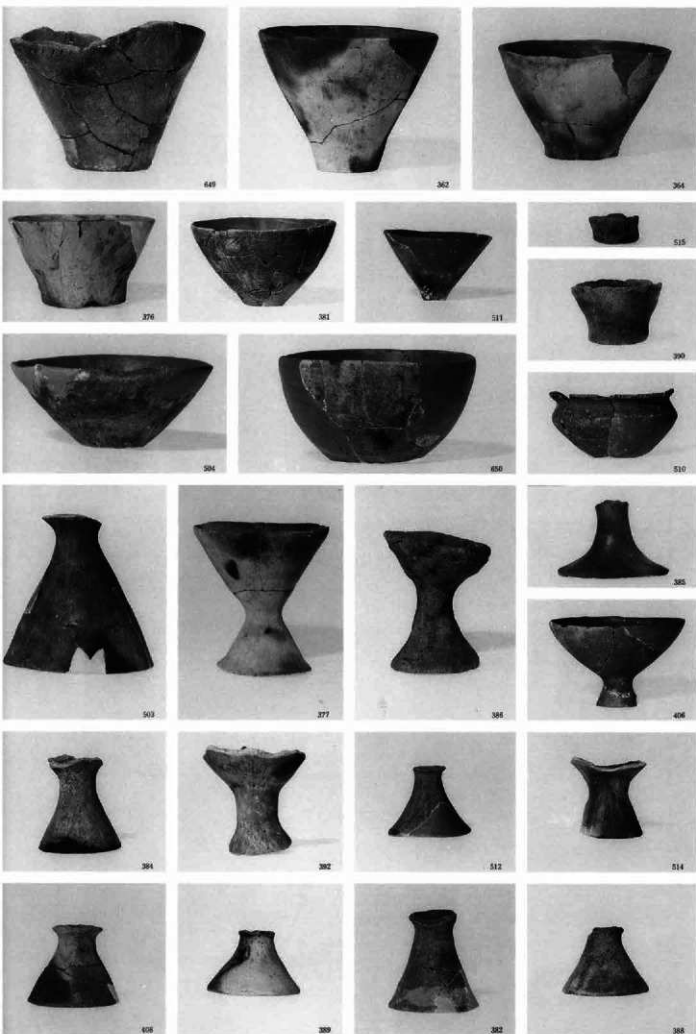
367

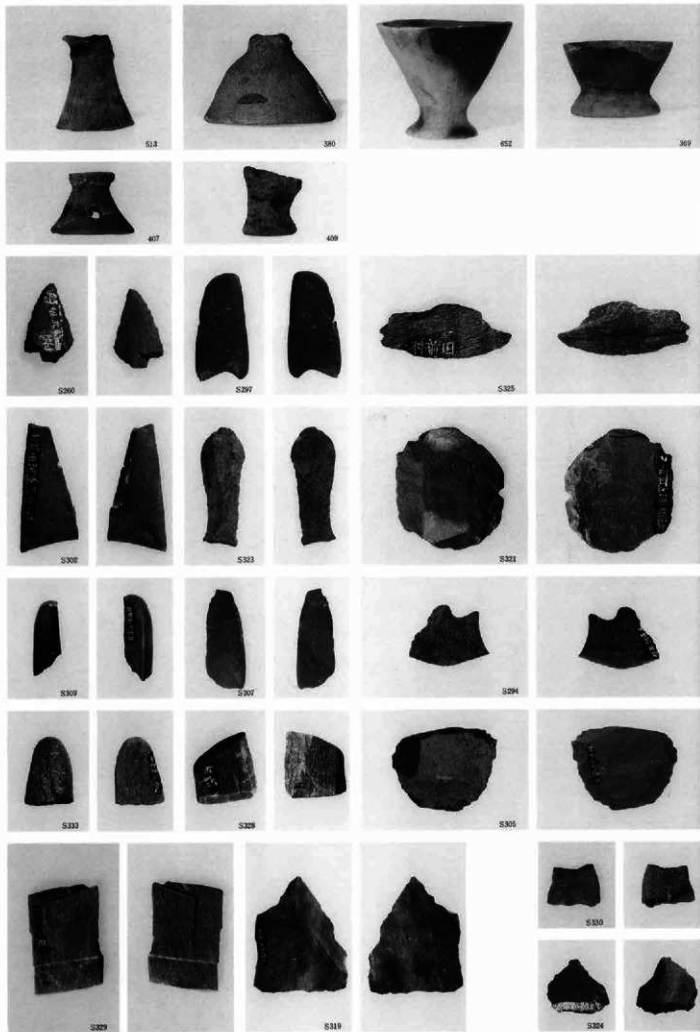


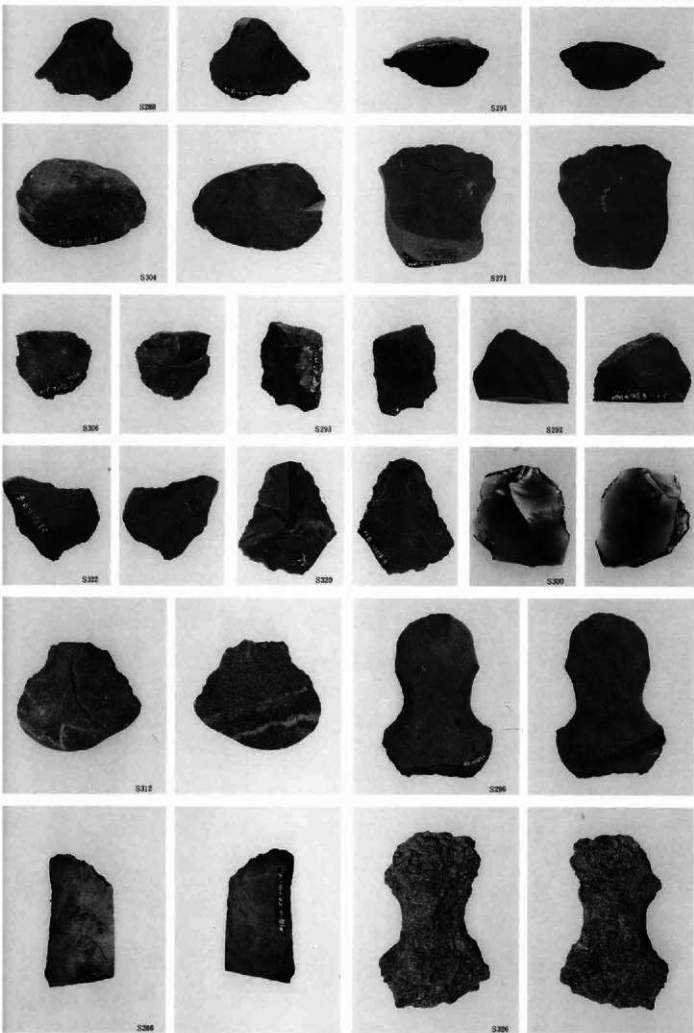
304

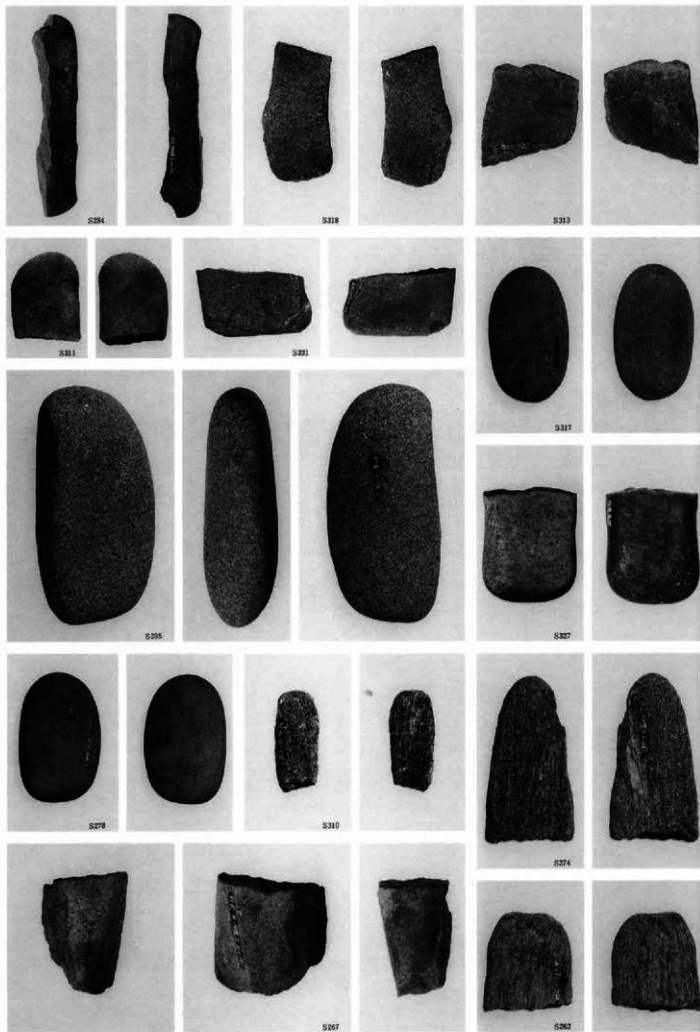


496











S286



S332



S279



S290

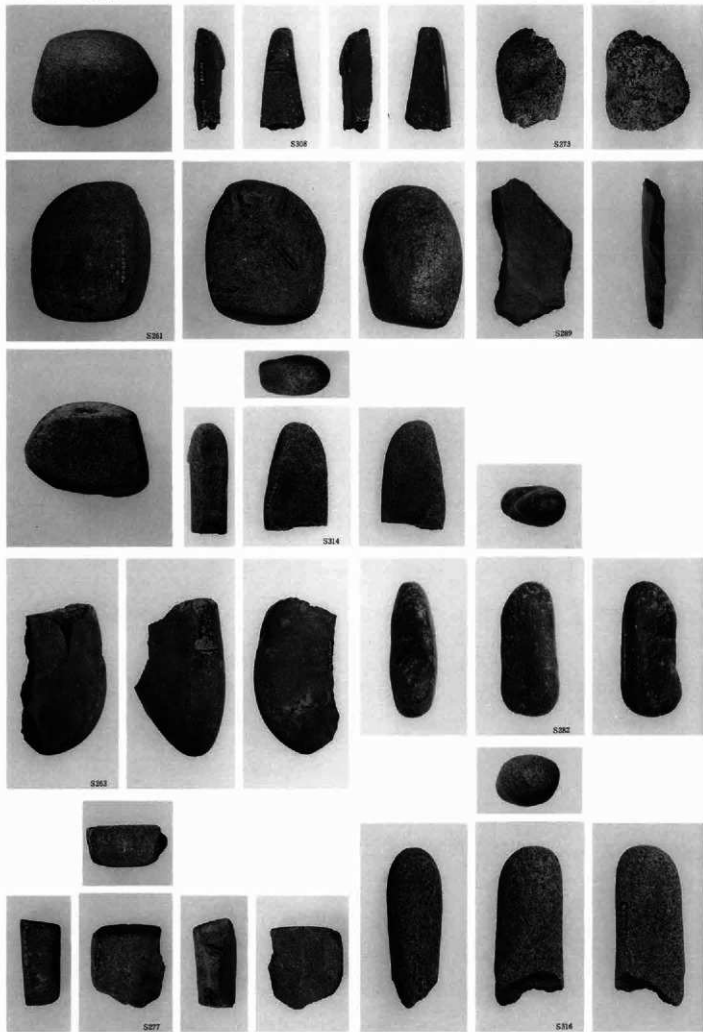


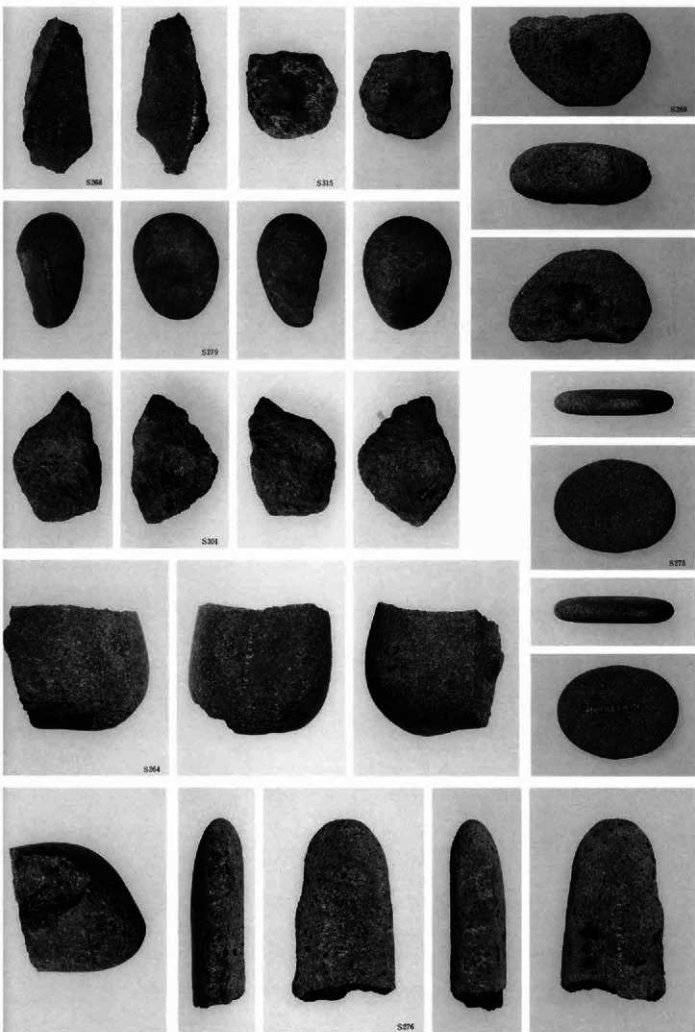
S272

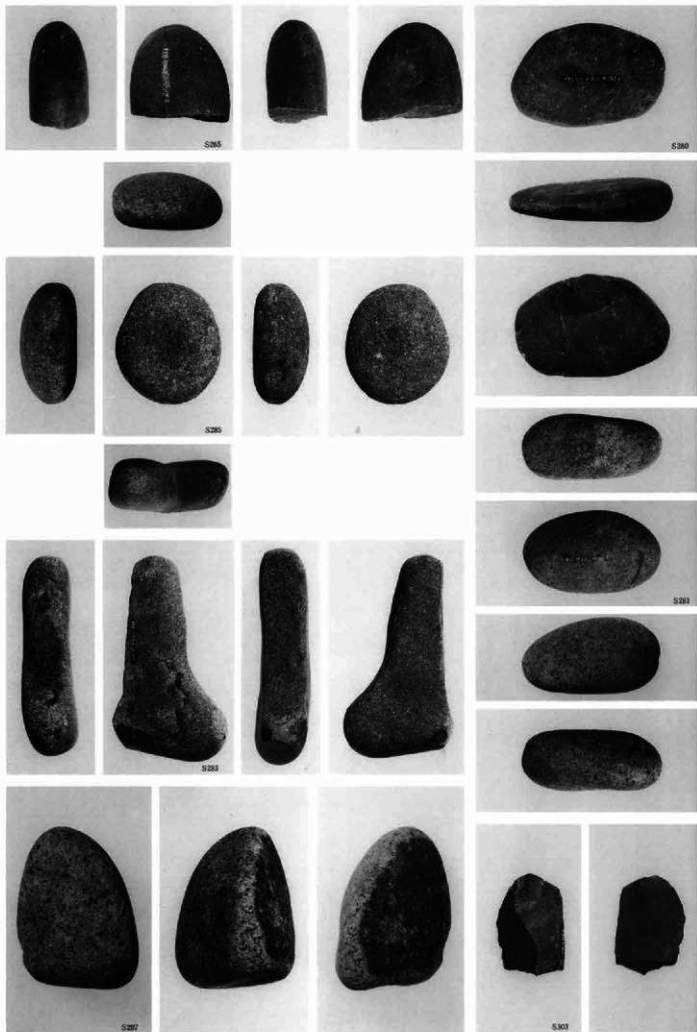


S334

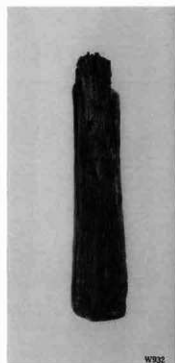
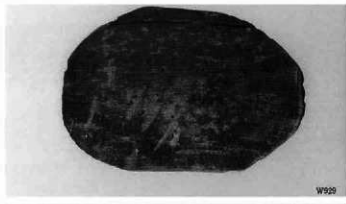
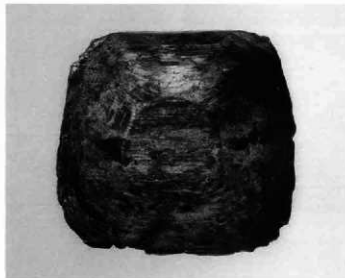


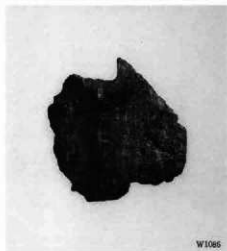
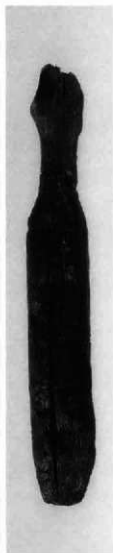
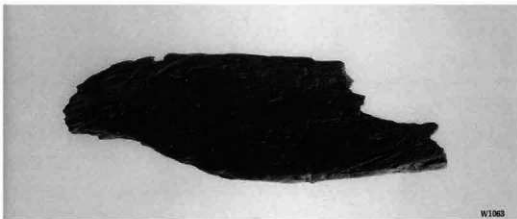
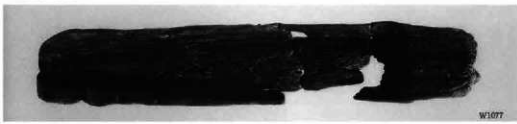


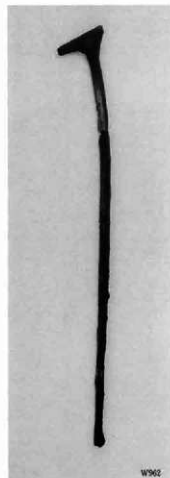
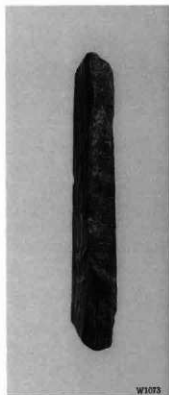










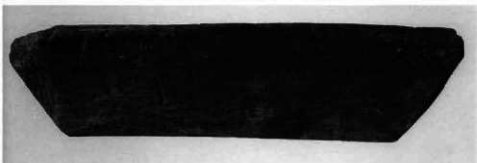




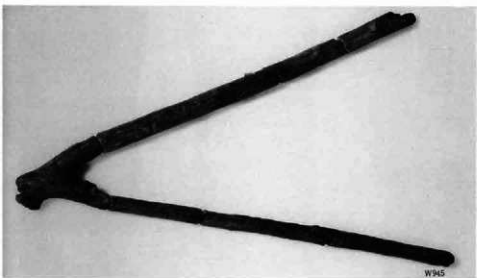
W726



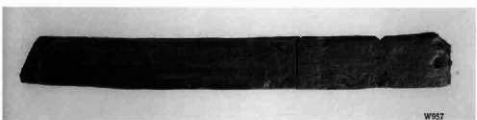
W901



W779



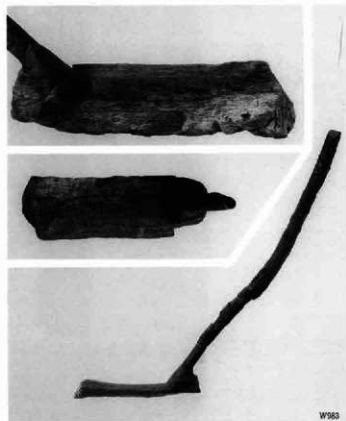
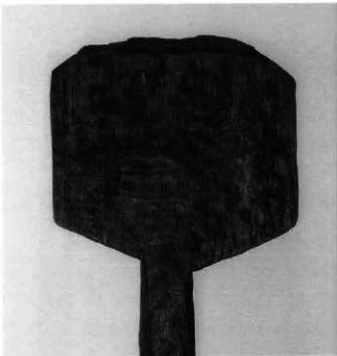
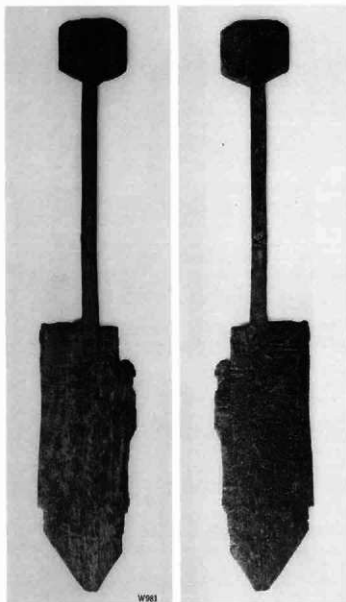
W945



W957



W948





W1088



W966



W1060



W976



W1053



W1065



W1110



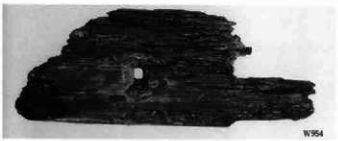
W1068



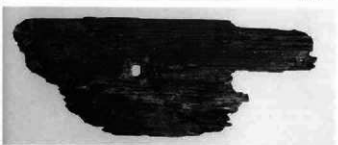
W997



W1060

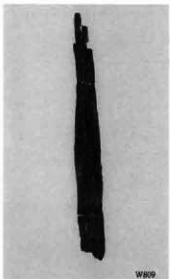
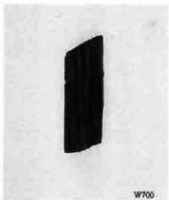
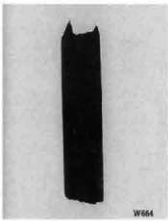
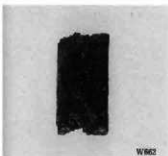


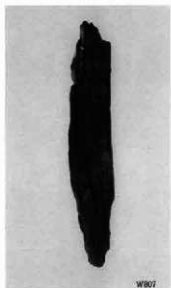
W954



W981







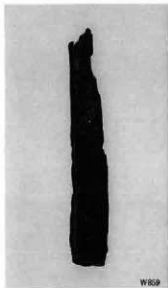
W807



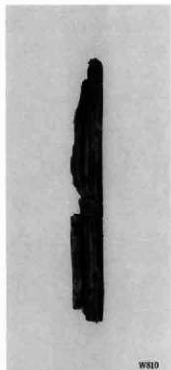
W820



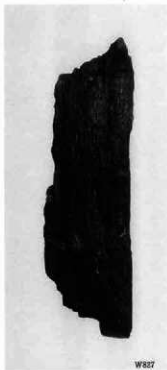
W834



W808



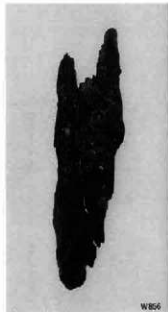
W810



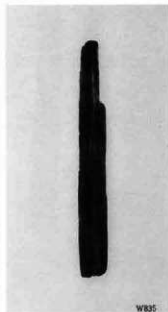
W827



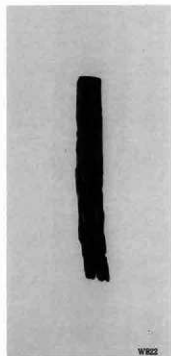
W826



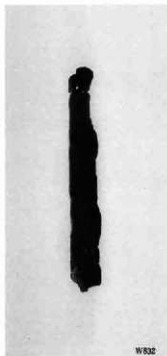
W806



W835



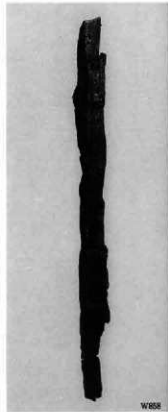
W822



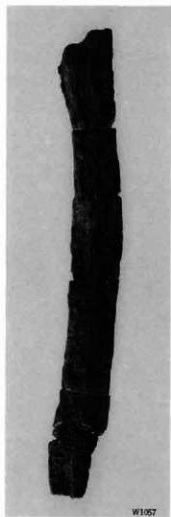
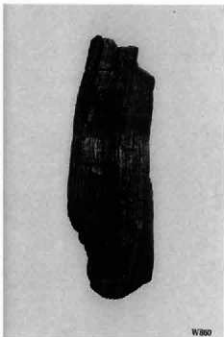
W832

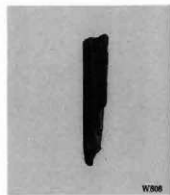
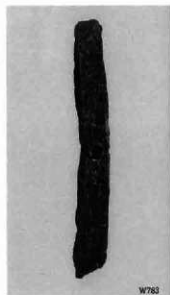
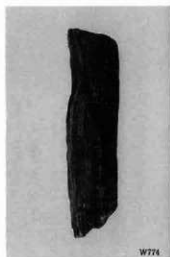
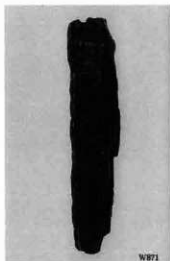
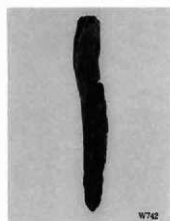
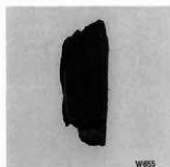


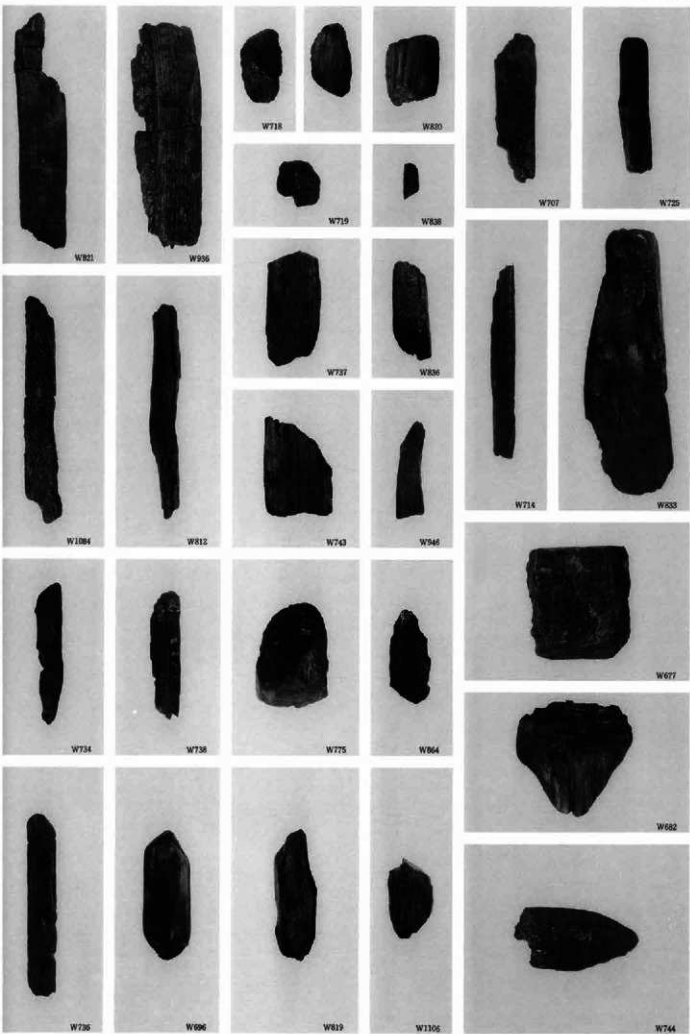
W830

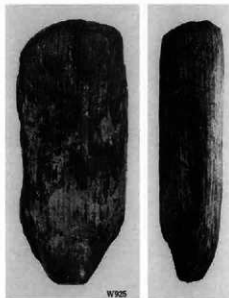


W808





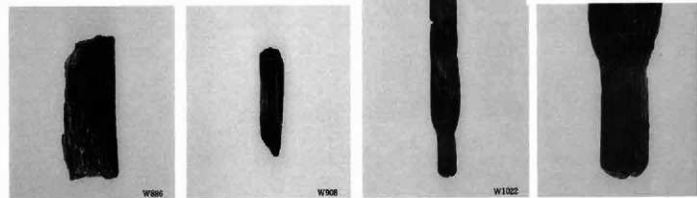
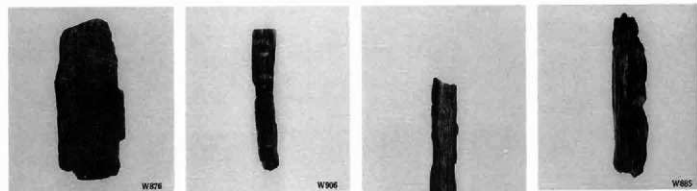
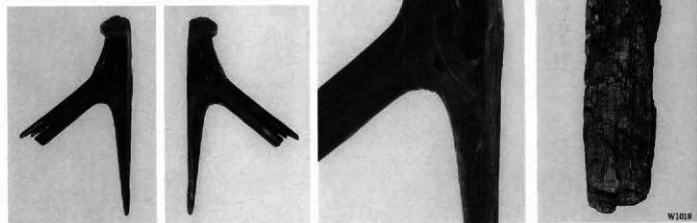
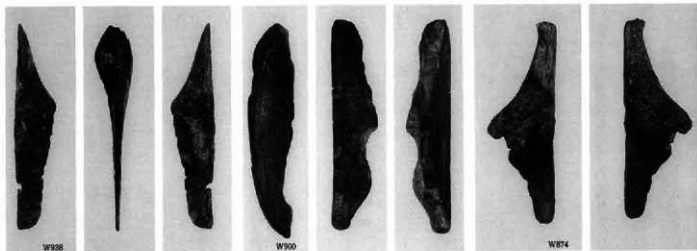


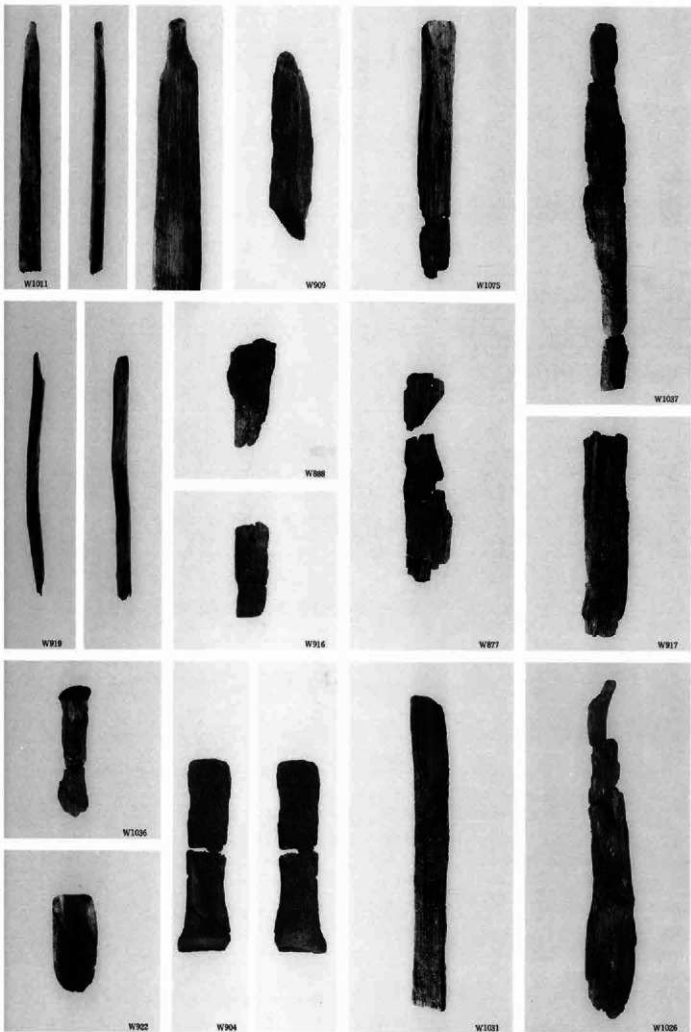


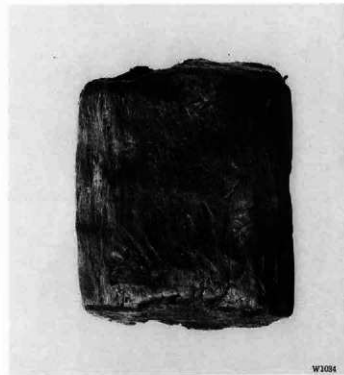


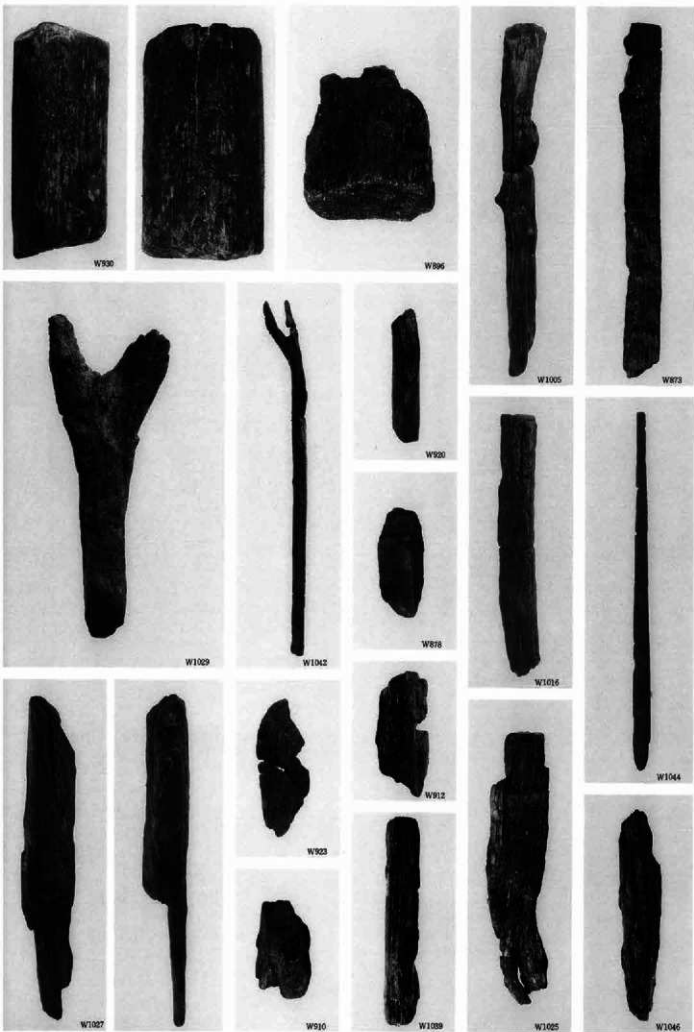


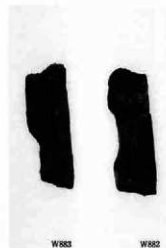
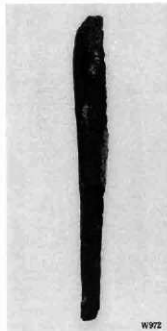
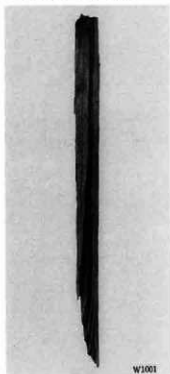




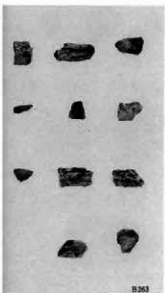
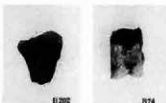


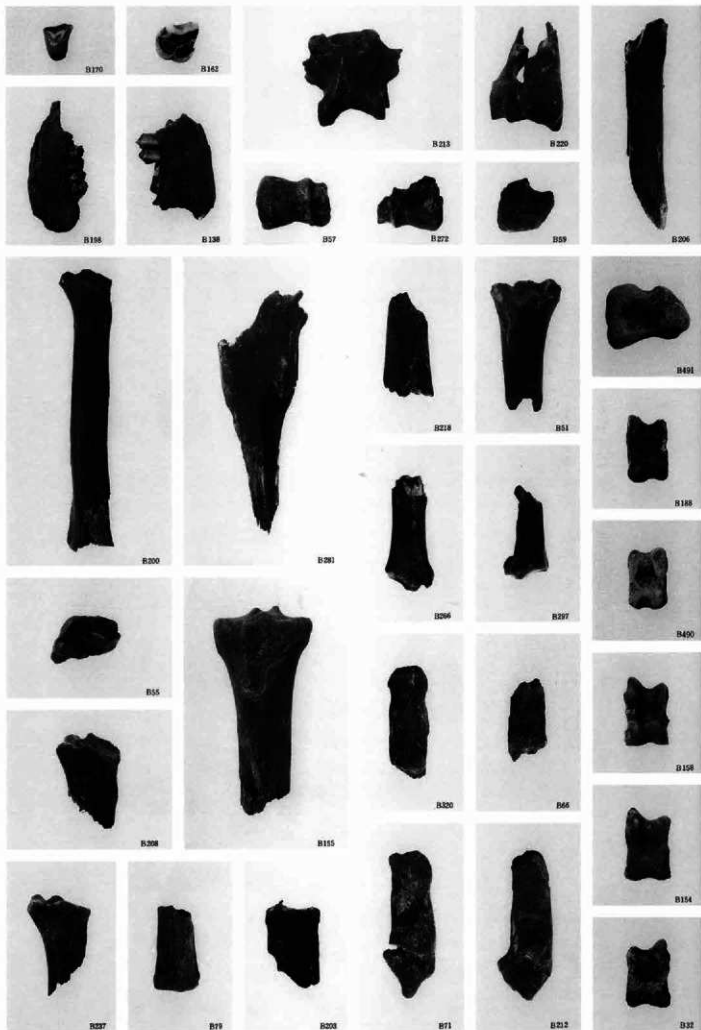














21・オニグルミ



30・モモ



63・アモモ



56・トナ



22・オニグルミ



34・モモ



29・トナ



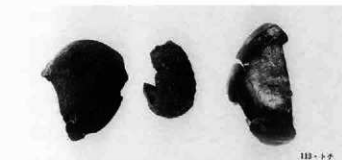
109・トナ



32・ナギ



5・モモ



113・トナ



53・ナギ



121・ナギ



107・ユウダマ(ヒョウタン)



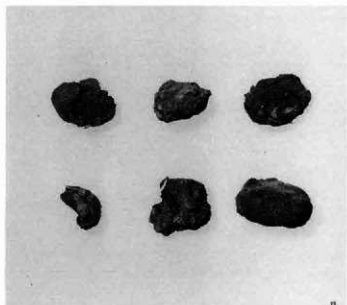
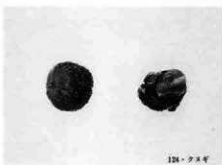
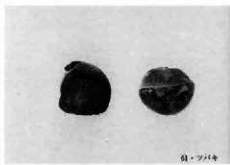
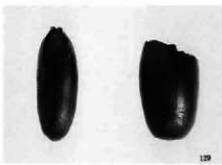
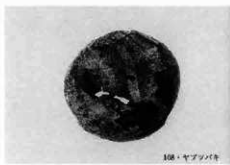
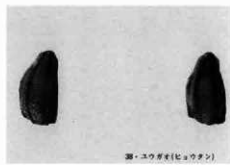
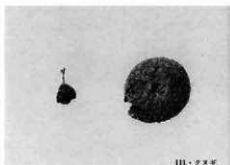
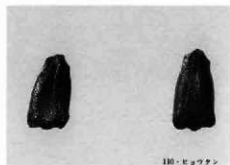
112・ナギ



114・ナギ



108・ユウダマ(ヒョウタン)



新保田中村前遺跡Ⅰ

〈本文編〉

一級河川桑野川河川改修工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊

平成2年3月15日 印刷

平成2年3月20日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／株式会社 前橋印刷所